

にし の はら
西野原遺跡 (5) (7)

第3分冊—古墳時代編—

石田川流域調節池事業（D池）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

群馬県太田土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



西野原遺跡（5）古墳調査全景



1号墳墳丘全景



7号墳墳丘全景



古墳出土の鉄器



古墳出土の刀装具



古墳出土の刀



古墳出土の耳環



石製模造品



集中出土した土器群

序

西野原遺跡は太田市西長岡町と藪塚町（旧新田郡藪塚本町）に跨って所在し、北関東自動車道とその側道及び石田川流域調節池（D池）の建設に伴って、平成15年度から17年度にかけて、発掘調査が実施されました。本遺跡は、事業別や現道等の区画により（1）～（7）の地点に区分されています。

このうち、石田川流域調節池にかかる（5）（7）両地点の整理事業が群馬県太田土木事務所の委託を受けて、平成18年度より実施されてまいりました。全3冊中のうち第1分冊は縄文・弥生時代編、第2分冊は飛鳥・平安時代以降編として既に刊行されており、今回は第3分冊として本報告書を刊行する運びとなりました。

西野原遺跡（5）（7）地点は、石田川流域の浸水被害を低減させるための調節池の一つで、約5万㎡を対象とした大規模な調査となりました。縄文時代から平安時代まで200軒近くの住居跡のほか、古墳時代の畠跡や古墳群、飛鳥時代では東日本最大級の製鉄関連遺跡群、中近世の掘立柱建物群など、当地域の歴史を解明する上で貴重な埋蔵文化財が調査されました。

今回の第3分冊は、古墳時代編として、古墳時代の住居跡群、掘立柱建物、畠、祭祀遺構、そして古墳群といった調査成果が収録されています。当地域が、古墳時代に入ってから急速に栄えるようになったことを明らかとする証として、評価いただけるものと期待しております。

発掘調査から本報告書の刊行に至るまでには、県土整備部河川課及び太田土木事務所、県教育委員会、太田市教育委員会、旧藪塚本町教育委員会をはじめ、関係諸機関並びに地元関係者の皆様からは大変なご尽力を賜りました。ここに銘記して心よりの感謝を申し上げますとともに、本報告書や調査資料が広く活用されますことを祈願し、序といたします。

平成22年12月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄 一

例 言

1. 本報告書は、石田川流域調節池事業（D池）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、第3分冊となる古墳時代編である。なお、第1分冊（縄文・弥生時代編）は平成20年度に群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第456集として、第2分冊（飛鳥・平安時代以降編）は平成21年度に群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第489集として、それぞれ刊行済みである。

2. 遺跡は、群馬県太田市藪塚町、西長岡町地内に所在する。

3. 事業主体 群馬県東部県民局太田土木事務所（以下、太田土木事務所と記す）

4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査対象地は、北関東自動車道本線および側道と東武鉄道桐生線の交差する位置の北側で、桐生線の西側と東側の2地点に跨り、西側の西野原遺跡（5）は15,241㎡、東側の西野原遺跡（7）は30,247㎡である。

なお、西野原遺跡は、本事業である石田川流域調節池部分（委託者：太田土木事務所）と、一般県道国定藪塚線（北関東自動車道側道）部分（委託者：太田土木事務所）、北関東自動車道本線部分（委託者：東日本高速道路株式会社）との3事業に対応して、それぞれの発掘調査が行われた。

事業実施時には、当事業団が調査した旧藪塚本町内にかかる石田川流域調節池、一般県道国定藪塚線、北関東自動車道本線は「藪塚西野原遺跡」として、旧太田市内にかかる石田川流域調節池については「西野原遺跡」、同市内にかかる北関東自動車道本線は「西長岡横塚古墳群」と呼称していた。また、太田市教育委員会文化財課が調査した一般県道国定藪塚線部分は「西野原遺跡」としていた。その後の市町合併に伴ってこれらの遺跡が全て新太田市内に属することとなり、平成18年4月、県教育委員会文化課と太田市教育委員会文化財課との協議によって、本遺跡の名称を「西野原遺跡」と統一することとなった。以後、本遺跡については「西野原遺跡」と総称し、調査地点毎に（1）から（7）までの番号を付すこととなった。

本報告書は、新呼称で西野原遺跡（5）と西野原遺跡（7）にかかる古墳時代編である。なお、発掘調査時には、西野原遺跡（5）は藪塚西野原遺跡（調節池）、西野原遺跡（7）は藪塚西野原遺跡（調節池）IIとして調査を行った。結果、記録類の全ては発掘調査時の名称が記されている。

6. 調査期間

西野原遺跡（5） 平成15年（2003年）8月1日～平成17年（2005年）2月28日

西野原遺跡（7） 平成16年（2004年）4月1日～平成18年（2006年）3月31日

平成18年（2006年）6月1日～平成18年（2006年）9月30日（鉄洋洗浄）

7. 整理期間

平成18年（2006年）12月1日～平成22年（2010年）3月31日

8. 発掘調査体制は次の通りである。

西野原遺跡（5）

平成15年度 発掘調査担当 春山秀幸（専門員）、高柳浩道（主任調査研究員）

遺跡掘削請負工事 須賀建設株式会社

委託 地上測量：株式会社小出測量設計事務所、航空測量・空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル

平成16年度 発掘調査担当 春山秀幸（専門員）、大澤 務（専門員）

遺跡掘削請負工事 須賀建設株式会社

委託 地上測量：株式会社小出測量設計事務所、航空測量・空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル、

自然科学分析：バリノ・サーヴェイ株式会社

西野原遺跡（7）

平成16年度 発掘調査担当 本間 昇（専門員）、小林 徹（専門員）

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社

委託 地上測量：株式会社小出測量設計事務所、航空測量・空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル

平成17年度 発掘調査担当 谷藤保彦（専門員）、小林 徹（専門員）

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社

委託 地上測量：株式会社小出測量設計事務所、航空測量・空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル

平成18年度 発掘調査担当 谷藤保彦（専門員（総括））

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社

9. 整理事業体制は次の通りである。

平成18年度 整理担当：春山秀幸（主任調査研究員）

保存処理：関 邦一（主幹（総括））、遺物写真撮影：佐藤元彦（主幹（総括））

委託 遺構図のデジタルトレース：株式会社シン技術コンサル

平成19年度 整理担当：谷藤保彦（主任専門員（総括））、春山秀幸（主任調査研究員）

保存処理：関 邦一（主幹（総括））、遺物写真撮影：佐藤元彦（主幹（総括））

委託 遺構図のデジタルトレース：株式会社シン技術コンサル、自然科学分析：バレオ・ラボ

平成20年度 整理担当：谷藤保彦（主任専門員（総括））、小林 徹（主任調査研究員）、笹澤弘紀（調査研究員）、保存処理：関 邦一（係長（総括））、遺物写真撮影：佐藤元彦（係長（総括））

委託 鉄器の一部実測・トレース：株式会社シン技術コンサル、土器類の一部実測・トレース：有限会社毛野考古学研究所、自然科学分析：株式会社九州テクノリサーチTACセンター

平成21年度 整理担当：谷藤保彦（主席専門員）、田村邦宏（主任調査研究員）

保存処理：関 邦一（係長（総括））、遺物写真撮影：佐藤元彦（係長（総括））

委託 土器類のトレース：有限会社毛野考古学研究所、製鉄遺物のトレース：株式会社調研、自然科学分析および放射性炭素年代測定：バリノ・サーヴェイ株式会社

10. 本書作成の担当は、次の通りである。

編 集 谷藤保彦、田村邦宏

執 筆 田村（第4章2節1・2、第6章）、神谷佳明（出土土器の観察表）、それ以外は谷藤が執筆した。

遺物観察 綿貫邦男、関根慎二、徳江秀夫、木津博明、笹澤泰史、長井正欣の協力を得た。

11. 石材同定 飯島静男氏（群馬地質研究会）をお願いした。

12. 人骨鑑定 榎崎修一郎氏（生物考古学研究所）をお願いした。

13. 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の関係各機関にご高配・ご指導・ご教示を賜った。記して深甚なる謝意を表する。

群馬県教育委員会、太田市教育委員会、蕨塚本町教育委員会（当時）、伊藤順一、小川朋恵、川道 亨、小林 修、澁谷昌彦、志村 哲、杉山秀宏、寺崎祐助、戸田哲也、長井正欣、深澤敦仁、山本千春、綿田弘美

14. 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 本報告書に記載する遺構名は、基本的に調査時の遺構名をそのまま用いているが、一部で改名した遺構名については調査時の名称を併記した。なお、各遺構名の頭に、地区を銘記することとした。

例；西野原遺跡（5）2号住居跡	……→	（5）2号住居跡
西野原遺跡（7）1区2号住居跡	……→	（7）1区2号住居跡
西野原遺跡（7）2区21号住居跡	……→	（7）2区21号住居跡
西野原遺跡（5）1号土坑	……→	（5）1号土坑
西野原遺跡（7）1区1号土坑	……→	（7）1区1号土坑
西野原遺跡（7）2区1号土坑	……→	（7）2区1号土坑

なお、古墳の遺構名については、西野原遺跡（5）および西野原遺跡（7）1区に関わらず、1～15号墳までの通し番号を付した。

2. 本報告書に掲載する遺構平面図の方位記号は、国家座標の北を表す（真北とは0°17'56"、磁北とは7°25'55"のずれがある）。座標系は国家座標IX系である。西野原遺跡（5）の調査区はX=38.240～38.470、Y=-45.215～-45.380の範囲に、西野原遺跡（7）の調査区はX=38.215～38.510、Y=-45.140～-45.350の範囲に取まる。

3. 各遺構図等のグリッド表記は、X軸・Y軸共に下3桁を記した。

4. 遺構平面・断面実測図に示した標高値の単位はmである。

5. 遺構・遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示したが、基本としては以下の通りである。

遺構配置図関係	………	1/1000	土器集中	………	1/40
住居跡・掘立建物遺構	……	1/60	畠	………	1/200、1/150、1/50
カマド	………	1/30	土坑	………	1/40
古墳	………	1/200、1/80、1/60、1/40	付図	………	1/500
集石	………	1/60			

6. 遺構図中のスクリーントーン表示は、次のごとくである



7. 遺物番号は、遺物図・写真図版とも共通している。

8. 遺構の土層の色調表現は、農林水産省農林水産技術会事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」1993年版に準拠した。

9. 土坑出土遺物の内、縄文・弥生時代の遺物は第1分冊、飛鳥時代・平安時代以降の遺物は第2分冊に掲載しており、本書では土坑平面図のみを掲載した。

10. 古墳の記述に際しては、その用語を『群馬県古墳時代研究会資料集第3集 群馬県内の横穴式石室Ⅰ（西毛編）』（1998）に依拠した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次・表目次・写真目次	
報告書抄録	
第1章 第1分冊—縄文・弥生時代編—の概要	1
第2章 第2分冊—飛鳥・平安時代以降編—の概要	2
第3章 古墳時代前半の遺構と遺物	
第1節 古墳時代前半の概要	4
第2節 検出された遺構と遺物	6
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物	
第1節 古墳時代後半の概要	92
第2節 検出された遺構と遺物	94
第5章 古墳群	
第1節 古墳群の概要	282
第2節 検出された遺構と遺物	287
第6章 土 坑	
第1節 西野原遺跡（5）検出の土坑	405
第2節 西野原遺跡（7）—1区検出の土坑	439
第3節 西野原遺跡（7）—2区検出の土坑	454
第7章 遺構外出土遺物	510
第8章 調査の成果	522
分析・同定・鑑定・補遺編	527
写真図版	

挿図目次

第 1 図	古墳時代前半遺構配置図①	$S = 1/1000$	4	第 60 図	(5) 63号住居跡出土遺物	64
第 2 図	古墳時代前半遺構配置図②	$S = 1/1000$	5	第 61 図	(5) 72号住居跡出土遺物	64
第 3 図	(5) 2号住居跡平面図		7	第 62 図	(5) 77号住居跡出土遺物	64
第 4 図	(5) 3号住居跡平面図		8	第 63 図	(5) 79号住居跡出土遺物	65
第 5 図	(5) 9号住居跡平面図		9	第 64 図	(5) 83号住居跡出土遺物	65
第 6 図	(5) 11号住居跡平面図		10	第 65 図	(5) 90号住居跡出土遺物①	65
第 7 図	(5) 12号住居跡平面図		11	第 66 図	(5) 90号住居跡出土遺物②	66
第 8 図	(5) 16号住居跡平面図		12	第 67 図	(5) 90号住居跡出土遺物③	67
第 9 図	(5) 18号住居跡平面図		13	第 68 図	(5) 97号住居跡出土遺物	68
第 10 図	(5) 20号住居跡平面図		14	第 69 図	(5) 102号住居跡出土遺物①	68
第 11 図	(5) 22号住居跡平面図		15	第 70 図	(5) 102号住居跡出土遺物②	69
第 12 図	(5) 23号住居跡・カマド平面図		19	第 71 図	(5) 108号住居跡出土遺物	70
第 13 図	(5) 30号住居跡・カマド平面図		20	第 72 図	(5) 125号住居跡出土遺物	71
第 14 図	(5) 31号住居跡・カマド平面図		21	第 73 図	(5) 127号住居跡出土遺物	71
第 15 図	(5) 32・33号住居跡平面図		22	第 74 図	(7) -1区 2号住居跡出土遺物①	72
第 16 図	(5) 35・41号住居跡平面図		23	第 75 図	(7) -1区 2号住居跡出土遺物②	73
第 17 図	(5) 37・39号住居跡平面図		24	第 76 図	(7) -1区 2号住居跡出土遺物③	74
第 18 図	(5) 44・47・49号住居跡平面図		25	第 77 図	(7) -1区 8号住居跡出土遺物①	75
第 19 図	(5) 54号住居跡平面図		26	第 78 図	(7) -2区 8号住居跡出土遺物②	76
第 20 図	(5) 54号住居跡掘方平面図		27	第 79 図	(7) -2区 21号住居跡出土遺物①	76
第 21 図	(5) 55号住居跡平面図		28	第 80 図	(7) -2区 21号住居跡出土遺物②	77
第 22 図	(5) 63号住居跡平面図		29	第 81 図	(7) -2区 21号住居跡出土遺物③	78
第 23 図	(5) 66号住居跡平面図		30	第 82 図	(7) -2区 39-B号住居跡出土遺物①	78
第 24 図	(5) 72号住居跡平面図		31	第 83 図	(7) -2区 39-B号住居跡出土遺物②	79
第 25 図	(5) 77号住居跡平面図		32	第 84 図	古墳時代後半遺構配置図①	92
第 26 図	(5) 79号住居跡平面図		33	第 85 図	古墳時代後半遺構配置図②	$S = 1/1000$
第 27 図	(5) 83・125号住居跡平面図		37	第 86 図	(5) 1号住居跡・カマド平面図	96
第 28 図	(5) 90号住居跡・カマド平面図		38	第 87 図	(5) 4号住居跡平面図	97
第 29 図	(5) 97号住居跡平面図		39	第 88 図	(5) 4号住居跡・カマド平面図	98
第 30 図	(5) 102号住居跡・カマド平面図		39	第 89 図	(5) 6号住居跡平面図	99
第 31 図	(5) 108号住居跡平面図		41	第 90 図	(5) 7号住居跡・カマド・旧カマド平面図	100
第 32 図	(5) 127・128号住居跡平面図		42	第 91 図	(5) 8号住居跡・カマド平面図	101
第 33 図	(7) -1区 2号住居跡平面図		43	第 92 図	(5) 10号住居跡平面図	102
第 34 図	(7) -1区 8号住居跡平面図		44	第 93 図	(5) 10号住居跡・カマド平面図	103
第 35 図	(7) -2区 21号住居跡平面図		46	第 94 図	(5) 13号住居跡・カマド平面図	104
第 36 図	(7) -2区 21号住居跡・カマド平面図		47	第 95 図	(5) 14号住居跡平面図	105
第 37 図	(7) -2区 39-B号住居跡・カマド平面図		48	第 96 図	(5) 14号住居跡・カマド平面図	106
第 38 図	(5) 3号住居跡出土遺物		49	第 97 図	(5) 15号住居跡・カマド平面図	107
第 39 図	(5) 9号住居跡出土遺物①		50	第 98 図	(5) 17号住居跡平面図	110
第 40 図	(5) 9号住居跡出土遺物②		51	第 99 図	(5) 17号住居跡掘方・カマド平面図	111
第 41 図	(5) 11号住居跡出土遺物		51	第 100 図	(5) 19号住居跡・カマド平面図	112
第 42 図	(5) 12号住居跡出土遺物		52	第 101 図	(5) 21号住居跡・カマド平面図	113
第 43 図	(5) 16号住居跡出土遺物		52	第 102 図	(5) 24号住居跡平面図	114
第 44 図	(5) 18号住居跡出土遺物		52	第 103 図	(5) 24号住居跡・カマド平面図	115
第 45 図	(5) 20号住居跡出土遺物①		53	第 104 図	(5) 27号住居跡平面図	116
第 46 図	(5) 20号住居跡出土遺物②		54	第 105 図	(5) 28号住居跡・カマド平面図	117
第 47 図	(5) 23号住居跡出土遺物①		55	第 106 図	(5) 29号住居跡・カマド掘方平面図	118
第 48 図	(5) 23号住居跡出土遺物②		56	第 107 図	(5) 34号住居跡平面図	119
第 49 図	(5) 30号住居跡出土遺物		57	第 108 図	(5) 42号住居跡平面図	120
第 50 図	(5) 31号住居跡出土遺物①		57	第 109 図	(5) 43号住居跡・カマド平面図	121
第 51 図	(5) 31号住居跡出土遺物②		58	第 110 図	(5) 45号住居跡・カマド・46号住居跡平面図	122
第 52 図	(5) 33号住居跡出土遺物		58	第 111 図	(5) 48号住居跡平面図	123
第 53 図	(5) 35号住居跡出土遺物①		59	第 112 図	(5) 57号住居跡・カマド平面図	126
第 54 図	(5) 35号住居跡出土遺物②		60	第 113 図	(5) 58号住居跡平面図	127
第 55 図	(5) 37号住居跡出土遺物		61	第 114 図	(5) 59号住居跡・カマド平面図	128
第 56 図	(5) 39号住居跡出土遺物		61	第 115 図	(5) 60号住居跡平面図	129
第 57 図	(5) 41号住居跡出土遺物		62	第 116 図	(5) 60号住居跡・カマド平面図	130
第 58 図	(5) 54号住居跡出土遺物①		62	第 117 図	(5) 62号住居跡・カマド平面図	131
第 59 図	(5) 54号住居跡出土遺物②		63	第 118 図	(5) 64号住居跡・カマド平面図	132

第119図	(5) 67号住居跡・カマド平面図	133
第120図	(5) 68号住居跡平面図	134
第121図	(5) 68号住居跡カマド、69号住居跡平面図	135
第122図	(5) 70号住居跡平面図	136
第123図	(5) 70号住居跡・カマド平面図	137
第124図	(5) 71号住居跡・カマド平面図	140
第125図	(5) 74・82号住居跡・カマド平面図	141
第126図	(5) 75号住居跡平面図	142
第127図	(5) 84号住居跡平面図	143
第128図	(5) 84号住居跡・カマド平面図	144
第129図	(5) 85号住居跡・カマド平面図	145
第130図	(5) 86号住居跡平面図	146
第131図	(5) 86号住居跡・カマド平面図	147
第132図	(5) 87号住居跡・カマド平面図	148
第133図	(5) 88号住居跡・カマド平面図	149
第134図	(5) 88号住居跡・カマド竈方平面図	150
第135図	(5) 91号住居跡・カマド平面図	153
第136図	(5) 92号住居跡・カマド平面図	154
第137図	(5) 93・94・96号住居跡・カマド平面図	155
第138図	(5) 95号住居跡平面図	156
第139図	(5) 95号住居跡・カマド平面図	157
第140図	(5) 98号住居跡平面図	158
第141図	(5) 98号住居跡・カマド竈方平面図	159
第142図	(5) 99・101号住居跡平面図	160
第143図	(5) 103号住居跡平面図	163
第144図	(5) 104号住居跡平面図	164
第145図	(5) 105号住居跡平面図	165
第146図	(5) 106号住居跡平面図	166
第147図	(5) 106号住居跡・カマド平面図	167
第148図	(5) 107号住居跡平面図	168
第149図	(5) 107号住居跡・カマド平面図	169
第150図	(5) 109・113号住居跡平面図	170
第151図	(5) 110号住居跡・カマド平面図	171
第152図	(5) 114号住居跡・カマド平面図	172
第153図	(5) 115号住居跡平面図	173
第154図	(5) 122号住居跡平面図	174
第155図	(5) 132号住居跡・カマド、138号住居跡平面図	177
第156図	(5) 139・140号住居跡・カマド平面図	178
第157図	(7) -1区 1号住居跡平面図	179
第158図	(7) -1区 1号住居跡・カマド平面図	180
第159図	(7) -1区 5号住居跡平面図	181
第160図	(7) -1区 5号住居跡・カマド平面図	182
第161図	(7) -1区 7号住居跡・カマド平面図	183
第162図	(7) -2区 17号住居跡・カマド平面図	184
第163図	(5) 1号住居跡出土遺物	186
第164図	(5) 4号住居跡出土遺物1)	186
第165図	(5) 4号住居跡出土遺物2)	187
第166図	(5) 4号住居跡出土遺物3)	188
第167図	(5) 4号住居跡出土遺物4)	189
第168図	(5) 6号住居跡出土遺物	189
第169図	(5) 7号住居跡出土遺物1)	189
第170図	(5) 7号住居跡出土遺物2)	189
第171図	(5) 8号住居跡出土遺物1)	190
第172図	(5) 8号住居跡出土遺物2)	191
第173図	(5) 10号住居跡出土遺物	191
第174図	(5) 13号住居跡出土遺物	192
第175図	(5) 14号住居跡出土遺物1)	192
第176図	(5) 14号住居跡出土遺物2)	193
第177図	(5) 15号住居跡出土遺物	194
第178図	(5) 17号住居跡出土遺物1)	194
第179図	(5) 17号住居跡出土遺物2)	195
第180図	(5) 19号住居跡出土遺物	196
第181図	(5) 21号住居跡出土遺物	196

第182図	(5) 24号住居跡出土遺物1)	196
第183図	(5) 24号住居跡出土遺物2)	197
第184図	(5) 24号住居跡出土遺物3)	198
第185図	(5) 27号住居跡出土遺物	198
第186図	(5) 28号住居跡出土遺物	198
第187図	(5) 29号住居跡出土遺物1)	199
第188図	(5) 29号住居跡出土遺物2)	200
第189図	(5) 34号住居跡出土遺物	200
第190図	(5) 42号住居跡出土遺物	200
第191図	(5) 45号住居跡出土遺物	201
第192図	(5) 46号住居跡出土遺物	201
第193図	(5) 58号住居跡出土遺物	201
第194図	(5) 59号住居跡出土遺物1)	201
第195図	(5) 59号住居跡出土遺物2)	202
第196図	(5) 60号住居跡出土遺物	202
第197図	(5) 62号住居跡出土遺物	203
第198図	(5) 64号住居跡出土遺物1)	203
第199図	(5) 64号住居跡出土遺物2)	204
第200図	(5) 67号住居跡出土遺物	204
第201図	(5) 68号住居跡出土遺物	205
第202図	(5) 70号住居跡出土遺物	206
第203図	(5) 71号住居跡出土遺物	206
第204図	(5) 74号住居跡出土遺物	207
第205図	(5) 75号住居跡出土遺物	208
第206図	(5) 82号住居跡出土遺物	208
第207図	(5) 84号住居跡出土遺物	208
第208図	(5) 85号住居跡出土遺物	209
第209図	(5) 86号住居跡出土遺物1)	209
第210図	(5) 86号住居跡出土遺物2)	210
第211図	(5) 87号住居跡出土遺物	211
第212図	(5) 88号住居跡出土遺物1)	211
第213図	(5) 88号住居跡出土遺物2)	212
第214図	(5) 88号住居跡出土遺物3)	213
第215図	(5) 91号住居跡出土遺物	214
第216図	(5) 92号住居跡出土遺物	214
第217図	(5) 95号住居跡出土遺物1)	214
第218図	(5) 95号住居跡出土遺物2)	215
第219図	(5) 98号住居跡出土遺物1)	215
第220図	(5) 98号住居跡出土遺物2)	216
第221図	(5) 98号住居跡出土遺物3)	217
第222図	(5) 98号住居跡出土遺物4)	218
第223図	(5) 98号住居跡出土遺物5)	219
第224図	(5) 99号住居跡出土遺物	219
第225図	(5) 101号住居跡出土遺物	219
第226図	(5) 103号住居跡出土遺物	220
第227図	(5) 105号住居跡出土遺物	220
第228図	(5) 106号住居跡出土遺物1)	220
第229図	(5) 106号住居跡出土遺物2)	221
第230図	(5) 107号住居跡出土遺物1)	221
第231図	(5) 107号住居跡出土遺物2)	222
第232図	(5) 109号住居跡出土遺物	223
第233図	(5) 110号住居跡出土遺物	223
第234図	(5) 113号住居跡出土遺物1)	223
第235図	(5) 113号住居跡出土遺物2)	224
第236図	(5) 114号住居跡出土遺物	224
第237図	(5) 132号住居跡出土遺物	224
第238図	(7) -1区 1号住居跡出土遺物1)	225
第239図	(7) -1区 1号住居跡出土遺物2)	226
第240図	(7) -1区 5号住居跡出土遺物1)	227
第241図	(7) -1区 5号住居跡出土遺物2)	228
第242図	(7) -2区 17号住居跡出土遺物	229
第243図	(5) 1号掘立柱建物跡平面図	249
第244図	(5) 2・4号掘立柱建物跡平面図	250

第245図	(5) 5号孤立柱建物跡平面図	251
第246図	(5) 6号孤立柱建物跡平面図	252
第247図	(5) 9号孤立柱建物跡平面図	253
第248図	(5) 1号集石平面図	255
第249図	(5) 9号孤立柱建物跡・土器集中全体図	(折込)
第250図	(5) 土器集中グループ1 平面図 (S = 1/40) 及び 出土遺物	259
第251図	(5) 土器集中グループ2 平面図 (S = 1/40) 及び 出土遺物	260
第252図	(5) 土器集中グループ3 平面図 (S = 1/40) 及び 出土遺物	261
第253図	(5) 土器集中部カマド・伊路平面図	262
第254図	(5) 土器集中グループ1 出土遺物①	263
第255図	(5) 土器集中グループ1 出土遺物②	264
第256図	(5) 土器集中グループ1 出土遺物③	265
第257図	(5) 土器集中グループ2 出土遺物①	266
第258図	(5) 土器集中グループ2 出土遺物②	267
第259図	(5) 土器集中グループ3 出土遺物	268
第260図	(5) 土器集中出土遺物	268
第261図	(5) 1号島上面平面図	274
第262図	(5) 1・2号島平面図	(折込)
第263図	(5) 3・4・5号島平面図①	277
第264図	(5) 4・5号島平面図②	278
第265図	(5) 6号島平面図	279
第266図	(5) 7号島平面図	280
第267図	(5) 9・10号島平面図	281
第268図	「上毛古墳群」および数塚本町町誌編纂時の 周知の古墳	284
第269図	西野原遺跡(5)(7) 調査前古墳現況図 S = 1/1000	285
第270図	西野原遺跡(5)(7) 調査古墳全体図	286
第271図	1号墳墳丘平面図・断面図	(折込)
第272図	1号墳墳丘・周堀土層断面図	(折込)
第273図	1号墳具石平面図	295
第274図	1号墳石室上面・前庭展開図	296
第275図	1号墳石室展開図	297
第276図	1号墳石室内遺物分布図・石室掘方平面図	298
第277図	1号墳石室石材番号図	299
第278図	2号墳墳丘平面図・断面図	304
第279図	2号墳墳丘・周堀土層断面図、石室石材番号図	(折込)
第280図	2号墳石室上面図・前庭展開図	307
第281図	2号墳石室展開図	308
第282図	2号墳石室基部・掘方平面図	309
第283図	3号墳墳丘平面図・断面図	312
第284図	3号墳墳丘・周堀土層断面図	313
第285図	3号墳石室上面図	314
第286図	3号墳石室展開図	315
第287図	3号墳石室基部・掘方平面図、石材番号図	316
第288図	4号墳墳丘平面図・断面図	(折込)
第289図	4号墳墳丘・周堀土層断面図	321
第290図	4号墳墳丘・周堀土層断面図	322
第291図	4号墳石室上面・前庭展開図	324
第292図	4号墳石室展開図	325
第293図	4号墳石室遺物分布図・掘方平面図	326
第294図	4号墳石室石材番号図	327
第295図	5号墳墳丘平面・断面図、周堀土層断面図	(折込)
第296図	6号墳平面図、周堀土層断面図	332
第297図	7号墳墳丘土層断面図	(折込)
第298図	7号墳墳丘土層断面図	(折込)
第299図	7号墳具石平面図	339
第300図	7号墳石室上面・前庭部平面図・断面図	(折込)
第301図	7号墳石室展開図	343
第302図	7号墳石室掘方平面図	344

第303図	7号墳石室石材番号図	345
第304図	8号墳墳丘平面図・断面図	347
第305図	8号墳墳丘・周堀土層断面図	348
第306図	8号墳石室平面図、掘方平面図	349
第307図	9号墳墳丘平面図・断面図	352
第308図	9号墳墳丘・周堀土層断面図	353
第309図	9号墳石室平面図・断面図	(折込)
第310図	9号墳石室展開図	357
第311図	9号墳掘方平面図、石室石材番号図	358
第312図	10号墳墳丘平面図・断面図	360
第313図	10号墳墳丘・周堀土層断面図	361
第314図	10号墳石室平面図・断面図	362
第315図	10号墳石室展開図	363
第316図	10号墳石室内遺物分布図、掘方平面図、 石室石材番号図	364
第317図	11号墳墳丘平面図・断面図	367
第318図	11号墳周堀土層断面図	368
第319図	11号墳石室平面図・断面図・掘方平面図	369
第320図	11号墳石室展開図	370
第321図	11号墳石室石材番号図	371
第322図	12号墳墳丘平面図・断面図、周堀土層断面図	372
第323図	13号墳墳丘平面図・断面図	373
第324図	14号墳墳丘平面図・断面図、周堀土層断面図	375
第325図	14号墳石室平面図・断面図	376
第326図	14号墳石室掘方平面図・土層断面図	377
第327図	15号墳墳丘平面図・断面図、周堀土層断面図	379
第328図	15号墳石室平面図・土層断面図	380
第329図	15号墳石室遺物分布図、掘方平面図	381
第330図	1号墳出土遺物①	383
第331図	1号墳出土遺物②	384
第332図	1号墳出土遺物③	385
第333図	2号墳出土遺物	386
第334図	3号墳出土遺物	386
第335図	4号墳出土遺物	387
第336図	5号墳出土遺物	388
第337図	6号墳出土遺物	388
第338図	7号墳出土遺物①	388
第339図	7号墳出土遺物②	389
第340図	7号墳出土遺物③	390
第341図	8号墳出土遺物	391
第342図	9号墳出土遺物	391
第343図	10号墳出土遺物	392
第344図	11号墳出土遺物	393
第345図	12号墳出土遺物	394
第346図	14号墳出土遺物	394
第347図	15号墳出土遺物	395
第348図	(5) 1～5・7号土坑平面図	421
第349図	(5) 9・10・12～16号土坑平面図	422
第350図	(5) 17～19・21～28号土坑平面図	423
第351図	(5) 29～34号土坑平面図	424
第352図	(5) 37・38・100・124・139～141・147・150・151号 土坑平面図	425
第353図	(5) 152・156・157・160～164・166～168・170号 土坑平面図	426
第354図	(5) 178～180・202・203・207・208・213・216～ 218号土坑平面図	427
第355図	(5) 220・222・224・227・229・231～234号土坑 平面図	428
第356図	(5) 236～238・240～242・244号土坑平面図	429
第357図	(5) 245・250・252・254・257～261号土坑平面図	430
第358図	(5) 262～270号土坑平面図	431
第359図	(5) 271～273・275～279号土坑平面図	432

第360段	(5) 280~284号土坑平面区	433
第361段	(5) 286~289~291·304·305号土坑平面区	434
第362段	(5) 321~324·335·338号土坑平面区	435
第363段	(5) 362·363·405·407·446·451·453·454号土坑平面区	436
第364段	(5) 461·274·467~469·474·478·479号土坑平面区	437
第365段	(5) 487·494·497·498·476·477·480·499·502号土坑平面区	438
第366段	(7) —1区 7~10·12·16~19号土坑平面区	464
第367段	(7) —1区 20·22~25·27·30·38号土坑平面区	465
第368段	(7) —1区 39·45~47·49号土坑平面区	466
第369段	(7) —1区 50~55号土坑平面区	467
第370段	(7) —1区 59·60·62·63·82·93·129·130号土坑平面区	468
第371段	(7) —1区 131·132·153·155·192·195·196·212·223·229·280号土坑平面区	469
第372段	(7) —1区 285·289·295·298·306·308·312号土坑平面区	470
第373段	(7) —1区 313·314·316·320~324号土坑平面区	471
第374段	(7) —1区 325·326·328·331·332·336·341~343·347号土坑平面区	472
第375段	(7) —1区 351·352·364·365·371·375·378·392·405·406号土坑平面区	473
第376段	(7) —1区 390·391·407·418·429·439号土坑平面区	474
第377段	(7) —1区 444~446·449·450·477·491~493号土坑平面区	475
第378段	(7) —1区 494~498号土坑平面区	476
第379段	(7) —1区 499·536~538·541·545·546号土坑平面区	477
第380段	(7) —1区 501·505·508·511·528·539·547·549·550·605号土坑平面区	478
第381段	(7) —1区 509·552·557·558·585·586·601·602·608·630号土坑平面区	479
第382段	(7) —1区 606·607·619·628·629·633·	

634·650·651号土坑平面区	480	
第383段	(7) —2区 3·4·6·8~11·25·26号土坑平面区	481
第384段	(7) —2区 27~29·40·53·57·59号土坑平面区	482
第385段	(7) —2区 73·78·79·87·99~102号土坑平面区	483
第386段	(7) —2区 103·104·106~108号土坑平面区	484
第387段	(7) —2区 127·130·133·A·B·142·158·170~173·175·177号土坑平面区	485
第388段	(7) —2区 184·189·190·193·198·202·206号土坑平面区	486
第389段	(7) —2区 207·208·212~214号土坑平面区	487
第390段	(7) —2区 218·219·224·225·229·230·233·240号土坑平面区	488
第391段	(7) —2区 242~244·246·247·257·258·261·A·B号土坑平面区	489
第392段	(7) —2区 296·298·314·315·319·322·337·343·355·371·383号土坑平面区	490
第393段	(7) —2区 384·404·416·417·420·424·429号土坑平面区	491
第394段	(5) 7号土坑出土文物	508
第395段	(5) 20号土坑出土文物	508
第396段	(5) 148号土坑出土文物	508
第397段	(5) 290号土坑出土文物	508
第398段	(5) 395号土坑出土文物	508
第399段	(5) 405号土坑出土文物	508
第400段	(5) 478号土坑出土文物	508
第401段	(5) 遺構外(谷部)出土文物①	511
第402段	遺構外出土文物②	512
第403段	遺構外出土文物③	513
第404段	遺構外出土文物④	514
第405段	遺構外出土文物⑤	515
第406段	遺構外出土文物⑥	516
第407段	遺構外出土文物⑦	517
第408段	遺構外出土文物⑧	518
第409段	西野原遺跡全体圖(合成圖) (折込)	

表 目 次

表1 (5) 3号住居跡出土遺物觀察表	80
表2 (5) 9号住居跡出土遺物觀察表	80
表3 (5) 11号住居跡出土遺物觀察表	80
表4 (5) 12号住居跡出土遺物觀察表	81
表5 (5) 16号住居跡出土遺物觀察表	81
表6 (5) 18号住居跡出土遺物觀察表	81
表7 (5) 20号住居跡出土遺物觀察表	81
表8 (5) 23号住居跡出土遺物觀察表	82
表9 (5) 30号住居跡出土遺物觀察表	82
表10 (5) 31号住居跡出土遺物觀察表	82
表11 (5) 33号住居跡出土遺物觀察表	83
表12 (5) 35号住居跡出土遺物觀察表	83
表13 (5) 37号住居跡出土遺物觀察表	84
表14 (5) 39号住居跡出土遺物觀察表	84
表15 (5) 41号住居跡出土遺物觀察表	84
表16 (5) 54号住居跡出土遺物觀察表	84
表17 (5) 63号住居跡出土遺物觀察表	85
表18 (5) 72号住居跡出土遺物觀察表	85
表19 (5) 77号住居跡出土遺物觀察表	86
表20 (5) 79号住居跡出土遺物觀察表	86

表21 (5) 83号住居跡出土遺物觀察表	86
表22 (5) 90号住居跡出土遺物觀察表	86
表23 (5) 97号住居跡出土遺物觀察表	87
表24 (5) 102号住居跡出土遺物觀察表	87
表25 (5) 108号住居跡出土遺物觀察表	88
表26 (5) 125号住居跡出土遺物觀察表	88
表27 (5) 127号住居跡出土遺物觀察表	88
表28 (7) —1区 2号住居跡出土遺物觀察表	89
表29 (7) —1区 8号住居跡出土遺物觀察表	90
表30 (7) —2区 21号住居跡出土遺物觀察表	90
表31 (7) —2区 39-B号住居跡出土遺物觀察表	91
表32 (5) 1号住居跡出土遺物觀察表	230
表33 (5) 4号住居跡出土遺物觀察表	230
表34 (5) 6号住居跡出土遺物觀察表	231
表35 (5) 7号住居跡出土遺物觀察表	231
表36 (5) 8号住居跡出土遺物觀察表	231
表37 (5) 10号住居跡出土遺物觀察表	232
表38 (5) 13号住居跡出土遺物觀察表	232
表39 (5) 14号住居跡出土遺物觀察表	232
表40 (5) 15号住居跡出土遺物觀察表	233

表41	(5)	17号住居跡出土遺物観察表	233
表42	(5)	19号住居跡出土遺物観察表	234
表43	(5)	21号住居跡出土遺物観察表	234
表44	(5)	24号住居跡出土遺物観察表	234
表45	(5)	27号住居跡出土遺物観察表	235
表46	(5)	28号住居跡出土遺物観察表	235
表47	(5)	29号住居跡出土遺物観察表	235
表48	(5)	34号住居跡出土遺物観察表	235
表49	(5)	42号住居跡出土遺物観察表	236
表50	(5)	45号住居跡出土遺物観察表	236
表51	(5)	46号住居跡出土遺物観察表	236
表52	(5)	58号住居跡出土遺物観察表	236
表53	(5)	59号住居跡出土遺物観察表	236
表54	(5)	60号住居跡出土遺物観察表	237
表55	(5)	62号住居跡出土遺物観察表	237
表56	(5)	64号住居跡出土遺物観察表	237
表57	(5)	67号住居跡出土遺物観察表	237
表58	(5)	68号住居跡出土遺物観察表	238
表59	(5)	70号住居跡出土遺物観察表	238
表60	(5)	71号住居跡出土遺物観察表	239
表61	(5)	74号住居跡出土遺物観察表	239
表62	(5)	75号住居跡出土遺物観察表	239
表63	(5)	82号住居跡出土遺物観察表	240
表64	(5)	84号住居跡出土遺物観察表	240
表65	(5)	85号住居跡出土遺物観察表	240
表66	(5)	86号住居跡出土遺物観察表	240
表67	(5)	87号住居跡出土遺物観察表	241
表68	(5)	88号住居跡出土遺物観察表	241
表69	(5)	91号住居跡出土遺物観察表	242
表70	(5)	92号住居跡出土遺物観察表	242
表71	(5)	95号住居跡出土遺物観察表	242
表72	(5)	98号住居跡出土遺物観察表	243
表73	(5)	99号住居跡出土遺物観察表	244
表74	(5)	101号住居跡出土遺物観察表	244
表75	(5)	103号住居跡出土遺物観察表	244
表76	(5)	105号住居跡出土遺物観察表	244
表77	(5)	106号住居跡出土遺物観察表	245
表78	(5)	107号住居跡出土遺物観察表	245
表79	(5)	109号住居跡出土遺物観察表	245
表80	(5)	110号住居跡出土遺物観察表	246
表81	(5)	113号住居跡出土遺物観察表	246
表82	(5)	114号住居跡出土遺物観察表	246

表83	(5)	132号住居跡出土遺物観察表	246
表84	(7)	—1区 1号住居跡出土遺物観察表	246
表85	(7)	—1区 5号住居跡出土遺物観察表	247
表86	(7)	—2区 17号住居跡出土遺物観察表	247
表87	(5)	土器集中グループ1出土遺物観察表	269
表88	(5)	土器集中グループ2出土遺物観察表	269
表89	(5)	土器集中グループ3出土遺物観察表	271
表90	(5)	土器集中出土遺物観察表	271
表91		1号埴石室石材計測表	299
表92		2号埴石室石材計測表	306
表93		3号埴石室石材計測表	317
表94		4号埴石室石材計測表	327
表95		7号埴石室石材計測表	345
表96		9号埴石室石材計測表	358
表97		10号埴石室石材計測表	364
表98		11号埴石室石材計測表	371
表99		1号埴出土遺物観察表	396
表100		2号埴出土遺物観察表	398
表101		3号埴出土遺物観察表	398
表102		4号埴出土遺物観察表	398
表103		5号埴出土遺物観察表	400
表104		6号埴出土遺物観察表	400
表105		7号埴出土遺物観察表	400
表106		8号埴出土遺物観察表	401
表107		9号埴出土遺物観察表	401
表108		10号埴出土遺物観察表	402
表109		11号埴出土遺物観察表	402
表110		12号埴出土遺物観察表	403
表111		14号埴出土遺物観察表	403
表112		15号埴出土遺物観察表	403
表113		西野原道跡(5)土坑一覽表	492
表114		西野原道跡(7)—1区 土坑一覽表	496
表115		西野原道跡(7)—2区 土坑一覽表	503
表116		7号土坑出土遺物観察表	509
表117		20号土坑出土遺物観察表	509
表118		148号土坑出土遺物観察表	509
表119		290号土坑出土遺物観察表	509
表120		385号土坑出土遺物観察表	509
表121		405号土坑出土遺物観察表	509
表122		478号土坑出土遺物観察表	509
表123		道構外出土遺物観察表	519

写真目次

PL. 1	西野原遺跡 (5) (7) 古墳時代集落全体写真	(5) 23号住居跡	全景		
PL. 2	(5) 1号住居跡	全景	PL. 11	(5) 23号住居跡	遺物出土状況
	(5) 1号住居跡	遺物出土状況		(5) 23号住居跡	カマド遺物出土状況
	(5) 1号住居跡	カマド		(5) 24号住居跡	全景
	(5) 1号住居跡	掘方		(5) 24号住居跡	遺物出土状況
	(5) 2号住居跡	全景		PL. 12	(5) 24号住居跡
(5) 3号住居跡	全景	(5) 24号住居跡	カマド		
(5) 3号住居跡	遺物出土状況	(5) 24号住居跡	カマド遺物出土状況		
PL. 3	(5) 3号住居跡	遺物出土状況	(5) 27号住居跡		全景
	(5) 4号住居跡	全景	(5) 27号住居跡		カマド
	(5) 4号住居跡	遺物出土状況	(5) 28号住居跡	全景	
	(5) 4号住居跡	カマド	(5) 28号住居跡	カマド痕跡	
	(5) 4号住居跡	カマド遺物出土状況	(5) 29号住居跡	全景	
PL. 4	(5) 4号住居跡	貯蔵穴遺物出土状況	PL. 13	(5) 29号住居跡	遺物出土状況
	(5) 4号住居跡	貯蔵穴遺物出土状況		(5) 29号住居跡	カマド
	(5) 6号住居跡	全景		(5) 29号住居跡	カマド掘方
	(5) 6号住居跡	遺物出土状況		(5) 29号住居跡	掘方
	(5) 6号住居跡	土層断面		PL. 14	(5) 29・30号住居跡
(5) 7号住居跡	全景	(5) 30号住居跡	全景		
(5) 7号住居跡	カマド	(5) 30号住居跡	カマド遺物出土状況		
PL. 5	(5) 7号住居跡	掘方	(5) 31号住居跡		全景
	(5) 8号住居跡	全景	(5) 31号住居跡		遺物出土状況
	(5) 8号住居跡	遺物出土状況	(5) 31号住居跡	カマド	
	(5) 8号住居跡	カマド	(5) 31号住居跡	掘方	
	(5) 9号住居跡	全景	PL. 15	(5) 32号住居跡	全景
(5) 9号住居跡	遺物出土状況	(5) 33号住居跡		全景	
(5) 9号住居跡	伊藤	(5) 33号住居跡		遺物出土状況	
PL. 6	(5) 10号住居跡	全景		(5) 33号住居跡	炭化材出土状況
	(5) 10号住居跡	遺物出土状況		(5) 33号住居跡	伊藤
	(5) 10号住居跡	カマド	(5) 34号住居跡	全景	
	(5) 11号住居跡	全景	(5) 34号住居跡	遺物出土状況	
	(5) 12号住居跡	全景	(5) 34号住居跡	カマド	
PL. 7	(5) 12号住居跡	遺物出土状況	PL. 16	(5) 35号住居跡	全景
	(5) 14号住居跡	遺物出土状況		(5) 12号墳周溝と35号住居跡	
	(5) 14号住居跡	カマド		(5) 35号住居跡	遺物出土状況
	(5) 14号住居跡	カマド遺物出土状況		(5) 37号住居跡	全景
	(5) 15号住居跡	全景		(5) 39号住居跡	全景
PL. 8	(5) 15号住居跡	遺物出土状況	PL. 17	(5) 39号住居跡	遺物出土状況
	(5) 15号住居跡	カマド		(5) 41号住居跡	全景
	(5) 16号住居跡	全景		(5) 41号住居跡	遺物出土状況
	(5) 16号住居跡	遺物出土状況		(5) 42号住居跡	全景
	(5) 17号住居跡	全景		(5) 43号住居跡	全景
PL. 9	(5) 17号住居跡	遺物出土状況	(5) 43号住居跡	カマド	
	(5) 17号住居跡	カマド	(5) 44号住居跡	全景	
	(5) 17号住居跡	貯蔵穴遺物出土状況	PL. 18	(5) 45号住居跡	全景
	(5) 17号住居跡	貯蔵穴遺物出土状況		(5) 45号住居跡	カマド
	(5) 18号住居跡	全景		(5) 45号住居跡	貯蔵穴遺物出土状況
(5) 19号住居跡	全景	(5) 46号住居跡		全景	
(5) 19号住居跡	遺物出土状況	(5) 46号住居跡		カマド	
PL. 10	(5) 19号住居跡	カマド	(5) 47号住居跡	全景	
	(5) 20号住居跡	全景	(5) 48号住居跡	全景	
	(5) 20号住居跡	遺物出土状況	(5) 49号住居跡	全景	
	(5) 20号住居跡	遺物出土状況	PL. 19	(5) 54号住居跡	全景
	(5) 21号住居跡	全景		(5) 54号住居跡	遺物出土状況
(5) 21号住居跡	カマド	(5) 54号住居跡		炭化材出土状況	
(5) 21号住居跡	貯蔵穴	(5) 54号住居跡		伊藤	
(5) 21号住居跡	掘方	(5) 55号住居跡		全景	
(5) 22号住居跡	全景	(5) 57号住居跡	全景		

PL. 20	(5) 57号住居跡 カマド	(5) 87号住居跡 カマド
	(5) 58号住居跡 全景	PL. 30 (5) 87号住居跡 貯蔵穴
	(5) 58号住居跡 貯蔵穴	(5) 88号住居跡 全景
	(5) 59号住居跡 全景	(5) 88号住居跡 遺物出土状況
	(5) 59号住居跡 遺物出土状況	(5) 88号住居跡 カマド
	(5) 60号住居跡 全景	(5) 88号住居跡 カマド遺物出土状況
PL. 21	(5) 60号住居跡 遺物出土状況	PL. 31 (5) 88号住居跡 カマド遺物出土状況
	(5) 60号住居跡 遺物出土状況	(5) 88号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況
	(5) 60号住居跡 カマド	(5) 90号住居跡 全景
	(5) 60号住居跡 カマド貯蔵穴	(5) 90号住居跡 遺物出土状況
	(5) 60号住居跡 カマド袖石	PL. 32 (5) 90号住居跡 カマド
	(5) 62号住居跡 全景	(5) 90号住居跡 カマド遺物出土状況
	(5) 62号住居跡 カマド	(5) 91号住居跡 全景
	(5) 63号住居跡 全景	(5) 91号住居跡 遺物出土状況
PL. 22	(5) 63号住居跡 遺物出土状況	(5) 91号住居跡 カマド
	(5) 64号住居跡 全景	(5) 92号住居跡 全景
	(5) 64号住居跡 遺物出土状況	(5) 92号住居跡 カマド
	(5) 64号住居跡 カマド	PL. 33 (5) 93号住居跡 全景
PL. 23	(5) 64号住居跡 貯蔵穴	(5) 95号住居跡 全景 (南西から)
	(5) 66号住居跡 全景	(5) 95号住居跡 全景 (北東から)
	(5) 67号住居跡 全景	(5) 95号住居跡 遺物出土状況
	(5) 67号住居跡 遺物出土状況	(5) 95号住居跡 北カマド
	(5) 67号住居跡 カマド	(5) 95号住居跡 南カマド
PL. 24	(5) 68号住居跡 全景	(5) 95号住居跡 北貯蔵穴
	(5) 68号住居跡 遺物出土状況	PL. 34 (5) 95号住居跡 南貯蔵穴
	(5) 68号住居跡 カマド	(5) 96号住居跡 全景
	(5) 69号住居跡 全景	(5) 97号住居跡 全景
	(5) 70号住居跡 全景	(5) 97号住居跡 遺物出土状況
	(5) 70号住居跡 遺物出土状況	(5) 98号住居跡 全景
PL. 25	(5) 70号住居跡 遺物出土状況	(5) 98号住居跡 遺物出土状況
	(5) 70号住居跡 カマド	PL. 35 (5) 98号住居跡 遺物出土状況
	(5) 70号住居跡 貯蔵穴	(5) 98号住居跡 カマド
	(5) 71号住居跡 全景	(5) 102号住居跡 全景
	(5) 71号住居跡 遺物出土状況	(5) 102号住居跡 遺物出土状況
	(5) 71号住居跡 カマド	PL. 36 (5) 102号住居跡 カマド
	(5) 72号住居跡 全景	(5) 102号住居跡 貯蔵穴
	(5) 72号住居跡 遺物出土状況	(5) 103号住居跡 全景
PL. 26	(5) 72号住居跡 伊跡	(5) 103・104号住居跡 全景
	(5) 74号住居跡 全景	(5) 104号住居跡 全景
	(5) 74号住居跡 遺物出土状況	(5) 105号住居跡 全景
	(5) 75号住居跡 全景	(5) 105号住居跡 張出し部
	(5) 75号住居跡 遺物出土状況	(5) 105号住居跡 カマド
PL. 27	(5) 75号住居跡 遺物出土状況	PL. 37 (5) 105号住居跡 貯蔵穴
	(5) 75号住居跡 カマド	(5) 106号住居跡 全景
	(5) 77号住居跡 全景	(5) 106号住居跡 遺物出土状況
	(5) 77号住居跡 伊跡	(5) 106号住居跡 カマド
	(5) 79号住居跡 全景	(5) 106号住居跡 カマド袖裏
	(5) 79号住居跡 炭化材出土状況	(5) 107号住居跡 全景
	(5) 82号住居跡 全景	(5) 107号住居跡 遺物出土状況
	(5) 82号住居跡 遺物出土状況	PL. 38 (5) 107号住居跡 カマド
PL. 28	(5) 82号住居跡 カマド	(5) 107号住居跡 遺物出土状況
	(5) 83号住居跡 全景	(5) 108号住居跡 全景
	(5) 83号住居跡 遺物出土状況	(5) 108号住居跡 伊跡
	(5) 84号住居跡 全景	(5) 109号住居跡 全景
	(5) 84号住居跡 遺物出土状況	(5) 110号住居跡 全景
	(5) 84号住居跡 カマド	(5) 110号住居跡 カマド
	(5) 85号住居跡 全景	(5) 113号住居跡 全景
PL. 29	(5) 85号住居跡 遺物出土状況	PL. 39 (5) 114号住居跡 全景
	(5) 85号住居跡 カマド	(5) 114号住居跡 カマド
	(5) 86号住居跡 全景	(5) 115号住居跡 全景
	(5) 86号住居跡 カマド	(5) 122号住居跡 全景
	(5) 86号住居跡 カマド袖裏	(5) 125号住居跡 全景
	(5) 87号住居跡 全景	(5) 125・128号住居跡 全景

	(5) 127号住居跡 遺物出土状況		(5) 1号基 下面全景
	(5) 132号住居跡 全景	PL. 53	(5) 1・2号基 敷間耕作痕
PL. 40	(5) 132号住居跡 遺物出土状況		(5) 3号基 全景
	(5) 132号住居跡 カマド		(5) 4・5号基 敷間埋没状況
	(7) -1区 1号住居跡 全景	PL. 54	(5) 5号基 全景
	(7) -1区 1号住居跡 遺物出土状況		(5) 6号基 全景
	(7) -1区 1号住居跡 カマド		(5) 7号基 全景
	(7) -1区 1号住居跡 カマド遺物出土状況		(5) 9号基 全景
PL. 41	(7) -1区 2号住居跡 全景		(5) 10号基 全景
	(7) -1区 2号住居跡 遺物出土状況	PL. 55	西野原遺跡古墳群 (西野古墳群) 全体写真
PL. 42	(7) -1区 2号住居跡 遺物出土状況	PL. 56	(5) 調査区内古墳群全景 南から
	(7) -1区 2号住居跡 掘方		(5) 調査区内古墳群全景 北から
	(7) -1区 5号住居跡 全景	PL. 57	1号墳 全景
	(7) -1区 5号住居跡 遺物出土状況		1号墳 調査前現況
	(7) -1区 5号住居跡 カマド		1号墳 全景 (航空写真)
PL. 43	(7) -1区 5号住居跡 掘方		1号墳 墳丘崩落状況
	(7) -1区 6号住居跡 全景		1号墳 墳丘全景
	(7) -1区 6号住居跡 カマド	PL. 58	1号墳 前庭及び石室全景
	(7) -1区 6号住居跡 掘方		1号墳 前庭及び石室
	(7) -1区 7号住居跡 全景	PL. 59	1号墳 前庭
	(7) -1区 7号住居跡 遺物出土状況		1号墳 階基状況
	(7) -1区 7号住居跡 カマド		1号墳 前庭及び入口部
	(7) -1区 8号住居跡 全景		1号墳 入口部
PL. 44	(7) -1区 8号住居跡 遺物出土状況		1号墳 入口部西側石垣
	(7) -1区 8号住居跡 粘土塊出土状況		1号墳 入口部東側石垣
	(7) -1区 8号住居跡 掘方		1号墳 農道全景
	(7) -2区 21号住居跡 全景		1号墳 農道東壁構築状況
	(7) -2区 21号住居跡 遺物出土状況	PL. 60	1号墳 玄室全景
	(7) -2区 21号住居跡 カマド		1号墳 玄室
	(7) -2区 21号住居跡 カマド遺物出土状況		1号墳 玄室内人骨出土状況
	(7) -2区 21号住居跡 掘方		1号墳 玄室内遺物出土状況
PL. 45	(5) 1号孤立柱建物跡 全景		1号墳 玄室内大刀出土状況
	(5) 1・2号孤立柱建物跡 全景	PL. 61	1号墳 玄室内大刀出土状況
	(5) 2号孤立柱建物跡 全景		1号墳 玄室内鉄鎌出土状況
	(5) 4号孤立柱建物跡 全景		1号墳 墳丘盛土断面全景
	(5) 5号孤立柱建物跡 全景		1号墳 墳丘盛土断面
	(5) 5・6号孤立柱建物跡 全景	PL. 62	1号墳 石室構築状況 (南西から)
	(5) 6号孤立柱建物跡 全景		1号墳 石室構築状況 (北西から)
	(5) 9号孤立柱建物跡 全景		1号墳 石室構築状況 (北から)
PL. 46	(5) 1号墳下土器集中1グループ遺物出土状況		1号墳 玄室構築状況
PL. 47	(5) 1号墳下土器集中1グループ遺物出土状況		1号墳 玄門東側構築状況
	(5) 1号墳下土器集中1グループ遺物出土状況 (Ⅱ)		1号墳 玄門西側構築状況
	(5) 1号墳下土器集中2・3グループ遺物出土状況		1号墳 玄室東壁構築状況
PL. 48	(5) 1号墳下土器集中2グループ遺物出土状況	PL. 63	1号墳 玄室西壁構築状況
PL. 49	(5) 1号墳下土器集中2グループ遺物出土状況		1号墳 石室床面全景
	(5) 1号墳下土器集中2グループ遺物出土状況 (Ⅱ)		1号墳 玄室床面全景
	(5) 1号墳下土器集中2グループ遺物出土状況 (Ⅲ)		1号墳 石室床面と板石礎石
	(5) 1号墳下土器集中2グループとカマド・焼土		1号墳 石室板石礎石全景
	(5) 1号墳下土器集中3グループ遺物出土状況		1号墳 石室板石礎石設置状況
PL. 50	(5) 1号墳下土器集中カマド・焼土		1号墳 石室掘方全景
	(5) 1号墳下土器集中カマド	PL. 64	2号墳 全景 (空撮写真)
	(5) 7号墳下土器集中遺物出土状況		2号墳 調査前現況
	(5) 1号墳下 1号集石全景		2号墳 墳丘全景
	(5) 1号墳下 1号集石		2号墳 前庭部崩落状況
	(5) 谷部全景		2号墳 全景
	(5) 谷部遺物出土状況	PL. 65	2号墳 墳丘全景
PL. 51	(5) 1号基 上面全景		2号墳 前庭全景
	(5) 1号基 上面敷間埋没状況		2号墳 前庭西壁石垣
	(5) 1号基 上面		2号墳 前庭東壁石垣
	(5) 1号基 上下面	PL. 66	2号墳 石室全景
PL. 52	(5) 1・2号基 下面全景		2号墳 階基状況
			2号墳 農道西壁構築状況

	2号墳 羨道東壁構築状況	4号墳 石室構築状況
	2号墳 羨道	4号墳 石室根石架石全景
	2号墳 羨道（北から）	4号墳 石室根石架石設置状況
	2号墳 玄室床面	4号墳 掘方全景（南から）
	2号墳 玄室奥壁構築状況	4号墳 掘方全景（北から）
PL. 67	2号墳 玄室西壁構築状況	PL. 78 5号墳 全景（航空写真）
	2号墳 玄室東壁構築状況	6号墳 全景（航空写真）
	2号墳 石室構築状況（北から）	PL. 79 7号墳 全景（航空写真）
	2号墳 石室根石架石全景	7号墳 墳丘全景
	2号墳 石室根石架石設置状況	PL. 80 7号墳 調査前現況
	2号墳 掘方全景	7号墳 前底部石垣崩落状況
PL. 68	3号墳 全景（航空写真）	7号墳 石室全景（航空写真）
	3号墳 調査前現況	PL. 81 7号墳 前庭全景
	3号墳 全景	7号墳 前庭（東から）
	3号墳 石室全景	7号墳 前庭西壁石垣
	3号墳 入口閉塞状況	7号墳 墳丘南東側の墓石
PL. 69	3号墳 羨道閉塞状況	7号墳 墳丘北東側の墓石
	3号墳 全景	7号墳 入口部閉塞状況
	3号墳 石室全景	7号墳 羨道内閉塞状況
	3号墳 前庭及び入口	7号墳 石室全景
PL. 70	3号墳 入口部西側石垣	PL. 82 7号墳 前庭及び石室
	3号墳 入口部東側石垣	7号墳 石室入口
	3号墳 羨道西壁構築状況	7号墳 石室全景（北から）
	3号墳 羨道東壁構築状況	7号墳 羨道全景（北から）
	3号墳 玄門	7号墳 盛土断面
	3号墳 玄室床面	7号墳 石室及び基壇に隠れた墓石
	3号墳 玄室西壁構築状況	7号墳 基壇に隠れた墓石（西側）
PL. 71	3号墳 玄室西壁構築状況	7号墳 基壇に隠れた墓石（東側）
	3号墳 玄室奥壁構築状況	PL. 83 7号墳 基壇に隠れた墓石
	3号墳 玄室東壁構築状況	7号墳 石室構築状況（西から）
	3号墳 石室構築状況（西から）	7号墳 玄室西壁構築状況
	3号墳 石室構築状況（北から）	7号墳 石室根石残存状況
PL. 72	3号墳 石室床面と根石架石	7号墳 玄室根石残存状況
	3号墳 石室根石架石全景	7号墳 羨道東壁構築状況
	3号墳 石室根石架石設置状況	7号墳 石室根石架石全景
	3号墳 石室掘方全景	7号墳 石室掘方全景
PL. 73	4号墳 全景（航空写真）	PL. 84 8号墳 全景（航空写真）
	4号墳 調査前現況	8号墳 調査前現況
	4号墳 周堀土層断面	8号墳 周堀り調査現況
	4号墳 墳丘全景	8号墳 墳丘残存状況
PL. 74	4号墳 石室全景（航空写真）	8号墳 羨道西壁根石残存状況
	4号墳 石室全景	PL. 85 9号墳 全景（航空写真）
	4号墳 入口閉塞状況	9号墳 墳丘全景
	4号墳 前庭及び石室入口部	9号墳 石室全景
	4号墳 石室入口部	9号墳 石室入口閉塞状況
PL. 75	4号墳 羨道閉塞状況	9号墳 墳丘墓石
	4号墳 全景	PL. 86 9号墳 石室床面残存状況
	4号墳 石室入口	9号墳 玄室耳障出土状況
	4号墳 前庭及び石室入口	9号墳 墳丘全景
	4号墳 羨道全景（北から）	9号墳 石室全景
	4号墳 玄室全景（南西から）	9号墳 石室
	4号墳 玄門と西壁構築状況	9号墳 掘方全景
	4号墳 玄室西壁構築状況	9号墳 石室掘方全景
PL. 76	4号墳 玄室奥壁及び床面	PL. 87 10号墳 全景（航空写真）
	4号墳 玄室東壁構築状況	10号墳 調査前現況
	4号墳 玄室内鉄線出土状況	10号墳 全景
	4号墳 玄室内耳障出土状況	10号墳 羨道閉塞状況
	4号墳 墳丘盛土断面全景	PL. 88 10号墳 羨道閉塞断面
	4号墳 墳丘盛土断面	10号墳 羨道床面と閉塞石
	4号墳 石室構築状況全景（西から）	10号墳 全景
	4号墳 石室構築状況全景（東南から）	10号墳 石室全景
PL. 77	4号墳 石室構築状況（北東から）	10号墳 羨道全景
	4号墳 石室構築状況（北から）	PL. 89 10号墳 玄室全景

	10号墳 玄室床面	(5) 22号土坑
	10号墳 玄室西壁構築状況	(5) 23号土坑
	10号墳 玄室内遺物出土状況	(5) 24号土坑
	10号墳 玄室内大刀出土状況	(5) 25号土坑
	10号墳 玄室内鉄鏝出土状況	(5) 26号土坑
PL. 90	10号墳 玄室内鉄鏝出土状況	(5) 27号土坑
	10号墳 玄室内耳障出土状況	(5) 28号土坑
	10号墳 石室	(5) 29号土坑
	10号墳 羨道	(5) 31号土坑
	10号墳 玄室	(5) 32号土坑
	10号墳 玄室西壁構築状況	(5) 33号土坑
	10号墳 玄室東壁構築状況	(5) 34号土坑
PL. 91	10号墳 玄門構築状況	PL. 100 (5) 37号土坑
	10号墳 石室構築状況 (東から)	(5) 38号土坑
	10号墳 石室構築状況 (南西から)	(5) 100号土坑
	10号墳 石室構築状況 (北から)	(5) 124号土坑
	10号墳 石室構築状況 (北東から)	(5) 139号土坑
	10号墳 石室構築状況 (北西から)	(5) 140号土坑
	10号墳 石室掘方全景	(5) 141号土坑
	10号墳 石室掘方	(5) 147号土坑
PL. 92	11号墳 全景 (航空写真)	(5) 151号土坑
	11号墳 調査前現況	(5) 152号土坑
	11号墳 周堀遺物出土状況	(5) 156・157・167号土坑
PL. 93	11号墳 全景	(5) 161号土坑
	11号墳 石室全景	(5) 162・163・164号土坑
	11号墳 前底部石垣崩落状況	(5) 166号土坑
	11号墳 前庭遺物出土状況	(5) 168号土坑
	11号墳 玄室東壁根石採取ノ植	PL. 101 (5) 170号土坑
	11号墳 羨道東壁根石構築状況	(5) 178号土坑
	11号墳 石室残存状況	(5) 202・203号土坑
PL. 94	12号墳 周堀全景 (航空写真)	(5) 207・208号土坑
	13号墳 周堀全景 (航空写真)	(5) 220号土坑
PL. 95	14号墳 全景 (航空写真)	(5) 222号土坑
	14号墳 調査前現況	(5) 229号土坑
	14号墳 石室残存状況	(5) 230号土坑
	14号墳 石室根石残存状況	(5) 234号土坑
	14号墳 石室掘方全景	(5) 234号土坑遺物出土状況
PL. 96	15号墳 全景 (航空写真)	(5) 235号土坑
	15号墳 調査前現況	(5) 236号土坑
	15号墳 石室残存状況	(5) 237号土坑
	15号墳 墳丘全景	(5) 238号土坑
PL. 97	15号墳 石室全景	(5) 240号土坑
	15号墳 玄室内鉄鏝出土状況	PL. 102 (5) 241号土坑
	15号墳 玄室内耳障出土状況	(5) 242号土坑
	15号墳 石室根石栗石設置状況	(5) 244号土坑
	15号墳 掘方全景	(5) 245号土坑
	15号墳 石室掘方全景	(5) 250号土坑
PL. 98	(5) 1号土坑	(5) 257号土坑
	(5) 2号土坑	(5) 258号土坑
	(5) 3号土坑	(5) 259号土坑
	(5) 4号土坑	(5) 260号土坑
	(5) 5号土坑	(5) 261号土坑
	(5) 7号土坑	(5) 262号土坑
	(5) 9号土坑	(5) 263号土坑
	(5) 12号土坑下面炭出土状況	(5) 264号土坑
	(5) 12号土坑上面	(5) 265号土坑
	(5) 13号土坑	(5) 266号土坑
	(5) 14号土坑	PL. 103 (5) 267号土坑
	(5) 15号土坑	(5) 268号土坑
	(5) 16号土坑	(5) 269号土坑
PL. 99	(5) 17号土坑	(5) 270号土坑
	(5) 19号土坑	(5) 271号土坑
	(5) 21号土坑	(5) 272号土坑

- (5) 273号土坑
 (5) 275号土坑
 (5) 276号土坑
 (5) 277号土坑
 (5) 278号土坑
 (5) 279号土坑
 (5) 281号土坑
 (5) 282号土坑
 (5) 283号土坑
 PL. 104 (5) 284号土坑
 (5) 286号土坑
 (5) 289号土坑
 (5) 290号土坑
 (5) 304·305号土坑
 (5) 362号土坑
 (5) 395号土坑·7号独立
 (5) 403号土坑
 (5) 405号土坑
 (5) 407号土坑
 (5) 446号土坑
 (5) 451号土坑
 (5) 454·455号土坑
 (5) 461号土坑
 PL. 105 (5) 462号土坑
 (5) 463号土坑
 (5) 467号土坑
 (5) 468号土坑
 (5) 469号土坑
 (5) 474号土坑
 (5) 474号土坑遺物出土狀況
 (5) 492号土坑
 (5) 493号土坑
 (5) 494号土坑
 (5) 495号土坑
 (5) 497号土坑
 (5) 498号土坑
 (5) 500号土坑
 (5) 501号土坑
 PL. 106 (7) -1区 7号土坑
 (7) -1区 8·9号土坑
 (7) -1区 10号土坑
 (7) -1区 12号土坑
 (7) -1区 16号土坑
 (7) -1区 17号土坑
 (7) -1区 18号土坑
 (7) -1区 19号土坑
 (7) -1区 20号土坑
 (7) -1区 22号土坑
 (7) -1区 23号土坑
 (7) -1区 24号土坑
 (7) -1区 25号土坑
 (7) -1区 27号土坑
 (7) -1区 30号土坑
 PL. 107 (7) -1区 32号土坑
 (7) -1区 38号土坑
 (7) -1区 45号土坑
 (7) -1区 46号土坑
 (7) -1区 47号土坑
 (7) -1区 50号土坑
 (7) -1区 51号土坑
 (7) -1区 52号土坑
 (7) -1区 53号土坑
 (7) -1区 54号土坑
 (7) -1区 55号土坑
 (7) -1区 59·60号土坑
 (7) -1区 61号土坑
 (7) -1区 62号土坑
 (7) -1区 63号土坑
 PL. 108 (7) -1区 93号土坑
 (7) -1区 94号土坑
 (7) -1区 102号土坑
 (7) -1区 129号土坑
 (7) -1区 130号土坑
 (7) -1区 131号土坑
 (7) -1区 132号土坑
 (7) -1区 153号土坑
 (7) -1区 155号土坑
 (7) -1区 195号土坑
 (7) -1区 196号土坑
 (7) -1区 212号土坑
 (7) -1区 223号土坑
 (7) -1区 228号土坑
 (7) -1区 280号土坑
 (7) -1区 285号土坑
 PL. 109 (7) -1区 287号土坑
 (7) -1区 289号土坑
 (7) -1区 295号土坑
 (7) -1区 298号土坑
 (7) -1区 306号土坑
 (7) -1区 308号土坑
 (7) -1区 310号土坑
 (7) -1区 312号土坑
 (7) -1区 313号土坑
 (7) -1区 314号土坑
 (7) -1区 316号土坑
 (7) -1区 320号土坑
 (7) -1区 321号土坑
 (7) -1区 322号土坑
 PL. 110 (7) -1区 323号土坑
 (7) -1区 324号土坑
 (7) -1区 325号土坑
 (7) -1区 326号土坑
 (7) -1区 328号土坑
 (7) -1区 328号土坑
 (7) -1区 331号土坑
 (7) -1区 332号土坑
 (7) -1区 336号土坑
 (7) -1区 338号土坑
 (7) -1区 341号土坑
 (7) -1区 342号土坑
 (7) -1区 343号土坑
 (7) -1区 347号土坑
 (7) -1区 351号土坑
 (7) -1区 352号土坑
 PL. 111 (7) -1区 361号土坑
 (7) -1区 365号土坑
 (7) -1区 371号土坑
 (7) -1区 375号土坑
 (7) -1区 378号土坑
 (7) -1区 390·391号土坑
 (7) -1区 392·405·406号土坑
 (7) -1区 407号土坑
 (7) -1区 418号土坑
 (7) -1区 429号土坑
 (7) -1区 439号土坑
 (7) -1区 444·445号土坑
 (7) -1区 446号土坑

(7) - 1 区 447号土坑
 (7) - 1 区 449 • 450号土坑
 PL. 112 (7) - 1 区 477号土坑
 (7) - 1 区 491 • 492 • 493号土坑
 (7) - 1 区 494号土坑
 (7) - 1 区 495号土坑
 (7) - 1 区 496号土坑
 (7) - 1 区 497号土坑
 (7) - 1 区 498号土坑
 (7) - 1 区 499号土坑
 (7) - 1 区 501号土坑
 (7) - 1 区 505号土坑
 (7) - 1 区 508号土坑
 (7) - 1 区 509号土坑
 (7) - 1 区 536号土坑
 (7) - 1 区 537号土坑
 (7) - 1 区 538号土坑
 PL. 113 (7) - 1 区 539号土坑
 (7) - 1 区 541号土坑
 (7) - 1 区 545号土坑
 (7) - 1 区 546号土坑
 (7) - 1 区 547号土坑
 (7) - 1 区 549号土坑
 (7) - 1 区 550号土坑
 (7) - 1 区 552号土坑
 (7) - 1 区 557号土坑
 (7) - 1 区 558号土坑
 (7) - 1 区 585号土坑
 (7) - 1 区 586号土坑
 (7) - 1 区 601号土坑
 (7) - 1 区 606号土坑
 (7) - 1 区 607号土坑
 PL. 114 (7) - 1 区 608号土坑
 (7) - 1 区 619号土坑
 (7) - 1 区 629号土坑
 (7) - 1 区 630号土坑
 (7) - 1 区 633号土坑
 (7) - 1 区 634号土坑
 (7) - 1 区 650号土坑
 (7) - 1 区 677号土坑
 (7) - 1 区 679号土坑
 (7) - 1 区 684号土坑
 (7) - 1 区 729号土坑
 (7) - 1 区 730号土坑
 (7) - 1 区 731号土坑
 (7) - 1 区 732号土坑
 (7) - 1 区 735号土坑
 PL. 115 (7) - 1 区 774号土坑
 (7) - 2 区 3 • 4 • 5号土坑
 (7) - 2 区 6号土坑
 (7) - 2 区 8号土坑
 (7) - 2 区 9号土坑
 (7) - 2 区 10号土坑
 (7) - 2 区 11号土坑
 (7) - 2 区 12号土坑
 (7) - 2 区 25号土坑
 (7) - 2 区 26号土坑
 (7) - 2 区 27号土坑
 (7) - 2 区 28号土坑
 (7) - 2 区 29号土坑
 (7) - 2 区 40号土坑
 (7) - 2 区 46号土坑
 PL. 116 (7) - 2 区 47号土坑

(7) - 2 区 53号土坑
 (7) - 2 区 56号土坑
 (7) - 2 区 57号土坑
 (7) - 2 区 59号土坑
 (7) - 2 区 73号土坑
 (7) - 2 区 78号土坑
 (7) - 2 区 79号土坑
 (7) - 2 区 81号土坑
 (7) - 2 区 87号土坑
 (7) - 2 区 99号土坑
 (7) - 2 区 100号土坑
 (7) - 2 区 101号土坑
 (7) - 2 区 103 • 104 • 107号土坑
 (7) - 2 区 106号土坑
 PL. 117 (7) - 2 区 108号土坑
 (7) - 2 区 127号土坑
 (7) - 2 区 130号土坑
 (7) - 2 区 133号土坑
 (7) - 2 区 142号土坑
 (7) - 2 区 156号土坑
 (7) - 2 区 158号土坑
 (7) - 2 区 161号土坑
 (7) - 2 区 162号土坑
 (7) - 2 区 170号土坑
 (7) - 2 区 171号土坑
 (7) - 2 区 172号土坑
 (7) - 2 区 173号土坑
 (7) - 2 区 174 • 175号土坑
 (7) - 2 区 177号土坑
 PL. 118 (7) - 2 区 184号土坑
 (7) - 2 区 189号土坑
 (7) - 2 区 190号土坑
 (7) - 2 区 193号土坑
 (7) - 2 区 195号土坑
 (7) - 2 区 196号土坑
 (7) - 2 区 198号土坑
 (7) - 2 区 198号土坑
 (7) - 2 区 202号土坑
 (7) - 2 区 206号土坑
 (7) - 2 区 207号土坑
 (7) - 2 区 208号土坑
 (7) - 2 区 212号土坑
 (7) - 2 区 214号土坑
 (7) - 2 区 217号土坑
 (7) - 2 区 218号土坑
 PL. 119 (7) - 2 区 219号土坑
 (7) - 2 区 224号土坑
 (7) - 2 区 225号土坑
 (7) - 2 区 229号土坑
 (7) - 2 区 230号土坑
 (7) - 2 区 233号土坑
 (7) - 2 区 239号土坑
 (7) - 2 区 240号土坑
 (7) - 2 区 242号土坑
 (7) - 2 区 243号土坑
 (7) - 2 区 244号土坑
 (7) - 2 区 245号土坑
 (7) - 2 区 246号土坑
 (7) - 2 区 257号土坑
 (7) - 2 区 258号土坑
 PL. 120 (7) - 2 区 259号土坑
 (7) - 2 区 261号土坑
 (7) - 2 区 262号土坑
 (7) - 2 区 296号土坑

- (7) - 2区 298号土坑
 (7) - 2区 314号土坑
 (7) - 2区 315号土坑
 (7) - 2区 319号土坑
 (7) - 2区 322号土坑
 (7) - 2区 331号土坑
 (7) - 2区 337号土坑
 (7) - 2区 343号土坑
 (7) - 2区 355号土坑
 (7) - 2区 357号土坑
 (7) - 2区 371号土坑
 PL 121 (7) - 2区 383号土坑
 (7) - 2区 384号土坑
 (7) - 2区 393号土坑
 (7) - 2区 399号土坑
 (7) - 2区 400号土坑
 (7) - 2区 401号土坑
 (7) - 2区 402号土坑
 (7) - 2区 404号土坑
 (7) - 2区 416号土坑
 (7) - 2区 417号土坑
 (7) - 2区 420号土坑
 (7) - 2区 424号土坑
 (7) - 2区 429号土坑
 (7) - 2区 435号土坑
 (7) - 2区 436号土坑
 PL 122 (5) 1・3・4号住居跡出土遺物
 PL 123 (5) 4・7号住居跡出土遺物
 PL 124 (5) 7・8・9・10・11・13号住居跡出土遺物
 PL 125 (5) 12・14・15・17号住居跡出土遺物
 PL 126 (5) 17・18・19・20号住居跡出土遺物
 PL 127 (5) 20・21・23号住居跡出土遺物
 PL 128 (5) 23・24号住居跡出土遺物
 PL 129 (5) 24・29・30・31号住居跡出土遺物
 PL 130 (5) 31・33・34・35・37・39号住居跡出土遺物
 PL 131 (5) 39・41・45・54号住居跡出土遺物
 PL 132 (5) 54・58・59・60・63・64号住居跡出土遺物
 PL 133 (5) 64・67・68・70号住居跡出土遺物
 PL 134 (5) 70・71・72・74・75・77・79・84・85号住居跡出土遺物
 PL 135 (5) 86・87・88号住居跡出土遺物
 PL 136 (5) 88・90号住居跡出土遺物
 PL 137 (5) 90・91・92・95・97号住居跡出土遺物
 PL 138 (5) 97・98号住居跡出土遺物
 PL 139 (5) 98・102・105・106・107号住居跡出土遺物
 PL 140 (5) 107・108・109・113号住居跡出土遺物
 PL 141 (5) 113・114・125・132号住居跡、
 (7) - 1区1号住居跡出土遺物
 PL 142 (7) - 1区2号住居跡出土遺物
 PL 143 (7) - 1区2・5・8号住居跡出土遺物
 PL 144 (7) - 1区8号住居跡、
 (7) - 2区17・21号住居跡出土遺物
 PL 145 (7) - 2区39B号住居跡、
 (5) 土器集中1グループ出土遺物
 PL 146 (5) 土器集中1・2グループ出土遺物
 PL 147 (5) 土器集中2・3グループ出土遺物
 PL 148 1号墳出土遺物
 PL 149 2・3・4・5・6・7号墳出土遺物
 PL 150 7・8・9・10・11号墳出土遺物
 PL 151 11・12・14・15号墳出土遺物
 PL 152 (5) 7・20・290・395・405号土坑出土遺物、
 遺構外出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	にしのはらいせき(ご)(なな)
書名	西野原遺跡(5)(7) 第3分冊—古墳時代編—
副書名	石田川流域調節池事業(D池)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	499
編著者名	谷藤保彦/田村邦宏
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2010
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	にしのはらいせき
遺跡名	西野原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしやぶづかまち・しながおかまち
遺跡所在地	群馬県太田市藪塚町・西長岡町
市町村コード	10205
遺跡番号	Y0039
北緯(日本測地系)	362041
東経(日本測地系)	1391943
北緯(世界測地系)	362052
東経(世界測地系)	1391931
調査期間	西野原遺跡(5) 20030801-20050228 西野原遺跡(7) 20040401-20060331/20060601-20060930
調査面積	45488
調査原因	調節池建設
種別	集落/古墳群/耕地/包蔵地
主な時代	古墳
遺跡概要	集落—古墳—竪穴住居109軒+掘立柱建物跡6棟+集石遺構+祭祀遺構/古墳—円墳15基/生産—畠跡
特記事項	古墳時代前半および後半の集落、7世紀前半の古墳群。墳丘下から古墳築造前の畠跡や祭祀遺構、住居、掘立柱建物を検出。

第1章 第1分冊—縄文・弥生時代編—の概要

本遺跡は、事業別および調査主体別に西野原遺跡(1)～(7)までに調査区を分割して、それぞれの調査区の調査が行われた。石田川流域調節池(D池)事業として扱う西野原遺跡(5)(7)は、東武鉄道を跨ぐことから調査区を分割している。しかも、調査年度も少しずつずれていることから、調査時点での遺跡の全貌がなかなか明らかにし難く、整理作業においてようやく明らかとなった。主には、縄文時代の包含層および中期後半の集落、弥生時代中期後半の集落、古墳時代前期から後期にかけての集落および終末期の古墳群、7世紀後半の集落および製鉄関連遺構群、平安時代の集落、中世の掘立建物群といった、各時期の遺構・遺物が複合する遺跡であり、時期によってそれぞれの遺構が地点を違えて集中することが明らかとなった。

報告書の刊行にあたっては、時代別に分冊することとなり、第1分冊は縄文・弥生時代編、第2分冊は飛鳥・平安時代・中世以降編、第3分冊は古墳時代編として計画された。

ここでは、第1分冊で扱った縄文時代と弥生時代の概要について、各時代毎に記す。

縄文時代

遺構が確認されたのは、前期後半諸磯a式期の住居跡1軒と土坑があるが、他の調査区でもみあたらないことから該期は単独の検出であり、集落としての広がりにはみられないようである。中期後半の加曽利E3式からE4式にかかる住居跡は8軒で、西野原遺跡(5)(7)の調査区の北側に位置し、環状集落を呈するようで、環状となる集落の半分は調査区外に延びることがわかった。しかも集落は、扇状地台地の周縁部で、台地の傾斜変換部に位置し、さらに外側にまで遺物包含層が形成されている。

この加曽利E3・4式期の周辺地での集落は、旧藪塚本町内ではみられず、成塚住宅団地遺跡に加曾

利E2・3式の集落が確認されているのみであり、同時期の遺跡は皆無といえよう。とりわけ、本遺跡が当地域における中核的な集落と位置づけることができよう。

出土した土器の中でも加曽利E3式から後期初頭の土器については、特に加曽利E4式土器と後期初頭土器との区別は難しく、先に開催された第20回縄文セミナー「中期終末から後期初頭の再検討」(2007)において論議されたように、当地域における後期初頭期には所謂「称名寺式土器」ではなく、加曽利E式がそのまま後続する点にある。本遺跡の土器においても同様で、中期加曽利E4式の内反口縁のものと、より内反の度合いが弱い直立する口縁の土器がみられ、施文文様は加曽利E風でも口縁形状がより後期的である。中期以外にも、草創期、早期、前期、後期の土器が出土している。

弥生時代

中期後半の集落が検出されたのは、西野原遺跡(5)および西野原遺跡(7)に跨り、先述の縄文集落が調査区の北側であるのに対し、弥生集落は調査区の中央ないし南側に集中するといったように、扇状地台地の周縁部にあっても地点を異にする。

検出された遺構は、住居跡11軒と土坑があり、また、近年型式設定された北島式土器(埼玉考古学会シンポジウム「北島式土器とその時代—弥生時代の新展開—」2003)を出土させる周辺遺跡には、西長岡東山古墳群や元屋敷遺跡が知られるが、集落は検出されていない。現状の中では、当地域での該期の集落の存在は、本遺跡での検出が初例であり、その重要性は高い。

なお、本遺跡の南東に近接する西長岡宿遺跡でも、壺等の該期土器が旧河道跡から出土している。

第2章 第2分冊—飛鳥・平安時代以降編—の概要

第2分冊では、7世紀後半の集落および製鉄関連遺構群、平安時代の集落、中世以降の掘立建物群・溝・井戸の各遺構・遺物を扱い、飛鳥・平安時代以降編として刊行した。以下、各時代毎の概要を記す。

飛鳥時代（7世紀後半）

遺構は、西野原遺跡（5）（7）に跨る両調査区の南側に集中して検出された。主な遺構としては、集落を構成する住居跡や竪穴状遺構、製鉄関連遺構として製鉄炉（箱形炉）をはじめとする竪穴状遺構、土坑、粘土探掘坑、排滓場、砂鉄溜まり等といった一連の遺構群、鍛冶工房跡、そして掘立柱建物跡が検出されている。出土遺物には、土器は基より、製鉄（製錬）に関わる膨大な量の炉壁や鉄滓類、鍛冶に関わる羽口や鍛冶滓、さらに金床石や砥石、敲き石、台石等といった様々な種類の遺物がある。ちなみに、出土した製鉄関連遺物は、全体で約33tにおよぶ。

7世紀後半の集落は、その大半が西野原（5）の調査区である台地上の製鉄炉群（1～4号製鉄炉）西側に集中し、僅かに東側の低地となる西野原（7）一2区に点在する。7世紀3/4期～7世紀末の土器を伴う住居跡であり、8世紀に下る住居跡は検出されていない。竪穴状遺構についても同様である。

製鉄関連遺構には、先ず4基の製鉄炉（箱形炉）が検出された。この内の1・2号製鉄炉は炉長の短いタイプの箱形炉、3・4号製鉄炉は炉長の長いタイプの箱形炉で、重複関係から炉長の短いタイプの方が新しく、長いタイプの方が古い状況が明らかとなっている。炉長の短いタイプの1・2号製鉄炉の共通点として、炉体の長さが0.85m前後であること、両側に排滓坑をもつ鉄アレイ形であること、排滓坑内に石組みをもつことが上げられる。ただし、1号製鉄炉には下部構造は認められないが、2号製鉄炉では炉底下に溝状の堀方をもつという点が異なる。

炉長の長いタイプである3・4号製鉄炉は、共に下部構造をもち、下部構造内に炭化材を埋設するという点が共通し、炉の方向が同一方向であることも共通している。

排滓場は、台地から低地部への東斜面に大きく4つのブロックに分かれて、膨大な量の鉄滓類が出土した。排滓場上面には、周辺遺跡の状況から8世紀以前（7世紀後半？）と考えられる洪水砂層が堆積していることも確認されている。

排滓場下には、大型の土坑や多くの不定型土坑が、排滓がおよんでない部分にも、竪穴状遺構や多くの不定型土坑が検出されており、その状況は斜面の下半部に並ぶように集中して不定型土坑が検出された。なお、この不定型土坑は、分析の結果から炉壁や炉床土に用いられた粘土探掘坑であることも明らかとなった。

さらに、砂鉄を大量に出土させた土坑も検出されている。土坑の形状は、長さ3.4m、幅2.3mの楕円ないし卵状を呈し、北西方向に長軸をもつ。土坑の北西側長軸先端には、さらに北側に延びる溝が取り付く。砂鉄は、土坑中央部で厚さ15cm程に溜まった砂鉄が一面に検出され、その量は磁着した砂鉄で約800kgを量る。

こうした排滓場および粘土探掘坑といった東斜面からの出土土器も7世紀後半の土器であり、重複する遺構の新旧から、3時期の時間的経過が明らかとなっている。

鍛冶遺構には、カマドを有し住居機能を併せもつ住居兼鍛冶工房と、カマドをもたない鍛冶専用工房の2種類が存在し、カマドをもたない鍛冶専用工房には掘り込みをもたないタイプも存在する。特異な形状を呈する遺構には、長辺がかなり長い建物、曲屋的な平面形をもつ住居跡がある。これら鍛冶遺構の出土遺物は、土器はもとより、羽口、椀形鍛冶滓、鍛冶滓、鍛造剥片・粒状滓等といった鍛冶関連遺物

や僅かな製品類の一部が出土しており、その僅かな製品類の中に鉄族の柄が目につく。また、石製の道具として、金床石や台石、敲打した敲石、敲打痕によって凹み状となる凹石、砥面をもつ砥石等、鍛冶遺構に伴って多く出土している。ちなみに、出土土器は7世紀後半の土器である。

一方、膨大な量の製鉄関連遺物の中でも、一部の炉底塊について特筆できる点がある。それは、短いタイプの製鉄炉（炉壁の内面形は1辺40～45cm程の隅丸方形を呈し、通風孔は両側縁に3箇所づつ、排滓孔は両側に付いて両方向への排滓）の炉底そのままの形状を示す炉底塊である。炉底に生成した生成物（炉底塊）を、操業後に無視されるような操業が数回行われていることも明らかとなっている。この炉底塊には、僅かな小鉄塊がある他に目立った生成鉄は無く、滓が主体である。炉底塊の底面には炉床土が付着し、上面の周縁部には溶解した炉壁起源の粘土質溶解物が厚く溶着している。下層には滓質が密な炉内滓が薄く水平にあるが、炉壁の縁辺には炉壁が溶解した粘土質溶解物が付着し、中央が凹んだ形状となっており、炉底に薄く堆積した滓の上に周縁の炉壁の溶解物が堆積したものと理解できる。こうした「短いタイプの箱形炉の炉底そのままの形状の炉底塊」は、鉄鉄が流し出された後の炉底の姿であると解釈できる可能性が高く、「短いタイプの箱形炉」で鉄鉄生産が行われていた可能性をもつ。

他方、自然科学分析では、鍛冶工房からの精錬鍛冶滓の確認と共に、製錬生成鉄の不純物除去が行われていたことが明らかとされ、生成鉄は製錬滓との分離が不十分な軟鉄～鋼の割合が高かったのではないかとする考察がなされた。同時に、下げ脱炭の可能性を示す組織をもつ鉄塊系遺物、ねずみ鋳鉄粒が付着する梘形鍛冶滓、亜共晶組成白鋳鉄組織を局所に残す棒状半製品といった鋳鉄の存在から、製鉄炉での鋳鉄の生成および鍛冶工房での脱炭行程の作業が行われていた可能性もあると指摘されている。

平安時代

平安時代の集落を構成する遺構には、55軒の住居跡および土器集中箇があり、そのほとんどが（7）-2区とした低地帯の微高地部に検出された。僅かに、土坑が（5）に点在する。出土した土器から、9世紀代の集落であることが明らかとなった。

検出された住居跡の中には、鍛冶遺構を伴う住居も存在し、やや離れた地点ではあるが鍛冶炉も1基検出されている。

他に、（7）-2区の北東隅付近からは、遺存状況は悪いものの、As-B軽石下の水田跡が検出されている。このAs-B軽石下の水田跡は、本遺跡の南東に位置する西長岡宿遺跡の調査においても検出されており、同様に北関東自動車道建設に伴う調査で菅塩遺跡群、成塚遺跡、大鷲遺跡、上強戸遺跡群と、東に延びる低地帯一帯で検出されている。

中世以降

遺構には、掘立柱建物跡、柵列、井戸、土坑、溝等がある。掘立柱建物跡は、西野原（5）で3棟、（7）-1区で24棟、（7）-2区で9棟の計36棟が検出されており、数カ所に群在する。いずれも、台地上ないし微高地に立地する。中でも、（7）-1区では24棟中18棟が北部に集中し、重複が著しい。また、柱穴埋土にAs-B軽石を混在させ、中世以降の遺構であることは明らかであるが、近世の建物も含まれている可能性は高い。

井戸は、計9基が検出されている。

溝は、（5）で62条、（7）-1区で30条、（7）-2区で78条が検出されているが、中世から近代にかかるとのものである可能性が高い。

なお、平成の市町合併以前における旧太田市と旧藪塚本町との市町境（現況は道路）の下には溝があり、西野原遺跡（5）での18・19・20号溝と西野原遺跡（7）-1区での4号溝が同一溝で、それに当たる。この溝は、近世においては水路として、その後道路として変遷し、現在に至ったようである。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

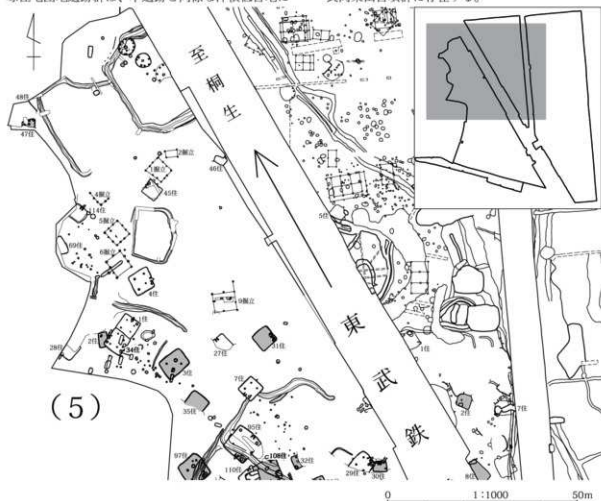
第1節 古墳時代前半の概要

本遺跡での古墳時代の遺構は、本遺跡の中でも主体を占める数量であるが、その中でも本項で扱う古墳時代前半は、4・5世紀に位置づけられる遺構である。

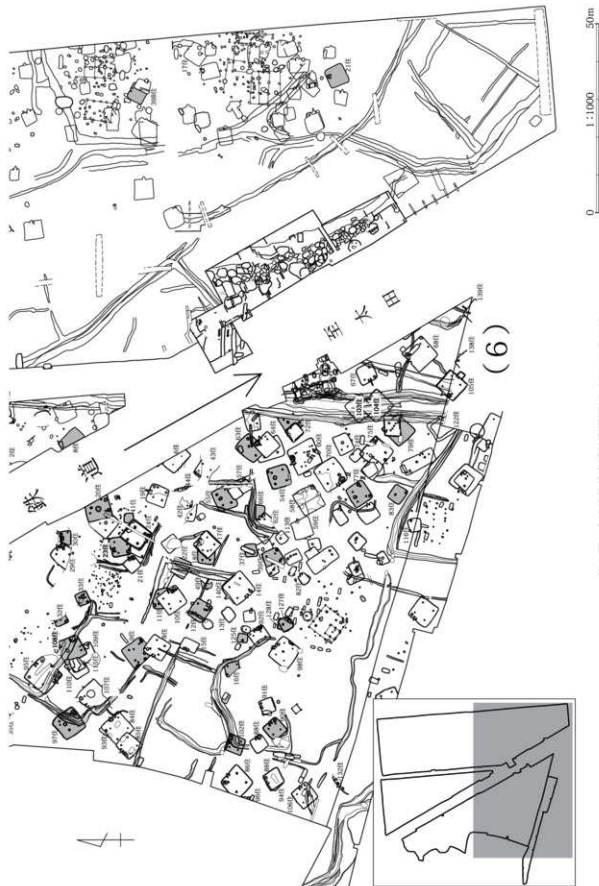
本遺跡周辺での古墳時代前半期の集落が確認されている遺跡としては、愛宕山遺跡、中原遺跡、成塚住宅団地遺跡群、成塚向山古墳群、大鷲遺跡群、脇屋深町遺跡、成塚石橋遺跡、鳥山下遺跡等の各遺跡が知られているが、本遺跡に最も近いのは成塚住宅団地遺跡群と成塚向山古墳群の集落である。この成塚住宅団地遺跡群は、本遺跡と同様な沖積低台地に

立地している。一方の成塚向山古墳群は、丘陵上に立地し、それぞれの遺跡内から出土する土器の様相をも異なる傾向にある。前者は東海系土器のスタイルを受容・在地化させたといわれる「石田川式」といった外来系土器の器種構成を主体とし、後者は樽式系や古ヶ谷式系土器を一定量伴う。ちなみに、本遺跡からの出土土器からは、外来系土器の器種構成を主体としている点で前者に属すると言える。

墳墓では、古墳に成塚向山古墳群での1号墳が、方形周溝墓・円形周溝墓は成塚住宅団地遺跡群と西長岡東山古墳群に存在する。



第1図 古墳時代前半遺構配置図(1) (S = 1/1000)



第2図 古墳時代前半遺跡配置図(2) (S = 1/1000)

第2節 検出された遺構と遺物

検出された古墳時代前半の遺構には、住居跡が40軒検出されており、この内、西野原（5）で36軒、（7）-1区で2軒、（7）-2区で2軒検出されている。（5）と（7）-1区は台地上に、（7）-2区は低地帯の微高地上に立地する。古墳時代後期以降の遺構との重複や古墳築造等にかかわり、全体的に遺構の残存状況は悪い。また、該期に属する土坑については判然としなない。さらには、方形周溝墓といった墳墓についても検出されていない。

以下、各遺構ごとに記載する。

1. 住居跡

（5）2号住居跡（第3図、PL.2）

位置(座標)：X軸=38.379~383、Y軸=-45.353~355。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺3.90m、短辺2.33m、壁高14cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の北西部にあり、住居の南東隅は34号住居（古墳時代後期）と重複し、本住居の方が古い。また、住居北側では209・210号土坑と重複するが、新旧は不明である。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南東15mに3号住居がある。

全体に残存状態は悪く、壁高は低い。床面はほぼ平坦で、中央部付近が硬化している。炉や柱穴等の施設は検出されていない。

出土遺物には土器の小片が僅かに出土しているのみで、図示できなかった。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、古墳時代前半と思われる。

（5）3号住居跡

（第4・38図、表1、PL.2・3・122）

位置(座標)：X軸=38.370~379、Y軸=-45.331~339。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺7.06m、短辺5.56m、壁高51cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の北西部にあり、同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西15mに2号住居が、南21mに97号住居がある。

残存状況は良好で、埋土は白色軽石を含む黒色土をベースとし、レンズ状に堆積しているが、上層に7世紀の土器片が含まれる。床面はほぼ平坦で、中央部付近が広く硬化している。炉は長軸方向の中央よりやや北寄りに検出され、規模は径82×81cmのほぼ円形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態にあるが、底面は焼土化していない。炉の南東端に径10cm、長さ26cmの細長い垂角礫が残存する。炉内からは、土師器の壺が潰れた状態で出土している。ピットは4本検出されたが、主柱穴は3本を確認することができ、もう1本は確認できなかった。

遺物の出土状況は、炉内および北側の壁寄りに偏り、床面直上の出土が多い状態であった。遺物には、混入と思われる7世紀の土師器の坏等を含むが、埴、甕、S字状口縁台付甕、壺、他に鉢形の手捏ね土器が出土している。

埋土上層に7世紀の土器が混入しているが、出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

（5）9号住居跡

（第5・39・40図、表2、PL.5・124）

位置(座標)：X軸=38.325~333、Y軸=-45.307~316。

形状：方形？。

規模：長辺1m、短辺5.98m、壁高24cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居の南隅は8号住居（古墳時代後期）と重複し、本住居の方が古い。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南東8mに11号住居が、北9mに108号住居がある。



第3図 (5) 2号住居跡平面図

残存状況は非常に悪く、住居の北西側半分は削平を受けているため、壁高は低く、プランは不明瞭である。僅かに残る埋土は暗褐色土の単一層で、検出された床面は一部である。炉は住居の中央よりやや南側で検出され、規模は径65×56cmのほぼ円形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態で、底面には焼土が確認されている。なお、炉の南西端に径15cm、長さ18cmの礫が残存する。ピットは9本検出したが、支柱穴は判然としない。ピットの規模は径26～65cm、深さ6cm～26cmを測る。

遺物の出土状況は、住居の東隅に床面直上で集中した状態であった。遺物には、刷毛目や磨きの施された高環、埴、甕、小型甕、S字状口縁台付甕、壺が出土している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 11号住居跡

(第6・41図、表3、PL.6・124)

位置(座標)：X軸=38.321～325、Y軸=-45.294～300。

形状：方形？。

規模：長辺5.07m、短辺4.70m、壁高16cm。

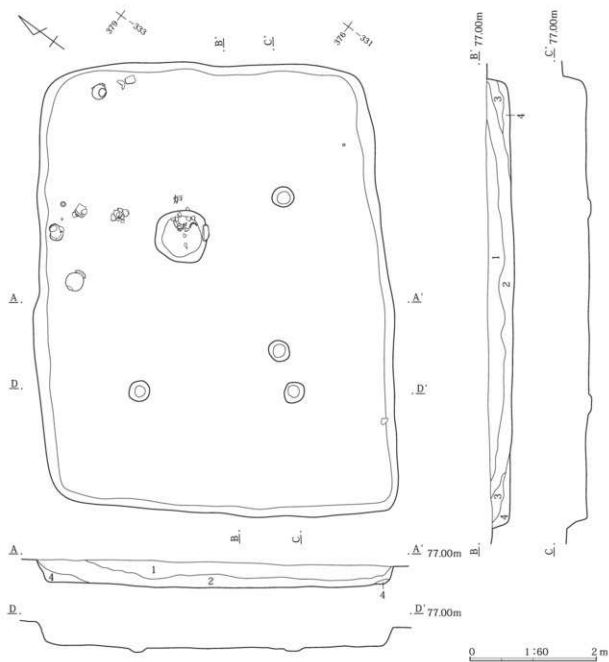
長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居の中央から南側は10号住居(古墳時代後期)と重複し、本住居の方が古い。また、北側は11号溝に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南東4mに22号住居が、南5mに12号住居が、北西8mに9号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くない。形状は南側が広がるようにやや歪み、壁高は低い。埋土は明茶褐色土の単一土層である。床面はほぼ平坦である。住居中央から南側を10号住居に壊されているため、炉は検出されていない。貯蔵穴は住居北西隅に位置し、規模は径89×73cm、深さ10cmを測る。支柱穴は2本検出され、規模は径28～45cm、深さ20～28cmを測る。もう2本の支柱穴は、住居南側にあったものと想定される。

出土遺物にはS字状口縁臺の破片が僅かに出土しているのみで、図示した形象埴輪片は混入と思われ

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

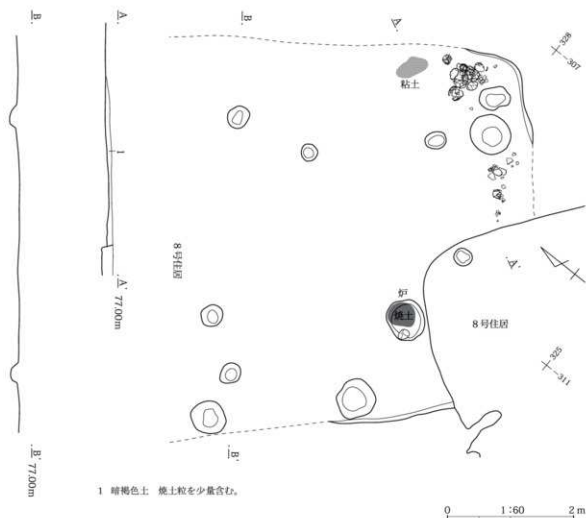


- 1 暗褐色土 砂質。7Cの土器片が含まれる。
- 2 黒色土 白色軽石・焼土粒・炭化物を含む。やや砂質。
- 3 暗茶褐色土 砂質ロームを含む。4層に照するが暗色。
- 4 明茶褐色土 砂質ローム主体。

第4図 (5) 3号住居跡平面図

る。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、古墳時代前半と思われる。



第5図 (5) 9号住居跡平面図

(5) 12号住居跡

(第7・42図、表4、PL.6・125)

位置(座標): X軸=38.309~315, Y軸=-45.297
~303。

形状: 隅丸長方形。

規模: 長辺5.41m、短辺4.81m、壁高13cm。

長軸方向: 北西。

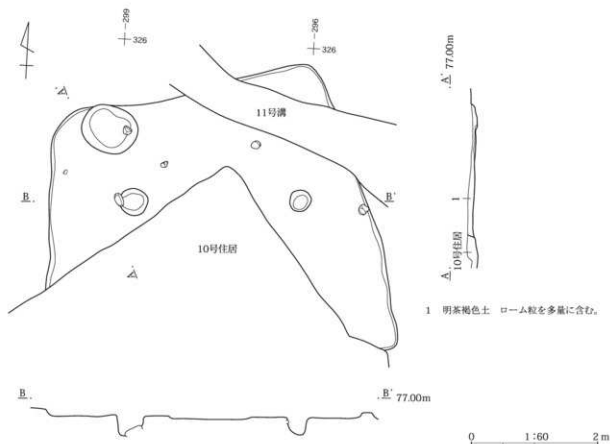
本住居跡は調査区の中央部にあり、住居の南東壁を9・10号土抗に、北西側を72号溝に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の東3mに49号住居が、北5mに11号住居が、北東6.5mに22号住居がある。

残存状況は極めて悪く、壁高も低い。特に、南東壁はほとんど残っていない。床面はほぼ平坦で、中

央部付近が硬化している。住居の長軸方向の中央やや北寄りに焼土が確認されており、この焼土部分も焼土と思われる。また、東壁中央やや南寄りの床面にも焼土が検出されている。貯蔵穴は住居南隅に位置し、規模は径79×70cm、深さ21cmを測り、埋土中に粘土が確認されている。ピットは5本検出されたが、主柱穴はこの内の3本で、もう1本は確認できなかった。規模は径30~46cm、深さ15~24cmを測る。

遺物の出土状況は、炉内と貯蔵穴内に1個体ずつ潰れた状態にあり、炉内からは甕が、貯蔵穴内からはS字状口縁台付き甕がそれぞれ出土している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。



第6図 (5) 11号住居跡平面図

(5) 16号住居跡 (第8・43図、表5、PL.7・8)

位置(座標)：X軸=38.302~306、Y軸=-45.313
~318。

形状：隅丸方形。

規模：長辺4.68m、短辺4.00m、壁高27cm。

長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区の南西部にあり、住居の東側を29号溝に、南西側を3号墳周堀に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南東4.5mに125号住居が、北東11.5mに12号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くない。床面はほぼ平坦で、住居中央部の床面直上から炭化材が出土している。灰や貯蔵穴は検出されていない。柱穴は3本検出され、規模は径23~30cm、深さ3~17cmを測るが、主柱穴であるかは判然としない。

遺物の出土状況は、住居の中央部付近から器台の体部、椀、壺の小片が出土し、他に高坏、甕等が出

土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

なお、床面直上からの炭化材の出土から、焼失住居の可能性を持つ。

(5) 18号住居跡

(第9・44図、表6、PL.9・126)

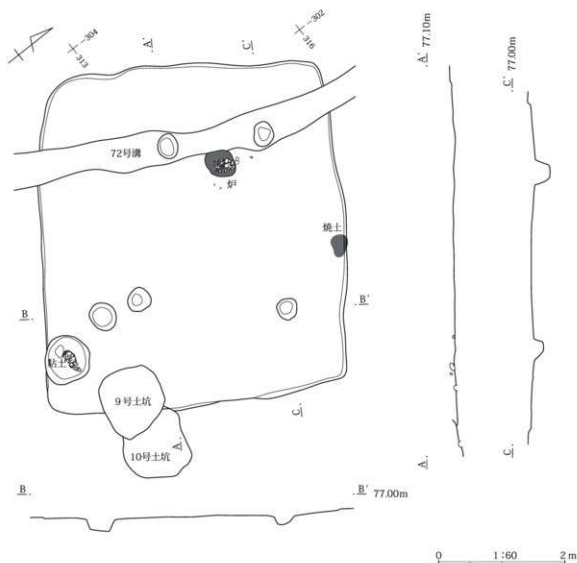
位置(座標)：X軸=38.308~313、Y軸=-45.284
~288。

形状：方形。

規模：長辺4.57m、短辺1m、壁高18cm。

長軸方向：北。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居中央から東は17号住居(古墳時代後期)と重複し、本住居の方が古い。同じ古墳時代前半の住居は、本住居のすぐ北側に22号住居が、西4mに49号住居が、南8mに37号住居がある。埋土は暗褐色土をベースとする。



第7図 (5) 12号住居跡平面図

他の住居跡との重複により、残存状況は良くない。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。炉や貯蔵穴は検出できなかった。主柱穴は4本検出され、規模は径26~36cm、深さ15~24cmを測る。掘方もち、深さは5cmほどである。

出土遺物には、内外面に磨きを持つ土師器の腕がある。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 20号住居跡 (第10・45・46図、表7、PL.9・10・126・127)

位置(座標)：X軸=38.335~342、Y軸=-45.269

~277。

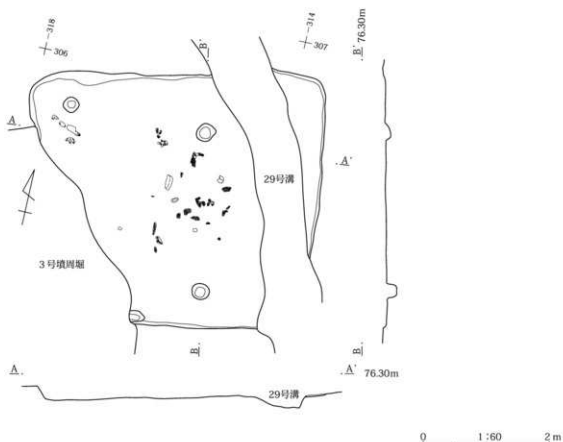
形状：不明。

規模：長辺6.70m、短辺?m、壁高30cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の東部端にあり、住居の東側が調査区外となる。本遺構は26号住居(弥生時代)を壊しており、住居の中央と南側は252~254号土坑に壊されている。住居南西隅は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南3mに41号住居が、南西5mに23号住居がある。

住居の残存状況は良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、炉は検出できなかった。



第8図 (5) 16号住居跡平面図

たが245号土坑の位置にあったものと推測される。貯蔵穴も検出されていない。4本検出されたビットのうち、3本が支柱穴と考えられる。規模は径29～63cm、深さ11～15cmを測る。

遺物の出土状態は、住居の中央北寄りと南西寄りの2箇所から、比較的残存率の高い状態で床面直上から出土している。出土遺物は多く、土篩器の高坏、埴、甕、小型甕、壺がある。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 22号住居跡 (第11図、PL.10)

位置(座標)：X軸=38.314～320、Y軸=-45.286～292。

形状：不明。

規模：長辺4.80m、短辺?m、壁高16cm。

長軸方向：西北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居の大部分

を12・13号溝に壊されている。また、住居の北側と西側は掘乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居のすぐ南側に18号住居が、南西4mに49号住居が、北西4mに11号住居がある。

掘乱や溝との重複により、住居の残存状況は極めて悪い。床面は平坦となる。埴や貯蔵穴は検出されていない。

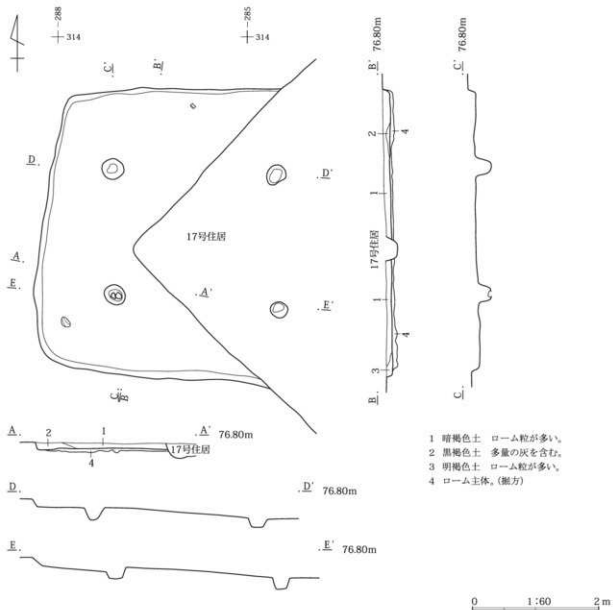
遺物は、住居の北側で土器片が僅かに出土しているが、図示できなかった。

出土遺物が極めて少なく、時期の特定は難しいが、古墳時代前半と思われる。

(5) 23号住居跡 (第12・47・48図、表8、PL.10・11・127・128)

位置(座標)：X軸=38.330～336、Y軸=-45.280～286。

形状：隅丸方形。



第9図 (5) 18号住居跡平面図

規模：長辺5.26m、短辺5.15m、高52cm。

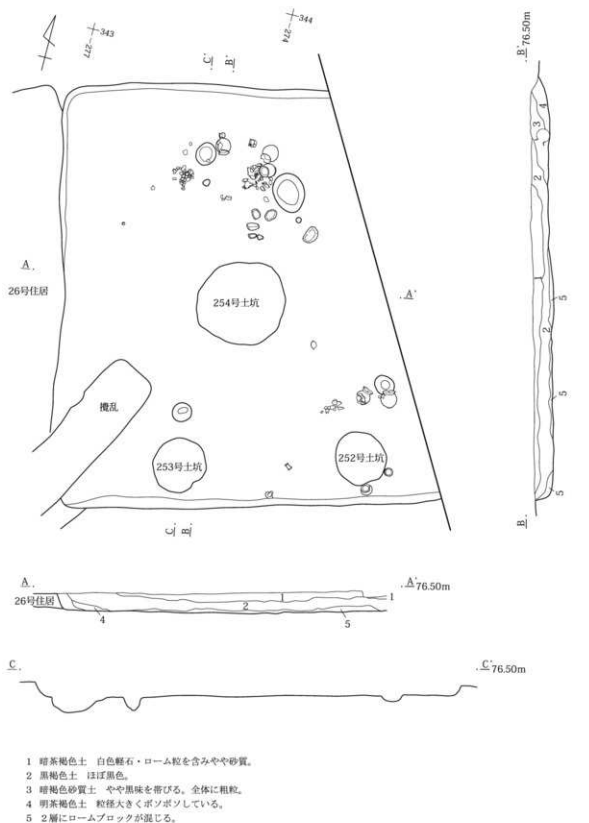
主軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、25号住居（弥生時代）を壊しており、住居の南東隅を24号住居（古墳時代後期）に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の東4mに41号住居が、北東5mに20号住居がある。

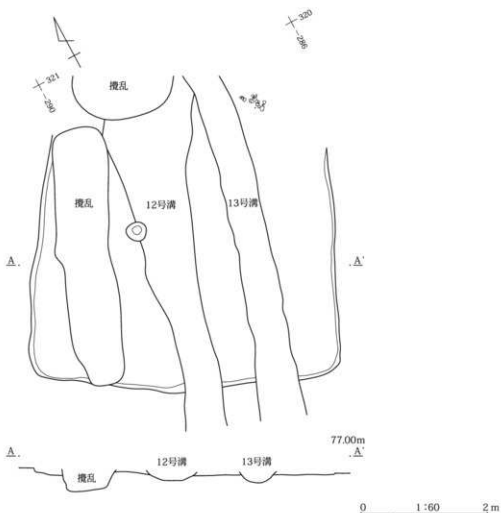
住居の残存状況は良好で、埋土は黒色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前付近の硬化が著しい。カマドは北壁中央からやや西寄りに位置す

る。暗灰褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に位置し、煙道も壁外に突出することはない。貯蔵穴は住居南西隅に位置し、径113×85cm、深さ32cmを測る。3本検出されたピットのうち、北側の2本が主柱穴になると想定され、規模は径23～36cm、深さ13～18cmを測る。残る主柱穴は検出されていない。

遺物の出土状態は、カマド内の燃焼部から第47図1の高坏が支脚として逆位で出土し、支脚上部に9の壺が正位に、さらに9の壺の口縁上に7の甎が横



第10図 (5) 20号住居跡平面図



第11図 (5) 22号住居跡平面図

向きに出土している。カマドの右袖脇には8の長胴となる甕が完形で出土し、カマド前付近では3の高坏が床直で、東壁近くでも4の埴が床面直上から完形で出土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 30号住居跡

(第13・49図、表9、PL.13・14・129)

位置(座標): X軸=38.346~349、Y軸=-45.279~283。

形状: 不等辺四角形。

規模: 長辺3.70m、短辺3.05m、壁高11cm。

主軸方向: 北。

本住居跡は調査区中央部よりやや北東側にあり、

住居西壁の一部は29号住居(古墳時代後期)に、カマドと住居北壁は8号溝に壊されている。また、カマド煙道部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南東5mに20号住居がある。

住居形状は、主軸方向に対し横長となるが歪んでいる。壁高は低く、埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁のほぼ中央に位置するが、北壁に対しカマドの軸が歪む。明灰色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に位置し、煙道も壁外に突出することはない。貯蔵穴はカマド右側に位置し、径52×43cm、深さ20cmを測る。ピットは1本検出され、規模は径26×25cm、深さ16cmを測る。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

遺物の出土状態は、カマド内の燃焼部から第49図1の高環の体部が逆位で出土し、他に甕の胴部片が出土している。また、炭化米が僅かに出土している。1の高環体部も先の23号住居カマドと同様に、カマドの支脚の可能性が高い。カマド周辺からも高環や甕片が出土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 31号住居跡 (第14・50・51図、表10、PL.14・129・130)

位置(座標)：X軸=38.378~385、Y軸=-45.308~315。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.06m、短辺4.98m、壁高40cm。

主軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや北側にあり、住居北西壁は1号墳周堀に若干壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の西18mに3号住居がある。

住居の残存状況は良好で、埋土は白色軽石を含んだ黒色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央からやや東寄りに位置する。黄褐色粘質土で基部を構築した両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に位置し、煙道も壁外に突出することはない。貯蔵穴はカマド右側に位置し、径78×75cm、深さ22cmを測る。柱穴は検出されていない。掘方をもち、深さは10cmほどである。

遺物の出土状態は、カマド内の燃焼部底面から第50図4の高環が支脚として逆位で出土し、カマド周囲から1・3の高環および7の小型甕が出土している。カマド前付近からは8・9の甕が床直で、北隅から6の甕が出土している。また、貯蔵穴内からは2の高環と5の埴がほぼ完形で出土している。遺物の残存率はかなり高い。さらに、住居中央よりやや北側の床面上に大型の礫がまとまって出土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 32号住居跡 (第15図、PL.15)

位置(座標)：X軸=38.347~351、Y軸=-45.301~304。

形状：不明。

規模：長辺3.49m、短辺?m、壁高10cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居の東側を4号墳周堀に、北側は193号土抗に壊されている。壁高は低く、南壁はほとんど残っていない。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の西3.5mに108号住居が、南東4.5mに33号住居がある。

住居の残存状況はかなり悪い。埋土は白色軽石を含んだ暗褐色砂質土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉は住居の中央で検出されている。規模は長軸65cm、短軸48cmの楕円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態で、底面に焼土が確認されている。貯蔵穴は住居南隅に位置し、規模は長軸100cm、短軸67cm、深さ11cmを測る。柱穴は検出されていない。

出土遺物は極めて少なく、刷毛目をもつ土師器片が僅かに出土しているのみで、図示することはできなかった。

時期の特定は難しいが、古墳時代前半と思われる。

(5) 33号住居跡

(第15・52図、表11、PL.15・130)

位置(座標)：X軸=38.341~345、Y軸=-45.295~299。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.50m、短辺3.40m、壁高33cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居北壁から中央にかけて擾乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西4.5mに32号住居が、西8mに108号住居がある。

住居の残存状況は比較的に良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉は住居の長軸上からずれた中央よりやや東側で検出さ

れ、規模は径112×90cmの不整形円形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態である。炉の西端には径7cm、長さ17cmの細長い亜角礫が残存する。貯蔵穴は住居南隅に位置し、規模は径51×45cm、深さ16cmを測る。ピットは4本検出され、規模は径15×32cm、深さ1～5cmと非常に浅く、柱穴かどうかは判断としない。

遺物の出土状態は、住居北壁際の床面直上から体部に刷毛目をもつ椀が出土している。また、床面直上には炭化材が多く検出されていることから、焼失住居の可能性をもつ。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 35号住居跡

(第16・53・54図、表12、PL.16・130)

位置(座標)：X軸=38.362～368、Y軸=-45.326～332。

形状：方形？。

規模：長辺5.46m、短辺1m、壁高29cm。

長軸方向：南西か。

本住居跡は調査区の北西部にあり、住居の南西側は12号墳の周堀に床面下まで壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西6mに3号住居が、南11mに97号住居がある。

住居の残存状況は、他の遺構との重複はあるものの比較的に良好で、埋土は暗茶褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉や柱穴等の施設は検出されていない。

遺物の出土状態は、全体的に小片が多く広く散在して出土しているが、埋土の上位から第54図12の須恵器の高坏や18の大甕、16の土師器の甕や17の小型甕といった時期の新しい土器がある。埋土下位ないし床面直上からは、第53図4の内外面に磨きをもつ高坏や6・7のS字状口縁台付甕、10・11の磨きをもつ甕が出土している。他に、1の手捏ね土器や刷毛目をもつ椀等は、埋土中からの出土である。

6世紀の土器は混入と思われ、床直の出土土器から、本住居跡の時期は4世紀と考えられる。

(5) 37号住居跡

(第17・55図、表13、PL.16・130)

位置(座標)：X軸=38.297～300、Y軸=-45.282～286。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.38m、短辺3.21m、壁高17cm。

長軸方向：東。

本住居跡は調査区の南東部にあり、61号住居(弥生時代)と重複し、本住居の方が新しい。同じ古墳時代前半の住居は、本住居のすぐ南側に39号住居が、東6.5mに66号住居が、北8mに18号住居がある。住居北壁から中央にかけて222号土坑に壊されている。

住居の残存状況はあまり良好ではなく、壁高は低く、埋土は明茶褐色土の単一土層である。床面はほぼ平坦である。炉や柱穴等の施設は検出されていない。

出土遺物は少ないものの、床面直上で土師器の甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 39号住居跡

(第17・56図、表14、PL.16・17・130・131)

位置(座標)：X軸=38.289～296、Y軸=-45.283～289。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.07m、短辺5.00m、壁高24cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の南東部にあり、61号住居(弥生時代)と重複し、本住居の方が新しい。また、住居西側は38号住居(飛鳥時代)と、南側は243号土坑と重複し、本住居の方が古い。同じ古墳時代前半の住居は、本住居のすぐ北側に37号住居が、北東8mに66号住居が、西14mに127・128号住居がある。

住居中央から西側にかけて攪乱によって床面下まで壊されており、残存状況はあまり良くない。埋土は明褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、中央部付近の硬化が著しい。炉は検出されていない。貯蔵穴は住居の南東隅に位置し、円形で、規模は6×

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

61cm、深さ19cmを測る。ピットは3本検出されたが、2本が主柱穴と想定され、規模は径22～33cm、深さ10～29cmを測る。残る2本については検出されていない。

遺物の出土状態は、貯蔵穴内から第56図2の埴と5のS字状口縁台付甕が出土し、貯蔵穴の周囲から1・3・6の器台・埴・S字状口縁台付甕が床面直上で出土している。さらに、北隅の床面直上からも4のS字状口縁台付甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 41号住居跡

(第16・57図、表15、PL.17・131)

位置(座標)：X軸=38.330～332、Y軸=-45.274～277。

形状：隅丸方形。

規模：長辺2.63m、短辺2.52m、壁高15cm。

長軸方向：西。

本住居跡は調査区中央部よりやや東側にあり、住居の南西隅を24号住居(古墳時代後期)に、北東隅を225・226号土抗に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北東3mに20号住居が、西4mに23号住居がある。

住居の残存状況は比較的的良好で、埋土は白色軽石を少量含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、中央部付近が硬化する。炉や柱穴等の施設は検出されていない。

遺物の出土状態は、出土した4個体の壺全てが床面直上からで、北西隅に第58図1が、南西寄りに2・4が、中央東寄りに3が出土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 44号住居跡(第18図、PL.17)

位置(座標)：X軸=38.315～319、Y軸=-45.267～268。

形状：方形？。

規模：長辺1m、短辺1m、壁高13cm。

長軸方向：北。

本住居跡は調査区中央部より東側にある。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南6mに55号住居がある。

本住居は5号墳周廻と224号土抗に壊され、残存状況は極めて悪く、検出されたのは東壁付近の一部のみである。また、壁高も低い。炉や貯蔵穴も検出できていないが、2本のピットのみを検出している。

出土遺物は極少量で、S字状口縁台付甕の胴部片が出土していることから、本住居跡は古墳時代前半と思われる。

(5) 47号住居跡(第18図、PL.18)

位置(座標)：X軸=38.437～439、Y軸=-45.372～375。

形状：方形？。

規模：長辺3.40m、短辺1m、壁高23cm。

長軸方向：北か。

本住居跡は調査区の北西部端にあり、住居の南側が調査区外となる。住居上面は10号墳に、住居北壁の一部が攪乱によって壊されている。壁高は低く、埋土は不明である。同じ古墳時代前半の住居は、周辺では検出されていない。

住居の残存状況はあまり良くなく、壁高も低い。床面はほぼ平坦である。炉や貯蔵穴は検出されていない。4本のピットを検出している。

出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、古墳時代前半の住居跡と思われる。

(5) 49号住居跡(第18図、PL.18)

位置(座標)：X軸=38.309～312、Y軸=-45.292～294。

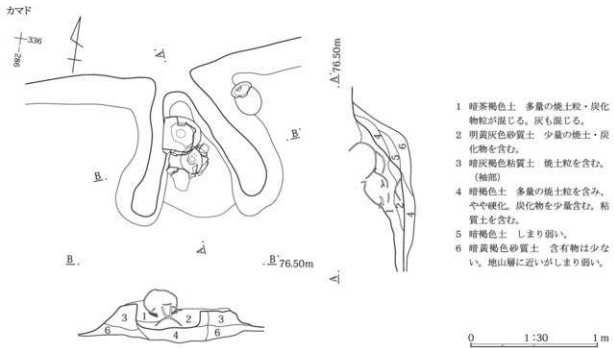
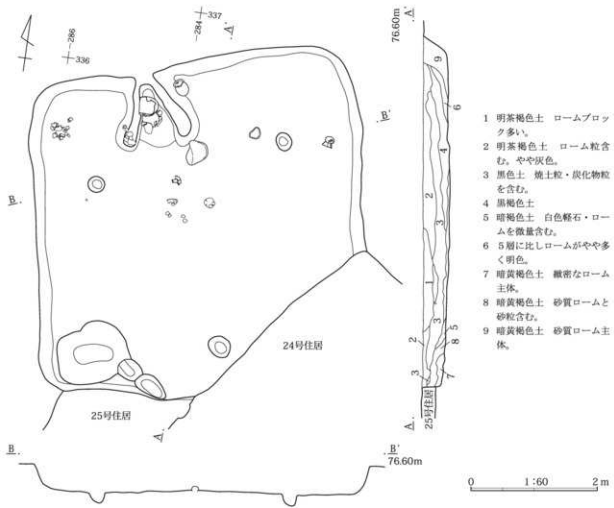
形状：不明。

規模：長辺1m、短辺1m、壁高0cm。

長軸方向：不明。

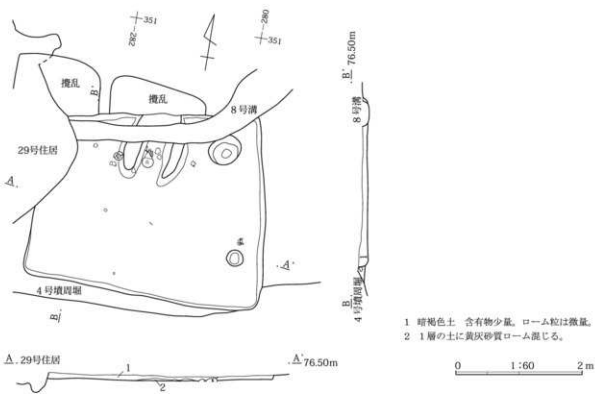
本住居跡は調査区の中央部にあり、15号溝に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の西3mに12号住居が、東4mに18号住居が、北東4mに22号住居がある。

第2節 検出された遺構と遺物

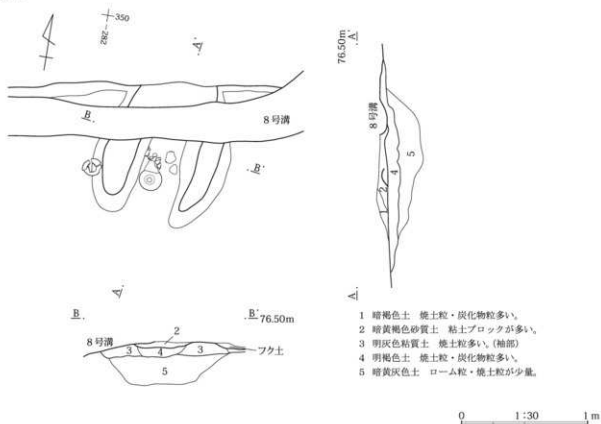


第12図 (5) 23号住居跡・カマド平面図

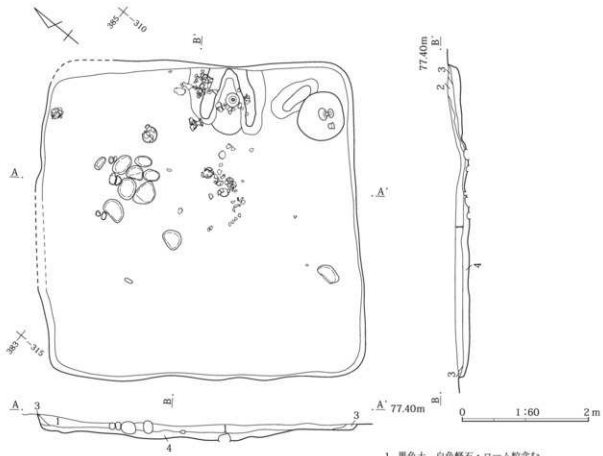
第3章 古墳時代前半の遺構と遺物



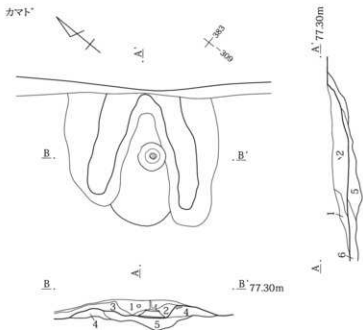
カマド



第13図 (5) 30号住居跡・カマド平面図



- 1 黒色土 白色軽石・ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 粘質土小ブロック混じる。
- 3 明茶褐色土 ローム粒含む。
- 4 黒色土 白色軽石・含有物少量、礫(φ~5cm)混じる。(掘方埋土)

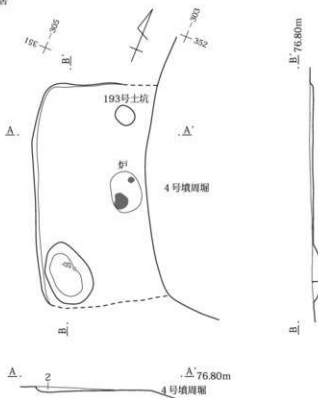


- 1 黒褐色土 白色軽石・焼土粒を少量。
- 2 黒褐色土 多量の焼土・炭化物・粘質土小ブロック含む。
- 3 1層に比し、焼土粒・粘質土多い。
- 4 黄褐色粘質土 焼土粒含む。(軸基部)
- 5 明褐色土 焼土粒・炭化物粒多い。
- 6 黒色土 炭化物・焼土粒を少量。

第14図 (5) 31号住居跡・カマド平面図

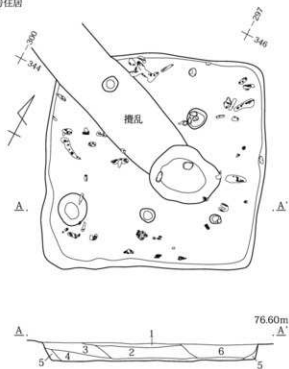
第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

32号住居



- 1 黒褐色砂質土 白色軽石を少量含む。
- 2 暗褐色砂質土 白色軽石・炭化物粒を少量含む。

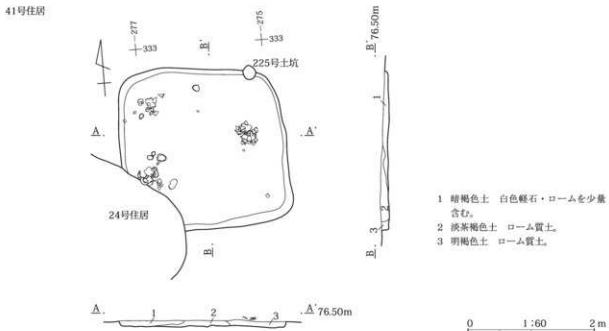
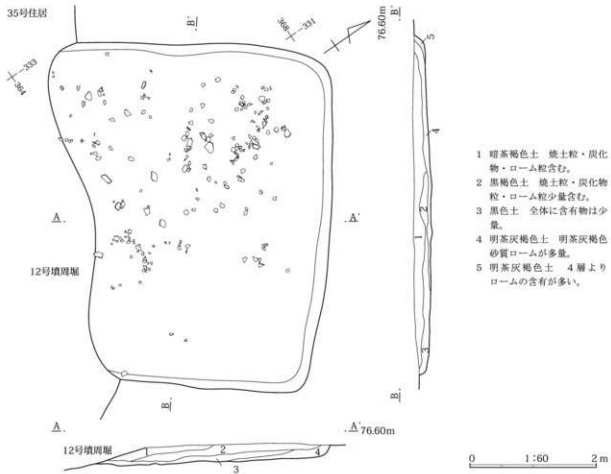
33号住居



- 1 黒色土 炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 1層に比しやや明色。
- 3 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 3層に類するがやや黒味がかり、しまり劣る。
- 5 明褐色土 ローム粒を多量に含む。
- 6 暗褐色土 3層に類するがより明色。

第15図 (5) 32・33号住居跡平面図

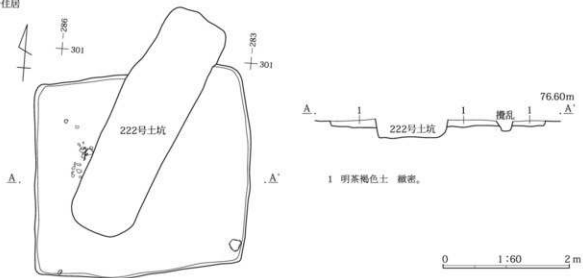
第2節 検出された遺構と遺物



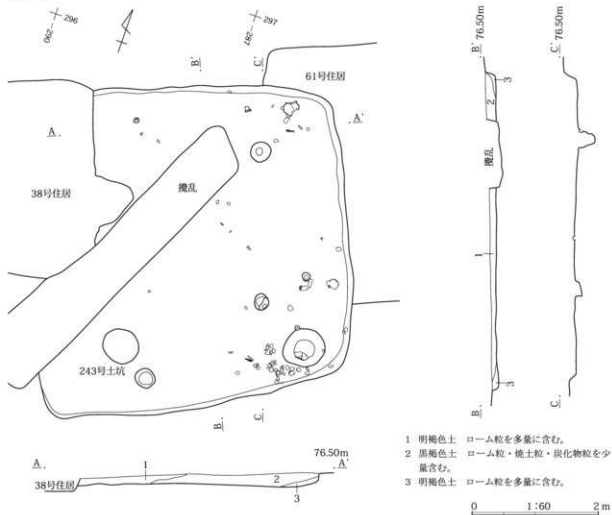
第16図 (5) 35・41号住居跡平面図

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

37号住居

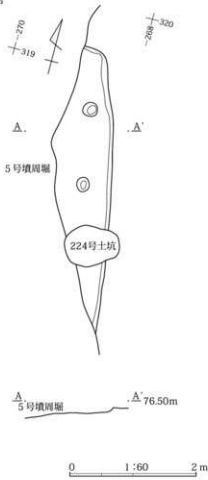


39号住居

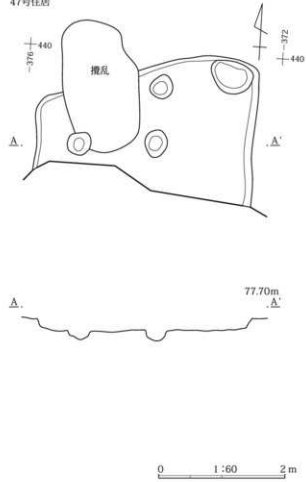


第17図 (5) 37・39号住居跡平面図

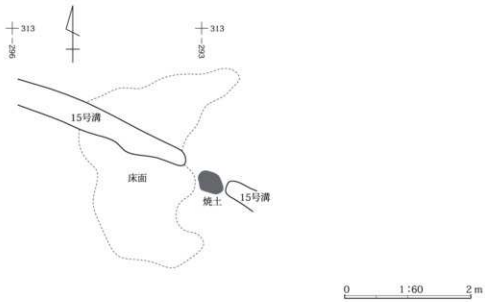
44号住居



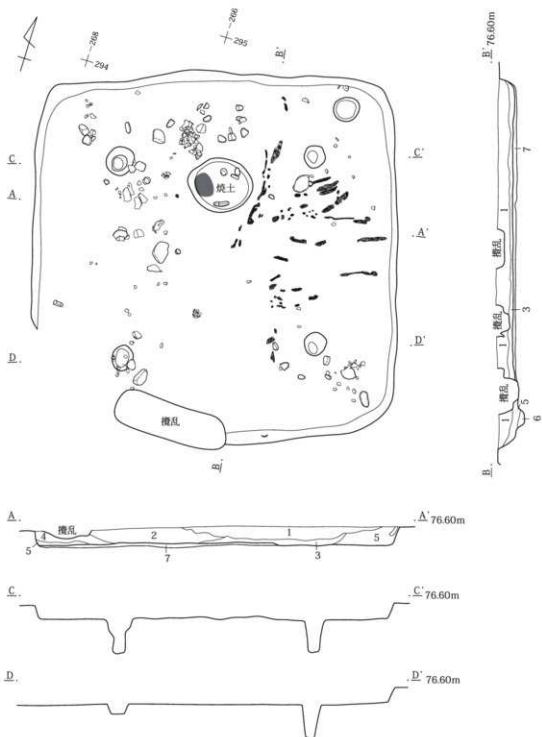
47号住居



49号住居



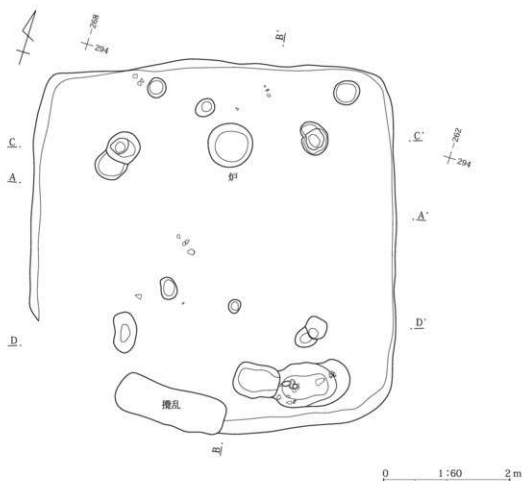
第18図 (5) 44・47・49号住居跡平面図



- 1 暗褐色土 白色軽石を多量に含む。焼土粒・炭化物粒・ローム粒を含む。
- 2 黒灰褐色土 白色軽石を多量に含む。焼土粒・炭化物粒・ローム粒を含む。
- 3 黒灰褐色土 白色軽石を多量に含む。炭化材・炭化物を多量に含む。
- 4 2層に比しロームブロックが多く含まれる。
- 5 暗褐色土 ローム粒・炭化物粒・白色軽石を少量含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロックが混じる。
- 7 粘床 ロームブロックと暗褐色土の混土。硬くしまる。

0 1:60 2m

第19図 (5) 54号住居跡平面図



第20図 (5) 54号住居跡掘方平面図

住居の残存状態は非常に悪く、床面の一部と炉と思われる焼土を検出したのみで、住居のプランも確定できていない。

出土遺物もなく、時期の特定は難しいが、古墳時代前半の住居跡と思われる。

(5) 54号住居跡 (第19・20・58・59図、表16、PL. 19・131・132)

位置(座標): X軸=38.288~294、Y軸=-45.261~268。

形状: 隅丸方形。

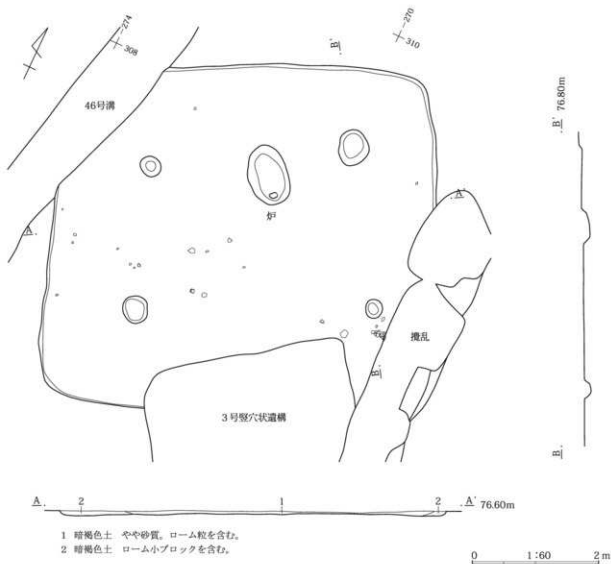
規模: 長辺5.85m、短辺5.80m、壁高30cm。

長軸方向: 北北西。

本住居跡は調査区の南東部にあり、住居南壁の一部は攪乱によって壊されているため、プランの一部

が不明瞭。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北東4mに63号住居が、北西5mに66号住居が、東9mに72号住居がある。

住居の残存状況は比較的に良好で、埋土は白色軽石を多く含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、厚さ3~6cmほどのロームブロックを主体とした貼り床が確認され、炉の周囲から中央にかけて硬化が著しい。炉は住居中央よりやや北側で検出され、規模は104×85cmの不整形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態で、底面には焼土が確認されている。炉の南端には径7cm、長さ25cmの細長い亜角礫が残存しており、その対角線上の炉の北側には径10cm、長さ11cmの礫がある。主柱穴は4本検出され、規模は径33~47cm、深さ30~58cmを測る。また、北東隅に土抗が検出されている。さらに、掘



第21図 (5) 55号住居跡平面図

方調査で、南東隅付近に楕円状を呈する貯蔵穴が検出されている。

遺物は住居全体から比較的多く出土し、そのほとんどが埋土中からで、床面直上のは少ない。炉の北側からは第59図9・12のS字状口縁台付甕が、炉の西側からは5の器台や7の小型甕、10のS字状口縁台付甕、15の壺が出土している。南東隅付近では2の碗と14の壺の胴下半が、1・3の碗が貯蔵穴内から出土している。また、床面直上には住居の中心を向く多くの炭化材が出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 55号住居跡 (第21図、PL.19)

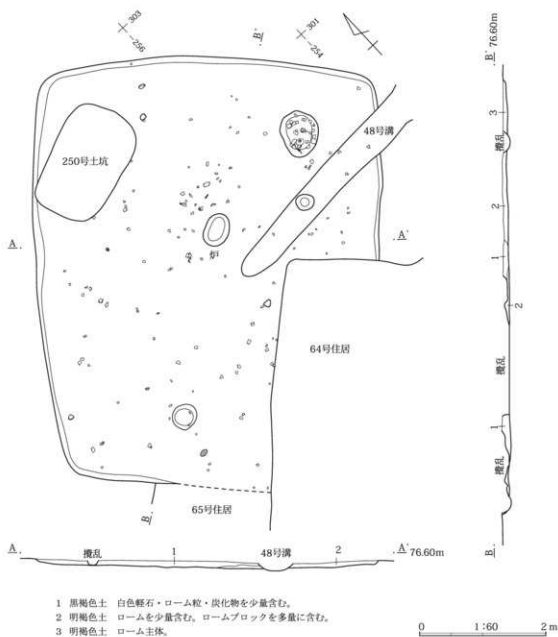
位置(座標)：X軸=38.302~309、Y軸=-45.267~274。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺6.03m、短辺5.42m、壁高13cm。

長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区の南東部にあり、住居の南東側は3号竪穴状遺構(飛鳥時代)と重複し、本住居の方が古い。住居西隅は46号溝に壊されており、住居東側は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代前



第22図 (5) 63号住居跡平面図

半の住居は、本住居の南西2mに66号住居が、南東9mに63号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くない。壁高は低く、埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。住居中央よりやや北側で炉が検出されている。規模は96×64cmの楕円形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態である。炉の南東端には径8cm、長さ13cmの竈が残存している。貯蔵穴は検出されていない。支柱穴は4本検出され、規

模は径28～58cm、深さ8～14cmを測る。

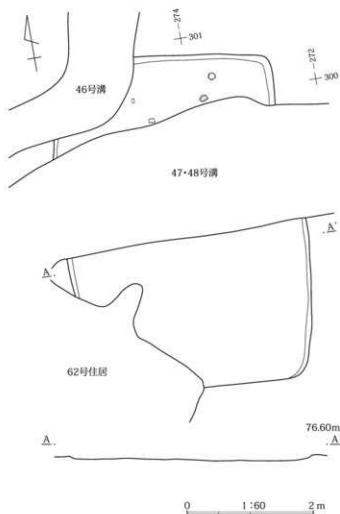
出土遺物は少なく、S字状口縁台付甕の口縁部片や刷毛目をもつ胴部片が主で、図示することはできなかった。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 63号住居跡

(第22・60図、表17、PL.21・22・132)

位置(座標): X軸=38.296~303、Y軸=-45.253



第23図 (5) 66号住居跡平面図

～261。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺6.78m、短辺5.42m、壁高23cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、65号住居（弥生時代）と重複し、本住居の方が新しい。また、住居の南側は64号住居（古墳時代後期）と、北隅は250号土坑と、住居中央から東隅にかけては48号溝と重複し、本住居の方が古い。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南西4mに54号住居が、南東7.5mに72号住居が、北西9.5mに55号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くなく、壁高は低い。埋土は白色軽石を少量含んだ黒褐色土をベースとす

る。床面はほぼ平坦である。炉は住居の長軸方向の中央よりやや北側で検出され、規模は53×38cmの楕円形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態である。東隅付近には土坑が検出されており、土坑内からの遺物の出土から貯蔵穴と考えられる。ピットは2本検出されている。

出土した遺物は小片が多く、第60図に図示した土器は貯蔵穴内から出土した小型壺と3のS字状口縁台付壺である。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 66号住居跡（第23図、PL.23）

位置（座標）：X軸=38.295～300、Y軸=-45.272～276。

形状：長方形。

規模：長辺5.25m、短辺3.83m、壁高22cm。

長軸方向：北。

本住居跡は調査区の南東部にあり、住居の南西隅は62号住居（古墳時代後期）と重複し、本住居の方が古い。また、住居の北側は46～48号溝に壊されている。同じ古墳

時代前半の住居は、本住居の北東2mに55号住居が、南東5mに54号住居がある。

住居の残存状態が非常に悪いので、壁高は低い。床面は平坦である。炉や柱穴等の施設は検出されていない。

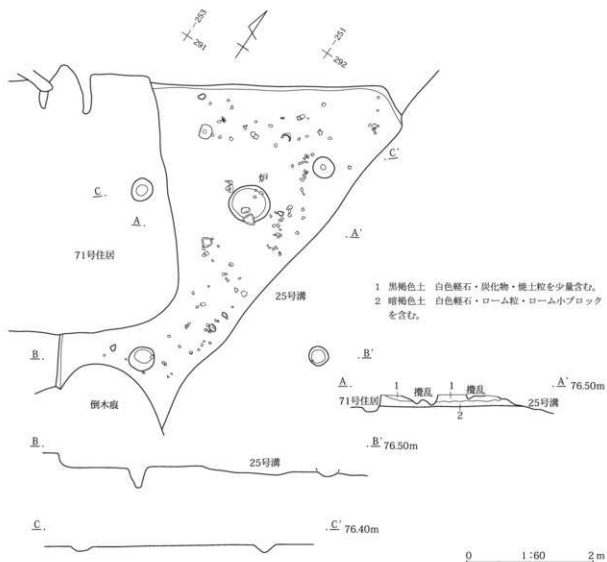
出土遺物は小片が多く、S字状口縁台付壺片や内面に磨きをもつ口縁部片、甕片等が出土しているが、図示できなかった。

出土土器から、本住居跡は古墳時代前半と思われる。

(5) 72号住居跡

（第24・61図、表18、PL.15・16・134）

位置（座標）：X軸=38.285～292、Y軸=-45.249



第24図 (5) 72号住居跡平面図

～253。

形状：方形？。

規模：長辺1m、短辺1m、壁高27cm。

長軸方向：北北西。

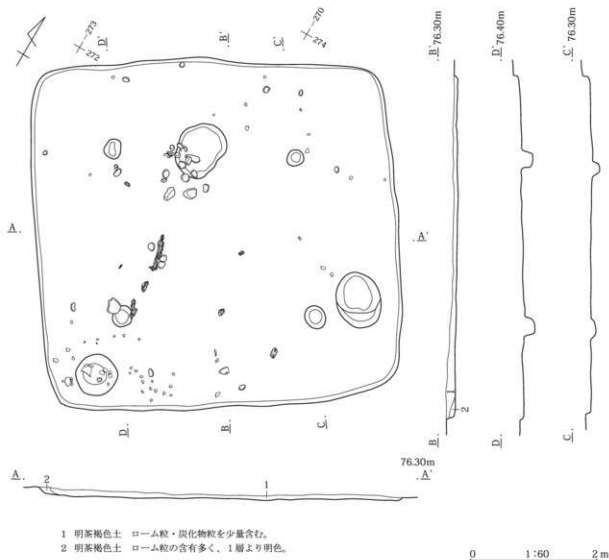
本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、住居の西側は71号住居（古墳時代後期）と重複し、本住居の方が古い。また、東側は25号溝に、南側は風倒木によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西8mに63号住居が、西9mに54号住居がある。

重複する遺構により、住居の残存状況はあまり良くない。埋土上面は攪乱を大きく受けているが、白

色軽石を含んだ黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉は住居中央よりやや北側で検出され、規模は径65×58cmの円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態である。炉の南端には径8cm、長さ14cmの細長い垂角礫が残存する。貯蔵穴は検出されていない。主柱穴は4本検出され、規模は径30～40cm、深さ6～34cmを測る。

出土遺物は炉の周囲に多く出土しているが、ほとんどが埋土中からの出土である。図示したように、2の磨きをもつ埴、3の刷毛目とヘラ削りをもつS字状口縁台付甕等が出土している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。



第25図 (5) 77号住居跡平面図

(5) 77号住居跡

(第25・62図、表19、PL.27・134)

位置(座標)：X軸=38.266~274、Y軸=-45.266
~273。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.73m、短辺5.58m、壁高24cm。

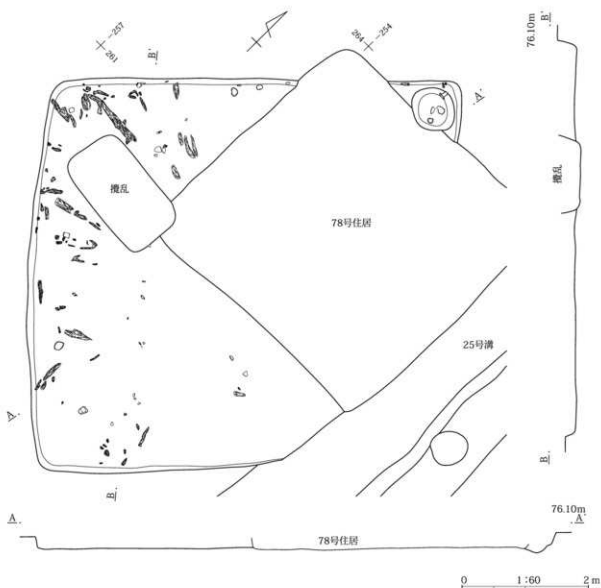
長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区の南部にある。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南4mに83号住居が、北14mに54号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くない。壁高は低く、埋土は明茶褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦

で、中央部は硬化が著しい。炉は住居中央よりやや北側で検出されている。規模は径89×70cmの楕円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態である。炉の南端には径10cm、長さ25cmの細長い亜角礫が残存する。貯蔵穴は南隅に位置し、平面形状は円形を呈し、規模は径66cm、深さ31cmを測る。また、東隅付近にも貯蔵穴様の土坑が検出され、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸89cm、短軸70cm、深さ16cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径25~36cm、深さ8~19cmを測る。

遺物出土はあまり多くはない。南隅の貯蔵穴内から、第62図2の埴と3のS字状口縁台付壺が1点出



第26図 (5) 79号住居跡平面図

土している。さらに、床面直上には炭化材が少量ではあるが出土している。なお、床面近くには大型礫が廃棄されていた。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 79号住居跡

(第26・63図、表20、PL.27・134)

位置(座標)：X軸=38.255~264、Y軸=-45.248~257。

形状：隅丸方形。

規模：長辺6.54m、短辺6.15m、壁高29cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の南東部にあり、住居の北東側半分は78号住居(飛鳥時代)と重複し、本住居の方が古い。また、住居東隅は25号溝に、住居西側の一部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の西10mに83号住居がある。

重複する遺構等により、住居の残存状況は良くない。壁高も低い。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。炉は検出されていない。貯蔵穴と思われる土坑が北隅で検出されている。柱穴は検出されていない。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

出土遺物は少なく、貯蔵穴と思われる土坑内から高環の脚部と壺の底部が出土している。また、床面直上には、住居の中心に向かうように炭化材が多く出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。

出土土器から、本住居跡は古墳時代前半と考えられる。

(5) 83号住居跡 (第27・64図、表21、PL.28)

位置(座標)：X軸=38.257~263、Y軸=-45.267~272。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺4.48m、短辺3.95m、壁高19cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の南部にある。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北4mに77号住居が、東10mに79号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くない。壁高は低く、埋土は暗褐色土の単一土層である。床面はほぼ平坦である。炉は住居中央よりやや北側で検出されている。規模は径45×37cmの不整形円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態である。さらに、住居の中央南寄りにも、床面が焼土化した部分が発出されている。貯蔵穴は住居南隅に位置し、楕円形を呈し、規模は径48×40cm、深さ20cmを測る。柱穴は検出されていない。

出土遺物は多くはない。北壁際と西隅の床面直上からS字状口縁台付壺の口縁部片や脚部が発出している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 90号住居跡 (第28・65~67図、表22、PL.31・32・136・137)

位置(座標)：X軸=38.289~296、Y軸=-45.328~334。

形状：方形。

規模：長辺4.92m、短辺4.84m、壁高39cm。

主軸方向：北東。

本住居跡は調査区の南西部にあり、住居西隅は覆

乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北6mに102号住居がある。

住居の残存状況は良好で、埋土は白色軽石を含んだ黒褐色土をベースとし、レンズ状の堆積を観察できる。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁の中央に位置する。両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に位置し、煙道は壁外に僅かに突出する。右袖口には人頭大の円礫が残存するが、カマドの袖石とは異なる。貯蔵穴はカマド右側に位置し、円形で、規模は径80cm、深さ34cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径20~27cm、深さ2~11cmと比較的浅い。

遺物の出土状態は、カマドとその周囲、および貯蔵穴内に集中する。カマド内では、3の高環が燃焼部底面に横位で、その上に10の壺が発出しており、3の高環は支脚の可能性が高い。カマドの右袖脇からは、8の台付壺が正位にほぼ完形で出土。左袖脇から北西隅にかけての壁際からは、4の埴、9の壺、6の小型台付壺、14の外面に磨きと内面に刷毛目をもつ椀、16の長胴となる甕等が発出している。貯蔵穴内からは7の台付壺が完形で出土し、貯蔵穴周辺からは1・2の高環および11の壺の胴下半が発出している。これら出土土器は、比較的残存率の高い状態である。さらに、床面直上には炭化材が多く出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 97号住居跡

(第29・68図、表23、PL.34・137・138)

位置(座標)：X軸=38.342~351、Y軸=-45.326~334。

形状：隅丸方形。

規模：長辺6.83m、短辺6.78m、壁高61cm。

主軸方向：北西。

本住居跡は調査区の西部にあり、住居の東側は2号墳、23号溝と重複し、本住居の方が古い。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の東10mに108号住居がある。

住居の残存状況は良好で、埋土は白色軽石を少量含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉は住居中央よりやや北側で検出され、規模は径90cmを測る円形を呈し、焼土や遺物は検出されなかったが、中央部が周囲よりやや窪んでいる。貯蔵穴は南東壁際の中央から東寄りに位置する。平面形状は不整形円形を呈し、規模は径80cm、深さ58cmを測り、底面近くには礫が入る。主柱穴は4本検出されたが、1本はやや歪んだ位置にある。規模は径28～48cm、深さ10～20cmを測る。

出土遺物はあまり多くはない。東隅付近の床面直上からは第68図2の磨きをもつ椀、4の器台脚部が出土している。住居中央付近の床面直上からは、3の器台、9の壺の胴部下半が出土している。他に埴やS字状口縁台付甕等が出土している。

出土土器から、本住居跡は4世紀と考えられる。

(5) 102号住居跡 (第30・69・70図、表24、PL.35・36・139)

位置(座標)：X軸=38.300～306、Y軸=-45.332～338。

形状：方形。

規模：長辺4.66m、短辺4.52m、壁高43cm。

主軸方向：北北東。

本住居跡は調査区の南西部にあり、住居の東壁と南壁の一部を3号墳と28・29号溝に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南6mに90号住居が、東16mに16号住居がある。

住居の残存状況は比較的に良好で、埋土は黒色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁中央からやや東寄りに位置する。暗褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に位置し、煙道は壁外に僅かに出張る。燃焼部中央底面には、やや太めな棒状礫が支脚として残存する。貯蔵穴はカマド右側の住居北東隅に位置し、径67×65m、深さ29cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径21～29cm、深さ5～10cmといずれも浅い。

遺物の出土状態は、カマド内から第69図の1・2の高環の体部が出土している。カマド左袖脇からは、床面直上に3・4の埴と5の甕が出土。北隅の床面直上には、6・7の甕がほぼ完形で、さらに8の壺が出土。貯蔵穴となる東隅からは、口縁部を欠く9の甕が出土している。これらの土器の残存率は、比較的良い。また、床面直上には炭化材が広く出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、床面近くには大型礫が廃棄されていた。

本住居のあり方は、先の90号住居跡の状況に近似している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(5) 108号住居跡

(第31・71図、表25、PL.38・140)

位置(座標)：X軸=38.343～350、Y軸=-45.306～314。

形状：隅丸方形。

規模：長辺6.66m、短辺6.48m、壁高42cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居の南隅は109号住居(古墳時代後期)に、住居の西側は110・115号住居(古墳時代後期)に、住居北壁から南東隅にかけて37号溝に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の東3.5mに32号住居が、南9mに9号住居が、西10mに97号住居がある。

住居の残存状況はあまり良くない。住居形状は隅丸方形であるが、北隅付近が歪む。埋土は白色軽石を含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。炉は住居中央よりやや北側で検出されている。規模は径108×70cmの楕円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態で、底面には焼土が確認されている。貯蔵穴は東隅付近に位置し、規模は径148cm、深さ5cmを測り、円形を呈する。なお、この貯蔵穴の周囲には、弧状に土手の上盛り上がりをもつ。主柱穴は4本検出され、規模は径21～36cm、深さ12～25cmを測る。

出土遺物はあまり多くない。住居中央南寄りの床

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

面直上からは、第71図2の小型甕と5の甕の胴部下半が出土し、埋土中からS字状口縁台付甕片が出土している。貯蔵穴上部からは礫と共に3・4の甕が出土している。なお、1の環は古墳時代後期の土器であり、混入と思われる。

出土土器から、本住居跡は古墳時代前半と考えられる。

(5) 125号住居跡

(第27・72図、表26、PL.39・141)

位置(座標)：X軸=38.299~302、Y軸=-45.306~309。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺2.67m、短辺2.42m、壁高18cm。

長軸方向：北。

本住居跡は調査区の南西部にある。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西4.5mに16号住居が、南東8mに127・128号住居がある。

住居の残存状況もあまり良くないが、やや歪み気味の形状を呈する。壁高は低い。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。炉は住居中央より西側で検出されている。規模は長軸55cm、短軸42cmの楕円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態で、底面には焼土が確認されている。貯蔵穴および柱穴は、検出されていない。

出土遺物は極僅か、南壁際の床面直上に第72図1の埴の口縁部が出土し、埋土中から小片が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代前半と考えられる。

(5) 127号住居跡(第32・73図、表27、PL.39)

位置(座標)：X軸=38.287~292、Y軸=-45.302~306。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.50m、短辺3.20m、壁高68cm。

長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、4

世紀の128号住居と重複し、本住居の方が新しい。また、住居南東部は441号土抗に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西9mに125号住居が、東13.5mに39号住居がある。

住居の残存状況は良好で、埋土は白色軽石を含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。炉は住居中央からやや北側で検出されている。規模は径50cm前後の円形を呈し、中央部は周囲よりやや窪んだ状態である。炉の南端には径8cm、長さ14cmの直角礫が残存する。ピットは1本検出したが柱穴とは考え難い。

出土遺物は、埋土中より小型甕、甕、壺片が出土している。また、床面直上には炭化材が多く出土していることから、焼失住居の可能性をもつ。

出土土器から、本住居跡は古墳時代前半と考えられる。

(5) 128号住居跡(第32図、PL.39)

位置(座標)：X軸=38.288~292、Y軸=-45.302~305。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.22m、短辺2.95m、壁高44cm。

長軸方向：北北東。

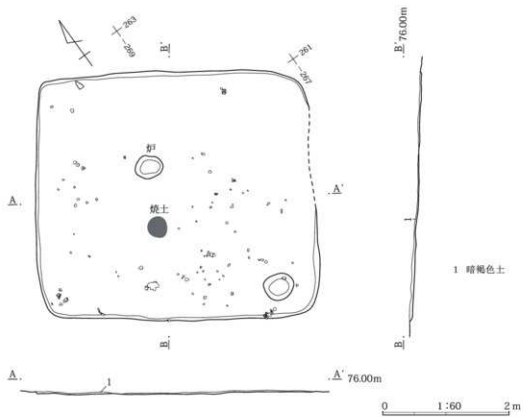
本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、住居のほとんどを127号住居に床面下まで壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北西8mに125号住居が、東14mに39号住居がある。

住居の残存状況は極めて悪い。僅かに残る埋土は、白色軽石を少量含んだ明褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉や柱穴等の施設は検出されていない。

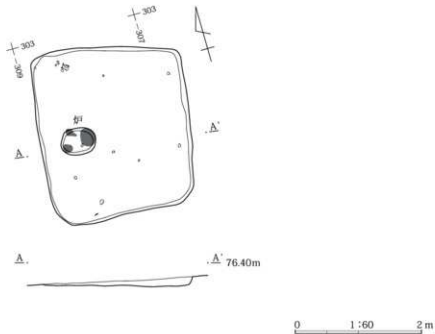
出土遺物には、土器の小片が僅かに出土しているのみで、図示できなかった。

出土遺物が極めて少なく、時期の特定は難しいが、重複する127号住居跡との新旧関係から古墳時代前期後半と思われる。

83号住居

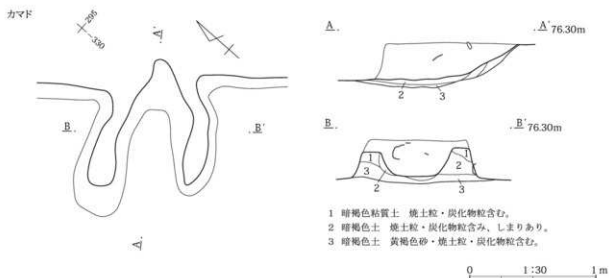
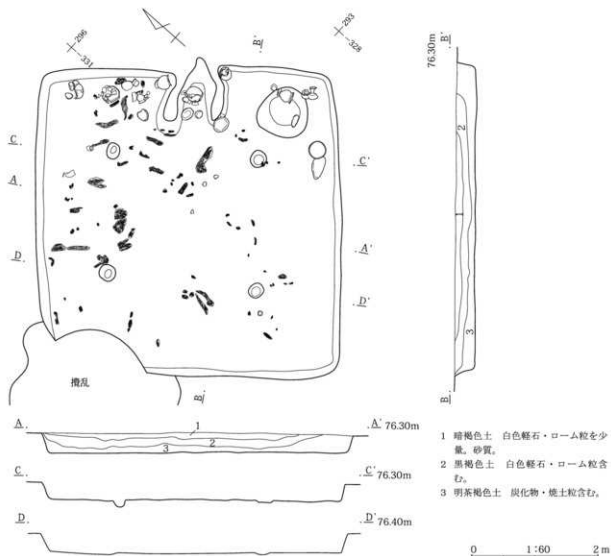


125号住居

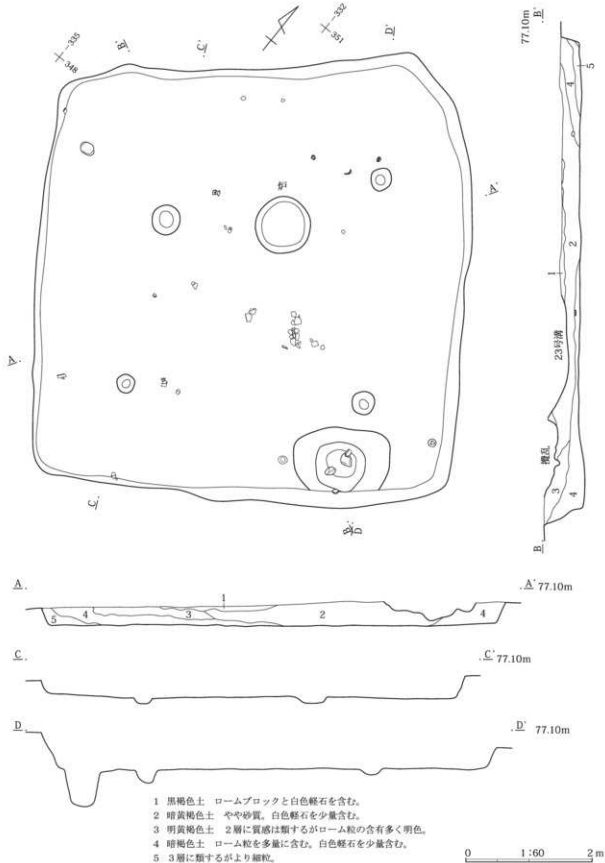


第27図 (5) 83・125号住居跡平面図

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

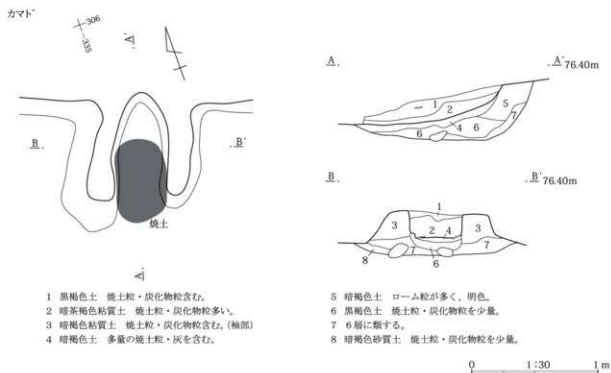
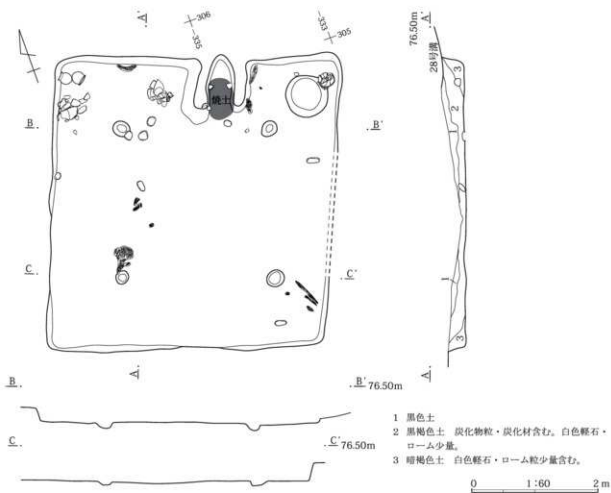


第28図 (5) 90号住居跡・カマド平面図

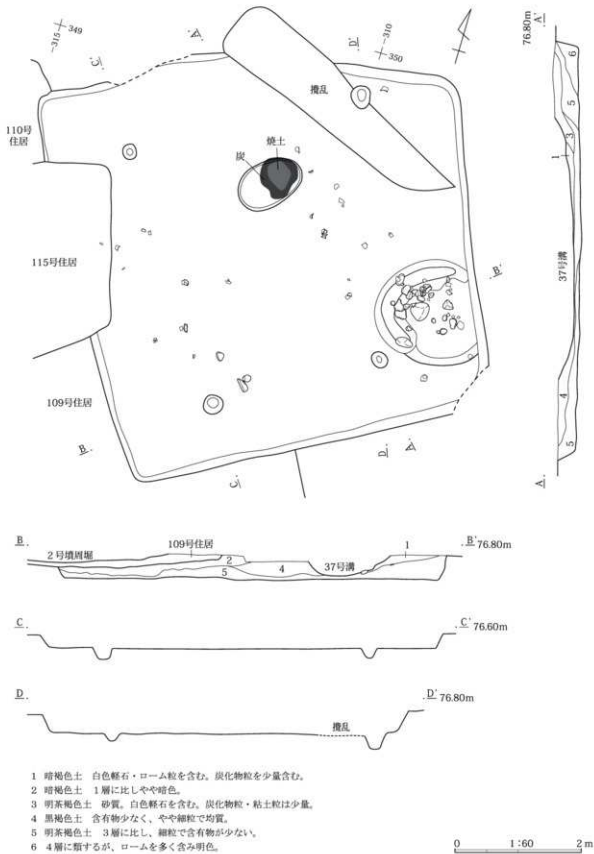


第29図 (5) 97号住居跡平面図

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物



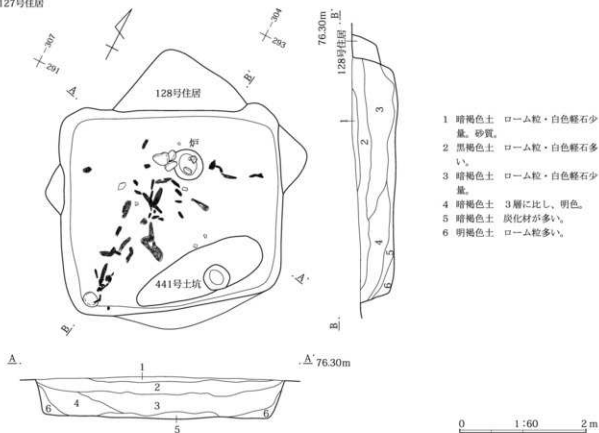
第30図 (5) 102号住居跡・カマド平面図



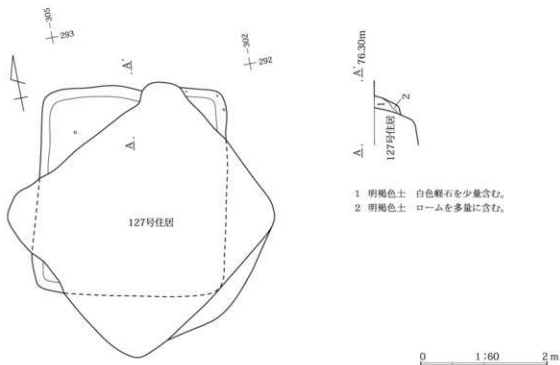
第31図 (5) 108号住居跡平面図

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

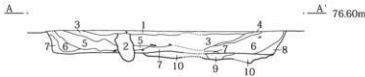
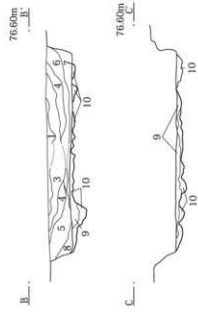
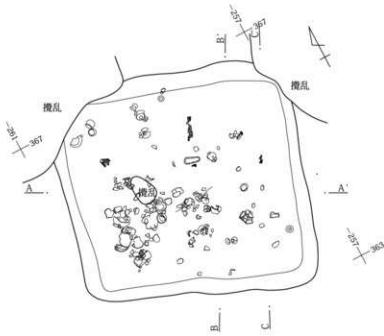
127号住居



128号住居

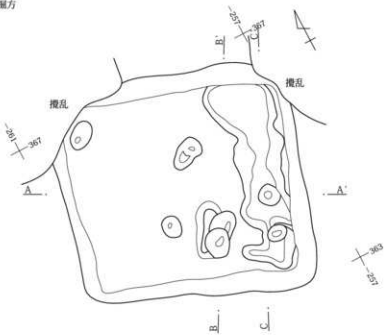


第32図 (5) 127・128号住居跡平面図



0 1:60 2 m

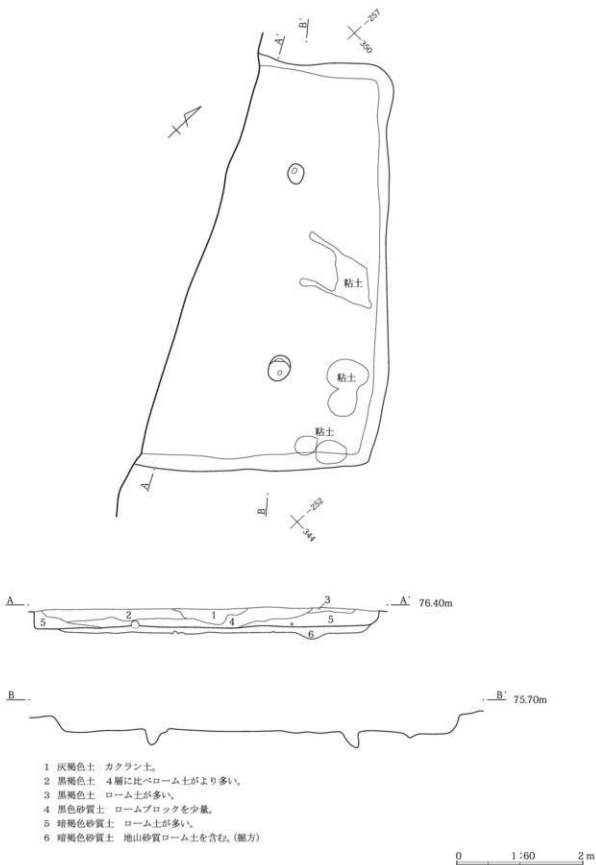
掘方



- 1 褐色土 やや砂質。As-B軽石が混じる。
- 2 カクラン。
- 3 黒褐色土 ローム土が少量。
- 4 暗褐色土 ローム土多量に含む。
- 5 黒褐色土 暗黄褐色ロームブロック混じる。
- 6 褐色土 ローム土主体。黄褐色ロームブロック少量混じる。
- 7 暗褐色土 ローム土主体で黒色土が部分的に混じる。黄褐色ロームブロックが多量。
- 8 黄褐色土 地山ロームより色調やや鈍い。壁の崩落土。
- 9 暗褐色土主体で黄褐色ロームブロック混じる。(掘方)
- 10 黄褐色ロームブロック主体で暗褐色土混じる。(掘方)

0 1:60 2 m

第33図 (7)-1区 2号住居跡平面図



第34図 (7) - 1区 8号住居跡平面図

(7) - 1区 2号住居跡 (第33・74~76図、表28、PL.41・42・142・143)

位置(座標): X軸=38.363~367、Y軸=-45.256~261。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺3.77m、短辺3.52m、壁高41cm。

長軸方向: 西北西。

本住居跡は調査区の南部にある。住居北東隅と北西隅が攪乱によって壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南13mに8号住居がある。住居の残存状況は良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉や柱穴等の施設は検出されていない。掘方をもち、深さは6cm前後である。特に、東半に凹凸が著しい。

出土遺物は床面直上から床に近い埋土下位に集中して多く出土している。北壁のやや西寄りからは、5・7の埴、4の高坏、24の甗が出土。北西隅付近では、10・12の小型甗、15の甗。住居中央の東寄りには、1の高坏、9の鉢、20の小型甗。中央南寄りには、2・3の高坏、6・8の埴、13・18の甗。中央の西側から南西にかけてでは、甗を主体に14・17・19・21・22・25の土器が出土。南東隅付近からは、11の小型甗が出土している。これらの土器の残存率は、完形の土器も多く、かなり高い。また、床面直上からは、炭化材も少量ではあるが出土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(7) - 1区 8号住居跡 (第34・77・78図、表29、PL.43・44・143・144)

位置(座標): X軸=38.342~349、Y軸=-45.251~257。

形状: 長方形か。

規模: 長辺6.55m、短辺?m、壁高30cm。

長軸方向: 北西。

本住居跡は調査区の南部にあり、住居西側が調査区境界となるため、住居の東半の調査となった。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の北13mに2号住居がある。

東半のみであるが、住居の残存状況は良好で、埋土は黒色砂質土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉および貯蔵穴は検出されていない。主柱穴は2本検出され、規模は径26~42cm、深さ25~28cmを測る。掘方をもち、深さは8cm前後である。

遺物の出土状態は、東隅およびその付近にほぼ完形の8・9の甗が床面直上に正位で、7・10の甗が床面近くに出土している。北東壁中央際では、2の高坏の体部が床面近くに、5の埴が埋土上位から出土。住居中央付近では、1の高坏の体部、4の高坏の脚部、6の小型甗が床面近くに出土している。また、住居北東壁中央から東隅にかけての壁際には、灰白色の粘土塊が散在して確認されている。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(7) - 2区 21号住居跡 (第35・36・79~81図、表30、PL.44・144)

位置(座標): X軸=38.273~279、Y軸=-45.155~162。

形状: 隅丸方形。

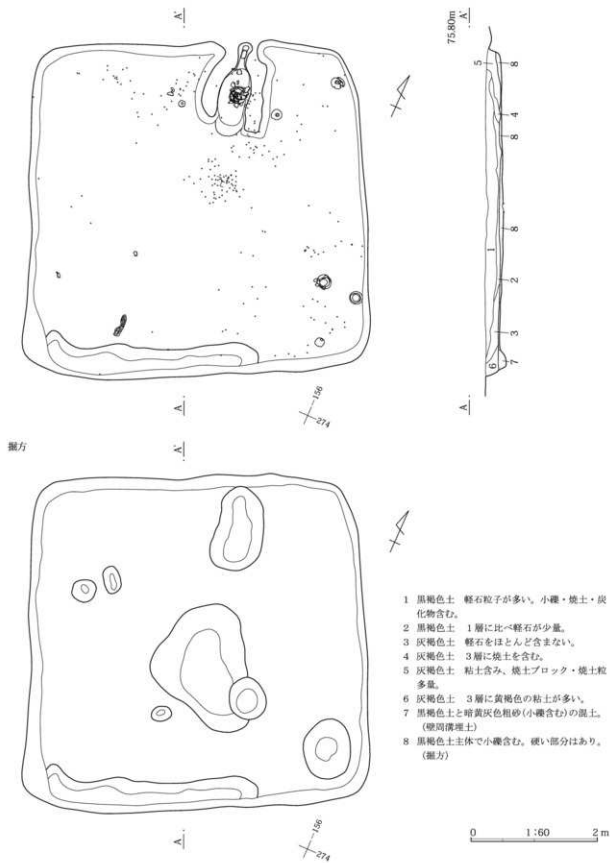
規模: 長辺5.34m、短辺5.28m、壁高25cm。

主軸方向: 北北西。

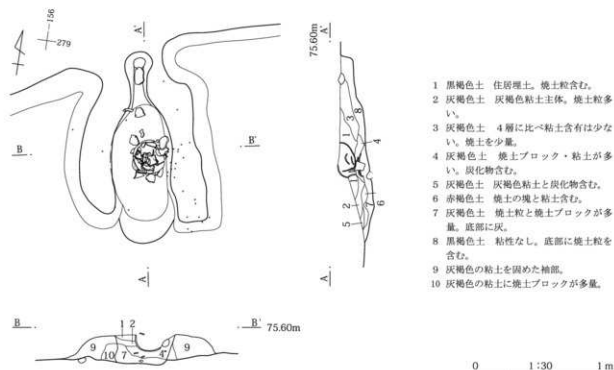
本住居跡は調査区の南部にある。同じ古墳時代前半の住居は、北47mに39-B号住居がある。

住居の残存状況は良好で、埋土は白色軽石を含んだ黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦であるが、礫層を掘り込んだ住居であるため、一部に礫が露出する。カマドは北西壁中央からやや東寄りに位置し、北西壁に対しカマドの中軸が歪む。灰褐色の粘土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に位置し、煙道も壁外に突出することはない。柱穴は検出されていない。南東壁際に、壁周溝と思われる幅35cm、深さ10cmを測る溝が検出されている。住居の中央部付近を中心に掘方をもち、深さは4cmほどである。掘方調査で東隅に楕円形気味の土坑が確認されており、この土坑が貯蔵穴と考えられる。

遺物の出土状態は、カマド内の燃焼部底面に第79



第35図 (7) - 2区 21号住居跡平面図



第36図 (7) - 2区 21号住居跡・カマド平面図

図3の高坏が支脚として逆位で出土し、支脚上部に18の甕が正位に、さらに18の甕の内部および周辺に13の甕が出土しており、出土状況および甕の形状等、先の(5)23号住居跡のカマド状況に酷似している。さらに、カマド内からは、6・7の高坏の体部、2の椀片が出土。左袖脇からは、8の高坏体部、11の埴が出土。右袖脇からは10の高坏脚部が、北隅の壁際では4・5の高坏体部が床面直上に出土。カマド前からは16・17の甕が、東隅の貯蔵穴に12の鉢および14・15の甕の口縁部が逆位で床面直上に出土している。他に鉄製品がある。混入である可能性が高い。出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。

(7) - 2区 39-B号住居跡 (第37・82・83図、表31、PL.145)

位置(座標) : X軸=38.326~331、Y軸=-45.160
 ~166。

形状 : 隅丸方形。

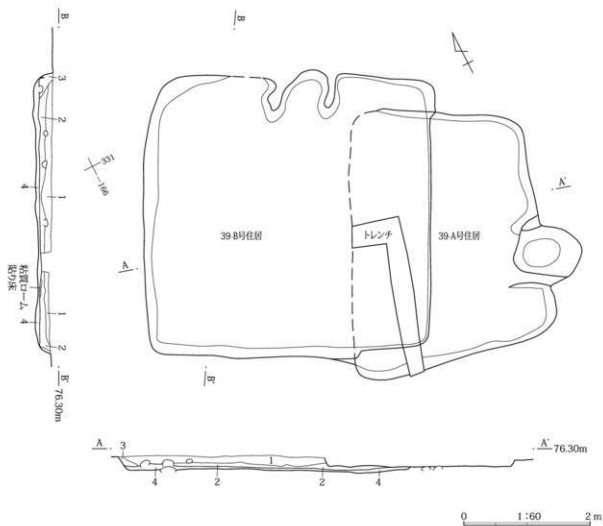
規模 : 長辺4.54m、短辺推定(4.64)m、壁高19cm。
 主軸方向 : 北東。

本住居跡は調査区の南東部にあり、住居の南東側を39-A号住居(平安時代)に壊されている。同じ古墳時代前半の住居は、本住居の南47mに21号住居がある。

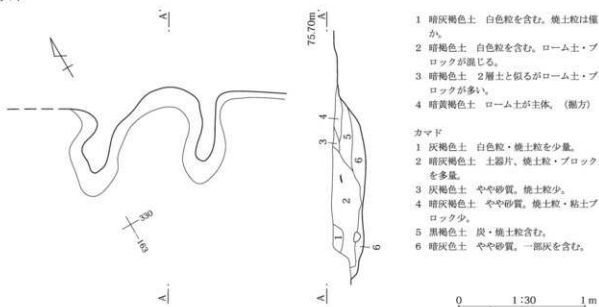
住居の残存状況は比較的に良い。壁高は低いが、埋土は白色粒子を含んだ暗灰褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。また、貼り床が一部で確認されている。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。残存状態は悪いが、両袖部は住居内に張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。貯蔵穴や柱穴等の施設は検出されていない。掘方をもち、深さは4cm程度である。

遺物の出土状態は、カマド内の焚き口部にかなり集中し、5・6・8の高坏が逆位で、14・16~18の甕が散乱した状態で出土している。右袖脇には4の高坏体部が、東隅付近には15の小型甕が出土。住居の西半からは、1~3の坏、9の高坏脚部、12の埴、13の小型甕が床面直上から出土している。

出土土器から、本住居跡は5世紀と考えられる。



カマド



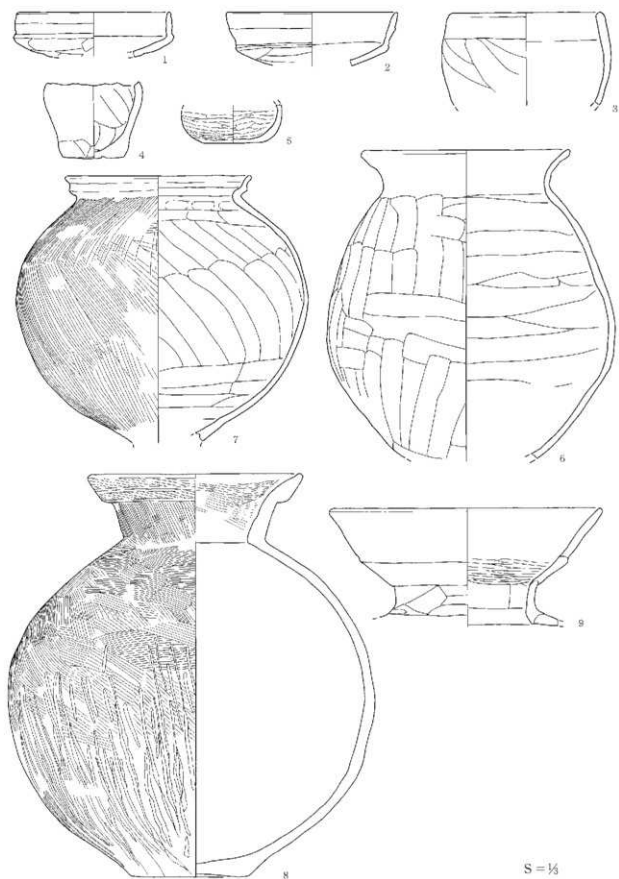
- 1 暗灰褐色土 白色粒を含む。焼土粒は僅か。
- 2 暗褐色土 白色粒を含む。ローム土・ブロックが混じる。
- 3 暗褐色土 2層土と似るがローム土・ブロックが多い。
- 4 暗黄褐色土 ローム土が主体。(掘方)

カマド

- 1 灰褐色土 白色粒・焼土粒を少量。
- 2 暗灰褐色土 土器片・焼土粒・ブロックを多量。
- 3 灰褐色土 やや砂質。焼土粒少。
- 4 暗灰褐色土 やや砂質。焼土粒・粘土ブロック少。
- 5 黒褐色土 炭・焼土粒含む。
- 6 暗灰色土 やや砂質。一部灰を含む。

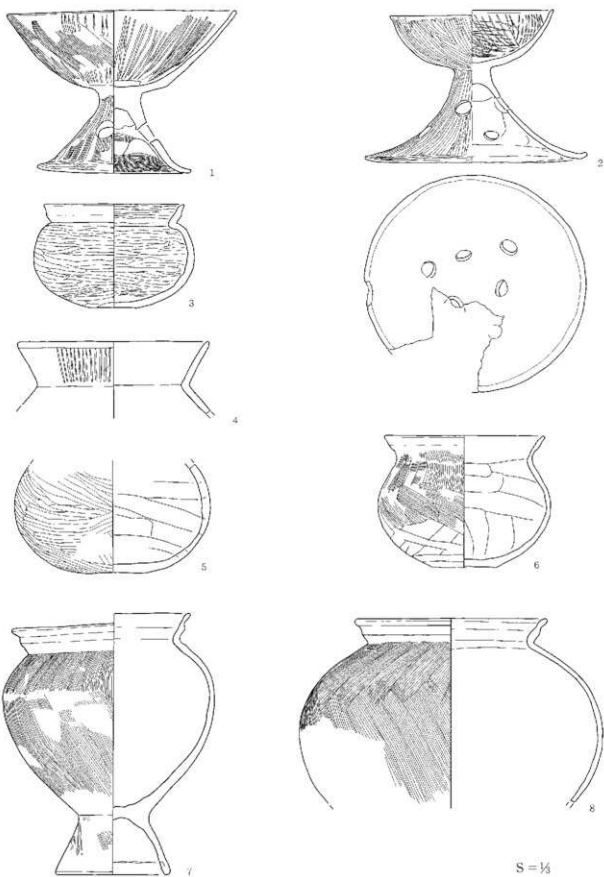
第37図 (7) -2区 39-B号住居跡・カマド平面図

第2節 検出された遺構と遺物

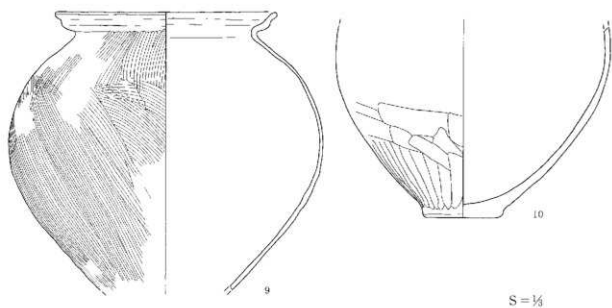


第38図 (5) 3号住居跡出土遺物

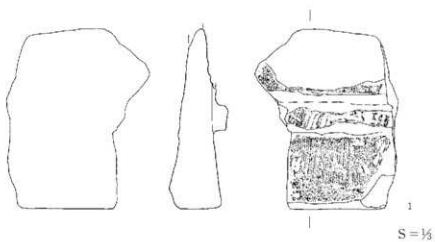
S = 1/4



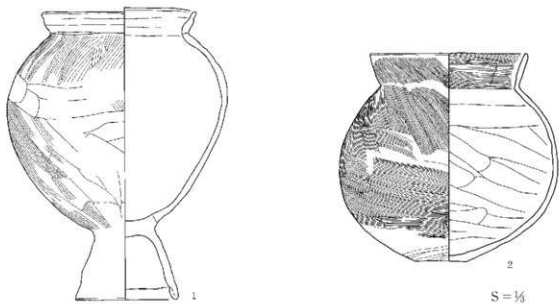
第39図 (5) 9号住居跡出土遺物(1)



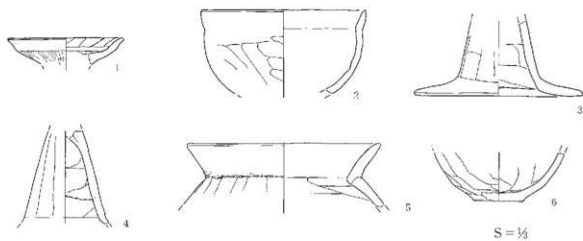
第40図 (5) 9号住居跡出土遺物(2)



第41図 (5) 11号住居跡出土遺物



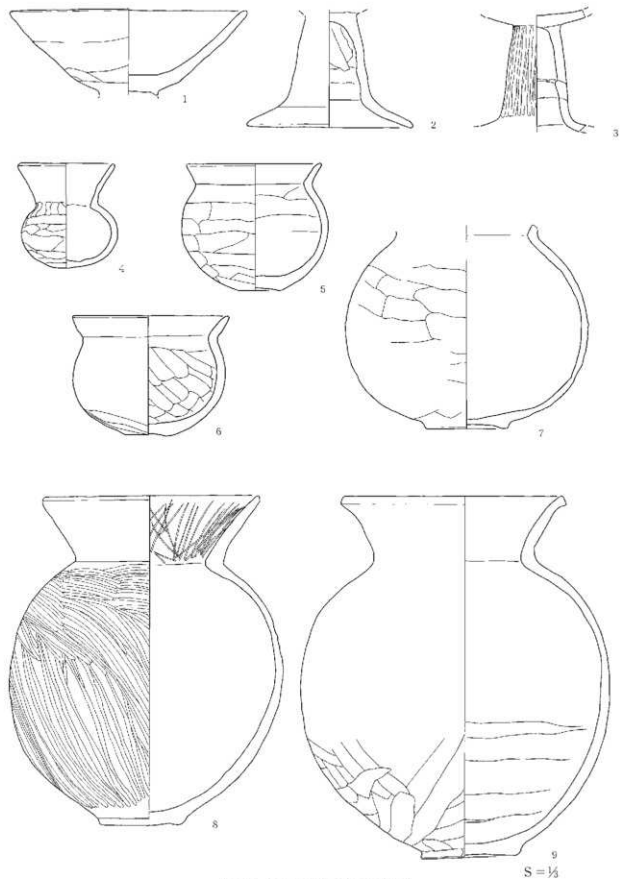
第42図 (5) 12号住居跡出土遺物



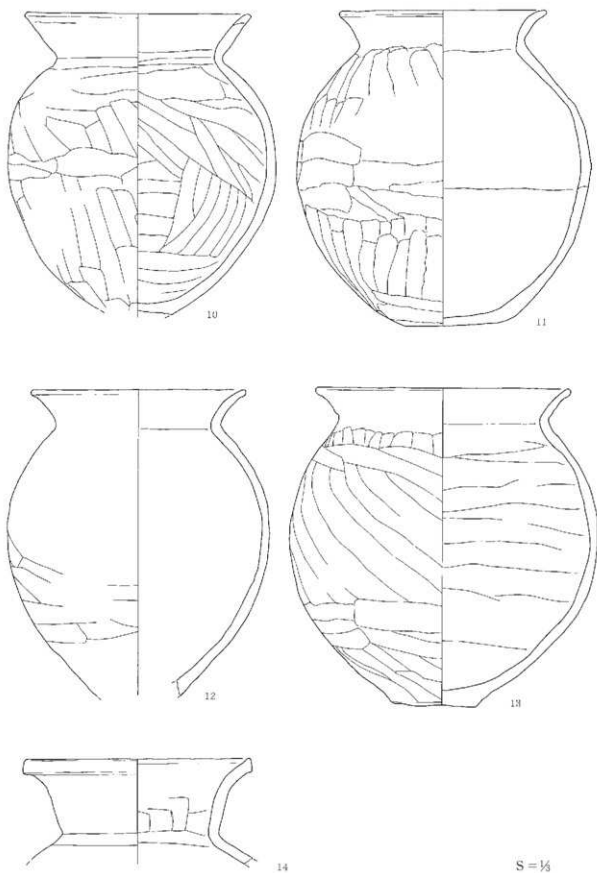
第43図 (5) 16号住居跡出土遺物



第44図 (5) 18号住居跡出土遺物

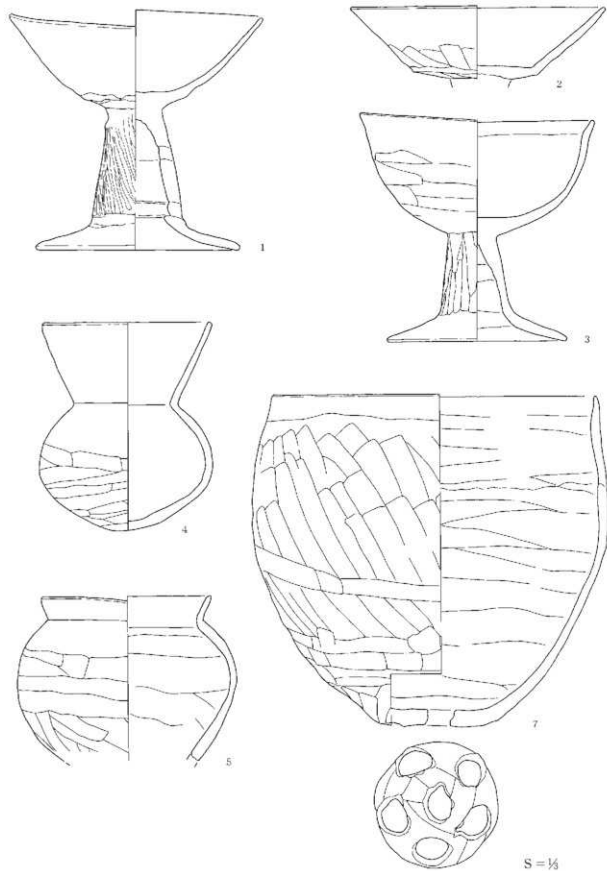


第45図 (5) 20号住居跡出土遺物(1)



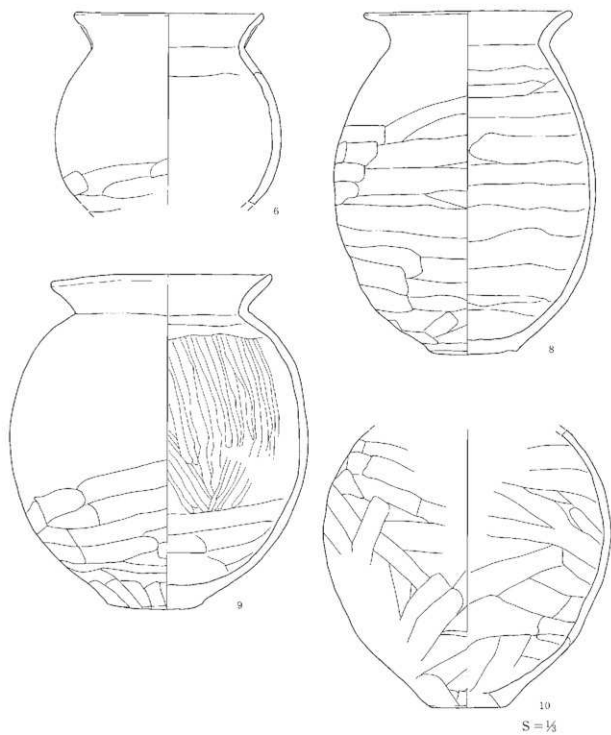
第46図 (5) 20号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4

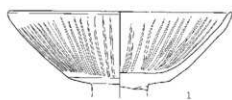


第47図 (5) 23号住居跡出土遺物(1)

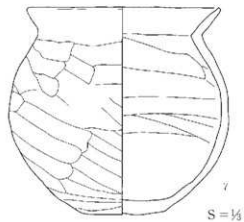
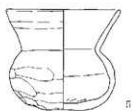
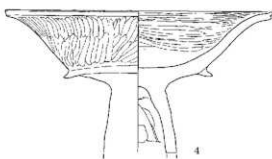
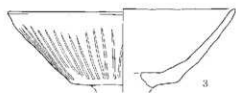
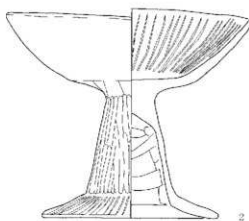
第3章 古墳時代前半の遺構と遺物



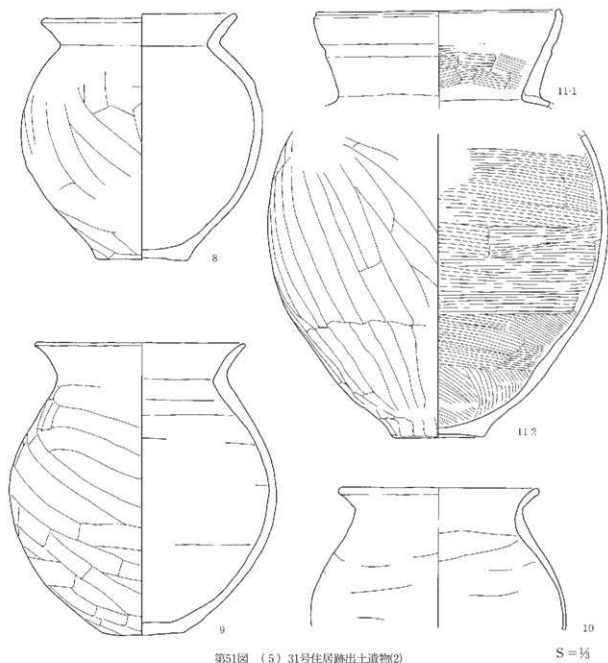
第48図 (5) 23号住居跡出土遺物(2)



第49図 (5) 30号住居跡出土遺物



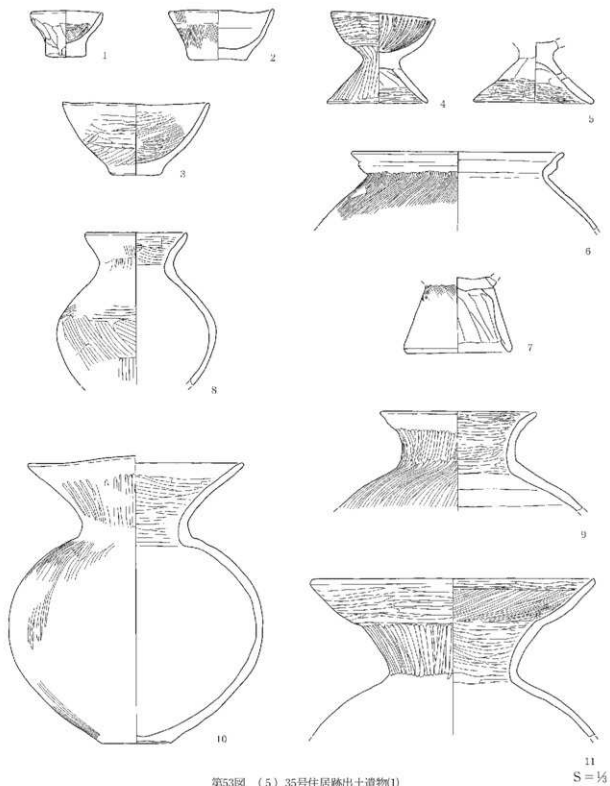
第50図 (5) 31号住居跡出土遺物(1)



第51図 (5) 31号住居跡出土遺物2)



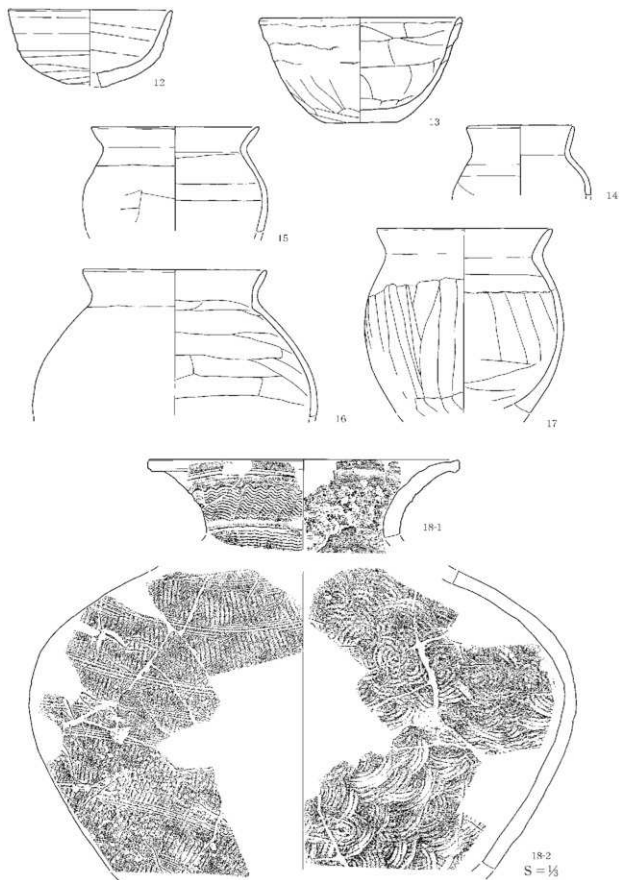
第52図 (5) 33号住居跡出土遺物



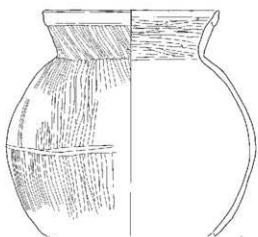
第53図 (5) 35号住居跡出土遺物(1)

11
S = ¼

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

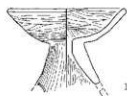


第54図 (5) 35号住居跡出土遺物(2)

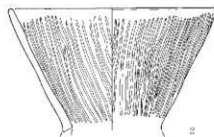


第55図 (5) 37号住居跡出土遺物

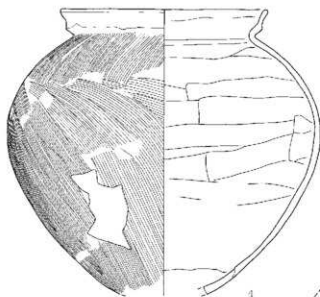
$S = \frac{1}{2}$



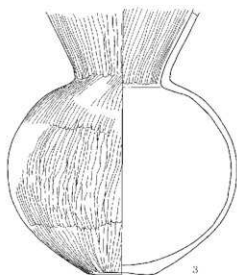
1



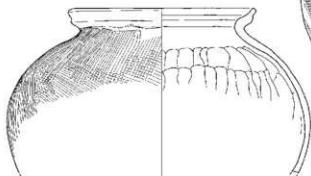
2



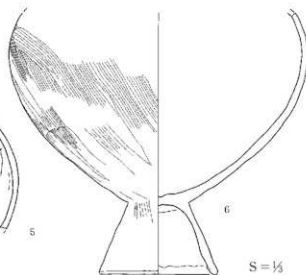
4



3



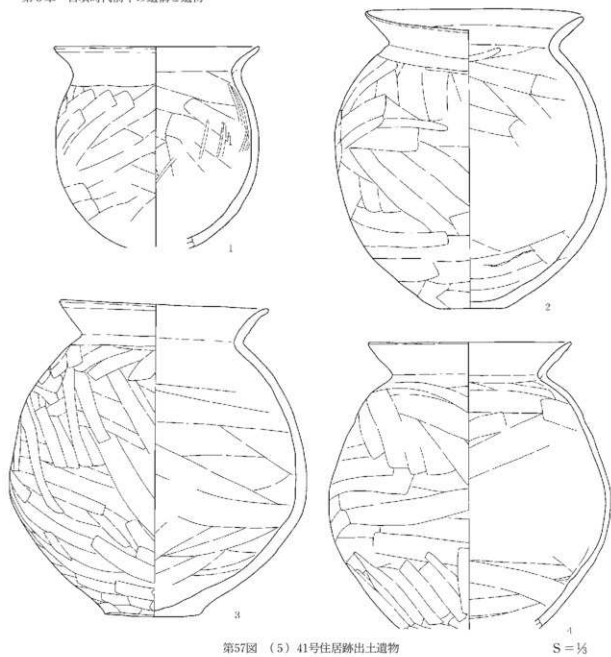
5



6

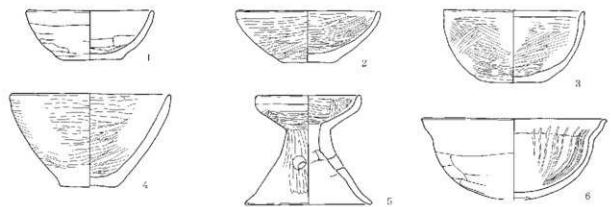
$S = \frac{1}{2}$

第56図 (5) 39号住居跡出土遺物



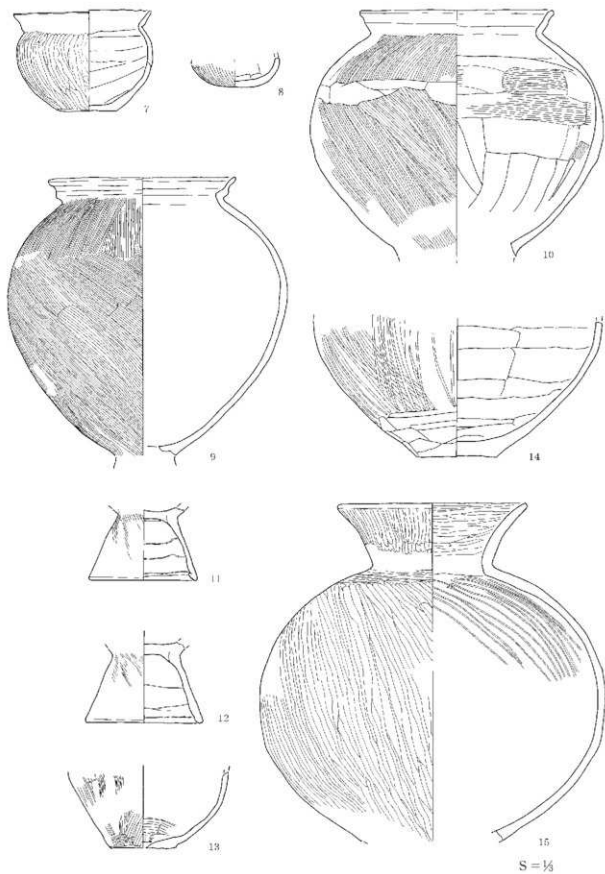
第57図 (5) 41号住居跡出土遺物

S = 1/4



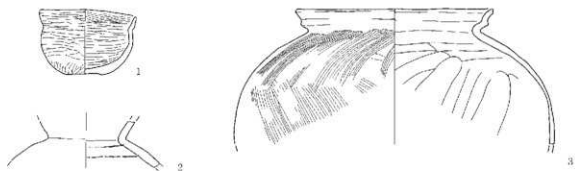
第58図 (5) 54号住居跡出土遺物(1)

S = 1/4

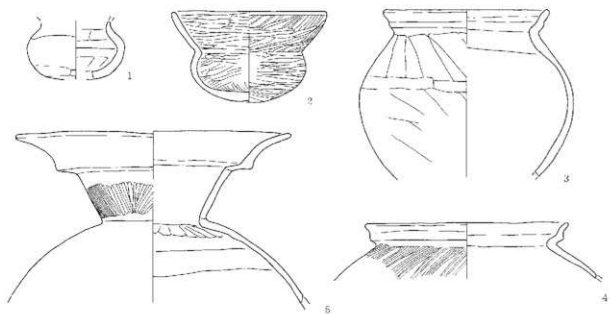


第59図 (5) 54号住居跡出土遺物(2)

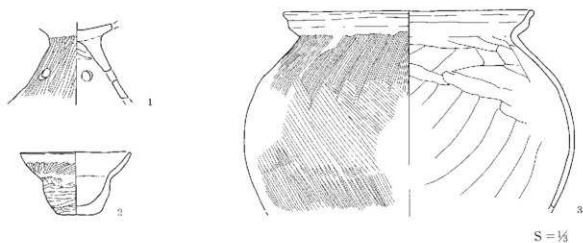
第3章 古墳時代前半の遺構と遺物



第60図 (5) 63号住居跡出土遺物

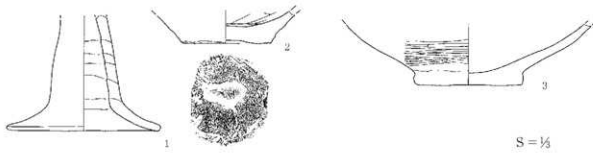


第61図 (5) 72号住居跡出土遺物



第62図 (5) 77号住居跡出土遺物

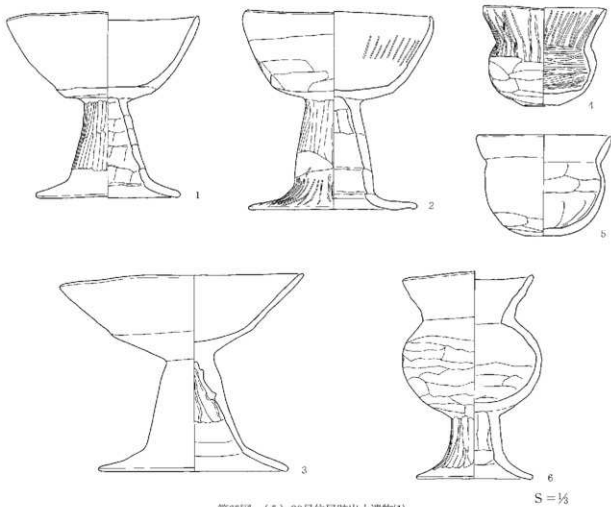
第2節 検出された遺構と遺物



第63図 (5) 79号住居跡出土遺物

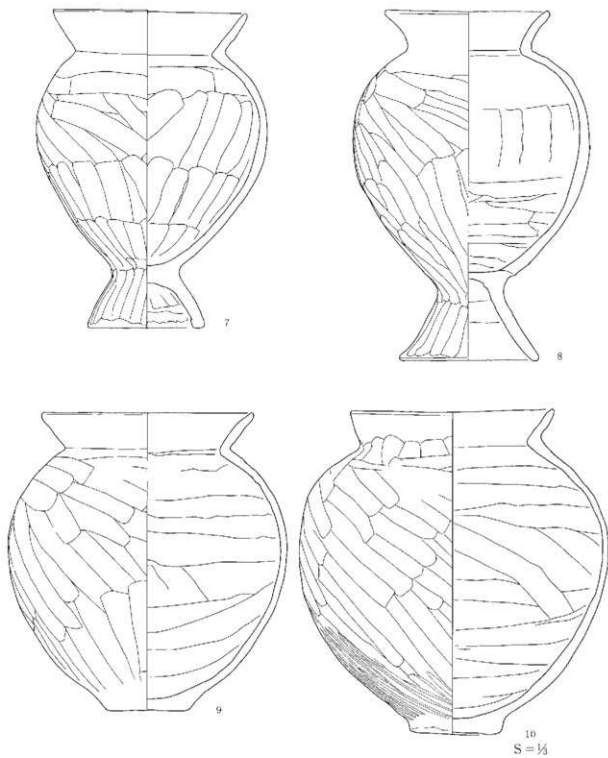


第64図 (5) 83号住居跡出土遺物

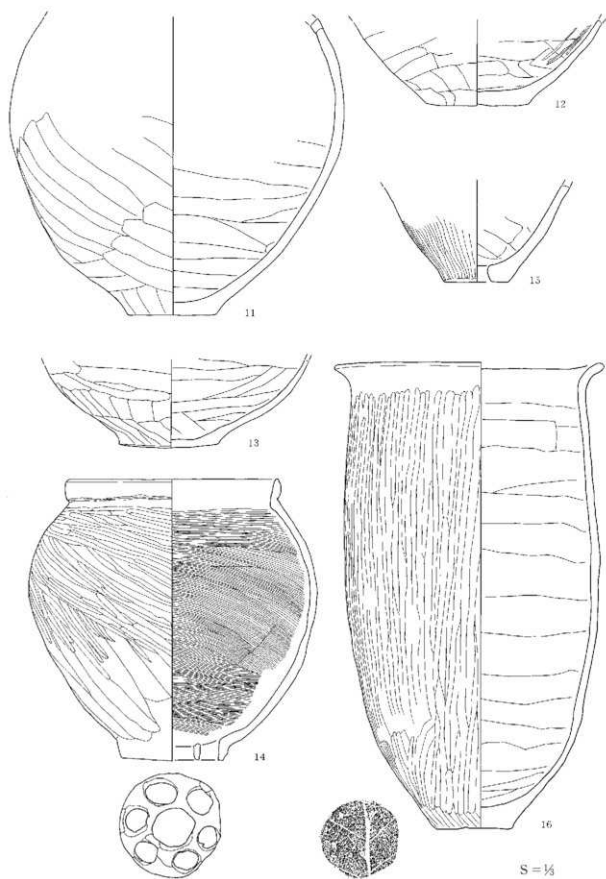


第65図 (5) 90号住居跡出土遺物(1)

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

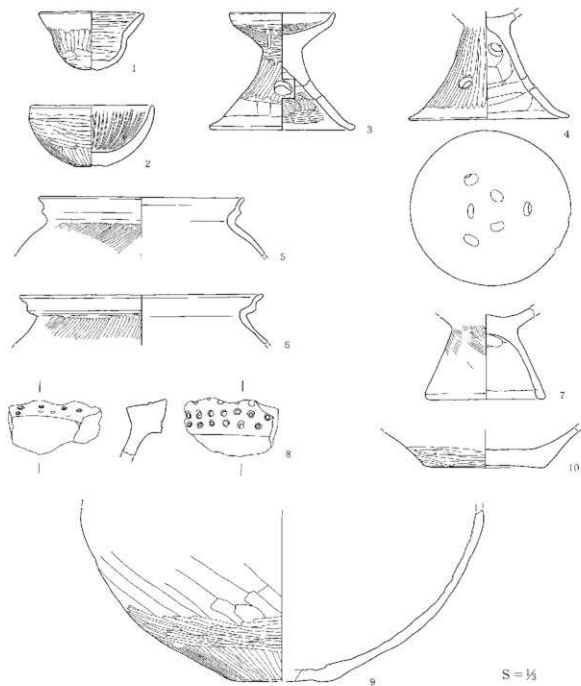


第66図 (5) 90号住居跡出土遺物(2)



第67図 (5) 90号住居跡出土遺物(3)

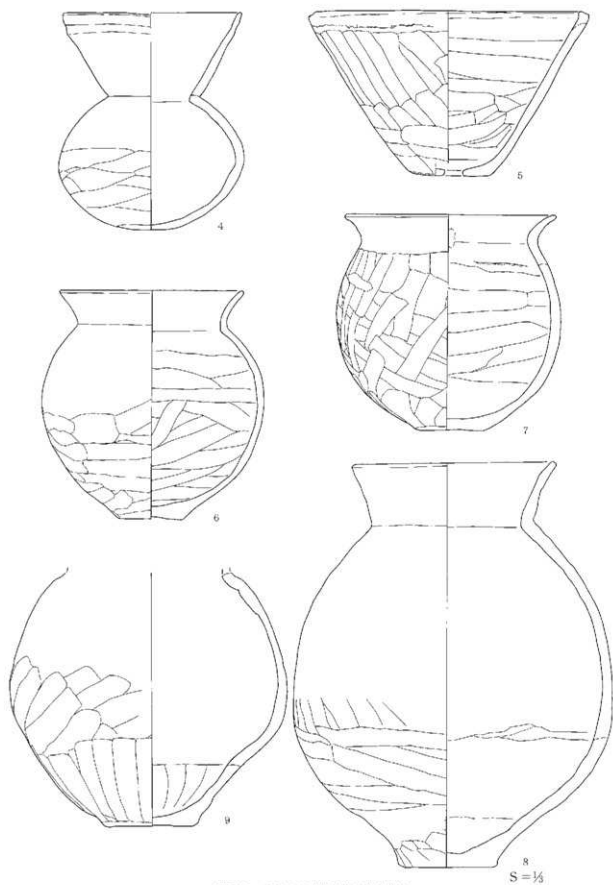
第3章 古墳時代前半の遺構と遺物



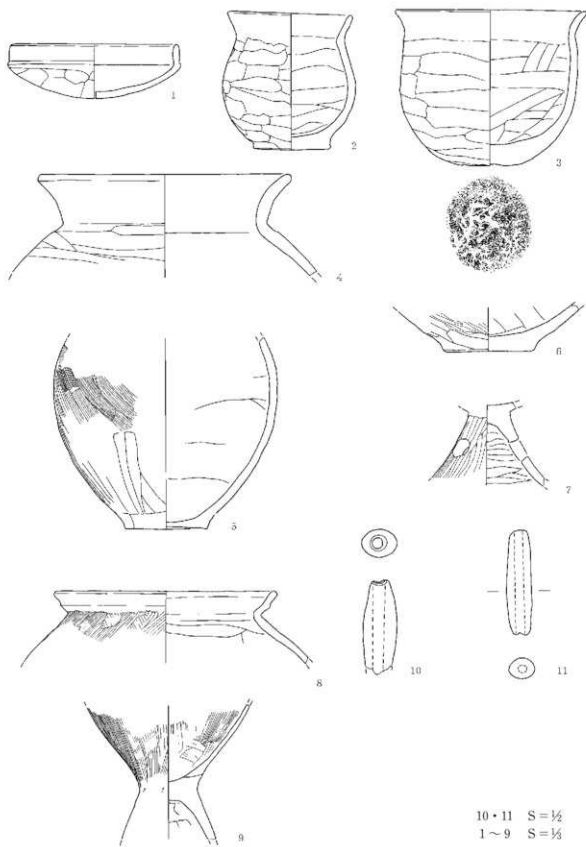
第68図 (5) 97号住居跡出土遺物



第69図 (5) 102号住居跡出土遺物(1)



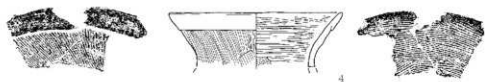
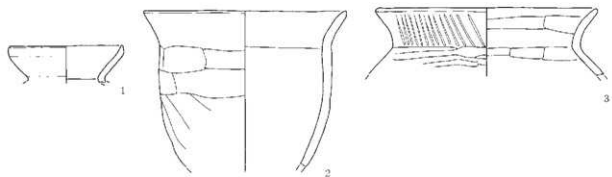
第70図 (5) 102号住居跡出土遺物(2)



第71図 (5) 108号住居跡出土遺物



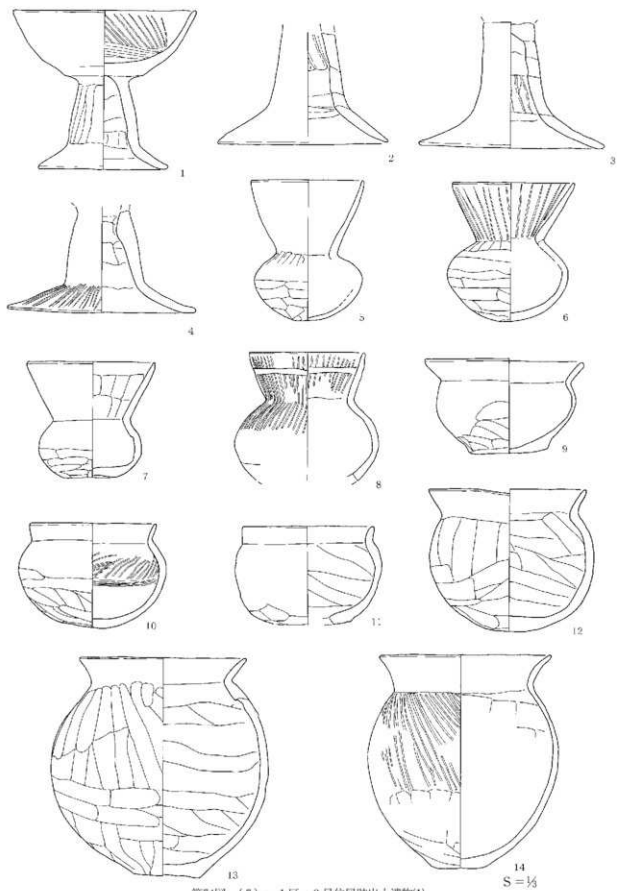
第72図 (5) 125号住居跡出土遺物



S = 1/4

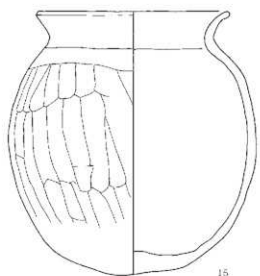
第73図 (5) 127号住居跡出土遺物

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

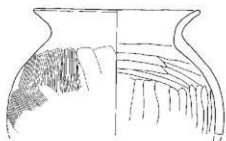


第74図 (7) - 1区 2号住居跡出土遺物(1)

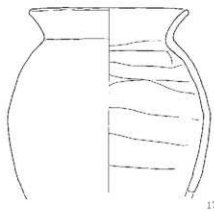
S = 1/2



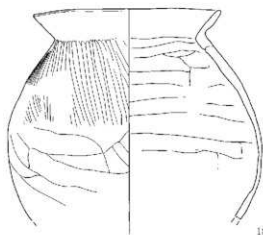
15



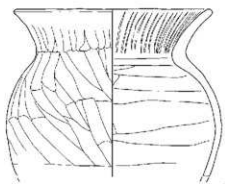
16



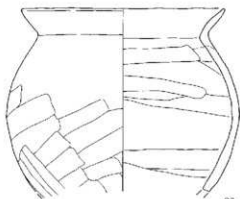
17



18



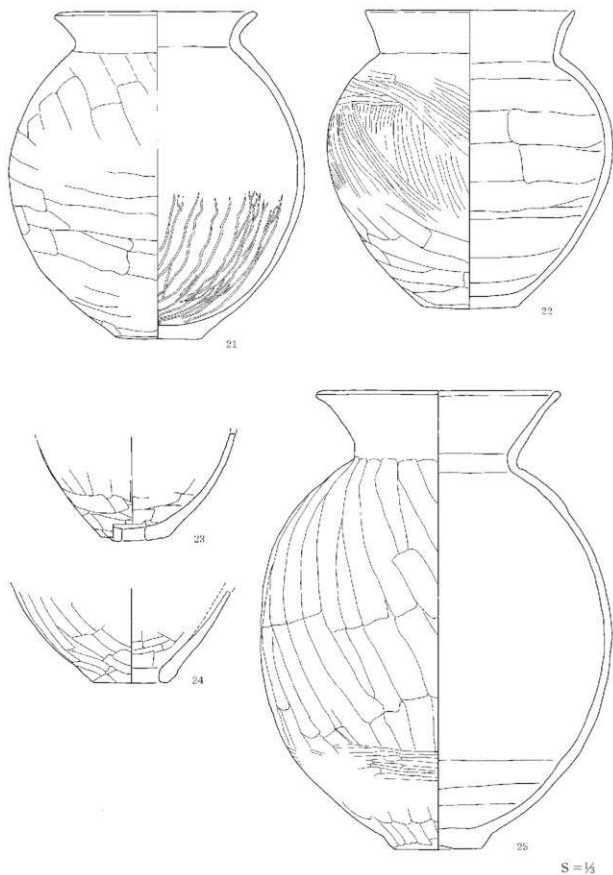
19



20

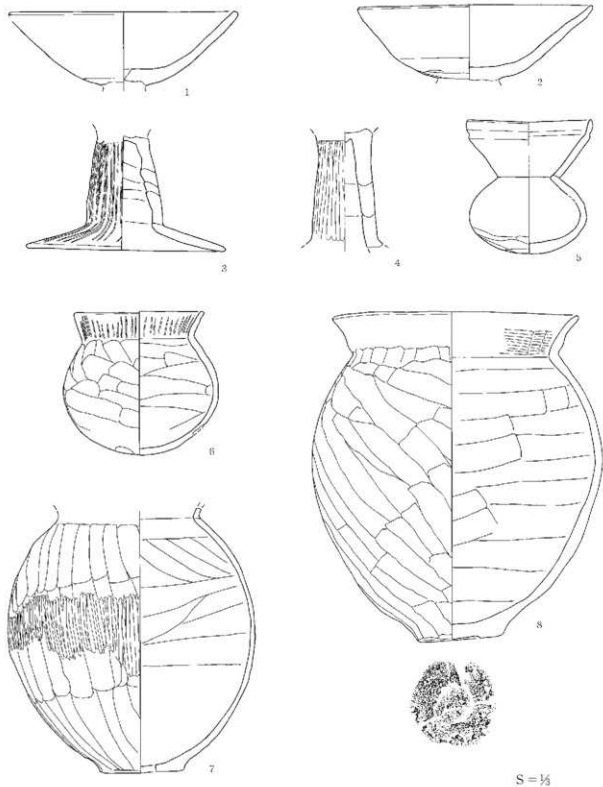
第75図 (7) - 1区 2号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4

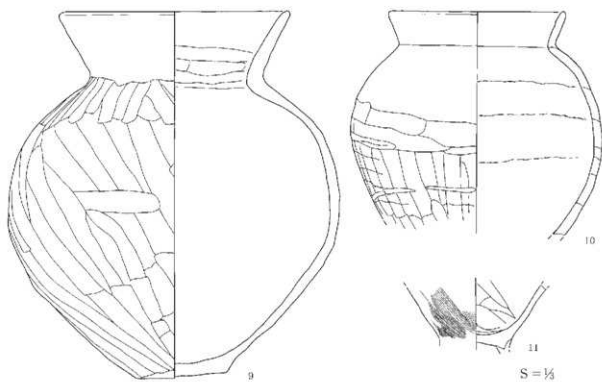


第76図 (7) - 1区 2号住居跡出土遺物(3)

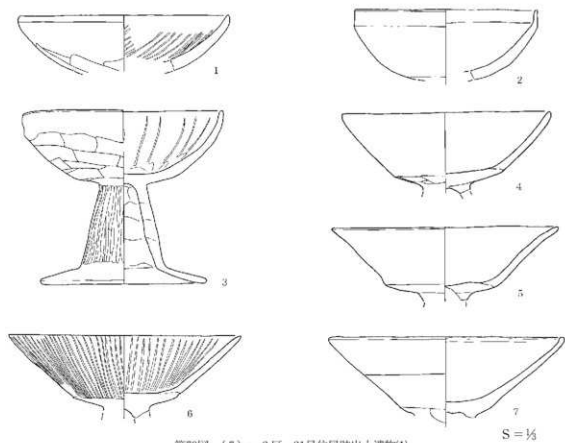
第2節 検出された遺構と遺物



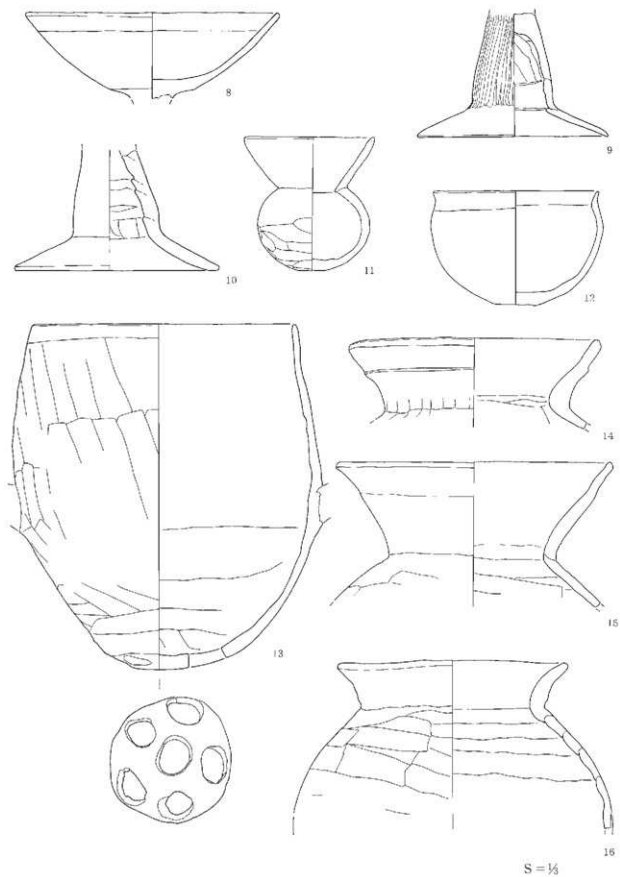
第77図 (7) - 1区 8号住居跡出土遺物(1)



第78図 (7) - 2区 8号住居跡出土遺物(2)

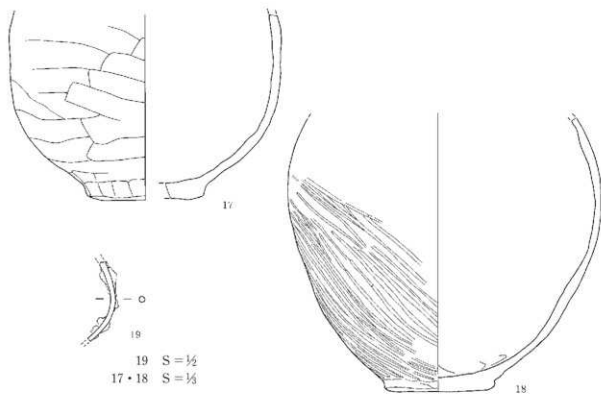


第79図 (7) - 2区 21号住居跡出土遺物(1)

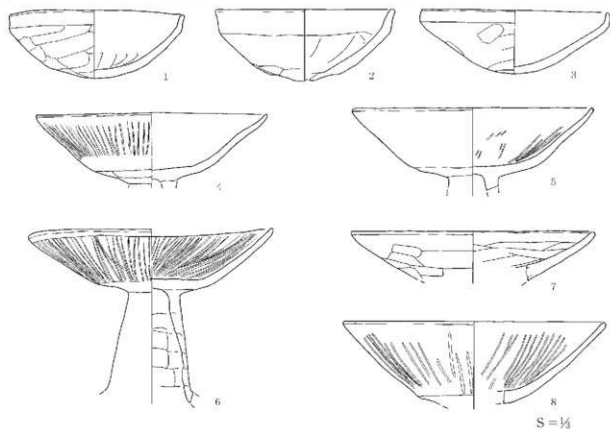


S = 1/4

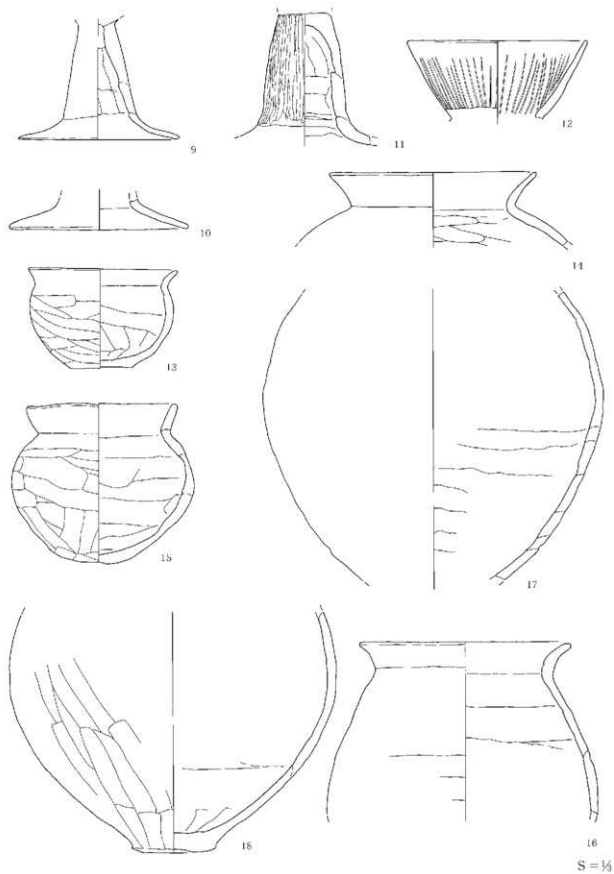
第80図 (7) - 2区 21号住居跡出土遺物(2)



第81図 (7) - 2区 21号住居跡出土遺物(3)



第82図 (7) - 2区 39-B号住居跡出土遺物(1)



第83図 (7) - 2区 39-B号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

表1 (5) 3号住居跡出土遺物観察表(第38図)

探検番号 図版番号	土器種別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師器 杯	1/8	埋土中	口 12.0 径 12.6	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。底部(横下)から底面は手持ちへう磨り。
2	土師器 杯	1/6	埋土中	口 13.4 径 12.0	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。底部(横下)から底面は手持ちへう磨り。内外面磨り込み。
3 PL.122	土師器 鉢	口縁部~体部 片	埋土中	口 11.8	細砂粒/良好/橙	
4 PL.122	手捏の上土 鉢形	口縁部~体部 1/3欠損	北西壁 床面直上	口 7.2 高 6.9 径 4.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から体部はナデ。底面はへうナデ。内面はへうナデ。
5 PL.122	土師器 甕	胴部下半~底 部	北西壁 床面直上	径 4.7	細砂粒/良好/暗赤褐	胴部下半はへう磨り。底面もへう磨り。内面はナデ。
6 PL.122	土師器 甕	口縁部1/4,胴 部下半	北東壁 下位~底面直 床面直上	口 16.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部上半へうナデ。下半へう磨り。内面胴部はへうナデ。
7 PL.122	土師器 台付甕	底部~胴部上 部	北西壁 床面直上	口 14.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ。胴部ハタ目。内面胴部はへうナデ。胴部上位に指痕が残る。
8 PL.122	土師器 甕	ほぼ完整	北西壁 直上	口 16.4 高 31.8 径 9.4	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部磨り返し。外面は口縁部から胴部ハタ目。胴部下半はハタ目後へう磨り。内面は口縁部ハタ目。胴部へうナデ。
9 PL.122	土師器 甕	口縁部~胴部 中	埋土中	口 21.0	細砂粒。粗砂粒混/良好/明褐	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ。下半へうナデ。内面胴部は上半がへう磨り。下半がへうナデ。

表2 (5) 9号住居跡出土遺物観察表(第39・40図)

探検番号 図版番号	土器種別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL.124	土師器 高杯	口縁部1/2,胴 部一部欠損	床面直 上	口 17.9 高 12.8 径 7.2 脚 12.0	細砂粒/良好/明赤褐	外面は底面を磨きハタ目後へう磨り。底面はへうナデ。内面は杯身が放射状へう磨り。胴部はハタ目。透3孔所。
2 PL.124	土師器 高杯	胴部1/5欠 損	床面直 上	口 12.9 高 12.0 脚 17.5	細砂粒/良好/明赤褐	杯身内面黒色処理。杯身から胴部へう磨り。内面は杯身の機方角放射状へう磨り。胴部はへうナデ。胴部に2段6孔所の透孔。
3 PL.124	土師器 甕	3/4	床面直 上	口 11.0 高 8.7 径 3.6	微砂粒/良好/赤~黒褐	口縁部横ナデ。胴部へう磨り。底面へう磨り。内面は口縁部から胴部へう磨り。
4	土師器 甕	口縁部~胴部 上位片	床面直 上	口 15.0	微砂粒/軟質/にぶい赤褐	内外面へう磨り込み。外面口縁部は放射状へう磨り。
5	土師器 甕	胴部1/2片	床面直 上	径 15.6 高 6.9cm前後	微砂粒/軟質/にぶい赤褐	胴部。底面ともへう磨り。内面胴部はへうナデ。
6 PL.124	土師器 小型甕	3/4	床面直 上	口 12.6 高 10.4 径 5.0	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ。胴部上半ハタ目。下半と底面へう磨り。内面胴部はへうナデ。
7 PL.124	土師器 台付甕	1/2	床面直 上	口 14.0 高 18.3 脚 8.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部ハタ目。胴部ハタ目をナデ消し。内面胴部はナデ。表面割傷不明。
8	土師器 台付甕	口縁部~胴部 上位1/4片	床面直 上	口 14.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ。胴部ハタ目。内面胴部は丁寧へうナデ。単位不明。
9	土師器 台付甕	口縁部~胴部 下位1/3片	床面直 上	口 17.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部ハタ目。内面胴部は丁寧へうナデ。単位不明。
10	土師器 甕	底部~胴部下 半	床面直 上	径 5.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部から底面はへう磨り。内面はへうナデ。

表3 (5) 11号住居跡出土遺物観察表(第41図)

探検番号 図版番号	土器種別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	形象埴輪 冢	底部小片	埋土中		粗砂粒/良好/明赤褐	凸部は胎付。内外裏ともハタ目。凸部の上下はナデ。

表4 (5) 12号住居跡出土遺物観察表(第42図)

検出番号 図記番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-125	土師器 台付甕	5/6	貯穴 土中	口 12.0 高 23.0 底 4.4 脚 7.8	細砂粒/良好/灰黄褐色	胴部付。口縁部横ナズ、胴部はヘラ割り後継なヘラ目。内面は割部ヘラナズ、胴部ナズ。
2 PL-125	土師器 甕	口縁部へ胴部 上半1/3欠	伊埋土 中	口 12.2 高 16.3 底 4.1	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部から胴部中位はヘラ目。下位下半はヘラ割き。底部ヘラナズ。内面は口縁部横ナズ、胴部ヘラナズ。

表5 (5) 16号住居跡出土遺物観察表(第43図)

検出番号 図記番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 甕	口縁部小片	床面直上	口 5.0	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナズ、体部ヘラ目。内面はヘラナズ後継曲部にナズ。
2	土師器 甕	口縁部へ体部 片	床面直上	口 12.0	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナズ、体部ヘラ割り。内面体部はヘラナズ。
3	土師器 高杯	脚部片	埋土中	脚 13.3	細砂粒/良好/明赤褐色	胴部はヘラナズ。胴部は横ナズ。内面脚部はヘラナズ。
4	土師器 高杯	脚部片	埋土中		細砂粒/良好/褐色	胴部はヘラナズ。胴部は横ナズ。内面脚部はヘラナズ。
5	土師器 甕	口縁部へ胴部 上位片	埋土中	口 15.0	細砂粒/良好/褐色	胴部外面に輪模み紋が残る。口縁部横ナズ。胴部ヘラ割り。内面胴部はヘラナズ。
6	土師器 甕	胴部へ胴部下 上位片	床面直上	高 4.8	粗砂粒・φ5mm程度/良好/褐色	胴部・底部ともヘラ割り。内面胴部はヘラナズ。

表6 (5) 18号住居跡出土遺物観察表(第44図)

検出番号 図記番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-126	土師器 甕	1/2	埋土中	口 10.6 高 4.5 底 3.0	細砂粒/良好/明褐色	口唇部横ナズ。口縁部から体部はヘラ割き。底部ヘラ割り。内面はヘラ割き。

表7 (5) 20号住居跡出土遺物観察表(第45・46図)

検出番号 図記番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-126	土師器 高杯	杯身4/5片	床面直上	口 18.6 高 8.0 底 8.0	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナズ、体部上半ナズ。下半から底部はヘラ割り。
2 PL-126	土師器 高杯	甕型部 床直	埋土中	脚 13.4	細砂粒/良好/明赤褐色	胴部はヘラナズ。胴部は横ナズ。内面胴部はナズ。
3	土師器 高杯	胴部片	床面直上		細砂粒/良好/にぶい赤褐色	内面に輪模み紋が残る。胴部は縦方向ヘラ割き。内面はナズ。
4 PL-126	土師器 甕	兜形	床面直上	口 7.4 高 3.3 底 6.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナズ。胴部から底部はヘラ割り。内面胴部はナズ。
5 PL-127	土師器 小型甕	3/4	床面直上	口 10.4 高 10.0 底 3.4	粗砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部から胴部は横ナズ、胴部はヘラ割り。内面胴部はヘラナズ。
6 PL-127	土師器 小型甕	兜形	床面直上	口 12.0 高 9.4 底 3.2	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部横ナズ。胴部上位・中位はヘラナズ。下位はヘラ割り。内面胴部はナズ。
7 PL-127	土師器 甕	胴部、胴部 1/2	床面直上	高 4.4	細砂粒/良好/褐色	胴部上位ヘラナズ。中位から下位ヘラ割り。底部ヘラナズ。内面はヘラナズであるが計測不能。
8 PL-127	土師器 甕	ほぼ兜形	床面直上	口 16.3 高 26.0 底 6.4	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナズ。胴部ヘラ割り後継赤褐色。底部ヘラ割り。内面は口縁部ヘラ割き、胴部ヘラナズ。
9 PL-127	土師器 甕	胴部一部欠 損	床面直上	口 17.0 高 29.7 底 7.3	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナズ。胴部上半、底部ヘラ割りであるが、器面磨滅のための整形不鮮明。胴部下半はヘラ割り。内面胴部はヘラナズ。
10 PL-127	土師器 甕	胴部の一部欠 損	床面直上	口 17.3	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナズ。胴部ヘラ割り。内面胴部はヘラナズ。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

経度番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
11 PL-127	土師器 甕	4/5	床面直上	口 16.0 高 24.9 底 8.4	粗砂粒/良好/灰褐	口縁部横ナデ、胴部上半ヘナナデ、下半から底部はヘナナデ。内面胴部はヘナナデ。
12 PL-127	土師器 甕	口縁部~胴部 下位	床面直上	口 16.6	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部は上半がナデ、下半はヘナナデ。内面胴部はヘナナデ。
13 PL-127	土師器 甕	口縁部、胴部 一部欠損	床面直上	口 19.7 高 25.0 底 6.5	粗砂粒/良好/にぶい黄赤	口縁部から胴部は横ナデ、胴部、底部ヘナナデ。内面胴部はヘナナデ。
14 PL-127	土師器 甕	口縁部	甕壁際 床直	口 17.5	粗砂粒/微化灰/黄	口縁部横ナデ。内面口縁部下半はヘナナデ。

表8 (5) 23号住居跡出土遺物観察表 (第47・48図)

経度番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-127	土師器 高杯	3/4	甕直上	口 19.7 高 18.9 底 8.8 脚 15.6	粗砂粒/良好/明赤褐	胴の内面に輪轆み痕が残る。口縁部横ナデ、底部ヘナナデ、胴部ヘナナデ、裾部横ナデ。内面胴部ナデ。杯身内面直壁あり。
2	土師器 高杯	杯身口縁部 1/3欠損	甕直上	口 20.0 底 10.0	粗砂粒/良好/明赤褐	胴部は胎付。口縁部横ナデ。杯部から底部(踵下)はヘナナデ。
3 PL-127	土師器 高杯	3/4	甕直上	口 19.3 高 17.9 脚 13.8	粗砂粒/良好/明赤褐	杯身口縁部と胴部は横ナデ。杯身中部、底部、脚部はヘナナデ。内面胴部はナデ。
4 PL-127	土師器 甕	ほぼ完形	甕壁直上 床直	口 13.1 高 16.3	粗砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ。胴部上位ナデ。中位から底部はヘナナデ。
5 PL-128	土師器 甕	口縁部~胴部 下位	北西直上	口 13.3	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ。胴部上位はナデ。中位から下位はヘナナデ。内面胴部はヘナナデ。
6 PL-128	土師器 甕	口縁部~胴部 中位片	甕直上	口 14.2	粗砂粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ。胴部上位はナデ。下半はヘナナデ。内面胴部はヘナナデ。
7 PL-128	土師器 甕	胴部一部欠損	甕直上	口 25.2 高 26.3 底 9.8	粗砂粒・褐色粒/良好/黄	口縁部横ナデ。胴部・底部ヘナナデ。内面ヘナナデ。底部に横溝の6孔。
8 PL-128	土師器 甕	ほぼ完形	甕直上 床直	口 15.8 高 27.0 底 6.8	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。胴部上位ナデ。中位・下位、底部ヘナナデ。内面胴部はヘナナデ。
9 PL-128	土師器 甕	ほぼ完形、胴部 一部欠損	甕直上	口 17.3 高 26.4 底 7.5	粗砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ。胴部は上半がナデ、下半がヘナナデ。底部もヘナナデ。内面胴部は上半がヘナナデ、下半がヘナナデ。
10	土師器 甕	底部~胴部 1/4	甕直上	底 6.2	粗砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	胴部はヘナナデ。内面はヘナナデ。

表9 (5) 30号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

経度番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-129	土師器 高杯	杯身	甕直上	口 17.4 底 8.0	粗砂粒/良好/黄	口縁部から杯部は内外面放射状ヘナナデ。
2	土師器 高杯	基部	甕直上 床直	脚 13.0	粗砂粒/良好/赤褐	内内面にも横ナデ。

表10 (5) 31号住居跡出土遺物観察表 (第50・51図)

経度番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-129	土師器 高杯	杯身の一部欠 損	甕直上	口 16.9 高 15.9 底 8.0 脚 12.4	粗砂粒/良好/明赤褐	杯身口縁部から杯部は内外面放射状ヘナナデ。底部ヘナナデ。脚部ヘナナデ。胴部横ナデ。内面は杯身基部がヘナナデ。脚部もヘナナデ。
2 PL-129	土師器 高杯	ほぼ完形、胴部 一部欠損	貯穴埋土中	口 19.2 高 16.5 底 10.1 脚 13.6	粗砂粒・黄/良好/赤褐	杯身は口縁部から杯部ナデ。底部ヘナナデ。脚部はヘナナデ。胴部は放射状ヘナナデ。内面口縁部は放射状ヘナナデ。脚部はナデ。
3	土師器 高杯	杯身、底部 1/3欠損	甕直上	口 17.8 底 8.2	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から杯部は横ナデ放射状ヘナナデ。底部はヘナナデ放射状ヘナナデ。
4 PL-129	土師器 高杯	胴部下半欠損	甕直上	口 20.9 底 10.8	粗砂粒/良好/黄	底部外縁に凸部がある。口縁部から杯部はヘナナデ。底部はヘナナデ。内面口縁部はヘナナデ。脚部はナデ。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 形	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
5 PL-129	土師器 壺	ほぼ完全形、胴部一部欠	穴状埋土中	口 8.8 高 8.0 底 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナズ、胴部上位ナズ、中位から下位・底部はへう割り、内面割部はへうナズ。
6 PL-129	土師器 壺	口縁部~胴部 中位	穴状埋土中	口 14.0	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部へう割り、胴部はへう割り、内面は口縁部から胴部にかけてのへう割り。
7 PL-130	土師器 小型壺	2/3	埋土中	口 15.0 高 16.3 底 6.3	粗砂粒/良好/にぶい青	口縁部から胴部は横ナズ、胴部・底部はへう割り、内面割部はへうナズ。
8 PL-130	土師器 壺	3/4	埋土中	口 15.0 高 19.2 底 7.0	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナズ、胴部上位はナズ、中位から底部へう割り、内面割部はへうナズ。
9 PL-130	土師器 壺	2/3	床面上	口 16.4 高 23.0 底 6.4	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナズ、胴部・底部へう割り、内面割部はへうナズ。
10	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	埋土中	口 15.3	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナズ、胴部・胴部へう割り、内面割部はへうナズ。
11-1	土師器 壺	口縁部片	埋土中	口 19.2	細砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナズ、内面は口縁部下平にハケ目、口唇部側面に凹線が走る。
11-2	土師器 壺	底部~胴部中位 (胴部1/2)	埋土中	高 7.1	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい青	胴部は前めから履方向へう割り、底部もへう割り、内面割部はハケ目。

表11 (5) 33号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

検出番号 図版番号	土器種類 形	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-130	土師器 瓶	口縁部1/3欠	北壁側埋土中	口 12.7 高 6.2 底 2.7	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部上半は横ナズ、下半の一部にハケ目、体部は上半がナズ、下半から底部はへう割り、内面体部から底部はへうナズ。

表12 (5) 35号住居跡出土遺物観察表 (第53・54図)

検出番号 図版番号	土器種類 形	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-130	手捏石土器 瓶形	口縁部~体部 1/2欠損	床面上	口 5.6 高 3.7 底 3.2	細砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナズ、体部・底部へうナズ。内面体部はハケ目。
2 PL-130	土師器 小型壺	ほぼ完全形	床面上	口 8.1 底 3.9 底 4.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナズ、体部ハケ目、底部へう割り、内面体部から底部はナズ。
3 PL-130	土師器 瓶	1/4	床面上	口 11.4 高 5.7 底 4.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部から体部はへう割り、底部はへう割り、内面はへう割り。
4 PL-130	土師器 高杯	口縁部・胴部 の一部欠損	床面上	口 8.1 高 7.2 脚 7.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部・胴部ともへう割り、内面は口縁部から下半へう割り、胴部上半はナズ。
5 PL-130	土師器 壺台	胴部1/2片	床面上	脚 9.2	細砂粒/良好/灰褐色	胴部中位に5孔の透かし、外面は下半にへう割り、内面も下半にへう割り。
6	土師器 台付壺	口縁部~胴部 上位	床面上	口 16.3	細砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナズ、胴部はハケ目、内面割部はへうナズ。
7	土師器 台付壺	胴部	床面上	脚 8.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	胴部は内側に割り返し、外面は上位にハケ目が残る。内面はナズ。
8	土師器 壺	口縁部~胴部 下位片	床面上	口 7.9	細砂粒/良好/浅黄褐色	口唇部横ナズ、口縁部から胴部ハケ目、胴部上半へう割り、下半はハケ目、内面は口縁部ハケ目、胴部へうナズ。
9	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	床面上	口 12.0	細砂粒・角礫/良好/にぶい黄褐色	口縁部内面凹色処理、外面は口縁部上半横ナズ、下半から胴部は履方向へう割り、内面は口縁部は履方向へう割り、胴部はへうナズ。
10 PL-130	土師器 壺	1/5	床面上	口 16.9 高 22.7 底 5.4	細砂粒/良好/橙	口唇部横ナズ、口縁部・胴部はへう割り、内面は口縁部からへう割り、胴部へうナズ。
11	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	床面上	口 22.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナズ、胴部・胴部へう割り、内面は口唇部横ナズ、口唇部履方向、胴部履方向へう割り、胴部はへうナズ。
12	甕蓋 高杯	杯身部1/2	埋土中	口 12.8	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転石回り。胴部は胎土、杯身部は胎土は回転へう割り、体部に凹線が走る。
13	土師器 瓶	2/3	埋土中	口 15.7 高 8.2 底 5.6	粗砂粒/良好/赤褐色	機製作途中での転用か、外面に輪痕み残が残る。内面へうナズ。
14	土師器 小型壺	口縁部~胴部 上位片	埋土中	口 8.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部から胴部横ナズ、胴部上位へう割り、内面割部はへうナズ。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

経度番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
15 PL-130	土師器 小型甕	口縁部~胴部 中位片	床面上	口 12.0	細砂粒/良好/暗赤褐色	口縁部から胴部狭ナズ。胴部は上位がナズ、中位がへう割り。内面胴部はへうナズ。
16	土師器 甕	口縁部~胴部 中位1/4片	床面上	口 14.3	粗砂粒/良好/暗赤褐色	口縁部狭ナズ。胴部はへう割りをナズしている。内面胴部はへうナズ。
17	土師器 小型甕	口縁部~胴部 下位片	床面上	口 13.8	粗砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部狭ナズ。胴部上位はナズ、中位・下位はへう割り。内面胴部はへうナズ。
18-1	煎茶器 甕	口縁部片	床面上	口 24.6	粗砂粒/還元焼/灰	外面には2段以上の遺状文がある。内面は下半にへうナズ。
18-2	煎茶器 甕	胴部片	床面上		粗砂粒/還元焼/灰	外面は平打ち面が残り、開縁をあけて8段のキキ目。内面には同心円状アノ具痕が残る。

表13 (5) 37号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

経度番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-130	土師器 甕	口縁部~胴部 下位1/3	床面直上	口 13.8	細砂粒/良好/黒褐色	口唇部若干返し。横ナズ。口縁部から胴部はへう割り。内面口縁部へう割り。胴部へうナズ。

表14 (5) 39号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

経度番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-130	土師器 釜台	胴部下半穴縁	床面直上	口 9.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部・胴部内外面ともへう割り。胴部中に3ヶ所の透孔。
2	土師器 甕	口縁部片	伊理土 中	口 16.0	細砂粒/良好/褐色	口縁部は内外面とも頸部から口唇部の縦方向へう割り。
3	土師器 甕	口縁部上半 胴部1/2文	床面直上 底 3.4		細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部から胴部はへう割り。底部はへう割り。内面は口縁部へう割り。胴部はへうナズ。
4 PL-130	土師器 台付甕	口縁部~胴部 下位1/3片	北東縁 床直上	口 16.0	細砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部狭ナズ。胴部ハケ目。内面胴部はへうナズ。
5 PL-131	土師器 台付甕	口縁部~胴部 上半	伊理土 中	口 14.3	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部狭ナズ。胴部ハケ目。内面胴部は縦方向のナズ。
6 PL-131	土師器 台付甕	胴部~胴部下 半	伊理土 脚 9.0		細砂粒/良好/にぶい褐色	胴部ハケ目。胴部はハケ目後ナズ。内面胴部はナズ。胴部端部は若干返し。

表15 (5) 41号住居跡出土遺物観察表 (第57図)

経度番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-131	土師器 甕	1/2	床面直上	口 16.1	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部狭ナズ。胴部は内外面とも頸部厚縁のため不明であるが、外面上位はへう割り。
2 PL-131	土師器 甕	胴部1/4穴縁	床面直上 底 6.0 高 23.0		粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部狭ナズ。胴部上位・中位はナズ。下位はへう割り。外面胴部上半に帯付着。
3 PL-131	土師器 甕	口縁部・胴部 一部穴縁	床面直上 底 7.6 高 24.9		粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部狭ナズ。胴部・底部はへう割り。内面胴部はへうナズ。
4 PL-131	土師器 甕	口縁部~胴部 下位片	床面直上	口 15.7	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部狭ナズ。胴部上位ナズ、中位・下位はへう割り。内面胴部はへうナズ。

表16 (5) 54号住居跡出土遺物観察表 (第58・59図)

経度番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-131	土師器 甕	1/4	南東縁 底 4.3 高 3.9		粗砂粒/良好/褐色	口縁部狭ナズ。体部から底部へう割り。内面は体部から底部にかけてへうナズ。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・整形の特徴
2 PL.131	土師陶 椀	2/3	南東部 壁際	口 11.2 高 4.1 底 4.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部横ナデ。口縁部から体部・底部ともへう磨き。内面も全面へう磨き。
3 PL.131	土師陶 椀	1/3	南東部 壁際	口 11.0 高 5.8 底 4.7	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から体部はへう磨き。底部はへう削り。内面はへう磨き。
4 PL.131	土師陶 椀	1/3	北東部	口 12.4 高 7.4 底 4.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部はへう磨き。底部はへう削り。内面はへう磨き。
5 PL.131	土師陶 器台	1/4	埋土中	口 8.5 高 8.6 脚 5.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。底部から胴部へう磨き。内面は身部がへう磨き。胴部ナデ。胴部に浅孔3カ所。
6 PL.131	土師陶 椀	3/4	埋土中	口 14.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部から底部は手持ちへう削り。内面に放射状へう磨き。
7 PL.131	土師陶 小型壺	ほぼ完形。口 縁部1/2欠損	埋土中	口 10.7 高 8.0 底 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部へう磨き。底部へうナデ。内面胴部はへうナデ。
8 PL.131	土師陶 壺	底部	埋土中		細砂粒/良好/にぶい黄褐	外表面赤色塗彩。胴部から底部はへう磨き。内面はナデ。
9 PL.131	土師陶 台付壺	胴部欠損	埋土中	口 14.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ。胴部ハケ目。内面胴部はへうナデか。
10	土師陶 台付壺	口縁部~胴部 下位1/2	埋土中	口 15.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部ハケ目。上位に縦線くへう削りが残る。内面胴部はハケ目とへうナデ。
11	土師陶 台付壺	胴部	埋土中	脚 8.3	細砂粒/良好/橙	胴部はナデ。部分的にハケ目。内面はナデ。底部は削り返し。
12	土師陶 台付壺	胴部	埋土中	脚 9.0	細砂粒/良好/橙	胴部はナデ。部分的にハケ目。内面はナデ。底部は削り返し。
13	土師陶 壺	胴部~胴部下 位	埋土中	底 5.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐	胴部はハケ目。底部はへうナデか。内面はハケ目。上位は単位不明。
14	土師陶 壺	底部~胴部下 半1/2	南東部 壁際	底 6.4	粗砂粒・角練/良好/赤褐	胴部上位は縦方向へう磨き。下位は横方向へう削り。底部はへう削り。内面はへうナデ。
15 PL.132	土師陶 壺	口縁部~胴部 中位1/2	埋土中	口 14.6	細砂粒/良好/浅黄	内面黒色処理。胴部横ナデ以外、内外面の口縁部。胴部ともへう磨き。

表17 (5) 63号住居跡出土遺物観察表 (第60図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・整形の特徴
1 PL.132	土師陶 小型壺	5/6	ゼット 埋土中	口 7.5 高 5.1 底 2.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部と胴部は内外面ともへう磨き。底部は外面へう削り。内面ナデ。
2	土師陶 小型壺	胴部付瓦片	ゼット 埋土中		細砂粒/良好/にぶい橙	胴部内面に輪模み痕が残る。外表面赤色塗彩か。
3	土師陶 台付壺	口縁部~胴部 中位片	ゼット 埋土中	口 15.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部はハケ目。内面胴部はへうナデ。

表18 (5) 72号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・整形の特徴
1 PL.134	土師陶 小型壺	胴部1/2片	埋土中		細砂粒/良好/にぶい赤褐	胴部上半は横ナデ。中位はナデ。下位から底部はへう削り。内面胴部はへうナデ。
2 PL.134	土師陶 壺	1/2	伊月田	口 12.0 高 7.1 底 3.5×3.2	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口唇部横ナデ。口縁部から胴部はへう磨き。底部はナデ。内面は全面へう磨き。
3	土師陶 台付壺	口縁部~胴部 中位片	伊月田	口 12.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。胴部はハケ目。中位へう削り。内面胴部はナデ。
4	土師陶 台付壺	口縁部~胴部 上位片	伊月田	口 15.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ。胴部はハケ目。内面胴部はナデ。
5 PL.134	土師陶 壺	口縁部~胴部 上位片	伊月田	口 21.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部にへう磨き。胴部はへうナデ。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

表19 (5) 77号住居跡出土遺物観察表 (第62図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土陶器 甕台	脚部片	埋土中		細砂粒/良好/青	脚部中に5ヵ所に穿孔。脚部はへう磨き。内面はナナ。
2 PL.134	土陶器 甕	口縁部1/3穴 頸部	穴穴埋 土 底	口 8.6 高 5.0 底 3.7	細砂粒/良好/青	口縁部上半横ナナ、下半はへう磨き、頸部はへう目、胴部はへう磨き、底部はナナ。
3	土陶器 台付甕	口縁部・胴部 上半片	穴穴埋 土	口 19.5	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナナ、胴部へう目、内面胴部はへうナナ。

表20 (5) 79号住居跡出土遺物観察表 (第63図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.134	土陶器 高杯	脚部	北東壁 際	脚 11.8	細砂粒/良好/明赤褐	脚部内面に輪積み痕が見える。脚部はへうナナ、胴部は横ナナ、内面脚部はへうナナ。
2	土陶器 甕	底部片	北東壁 底	底 7.0	細砂粒/良好/明赤褐	胴部、底部はへう磨り、内面はへうナナ。
3	土陶器 甕	底部・胴部 位片	北東壁 直直	底 8.2	細砂粒/良好/明赤褐	胴部はへう磨り後へう磨り、底部もへう磨き、内面はへうナナ後へう磨き単位不明。

表21 (5) 83号住居跡出土遺物観察表 (第64図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土陶器 台付甕	口縁部片	西東壁 直	口 18.7	細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナナ、胴部はへう目、内面胴部はへうナナ。
2	土陶器 台付甕	脚部片	北東壁 直直	脚 7.5	細砂粒/良好/にぶい青	脚部はへう目、大部分ナナ磨きされている。内面はナナ。

表22 (5) 90号住居跡出土遺物観察表 (第65～67図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.136	土陶器 高杯	口縁部、胴 部一部欠	東東壁 直	口 15.0 高 14.7 底 6.8 脚 11.1	細砂粒/良好/青	脚部内面に輪積み痕が見える。杯身口縁部から体部横ナナ、体部下位へう磨り、底部ナナ、胴部へう磨き、底部横ナナ、内面脚部はナナ。
2	土陶器 高杯	口縁部、胴 部1/3穴	東東壁 土中	口 14.5 高 15.7 底 9.3 脚 12.8	細砂粒/良好/明赤褐	脚部内面に輪積み痕が見える。杯身口縁部横ナナ、体部下位へう磨り、胴部横ナナ、胴部へう磨り、胴部横ナナ後へう磨り、内面脚部はナナ。
3 PL.136	土陶器 高杯	口縁部、胴 部一部欠	東東壁 土中	口 19.1 高 15.6 底 11.2 脚 14.7	粗砂粒/良好/青	器面磨滅のため整形不鮮明。口縁部と胴部横ナナ、底部へう磨り、内面脚部はナナ。
4 PL.136	土陶器 甕	底部	床面直 上	底 9.7 高 7.8 底 2.9 脚 11.7	細砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナナ、胴部へう磨り後、胴部上位から口縁部にへう磨り、内面胴部下位へう磨り。
5 PL.136	土陶器 小甕	口縁部、胴 部一部欠	東東壁 直	口 10.4 高 8.0 底 2.5 脚 10.1	細砂粒/良好/青	口縁部横ナナ、胴部上位・中位ナナ、下位から底部はへう磨り、内面胴部はへうナナ。
6 PL.137	土陶器 台付甕	底部	床面直 上	口 10.2 高 10.3 底 3.8 脚 9.1	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナナ、胴部上位がナナ、中位・下位はへう磨り、脚部は上半がへう磨り、胴部は横ナナ。内面は胴部がへうナナ、胴部はナナ。
7 PL.137	土陶器 台付甕	底部	穴穴埋 土中	口 15.1 高 25.1 底 5.5 脚 9.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナナ、胴部上位上半ナナ、上位下半から胴部はへう磨り、内面は胴部、胴部へうナナ。
8 PL.137	土陶器 台付甕	口縁部	東東壁 直	口 12.7 高 27.6 底 3.4 脚 10.8	粗砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナナ、胴部上位上半ナナ、上位下半から胴部はへう磨り、内面胴部、胴部はへうナナ。
9 PL.137	土陶器 甕	3/4	東東壁 直	口 16.4 高 23.5 底 6.6	細砂粒/良好/にぶい青	口縁部から胴部横ナナ、胴部、底部へう磨り、内面胴部はへうナナ。
10 PL.137	土陶器 甕	口縁部	東東壁 直	口 15.2 高 25.6 底 7.0	細砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナナ、胴部へう磨り後下半へう磨り、底部は肩辺部へうナナ、内面胴部はへうナナ。
11 PL.137	土陶器 甕	底部・胴部 位	床面直 上	底 6.9	粗砂粒/良好/明赤褐	胴部、底部はへう磨り、胴部上位は器面磨滅で単位不明。内面はへうナナ。

第2節 検出された遺構と遺物

探検番号 図説番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
12	土師器 甕	底部-胴部下 部	北西隅 溝	底 8.3	粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部へう削り、底部もへう削り。内面製部はへうナデ。
13	土師器 甕	底部-胴部下 部	甕塚土 中	底 7.8	粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部へう削り、底部もへう削り。内面製部はへうナデ。
14 PL-137	土師器 甕	3/4	北西隅 溝	口 16.4 高 22.2 底 8.0	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、胴部はへう削り後上半はへうナデ。内面製部はハケ目。底部に7 fl.
15	土師器 甕	底部-胴部下 部	甕塚土 上	底 5.0 乳 2.0	粗砂粒/良好/黄	胴部はへう削り後へうナデ。底部はへうナデ。内面製部はへうナデ。
16 PL-137	土師器 甕	完整	甕塚土 上	口 20.9 高 36.8 底 6.0	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部はへう削り後へうナデ。底部は木葉痕が残る。内面製部はへ うナデ。

表23 (5) 97号住居跡出土遺物観察表(第68図)

探検番号 図説番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-137	土師器 甕	胴部/3次層	甕塚土 上	口 8.2 高 4.5 底 2.2×1.5	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部は上半が削り、下半が横方向へう削り。底部へうナデ。内面は へうナデ。
2 PL-137	土師器 甕	完整	甕塚土 上	口 5.6 高 4.8 底 2.4	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。口縁部から体部は内外面へう削り。底部はへう削り。
3 PL-138	土師器 甕	胴部下半2/3	甕塚土 上	口 8.2 高 9.2 底 11.3	粗砂粒・黄/良好/明赤褐色	受口口縁部は横ナデ。体部から胴部上半はへうナデ。胴部は横ナデ。内面製部は へうナデ。胴部上半はナデ。下半はハケ目。
4 PL-138	土師器 甕	胴部	甕塚土 上	脚 12.7	粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部に透孔が上下2段に6カ所。胴部はへう削り。胴部は横ナデ。内面製部はへ うナデ。
5	土師器 甕	口縁部-胴部 台付壁 上位片	甕塚土 上	口 16.0	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ。胴部はハケ目。内面製部はナデ。
6	土師器 甕	口縁部-胴部 台付壁 上位片	甕塚土 上	口 18.8	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部はハケ目。内面製部はナデ。
7	土師器 甕	胴部	甕塚土 上	脚 9.0	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部はハケ目後ナデ。ハケ目わずかに残る。内面はナデ。胴部折り返し。
8	土師器 甕	口縁部小片	埋土中		粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ後、内外面に竹管文を巡らす。
9	土師器 甕	底部-胴部下 半1/2	甕塚土 上	底 8.0	粗砂粒/良好/にぶい黄	胴部は中位がへう削り、下位はへうナデ。底部へう削り。内面は器面剥落のため 形状不明。
10	土師器 甕	底部	甕塚土 上	底 9.3	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部下位へうナデ。底部へう削り。内面はへうナデ。内外面にスス付着。

表24 (5) 102号住居跡出土遺物観察表(第69・70図)

探検番号 図説番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 高杯	杯身片	甕塚土 中	口 18.4	粗砂粒多/良好/赤褐色	内外面とも器面剥落のため形状不明。
2 PL-139	土師器 高杯	杯身3/4	甕塚土 中	口 13.4	粗砂粒/良好/赤褐色	胴部は削付か。口縁部横ナデ。体部ナデ。底部へう削り。
3 PL-139	土師器 甕	完整	甕塚土 中	口 7.0 高 7.9 底 3.0	粗砂粒/良好/黄	口縁部から胴部上位は横ナデ。中位・下位。底部はへう削り。内面製部はナデ。
4 PL-139	土師器 甕	ほぼ完整	甕塚土 中	口 13.8 高 17.1	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。胴部上半はナデ。下半から底部はへう削り。
5 PL-139	土師器 甕	胴部下半1/4	甕塚土 中	口 21.0 高 13.0 底 6.2 乳 1.7	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部上半横ナデ。下半から胴部上半はへうナデ。下半はへう削り。内面製部は へうナデ。
6 PL-139	土師器 甕	ほぼ完整	北西隅 溝	口 14.2 高 18.0 底 3.1	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ。下半から底部へう削り。内面製部はへうナデ。
7 PL-139	土師器 甕	ほぼ完整	北西隅 溝	口 16.2 高 17.0 底 5.4	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ。胴部から底部へう削り。内面製部はへうナデ。
8 PL-139	土師器 甕	口縁部、胴部 一部欠損	甕塚土 中	口 15.6 高 31.8 底 7.8	粗砂粒/良好/暗赤	口縁部横ナデ。胴部はへう削り後、上半をナデしている。内面製部はへうナデ。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

探検番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
9	土師器 壺	底部、胴部 2/3	北東隅 床直	底 7.3	粗砂粒/良好/赤褐色	胴部、底部へう割り、上半と底部は断面厚減のため単位不明。内面はへうナデ。

表25 (5) 108号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

探検番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.140	土師器 杯	2/3	埴土中	口 13.0 高 3.8 径 13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(腹下)から底部は平持ちへう割り。
2 PL.140	土師器 小型壺	口縁部1/2分 箱	埴土中	口 9.5 高 10.9 径 6.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り、底部へうナデ。内面胴部はへうナデ。
3 PL.140	土師器 小型壺	2/3	野穴埴 土中	口 14.8 高 12.2 径 4.8	細砂粒・褐色粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部横方向へう割り、底部に木葉痕が残る。内面胴部はへうナデ。
4	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	野穴埴 土中	口 19.4	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
5 PL.140	土師器 壺	底部~胴部中 位1/3	埴土中	高 6.4	粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	胴部上半はハク目、下半はへう割り。底部もへう割り。内面胴部はへうナデ。
6	土師器 壺	底部	野穴埴 土中	径 7.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部はへう割り状、縁なへう磨き、底部はへうナデ。内面はへうナデ。
7	土師器 高杯	胴部	埴土中		粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部はへう割り、内面はへうナデ。胴部中央3ヶ所に穿孔。
8	土師器 台付壺	口縁部~胴部 上位片	埴土中	口 17.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部ハク目。内面胴部はへうナデ。
9	土師器 台付壺	胴部下位~脚 部上半	埴土中		細砂粒/良好/灰青褐色	胴部ハク目、胴部ハク目後ナデ。内面胴部もハク目、底部ナデ。脚部もナデ。
探検番号 図版番号	器種 種類	出土 位置	計 測 値 (cm, g)		備 考	
10 PL.140	土製品 土鍋	埴土中	長:5.0 径:1.8 孔:1.6 重量:12.0 胎土:黄砂粒 焼成:良好 色調:にぶい黄褐色		胴部、底部ともナデ。	
11 PL.140	土製品 土鍋	埴土中	長:5.5 径:1.3 孔:0.5 重量:7.9 胎土:黄砂粒 焼成:良好 色調:にぶい黄褐色		胴部、底部ともナデ。	

表26 (5) 125号住居跡出土遺物観察表 (第72図)

探検番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.141	土師器 壺	口縁部~胴部 1/2	埴土中	口 12.6	細砂粒/良好/橙	胴部に輪積み痕が残る。口縁部から胴部上位はへう磨き。内面口縁部はへう磨き。

表27 (5) 127号住居跡出土遺物観察表 (第73図)

探検番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 壺	口縁部片	埴土中	口 8.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。
2	土師器 小型壺	口縁部~胴部 片	埴土中	口 15.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデであるが断面割落のため単位不明。
3	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	埴土中	口 17.0	細砂粒/良好/灰青褐色	口縁部横斜状へう磨き。胴部横方向へう割り。内面口縁部横ナデ。口縁部から胴部へうナデ。
4	土師器 壺	口縁部片	埴土中	口 13.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口唇部は折り返し、横ナデ。口縁部は縦方向ハク目。内面口縁部は横方向へう目。

表28 (7) - 1区 2号住居跡出土遺物観察表 (第74~76図)

図記番号 図版番号	土器 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.142	土師器 高杯	杯身部1/2欠	床面直上	口 14.3 高 12.5 底 6.2 脚 19.0	細砂粒/良好/明赤褐	杯身口縁部は横ナデ、体部ナデ、底部へう割り。内面体部は縦方向へう割き、口縁部は放射状へう割き。脚部は縦方向へう割り。胎部は横ナデ、内面脚部はナデ。
2 PL.142	土師器 高杯	脚部下半	埋土中	脚 13.3	細砂粒/良好/にぶい赤褐	内面に輪槽み残る。脚部上半はへう割り。裏面厚縁。胎部横ナデ、内面脚部上半ナデ。
3 PL.142	土師器 高杯	脚部	床面直上	脚 14.0	細砂粒/良好/橙	脚部上半はへう割りナデ、胎部は横ナデ。内面に輪槽み残るが、脚部はナデ。
4 PL.142	土師器 高杯	脚部	床面直上	脚 14.7	細砂粒/良好/橙	脚部上半はへう割りナデ、胎部は放射状へう割き。内面に脚部はへう割りナデ、胎部は横ナデ。
5 PL.142	土師器 甕	底部	北壁際 床面直上	口 8.8 高 11.1 底 3.2	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部上半の上位は胎部へ向けてへう割り。下位はナデ。下半はへう割り。
6 PL.142	土師器 甕	口縁部1/5欠	床面直上	口 9.5 高 10.1	細砂粒・粗砂粒多/良好/橙	口縁部放射状へう割き。胴部へう割り。内面口縁部も放射状へう割き。
7 PL.142	土師器 甕	底部	床面直上	口 10.0 高 9.2 底 4.1	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部上半ナデ。下半から底部へう割り。内面口縁部から底部はへう割りナデ。
8 PL.142	土師器 甕	胴部1/2欠、 底部欠	床面直上	口 8.9 脚 11.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部上半はナデ。下半はへう割り。胴部上半から口縁部にかけて放射状へう割き。内面口縁部にも放射状へう割き。
9 PL.142	土師器 鉢	口縁部1/2欠、 胴部一部欠	床面直上	口 12.4 高 7.6 底 6.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部上半はナデ。下半はへう割り。底部へう割り。内面胴部はへう割りナデ。
10 PL.142	土師器 小型甕	底部	床面直上	口 9.9 高 8.3 底 4.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、胴部上半ナデ。下半から底部はへう割り。内面胴部上半はへう割りナデ。
11 PL.142	土師器 小型甕	底部欠損	裏面直上	口 10.2 高 7.8 底 6.0	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部上位・中位はナデ。下位から底部はへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
12 PL.142	土師器 小型甕	ほぼ底部	床面直上	口 12.2 高 11.2	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部上半はへう割りナデ。下半から底部はへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
13 PL.142	土師器 甕	胴部僅かに欠	床面直上	口 12.9 高 17.6 底 3.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、胴部へう割り。底部へう割り。内面胴部はへう割りナデ。
14 PL.142	土師器 甕	一部欠損	埋土中	口 15.2 高 16.9 底 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り後胴部上半はへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
15 PL.142	土師器 甕	口縁部-胴部 半1/2欠	床面直上	口 15.0 高 20.9	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から底部は横ナデ、胴部から底部はへう割り。裏面厚縁。内面胴部はへう割りナデ。
16 PL.142	土師器 甕	口縁部-胴部 中位	床面直上	口 13.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部から底部は横ナデ、胴部は縦から斜め方向のへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
17 PL.142	土師器 甕	口縁部-胴部 中位1/2片	床面直上	口 12.3	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、胴部はへう割り。裏面厚縁か単位不明。内面胴部はへう割りナデ。
18 PL.142	土師器 甕	口縁部-胴部 上	床面直上	口 14.5	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、胴部はへう割り後胴部上半はへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
19 PL.142	土師器 甕	口縁部-胴部 中位	床面直上	口 15.2	細砂粒・石英/良好/赤	口縁部は横ナデ後下半は縦方向へう割り。胴部は縦から斜め方向のへう割り。内面は口縁部は縦方向へう割り。胎部はへう割りナデ。
20 PL.142	土師器 小型甕	口縁部-胴部 下位1/4片	床面直上	口 15.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部上位はナデ。中位から下位はへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
21 PL.143	土師器 甕	胴部一部欠損	床面直上	口 15.6 高 25.7 底 7.0	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り。胴部上位はナデ。内面胴部はへう割りナデ。下半にへう割り。
22 PL.143	土師器 甕	口縁部-胴部 中位1/4欠	床面直上	口 16.2 高 23.6 底 4.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り後胴部上半はへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
23 PL.143	土師器 甕	底部-胴部 中位	床面直上 孔 1.8×2.4	筒径 5.2	細砂粒/良好/にぶい橙	胴部はへう割り。底部はへう割りナデ。内面胴部はへう割りナデ。
24 PL.143	土師器 甕	底部-胴部 下	床面直上	筒径 3.7	粗砂粒・φ5mm埋角礫/良好/橙	胴部下位は斜め方向のへう割り。内面胴部はへう割りナデ。
25 PL.143	土師器 甕	口縁部1/3欠 一部欠損	床面直上	口 18.9 高 33.2 底 7.0	粗砂粒・褐色粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ、胴部へう割り。下位上位にへう割り。底部へう割り。内面胴部はへう割りナデ。

第3章 古墳時代前半の遺構と遺物

表29 (7) - 1区 8号住居跡出土土物観察表 (第77・78図)

図記番号 採取番号	土器類 品名	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 高杯	杯身部分	埋土中	口 17.6	細砂粒/良好/明褐色	口縁部から体部横ナデ、底部へう割り。
2 PL-143	土師器 高杯	杯身部分/3	埋土中	口 18.4	細砂粒/良好/黄	胴部は貼付、口縁部横ナデ、底部へう割り。
3 PL-143	土師器 高杯	胴部、胴部 1/3欠損	高塚東 部	径 15.3	細砂粒/良好/赤褐色	内面に輪積み痕が残る。外面はへう割り。内面は胴部ナデ、胴部横ナデ。
4	土師器 高杯	胴部片	埋土中		細砂粒/良好/赤褐色	内面に輪積み痕が残る。外面はへう割り、内面はナデ。
5 PL-143	土師器 甕	口縁部1/3欠	高塚東 部	口 9.7 高 10.5	細砂粒/良好/明褐色	口縁部横ナデ、胴部は上位・中位はナデ、下位から底部はへう割り。
6 PL-143	土師器 小甕	胴部下半一部 部/欠損	埋土中	口 10.0 高 11.3	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部は内外面横ナデ後へう割り。外面は胴部から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
7 PL-144	土師器 甕	口縁部欠損	高塚東 部	径 4.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部はへう割り、中位はへう割り。底部はへう割り。内面はへうナデ。
8 PL-144	土師器 甕	口縁部2/3欠 損	高塚東 部	口 19.2 高 26.2 径 6.5	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面は口縁部下半にハタ目、胴部はへうナデ。
9 PL-144	土師器 甕	口縁部1/2欠 損	高塚東 部	口 17.6 高 28.8 径 7.2	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、胴部・底部へう割り。内面は口縁部下半にへうナデ、胴部はへうナデか。
10 PL-144	土師器 甕	口縁部へう割 り下位	埋土中	口 13.6	細砂粒/良好/暗褐色	内外面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半へう割り。内面胴部へうナデ。
11	土師器 台付甕	胴部下位片	埋土中	径 5.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	台部は貼付、胴部ハタ目。内面胴部はナデ。

表30 (7) - 2区 21号住居跡出土土物観察表 (第79-81図)

図記番号 採取番号	土器類 品名	部 位	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	口縁部片	埋土中	口 16.2	細砂粒・雲鉄/良好/にぶい黄褐色	口唇部横ナデ、口縁部ナデ、体部へう割り。内面は斜め放射状へう割り。
2	土師器 甕	1/3	甕埋土 中	口 14.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部へう割り横ナデ、底部へう割り。
3 PL-144	土師器 高杯	口縁部・胴部 の一部欠	甕埋土 中	口 15.6 高 13.8 径 7.8 径 12.6	細砂粒/良好/明赤褐色	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部・底部へう割り。胴部へう割り、胴部横ナデ。杯身内面は口縁部から体部へう割り。底部はへうナデ、胴部ナデ。
4 PL-144	土師器 高杯	杯身部分2/3	甕埋土 床直	口 16.2 径 8.4	細砂粒/良好/赤	口縁部は横ナデ、体部はナデか。底部はへう割り。内面はへう割りか。胴部厚縁。
5 PL-144	土師器 高杯	杯身部分胴部 中央欠損	甕埋土 床直	口 18.8 径 8.6	細砂粒/良好/黄	胴部厚縁のため整形不鮮明。
6	土師器 高杯	杯身片	甕埋土 中	口 18.2 径 8.2	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部には内外面とも放射状へう割り。外面底部はへうナデ。
7 PL-144	土師器 高杯	杯身片	甕埋土 中	口 18.2	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部へうナデ。
8	土師器 高杯	杯身部分1/2	甕埋土 中	口 19.8	細砂粒/良好/黄	口縁部ナデ、体部から底部はナデ。内面は胴部厚縁のため不鮮明。
9 PL-144	土師器 高杯	胴部	埋土中	径 14.9	細砂粒/良好/赤褐色	胴部内面に輪積み痕が残る。胴部はへう割り、胴部は横ナデ、内面胴部はナデ。
10 PL-144	土師器 高杯	胴部	甕右袖 脇床直	径 15.6	粗砂粒/やや軟質/黄	外面は胴部厚縁のため整形不鮮明。内面は輪積み痕が残る。ナデ。
11 PL-144	土師器 甕	胴部一部欠損	上直	口 16.1 高 10.5 径 1.8×2.2	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ。胴部上半はナデ。下半から底部はへう割り。
12 PL-144	土師器 鉢	口縁部1/5欠 損	高塚東 部	口 12.9 高 9.1 径 3.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ。胴部は内外面とも胴部厚縁のため整形不鮮明。外面はへう割りか。
13 PL-144	土師器 甕	2/3, 把手欠損	甕埋土 中	口 20.5 高 27.2 径 9.6	細砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部・底部へう割り。内面へうナデ。胴部中央に一对の把手貼付。
14 PL-144	土師器 甕	口縁部へう割 り	甕埋土 床直	口 19.0	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、胴部から胴部はへう割り。内面胴部から胴部はへうナデ。

第2節 検出された遺構と遺物

経緯番号 図版番号	土器種類 前 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特 徴
15 PL-144	土師器 壺	口縁部~胴部 上位	床面直上	口 21.0	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部はナデとへう割り。内面胴部はへうナデ。
16 PL-144	土師器 壺	口縁部~胴部 上半	埋土中	口 17.6	粗砂粒/良好/にぶい橙	胴部内面に輪積み痕が見える。口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
17	土師器 壺	底部~胴部 中位	埋土中	底 9.2	粗砂粒/良好/にぶい青	胴部の底み大。胴部は、底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
18 PL-144	土師器 壺	底部~胴部 中位	埋土中	底 8.6	粗砂粒/良好/青	胴部はへう割り長へう割り。底部へう割り。内面はへうナデ。器面厚減部分細平部現。
経緯番号 図版番号	器 種	出土 位置	計 測 値 (cm, g)			備 考
19 PL-144	鉄製品 不明	土共 内	全長:(4.3) 幅:1.9 厚:1.0 径:0.3 重量:1.6			細い棒状の湾曲した鉄製品の破片。

表31 (7) - 2区 39-B号住居跡出土土物観察表(第82・83図)

経緯番号 図版番号	土器種類 前 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特 徴
1 PL-145	土師器 杯	3/4	床面直上	口 13.6 高 5.4	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部上半横ナデ。下半・底部はへう割り。内面底部はへうナデ。内面に厚付着。
2 PL-145	土師器 杯	2/3	床面直上	口 13.8 高 5.6	粗砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部へう割り。内面は体部からの底部はへうナデ。
3	土師器 杯	1/3	床面直上	口 14.6 高 5.0	粗砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナデ。体部から底部はへう割り後ナデ?
4	土師器 高杯	杯身部分	甍石地 船床直上	口 15.0 底 8.8	粗砂粒/良好/橙	口唇部横ナデ。口縁部から底部は放射状へう割り。底部へう割り。内面は横ナデ。
5 PL-145	土師器 高杯	杯身1/2片	埋土中	口 16.7 底 9.2	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部から体部は横ナデ。底部はへうナデ。内面はへう割り。器面厚減のため前部不明。
6 PL-145	土師器 高杯	胴部欠損	埋土中	口 19.0 底 9.0	粗砂粒/良好/赤褐	胴部内面に輪積み痕が見える。口唇部横ナデ。口縁部から体部は内外面とも放射状へう割り。底部へうナデ。内面胴部はナデ。
7	土師器 高杯	杯身口縁部 体部片	床面直上	口 18.8	粗砂粒/良好/明褐	口縁部横ナデ。体部へう割り。内面体部はへうナデ。
8 PL-145	土師器 高杯	杯身部分、底 部欠	埋土中	口 20.6	粗砂粒/良好/赤	口縁部は内外面とも放射状へう割り。底部はへうナデ。
9 PL-145	土師器 高杯	胴部片	床面直上	脚 12.6	粗砂粒/良好/橙	胴部内面に輪積み痕が見える。胴部へうナデ。胴部横ナデ。内面胴部はナデ。
10 PL-145	土師器 高杯	胴部片	床面直上	脚 13.8	粗砂粒/良好/にぶい青	内外面とも横ナデ。
11 PL-145	土師器 高杯	胴部片	床面直上		粗砂粒/良好/にぶい赤褐	胴部内面に輪積み痕が見える。胴部へう割り。胴部横ナデ。内面胴部はナデ。下位はへうナデ。
12	土師器 壺	口縁部~胴部	床面直上	口 14.0	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は内外面とも横ナデ。放射状へう割り。底部は横ナデ。
13 PL-145	土師器 小型壺	ほぼ完全形	床面直上	口 11.6 高 8.1 底 4.7	粗砂粒/良好/にぶい青	口縁部横ナデ。胴部・底部へう割り。内面胴部はへうナデ。
14 PL-145	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	埋土中	口 16.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部整形ナデ滑りしている。内面胴部はへうナデ。外面に厚付着。
15 PL-145	土師器 小型壺	口縁部・胴部 の一部欠	埋土中	口 11.4 高 12.6 底 4.8	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ。胴部から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
16 PL-145	土師器 壺	口縁部~胴部 中位片	埋土中	口 16.4	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部横ナデ。胴部上位直方へう割り後ナデ。中位直方へう割り。内面胴部はへうナデ。
17	土師器 壺	胴部片	埋土中		粗砂粒/良好/明褐	胴部はへう割り。器面に粘土などが付着のため不明。内面に輪積み痕が見える。へうナデ。
18	土師器 壺	底部~胴部 中位	埋土中	底 6.6	粗砂粒・粗砂粒/良好/橙	胴部は直方へう割り。器面厚減のため不明。底部はへう割り。内面はへうナデ。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

第1節 古墳時代後半の概要

本項で扱う古墳時代後半とした遺構は、6世紀から7世紀前半に位置付けられる。この古墳時代後半の遺構は、本調査で検出された各時期の遺構の中でも主体を占める。

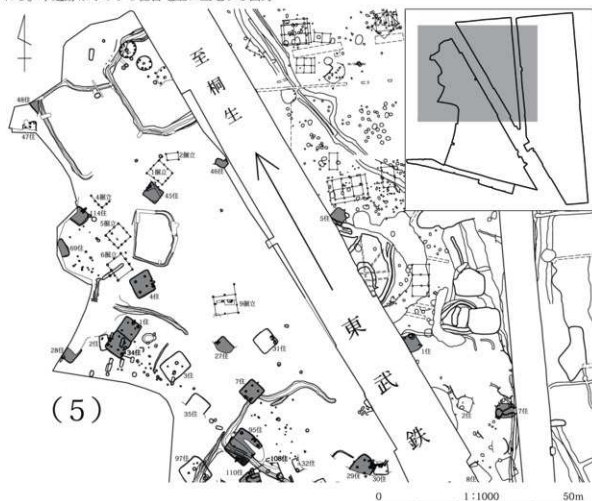
本遺跡周辺で古墳時代後期の集落が確認されている遺跡としては、西長岡宿遺跡、中原遺跡、滝之入前遺跡、六地藏遺跡、成塚住宅団地遺跡、新田遺跡等の各遺跡が知られている。

古墳時代後期から終末期にかけては、八王子丘陵・金山丘陵上や、低台地上に多くの群集墳が形成される。本遺跡はそのうち低台地上に立地する西野

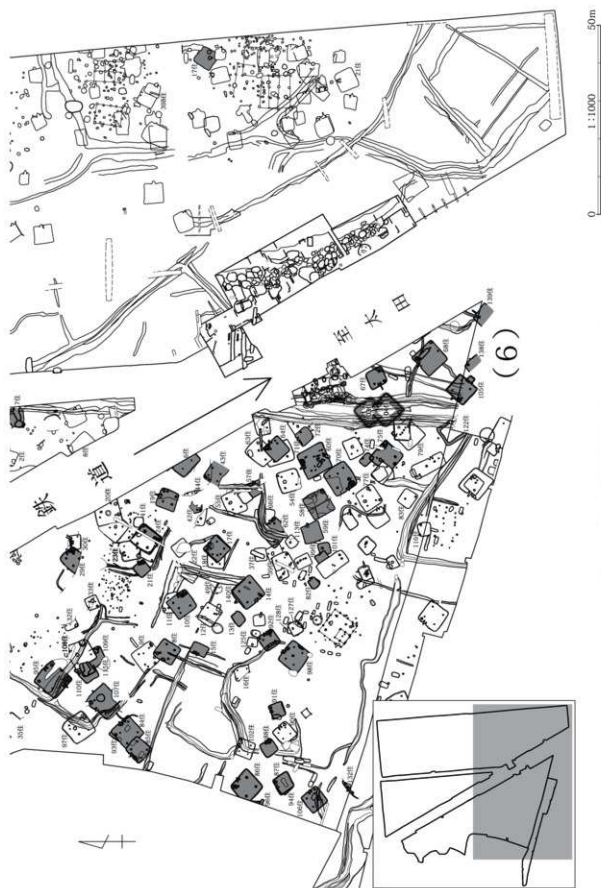
古墳群の一角を占めている。

本遺跡周辺の古墳で最大規模を有するのは、本遺跡の南1.3kmに位置する二ッ山古墳群の2基の前方後円墳で、6世紀後半以降の築造である。また、成塚向山古墳群中の成塚向山2号墳もこの時期の築造である。なお、成塚向山古墳群の北北西400mの位置に、操業が6世紀後半～末と推定される駒形神社埴輪窯跡が存在する。

このように、本遺跡周辺には集落跡と生産跡が多く点在している。



第84図 古墳時代後半遺構配置図(1) (S = 1/1000)



第855図 古墳時代後半遺構配置図(2) (S = 1/7000)

第2節 検出された遺構と遺物

検出された古墳時代後半の遺構には、住居跡をはじめとし、掘立柱建物跡、集石遺構、畚跡や土器集中が検出され、さらには7世紀代前半の古墳群がある。また、該期に属する土坑については判然としない。

検出された住居跡は、西野原遺跡(5)で65軒、(7)―1区は3軒、(7)―2区は1軒あり、(5)と(7)―1区は台地上に、(7)―2区は低地帯の微高地上に立地する。このうち、18軒が古墳と重複しており、いずれも古墳よりも時期は古い。同様に、掘立柱建物跡は6棟、集石遺構は1カ所、畚跡は9カ所、土器集中は3カ所が検出されているが、いずれも(5)の台地上に位置する。なお、土器集中は祭祀遺構の可能性をもち、他の遺構との関連が注視できる。さらに、これらの遺構は古墳の墳丘下で検出されている例も多く、その新旧を確認することができ、併せて古墳築造前の土地利用の様子を窺い知ることができる。

以下、各遺構ごとに記載する。

1. 住居跡

(5) 1号住居跡

(第86・163図、表32、PL.2・122)

位置(座標): X軸=38.381~388、Y軸=-45.344~351。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺5.12m、短辺(4.56)m、壁高35cm。

長軸方向: 北東。

本住居跡は調査区の北西部にあり、住居南壁は34号住居(古墳時代後期)と重複し、本住居の方が古い。また、カマド煙道部先端は39号土坑に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北6mに4号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は暗褐色土をベースとする。床面直上には炭化材が少量ではあるが出

土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、埋土中には大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁中央に位置する。残存状態は比較的良好で、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、燃焼部下部には灰層が確認されている。両袖部は暗灰褐色粘質土で構築され、袖部内側は被熱により焼土化している。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径66×58cm、深さ22cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径21~33cm、深さ6~25cmを測る。

遺物は、カマド周囲から第170図1~3の環が出土している。いずれも稜線のはっきりした坏身横做で、3は有段口縁を持つ。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 4号住居跡(第87・88・164~167図、表33、PL.3・4・122・123)

位置(座標): X軸=38.393~400、Y軸=-45.340~347。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺5.70m、短辺5.68m、壁高62cm。

長軸方向: 東北東。

本住居跡は調査区の北西部にあり、住居北壁と西壁の一部は7号墳周堀に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南6mに1号住居が、北西17mに69号住居がある。

住居の残存状態はあまり良好ではなく、住居中央から北側は床面近くまで礫で埋まっている。やや重んだ平面形状で、僅かに残存する埋土は暗褐色土をベースとする。床面はやや起伏がある。カマドは東壁中央から南寄りに位置し、残存状態は良好で、両袖部は住居内に張り出し、両袖口には礫が残存しており、その間に2個体の甕(第166図26、第167図28)が横位の状態で出土していることから、袖口に礫を立て、天井部に甕を渡していたものと想定される。

さらに燃焼部中央部からは2個体の甕（第166図25、第167図27）が正位の状態と並んで残存していることから、天井部からそのまま崩落したものと考えられる。貯蔵穴はカマド右脇の住居南東隅に位置し、径68×60cm、深さ22cmを測り、第165図17の鉢と166図29の甕が出土している。主柱穴は4本検出され、規模は径30～53cm、深さ11～31cmを測る。

遺物の出土状況は良好で、床面全体から豊富に出土しており、残存率も比較的良好。須恵器の鉢、播り鉢、甕、土師器の坏、高坏、甕、小型甕、甕、小型甕が出土している。このうち坏は13点ほど出土しており、その中で有段口縁を持つものは9点、内外面を漆塗りしている坏が4点ほどあった。なお、住居西壁際で長さ13cm前後、幅5cm前後の薦編み石がまとまって出土しているが、図示できなかった。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 6号住居跡（第89・168図、表34、PL.4）

位置(座標)：X軸=38.315～324、Y軸=-45.257～264。

形状：不明。

規模：長辺6.90m、短辺?m、壁高60cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区中央部より東側にあり、住居東側半分が調査区外となる。5号墳と重複するが、本住居の方が古い。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北西4.5mに19号住居が、西7mに42号住居が、南西3mに43号住居がある。

住居の残存状態は悪く、埋土上面は攪乱を大きく受けている。確認できた埋土の状況は、白色軽石を多く含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、住居周縁部に灰が確認されている。カマドは北西壁に位置するが、調査区境界に接しているため、検出できた部分のごく僅かである。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は少なく、カマド左袖部付近の床面直上で第168図2の壺の底部片が出土した他、埋土中から

坏と壺の小片が出土している。1の坏は坏蓋の模倣である。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 7号住居跡（第90・169・170図、表35、PL.4・5・123・124）

位置(座標)：X軸=38.365～371、Y軸=-45.312～318。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.06m、短辺4.75m、壁高61cm。

長軸方向：南西。

本住居跡は調査区中央部よりやや北側にある。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南7mに95号住居が、北西8mに27号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好。埋土は黒褐色砂質土をベースとし、床面はほぼ平坦である。カマドは新旧の2基が検出された。新しいカマドは南西壁中央に位置する。残存状態は比較的良好で、暗灰色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。古いカマドは北東壁中央からやや北寄りに位置し、残存状態は悪い。貯蔵穴は新しいカマド左脇の住居南隅に位置し、径68×54cm、深さ17cmを測り、第170図5の鉢と7の甕が出土している。主柱穴は4本検出され、規模は径30～44cm、深さ12～30cmを測る。

遺物の出土状況は、新しいカマド周囲が比較的良好で、模倣坏や鉢、甕が出土しており、3の有段口縁坏は器面に漆塗りをしている可能性がある。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

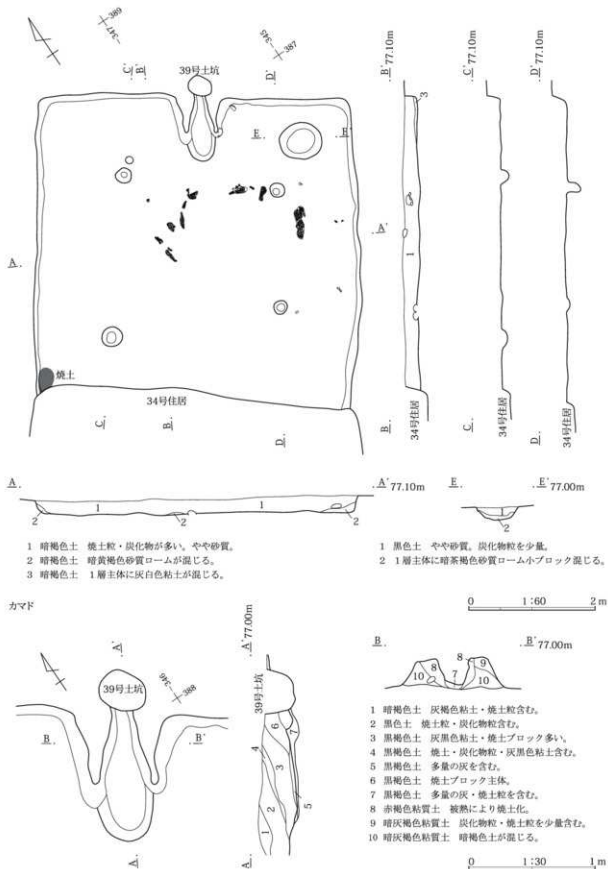
(5) 8号住居跡（第91・171・172図、表36、PL.5・124）

位置(座標)：X軸=38.320～327、Y軸=-45.306～313。

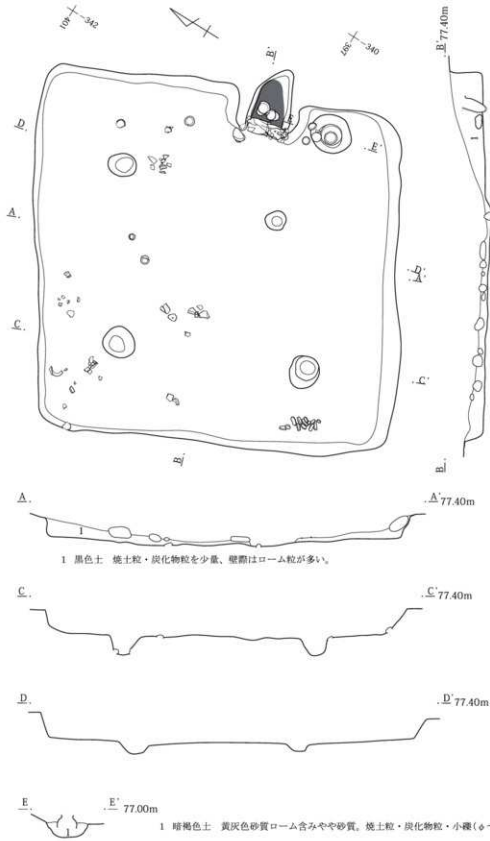
形状：隅丸方形。

規模：長辺5.70m、短辺5.39m、壁高31cm。

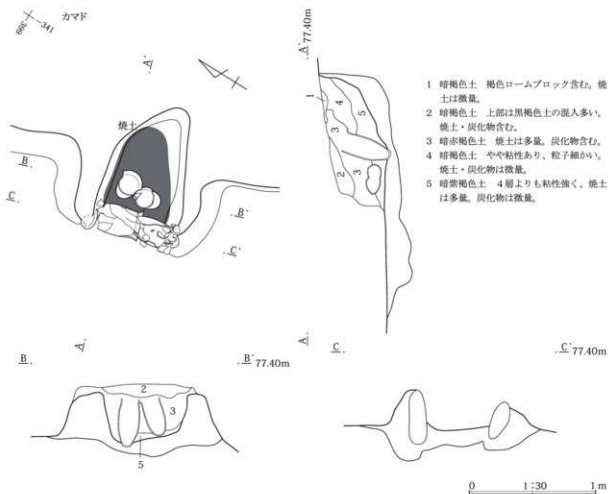
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第86図 (5) 1号住居跡・カマド平面図



第87図 (5) 4号住居跡平面図



第88図 (5) 4号住居跡・カマダ平面図

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、9号住居（古墳時代前期後半）と重複し、本住居の方が新しい。また、住居南西壁の一部は14号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南2mに15号住居が、東6.5mに10号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好。埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマダ前から中央にかけて硬化が著しい。カマダは西壁のほぼ中央に位置する。暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。右袖口には礫が残存する。貯蔵穴はカマダ右側の住居北隅に位置し、径72×65cm、深さ32cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径35～48cm、深さ26～39cmを測る。

遺物の出土状況は、カマダ内とその周囲が良好で、第171図1の坏身模倣と2の坏蓋模倣、3の有段口縁坏は放射状の暗文を持つ。その他に甕、小型甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 10号住居跡 (第92・93・173図、表37、PL. 6・124)

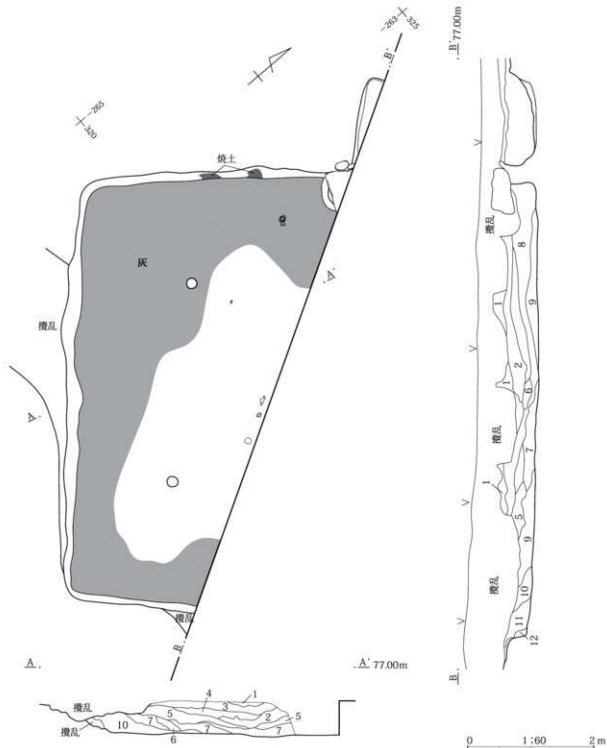
位置(座標)：X軸=38.316～324、Y軸=-45.293～301。

形状：隅丸方形。

規模：長辺6.14m、短辺5.88m、壁高22cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の中央部にあり、11号住居（古

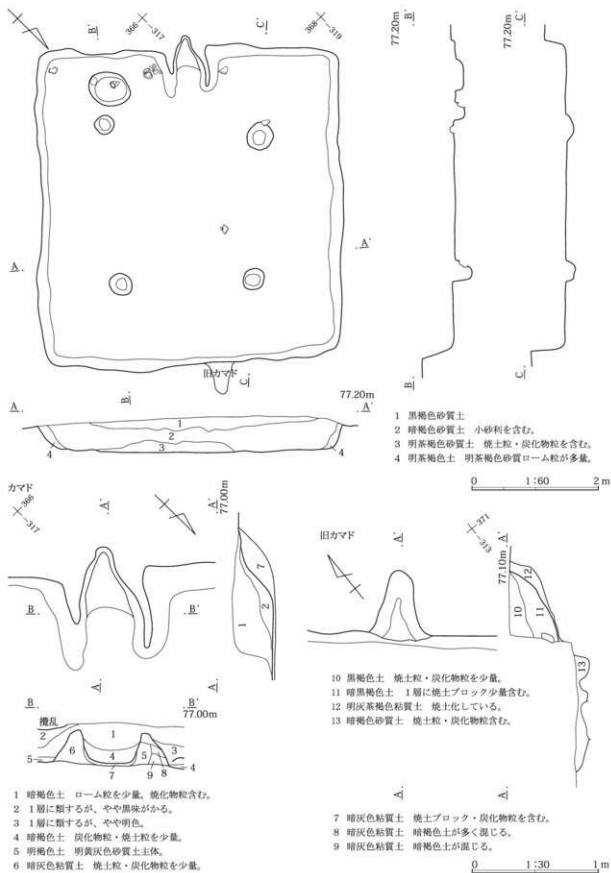


- 1 暗褐色土 ローム粒・白色軽石多い、しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 黒褐色土主体にロームブロック・暗褐色土を含む。
- 3 2層に類するが暗褐色土の比率多く、ローム少量。
- 4 2層に似る。ローム粒・白色軽石多い。
- 5 黒褐色土 ロームブロック多い。黒褐色土・暗褐色土を含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック多い。
- 7 2層に類するが、ブロックやや多く、黒色土ブロック含む。

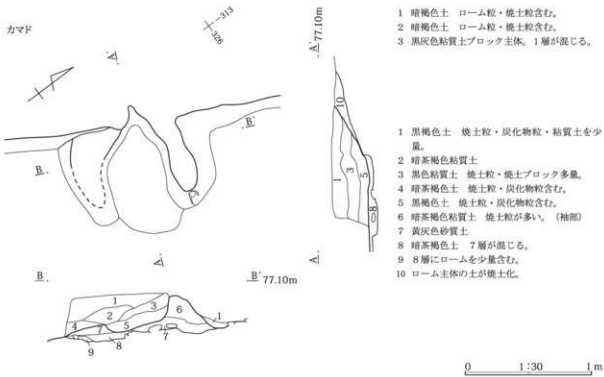
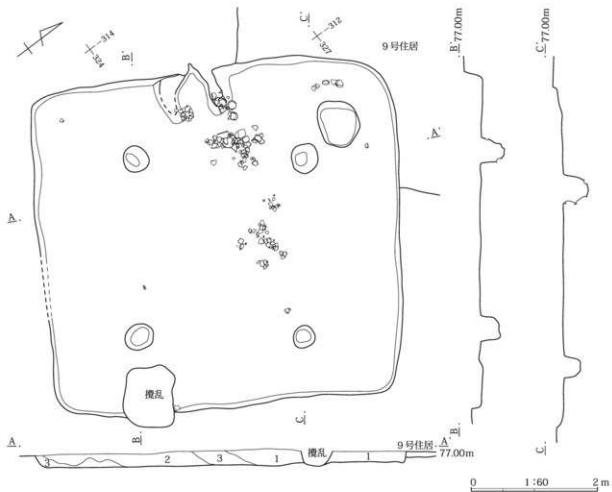
- 8 2層に類する。
- 9 暗褐色土 ローム粒・黒色土を含む、部分的に焼土粒含む。
- 10 暗黄茶褐色土 ローム粒主体。含有物少ない。
- 11 暗褐色土 白色軽石・ローム粒・黒色土粒を少量。
- 12 暗褐色土 含有物少ない。10層に類するが暗色。

第89図 (5) 6号住居跡平面図

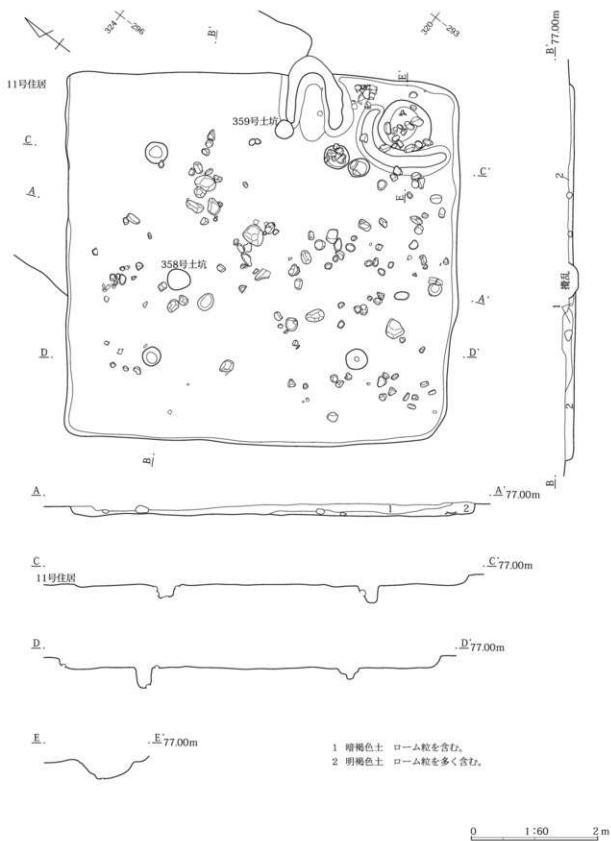
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



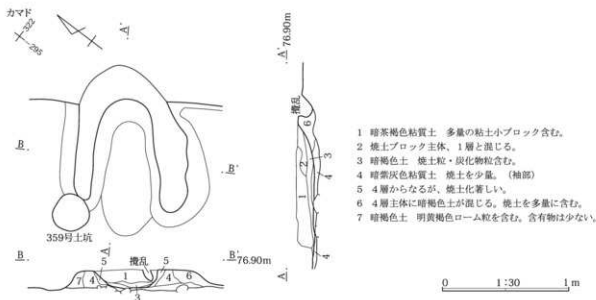
第90図 (5) 7号住居跡・カマド・旧カマド平面図



第91図 (5) 8号住居跡・カマド平面図



第92図 (5) 10号住居跡平面図



第93図 (5) 10号住居跡・カマド平面図

墳時代前半) と重複するが、本住居の方が新しい。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の西6.5mに8号住居が、南西7mに15号住居が、北東9mに21号住居がある。

住居の残存状態はあまり良くなく、壁高は低い。埋土は暗褐色土をベースとする。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央から南寄り位置する。暗紫灰色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径84×80cm、深さ30cmを測り、第173図5の有段口縁環が出土している。この貯蔵穴の周囲を幅40cm前後、高さ7cmほどの台形状の高まりが取り囲む。5本検出されたピットのうち主柱穴は4本で、規模は径28～36cm、深さ17～32cmを測る。

遺物の出土状況は、貯蔵穴周囲が良好である。環は6点で最も多く、そのうち漆塗りをしている可能性を持つものが3点ほどある。他に甕の底部片が出土しており、8の台付甕は混入品と考えられる。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 13号住居跡 (第94・174図、表38、PL.124)
位置(座標): X軸=38.303～306、Y軸=-45.299～303。

形状: 隅丸長方形。

規模: 長辺3.49m、短辺2.90m、壁高49cm。

長軸方向: 北東。

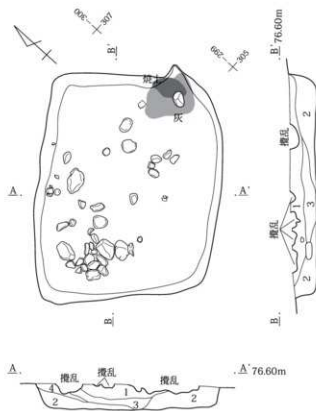
本住居跡は調査区中央部よりやや南側にある。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ東側に140号住居が、南西5.5mに92号住居がある。住居形状は、主軸方向に対し縦長となる。

住居の残存状態はあまり良くなく、埋土上面は攪乱を多く受けている。埋土は白色軽石を含んだ黒褐色土をベースとする。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは住居東隅近くに位置し、袖部は検出されなかったが、燃焼部底面には薄く灰が確認され、燃焼部内には支脚石が残存する。貯蔵穴や柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は少なく、坏蓋の模倣坏2点が北西壁の床面直上で出土した他は、埋土中から鉄製品の用途不明の金具が出土しているのみである。

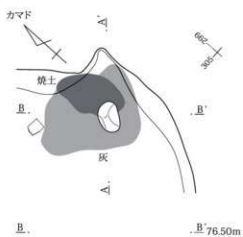
出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・白色軽石含む。
- 2 明褐色土 炭化物粒・ローム粒多量。
- 3 黒色土 含有物を少量含む。
- 4 暗褐色土 炭化物粒を少量含む。

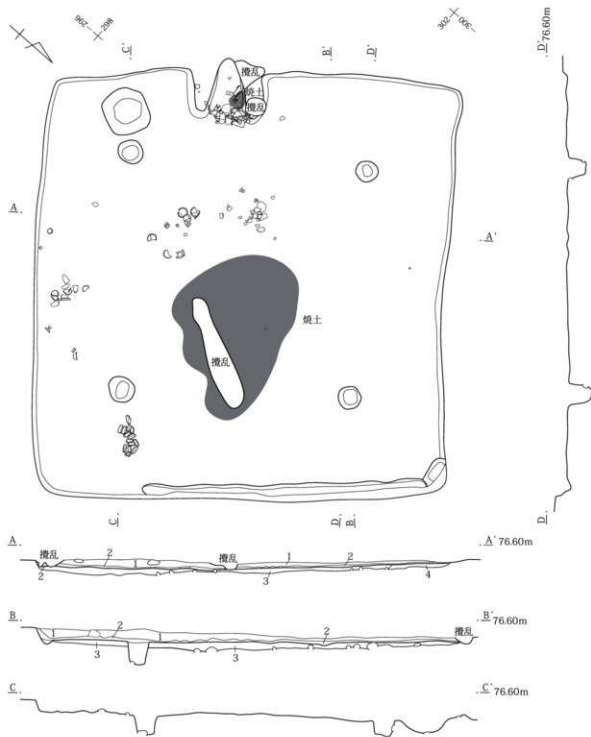
0 1:60 2 m



- 1 明茶褐色砂質土 小礫を含む。
- 2 暗褐色土 焼土と灰が主体。
- 3 暗褐色土 灰・焼土ブロック・暗紫灰色粘質土ブロック含む。
- 4 暗褐色土 上部に焼土ブロック多量。灰が混じる。
- 5 褐色土 焼土粒を少量含む。

0 1:30 1 m

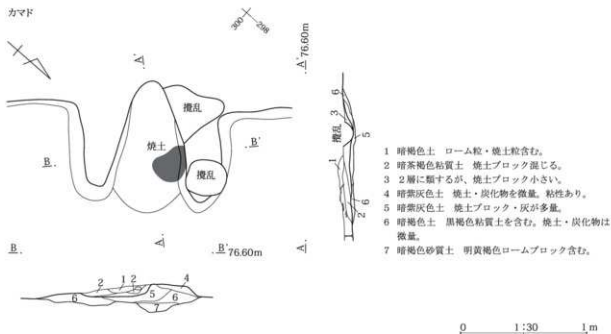
第94図 (5) 13号住居跡・カマド平面図



- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰白色軽石粒を多量に含む。
- 2 暗褐色土 褐色ロームブロックを多量に含む。1層より明色。
- 3 黒褐色土 (掘方)
- 4 暗褐色土 ローム粒を微量に含む。焼土粒・炭化物・小礫(φ5~20mm)を少量含む。

0 1:60 2m

第95図 (5) 14号住居跡平面図



第96図 (5) 14号住居跡・カマド平面図

(5) 14号住居跡 (第95・96・175・176図、表39、

PL. 6・7・125)

位置(座標): X軸=38.298~306、Y軸=-45.290
~299。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺6.70m、短辺6.50m、壁高37cm。

長軸方向: 南西。

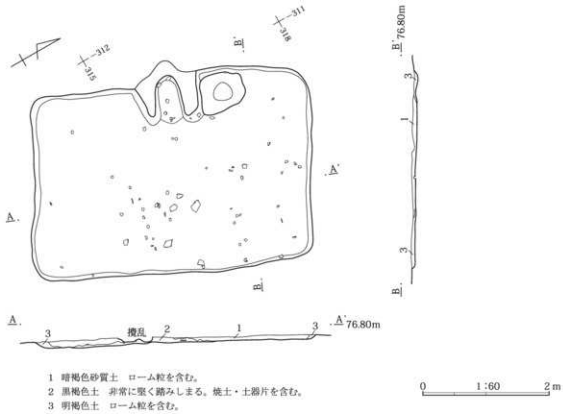
本住居跡は調査区中央部よりやや南側にある。調査時は、本住居の北西壁近くに重複する遺構として140号住居(古墳時代後期)を調査しているが、整理して検討した結果、同一の住居の可能性が高いことが分かった。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北西側に13号住居が、南西8mに92号住居がある。

住居中央部は床面直上まで掘乱の影響を受けており、壁高は低く、残存状態は良くない。埋土は色軽石を多く含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、住居中央には焼土が広く分布している。カマドは南西壁中央からやや南寄りに位置、一部で掘乱の影響を受けている。両袖部は住居内に灰白大

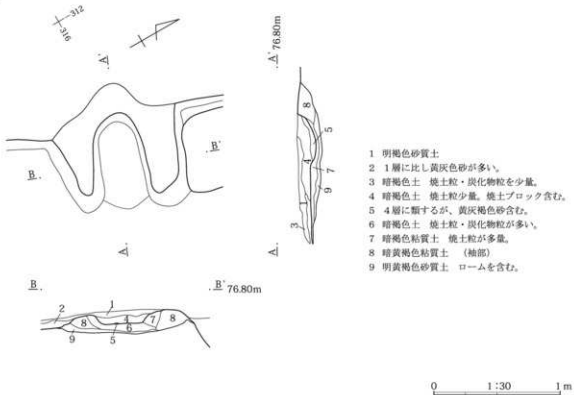
きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。燃焼部内から支脚石が出土しているが、現位置を留めていない。両袖口の間には第175図11、176図12・13の壺が横位の状態で出土している。なお、本カマドは140号住居として調査したカマドと合わせ新旧の2基を持ち、残存状況から新しい方のカマドと思われる。貯蔵穴はカマド左脇の住居南隅に位置し、径80×76cm、深さ26cmを測る。支柱穴は4本検出され、規模は径33~43cm、深さ25~35cmを測る。壁周溝は住居北東壁で確認され、幅25cm前後、深さ4cmを測る。掘方をもち、深さは4~10cmほどである。

出土遺物はカマドの他、住居中央部の床面直上で7点の坏がまとまって出土している。このうち、5・7・8の坏は放射状の暗文を持つ。なお、住居東隅近くで長さ13cm前後、幅5cm前後の薦編み石がまとまって出土しているが、図示できなかった。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。



カマド



第97図 (5) 15号住居跡・カマド平面図

(5) 15号住居跡

(第97・177図、表40、PL.7・125)

位置(座標)：X軸=38.312~317、Y軸=-45.307~311。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺4.37m、短辺3.22m、壁高25cm。

長軸方向：西北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居北壁と南壁の一部は17号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北2mに8号住居が、北東7mに10号住居がある。住居形状は、主軸方向に対し横長となる。

住居の残存状態は悪い。埋土は暗褐色砂質土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは西壁中央に位置し、残存状態は悪いが、明黄褐色粘質土で構築された袖部を検出することができた。貯蔵穴はカマド右脇に位置し、径70×58cm、深さ27cmを測る。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は小片が多く図示できなかったが、埋土中から石製品が4点出土している。177図1の刀子形は穿孔1箇所にてビーズがはめ込まれて残存している。2~4は大きさは異なるもののほぼ同形の剣形が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 17号住居跡 (第98・99・178・179図、表41、

PL.8・9・125・126)

位置(座標)：X軸=38.307~314、Y軸=-45.279~286。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.47m、短辺5.45m、壁高33cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の中央部にあり、18号住居(古墳時代前期後半)と重複するが、本住居の方が新しい。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南西8mに14号住居が、南9mに62号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好。埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。住居東隅の床面上では焼土が確認されている。カマドは北東壁中央からやや北寄りに位置する。暗褐色土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、両袖の心材に礫を使用している。燃焼部は住居壁の内側に作られる。貯蔵穴はカマド左脇の住居北隅に位置し、径145×100cm、深さ17cmを測り、第178図16の鉢と第179図19・21の甕が出土している。主柱穴は4本検出され、規模は径28~36cm、深さ19~32cmを測る。壁溝は南東壁と北西壁で確認されており、幅27cm前後、深さ4~10cmを測る。掘方を持ち、深さは7cmほどである。遺物の出土状況は、カマド両脇と貯蔵穴周囲が良好で、残存率も良い。図示した19点におよぶ遺物がそこに集中する。このうち坏は13点ほどあり、いずれも模倣でないしは有段口縁坏である。また、その中で内外面塗装は6点ほどある。他に碗、鉢、甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 19号住居跡

(第100・180図、表42、PL.9・126)

位置(座標)：X軸=38.320~326、Y軸=-45.267~273。

形状：隅丸方形。

規模：長辺(5.15)m、短辺5.05m、壁高38cm。

長軸方向：北北東。

本住居跡は調査区中央部より東側にあり、住居西側半分は5号墳周堀に床面下まで壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南西3.5mに42号住居が、南東4mに6号住居がある。

住居の残存状態はあまり良好ではない。埋土は軽石粒子を多く含んだ暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁のほぼ中央に位置する。残存状態は悪いが、右袖部を一部検出することができた。貯蔵穴はカマド右脇の住居北東隅に位

置し、径73×69m、深さ19cmを測り、第180図2の坏蓋模倣が出土している。主柱穴は4本検出され、規模は径31～60cm、深さ12～24cmを測る。掘方をもち、深さは10cm前後である。

出土遺物は少なく、1の須恵器の短頸壺がカマド前から出土した他、掘方埋土中から4・5の甕が出土している。なお、この図示した2点の甕は同じ出土位置であることから、同一個体と思われる。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 21号住居跡

(第101・181図、表43、PL.10・127)

位置(座標)：X軸=38.328～332、Y軸=-45.285～290。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.74m、短辺3.74m、壁高50cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居北西壁と南西壁の一部は31・32号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の東2mに24号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は軽石粒子を含んだ明黄灰色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央からやや南寄りに位置する。暗茶灰色粘質土で構築された両袖部は住居内に張り出し、燃烧部袖部内側は被熱で焼土化している。なお、燃烧部から袖口にかけて灰が薄く広がっている。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径65×56cm、深さ35cmを測る。この貯蔵穴の周囲を幅45cm、高さ5cmほどの台形状の高まりが取り囲む。柱穴は未検出である。

出土遺物は少なく、住居中央部床面直上から第181図2の有段口縁杯が、カマド前庭部付近から4の甕片が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 24号住居跡 (第102・103・182～184図、表44、PL.11・12・128・129)

位置(座標)：X軸=38.325～333、Y軸=-45.276～284。

形状：隅丸方形。

規模：長辺6.49m、短辺6.07m、壁高46cm。

長軸方向：南西。

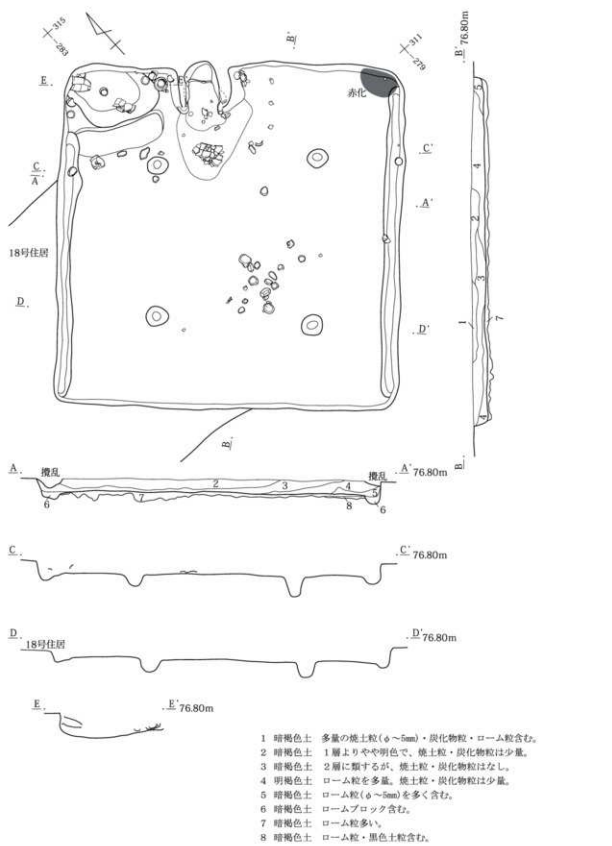
本住居跡は調査区の中央部にあり、25号住居(弥生時代)、23・41号住居(古墳時代中期)と重複するが、本住居の方が新しい。カマド左側から北壁にかけて覆土によって床面下まで壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の西2mに21号住居が、南東6mに19号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは南壁のほぼ中央に位置する。暗灰褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃烧部は住居壁の内側に作られる。両袖口には礫が残存しており、その間に第183図5、第184図7・9の甕が横位の状態で出土していることから、袖口に礫を立て、天井部に甕を渡していたものと想定される。貯蔵穴は2基検出されている。1基はカマド左脇の住居南隅に位置し、規模は径80×62cm、深さ30cmを測る。この貯蔵穴の周囲を幅35cm前後、高さ8cmほどの台形状の高まりが取り囲む。もう1基は住居東隅に位置し、規模は径73×70cm、深さ18cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径52～74cm、深さ19～41cmを測る。P4埋土中からは、第182図1の坏身模倣が出土していて、内外面を漆塗りしているものと思われる。壁周溝はほぼ全周しており、幅約30cm、深さ8cm前後を測る。

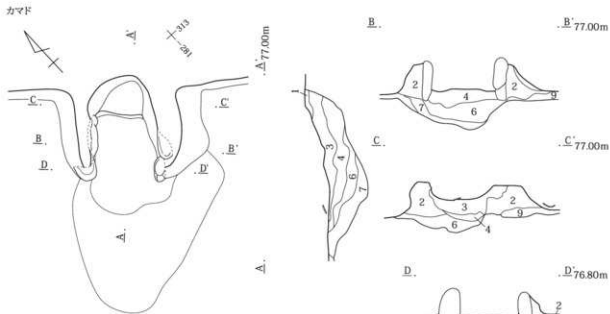
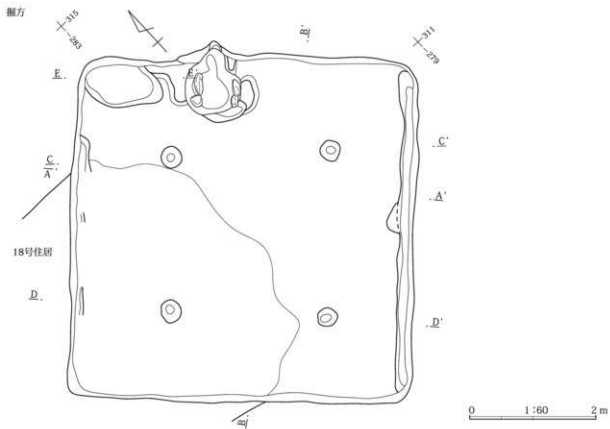
出土遺物は土師器の坏、高坏、甕などが出土しており、第183図6の甕は、ほぼ完形の状態です住居西壁際から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第98図 (5) 17号住居跡平面図

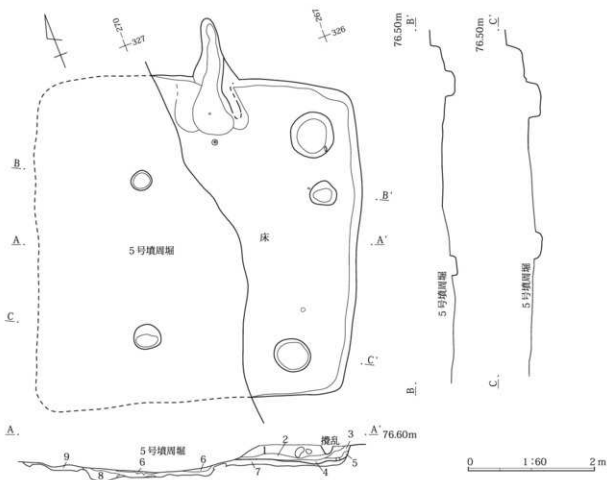


- 1 紫灰色粘質土 焼土・炭化物を少量。
- 2 暗褐色土 紫色を帯びる。焼土・炭化物を少量。(袖部)
- 3 2層の土に多量の焼土粒・灰含む。
- 4 暗紫灰色土 焼土粒非常に多い。炭化物は多量。
- 5 暗褐色土 暗紫灰色土ブロック・焼土・炭化物含む。
- 6 暗褐色土 明黄灰色ロームが多量。焼土粒含む。
- 7 暗褐色土 明黄灰色ローム30%。

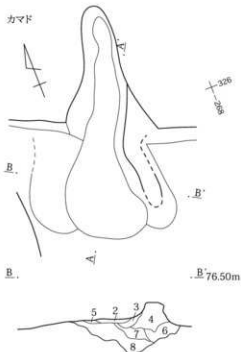
- 8 暗褐色土 明黄灰色ローム40%。焼土・炭化物含む。
- 9 暗褐色土 暗黄灰色ローム・黒色土ブロック含む。
- 10 暗褐色土 明黄灰色ロームブロック含む。含有物少ない。

第99図 (5) 17号住居跡掘方・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



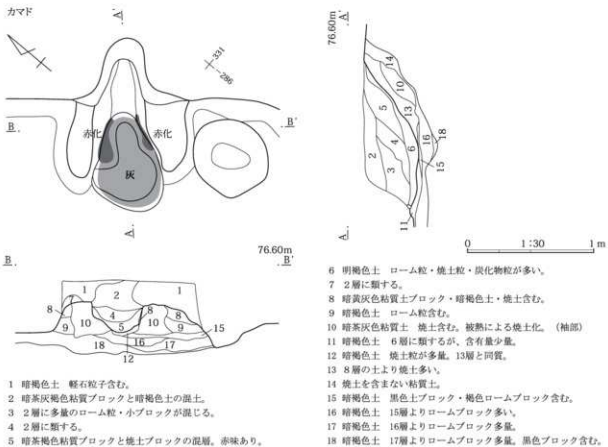
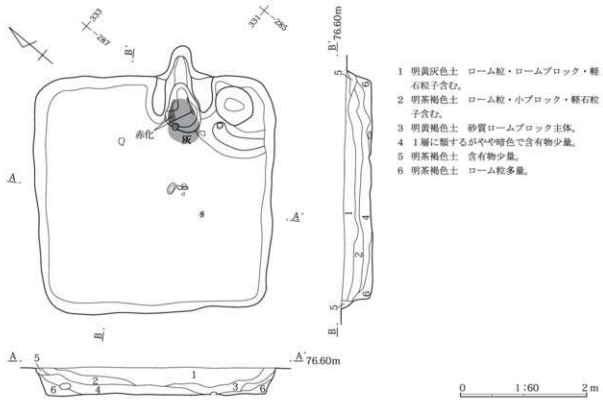
- 1 暗褐色土 軽石粒子が多量。
- 2 暗褐色土 1層の土よりやや粘りある。上部にロームブロック含む。
- 3 2層の土より黒み強い。軽石粒子が多量。
- 4 暗褐色土 ロームブロックが多量。
- 5 暗褐色土 1～3層の土より黒み強い。含有物少ない。
- 6 黒褐色土 焼土粒・黄褐色ローム粒を微量含む。
- 7 黄褐色土 灰黄褐色ロームを多量に含む。焼土粒・炭化物は微量。
- 8 暗褐色土 灰黄褐色ロームが多量。
- 9 暗褐色土 褐色ローム含む。焼土粒は微量。



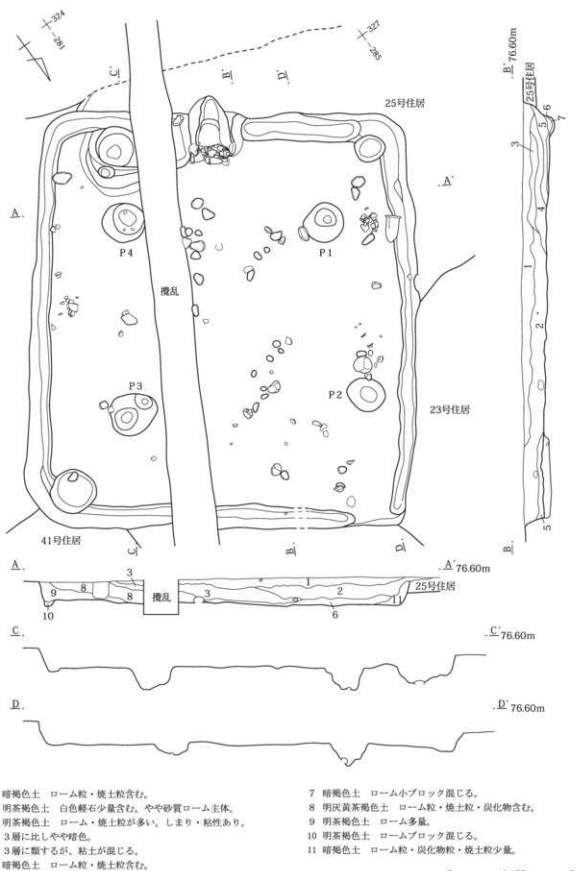
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒が多量。軽石粒子は微量。
- 2 暗紫褐色土 焼土粒・灰は多量。
- 3 暗褐色土 赤み帯びる。灰を含む。
- 4 暗褐色土 暗紫褐色土ブロック・明黄褐色ロームブロック・焼土・軽石粒子を含む。
- 5 8層に似るが、やや明色。
- 6 ロームブロック・炭化物粒が多量。
- 7 暗褐色土 ロームは20%程度。焼土粒は多量。
- 8 暗褐色土 焼土粒・灰・明黄褐色ローム粒含む。

第100図 (5) 19号住居跡・カマド平面図

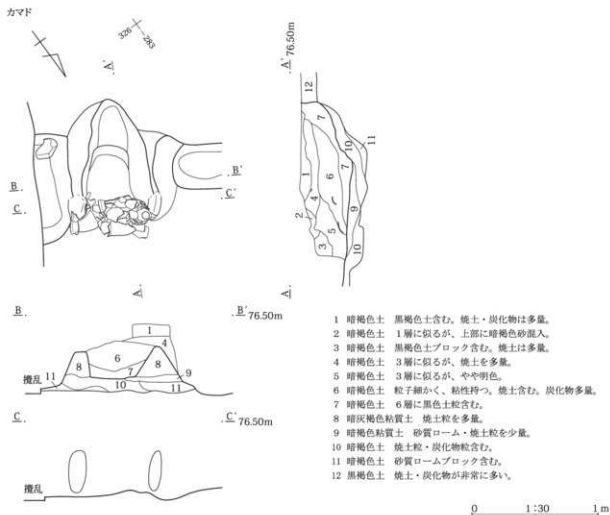
第2節 検出された遺構と遺物



第101図 (5) 21号住居跡・カマド平面図



第102図 (5) 24号住居跡平面図



第103図 (5) 24号住居跡・カマド平面図

(5) 27号住居跡 (第104・185図、表45、PL.12)

位置(座標): X軸=38.378~383、Y軸=-45.319
~325。

形状: 不明。

規模: 長辺?m、短辺?m、壁高18cm。

長軸方向: 北西。

本住居跡は調査区中央部より北側にあり、住居の西側から南東側にかけて1号墳周堀に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南東9mに7号住居がある。

住居の残存状態は非常に悪く、壁高は低い。そのため、埋土や床面の状況は不明である。カマドは北西壁に位置し、残存状態は悪いが、両袖部は住居内

に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道は壁内に取まる。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は極僅かで、第185図1の甕がカマド左袖口前から出土しているのみである。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

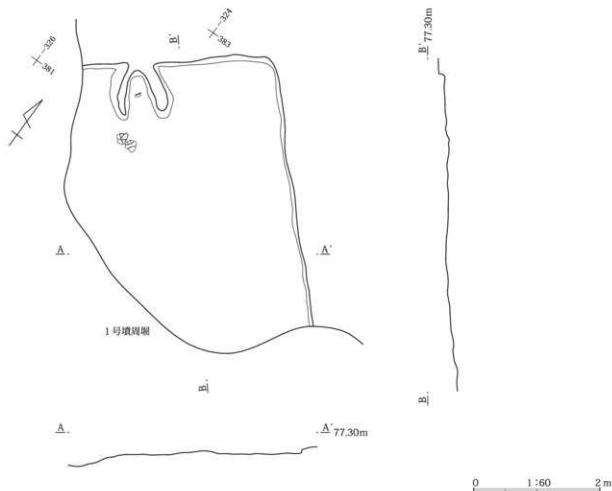
(5) 28号住居跡 (第105・186図、表46、PL.12)

位置(座標): X軸=38.376~380、Y軸=-45.360
~366。

形状: 不明。

規模: 長辺4.63m、短辺?m、壁高22cm。

長軸方向: 南南西。



第104図 (5) 27号住居跡平面図

本住居跡は調査区の北西部端にあり、住居の西側半分が調査区外となる。住居北側は7号墳周堀に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の東7mに34号住居がある。

住居の残存状態は悪く、壁高は低い。埋土は明黄褐色砂質土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは南西壁に位置するが、残存状態は悪い。煙道部は燃焼部底面より一段高い位置にあり、住居壁から125cmほど張り出す。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は少なく、カマド掘方埋土中から土師器の壺片が、住居中央部床面直上で外面漆塗りの有段口縁杯の小片が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えら

れる。

(5) 29号住居跡 (第106・187・188図、表47、PL. 12・13・129)

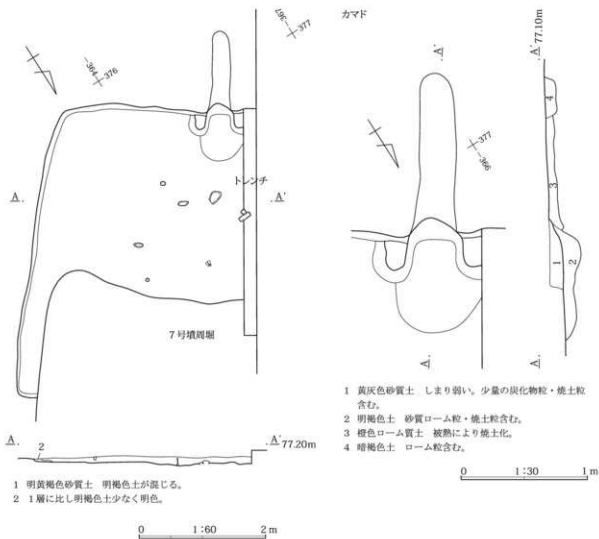
位置(座標)：X軸=38.346~352、Y軸=-45.282~289。

形状：隅丸長方形。

規模：長辺?m、短辺5.33m、壁高76cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや北東側にあり、30号住居(古墳時代中期)を壊しており、住居南側は4号墳周堀に、東隅は8号溝に壊されている。カマドの東側は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南13mに21・24号住居



第105図 (5) 28号住居跡・カマド平面図

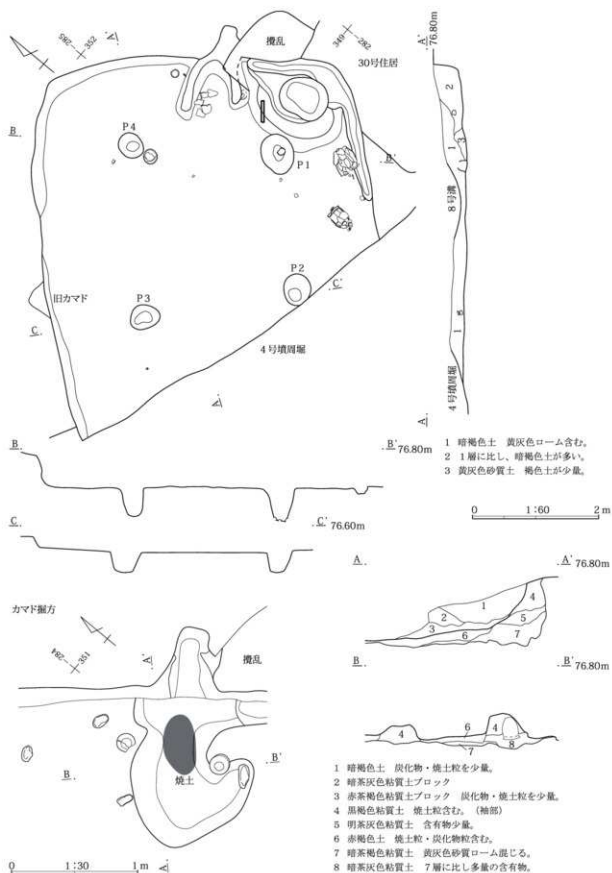
がある。住居形状は、長軸方向に対し縦長となる。

住居の残存状態は比較的良い。埋土は暗褐色土をベースとし、床面はほぼ平坦である。カマドは新旧の2基が検出された。新しいカマドは北東壁のほぼ中央に位置し、黒褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出す。右袖部心材には礫と逆位の小型甕(第187図5)を、左袖部心材には坏蓋模倣(第187図3)を使用したと思われる。燃燒部は住居壁の内側に作られ、埋土中から第188図8の甕が出土している。古いカマドは北西壁に位置し、残存状態は悪い。貯蔵穴は新しいカマド右脇の住居東隅に位置し、径78×62cm、深さ44cmを測る。この貯蔵穴の

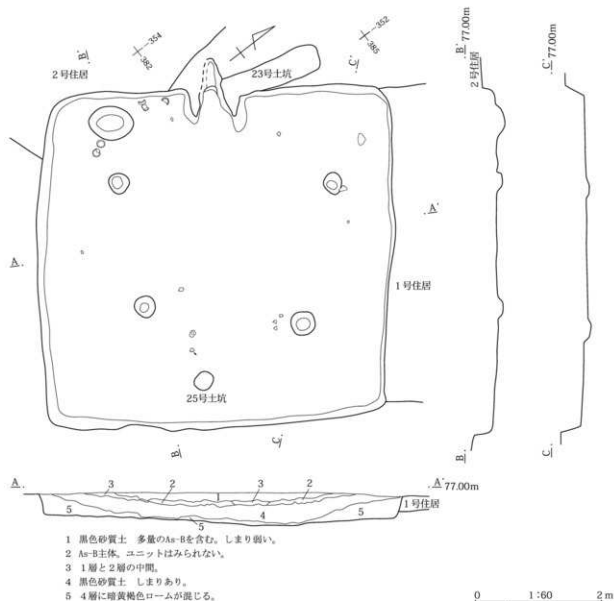
周囲を幅35cm前後、高さ5cmほどの台形状の高まりが取り囲む。主柱穴は4本検出され、規模は径37~65cm、深さ33~54cmを測る。なお、P1の底部からは第187図2の坏身模倣が出土している。壁間溝は住居東隅で一部確認されており、幅23cm、深さ8cm前後を測る。

出土遺物はカマドと貯蔵穴周囲で多く出土しており、土師器の坏、鉢その他、第187図6と第188図7の甕は、住居壁際の床面直上で出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。



第106図 (5) 29号住居跡・カマド掘方平面図



第107図 (5) 34号住居跡平面図

(5) 34号住居跡

(第107・189図、表48、PL.15・130)

位置(座標)：X軸=38.377~384、Y軸=-45.347
 ~354。

形状：隅丸方形。

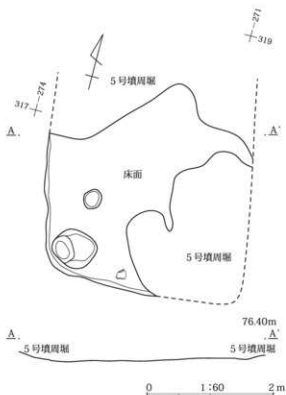
規模：長辺5.64m、短辺5.38m、壁高42cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の北西部にあり、2号住居(古墳時代前半)と1号住居(古墳時代後期)を壊して

おり、19・22~25号土坑に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の西7mに28号住居が、北東10mに4号住居がある。

住居の残存状態は比較的良く、埋土は黒色砂質土をベースとし、土層断面の観察から、レンズ状に堆積している。床面は中央がやや低く若干窪んでいる。カマドは北西壁中央に位置し、残存状態は悪いが、両袖部は住居内に張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。貯蔵穴はカマド左脇の住居西隅に位置



第108図 (5) 42号住居跡平面図

し、径71×54cm、深さ14cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径28～40cm、深さ8～11cmを測る。この主柱穴は、住居の短軸方向では平行するが、長軸方向では平行とはならずずれる。

出土遺物は少ないが、貯蔵穴周囲の床面直上から土師器の坏5点が集中して出土しており、坏蓋模倣で完形品が多い。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 42号住居跡 (第108・190図、表49、P.L17)

位置(座標)：X軸=38.314～317、Y軸=-45.270～273。

形状：不明。

規模：長辺?m、短辺(3.28)m、壁高23cm。

長軸方向：北。

本住居跡は調査区中央部より東側にある。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東3.5mに19号住居

が、南東6mに43号住居がある。

住居の北側と東側が5号墳周堀に壊されているため、住居の残存状態は非常に悪い。そのため、壁高は低く、検出された部分は住居南西部のみである。床面はほぼ平坦である。カマドは未検出であるが、住居南西隅で貯蔵穴が検出されている。規模は径71×63cm、深さ23cmを測る。ピットは1本検出しているが、このピットに対応する柱穴は未検出のため、主柱穴になるかどうか不明である。

出土遺物は極僅か、須臾器の甕小片が壁際床面直上から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と思われる。

(5) 43号住居跡 (第109図、PL17)

位置(座標)：X軸=38.309～314、Y軸=-45.260～266。

形状：不明。

規模：長辺(4.30)m、短辺?m、壁高12cm。

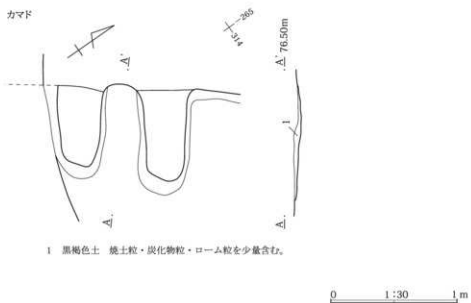
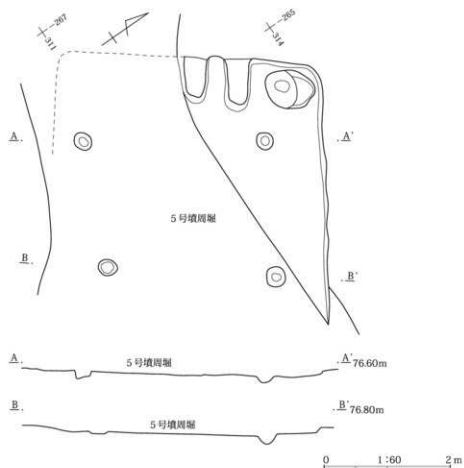
長軸方向：北西。

本住居跡は調査区中央部より東側にある。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東3mに6号住居が、北西6mに42号住居がある。

住居南側の大半が5号墳周堀に壊されているため、平面プランははっきりせず、残存状態は非常に悪い。そのため埋土は不明である。床面はほぼ平坦である。カマドは北西壁に位置するが、袖部ははっきりせず、燃焼部の底面のみ確認できた。貯蔵穴はカマド右脇の住居北隅に位置し、径81×61m、深さ24cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径25×32cm、深さ4～15cmを測る。

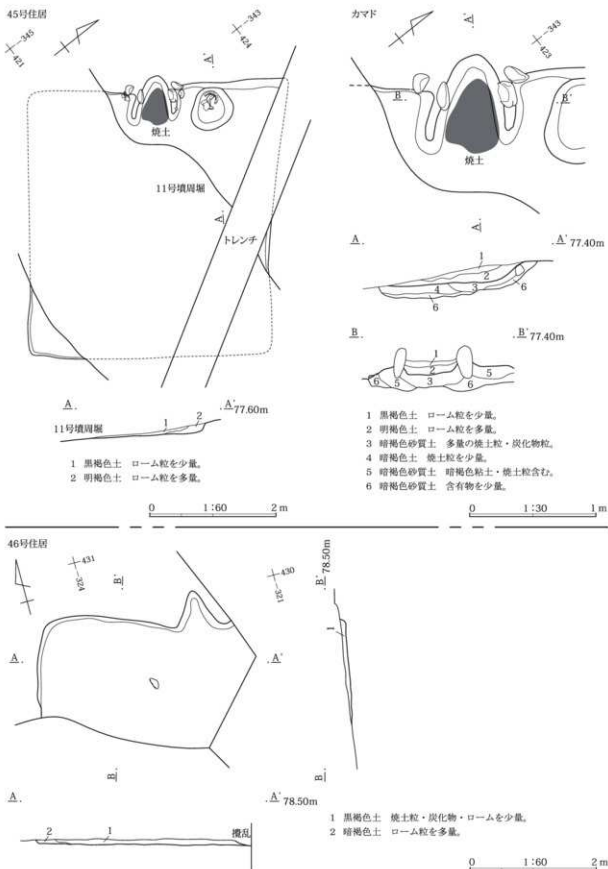
出土遺物は土器片が僅かに出土しているが、図示できなかった。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

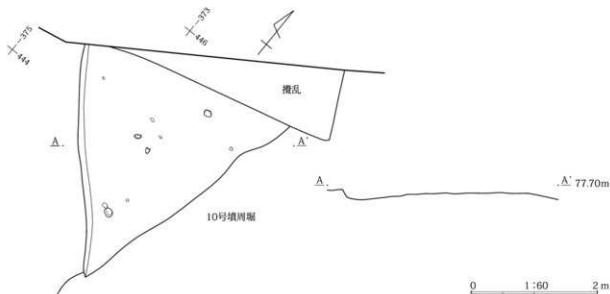


第109図 (5) 43号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第110図 (5) 45号住居跡・カマド、46号住居跡平面図



第111図 (5) 48号住居跡平面図

(5) 45号住居跡

(第110・191図、表50、PL.18・131)

位置(座標): X軸=38.418~424、Y軸=-45.338~344。

形状: 長方形。

規模: 長辺(4.30)m、短辺(3.80)m、壁高17cm。

長軸方向: 北西。

本住居跡は調査区の北部にあり、住居南側の大半が11号墳周堀に床面下まで壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東15mに46号住居が、南西15mに114号住居がある。住居形状は、主軸方向に対し縦長となる。

住居の残存状態は悪く、壁高は低い。埋土は黒褐色土をベースとする。カマドは北西壁中央に位置し、残存状態は悪いが、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に構築される。また、両袖にはそれぞれ礫を使って補強している。貯蔵穴はカマド右脇に位置し、径70×62cm、深さ18cmを測り、第191図1・3の坏と甕が出土している。柱穴は未検出である。

出土遺物はカマド左袖部脇の床面直上から2の鉢が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 46号住居跡 (第110・192図、表51、PL.18)

位置(座標): X軸=38.427~430、Y軸=-45.321~325。

形状: 不明。

規模: 長辺?m、短辺?m、壁高23cm。

長軸方向: 北北東。

本住居跡は調査区の北部にあり、住居南側は8号墳周堀に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南西15mに45号住居がある。

住居の残存状態は非常に悪く、壁高は低い。埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁に位置するが、残存状態は悪く、袖部は検出されなかった。柱穴等の施設は未検出である。出土遺物は極僅かである。有段口縁環が1点埋土中から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

(5) 48号住居跡 (第111図、PL.18)

位置(座標)：X軸=38.441~445、Y軸=-45.370
~374。

形状：不明。

規模：長辺?m、短辺?m、壁高16cm。

長軸方向：北東か。

本住居跡は調査区の北部端にあり、住居の北側が調査区外となる。住居上面が10号墳周堀に、住居東側は5号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南東26mに114号住居がある。

住居の残存状態は非常に悪い。壁高は低く、検出された部分は一部であるため、埋土は不明である。床面はほぼ平坦である。カマドや柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は6世紀後半の土器片が僅かに出土しているが、図示できなかった。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

(5) 57号住居跡 (第112図、PL.19・20)

位置(座標)：X軸=38.298~302、Y軸=-45.264
~269。

形状：不明。

規模：長辺?m、短辺3.68m、壁高18cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、住居北西壁が3号竪穴状遺構(飛鳥時代)に、北隅から南側にかけて47・48号溝に壊されている。住居北西壁と南側は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南東6.5mに64号住居が、南西7.5mに62号住居が、北6.5mに43号住居がある。

住居の残存状態は非常に悪く、壁高は低い。埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは東壁に位置するが、攪乱を受けていて残存状態は悪く、袖部は検出されなかった。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は土器片が僅かに出土しているが、図示

できなかった。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

(5) 58号住居跡

(第113・193図、表52、PL.20・132)

位置(座標)：X軸=38.279~288、Y軸=-45.267
~275。

形状：方形。

規模：長辺6.50m、短辺6.35m、壁高23cm。

長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にある。同じ古墳時代後半の住居は、すぐ西側に59号住居が、南東側に70号住居が、東4mに60号住居がある。攪乱によって大半が壊されている。

住居の残存状態は非常に悪く、壁高は低い。埋土は暗褐色土の単一土層である。床面直上には炭化材が出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。床面はほぼ平坦である。カマドや柱穴等の施設は未検出である。貯蔵穴は住居東隅に位置し、径98×93cm、深さ43cmを測り、土師器の壺が出土している。出土遺物は少なく、須恵器の鉢が埋土中から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 59号住居跡

(第114・194・195図、表53、PL.20・132)

位置(座標)：X軸=38.282~288、Y軸=-45.275
~281。

形状：隅丸方形。

規模：長辺(4.98)m、短辺4.93m、壁高14cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にある。同じ古墳時代後半の住居は、すぐ東側に58号住居が、北側に113号住居がある。

住居上面は広く削平を受けているため、残存状態は非常に悪く、壁高は低い。埋土は暗褐色土の単一

土層である。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央からやや北寄りに位置するが、攪乱を受けているため、袖部は検出されなかったが、埋土中から第195図5の甕が出土している。また、カマド右袖部の掘方埋土中から6の甕の口縁部片が出土している。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物はカマド左袖付近から4の甕が出土した他、住居北壁際の床面直上から第194図1の脚付短頸壺が出土し、そのすぐ脇で2の坏身模倣と第195図3の甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 60号住居跡 (第115・116・196図、表54、PL. 20・21・132)

位置(座標)：X軸=38.280~289、Y軸=-45.254~264。

形状：隅丸方形。

規模：長辺7.43m、短辺7.27m、壁高46cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にある。同じ古墳時代後半の住居は、すぐ南西側に70号住居が、東側に71号住居が、北2.5mに64号住居が、西3.5mに58号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは北壁中央に位置する。暗褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、心材に礫を使用して補強しており、両袖口には礫が残存する。貯蔵穴はカマドのすぐ右脇に位置し、径96×78cm、深さ24cmを測る。この貯蔵穴の周囲を幅40cm前後、高さ5cmほどの台形状の高まりが取り囲む。主柱穴は2本検出され、規模は径26~32cm、深さ23~25cmを測る。柱穴の配置関係から住居南側に2本の主柱穴が想定されるが、検出されなかった。

出土遺物は模倣坏と有段口縁坏、碗、埴、有孔鉢が出土している。このうち、第196図5・7・8は住

居中央部よりやや西側の床面上でまとまって出土しており、完形かそれに近い残存状態である。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 62号住居跡 (第117・197図、表55、PL.21)

位置(座標)：X軸=38.292~299、Y軸=-45.274~282。

形状：隅丸方形。

規模：長辺(6.04)m、短辺5.77m、壁高12cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の南東部にあり、66号住居(古墳時代前半)を壊しており、住居北隅は46号溝に、北東壁から南隅にかけて47・48号溝に壊されている。住居南側は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ南側に113号住居が、北東7mに57号住居がある。

住居の残存状態はあまり良くない。埋土は黒色土をベースとし、床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央から南寄りに位置する。残存状態は悪いが、両袖部は住居内に張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径90×57m、深さ10cmを測る。主柱穴は4本検出され、規模は径33~40cm、深さ12~59cmを測る。

出土遺物は少なく、須恵器の甕が床面上から、土師器の台付甕の脚部片が埋土中から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 64号住居跡 (第118・198・199図、表56、PL. 22・23・132・133)

位置(座標)：X軸=38.291~298、Y軸=-45.253~260。

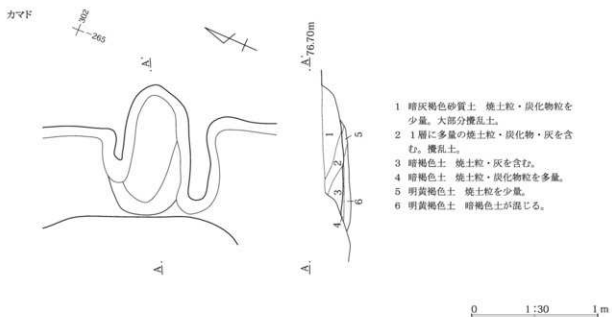
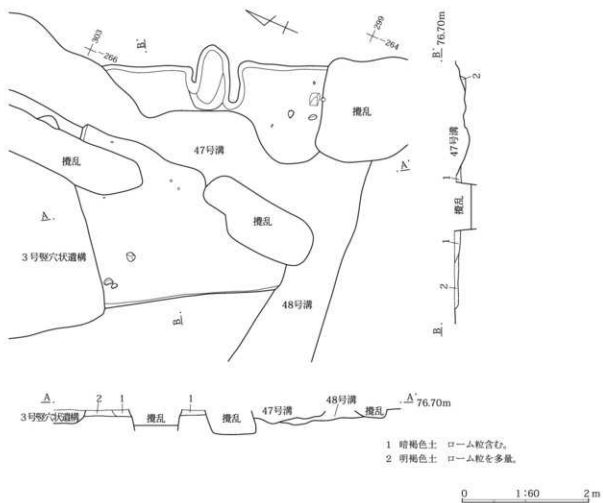
形状：隅丸方形。

規模：長辺5.26m、短辺5.23m、壁高40cm。

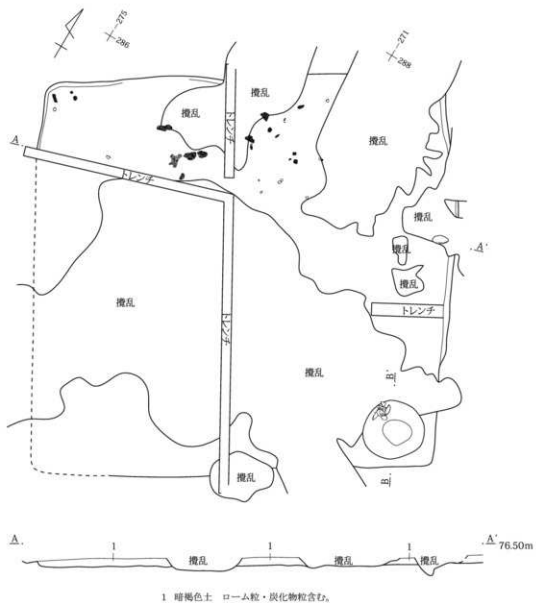
長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、65号住居(弥生時代)と63号住居(古墳時代前期後

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第112図 (5) 57号住居跡・カマド平面図



1 暗褐色土 ローム粒・炭化物粒含む。

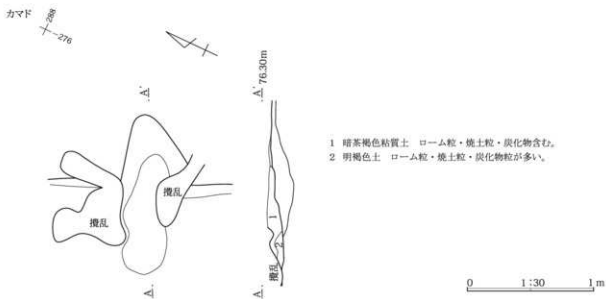
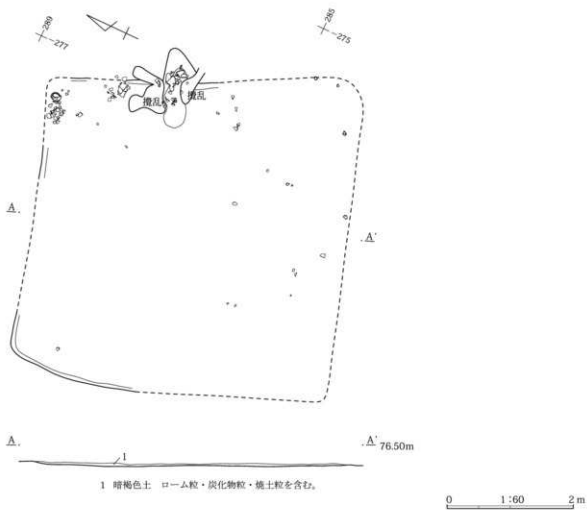


- 1 暗褐色土 やや砂質。白色軽石を少量。
- 2 明褐色土 やや砂質。ローム質砂含む。
- 3 明褐色土 ロームブロック散じる。

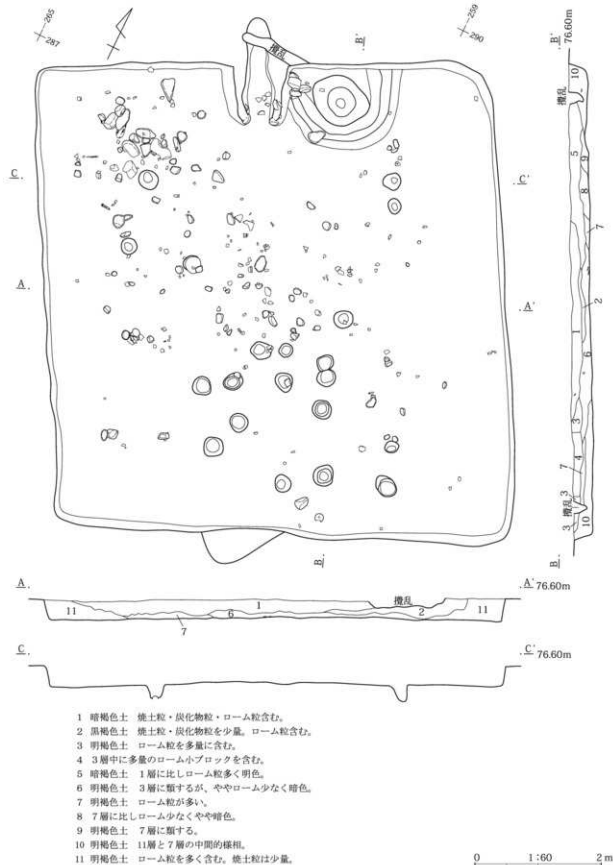
0 1:60 2m

第113図 (5) 58号住居跡平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



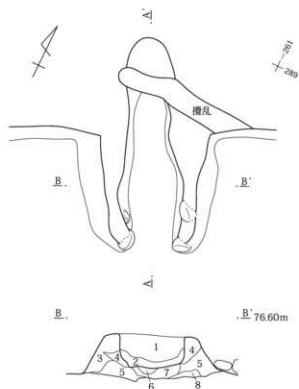
第114図 (5) 59号住居跡・カマド平面図



第115図 (5) 60号住居跡平面図

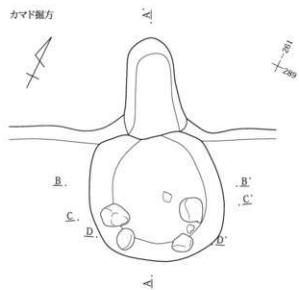
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

カマド



- 1 暗茶褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 2 暗茶褐色土 多量の焼土ブロック、炭化物粒・灰が混じる。
- 3 暗褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒含む。(袖部)
- 4 赤褐色土 硬化している。
- 5 暗茶褐色粘質土 焼土を少量含む。(袖基部)
- 6 暗褐色土 多量の焼土ブロックが混じり硬化、炭化物・灰含む。
- 7 明褐色土 少量の焼土粒・ローム粒含む。
- 8 明黄褐色ローム 暗茶褐色粘質土の小ブロック含む。

カマド掘方



C. 76.50m

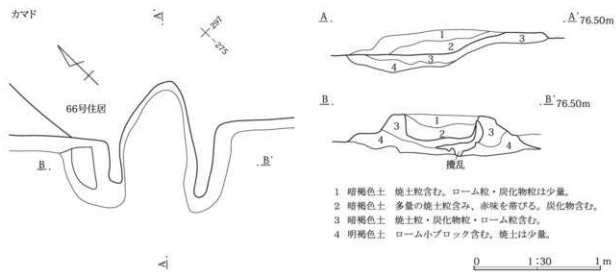
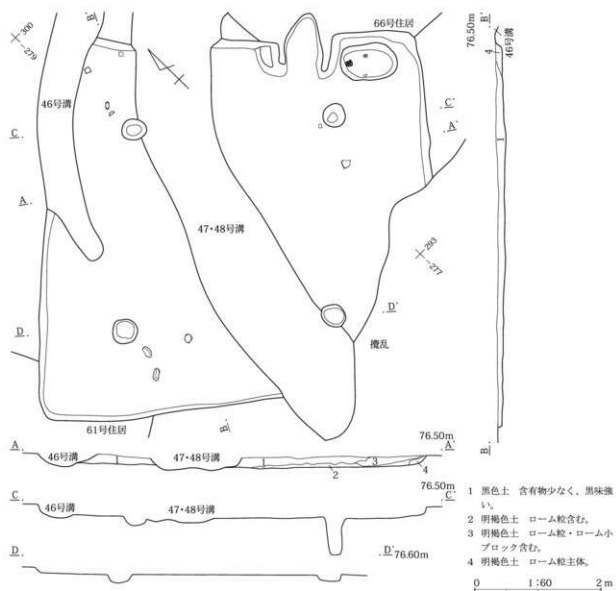


D. 76.50m



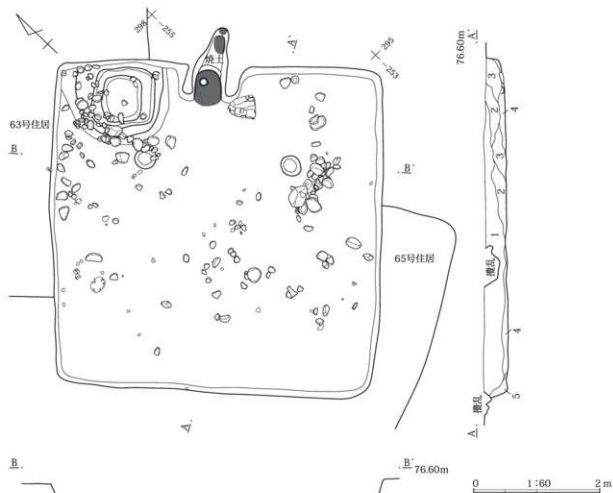
0 1:30 1m

第116図 (5) 60号住居跡・カマド平面図



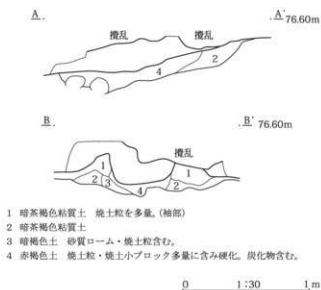
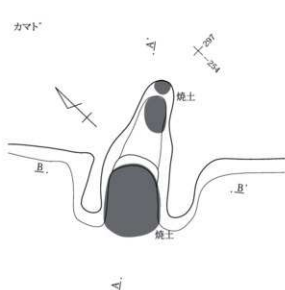
第117図 (5) 62号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



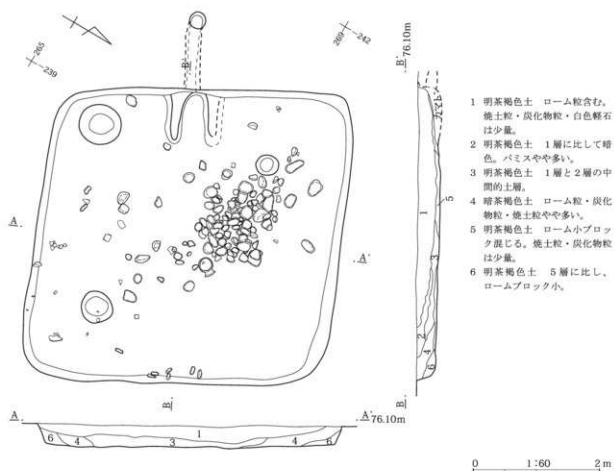
- 1 暗褐色土 白色軽石・ローム粒を少量。
- 2 明褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
- 3 明褐色土 2層に比しロームの含有が多く明色。

- 4 明褐色土 ローム粒・ローム小ブロック混じる。
- 5 明褐色土 ローム粒主体。

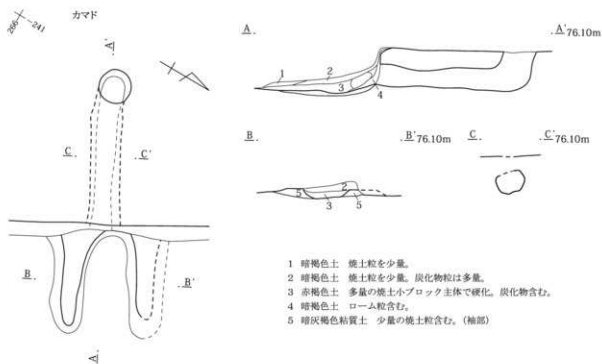


- 1 暗茶褐色粘質土 焼土粒を多量。(桶部)
- 2 暗茶褐色粘質土
- 3 暗褐色土 砂質ローム・焼土粒含む。
- 4 赤褐色土 焼土粒・焼土小ブロック多量に含み硬化。炭化物含む。

第118図 (5) 64号住居跡・カマド平面図

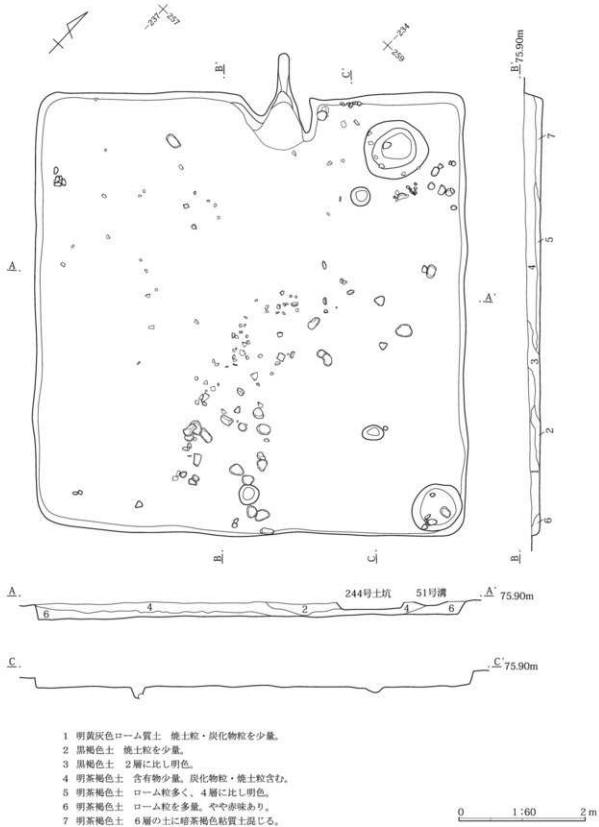


- 1 明茶褐色土 ローム粒含む。焼土粒・炭化物粒・白色軽石は少量。
- 2 明茶褐色土 1層に比して暗色。パミスや多い。
- 3 明茶褐色土 1層と2層の中間的土層。
- 4 暗茶褐色土 ローム粒・炭化物粒・焼土粒や多い。
- 5 明茶褐色土 ローム小ブロック混じる。焼土粒・炭化物粒は少量。
- 6 明茶褐色土 5層に比し、ロームブロック小。



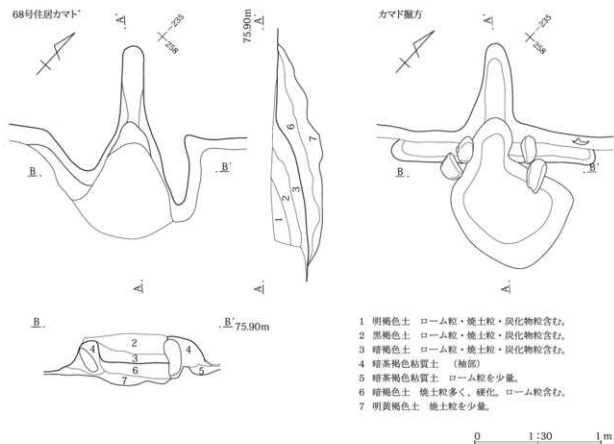
- 1 暗褐色土 焼土粒を少量。
- 2 暗褐色土 焼土粒を少量。炭化物粒は多量。
- 3 赤褐色土 多量の焼土小ブロック主体で硬化。炭化物含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒含む。
- 5 暗灰褐色粘質土 少量の焼土粒含む。(軸部)

第119図 (5) 67号住居跡・カマド平面図

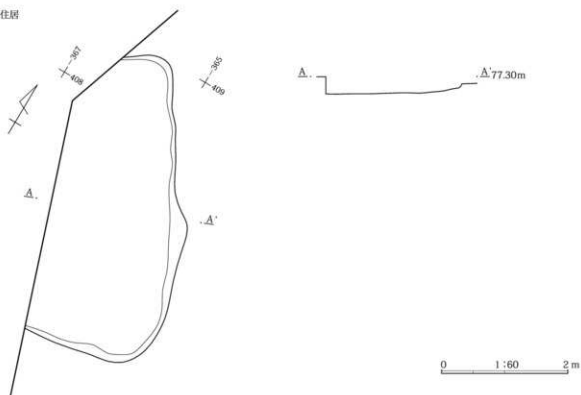


第120図 (5) 68号住居跡平面図

第2節 検出された遺構と遺物

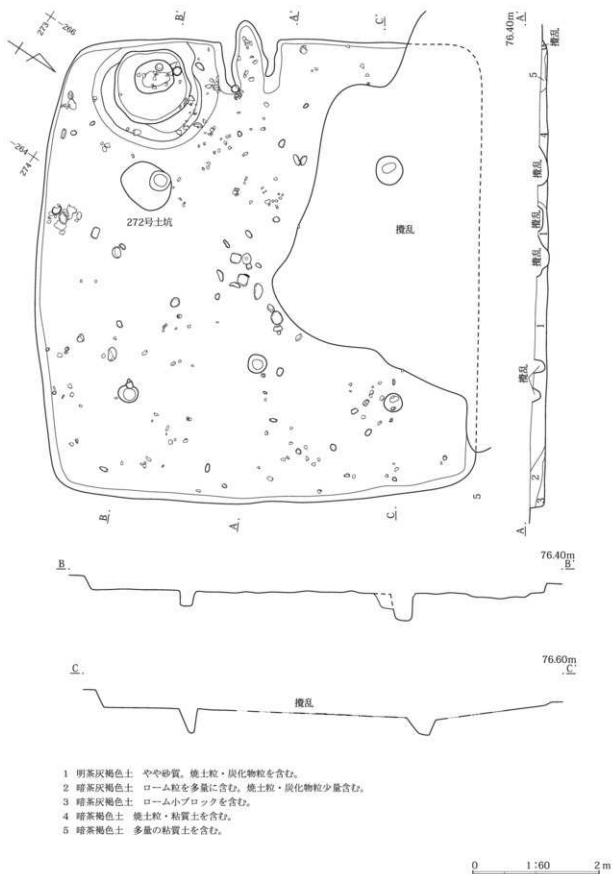


69号住居

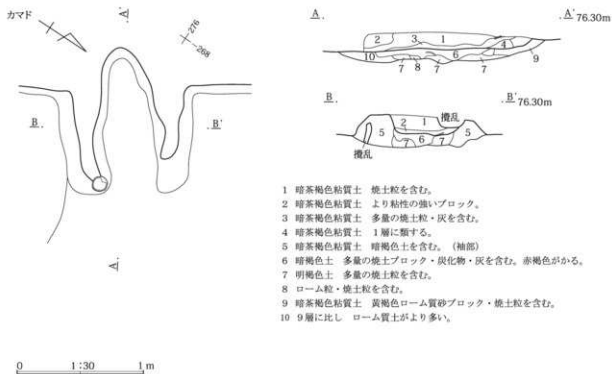


第121図 (5) 68号住居跡カマド、69号住居跡平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第122図 (5) 70号住居跡平面図



第123図 (5) 70号住居跡・カマド平面図

半)と重複するが、本住居の方が新しい。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南2.5mに60号住居が、北西6mに57号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は白色軽石を少量含んだ暗褐色土をベースとする。なお、床面上には大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁のほぼ中央に位置し、暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。貯蔵穴はカマド左脇の住居北隅に位置し、径74×62cm、深さ24cmを測り、第198図1・2の環蓋模様が出土している。この貯蔵穴の周囲を幅30cm前後、高さ2cmほどの台形状の高まりが取り囲む。主柱穴は2本検出され、規模は径30～35cm、深さ3～8cmを測る。柱穴の配置関係から住居南西側に2本の主柱穴が想定されるが、検出されなかった。

出土遺物は土師器の坏、高坏、甕の他、鉄鏝1点が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えら

れる。

(5) 67号住居跡

(第119・200図、表57、PL.23・133)

位置(座標): X軸=38.265~271、Y軸=-45.234~241。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺4.82m、短辺4.70m、壁高43cm。

長軸方向: 西南西。

本住居跡は調査区の南東部にあり、住居東側の壁の一部は50号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の西2.5mに103・104号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は白色軽石を少量含んだ明茶褐色土をベースとする。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは南西壁のほぼ中央に位置し、残存状態は悪いが、暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。煙道部は住居壁から105cmほど張り出

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

しており、径25cmほどの煙突部につながる。貯蔵穴はカマド左脇の住居南隅に位置し、径66×63cm、深さ25cmを測る。主柱穴は住居の対角線上に2本検出されている。規模は径32～50cm、深さ6～27cmを測る。柱穴の配置関係からもう一方の対角線上に主柱穴が想定されるが、検出されなかった。

出土遺物は須恵器の提瓶、広口壺、土師器の坏3点、高坏、小型甕が出土している。このうち第200図6は古墳時代中期の高坏で、混入品と思われる。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 68号住居跡

(第120・121・201図、表58、PL.24・133)

位置(座標)：X軸=38.249～259、Y軸=-45.228～237。

形状：隅丸方形。

規模：長辺7.01m、短辺6.80m、壁高37cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の南東部にあり、カマド煙道部から北東壁にかけて51号溝に、南西壁の一部は67号溝に、貯蔵穴南側は24号土抗に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南西5mに105号住居が、南5mに138号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は明茶褐色土をベースとする。なお、床面近くには大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは北西壁中央からやや北寄りに位置する。暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に張り出し、両袖の心材に礫を使用して補強している。燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道部は住居壁から70cmほど張り出す。貯蔵穴はカマド右脇の住居北隅に位置し、径103×93cm、深さ23cmを測る。主柱穴は2本検出され、規模は径23～35cm、深さ7～16cmを測る。柱穴の配置関係から住居西側に2本の主柱穴が想定されるが、検出されなかった。住居東隅で検出されたピットの規模は径83×72cm、深さ15cmを測り、埋土中に礫が入る。

遺物は貯蔵穴周囲と住居中央部から多く出土している。このうち土師器の坏は7点出土しており、第201図1の坏は放射状の暗文を持つ。他に鉢と甕の小片と、土鍾、頭付の釘が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 69号住居跡 (第120図、PL.24)

位置(座標)：X軸=38.404～408、Y軸=-45.363～366。

形状：不明。

規模：長辺4.80m、短辺?m、壁高19cm。

長軸方向：北北西か。

本住居跡は調査区の北西部端にあり、住居の西側が調査区外となる。住居上面は7号墳に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東6mに114号住居がある。

住居の残存状態は非常に悪く、壁高は低い。検出された部分が一部であるため、埋土は不明である。床面はほぼ平坦である。カマドや柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

(5) 70号住居跡 (第122・123・202図、表59、PL.24・25・133・134)

位置(座標)：X軸=38.273～282、Y軸=-45.259～269。

形状：隅丸方形。

規模：長辺7.33m、短辺(7.00)m、壁高32cm。

長軸方向：南西。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、住居北側は攪乱によって床面まで壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北東側に60号住居が、北西側に58号住居が、南東3mに74号住居がある。

住居の残存状態は、攪乱を受けている北側を除けば良好で、埋土は明茶灰褐色土をベースとする。床

面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは南西壁のほぼ中央に位置する。暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、左袖口には第202図11の円筒形土師器が残存する。また、燃焼部内に石があり、現位置を留めていないが支脚石の可能性がある。貯蔵穴はカマド左脇の住居南隅に位置し、径120×115m、深さ6cmの不整形円形の中に、径60×50cm、深さ13cmほどの楕円形の掘り込みが確認されている。埋土中からは1・3・8の坏と椀が出土している。この貯蔵穴の周囲を幅30cm前後、高さ3cmほどの台形状の高まりが取り囲む。主柱穴は4本検出され、規模は径27～46cm、深さ24～44cmを測る。貯蔵穴近くの柱穴上面は、本住居よりも新しい272号土抗に壊されている。

出土遺物は他に土師器の坏、甕、小型壺が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 71号住居跡

(第124・203図、表60、PL.25・134)

位置(座標)：X軸=38.285～290、Y軸=-45.250～256。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.95m、短辺3.82m、壁高27cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、72号住居(古墳時代前期後半)と重複するが、本住居の方が新しい。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ西側に60号住居が、北3mに64号住居がある。

住居南隅とカマド上面は擾乱によって壊されているが、住居の残存状態は比較的良好である。埋土は暗褐色土をベースとする。なお、住居中央から東側にかけて礫がいくつか廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北西壁中央から東寄りに位置し、残存状況は良くないが、両袖部は住居内に張り出す。貯蔵穴はカマド右脇の住居北隅に位置し、径

70×58cm、深さ21cmを測る。柱穴は未検出である。壁周溝は一部で途切れているがほぼ全周する。幅25cm前後、深さ4～10cmを測る。

出土遺物は模倣坏、有段口縁环、甕、高环形の手捏ね土器が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 74号住居跡

(第125・204図、表61、PL.26・134)

位置(座標)：X軸=38.269～273、Y軸=-45.257～261。

形状：長方形。

規模：長辺3.50m、短辺2.45m、壁高32cm。

主軸方向：北西。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、75号住居(古墳時代後期)と重複するが、本住居の方が新しい。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北西3mに70号住居が、東7mに103号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は明褐色土をベースとする。床面直上には炭化材が出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。カマドや柱穴等の施設は未検出であるが、住居北東壁際で径50×42cm、深さ7cmの土抗が検出されている。

出土遺物は床面上から須恵器の鉢、有段口縁环、甕が出土している。このうち第204図1の鉢は、口縁部を意図的に打ち欠いたとみられる痕跡があるが、用途は不明である。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

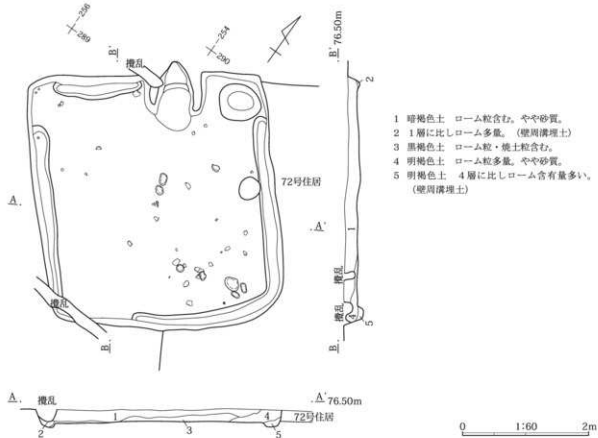
(5) 75号住居跡

(第126・205図、表62、PL.26・27・134)

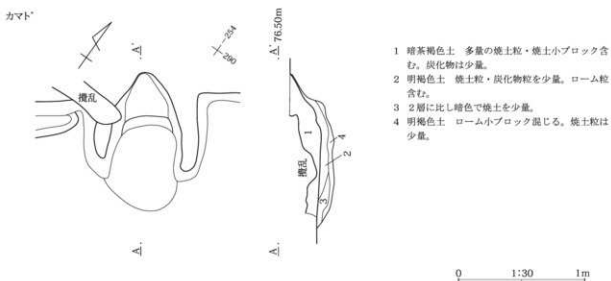
位置(座標)：X軸=38.261～270、Y軸=-45.254～262。

形状：隅丸方形。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



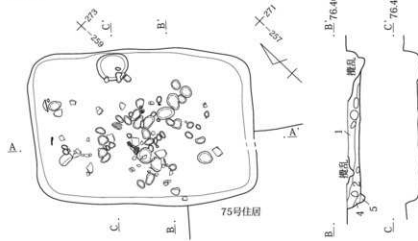
- 1 暗褐色土 ローム粒含む、やや砂質。
- 2 1層に比しローム多量。(壁周溝埋土)
- 3 黒褐色土 ローム粒・焼土粒含む。
- 4 明褐色土 ローム粒多量、やや砂質。
- 5 明褐色土 4層に比しローム含有量多い、(壁周溝埋土)



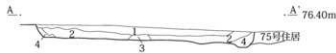
- 1 暗茶褐色土 多量の焼土粒・焼土小ブロック含む、炭化物は少量。
- 2 明褐色土 焼土粒・炭化物粒を少量、ローム粒含む。
- 3 2層に比し暗色で焼土を少量。
- 4 明褐色土 ローム小ブロック混じる。焼土粒は少量。

第124図 (5) 71号住居跡・カマト平面図

74号住居

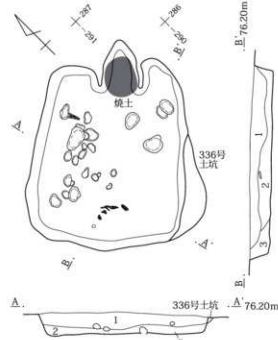


- 1 明褐色土 黒色土・ローム小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 多量の炭化物を含む。焼土粒を含む。
- 3 炭化材を含む。
- 4 明褐色土 1層に類するが、ロームを多量に含む。
- 5 明褐色土 ロームをより多量に含む。



0 1:60 2 m

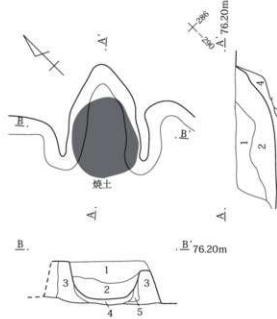
82号住居



- 1 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。多量の礫(φ10~30cm)が投棄される。
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む。炭化物を多量に含む。

0 1:60 2 m

カマド

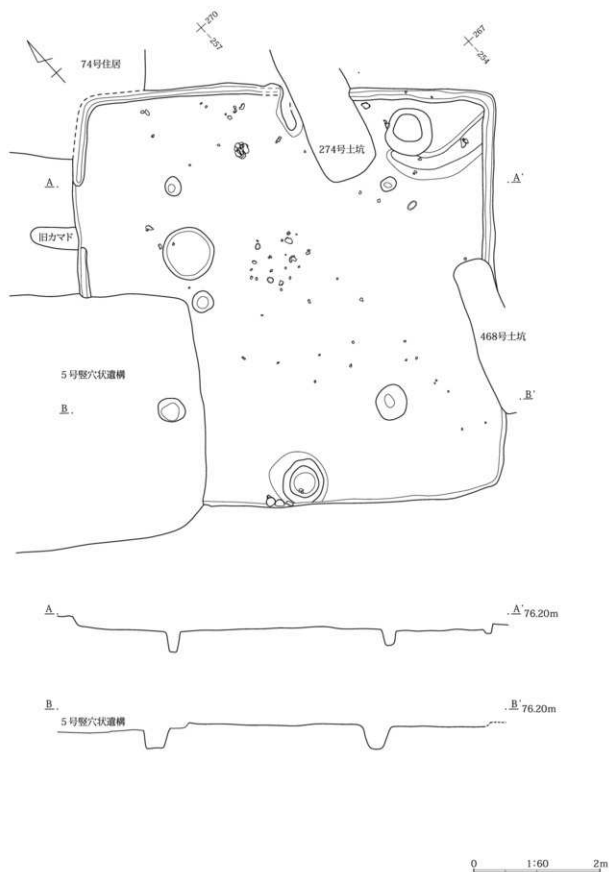


- 1 暗茶灰褐色土 焼土粒・炭化物粒を多量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒を多量に含む。黒味がかかる。
- 3 暗茶褐色粘質土 (袖部)
- 4 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰を含む。
- 5 赤褐色土 3層が被熱し、焼土化。

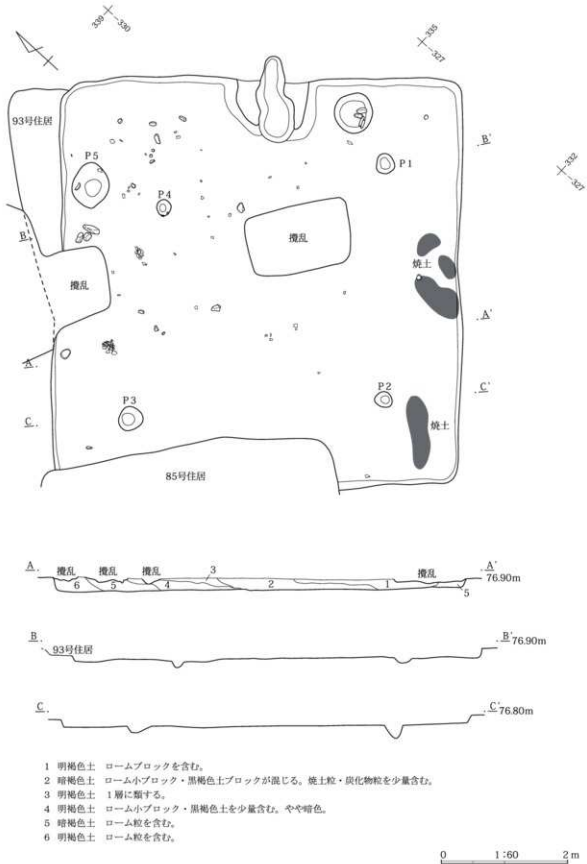
0 1:30 1 m

第125図 (5) 74・82号住居跡・カマド平面図

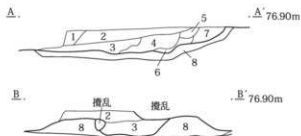
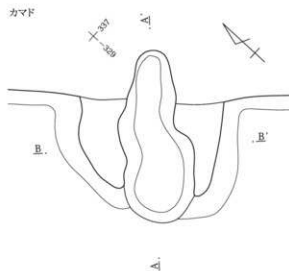
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第126図 (5) 75号住居跡平面図



第127図 (5) 84号住居跡平面図



- 1 明褐色土 ローム粒・焼土粒を多量。
- 2 暗茶褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒を多量。
- 3 明黄褐色土 ローム主体。焼土粒・炭化物粒含む。
- 4 明黄褐色土 焼土粒・砂質ロームを多量。
- 5 赤褐色土 焼土。
- 6 4層に類するが、より暗色。
- 7 暗茶褐色粘質土
- 8 明黄褐色土 焼土粒を少量。

0 1:30 1m

第128図 (5) 84号住居跡・カマド平面図

規模：長辺6.68m、短辺6.64m、壁高24cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、住居西部は5号竪穴状遺構（飛鳥時代）に、北隅は74号住居（古墳時代後期）に壊されている。また、カマド右側と南東壁の一部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の東4mに104号住居が、北西6mに70号住居がある。

住居の残存状態は悪く、壁高は低い。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは新旧の2基が検出された。新しいカマドは北東壁のほぼ中央に位置し、袖部は住居内に大きく張り出す。古いカマドは北西壁中央から北寄りに位置し、残存状態は悪い。貯蔵穴はカマド右脇に位置し、径75×74cm、深さ22cmを測り、第205図2の坏が出土している。この貯蔵穴の南西部から住居東隅にかけて幅45cm前後、高さ5cmほどの台形状の高まりが取り囲む。主柱穴は4本検出され、規模は径20～57cm、深さ27～40cmを測る。また、住居南西壁際のほぼ中央に径70×65cm、深さ8cmのピットが1本検出されている。壁周溝は北西壁から北東壁、南東壁に

かけて確認されており、幅20cm前後、深さ3～10cmを測る。

出土遺物は土師器の坏、甕、小型甕が出土している。南西壁際の床面直上で出土した1・3の模倣坏と有段口縁坏は、逆位の状態で見られるように出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 82号住居跡

(第125・206図、表63、PL.27・28)

位置(座標)：X軸=38, 283～286, Y軸=-45, 290～293。

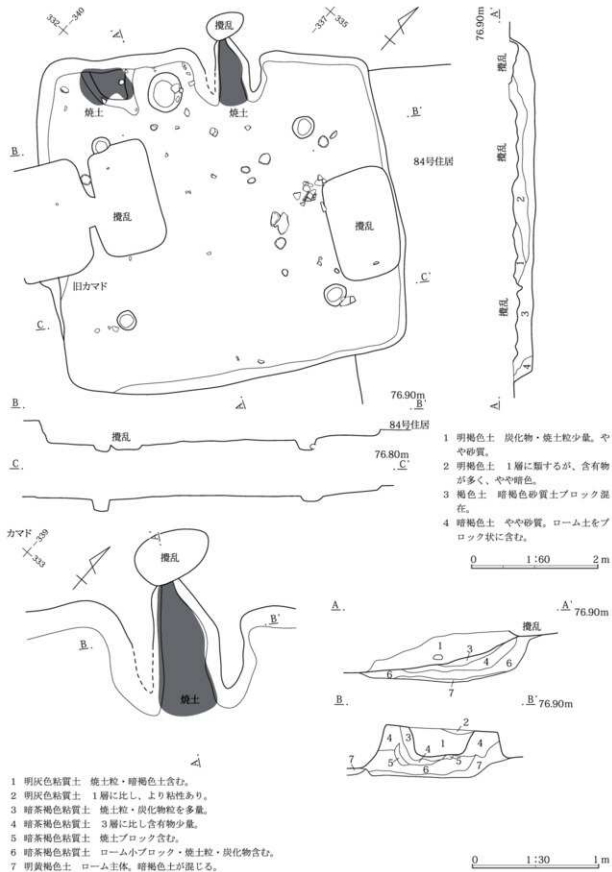
形状：隅丸長方形。

規模：長辺2.79m、短辺2.37m、壁高37cm。

長軸方向：北東。

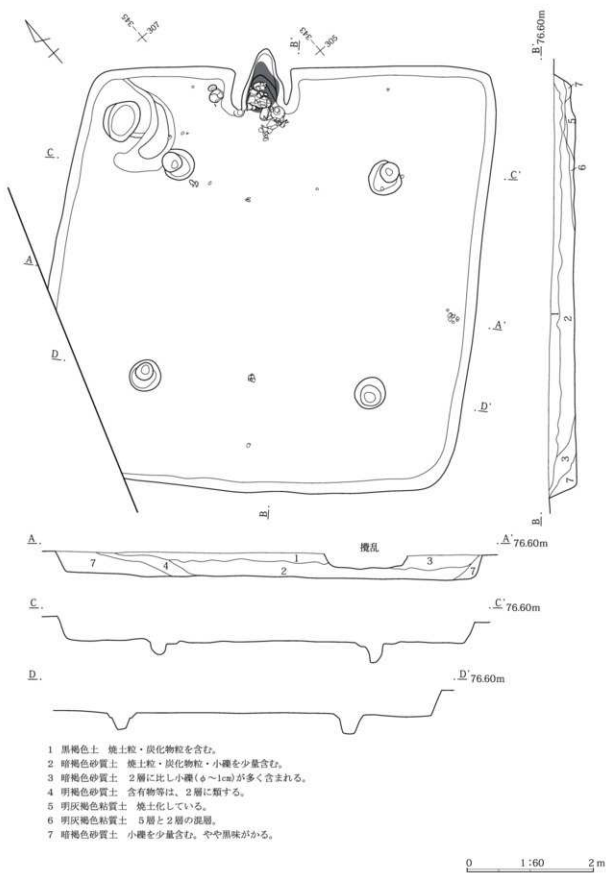
本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、336号土坑と重複するが、本住居の方が新しい。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東9mに113号住居が、東9mに59号住居がある。住居形状は、主軸方向に対し縦長となる。

第2節 検出された遺構と遺物

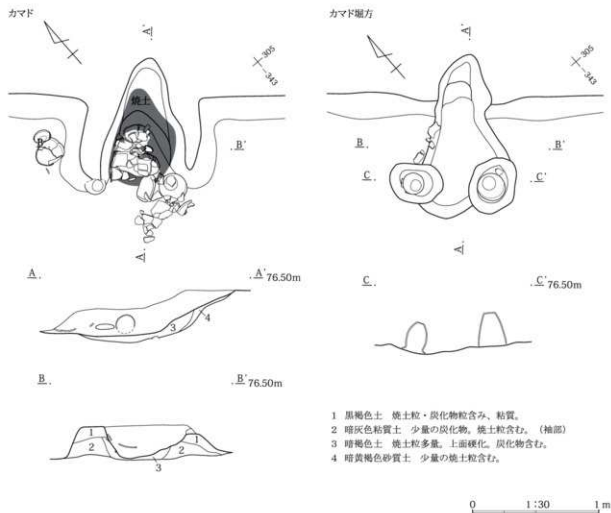


第129図 (5) 85号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第130図 (5) 86号住居跡平面図



第131図 (5) 86号住居跡・カマド平面図

住居の残存状態は良好で、埋土は暗褐色土をベースとする。床面直上には炭化材が少量ではあるが出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、埋土中には多量の大形礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央に位置する。暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に張り出し、燃燒部は外側に張り出す。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は土師器の坏、甕が埋土中から出土している。このうち第206図2の坏は放射状の暗文を持つ。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と思われる。

(5) 84号住居跡

(第127・128・207図、表64、PL.28・134)

位置(座標)：X軸=38.329~338、Y軸=-45.327~335。

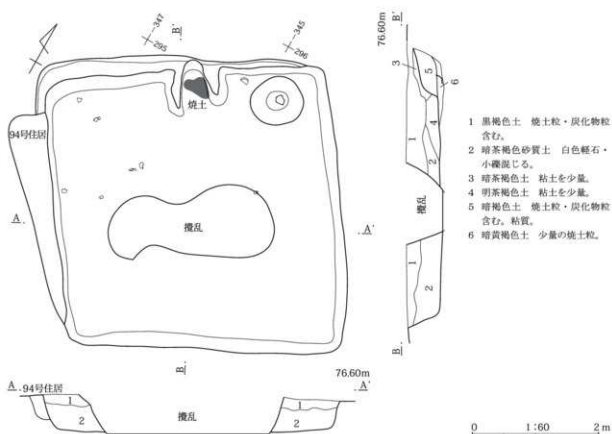
形状：隅丸方形。

規模：長辺6.52m、短辺6.25m、壁高28cm。

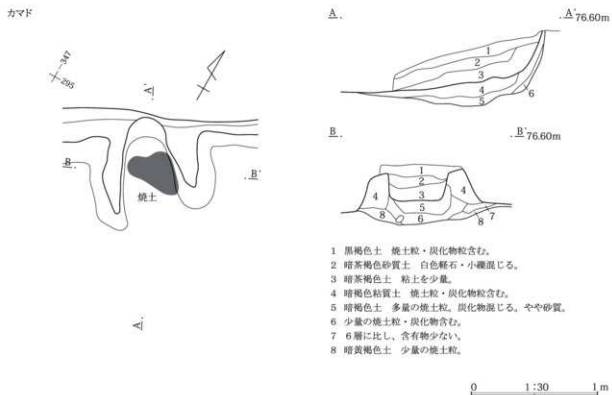
長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の西部にある。本住居は93号住居を壊しており、住居の南西壁を85号住居に、東隅を30号溝に壊されている。重複する住居は、いずれも古墳時代後期の住居である。住居北西壁の一部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東2.5mに107号住居がある。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



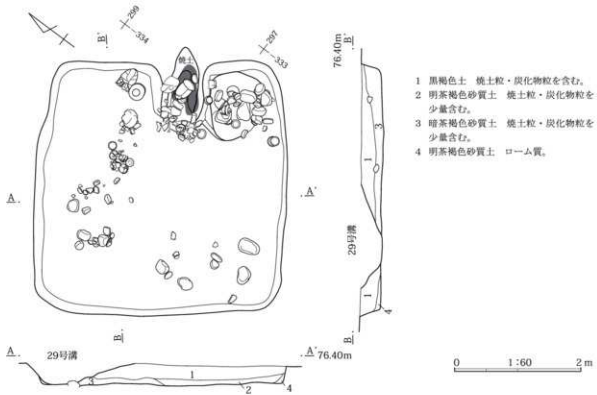
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 2 暗茶褐色砂質土 白色軽石・小礫混じる。
- 3 暗茶褐色土 粘土を少量。
- 4 明茶褐色土 粘土を少量。
- 5 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。粘質。
- 6 暗黄褐色土 少量の焼土粒。



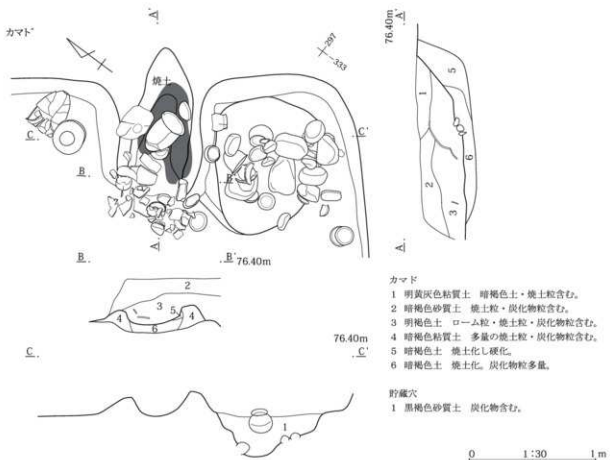
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 2 暗茶褐色砂質土 白色軽石・小礫混じる。
- 3 暗茶褐色土 粘土を少量。
- 4 暗褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 5 暗褐色土 多量の焼土粒、炭化物混じる。やや砂質。
- 6 少量の焼土粒・炭化物含む。
- 7 6層に比し、含有物少ない。
- 8 暗黄褐色土 少量の焼土粒。

第132図 (5) 87号住居跡・カマド平面図

第2節 検出された遺構と遺物



- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む。
- 2 明茶褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗茶褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 4 明茶褐色砂質土 ローム質。



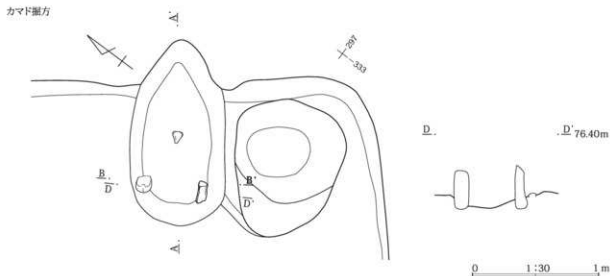
カマド

- 1 明黄灰色粘質土 暗褐色土・焼土粒含む。
- 2 暗褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 3 明褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。
- 4 暗褐色粘質土 多量の焼土粒・炭化物粒含む。
- 5 暗褐色土 焼土化し硬化。
- 6 暗褐色土 焼土化。炭化物粒多量。

貯蔵穴

- 1 黒褐色砂質土 炭化物含む。

第133図 (5) 88号住居跡・カマド平面図



第134図 (5) 88号住居跡・カマド掘方平面図

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは北東壁のほぼ中央に位置する。残存状態は悪いが、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は外側に張り出す。貯蔵穴はカマド右脇に位置し、径65×60cm、深さ10cmを測り、底面から薦編み石とみられる径7cm前後、長さ15cm前後の礫が4点ほど出土しているが、図示できなかった。主柱穴は4本検出され、規模は径22~40cm、深さ10~21cmを測る。住居北西壁際で径72×58cm、深さ26cmのピットが1本検出されており、埋土中から第206図1の坏身模倣が出土している。なお、住居南東壁付近の床面上からは焼土がまとまって確認されている。

出土遺物は住居西側で土師器の坏、小型壺が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 85号住居跡

(第129・208図、表65、PL-28・29・134)

位置(座標)：X軸=38.327~334、Y軸=-45.332~339。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.44m、短辺5.39m、壁高46cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の西部にあり、84号住居(古墳時代後期)を壊しており、住居南隅は15号溝に壊されている。また、住居北東壁と南西壁の一部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東8.5mに107号住居がある。

住居の残存状態は、上面が攪乱を受けているが、比較的良好である。埋土は明褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは新旧の2基が検出された。新しいカマドは北西壁中央からやや北寄りに位置する。暗茶褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は外側に張り出す。古いカマドは南西壁中央から南寄りに位置し、攪乱を大きく受けて残存状態は悪い。貯蔵穴は新しいカマド左脇に位置し、径62×54cm、深さ15cmを測る。5本検出されたピットのうち主柱穴は4本で、規模は径28~36cm、深さ8~20cmを測る。

出土遺物は土師器の碗、鉢、壺が出土している。なお、貯蔵穴左側の床面上からは焼土がまとまって確認されている。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

- (5) 86号住居跡 (第130・131・209・210図、表66、PL.29・135)

位置(座標): X軸=38.298~306、Y軸=-45.341~349。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺6.75m、短辺6.72m、壁高46cm。

長軸方向: 北東。

本住居跡は調査区の南西部端にあり、住居西側の一部が調査区外となる。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ南西側に96号住居が、南3mに87号住居が、南東6mに88号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央からやや北寄りに位置する。暗灰色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、両袖口には地山を若干掘り窪めた上に逆位の土師器の甕(第210図8・10)が残存しており、燃焼部内から9の甕が横位の状態で出土していることから、袖口に甕を立て、天井部には甕を渡していたものと想定される。貯蔵穴はカマド左脇の住居北隅に位置し、径68×58cm、深さ39cmを測る。この貯蔵穴の周囲を幅45cm前後、高さ2cmほどの台形状の高まりが取り囲む。主柱穴は4本検出され、規模は径48~55cm、深さ22~31cmを測る。

出土遺物は暗文を持つ3の坏以外はカマドと貯蔵穴周囲から坏、甕、小型甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

- (5) 87号住居跡

(第132・211図、表67、PL.29・30・135)

位置(座標): X軸=38.290~295、Y軸=-45.341~348。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺4.53m、短辺4.50m、壁高56cm。

長軸方向: 北西。

本住居跡は調査区の南西部にあり、94号住居(古墳時代後期)と重複するが、本住居の方が新しい。住居中央部は大きく床面下まで攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北3mに86号住居が、南西3mに106号住居がある。北西壁が30cmほど張り出しているが、深さは10cm以内と浅く、住居に伴うものかどうか不明である。

住居の残存状態はあまり良くないが、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北西壁のほぼ中央に位置する。暗褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。煙道部は壁内にほぼ収まる。貯蔵穴はカマド右脇の住居北隅に位置し、径85×75cm、深さ16cmを測り、底面に礫が入る。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は埋土中から須臾器の短頸壺、土師器の坏、埴が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

- (5) 88号住居跡 (第133・134・212~214図、表68、PL.30・31・135・136)

位置(座標): X軸=38.294~299、Y軸=-45.333~338。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺4.00m、短辺3.98m、壁高40cm。

長軸方向: 北東。

本住居跡は調査区の南西部にあり、住居北西壁と南西壁の一部は29号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の東5mに91号住居が、北西6mに86号住居が、南西6mに87号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁のほぼ中央に位置する。暗褐色粘質土で構築された袖部は住居内に大きく張り出し、両袖口には礫が残し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。また、

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

燃焼部中央に支脚石が残存する。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径110×90cm、深さ37cmを測り、第212図2・5・8の坏身模倣の他、第213図17の甕、第214図24・25の壺小片など、遺物が豊富に出土している。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物はカマド内とその周囲から豊富に出土しており、土師器の模倣坏、有段口縁坏、甕、小型甕、甗、壺、短頸壺が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 91号住居跡

(第135・215図、表69、PL.32・137)

位置(座標)：X軸=38.292~297、Y軸=-45.323~327。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.87m、短辺3.74m、壁高35cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の南西部にある。同じ古墳時代後半の住居は、西5mに88号住居が、南東9mに98号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は暗褐色砂質土をベースとする。床面直上には炭化材が少量ではあるが出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁中央からやや東寄りに位置する。暗灰褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。埋土中から第215図3の鉢が出土している。貯蔵穴はカマド右脇の住居北隅に位置し、径47×44cm、深さ13cmを測る。壁周溝は南壁で一部確認されており、幅23~30cm、深さ2~6cmを測る。柱穴は未検出である。

出土遺物は1・2の模倣坏が床面直上から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 92号住居跡

(第136・216図、表70、PL.32・137)

位置(座標)：X軸=38.293~300、Y軸=-45.304~310。

形状：隅丸方形。

規模：長辺4.71m、短辺4.51m、壁高50cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、住居西側は29号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ南西側に98号住居が、北東5mに13号住居がある。

住居の残存状態はあまり良好ではなく、埋土は不明である。床面は平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは北東壁中央に位置する。両袖部は住居内に大きく張り出し、左袖口には礫が残存し、燃焼部は外側に張り出し、燃焼部のほぼ中央に支脚石が残存する。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径98×68cm、深さ13cmほどの隅丸長方形の中に、径84×31cm、深さ17cmの楕円形の掘り込みが確認されている。この貯蔵穴の周囲を幅30cm前後、高さ3cmほどの台形状の高まりが取り囲む。5本検出されたピットのうち主柱穴は4本で、規模は径28~38cm、深さ14~46cmを測る。

出土遺物は土師器の坏、高坏、甕が出土しており、住居南東壁際床面直上から砥石が出土しているが、図示できなかった。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 93号住居跡 (第137図、PL.33)

位置(座標)：X軸=38.336~339、Y軸=-45.331~334。

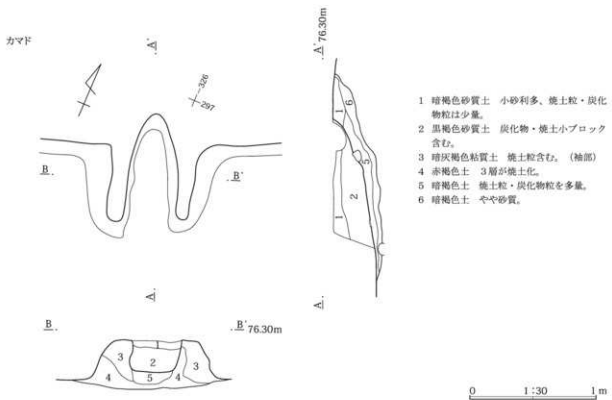
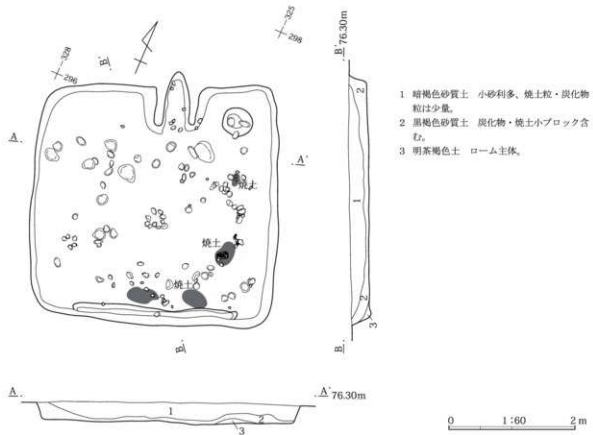
形状：不明。

規模：長辺?m、短辺?m、壁高12cm。

長軸方向：不明。

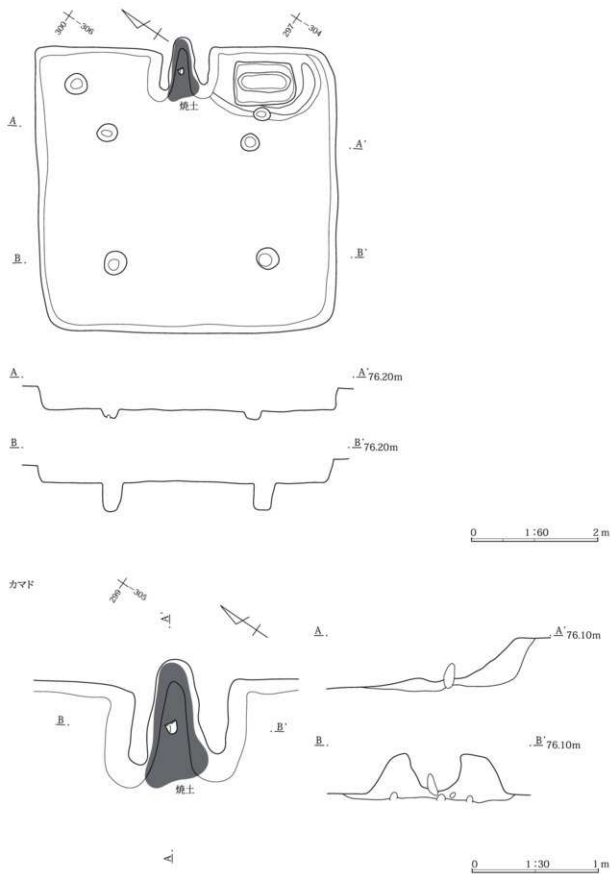
本住居跡は調査区の西部にあり、住居の大半が84号住居(古墳時代後期)に壊されており、住居北西壁の一部は禮品によって壊されている。同じ古墳時

第2節 検出された遺構と遺物

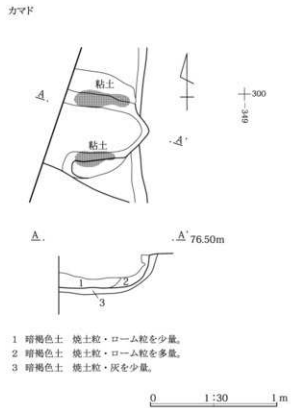
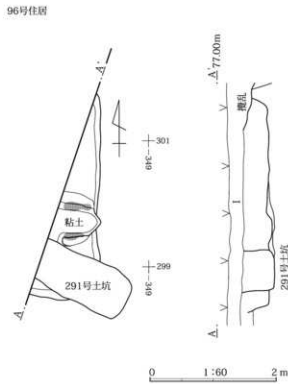
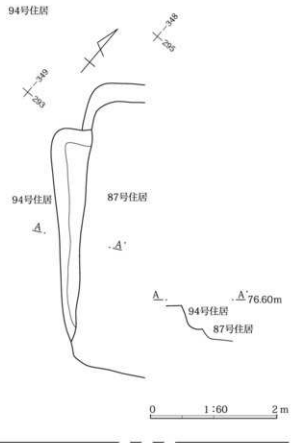
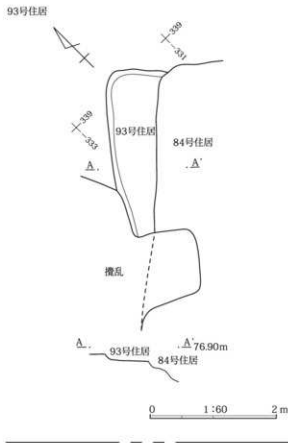


第135図 (5) 91号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

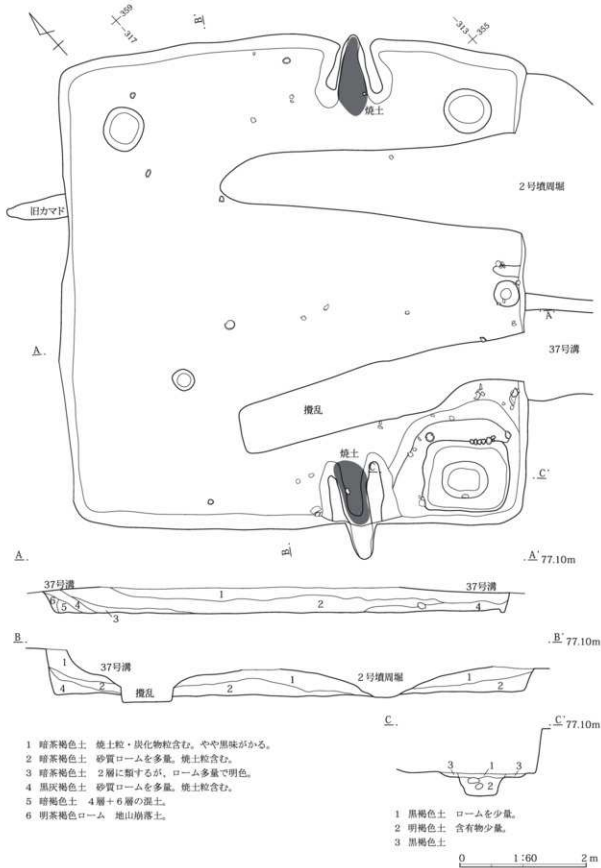


第136図 (5) 92号住居跡・カマド平面図



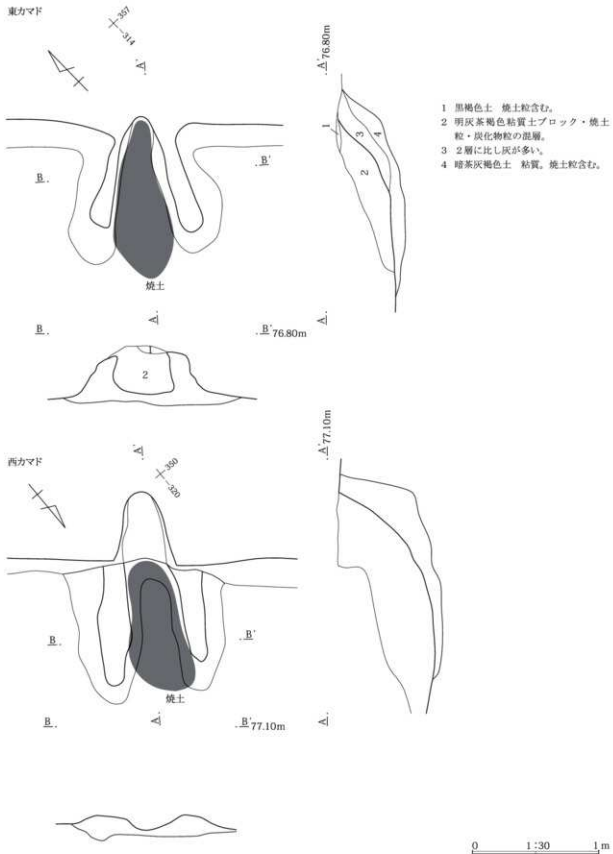
第137図 (5) 93・94・96号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

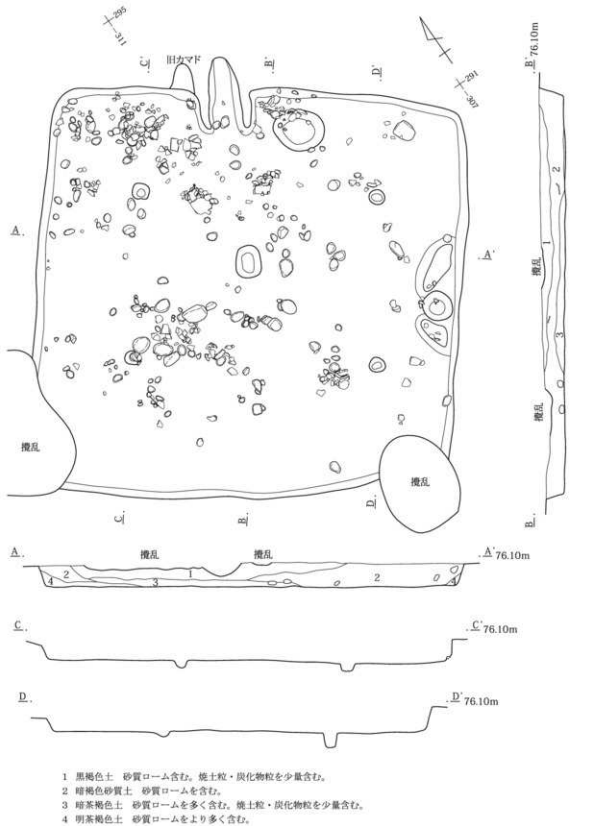


第138図 (5) 95号住居跡平面図

第2節 検出された遺構と遺物

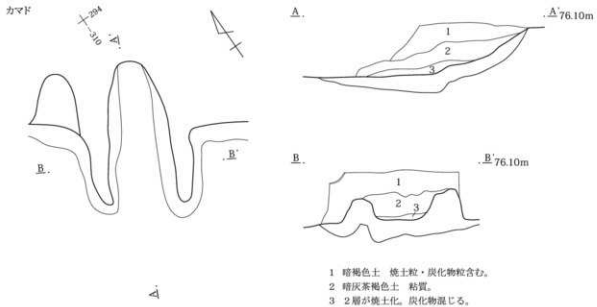


第139図 (5) 95号住居跡・カマド平面図

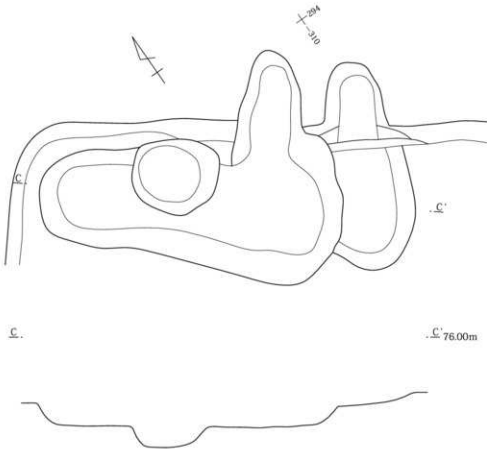


0 1:60 2m

第140図 (5) 98号住居跡平面図



カマド掘方

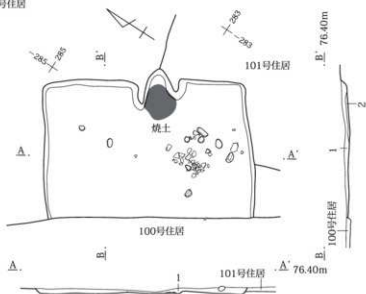


0 1:30 1m

第141図 (5) 98号住居跡・カマド掘方平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

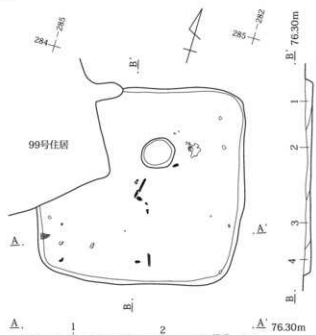
99号住居



- 1 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く明色。

0 1:60 2m

101号住居



- 1 明褐色土 ロームを多く含み、より明るい。
- 2 明褐色土 ローム粒を含み、1層より暗い。
- 3 明褐色土 炭化物、ローム粒を含む。
- 4 明褐色土 ローム粒を多く含み、明るい。

0 1:60 2m

第142図 (5) 99・101号住居跡平面図

代後半の住居は、本住居の北東3.5mに107号居がある。

住居の残存状態は悪く、壁高は低い。検出された部分のごく僅かなため、埋土や床面の状況は不明である。カマドや柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

(5) 94号住居跡 (第137図)

位置(座標): X軸=38.290~293、

Y軸=-45.345~

348。

形状:不明。

規模:長辺?m、短辺?m、壁高42cm。

長軸方向:不明。

本住居跡は調査区の南西部にあり、住居の大半は同じ古墳時代後期の87号住居に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北6mに96号住居が、南西3mに106号住居がある。検出された部分のごく僅かなため、埋土や床面の状況は不明である。カマドや柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

- (5) 95号住居跡 (第138・139・217・218図、表71、
PL.33・34・137)

位置(座標)：X軸=38.348~358、Y軸=-45.312
~322。

形状：隅丸方形。

規模：長辺7.83m、短辺7.31m、壁高82cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや北側にあり、住居東側は2号墳周堀に、南側は37号溝と攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ南側に110号住居が、南西6mに107号住居がある。

住居の残存状態は、攪乱を受けている南東側を除けば良好で、埋土は暗茶褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは新旧を含めて3基が検出された。東カマドは北東壁中央から南寄りに位置し、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道は壁内にほぼ収まる。西カマドは南西壁中央から東寄りに位置し、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。古いカマドは北西壁中央から北寄りに位置し、残存状態は悪い。東カマドと西カマドの新旧は不明である。貯蔵穴は3基検出されている。1基は古いカマド右脇の住居北隅に位置し、径68×62m、深さ21cmを測る。もう1基は、西カマド左脇の住居南隅に位置し、径138×110m、深さ9cmほどの隅丸長方形の中に、径72×58cm、深さ29cmの楕円形の掘り込みが確認されている。この貯蔵穴の周囲を幅40cm前後、高さ6cmほどの台形状の高まりが取り囲む。

なお、この隅丸長方形の掘り込みの北東側縁に小礫が並ぶ。もう1基の貯蔵穴は東カマド右脇の住居東隅に位置し、規模は径75×70cm、深さ32cmを測る。ピットは2本検出しており、規模は径33~42cm、深さ5~24cmを測る。このうち住居南東壁際のピット周囲は硬化が著しい。

出土遺物は模倣椀と有段口縁杯が9点と多く、内外面漆塗りをしている。他に須恵器の高杯、土師器

の鉢、甕、台付甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

- (5) 96号住居跡 (第137図、PL.34)

位置(座標)：X軸=38.298~301、Y軸=-45.349
~350。

形状：不明。

規模：長辺?m、短辺?m、壁高32cm。

長軸方向：東。

本住居跡は調査区の南西部端にあり、住居の西側が調査区外で、検出された部分はカマドとその周囲のみとなる。住居南東隅は291号土抗に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北東側に86号住居が、南東5mに87号住居がある。

住居の残存状態は悪く、埋土は不明である。床面はほぼ平坦である。カマドは東壁中央から南寄りに位置し、残存状態は悪いが、暗茶灰褐色粘土を含んだ両袖部は住居内に張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道は壁内にほぼ収まる。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、住居形状から古墳時代後期と思われる。

- (5) 98号住居跡 (第140・141・219~223図、表72、
PL.34・35・138・139)

位置(座標)：X軸=38.286~294、Y軸=-45.307
~315。

形状：隅丸方形。

規模：長辺6.73m、短辺6.53m、壁高43cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、住居南隅と西隅が攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北東側に92号住居が、西9mに91号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面は平坦で、カマド前から中央にか

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

けて硬化が著しい。カマドは新旧の2基が検出された。新しいカマドは北東壁中央からやや北寄りに位置し、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は外側に張り出す。貯蔵穴は新しいカマド右脇に位置し、径82×65cm、深さ44cmを測る。古いカマドは、新しいカマドのすぐ左脇にあり、残存状態は悪い。なお、掘方調査によって古いカマド左脇にも貯蔵穴が確認されている。検出された6本のピットのうち、支柱穴は4本で、規模は径21～26cm、深さ9～23cmを測る。もう1本のピットは4本の支柱穴の重心点に位置する。規模は径52×38cm、深さ31cmとやや大きい。なお、住居南東壁際のほぼ中央で検出されたピットの周囲は硬化が著しい。

出土遺物は、貯蔵穴周囲から住居中央部にかけて豊富に出土しており、とりわけ環と甕の点数が多い。他に土師器の埴、鉢、土付鉢、甕、短頸壺が出土している。住居中央部床面上から出土した第219図7・8の有段口縁環は暗文を持つ。なお、第222図21と第223図22の甕は、同じ出土位置であることから、同一個体と思われる。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 99号住居跡 (第142・224図、表73)

位置(座標): X軸=38.281～284、Y軸=-45.283～287。

形状: 不明。

規模: 長辺3.33m、短辺?m、壁高15cm。

主軸方向: 北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、101号住居(古墳時代後期)を壊しており、南西側半分は100号住居(飛鳥時代)に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の東3mに59号住居が、西4mに82号住居がある。

住居の残存状態はあまり良くない。埋土は暗褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で掘方はない。カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは北東壁のほぼ中央に位置し、袖部は検出されなかつ

た。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は少なく、土師器の小型甕が埋土中から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期(6世紀中葉)と考えられる。

(5) 101号住居跡 (第142・225図、表74)

位置(座標): X軸=38.280～284、Y軸=-45.281～284。

形状: 方形。

規模: 長辺3.23m、短辺3.10m、壁高14cm。

主軸方向: 東北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南側にあり、住居西側は99号住居跡(古墳時代後期)に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北東側に59号住居が、北西6mに82号住居がある。

住居の残存状態はあまり良くない。埋土は暗褐色土をベースとする。床面直上には炭化材が出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。扉は主軸方向の中央よりやや北側で検出され、規模は径55×48cmの不整形円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態である。柱穴は未検出である。

出土遺物は少なく、土師器の甕が埋土中から出土している。出土土器から、本住居跡は古墳時代後期(6世紀中葉)と考えられる。

(5) 103号住居跡 (第143・226図、表75、PL36)

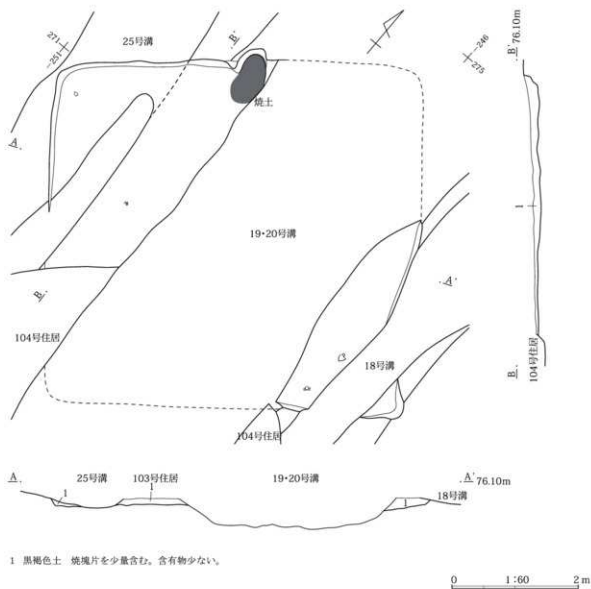
位置(座標): X軸=38.268～273、Y軸=-45.243～250。

形状: 隅丸長方形。

規模: 長辺5.90m、短辺5.50m、壁高28cm。

長軸方向: 北西。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にあり、住居南側は104号住居(古墳時代後期)に壊されている。また、住居全体が18・20・25・26号溝と重複しているため、壁高は低く、およそ半分は床面下まで壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居



第143図 (5) 103号住居跡平面図

の東2mに67号住居が、南西5mに75号住居が、西6.5mに74号住居がある。住居形状は、長軸方向に対し若干横長となる。

住居の残存状態は非常に悪い。埋土は黒褐色土の単一土層である。床面はほぼ平坦である。カマドは北西壁中央に位置し、残存状態は悪く、袖部は検出されなかった。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は極僅かで、土師器の甕片が床面上から出土している。

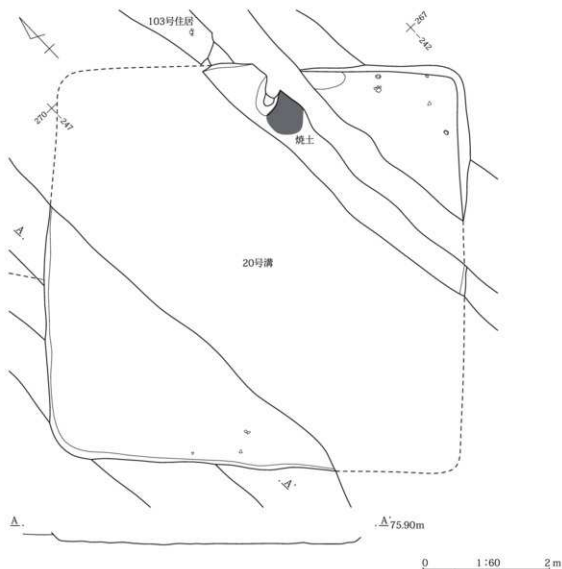
出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 104号住居跡 (第144図, PL.36)

位置(座標): X軸=38.262~268, Y軸=-45.241~250。

形状: 隅丸方形。

居北東壁は50・67号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ東側に138号住居



第144図 (5) 104号住居跡平面図

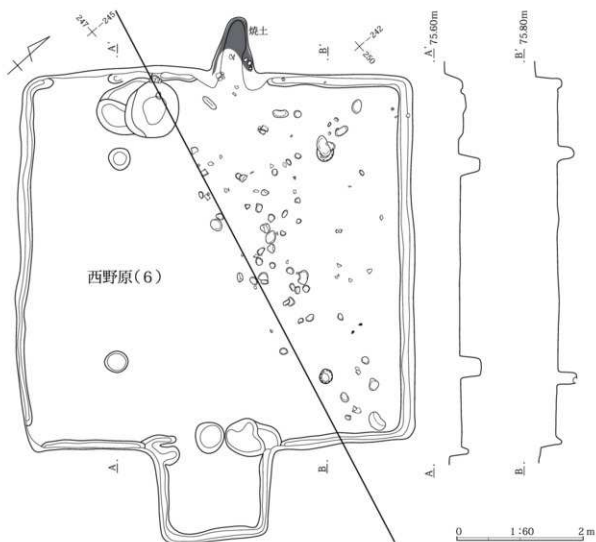
が、北東5mに68号住居がある。

住居の残存状態はあまり良くない。埋土は不明である。床面はほぼ平坦である。カマドは北西壁のほぼ中央に位置し、両袖部は僅かに張り出し、燃焼部は外側に大きく張り出す。貯蔵穴はカマド左脇に位置し、径90×84m、深さ38cmを測り、第227図1・3の模倣環が出土している。主柱穴は4本検出され、規模は径21～38cm、深さ24～59cmを測る。壁周溝はほぼ全周しており、幅25cm前後、深さ3～17cmを測

る。なお、住居南東壁のほぼ中央に幅1.8m、奥行き1.5mの張り出し部をもつ。この張り出しの基部に深さ17cm前後のピットが2本検出されている。

出土遺物は暗文を持つ環が北東壁際から出土した他、甕、土鍾、石製の紡錘輪が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。



第145図 (5) 105号住居跡平面図

(5) 106号住居跡 (第146・147・228・229図、表77、

PL.37・139)

位置(座標) : X軸=38.281~288、Y軸=-45.345
~353。

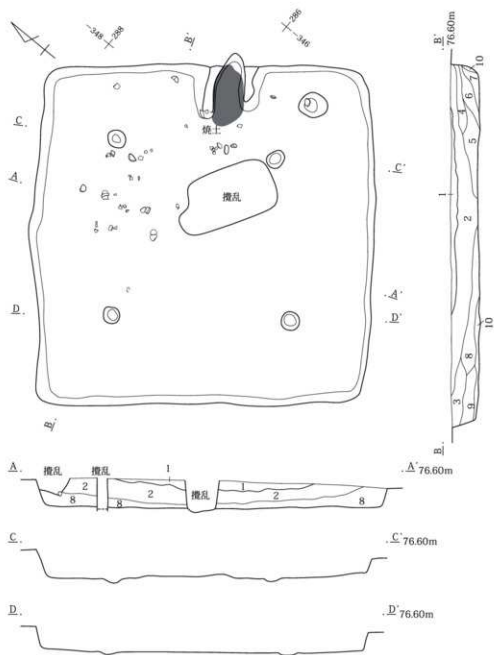
形状 : 隅丸方形。

規模 : 長辺5.45m、短辺5.39m、壁高49cm。

長軸方向 : 北東。

本住居跡は調査区の南西部にあり、住居中央部は攪乱によって床面下まで壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北4mに87・94号住居が、南6mに132号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁のほぼ中央に位置し、暗褐色粘質土で構築された両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道部はほぼ壁内に取まる。左袖口には地山を若干掘り窪めた上に逆位の土師器の甕(第229図6)が残存する。なお、右袖口も同様の掘り窪みは確認されたが、遺物は出土していない。貯蔵穴はカマド右脇の住居東隅に位置し、径46×40cm、深さ23cmを測り、花卉状の暗文を持つ坏(第228図4)が出土している。主柱穴は4本検出され、現



- 1 黒褐色砂質土 As-Bを多量に含む。
- 2 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む。
- 3 明茶褐色砂質土 小礫を含む。
- 4 明茶褐色土 粘質土と焼土粒を含む。
- 5 明褐色土 ローム粒を含む。
- 6 明褐色土 粘質土ブロックを多く含む硬質。焼土を多量に含む。
- 7 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 8 暗褐色砂質土 ロームを多量に含む。礫(φ~10cm)を多く含む。
- 9 暗褐色砂質土 7層に類するがローム粒を多く含む明色。
- 10 明茶褐色砂質土 地山の崩落土。

0 1:60 2m

第146図 (5) 106号住居跡平面図

横は径26～32cm、深さ3～7cmといずれも浅い。

出土遺物はカマド周囲から住居中央にかけて土師器の坏、椀、甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 107号住居跡(第148・149・230・231図、PL.37・38・139・140)

位置(座標): X軸=38.336～345、Y軸=-45.318～327。

形状: 隅丸長方形。

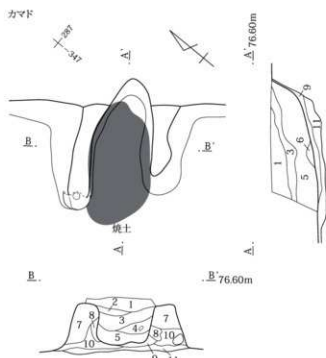
規模: 長辺7.60m、短辺6.85m、壁高38cm。

長軸方向: 北西。

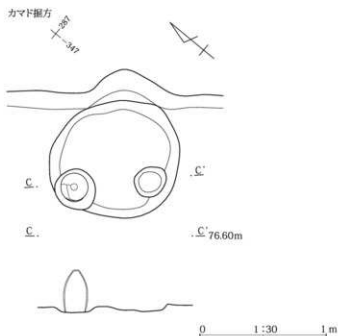
本住居跡は調査区の西部にあり、住居の南隅は2号墳周堀に、東側は2号墳前庭下土坑に、西側は23号溝に埋されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北東2mに110号住居が、南西2.5mに84号住居がある。住居形状は、長軸方向に対し若干横長となる。

住居の残存状態はあまり良くなく、検出された部分はカマドとその周囲のみである。埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平である。カマドは新旧の2基が検出された。新しいカマドは北西壁中央に位置し、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られる。燃焼部中央付近に逆位の甕(第231図9)が検出され、両袖口の間に2個体の甕(6・7)が横位の状態で出土している。古いカマドは北東壁中央に位置し、残存状態は悪い。貯蔵穴は新しいカマド右脇の住居北隅に位置し、径103×93m、深さ21cmを測る。主柱穴は2本検出され、規模は径30～35cm、深さ10～14cmを測る。柱穴の配置関係から住居南東側に2本の主柱穴が想定されるが、重複する遺構により検出されていない。

出土遺物はカマド内とその周囲で多く出土しており、土師器の坏、甕、石製の菅玉が出

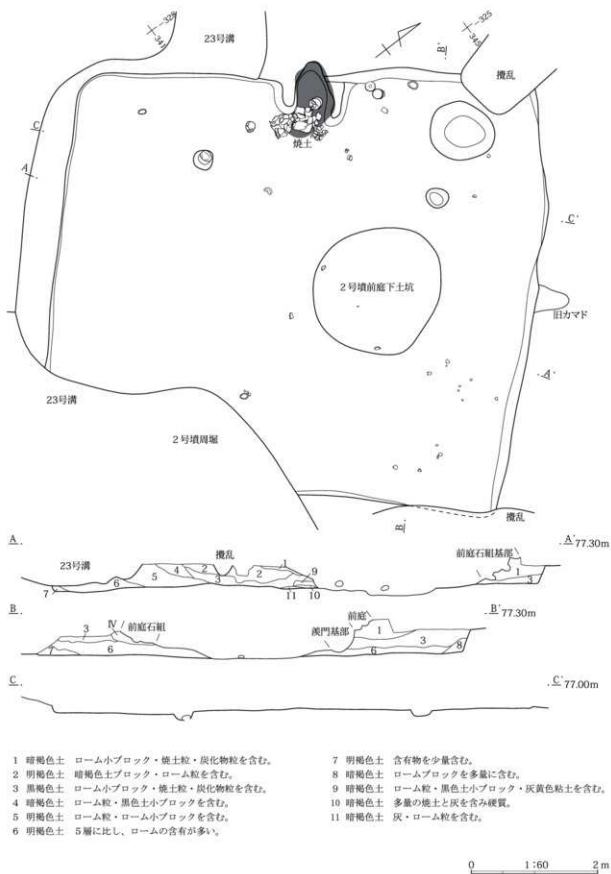


- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒含む。
- 2 暗褐色土 1層に類する。
- 3 明茶灰褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒を多量。
- 4 明茶灰褐色粘質土 2層に比しより粘質土を多量。
- 5 明茶灰褐色粘質土 2層に比し含有物少量。
- 6 明茶灰褐色粘質土 多量の焼土ブロック混じる。
- 7 暗褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒含む。(袖部)
- 8 暗茶褐色粘質土 多量の焼土粒含む、硬化。
- 9 暗茶褐色粘質土 焼土粒・灰・褐色土の混層。上面硬化。
- 10 暗茶褐色粘質土
- 11 暗黄褐色砂質土 焼土粒を少量。

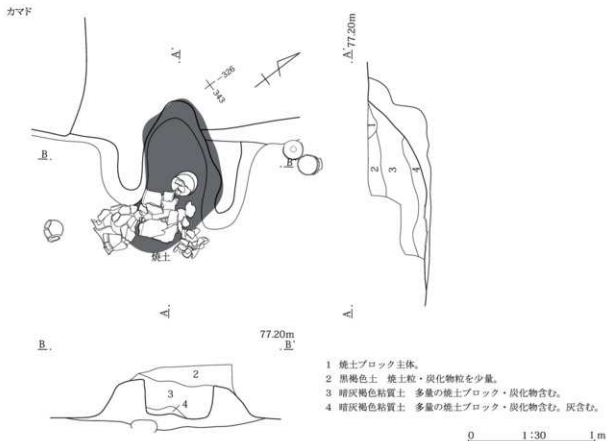


第147図 (5) 106号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第148図 (5) 107号住居跡平面図



第149図 (5) 107号住居跡・カマド平面図

土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 109号住居跡

(第150・232図、PL38・140、表79)

位置(座標)：X軸=38.340~345、Y軸=-45.308~314。

形状：隅丸方形。

規模：長軸(4.77)m、短軸(4.68)m、壁高18cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、108号住居(古墳時代前期後半)と重複し、本住居の方が新しい。また、住居南西側は2号墳周部に、住居西側は110・115号住居(古墳時代後期)に、住居東側は290号土抗に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本

住居の西4mに107号住居が、北西6mに95号住居がある。

住居の残存状態はあまり良くなく、壁高は低い。埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。貯蔵穴は住居東隅に位置し、規模は径68×55cm、深さ12cmを測る。カマドや柱穴等の施設は未検出である。

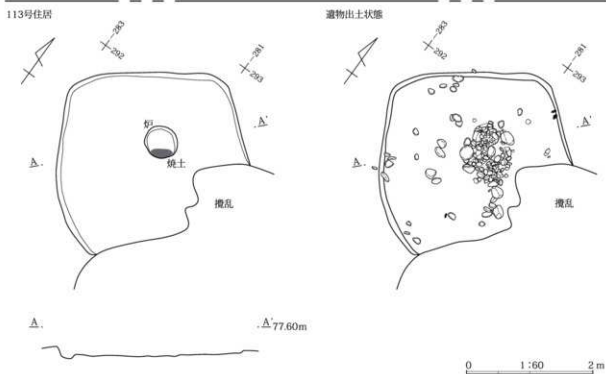
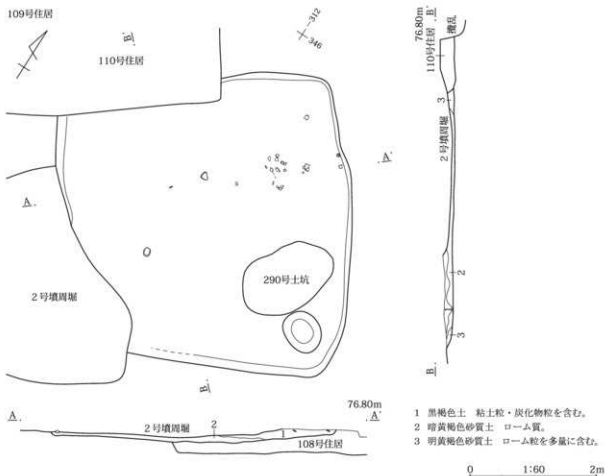
遺物は住居中央部から土師器の鉢と土鍾3点の他、坏片や甕片が出土しているが、図示できなかった。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

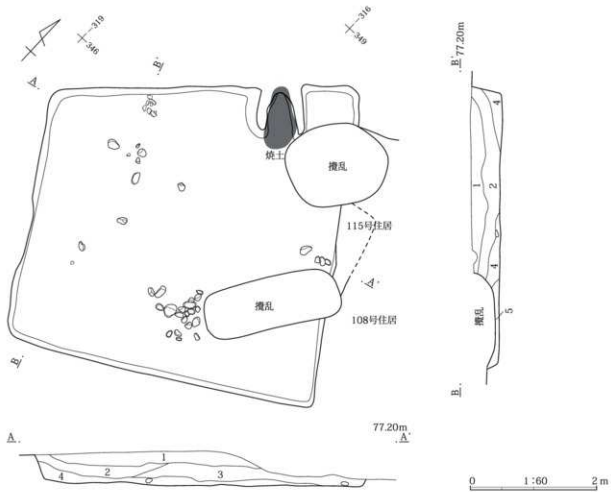
(5) 110号住居跡 (第151・233図、PL38)

位置(座標)：X軸=38.341~348、Y軸=-45.12~318。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



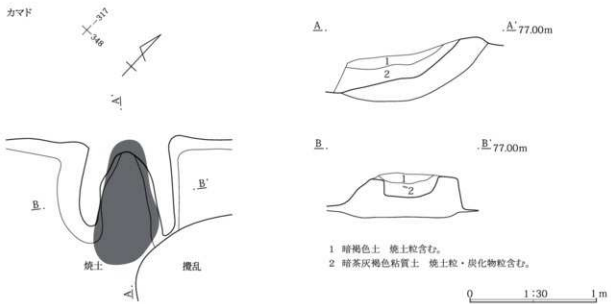
第150図 (5) 109・113号住居跡平面図



- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム小ブロック多くやや明色。
 2 暗褐色土 1層に比し、ローム含有が少ない、やや黒味がかる。
 3 暗褐色土 2層に類するが、ローム含有やや多い。

- 4 黒褐色土 ローム粒・焼土粒含む、やや茶色味がかる。
 5 明褐色土 ローム粒多く含む。

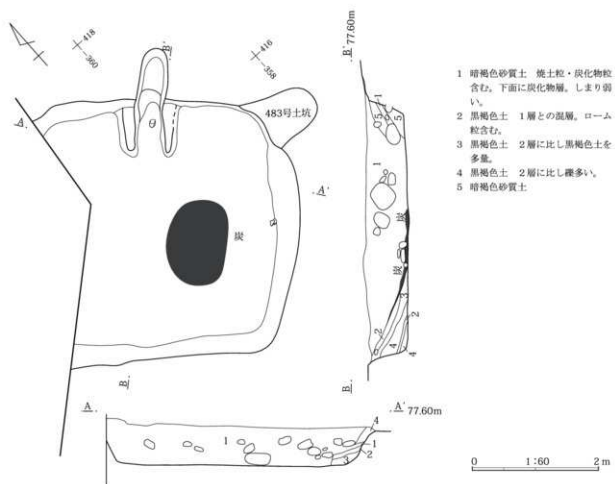
カマド



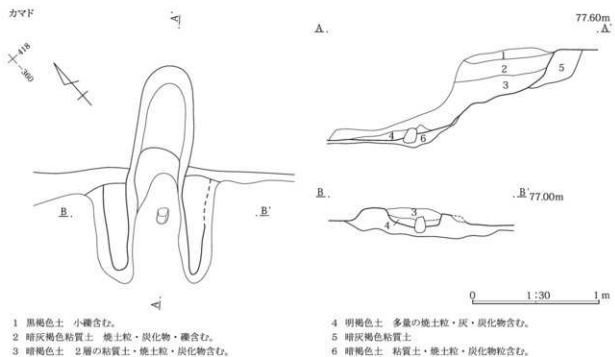
- 1 暗褐色土 焼土粒含む。
 2 暗茶灰褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒含む。

第151図 (5) 110号住居跡・カマド平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



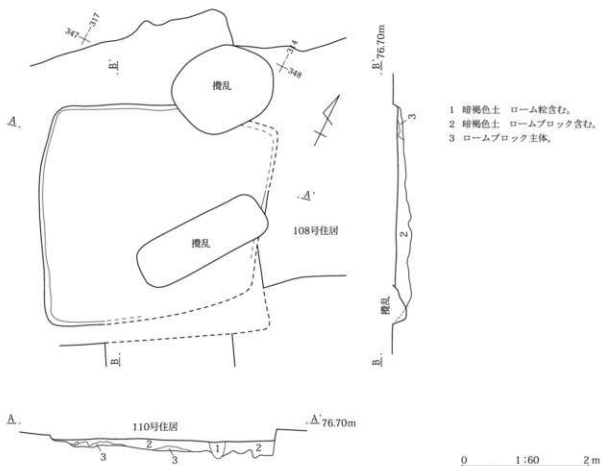
- 1 暗褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒含む。下面に炭化物層。しまり弱い。
- 2 黒褐色土 1層との混層。ローム粒含む。
- 3 黒褐色土 2層に比し黒褐色土を多量。
- 4 黒褐色土 2層に比し雑多い。
- 5 暗褐色砂質土



- 1 黒褐色土 小礫含む。
- 2 暗灰褐色粘質土 焼土粒・炭化物・礫含む。
- 3 暗褐色土 2層の粘質土・焼土粒・炭化物含む。

- 4 明褐色土 多量の焼土粒・灰・炭化物含む。
- 5 暗灰褐色粘質土
- 6 暗褐色土 粘質土・焼土粒・炭化物粒含む。

第152図 (5) 114号住居跡・カマド平面図



第153図 (5) 115号住居跡平面図

形状：不等辺四角形。

規模：長辺4.87m、短辺4.65m、壁高37cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の中央部にあり、109・115号住居（古墳時代後期）と重複するが、本住居の方が新しい。住居東側は攪乱によって大きく壊されている。なお、2号墳下に本住居はある。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北側に95号住居が、南西側に107号住居がある。歪みのある住居形状で、埋土は暗褐色土をベースとする。なお、床面近くには大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦で、カマド前から中央にかけて硬化が著しい。カマドは北西壁中央から北寄りに位置する。両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道部は壁内に取まる。柱穴等の施設は未検出である。遺

物は住居北西壁際から土師器の壺片が出土した他、埋土中から坏蓋模倣と有段口縁坏が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 113号住居跡（第150・234・235図、表81、PL. 38・140・141）

位置(座標)：X軸=38.289～292、Y軸=-45.279～283。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.05m、短辺(2.78)m、壁高20cm。

主軸方向：北東。

本住居跡は調査区中央部よりやや南東側にある。同じ古墳時代後半の住居は、すぐ北側に62号住居が、南側に59号住居がある。



第154図 (5) 122号住居跡平面図

住居東側は擾乱によって壊されており、また、上面が削平されているため、壁高は低く、住居の残存状態は悪い。そのため埋土は不明である。床面直上には炭化材が少量ではあるが出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。なお、床面近くには大量の大型礫が廃棄されていた。床面はほぼ平坦で、中央部は硬化が著しい。炉は主軸方向の中央よりやや北側で検出され、規模は径52×50cmの不整形円形を呈し、中央部は周囲より若干窪んだ状態で、底面の一部で焼土が確認されている。炉の埋土中からは小型甕と2固体の甕が出土している。柱穴等の施設は未検出である。遺物は炉とその周囲で多く出土しており、土師器の坏、小型甕、短頸壺が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期（7世紀前半）と考えられる。

(5) 114号住居跡

(第152・236図、表82、PL.39・141)

位置(座標)：X軸=38.412~417、Y軸=-45.358~363。

形状：隅丸方形か。

規模：長辺4.10m、短辺?m、壁高61cm。

長軸方向：北東。

本住居跡は調査区の北西部端にあり、住居の西側1/3ほどが調査区外となる。本遺構よりも時期が新しい7号墳と重複しているが、直接切り合っていない。

また、住居東隅で483号土抗と重複するが、新旧は不明である。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南西6mに69号住居が、北東15mに45号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は暗褐色砂質土をベースとし、土層断面の観察から、レンズ状に堆積している。なお埋土中には径10～60cm大の礫が多く混入する。床面中央部直上には炭が分布していることから、焼失住居の可能性はある。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁の中央に位置する。両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側に作られ、燃焼部のほぼ中央に支脚石が残存する。煙道部は外側に大きく張り出す。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は極僅か、有段口縁杯が埋土中から出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 115号住居跡 (第153図、PL.39)

位置(座標)：X軸=38.342～347、Y軸=-45.312～316。

形状：隅丸方形。

規模：長辺3.56m、短辺3.49m、壁高16cm。

長軸方向：東北東。

本住居跡は調査区の中央部にあり、108号住居(古墳時代前期後半)と109号住居(古墳時代後期)を壊しており、住居上面はすべて110号住居(古墳時代後期)に壊されている。また、住居北側と東側の一部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北側に95号住居が、南西側に107号住居がある。

住居の残存状態は悪い。平面形状は歪みがあり、埋土と床面の状況は不明である。カマドや柱穴等の施設は未検出で、掘方をもち、埋土は暗褐色土で、深さは8～15cmほどである。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

(5) 122号住居跡 (第154図、PL.39)

位置(座標)：X軸=38.244～252、Y軸=-45.248～255。

形状：隅丸長方形。

規模：長軸?m、短軸5.67m、壁高9cm。

長軸方向：北北西。

本住居跡は調査区の南東部端にあり、住居南側1/3が調査区外となる。この調査区外の部分は西野原遺跡(2)と太田市教育委員会調査の西野原遺跡(6)にあたり、西野原遺跡(2)については刊行済みである。住居中央は121号住居(飛鳥時代)と重複し、本住居の方が古い。また、住居東側は25号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の東6mに105号住居がある。

住居の残存状態は非常に悪い。住居形状は、長軸方向に対し横長となる。壁高は低く、埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドや柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物は土器片が僅かに出土しているが、図示できなかった。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

(5) 132号住居跡

(第155・237図、表83、PL.39・140)

位置(座標)：X軸=38.273～277、Y軸=-45.344～349。

形状：不明。

規模：長辺6.12m、短辺?m、壁高12cm。

長軸方向：北西。

本住居跡は調査区の南西部端にあり、住居の南側が調査区外となる。この調査区外の部分が西野原遺跡(2)にあたり、西野原遺跡(2)については刊行済みである。本住居は攪乱によって大きく壊されており、上面は削平されていることから、検出された部分はカマドとその周囲に限られる。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北6mに106号住居がある。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

住居の残存状態は悪く、壁高は低い。埋土は暗茶褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北西壁のほぼ中央に位置し、両袖部は住居内に大きく張り出し、燃焼部は外側に張り出す。カマド右袖口には礫が残存する。貯蔵穴はカマド右脇で2基検出されている。1基は住居北東隅に位置し、径58×55cm、深さ27cmを測る。もう1基はカマドのすぐ右脇に位置し、径48×42cm、深さ13cmを測り、第237図1の坏身模倣が出土している。カマド左脇には調査時、ピットとして検出しているが、規模は径70×53cm、深さ13cmを測り、埋土中から4の壺が逆位で出土している。

出土遺物は他に、坏身模倣と甎小片が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(5) 138号住居跡 (第155図)

位置(座標): X軸=38.242~245、Y軸=-45.231~236。

形状: 不明。

規模: 長辺?m、短辺?m、壁高32cm。

長軸方向: 北東。

本住居跡は調査区の南東部端にあり、住居のほとんどが調査区外となる。この調査区外の部分が太田市教育委員会調査の西野原遺跡(6)にあたる。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ西側に105号住居が、北5mに68号住居が、東7mに139号住居がある。

調査範囲が僅かなため、全体像を掴むことはできない。カマドは北東壁に位置するが、袖部は検出されなかった。貯蔵穴になるかどうかははっきりしないが、カマド左脇の住居北隅で検出されている。規模は径55×48cm、深さ18cmを測る。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、周辺の遺構の状況から古墳時代後期と思われる。

(5) 139号住居跡 (第156図)

位置(座標): X軸=38.239~243、Y軸=-45.218~224。

形状: 不明。

規模: 長辺5.18m、短辺?m、壁高25cm。

長軸方向: 北東。

本住居跡は調査区の南東部端にあり、住居の南側が調査区外となる。この調査区外の部分が太田市教育委員会調査の西野原遺跡(6)にあたる。住居北東壁の一部は62号溝に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の西7mに138号住居が、北西12mに68号住居がある。

調査範囲が僅かなため、全体像を掴むことはできない。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁に位置するが、袖部は検出されなかった。柱穴等の施設は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、住居形状から古墳時代後期と思われる。

(5) 140号住居跡 (第156図)

位置(座標): X軸=38.297~306、Y軸=-45.290~298。

形状: 不明。

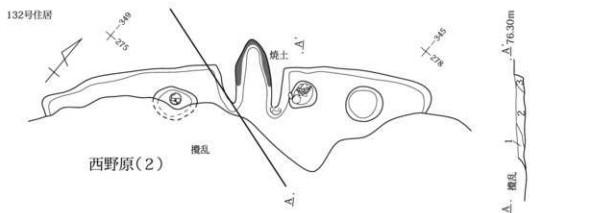
規模: 長辺?m、短辺?m、壁高26cm。

長軸方向: 北西。

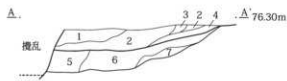
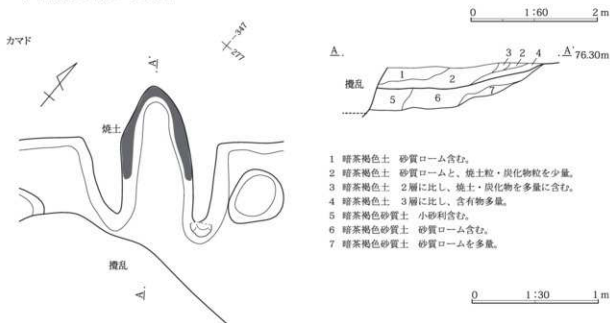
本住居跡は調査区の中央部よりやや南側にある。調査時は、本住居に重複する遺構は14号住居(古墳時代後期)として扱っているが、整理して検討した結果、同一の住居である可能性が高いことが分かった。よって、検出されたカマドは新旧のカマドのうち、残存状態が悪いことから、古い方のカマドと思われる。同じ古墳時代後半の住居は、本住居のすぐ北西側に13号住居がある。

検出された部分は僅かなため、埋土や床面の状況は不明である。貯蔵穴や柱穴は未検出である。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、重複する遺構との関係から古墳時代後期と思われる。

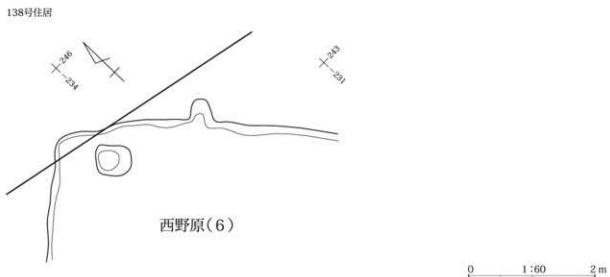


- 1 暗茶褐色土 2層に比し、含有物少なく、やや砂質。
- 2 暗茶褐色土 砂質ローム含む。
- 3 暗茶褐色土 砂質ロームを多量。



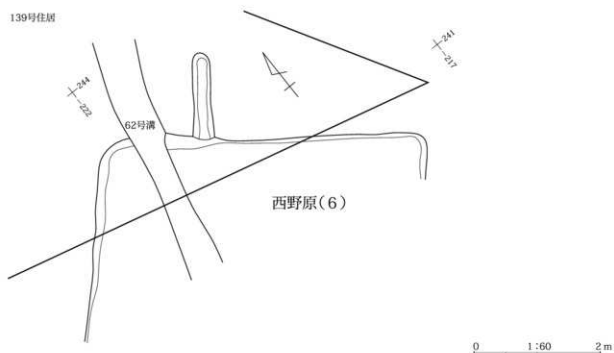
- 1 暗茶褐色土 砂質ローム含む。
- 2 暗茶褐色土 砂質ロームと、焼土粒・炭化物粒を少量。
- 3 暗茶褐色土 2層に比し、焼土・炭化物を多量に含む。
- 4 暗茶褐色土 3層に比し、含有物多量。
- 5 暗茶褐色砂質土 小砂利含む。
- 6 暗茶褐色砂質土 砂質ローム含む。
- 7 暗茶褐色砂質土 砂質ロームを多量。

0 1:30 1m



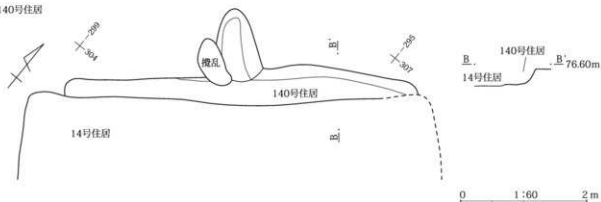
第155図 (5) 132号住居跡・カマド、138号住居跡平面図

139号住居



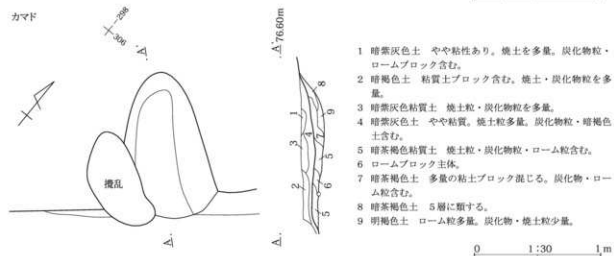
0 1:60 2m

140号住居



0 1:60 2m

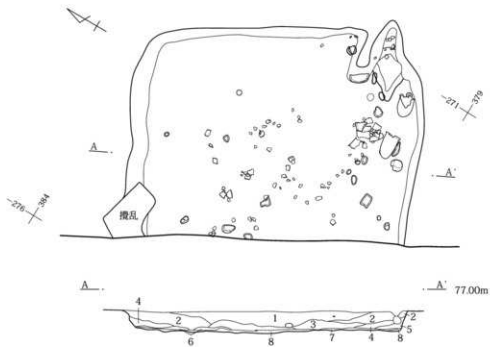
カマド



0 1:30 1m

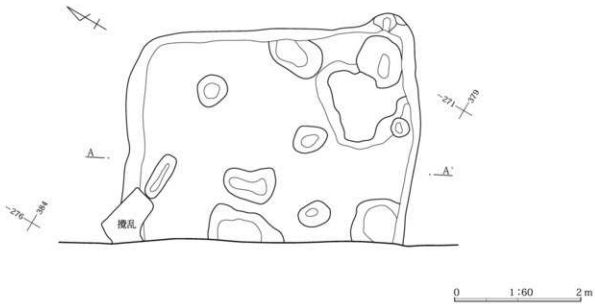
- 1 暗紫灰色土 やや粘性あり。焼土を多量。炭化物粒・ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土 粘質土ブロック含む。焼土・炭化物粒を多量。
- 3 暗紫灰色粘質土 焼土粒・炭化物粒を多量。
- 4 暗紫灰色土 やや粘質。焼土粒多量。炭化物粒・暗褐色土含む。
- 5 暗茶褐色粘質土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒含む。
- 6 ロームブロック主体。
- 7 暗茶褐色土 多量の粘土ブロック混じる。炭化物・ローム粒含む。
- 8 暗茶褐色土 5層に類する。
- 9 明褐色土 ローム粒多量。炭化物・焼土粒少量。

第156図 (5) 139・140号住居跡・カマド平面図

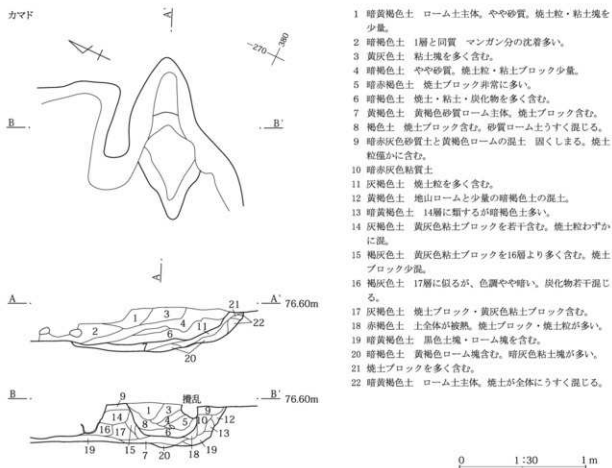


- 1 黒色土 小ロームブロックが少量。
- 2 褐色土 ローム土主体で黒色土・ロームブロック少量。
- 3 黒褐色土 黒色土主体でローム土少量。ロームブロック混じる。
- 4 暗褐色土 ローム土主体。炭化物粒を少量。
- 5 暗黄褐色土 地山ローム主体。壁崩落土。
- 6 鈍い黄褐色土 ローム土主体。しまりなし。
- 7 黄褐色土 ローム土主体。非常に硬い。路り床。
- 8 暗黄褐色土 地山ロームと暗褐色土の混土。(掘方)

掘方



第157図 (7)-1区 1号住居跡平面図



第158図 (7) - 1区 1号住居跡・カマド平面図

(7) - 1区 1号住居跡 (第157・158・238・239
図、表84、PL.40・141)

位置(座標)：X軸=38.378~383、Y軸=-45.270
~275。

形状：不明。

規模：長辺4.55m、短辺?m、壁厚35cm。

長軸方向：東北東。

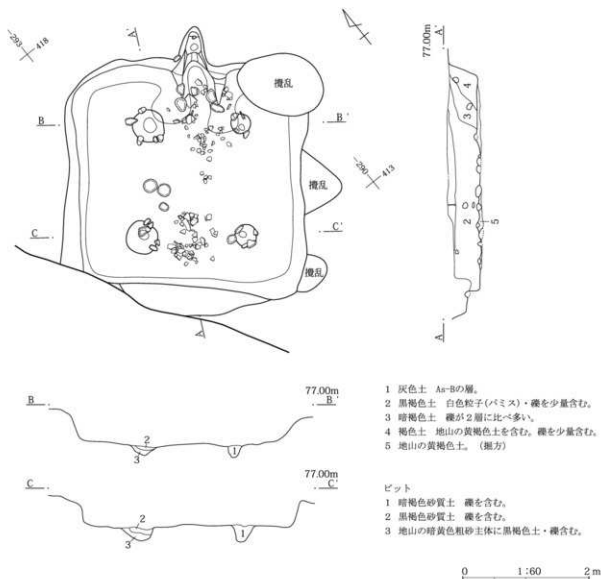
本住居跡は調査区の南部にあり、住居の南西側およそ1/3が調査区外となる。住居北西壁の一部は攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南東25mに7号住居が、北西34mに5号住居がある。

住居の残存状態は比較的良好で、埋土は黒色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、厚さ1cmほどの

ローム土を主体とした硬化面が一部で確認されており、貼り床をしている。カマドは住居東隅に位置し、左袖部が住居内に大きく張り出す。右袖部は住居の壁に近く、残存していないことから壁を利用していた可能性がある。左袖口には跡が残存する。燃焼部は住居壁の内側に作られ、煙道部はほぼ壁内に取まる。柱穴等の施設は未検出である。掘方をもち、深さは4cmほどである。

遺物は土師器の甕がカマド前庭部前でややまとまって出土しており、残存率が比較的高い。他に住居中央部から須恵器の高坏、土師器の小型碗、鉢、甕が出土している。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。



第159図 (7) - 1区 5号住居跡平面図

(7) - 1区 5号住居跡 (第159・160・240・241
図、表85、PL.42・43・143)

位置(座標): X軸=38.412~417、Y軸=-45.290
~294。

形状: 隅丸方形。

規模: 長辺3.55m、短辺3.53m、壁高51cm。

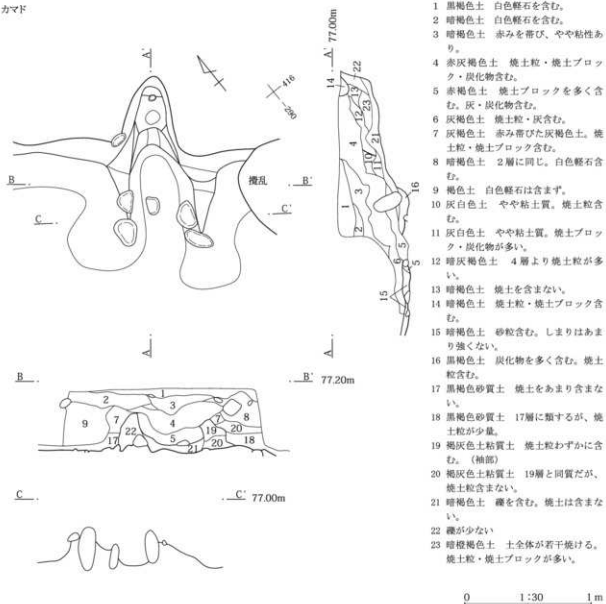
長軸方向: 北東。

本住居跡は調査区の中央部にあり、住居西隅が調査区境界で僅かな部分が調査区外となる。住居東隅と南東壁の一部は14号墳周廻によって壊されている

と思われる。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の南東34mに1号住居がある。

住居の残存状態は良好で、埋土は白色粒子を少量含んだ黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。カマドは北東壁中央に位置する。褐灰色粘質土で構築された袖部は住居内に大きく張り出し、両袖には礫を使用しに補強している。燃焼部中央からやや左に逸れた位置に支脚石が残存する。主柱穴は4本で、規模は径30~55cm、深さ18~23cmを測る。掘方をもち、深さは6cmほどである。

カマド



第160図 (7) - 1区 5号住居跡・カマド平面図

出土遺物はカマドおよびその周囲から土師器の小型甕が、住居中央部より南側で第241図6・7の甕が出土している。このうち7の須恵器甕は頸部に補強帯が巡る。なお、カマド内から出土した第240図3・4の甕は同じ出土位置であることから、同一個体と思われる。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

(7) - 1区 7号住居跡 (第161図、PL.43)

位置(座標) : X軸=38.361~365、Y軸=-45.45~250。

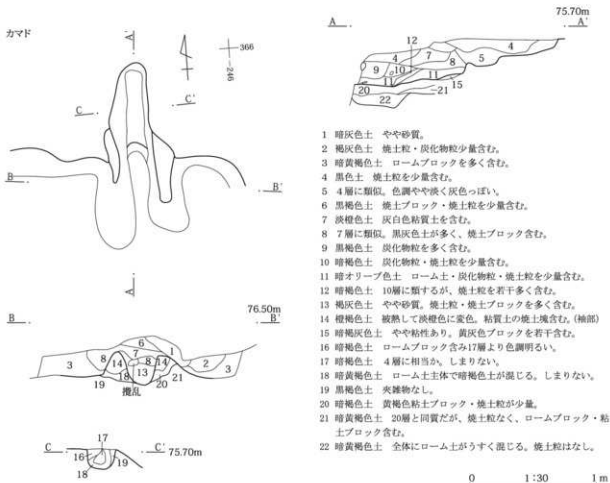
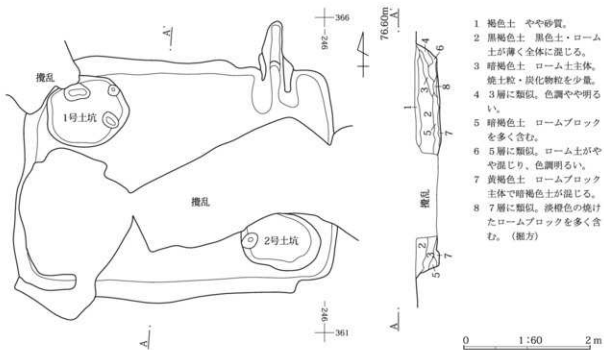
形状 : 隅丸長方形。

規模 : 長辺4.93m、短辺3.71m、壁高40cm。

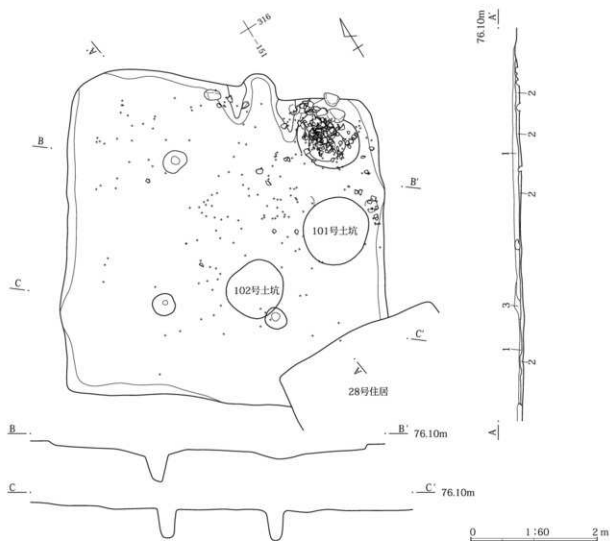
長軸方向 : 北。

本住居跡は調査区の南部にあり、住居西側から東側にかけて広い範囲にわたり攪乱によって壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本住居の北西25

第2節 検出された遺構と遺物

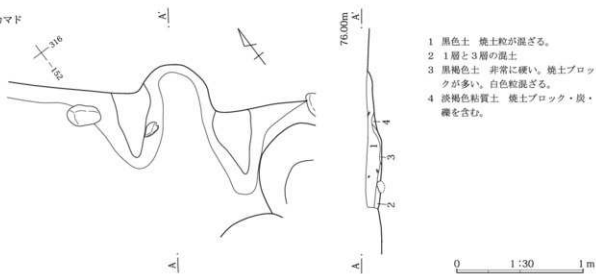


第161図 (7) - 1区 7号住居跡・カマド平面図



- 1 黒色土 やや砂質。白色粒多く混ざる。ロームブロック・焼土粒を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック主体で1層土が少量混ざる。(貼り床)
- 3 (102号土坑埋土)

カマド



- 1 黒色土 焼土粒が混ざる。
- 2 1層と3層の混土
- 3 黒褐色土 非常に硬い。焼土ブロックが多い。白色粒混ざる。
- 4 淡褐色粘質土 焼土ブロック・炭・礫を含む。

第162図 (7)-2区 17号住居跡・カマド平面図

mに1号住居がある。住居形状は、長軸方向に対し横長となる。

住居の残存状態は、擾乱の大きな影響を受けている割には良好で、埋土は黒褐色土をベースとする。床面直上には炭化材が出土していることから、焼失住居の可能性を持つ。床面はほぼ平坦である。カマドは北壁中央から東寄りに位置する。橙褐色土で構築された両袖部は住居内に張り出し、煙道部は住居壁の外側に伸びる。柱穴は未検出であるが、土抗を2基検出している。1号土抗の規模は径130×113cm、深さ8cm、2号土抗は径128×87cm、深さ11cmを測る。掘方を持ち、深さは3cmほどである。

出土遺物は土器片が僅かに出土しているが、図示できなかった。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、住居形状から古墳時代後期と思われる。

(7) 一2区 17号住居跡

(第162・242図、PL.144)

位置(座標)：X軸=38.310~316、Y軸=-45.150~156。

形状：隅丸方形。

規模：長辺5.05m、短辺5.00m、壁高22cm。

長軸方向：北北東。

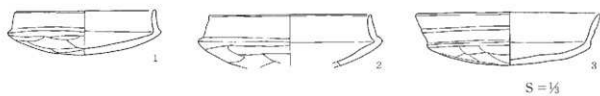
本住居跡は調査区の南東部端にあり、住居南隅は28号住居(平安時代)に壊されている。また、東側は101・102号土抗に壊されている。同じ古墳時代後半の住居は、本調査区では検出されていない。

住居の残存状態は、あまり良くない。壁高は低く、埋土は白色粒子を含んだ黒色土をベースとする。床面はほぼ平坦で、厚さ2~5cmほどのロームブロックを主体とした硬化面が確認されており、貼り床をしている。カマドは北壁のほぼ中央に位置するが、袖部は検出されなかった。貯蔵穴はカマド右脇の住居北東隅に位置する。径105×84cm、深さ49cmを測り、第242図1・2の高環と、4の小型甕、5の甕が出土している。主柱穴は3本検出され、規模は径47~32cm、深さ49~53cmを測る。

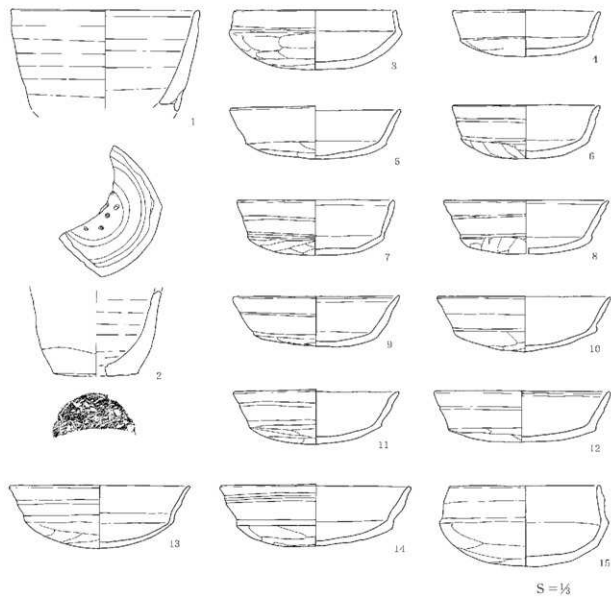
出土遺物はカマドおよび貯蔵穴の周囲から土師器の高環や甕が出土している。なお、6-1・6-2の甕は出土位置が近いことから、同一個体の可能性が高い。

出土土器から、本住居跡は古墳時代後期と考えられる。

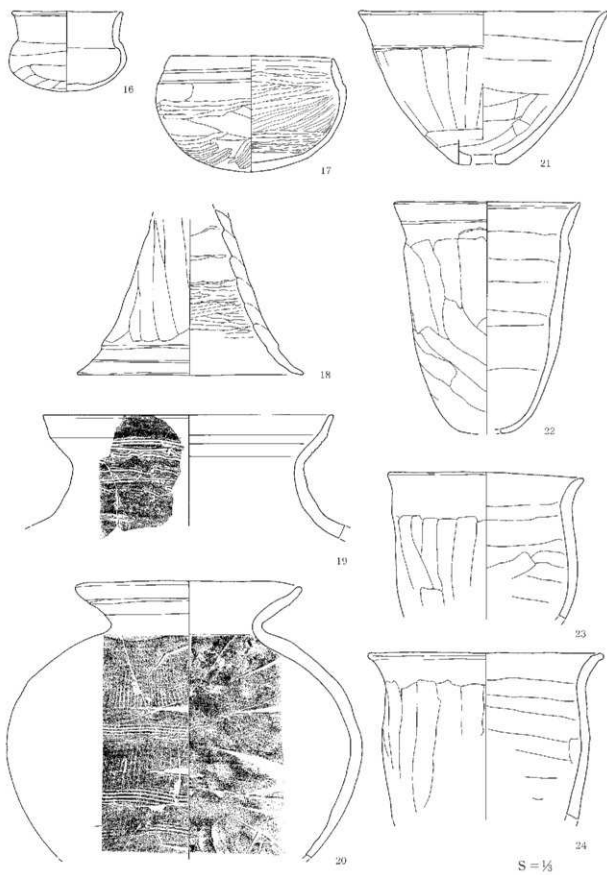
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



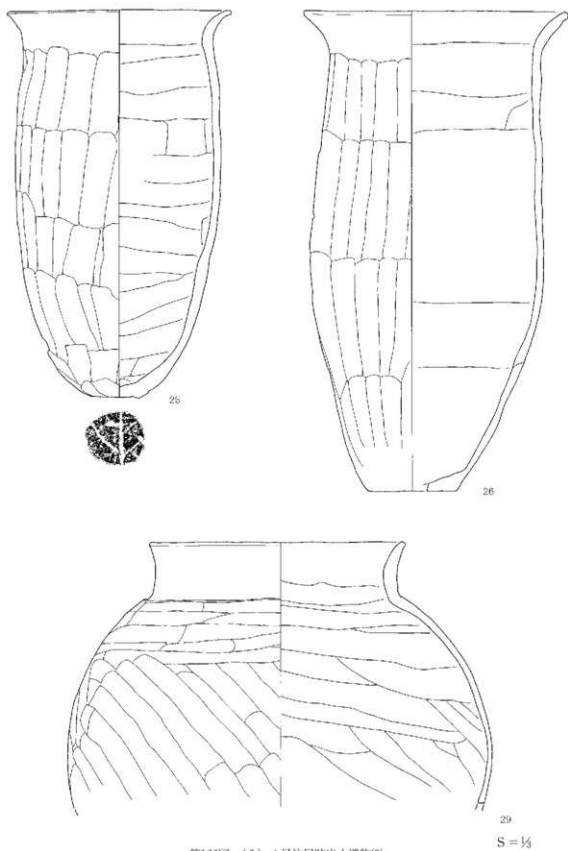
第163図 (5) 1号住居跡出土遺物



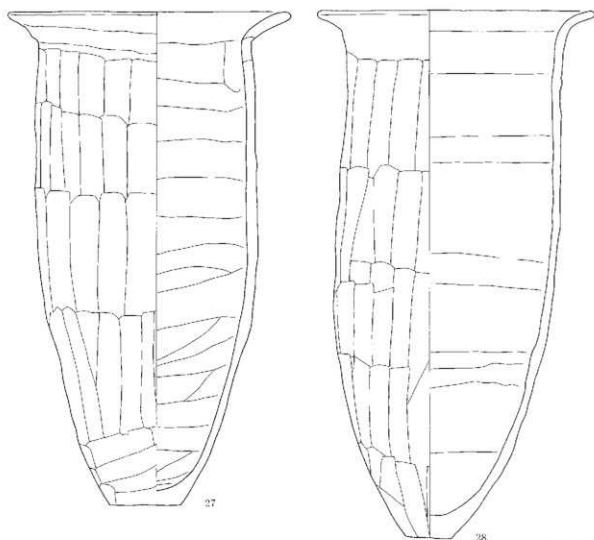
第164図 (5) 4号住居跡出土遺物(1)



第165図 (5) 4号住居跡出土遺物(2)

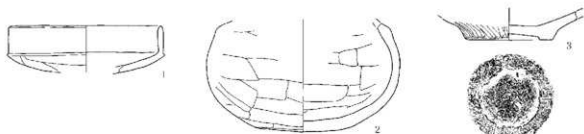


第166図 (5) 4号住居跡出土遺物(3)



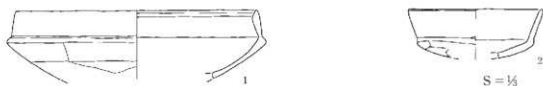
第167図 (5) 4号住居跡出土遺物(4)

S = 1/4



第168図 (5) 6号住居跡出土遺物

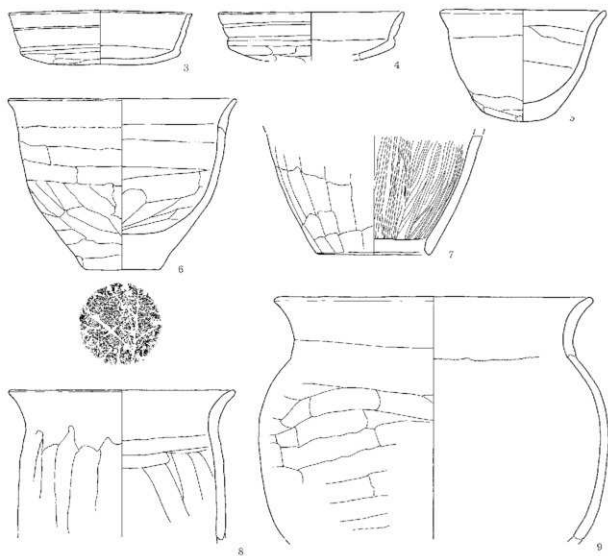
S = 1/4



第169図 (5) 7号住居跡出土遺物(1)

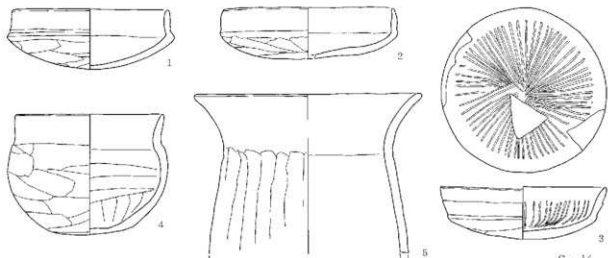
S = 1/4

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



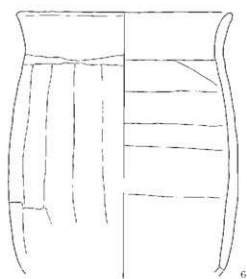
第170図 (5) 7号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4

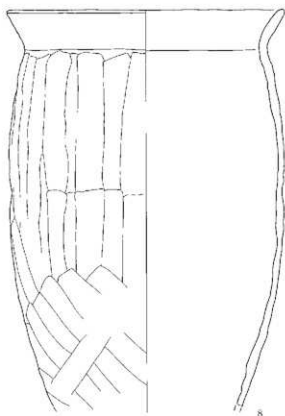


第171図 (5) 8号住居跡出土遺物(1)

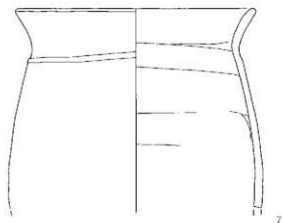
S = 1/4



6



8



7

S = 1/4

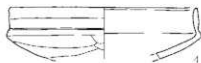
第172図 (5) 8号住居跡出土遺物(2)



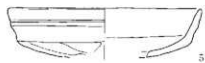
1



2



4



5



6

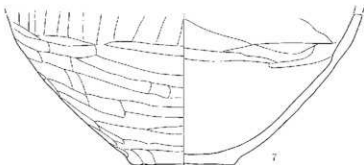
S = 1/4



8



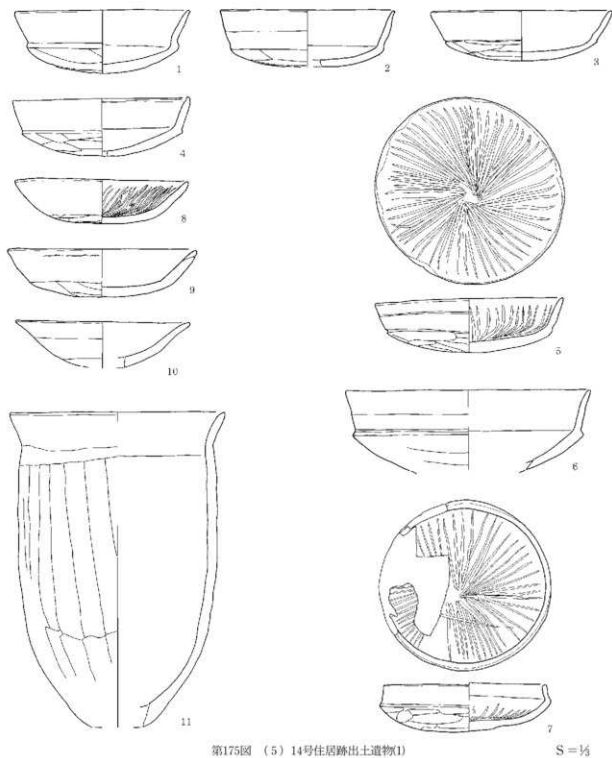
3

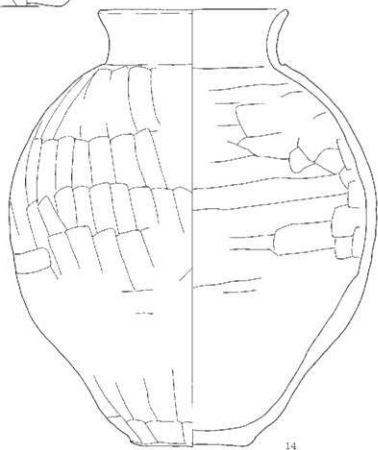
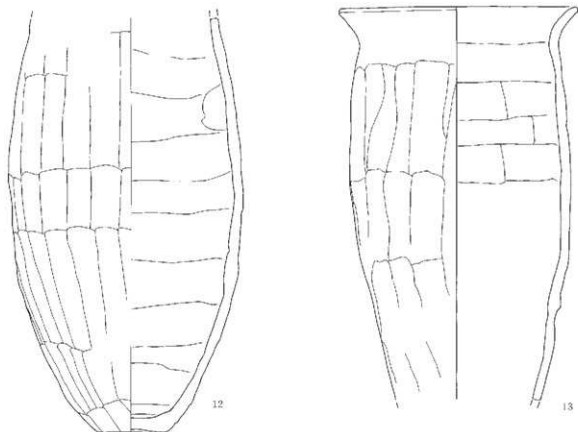


7

第173図 (5) 10号住居跡出土遺物

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

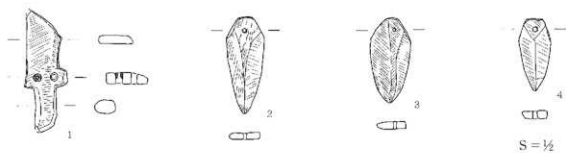




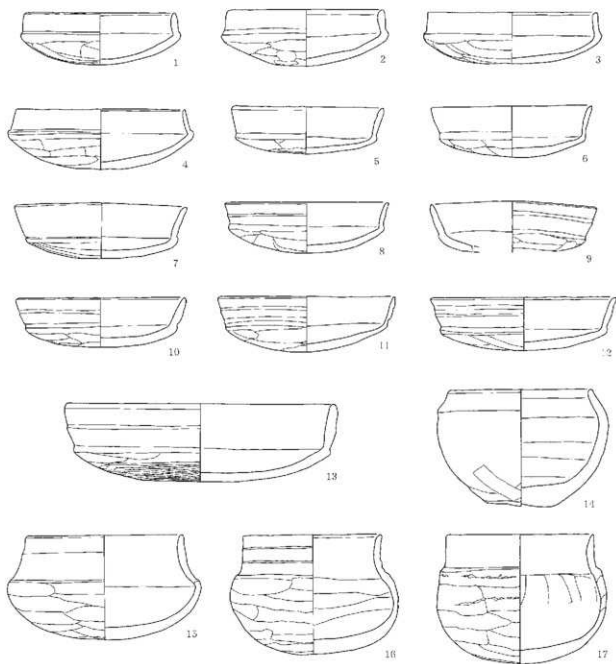
第176図 (5) 14号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4

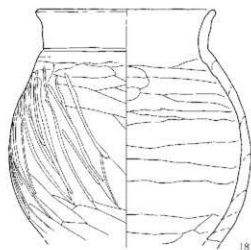
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



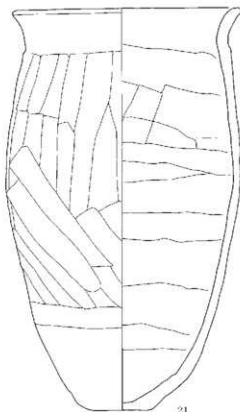
第177図 (5) 15号住居跡出土遺物



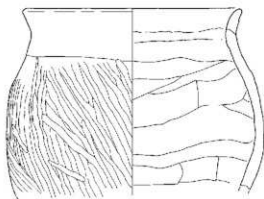
第178図 (5) 17号住居跡出土遺物(1)



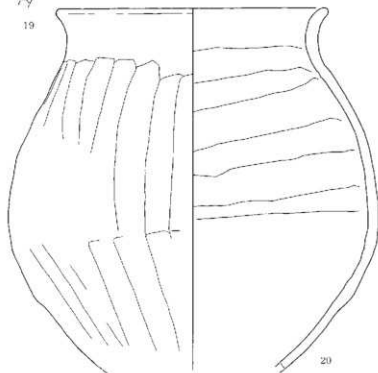
18



21



19

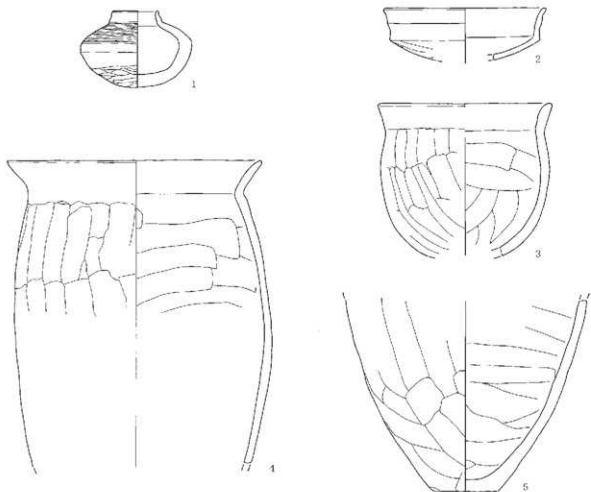


20

第179図 (5) 17号住居跡出土遺物(2)

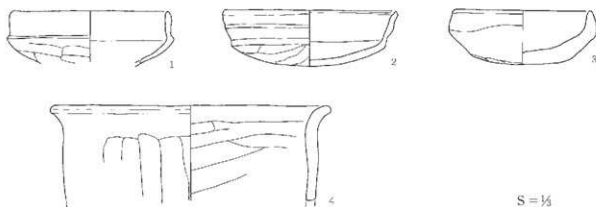
S = 1/4

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第180図 (5) 19号住居跡出土遺物

S = 1/4



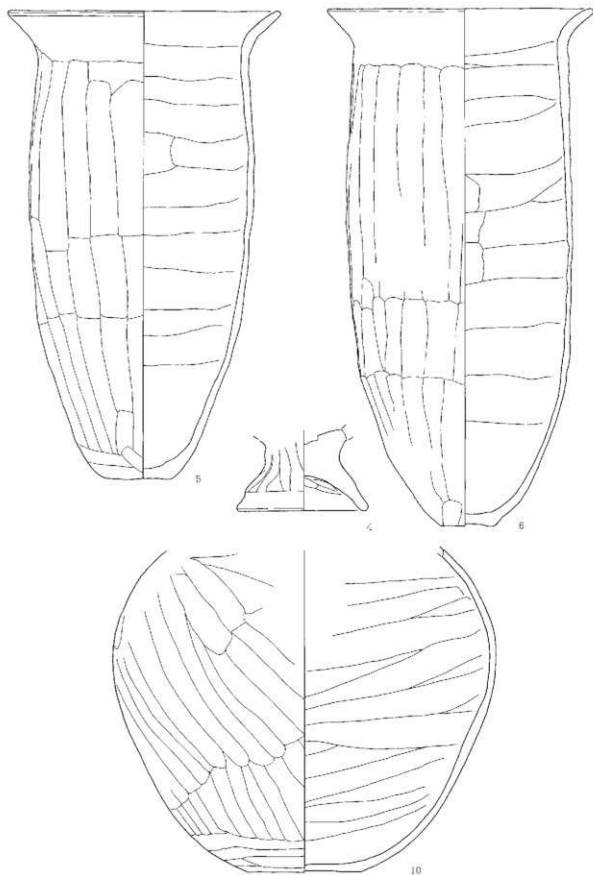
第181図 (5) 21号住居跡出土遺物

S = 1/4



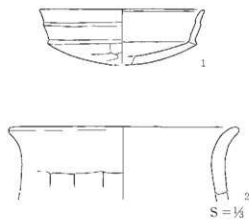
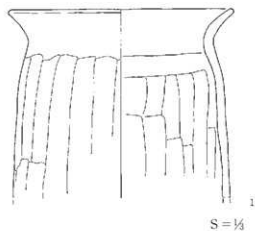
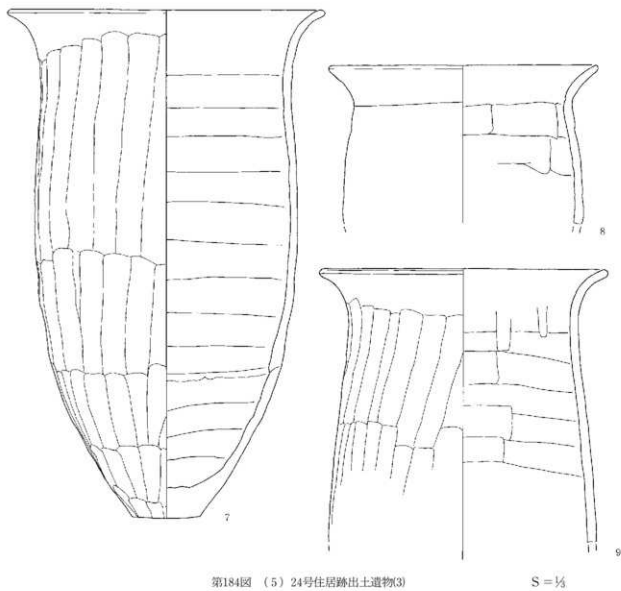
第182図 (5) 24号住居跡出土遺物(1)

S = 1/4

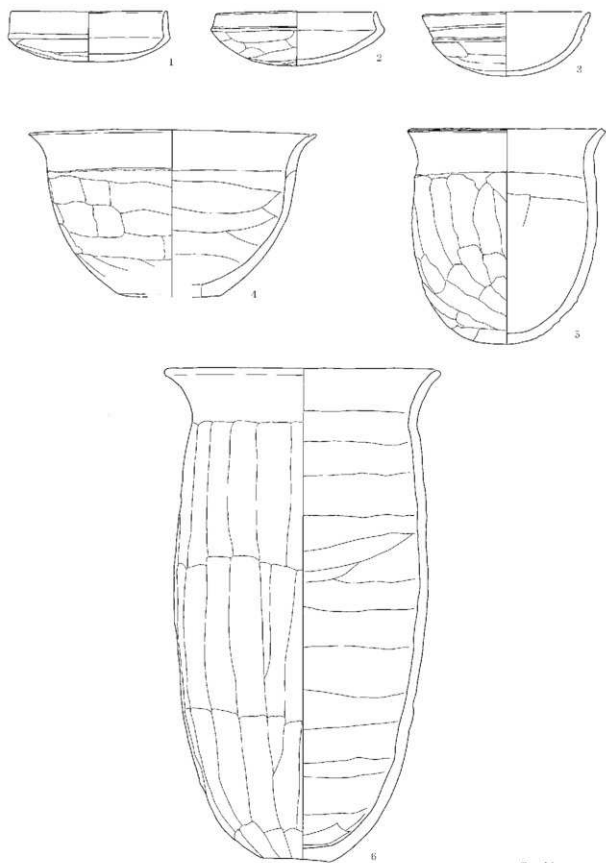


第183図 (5) 24号住居跡出土遺物(2)

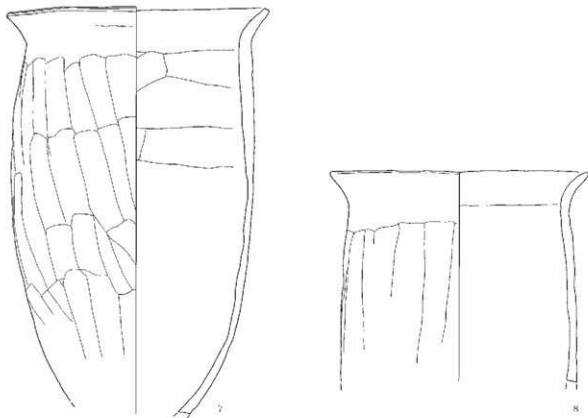
S = 1/4



第2節 検出された遺構と遺物

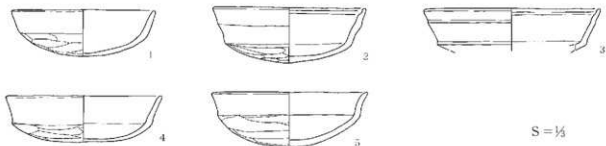


第187図 (5) 29号住居跡出土遺物(1)



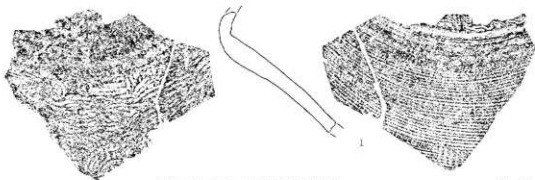
第188図 (5) 29号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4



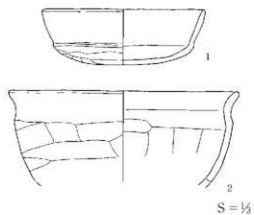
第189図 (5) 34号住居跡出土遺物

S = 1/4

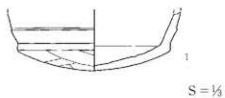


第190図 (5) 42号住居跡出土遺物

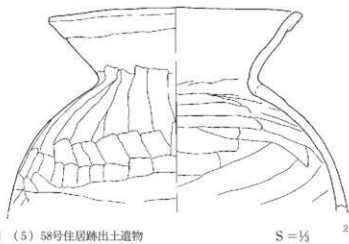
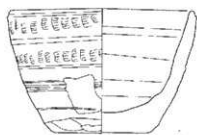
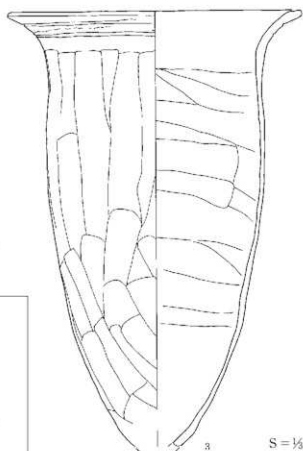
S = 1/4



第191図 (5) 45号住居跡出土遺物



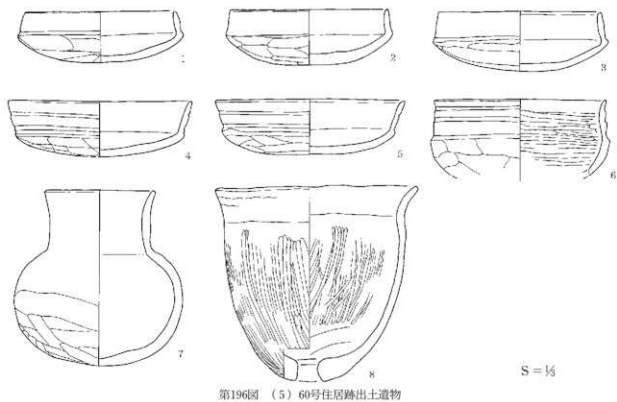
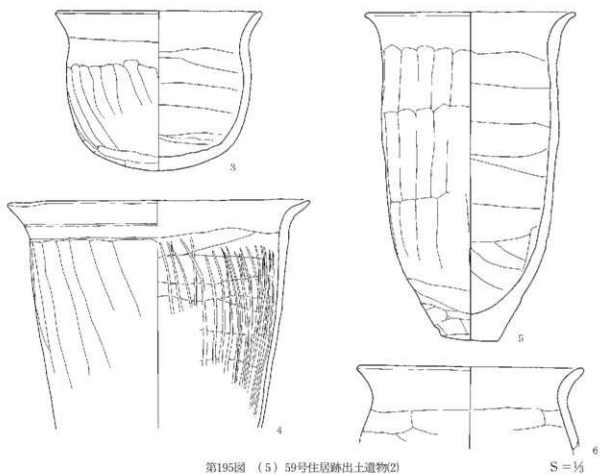
第192図 (5) 46号住居跡出土遺物

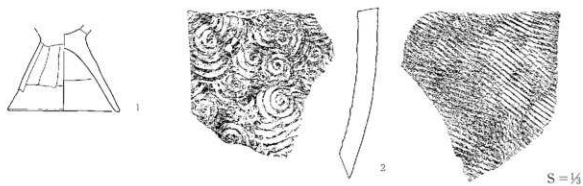


第193図 (5) 58号住居跡出土遺物

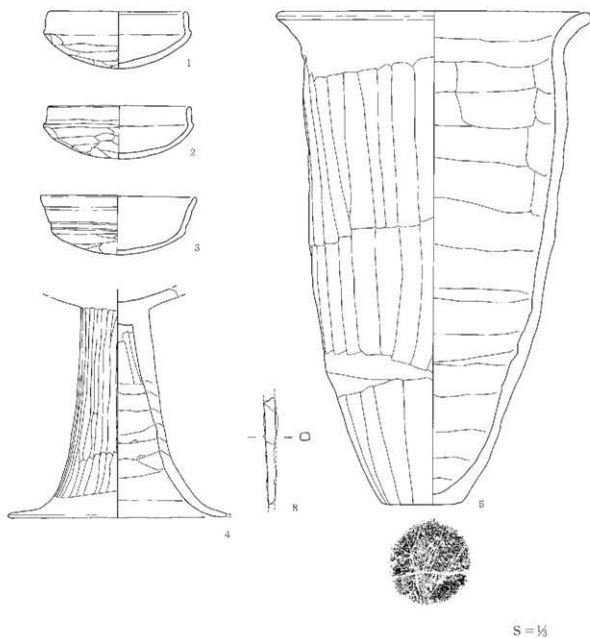


第194図 (5) 59号住居跡出土遺物(1)

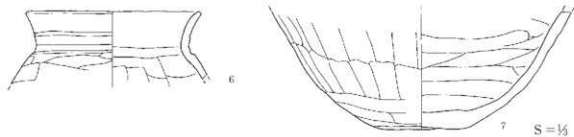




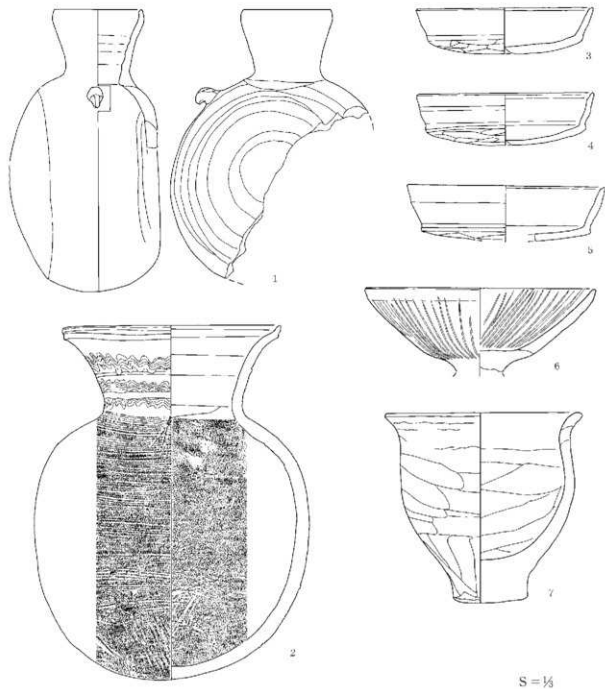
第197図 (5) 62号住居跡出土遺物



第198図 (5) 64号住居跡出土遺物(1)

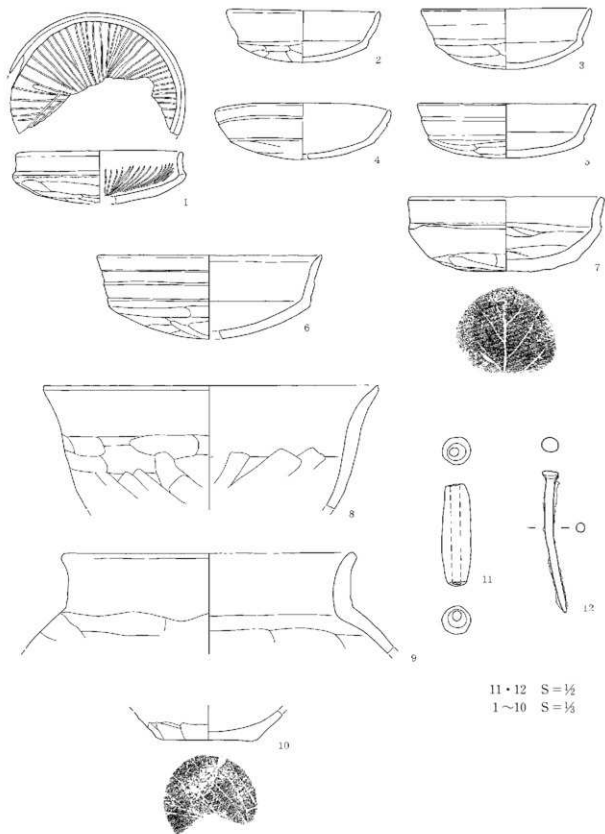


第199図 (5) 64号住居跡出土遺物(2)



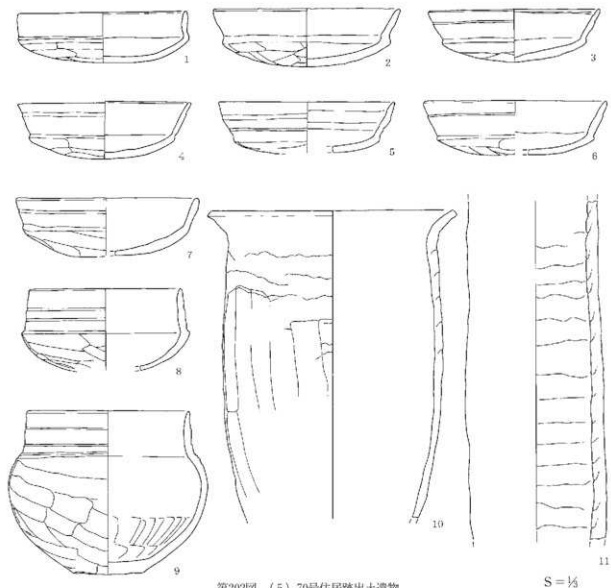
第200図 (5) 67号住居跡出土遺物

第2節 検出された遺構と遺物

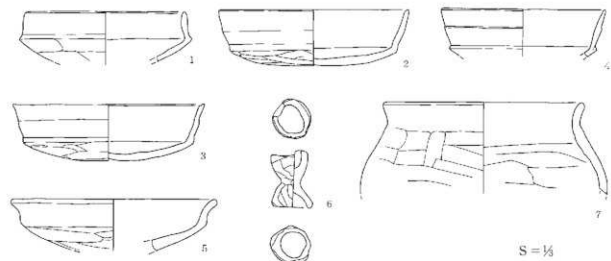


第201図 (5) 68号住居跡出土遺物

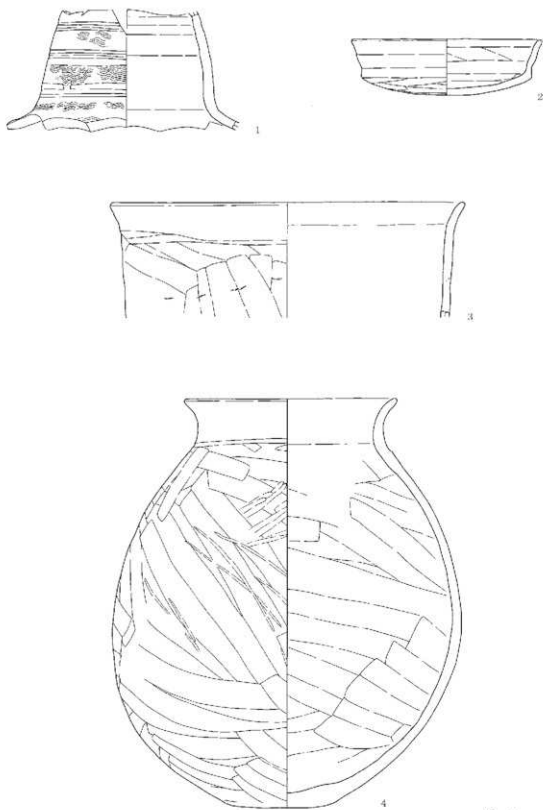
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第202図 (5) 70号住居跡出土遺物

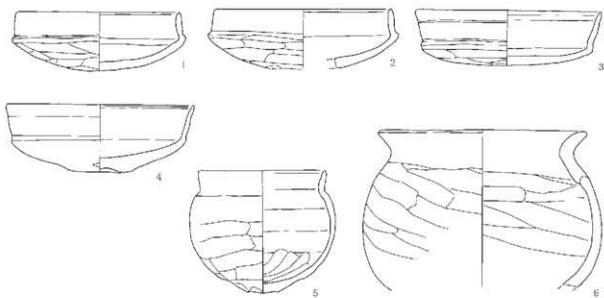


第203図 (5) 71号住居跡出土遺物



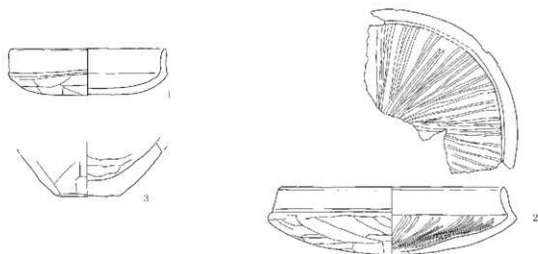
第204図 (5) 74号住居跡出土遺物

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



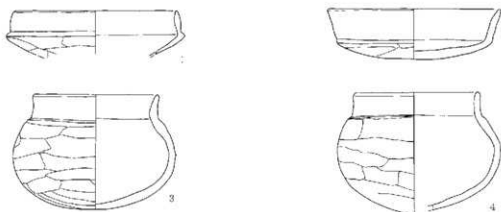
第205図 (5) 75号住居跡出土遺物

S = 1/4



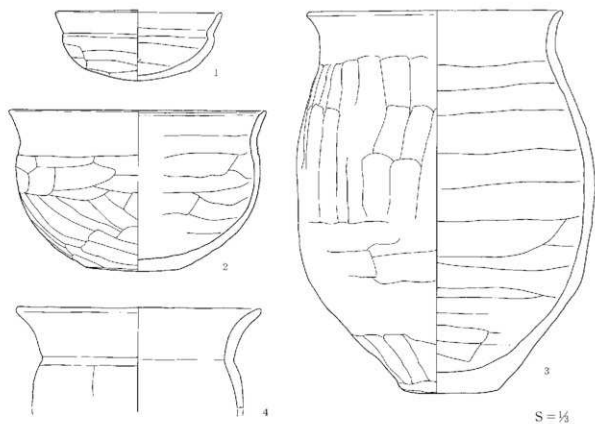
第206図 (5) 82号住居跡出土遺物

S = 1/4

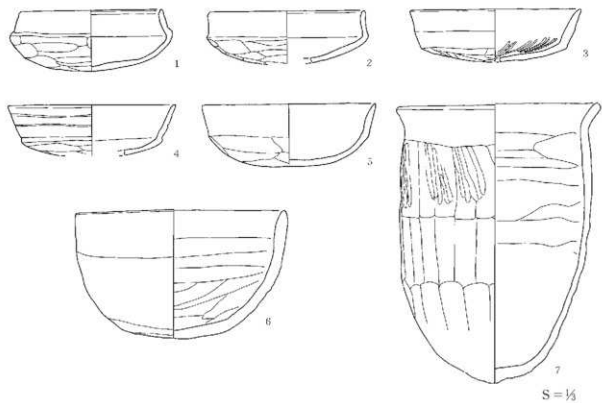


第207図 (5) 84号住居跡出土遺物

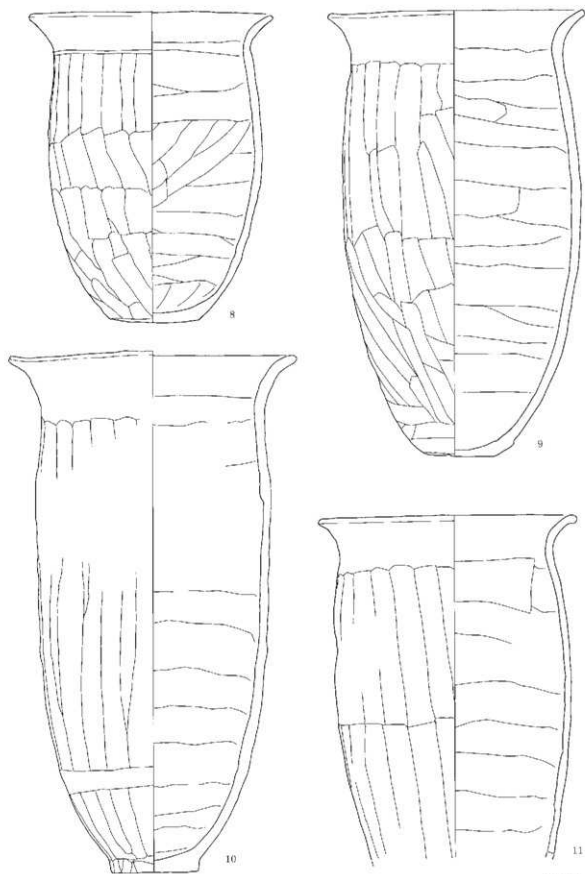
S = 1/4



第208図 (5) 85号住居跡出土遺物

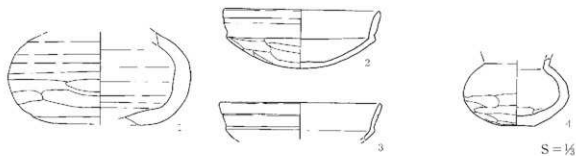


第209図 (5) 86号住居跡出土遺物(1)

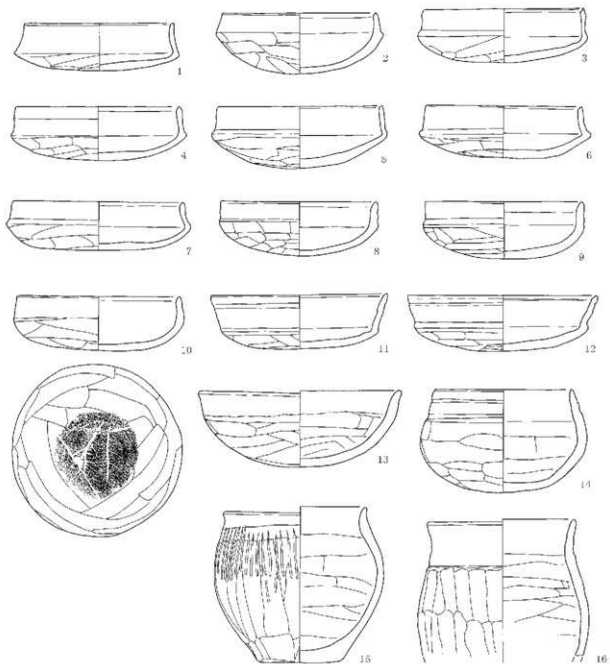


第210図 (5) 86号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4

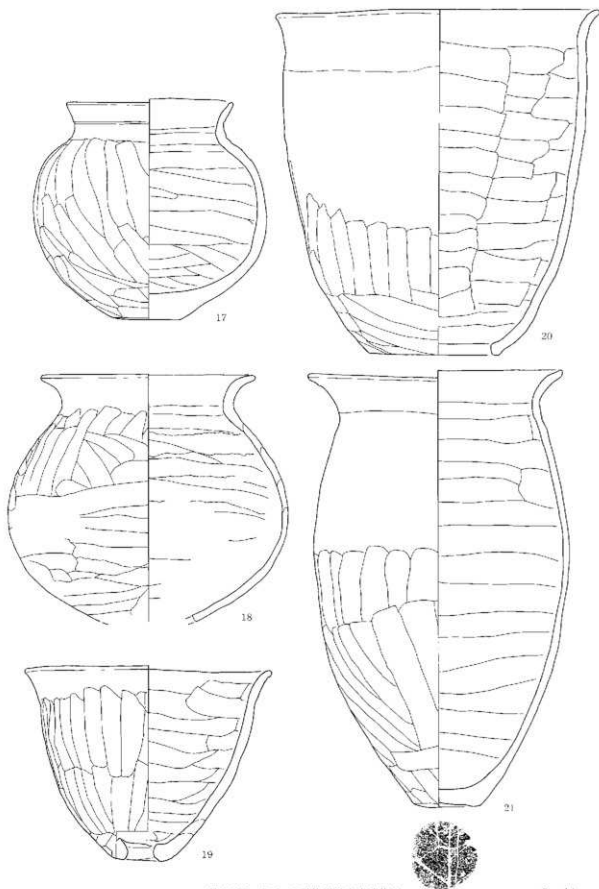


第211図 (5) 87号住居跡出土遺物



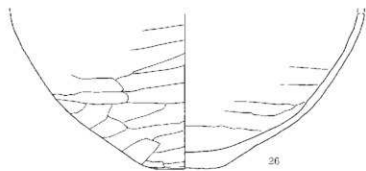
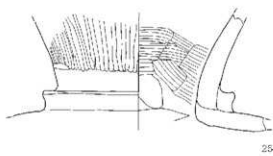
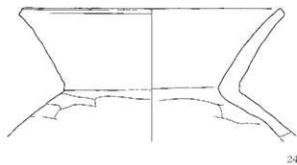
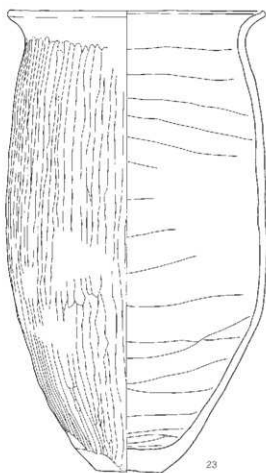
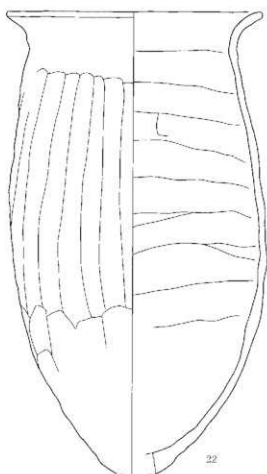
第212図 (5) 88号住居跡出土遺物(1)

S = 1/4



第213図 (5) 88号住居跡出土遺物(2)

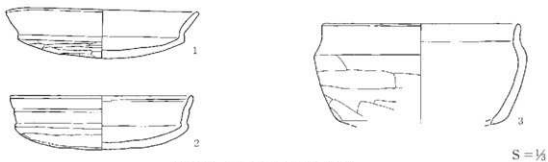
S = 1/4



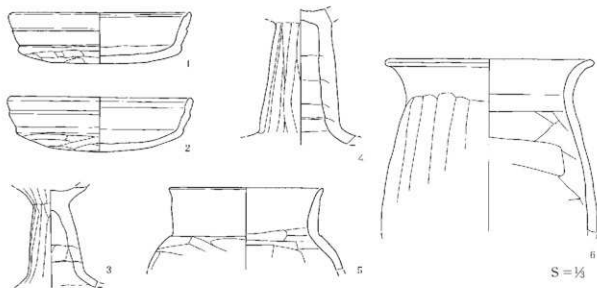
S = $\frac{1}{4}$

第214図 (5) 88号住居跡出土遺物(3)

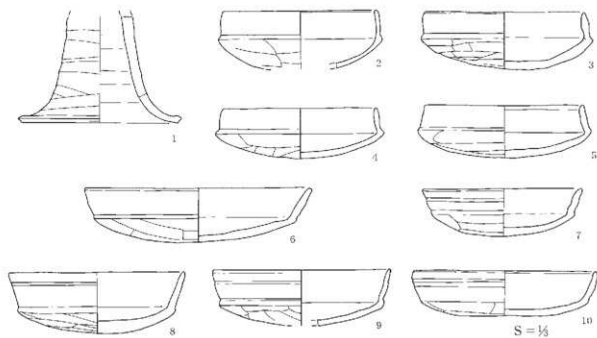
第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



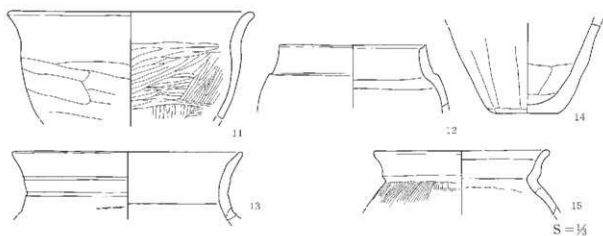
第215図 (5) 91号住居跡出土遺物



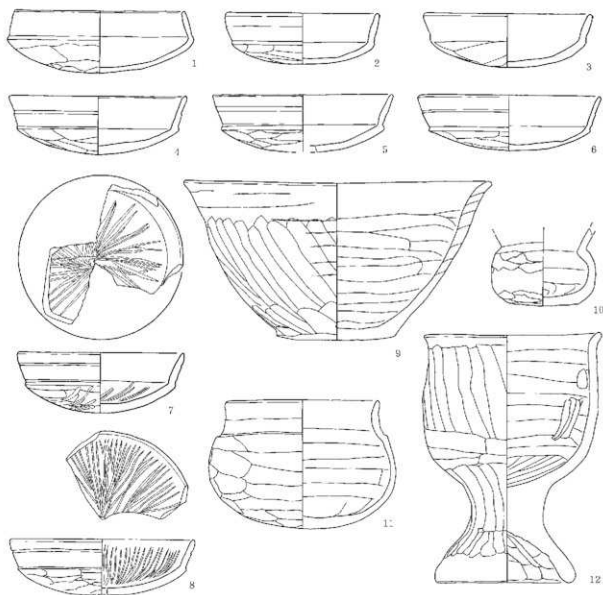
第216図 (5) 92号住居跡出土遺物



第217図 (5) 95号住居跡出土遺物(1)

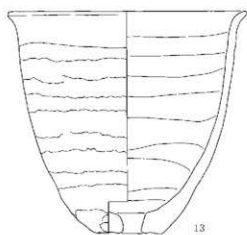


第218図 (5) 95号住居跡出土遺物(2)

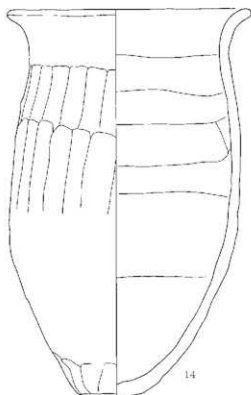


第219図 (5) 98号住居跡出土遺物(1)

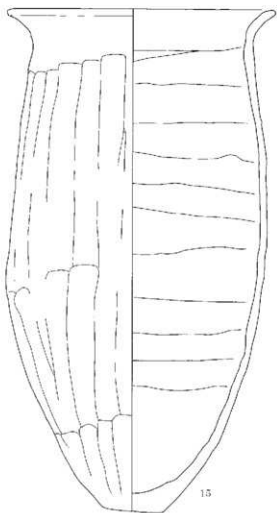
S = 1/4



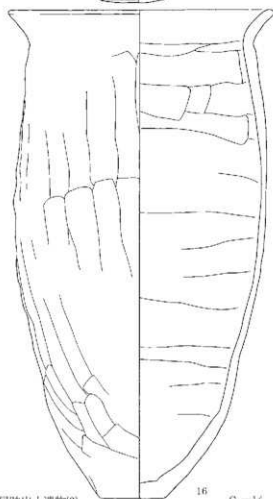
13



14



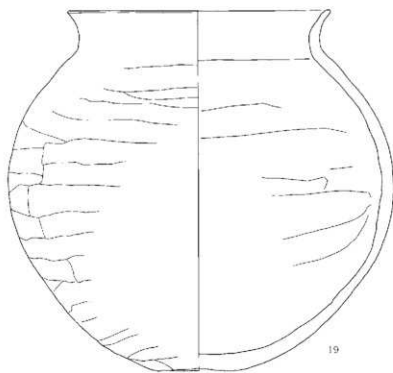
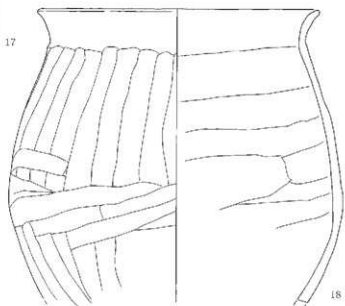
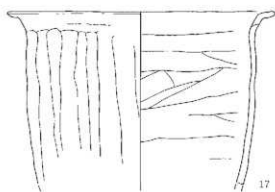
15



16

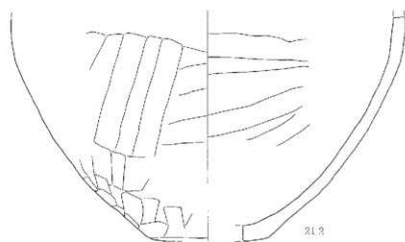
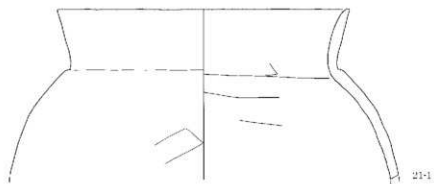
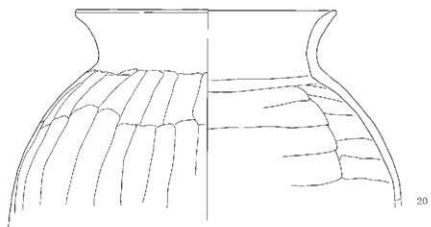
第220図 (5) 98号住居跡出土遺物(2)

S = 1/4



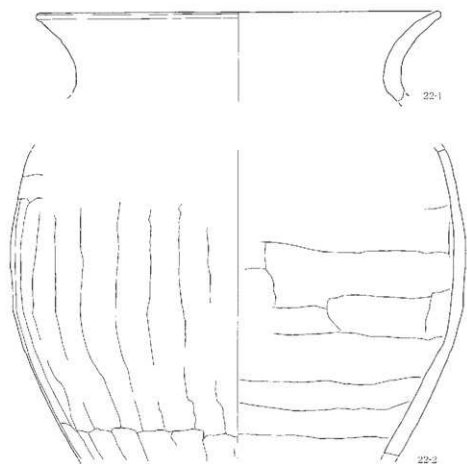
S = 1/4

第221図 (5) 98号住居跡出土遺物(3)



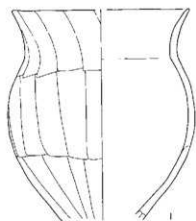
S = 1/4

第222図 (5) 98号住居跡出土遺物(4)



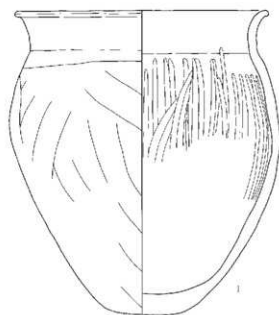
第223図 (5) 98号住居跡出土遺物(5)

S = 1/4



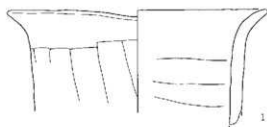
S = 1/4

第224図 (5) 99号住居跡出土遺物



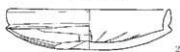
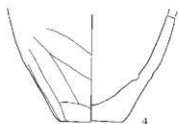
S = 1/4

第225図 (5) 101号住居跡出土遺物



S = 1/4

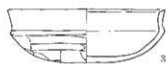
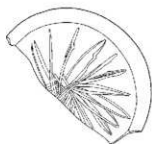
第226図 (5) 103号住居跡出土遺物



5~7 S = 1/4

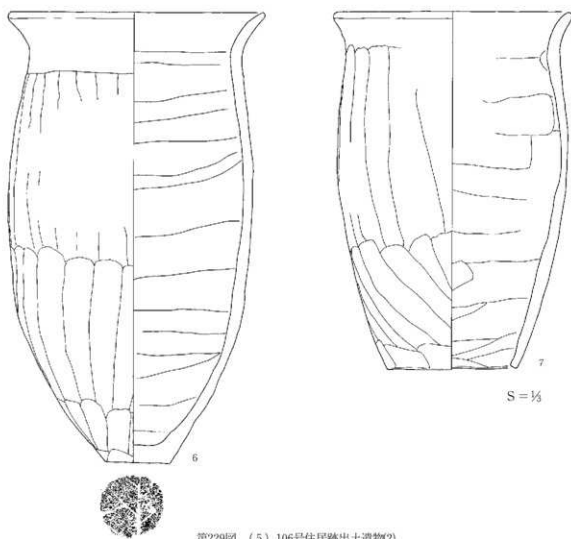
1~4 S = 1/4

第227図 (5) 105号住居跡出土遺物

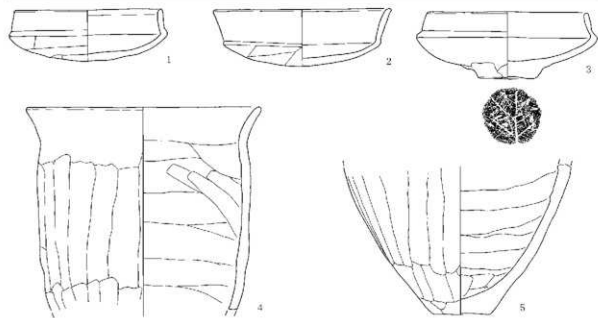


S = 1/4

第228図 (5) 106号住居跡出土遺物(1)

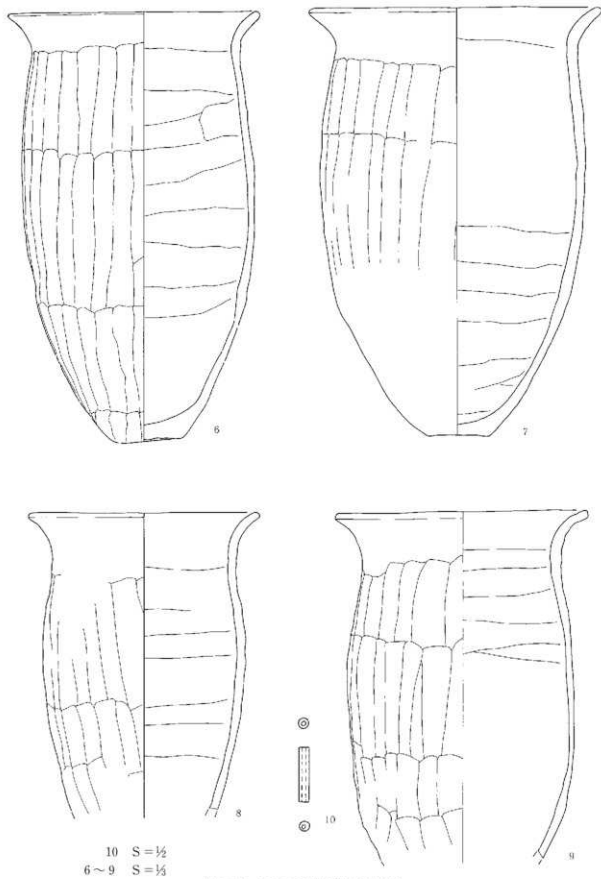


第229図 (5) 106号住居跡出土遺物2)

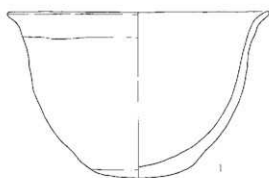


第230図 (5) 107号住居跡出土遺物1)

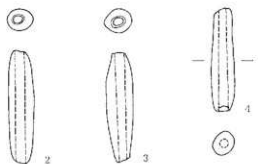
$S = \frac{1}{4}$



第231図 (5) 107号住居跡出土遺物2

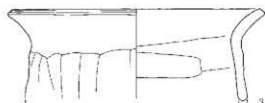
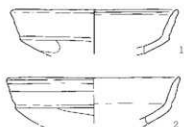


1 S = 1/2



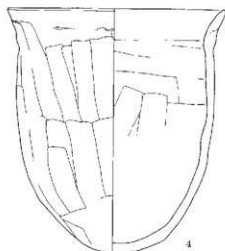
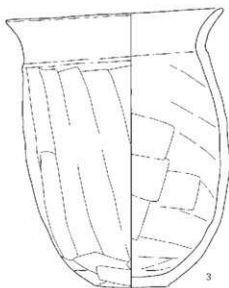
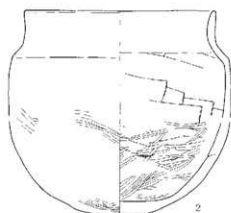
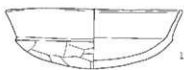
2~4 S = 1/2

第233図 (5) 109号住居跡出土遺物



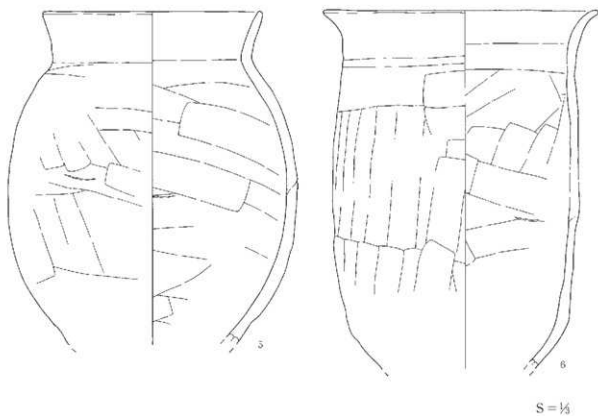
3 S = 1/2

第233図 (5) 110号住居跡出土遺物

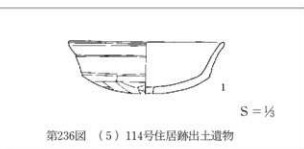


第234図 (5) 113号住居跡出土遺物(1)

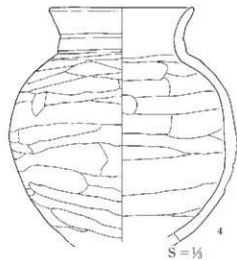
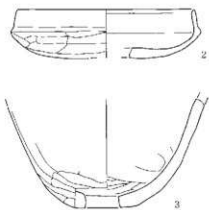
S = 1/2



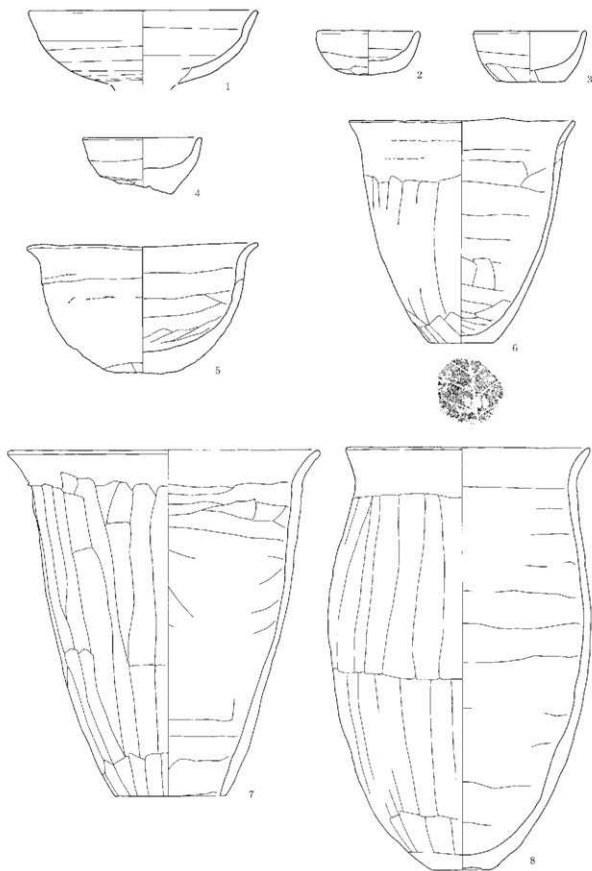
第235図 (5) 113号住居跡出土遺物2



第236図 (5) 114号住居跡出土遺物

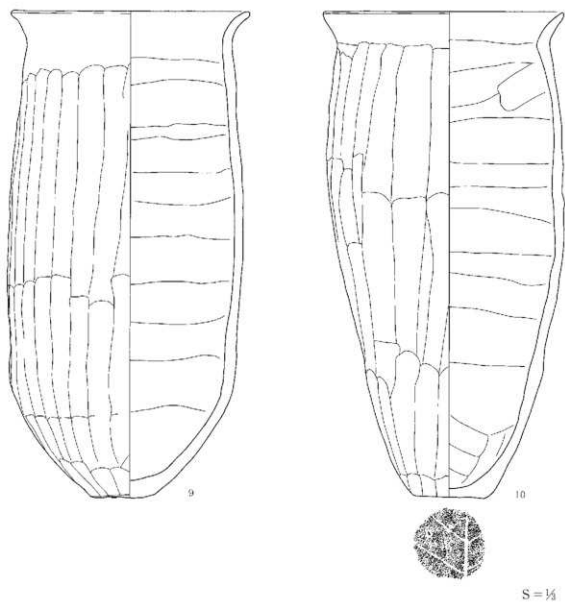


第237図 (5) 132号住居跡出土遺物

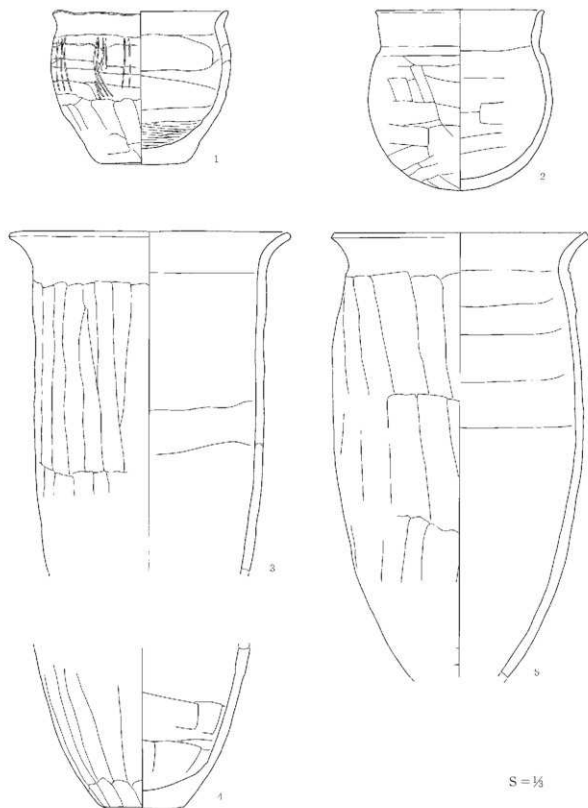


第238図 (7) - 1区 1号住居跡出土遺物(1)

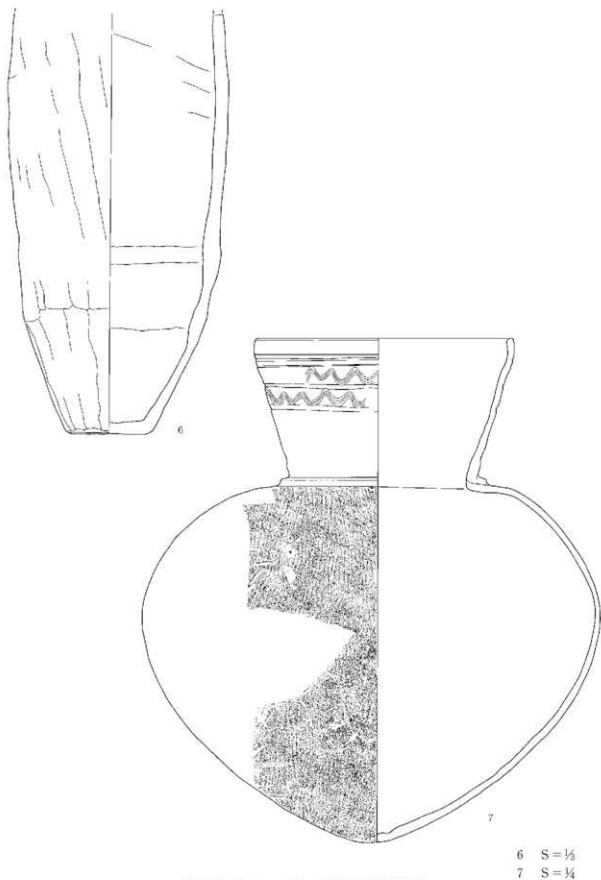
S = 1/4



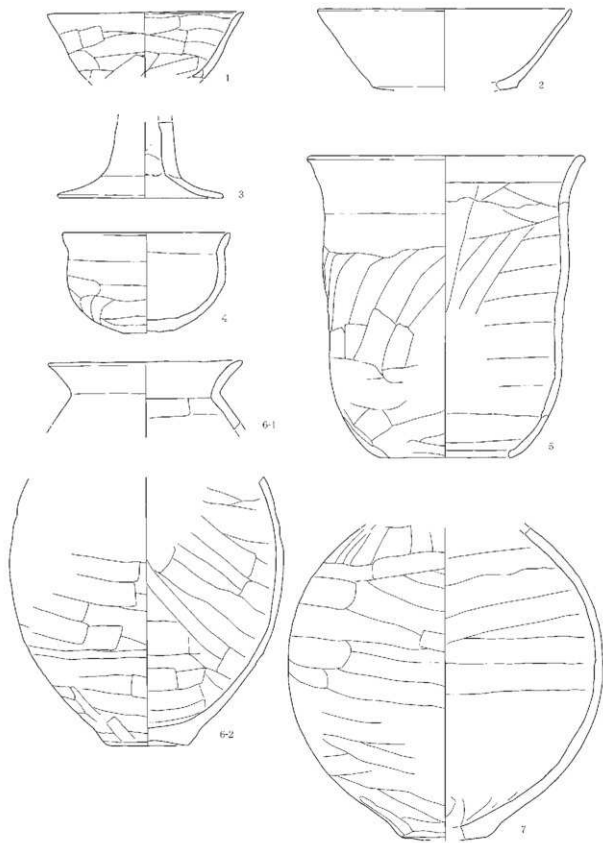
第239図 (7) - 1区 1号住居跡出土遺物(2)



第240図 (7) - 1区 5号住居跡出土遺物(1)



第241図 (7) - 1区 5号住居跡出土遺物(2)



第242図 (7) - 2区 17号住居跡出土遺物

S = 1/4

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

表32 (5) 1号住居跡出土遺物観察表(第163図)

標記番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.122	土師器 杯	口縁部、口 唇部一部欠	実直土 上	口 11.0 高 3.5 径 12.1	細砂粒/良好/灰褐色	口縁部横ナデ、体部(下)から底部は手持ちへう割り。
2	土師器 杯	口縁部~体部 1/4付	甍石地 口付迄	口 12.6	細砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部横ナデ、体部(下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL.122	土師器 杯	口縁部1/3欠	甍石地 胎	口 14.5 高 4.2 径 12.9	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ、体部(下)から底部は手持ちへう割り。口縁部中に凹線が1本流る。

表33 (5) 4号住居跡出土遺物観察表(第164~167図)

標記番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	煎茶器 鉢	口縁部~体部 1/5付	埴土中	口 14.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転反回りか。
2	煎茶器 部片	底部~胴部下 位1/3付	床面直 上	径 6.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転反回りか。胴部下位は回転へう割り。底部はへう割り後無数の刺し孔。内面底部には径3mmほどの小孔。
3 PL.122	土師器 杯	2/3	床面直 上	口 12.8 高 4.7 径 13.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、体部(下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL.122	土師器 杯	3/4	埴土中	口 11.4 高 3.6 径 10.5	細砂粒/良好/褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
5 PL.122	土師器 杯	完形	甍石地 胎床直	口 13.3 高 4.2 径 12.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
6 PL.122	土師器 杯	2/3	床面直 上	口 11.5 高 4.2 径 10.1	細砂粒/良好/褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
7 PL.122	土師器 杯	完形	甍石地 胎床直	口 12.3 高 4.5 径 10.8	細砂粒/良好/褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。内外面磨崖りか。
8 PL.122	土師器 杯	1/2	床面直 上	口 12.8 高 4.2 径 10.6	細砂粒/良好/灰黄褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。内外面磨崖りか。
9 PL.122	土師器 杯	3/4	床面直 上	口 15.6 高 4.0 径 9.8	細砂粒/良好/褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
10 PL.122	土師器 杯	完形	埴土中	口 13.0 高 4.8 径 10.4	細砂粒/良好/褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。内外面磨崖り。
11 PL.122	土師器 杯	1/2	埴土中	口 13.6 高 4.7 径 11.3	細砂粒/良好/褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
12 PL.122	土師器 杯	1/2	床面直 上	口 13.8 高 4.0 径 11.7	細砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。内外面磨崖りか。
13 PL.122	土師器 杯	2/3	埴土中	口 14.0 高 5.0 径 11.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
14 PL.122	土師器 杯	完形	床面直 上	口 14.9 高 4.9 径 12.4	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部から体部は横ナデ、底部(下)は手持ちへう割り。
15 PL.122	土師器 杯	ほぼ完形	床面直 上	口 11.8 高 6.5 径 13.3	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ、体部(下)から底部は手持ちへう割り。
16 PL.122	土師器 小型壺	胴部~胴底 胎	床面直 上	口 8.5 高 6.3	細砂粒/やや軟質/褐色	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り。内面胴部は横ナデか。
17 PL.122	土師器 鉢	完形	貯穴南 土中	口 32.8 高 9.2	細砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部横ナデ、体部から胴部はへう割り且部分的にへう割き。内面体部はへう割き。内面に輪槽小溝が見る。胴部横ナデ。脚部へう割り。内面胴部は横ナデ、下半はへう割き。
18 PL.122	土師器 高杯	胴部片	床面直 上	径 12.8	細砂粒/良好/にぶい褐色	内面に輪槽小溝が見る。胴部横ナデ。脚部へう割り。内面胴部は横ナデ、下半はへう割き。
19	煎茶器 壺	口縁部~胴部 胎	床面直 上	口 23.0	細砂粒/還元焰/灰	口縁部ロクロ整形、胴部に凹線と幾な波状文が2段施文。
20 PL.122	煎茶器 壺	口縁部一部、 底部欠損	床面直 上	口 17.3	細砂粒/還元焰/灰	口縁部ロクロ整形、胴部上位~中位は縦方向の4目強部分的に横方向の6~8目、下位はへう割り。内面はアサ具敷をへう割りで消している。
21 PL.123	土師器 壺	1/2	床面直 上	口 19.4 高 12.0 径 4.0 孔 2.0	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ、胴部、底部へう割り。内面胴部は横ナデ。
22 PL.123	土師器 小型壺	2/3	床面直 上	口 14.5 高 18.2 径 4.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り。内面胴部は横ナデ。
23 PL.123	土師器 小型壺	口縁部~胴部 中位片	床面直 上	口 15.3	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部は横ナデ。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
24 PL-123	土師器 小型壺	口縁部~胴部 中位片	埋土中	口 18.2	細砂粒・焼/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。内面胴部はへうナデ。
25 PL-123	土師器 壺	ほぼ完整	覆土中	口 17.5 高 30.4 底 4.0	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、胴部・底部へう削り。内面胴部はへうナデ。
26 PL-123	土師器 壺	胴部一部、底部 大部分欠損	覆土中	口 20.6 高 37.6 底 7.0	細砂粒・焼/良好/青褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。底部もへう削り。内面胴部へうナデ。断面厚薄不均等。
27 PL-123	土師器 壺	ほぼ完整	覆土中	口 22.0 高 39.8 底 3.5	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部・底部へう削り。内面胴部はへうナデ。
28 PL-123	土師器 壺	口縁部~胴部 上位1/2欠損	覆土中	口 21.5 高 41.5 底 3.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、胴部・底部へう削り。内面胴部はへうナデ。
29 PL-122	土師器 壺	口縁部~胴部 上位	貯穴埋 土中	口 19.8	細砂粒・褐色胎/良好/青褐色	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部へう削り。内面胴部はへうナデ。

表34 (5) 6号住居跡出土遺物観察表 (第168回)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	口縁部~体部 片	埋土中	口 12.0 横 12.4	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。
2	土師器 壺	底部	床裏遺 土中	底 6.8	細砂粒/良好/にぶい青褐色	胴部はへう磨き。底部はへう削り。内面はへうナデ。
3	土師器 壺(用)	胴部、 1/5	埋土中	底 7.4	細砂粒/良好/にぶい青褐色	胴部縦方向へう削り。底部もへう削り。内面は胴部底部ともへうナデ。

表35 (5) 7号住居跡出土遺物観察表 (第169・170回)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-123	土師器 杯	口縁部~体部 片	埋土中	口 18.8 横 20.4	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)手持ちへう削り。内面に唇部に凹線が1条走る。内面底縁直り。
2 PL-123	土師器 杯	口縁部~体部 1/2	埋土中	口 16.5 横 9.2	細砂粒/良好/青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。
3 PL-123	土師器 杯	1/2	覆土中	口 14.3 横 12.6	細砂粒/良好/青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部へう削り。口縁部中に凹線が1条走る。断面厚薄均等。
4 PL-123	土師器 杯	口縁部~体部 1/2	覆土中	口 14.5 横 13.0	細砂粒/良好/青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。口縁部中に凹線が1条走る。
5 PL-123	土師器 鉢	ほぼ完整	貯穴埋 土中	口 12.7 高 8.9	細砂粒/良好/青褐色	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部へう削り。内面体部から底部はへうナデ。
6	土師器 鉢	口縁部1/2欠 損	覆土中	口 17.8 高 13.5 底 5.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部へう削り。底部本葉状。内面体部へうナデ。
7	土師器 甕	底部~胴部下 位	貯穴埋 土中	底 8.7	細砂粒/良好/青褐色	胴部はへう削り後へう磨き。磨き単位不鮮明。内面胴部は縦方向へう磨き。
8	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	覆土中	口 17.6	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。内面胴部はへうナデ。
9	土師器 壺	口縁部~胴部 中位片	埋土中	口 24.6	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、胴部上位ナデ。中位・下位へう削り。内面胴部はへうナデ。

表36 (5) 8号住居跡出土遺物観察表 (第171・172回)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-124	土師器 杯	完整	覆土中	口 12.2 高 4.7 横 13.2	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。
2 PL-124	土師器 杯	口縁部1/2欠 損	覆土中	口 15.2 高 4.1 横 14.0	細砂粒/良好/青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。
3 PL-124	土師器 杯	口縁部・底部 の一部欠損	貯穴埋 土中	口 12.9 高 4.1 横 11.8	細砂粒/良好/にぶい青褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。内面に放射状へう磨き。口縁部にスス付着。
4 PL-124	土師器 小型壺	2/8	覆土中	口 11.6 高 9.5 底 4.4	細砂粒/良好/青褐色	口縁部横ナデ、胴部・底部へう削り。内面胴部はへうナデ。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

経度番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
5 PL-124	土師器 壺	口縁部~胴部 上半片	電石塚 前部	口 17.6	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
6	土師器 壺	口縁部~胴部 上半片	電石塚 前部	口 17.0	粗砂粒/良好/明褐	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
7	土師器 壺	口縁部~胴部 上半片	電石塚 前部	口 16.8	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、胴部へう割りか、蓋部伸縮のための単位下凹。内面胴部はへうナデ。
8 PL-124	土師器 壺	口縁部~胴部 下位	電石塚 前部	口 21.6	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部は蓋部胴部で不明であるがへうナデか。

表37 (5) 10号住居跡出土遺物観察表 (第173図)

経度番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁部~体部 1/3	電石塚 脇	口 12.0 横 13.1	粗砂粒/良好/黄灰	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
2	土師器 杯	口縁部~体部 1/4	埴土中	口 14.8 横 15.5	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
3	土師器 杯	口縁部~体部 1/5	電石塚 脇	口 17.0 横 18.2	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
4 PL-124	土師器 杯	2/3	穴次 側	口 13.4 横 12.4	高 4.0 粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面と外面口縁部は漆塗り。
5	土師器 杯	口縁部~体部 1/6	穴次 土中	口 15.2 横 13.8	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。口縁部中に凹線が見える。
6	土師器 杯	口縁部~体部 片	床面直 上	口 16.6 横 15.4	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部(横下)は手持ちへう割り。
7	土師器 壺	胴部~胴部 位	青木塚 床面直 上	径 8.2	粗砂粒/良好/黄	胴部中に縦方向、下位は横方向へう割り。底部もへう割り。内面胴部はへうナデ。
8	土師器 台付罎	脚部	埴土中	脚 8.0	粗砂粒/良好/にぶい褐	脚部へう割部分的にナデ消し。内面ナデ。

表38 (5) 13号住居跡出土遺物観察表 (第174図)

経度番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴	
1	土師器 杯	1/4	北西壁 部床直 上	口 11.2 高 3.8 横 10.6	粗砂粒/良好/にぶい黄灰	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
2	土師器 杯	口縁部の一部 太腿	北西壁 部床直 上	口 12.4 高 5.3 横 10.7	粗砂粒/良好/にぶい黄灰	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
経度番号 図版番号	器物 種類	出土位置	計 測 値 (cm, g)		備 考	
3	鉄製品 不明	Aブロッツ アツ土	全長: 0.7	最大幅: 0.9 最大厚: 0.2 重量: 2.4	側門となる構状。刀器具の可能性あり。	

表39 (5) 14号住居跡出土遺物観察表 (第175・176図)

経度番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴	
1 PL-125	土師器 杯	ほぼ完整	床面直 上	口 13.8 高 5.0 横 12.0	粗砂粒/良好/暗灰褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
2 PL-125	土師器 杯	1/4	床面直 上	口 13.8 高 4.5 横 12.1	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL-125	土師器 杯	1/2	床面直 上	口 14.1 高 4.0 横 12.0	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL-125	土師器 杯	1/2	床面直 上	口 15.8 高 4.5 横 12.8	粗砂粒/良好/にぶい黄灰	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
5 PL-125	土師器 杯	完整	床面直 上	口 14.8 高 4.3 横 12.0	粗砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面放射状へう割り。
6 PL-125	土師器 杯	1/4	電石塚 中	口 19.2 横 18.2	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図録番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
7 PL-125	土師器 杯	4/5	床面直 上	口 12.8 高 3.8 径 12.5	細砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。
8 PL-125	土師器 杯	ほぼ完整	床面直 上	口 13.5 高 3.5 径 8.5	粗砂粒・雑/良好/にぶい 濁	口縁部から体部上半は横ナデ。下半から底部はへう割り。内面に放射状へう割き。
9	土師器 杯	1/4	床面直 上	口 14.8 高 3.8	粗砂粒/良好/暗濁	口唇部外面に輪痕み痕が残る。口縁部横ナデ。体部から底部はへう割り。
10	土師器 杯	1/2	床面直 上	口 13.8	粗砂粒/良好/にぶい濁	内面黒色処理。口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半へう割り。
11	土師器 壺	口縁部~胴部 下段1/3	甕塚土 中	口 16.8 高 24.9 径 5.0	粗砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。胴部は縦方向。底部付近は横方向へう割り。内面胴部はへうナデ。
12 PL-125	土師器 壺	底部~胴部上 位	甕塚土 中	径 5.5	粗砂粒・雑/良好/にぶい 濁	胴部、底部へう割り。内面はへうナデ。胴部下半に5~10mmの溝集中。
13 PL-125	土師器 壺	口縁部~胴部 下位	甕塚土 中	口 18.5	粗砂粒・雑/良好/暗	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
14 PL-125	土師器 壺	2/3	床面直 上	口 14.5 高 34.4 径 9.7	粗砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。胴部、底部へう割り。内面胴部はへうナデ。

表40 (5) 15号住居跡出土遺物観察表 (第177図)

検出番号 図録番号	器 種	出 土 位 置	計 測 値 (cm, g)	備 考
1 PL-125	石製品 刀形刺	埋土中	長:6.4 最大幅:2.2 最大厚:0.7 孔:0.35 【ビニール】 径:0.3 孔:0.18 総重量:11.2	完形品。丁寧な研磨が施される。穿孔を2箇所持ち。片側の孔にはビニールがは 込まれている。
2 PL-125	石製品 刺形	埋土中	長:5.0 最大幅:2.0 最大厚:0.45 孔:0.13 重量:6.1	完形品。丁寧な研磨が施される。表面の中軸には横を持つ。裏面は平肌。
3 PL-125	石製品 刺形	埋土中	長:4.4 最大幅:1.6 最大厚:0.5 孔:0.1 重量:6.1	完形品。丁寧な研磨が施される。表面の中軸には横を持つ。
4 PL-125	石製品 刺形	埋土中	長:3.75 最大幅:1.65 最大厚:0.45 孔:0.13 重量:3.8	完形品。丁寧な研磨が施される。表面の中軸には横を持つ。裏面は平肌。

表41 (5) 17号住居跡出土遺物観察表 (第178・179図)

検出番号 図録番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-125	土師器 杯	ほぼ完整	埋土中	口 11.7 高 4.1 径 12.6	細砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。
2 PL-125	土師器 杯	ほぼ完整	甕塚土 直床直 上	口 12.1 高 4.5 径 13.2	細砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。
3 PL-125	土師器 杯	1/2	南東壁 埋床直 上	口 13.4 高 4.0 径 14.0	細砂粒/良好/灰黄濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL-125	土師器 杯	口縁部1/2次 損	北西壁 埋床直 上	口 13.2 高 4.8 径 14.7	細砂粒/良好/明黄濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。
5 PL-125	土師器 杯	完整	甕塚土 直床直 上	口 11.8 高 3.7 径 11.2	細砂粒/良好/暗	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
6 PL-125	土師器 杯	口縁部一部欠 損	北西壁 埋床直 上	口 12.7 高 4.0 径 12.3	細砂粒/良好/暗	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
7 PL-125	土師器 杯	ほぼ完整	甕塚土 直 上	口 13.4 高 4.4 径 12.0	細砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。
8 PL-125	土師器 杯	口縁部一部欠 損	甕塚土 直床直 上	口 12.6 高 4.1 径 11.6	細砂粒/良好/灰黄濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。
9 PL-125	土師器 杯	口縁部~体部 3/4	甕塚土 中	口 12.9 高 11.6	細砂粒/良好/暗	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
10 PL-125	土師器 杯	完整	甕塚土 直床直 上	口 12.1 高 3.9 径 12.0	細砂粒/良好/にぶい濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
11 PL-125	土師器 杯	口縁部1/4欠 損	甕塚土 直床直 上	口 13.8 高 4.4 径 12.8	細砂粒/良好/暗	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
12	土師器 杯	1/3	縦方向 土中	口 14.6 高 4.2 径 13.2	細砂粒/良好/灰黄濁	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆喰り。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

施設番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
13 PL.125	土師陶 杯 (胎)	完形	甕石地 脇床直上	口 21.0 高 6.2 径 20.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面底部はへうナデ。
14 PL.125	土師陶 鉢	3/4	埴土中	口 11.1 高 9.4 径 3.3	粗砂粒/良好/明褐色	口縁部横ナデ。体部へう割りか割取厚紙のため単位不明。内面体部から底部はへうナデ。
15 PL.126	土師陶 椀	4/5	甕石地	口 12.2 高 8.3 径 15.3	細砂粒・褐色胎/良好/に ぶい赤褐色	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
16 PL.126	土師陶 鉢	完形	野穴群 土中	口 10.8 高 9.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。体部から底部はへう割り。内面体部から底部はへうナデ。
17 PL.126	土師陶 鉢	胴部一部欠損	床面直 上	口 11.4 高 10.3	細砂粒/良好/橙	体部外面に輪郭み痕が残る。口縁部横ナデ。体部から底部はへう割り。内面体部はへうナデ。
18 PL.126	土師陶 壺	口縁部~胴部 下位	床面直 上	口 14.0	細砂粒/良好/橙	胴部外面に輪郭み痕が残る。口縁部横ナデ。胴部へう割り後へう割り。内面胴部へうナデ。
19 PL.126	土師陶 壺	口縁部~胴部 中位	野穴群 土中	口 16.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部内面に輪郭み痕が残る。口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
20 PL.126	土師陶 壺	口縁部~胴部 下位	甕石地 土中	口 20.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部へう割り。割取厚紙により不分明部分有り。内面胴部へうナデ。
21 PL.126	土師陶 壺	ほぼ完形。胴 部一部欠損	野穴群 土中	口 17.5 高 31.7 径 約9.0	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部へう割り。下位から底部二次焼成を受けている。内面胴部へうナデ。

表42 (5) 19号住居跡出土遺物観察表(第180図)

施設番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL.126	煎茶器 短冊壺	完形	甕石地 前部	口 3.5 高 6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロウロ整形。回転石回りで。胴部上半のみ目。下半から底部は手持ちへう割り。
2	土師陶 杯	1/3	野穴群 土中	口 12.6 径 11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
3	土師陶 壺	口縁部~胴部 下位1/5	床面直 上	口 13.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部は縦方向へう割り。内面胴部はへうナデ。
4 PL.126	土師陶 壺	口縁部~胴部 中位	甕石地 土中	口 20.0	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部は縦方向へう割り。内面胴部はへうナデ。
5	土師陶 壺	胴部~胴部下 位	甕石地 土中	径 3.2	粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部、底部ともへう割り。内面はへうナデ。

表43 (5) 21号住居跡出土遺物観察表(第181図)

施設番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師陶 杯	口縁部~体部	埴土中	口 12.0 径 13.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
2 PL.127	土師陶 杯	4/5	床面直 上	口 13.6 高 4.5 径 12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面縁部破り。
3	土師陶 杯	1/4	埴土中	口 10.6 高 4.3 径 8.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部はへう割り。
4	土師陶 壺	口縁部~胴部 上段片	甕石地 口前	口 21.6	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。

表44 (5) 24号住居跡出土遺物観察表(第182~184図)

施設番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師陶 杯	口縁部~体部	野穴群 土中	口 13.8 径 13.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面縁部破り。
2 PL.128	土師陶 杯	1/2	床面直 上	口 12.6 高 4.1 径 11.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
3	土師陶 杯	口縁部~体部	床面直 上	口 12.8 高 3.6 径 10.6	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL.128	土師陶 高杯	胴部片	埴土中	径 10.0	細砂粒/良好/橙	胴部へう割り。胴部横ナデ。内面は上半が平。下半は横ナデ。

第2節 検出された遺構と遺物

経度・緯度 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
5 PL-128	土師器 壺	2/3	甕埋土	口 21.0 高 36.7 底 5.2	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部、底部へう削り。内面胴部はヘラナデ。
6 PL-128	土師器 壺	ほぼ完成	西壁部 床直	口 20.4 高 49.8 底 4.3	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部、底部へう削り。内面胴部はヘラナデ。
7 PL-128	土師器 壺	3/4	甕埋土 中	口 24.4 高 49.4 底 6.4×5.8	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り、底部は器面磨滅のため不明。内面胴部はヘラナデ。
8 PL-128	土師器 壺	口縁部~胴部 上位	床直部 上	口 21.0	粗砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削りであるが、器面磨滅のため不明。内面胴部はヘラナデ。
9 PL-129	土師器 壺	口縁部~胴部 上半片	甕埋土	口 22.2	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。内面胴部はヘラナデ。
10 PL-129	土師器 壺	胴部~胴部上 半(胴部1/3 片)	床直部 上	底 9.0	粗砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	胴部へう削り、底部へう削りは器面磨滅のため不明。内面は胴部・底部ともヘラナデ。

表45 (5) 27号住居跡出土遺物観察表 (第185図)

経度・緯度 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	甕埋土	口 17.5	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、胴部縦方向へう削り。内面胴部はヘラナデ。

表46 (5) 28号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

経度・緯度 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	1/5	床直部 上	口 13.8 高 4.4 径 13.8	細砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持りへう削り。外面磨滅。
2	土師器 壺	口縁部片	甕埋土 理土中	口 17.6	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。

表47 (5) 29号住居跡出土遺物観察表 (第187・188図)

経度・緯度 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-129	土師器 杯	ほぼ完成	甕埋土	口 12.2 高 4.0 径 12.4	細砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持りへう削り。
2 PL-129	土師器 杯	口縁部1/4 片	71層 土中	口 12.5 高 4.3 径 12.6	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持りへう削り。
3 PL-129	土師器 杯	口縁部1/4 片	甕埋土 部心材	口 13.0 高 5.0 径 11.9	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持りへう削り。
4 PL-129	土師器 鉢	体部下位、底 部大部分欠	床直部 上	口 22.5 高 13.2 底 8.0	粗砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部外面に輪筋が残り、口縁部横ナデ、体部へう削り。内面体部はヘラナデ。
5 PL-129	土師器 小壺	ほぼ完成	甕埋土 部心材	口 15.0 高 17.0	粗砂粒/良好/にぶい褐色	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう削り。内面胴部はヘラナデ。下半は器面磨滅のため不明。
6 PL-129	土師器 壺	ほぼ完成	西壁部 床直	口 21.3 高 38.9 底 5.9	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部、底部へう削り。内面胴部はヘラナデ。口縁部平面横円形(21.3×22.1)。
7 PL-129	土師器 壺	口縁部~胴部 下位	西壁部 床直	口 20.1	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。下位は二次焼成を受けている。内面胴部はヘラナデ。
8 PL-129	土師器 壺	口縁部~胴部 下半片	甕埋土 中	口 20.0	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部へう削り。内面胴部はヘラナデが、器面覆れており単位不明。

表48 (5) 34号住居跡出土遺物観察表 (第189図)

経度・緯度 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-130	土師器 杯	完成	北西壁 部床直	口 11.2 高 3.6 径 10.2	粗砂粒/良好/ にぶい褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持りへう削り。
2 PL-130	土師器 杯	口縁部~体部 1/3欠	北西壁 部床直	口 11.9 高 10.0	粗砂粒/良好/ にぶい褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持りへう削り。内面口唇部に凹線が1本走る。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

経典番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
3	土師器 杯	口縁部片	埋土中	口 13.7 径 11.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナズ、体部(腹下)から底部は手持ちへう割り。内面口唇部に凹線が2本走る。
4 PL-130	土師器 杯	完形	床面直上	口 12.0 高 3.7 径 11.1	細砂粒/やや軟質/黄	口縁部横ナズ、体部(腹下)から底部は手持ちへう割り。
5 PL-130	土師器 杯	完形	床面直上	口 12.1 高 4.4 径 11.4	細砂粒/やや軟質/黄	口縁部横ナズ、体部(腹下)から底部は手持ちへう割り。

表49 (5) 42号住居跡出土遺物観察表 (第190図)

経典番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	灰土器 壺	胴部上位小片	角笠帯 床直		粗砂粒/微化硝子み/黄褐色	外面はヨキ目、内面はアナ具痕が残る。

表50 (5) 45号住居跡出土遺物観察表 (第191図)

経典番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-131	土師器 杯	7/8	貯穴 土中	口 12.6 高 4.4 径 11.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナズ、体部(腹下)から底部は手持ちへう割り。
2	土師器 鉢	口縁部~体部 縁	竈七輪 床直	口 18.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナズ、体部へう割り。内面体部はへうナズ。
3 PL-131	土師器 壺	口縁部~胴部 下位片	貯穴 土中	口 23.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部外面に輪痕み痕が残る。口縁部横ナズ、胴部へう割り。内面胴部はへうナズ。

表51 (5) 46号住居跡出土遺物観察表 (第192図)

経典番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	1/4, 口唇部欠 損	埋土中	径 12.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナズ、体部(腹下)から底部は手持ちへう割り。

表52 (5) 58号住居跡出土遺物観察表 (第193図)

経典番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-132	灰土器 鉢	1/2	埋土中	口 14.2 高 9.8 径 7.8	細砂粒/還元焼/灰	ワロコ型、回転石回り。口縁部凹線区面に刺突文が2段走る。体部中にヨキ目、下位はへう割り、底部へうナズ。
2 PL-132	土師器 壺	口縁部~胴部 上半	貯穴 土中	口 19.5	細砂粒/良好/明褐色	口縁部折り返し、口縁部横ナズ、胴部上位へうナズ、中位へう割り。内面胴部はへうナズ。

表53 (5) 59号住居跡出土遺物観察表 (第194・195図)

経典番号 図版番号	土器種類 器 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-132	灰土器 脚付短頸壺	胴部欠損	北塚帯 床直	口 10.5	細砂粒・焼/還元焼/灰	ワロコ型、回転石回り。胴部貼付で溝式3/9部、胴部中心凹線区面に2段状文が6走る。
2 PL-132	土師器 杯	2/5	北塚帯 床直	口 12.4 径 13.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナズ、体部(腹下)から底部は手持ちへう割り。内外面直塗り。
3 PL-132	土師器 壺	2/3	北塚帯 床直	口 16.0 高 12.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部から胴部は横ナズ、胴部から底部はへう割り。内面胴部はへうナズ。
4 PL-132	土師器 壺(脚)	口縁部~胴部 上半片	東塚帯 床直	口 23.0	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナズ、胴部縦方向へう割り。内面胴部はへうナズ後へう割り。
5 PL-132	土師器 壺	1/2	竈七輪 中	口 16.2 高 26.0 径 4.5	粗砂粒・焼/良好/にぶい黄褐色	全体的に芯み大。口縁部横ナズ、胴部から底部へう割り。内面胴部はへうナズ。
6	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	竈七輪 埋土中	口 19.4	粗砂粒/良好/明褐色	口縁部横ナズ、胴部縦方向へう割り。内面胴部はへうナズ。

表54 (5) 60号住居跡出土遺物観察表 (第196回)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.132	土師器 杯	2/3	床面直 上	口 11.8 径 13.0	高 4.1 細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
2 PL.132	土師器 杯	1/2	甕埋土 中	口 12.3 径 13.2	高 4.4 細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL.132	土師器 杯	口縁部1/4欠	甕埋部 床直 上	口 12.6 径 13.8	高 4.8 細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
4 PL.132	土師器 杯	1/3	床面直 上	口 14.3 径 15.2	高 4.4 細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
5 PL.132	土師器 杯	完形	床面直 上	口 14.9 径 13.6	高 4.5 細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
6 PL.132	土師器 碗	口縁部～体部 2/5	甕埋部 上	口 15.5 径 14.1	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)は手持ちへう割り。口縁部に凹線が2条走る。内外面漆塗り?
7 PL.132	土師器 甕	ほぼ完形	床面直 上	口 8.5	高 13.8 細砂粒/良好/黄褐色	外面黒色処理。口縁部横ナデ、胴部上半はナデ、下半はへう割り。
8 PL.132	土師器 有孔鉢	4/5	床面直 上	口 15.7 径 2.2	高 15.4 細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部にはへうナデ後へう割り。

表55 (5) 62号住居跡出土遺物観察表 (第197回)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 台付甕	胴部、底部 1/3欠残	甕土中	脚 8.7	細砂粒/良好/にぶい橙	胴部上半はへう割り、下半は横ナデ。内面は上半がナデ、下半は横ナデ。
2	甕蓋 蓋	胴部片	床面直 上		粗砂粒/還元焰/灰	外面は平行円形。内面に渦巻状アノ具痕が残る。

表56 (5) 64号住居跡出土遺物観察表 (第198・199回)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴								
1 PL.132	土師器 杯	ほぼ完形、口 縁部一部欠残	甕穴埋 土中	口 10.8 径 12.0	高 4.5 細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。								
2 PL.132	土師器 杯	4/5	甕穴埋 土中	口 11.2 径 11.4	高 4.2 細砂粒/良好/灰黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。								
3 PL.132	土師器 杯	完形	北東部 甕床直 上	口 12.1 径 10.6	高 4.7 細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。								
4 PL.132	土師器 高杯	胴部と胴部 一部	床面直 上		細砂粒/良好/明褐色	胴部内面に輪積み痕が残る。杯身底部はへう割り、胴部はへう割り、胴部は横ナデ。								
5 PL.133	土師器 甕	ほぼ完形	甕石埋 土中 口直 上	口 24.0 径 6.2	高 38.8 粗砂粒/良好/橙	口縁部から胴部横ナデ、胴部へう割り。底部に木葉痕が残る。内面胴部はへうナデ。								
6 PL.133	土師器 甕	口縁部～胴部 上位	甕埋土 中 口直 上	口 13.5	高 13.5 細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。口縁部中心に凹線が1条走る。								
7 PL.133	土師器 甕	胴部～胴部下 位片	床面直 上	径 6.4	細砂粒/良好/にぶい橙	胴部から底部はへう割り。内面はへうナデ。								
8 PL.133	鉄製品 鉄鏝	出土地置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃厚 (cm)	弾丸 (cm)	弾幅 (cm)	弾厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備 考	
		Dプロック	3.3	(5.6)					(5.4)	0.4	0.3			長楕円

表57 (5) 67号住居跡出土遺物観察表 (第200回)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.133	甕蓋 蓋	口縁部一部、 胴部2/3欠残	床面直 上	口 6.8	細砂粒/還元焰/灰	ロケロ型、回転右回りか。口縁部平坦。右側面回転へう割り。胴部は右側で閉塞。
2 PL.133	甕蓋 蓋	口縁部 広口直 上	床面直 上	口 19.6	高 27.8 細砂粒/還元焰/灰	口縁部ロケロ型。口縁部下中に3段の波状文、胴部は上位・中位がタタキ目、下位はタタキ目が残る。内面胴部は中位にアノ具痕。他はナデ塗りされている。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

相対番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
3 PL-133	土師陶 杯	1/2	床面上	口 13.8 高 3.7 径 12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL-133	土師陶 杯	1/2	床面上	口 15.8 高 4.2 径 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、内外面漆塗り。
5	土師陶 杯	1/4	埋土上	口 15.6 径 13.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、底部(横下)から底部は手持ちへう割り、内外面漆塗り。
6	土師陶 高杯	杯身1/5	床面上	口 18.0	細砂粒/良好/橙	口唇部横ナデ、口縁部から底にかけては斜方方向へう割り、内面口縁部もへう割り。
7 PL-133	土師陶 小笠	口縁部1/2 小笠	埋土上	口 15.1 高 15.0 径 5.5	粗砂粒・雑/良好/にぶい橙	口縁部外面に輪飾が残る。口縁部横ナデ、胴部・底部へう割り、内面胴部はへうナデ。

表58 (5) 68号住居跡出土遺物観察表 (第201図)

相対番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-133	土師陶 杯	1/2	床面上	口 12.9 径 13.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、内面に放射状へう割り。
2 PL-133	土師陶 杯	3/4	床面上	口 11.9 高 4.1 径 10.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL-133	土師陶 杯	1/2	野穴内	口 13.3 高 4.8 径 11.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、内面と外面口縁部は漆塗り。
4 PL-133	土師陶 杯	3/4	床面上	口 13.7 高 4.5 径 11.4	粗砂粒/やや軟質/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、口縁部中に凹線が1本走る。
5	土師陶 杯	2/3	床面上	口 13.8 高 4.3 径 12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、内外面漆塗り。
6 PL-133	土師陶 杯	3/4	床面上	口 17.6 高 7.1 径 16.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、内外面漆塗り。
7 PL-133	土師陶 杯	口縁部1/3 小笠	埋土上	口 15.0 高 6.0 径 7.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)上半平ナデ、下半手持ちへう割り、底部に本葉模が残る。内面体部から底部はへうナデ。
8	土師陶 鉢	口縁部+体部 上半1/5	床面上	口 26.2	細砂粒・雑/良好/橙	口縁部横ナデ、体部へう割り、内面体部はへうナデ。
9	土師陶 甕	口縁部+胴部 上位片	床面上	口 22.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部へう割り、内面胴部はへうナデ。
10	土師陶 甕	底部	床面上	径 7.6	細砂粒/良好/橙	胴部へう割り、底部は本葉模が残る。内面はへうナデ。
相対番号 図版番号	器種	出土位置	計 測 値 (cm, g)		備 考	
11 PL-133	土製品 土鈴	床面上	長:5.4 径:1.5 孔:0.5 重量:10.0 胎土:細砂粒 構成:良好 色調:にぶい黄褐色		側面に強いへうナデ、両端部は面取。	
12 PL-133	鉄製品 釘?	B-ブロッ ク下土	全長:7.5 最大径:0.9 最大厚:0.5 重量:5.5		断面内伏、長方形の断面の可能性もある。	

表59 (5) 70号住居跡出土遺物観察表 (第202図)

相対番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-133	土師陶 杯	完形	野穴中 土中	口 13.2 高 3.9	細砂粒/良好/灰青	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
2	土師陶 杯	2/5	床面上	口 14.4 高 5.6 径 13.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、内外面漆塗り。
3 PL-133	土師陶 杯	口縁部2/3欠	野穴中 土中	口 13.3 高 4.1	細砂粒/良好/灰青褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL-133	土師陶 杯	ほぼ完形	床面上	口 13.4 高 4.5	細砂粒/やや軟質/にぶい 黄橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、器底平気。
5 PL-133	土師陶 杯	1/3	床面上	口 12.8	細砂粒/良好/灰青	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
6	土師陶 杯	1/4	床面上	口 14.2 高 4.3 径 12.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り、口縁部中に凹線が1本走る。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
7 PL.133	土師器 杯	口縁部1/3欠	南東壁 礎床直上	□ 14.2 高 4.6	粗砂粒/やや軟質/にぶい赤褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
8 PL.133	土師器 甕	口縁部~体部 1/3欠	野穴壁 土中	□ 11.8 横 13.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
9 PL.133	土師器 小壺型	胴部1/4欠損	東面直 上	□ 12.6 高 12.9 底 5.5	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部残ナド。胴部・底部へう割り。内面胴部はへうナド。
10 PL.134	土師器 壺	口縁部~胴部 中位片	南東壁 礎床直上	□ 19.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部残ナド。胴部土位上片ナド。その下位はへう割り。内面胴部は断面等厚 不割形。
11 PL.134	土師器 四角形	両端欠損	匭左物 部		粗砂粒・焼/良好/橙	内面に輪痕み痕が残る。外面はへうナド。単位不割形。内面はナド。

表60 (5) 71号住居跡出土遺物観察表(第203図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	口縁部~体部 片	東面上	□ 12.6 横 12.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
2 PL.134	土師器 杯	1/2	東面上	□ 14.8 高 4.4 横 13.2	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL.134	土師器 杯	1/3	東面上	□ 14.8 高 4.4 横 13.4	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
4	土師器 杯	口縁部~体部 片	礎土中	□ 12.8 横 11.6	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
5	土師器 杯	口縁部~体部 片	東面上	□ 16.0 横 14.4	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
6 PL.134	手捏丸土器 高杯形	ほぼ完形。口 縁部一部欠	東面上	□ 2.8 高 4.5 脚 2.8	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部残ナド。口縁部から体部。胴部はへうナド。
7	土師器 壺	口縁部~胴部 上位1/6	東面上	□ 15.6	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部残ナド。胴部へう割り。内面胴部はへうナド。

表61 (5) 74号住居跡出土遺物観察表(第204図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.134	須恵器 鉢	口縁部~体部 下位	東面上		粗砂粒/還元焼/灰	クワ型。回転右回りか。口縁部から体部は凹縁による区画と波状文が残る。 口縁部は打ち欠いている。
2 PL.134	土師器 杯	口縁部1/2欠 損	東面上	□ 14.9 高 4.5 横 13.3	粗砂粒/良好/暗赤褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面等厚。
3	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	東面上	□ 29.0	粗砂粒/良好/明褐	口縁部残ナド。胴部はナド。内面の整形は断面等厚のため不割形。
4 PL.134	土師器 壺	ほぼ完形	東面上	□ 16.4 高 32.7 底 7.6	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部残ナド。胴部、底部へう割り。内面胴部はへうナド。

表62 (5) 75号住居跡出土遺物観察表(第205図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.134	土師器 杯	完形	南西壁 礎床直上	□ 12.8 高 4.7 横 12.7	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面等厚。
2	土師器 杯	口縁部~底部 1/3	野穴埋 土中	□ 13.8 横 15.0	粗砂粒/やや軟質/にぶい 橙	口縁部残ナド。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL.134	土師器 杯	3/4	南西壁 礎床直上	□ 14.5 高 4.4 横 13.5	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部残ナド。底部(後下)は手持ちへう割り。内外面等厚。
4 PL.134	土師器 杯	1/2	野穴北 壁	□ 14.6 高 4.4 横 14.0 底 5.0	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部残ナド。体部(後下)ナド。底部へう割り。内面と外面口縁部等厚。
5	土師器 小壺型	1/4	東面上	□ 10.0 高 9.7	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部残ナド。胴部上位ナド。中位から底部はへう割り。内面胴部はへうナド。
6 PL.134	土師器 壺	口縁部~胴部 上片	東面直 上	□ 15.8	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から胴部は残ナド。胴部はへう割り。内面胴部はへうナド。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

表63 (5) 82号住居跡出土遺物観察表 (第206図)

図録番号 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師陶 杯	U/5	埋土中	口 12.4 径 13.0 高 3.6	細砂粒/良好/灰赤黄	口縁部横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。
2	土師陶 杯	U/4	埋土中	口 12.6	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。内面底部に放射状ヘウ割り。
3	土師陶 壺	底部	埋土中	径 4.7	粗砂粒/良好/明褐色	胴部から底部はヘウ割り。内面胴部はヘウナズ。

表64 (5) 84号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

図録番号 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師陶 杯	口縁部~体部 片	P 5 埋 土中	口 12.8 径 14.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。
2 PL 134	土師陶 杯	口縁部1/3次 杯底面	床面直 上	口 13.2 高 4.0 径 13.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。
3 PL 134	土師陶 小型壺	胴部一部欠 片	床面直 上	口 9.7 高 9.1	細砂粒/良好/灰赤黄	口縁部横ナズ、胴部から底部はヘウ割り。内面胴部から底部はヘウナズ。
4 PL 134	土師陶 小型壺	U/2	埋土中	口 9.6	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部横ナズ、胴部から底部はヘウ割り。内面胴部から底部はヘウナズ。

表65 (5) 85号住居跡出土遺物観察表 (第208図)

図録番号 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL 134	土師陶 壺	2/3	床面直 上	口 13.0 高 5.6 径 12.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナズ、横下にナズが残る。体部から底部はヘウ割り。内面体部から底部はヘウナズ。
2 PL 134	土師陶 鉢	口縁部~体部 1/4欠損	甕+土 地盤	口 20.0 高 12.7 径 7.2	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	口縁部から胴部横ナズ、体部から底部はヘウ割り。内面体部・底部はヘウナズ。
3 PL 134	土師陶 壺	口縁部、胴部 一部欠損	床面直 上	口 19.8 高 30.2 径 7.6	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナズ、胴部ヘウ割り。内面胴部ヘウナズ。胴部外面に粘土付着部分有り。
4	土師陶 壺	口縁部~胴部 上位小片	床面直 上	口 19.0	粗砂粒多/良好/明黄褐色	口縁部横ナズ、胴部ヘウ割り。内面胴部はヘウナズ。

表66 (5) 86号住居跡出土遺物観察表 (第209・210図)

図録番号 採取番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL 135	土師陶 杯	3/4	甕+野 直土	口 11.1 高 4.8	細砂粒/良好/灰赤黄	口縁部は横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。
2 PL 135	土師陶 杯	3/4	床面直 上	口 12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。
3 PL 135	土師陶 杯	3/5	甕東面 地床直	口 13.2 高 4.2	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。内面底部には放射状ヘウ割り。
4	土師陶 杯	1/2	埋土中	口 13.6 高 4.9	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい黄	口縁部は横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。内外面縁部破り。
5	土師陶 杯	1/3	甕+野 穴埋土	口 13.0 径 11.0	細砂粒/良好/明褐色	口縁部は横ナズ、体部(横下)から底部は手持ちヘウ割り。口縁部に凹線が2条並ぶ。
6 PL 135	土師陶 鉢	口縁部1/2次 杯底面	甕埋土 中	口 16.4 高 10.2 径 8.8	粗砂粒・橙/良好/明赤褐	口縁部横ナズ、体部表面割害のため不明。底部ヘウ割り。内面体部底部はヘウナズ。
7 PL 135	土師陶 小型壺	胴部~胴部下 半1/2欠損	甕+野 直土	口 15.4 高 22.0	粗砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナズ、胴部ヘウ割り。内面胴部はヘウナズ。
8 PL 135	土師陶 壺	口縁部、口 縁部一部欠	甕+野 直土	口 18.9 高 24.5 径 7.0	粗砂粒・ ϕ 5mm粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナズ、胴部から底部はヘウ割り。内面胴部はヘウナズ。
9 PL 135	土師陶 壺	口縁部	甕埋土 中	口 19.7 高 35.2 径 5.1	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナズ、胴部から底部はヘウ割り。内面胴部はヘウナズ。
10 PL 135	土師陶 壺	口縁部~胴部 上位3/4次	甕+野 直土	口 22.2 高 41.1 径 6.8	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナズ、胴部から底部はヘウ割り。胴部下位に縦2.5cmのナズ。内面胴部はヘウナズ。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
11 PL-135	土師器 甕	口縁部~胴部 胴部下位欠	甕前垣 部	口 19.6	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ、胴部はへう削り、内面胴部はへうナデ。

表67 (5) 87号住居跡出土遺物観察表 (第211回)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-135	灰土器 短頸壺	胴部3/4	埴土中	底 7.6 胴 14.3	粗砂粒/還元肌/灰白	クワロ整形、回転成形。底部から胴部下半は回転へう削り、底部周辺部に手持ちへう削り。
2 PL-135	土師器 杯	1/2	北壁際 埴土中	口 12.2 高 4.6 径 11.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。
3	土師器 杯	口縁部~体部 部	埴土中	口 12.6 径 11.8	粗砂粒/やや軟骨/橙	口縁部横ナデ、体部(後下)は手持ちへう削り。
4 PL-135	土師器 壺	底部~胴部、 口縁部下欠	埴土中	底 2.1×2.4	粗砂粒/良好/明黄褐色	胴部上半ナデ、下半から底部はへう削り、内面胴部は下半ナデ。

表68 (5) 88号住居跡出土遺物観察表 (第212~214回)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-135	土師器 杯	完形	床面直上	口 11.7 高 3.7 径 13.1	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、底部(後下)は手持ちへう削り、内外面磨地。
2 PL-135	土師器 杯	ほぼ完形	穴穴埋 土中	口 12.0 高 4.2 径 13.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内面全体と外面口縁部は磨地。
3 PL-135	土師器 杯	完形	床面直上	口 12.5 高 4.2 径 13.4	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内外面磨地。
4 PL-135	土師器 杯	2/5	甕前垣 中	口 12.7 高 4.2 径 13.8	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内外面磨地。
5 PL-135	土師器 杯	完形	穴穴埋 土中	口 13.0 高 4.9 径 14.0	粗砂粒/褐色肌/良好/浅黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り。
6 PL-135	土師器 杯	ほぼ完形	床面直上	口 12.2 高 4.2 径 13.5	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内外面磨地。
7 PL-135	土師器 杯	2/5	南東壁 脚床直上	口 13.3 高 3.8 径 14.6	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内外面磨地。
8 PL-135	土師器 杯	完形	穴穴埋 土中	口 12.1 高 4.2 径 12.6	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内面全体と外面口縁部は磨地。
9 PL-135	土師器 杯	完形	床面直上	口 12.3 高 4.5 径 12.6	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、内面全体と外面口縁部は磨地。
10 PL-135	土師器 杯	完形	床面直上	口 12.7 高 4.2 径 13.4	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう削り、底部中央に木炭灰が残る。内面全体と外面口縁部は磨地。
11 PL-136	土師器 杯	完形	南東壁 脚床直上	口 13.8 高 4.2 径 12.9	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、底部(後下)は手持ちへう削り、内外面磨地。
12 PL-136	土師器 杯	完形	甕石地 口前	口 14.8 高 4.4 径 13.2	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、底部(後下)は手持ちへう削り、内外面磨地。
13 PL-136	土師器 杯	完形	甕前垣 中	口 15.6 高 6.0	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちへう削り。
14 PL-136	土師器 短頸壺	口縁部、体部 一部欠損	床面直上	口 10.8 高 8.1	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう削り、内面胴部から底部はへうナデ。
15 PL-136	土師器 小型壺	7/8	甕石地 脚床直上	口 11.2 高 12.3 径 7.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう削り後上位にへう削り、内面胴部から底部はへうナデ。
16 PL-136	土師器 小型壺	口縁部~胴部 中位	甕石地 脚床直上	口 11.4	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部へう削り、内面胴部はへうナデ。
17 PL-136	土師器 壺	ほぼ完形	穴穴埋 土中	口 12.9 高 17.3 径 9.5	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう削り、内面胴部はへうナデ。
18 PL-136	土師器 壺	口縁部~胴部 下位2/5欠	埴土 部	口 16.4	粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部へう削り、内面胴部はへうナデ。
19 PL-136	土師器 壺	完形	埴土 上	口 19.1 高 15.3 径 4.6 孔 2.8	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部から底部はへう削り、内面胴部はへうナデ。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

採集番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
20 PL-136	土師器 甕	ほぼ完形	竈女地 竈床直	口 25.0 高 27.2 底 10.2	粗砂粒・良好/浅黄	口縁部横ナデ。胴部土平ナデ。下平へう割り。内面胴部はへうナデ。
21 PL-136	土師器 甕	口縁部・胴部 の一部を欠損	竈女地 竈床直	口 19.7 高 34.4 底 5.2	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ。胴部は土平ナデ。下平へう割り。底部本葉裏が残る。内面胴部はへうナデ。
22 PL-136	土師器 甕	口縁部・胴部 下位	竈前庭 部	口 19.9 高 26.3 底 3.0	粗砂粒/良好/にぶい赤	口縁部から胴部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
23 PL-136	土師器 甕	口縁部・胴部 の一部を欠損	竈壁土 中	口 20.0 高 26.3 底 3.2	粗砂粒/良好/にぶい赤	口縁部横ナデ。胴部へう割り後へう割り。底部本葉裏が残る。内面胴部はへうナデ。
24	土師器 甕	口縁部・胴部 上土小片	竈穴周 土中	口 20.3	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
25	土師器 甕	胴部片	竈穴周 土中		粗砂粒/良好/にぶい赤褐	胴部に横筋帯?貼付。口縁部へう割り。胴部横ナデ。内面は口縁部ハナ目。胴部ナデ。
26 PL-136	土師器 甕	口縁部・胴部下 位	竈壁土 中	口 6.2	粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい赤	胴部へう割り。底部断面厚減のため不明。内面胴部はへうナデ。

表69 (5) 91号住居跡出土遺物観察表 (第215図)

採集番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-137	土師器 杯	ほぼ完形。体 部一部欠損	床面直 上	口 14.9 高 3.9 径 13.1	粗砂粒/良好/にぶい黄粒	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
2 PL-137	土師器 杯	2/3	床面直 上	口 14.2 高 4.2 径 13.6	粗砂粒/良好/にぶい黄粒	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL-137	土師器 鉢	口縁部・体部 片	竈壁土 中	口 15.3 径 13.0	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ。体部へう割り。

表70 (5) 92号住居跡出土遺物観察表 (第216図)

採集番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師器 杯	1/3	竈女地 口前	口 14.0 高 4.0 径 12.8	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。底部(後下)は手持ちへう割り。
2 PL-137	土師器 杯	1/2	埴土中	口 14.2 高 4.3 径 13.0	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
3	土師器 高杯	胴部	埴土中		粗砂粒/良好/黄	胴部から杯身底部にかけてはへう割り。内面はへうナデ。
4	土師器 高杯	胴部	埴土中		粗砂粒/良好/黄	胴部内面に輪帯みねが残る。胴部はへう割り。内面はへうナデ。
5	土師器 甕	口縁部・胴部 上土片	埴土中	口 12.0	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
6 PL-137	土師器 甕	口縁部・胴部 上半片	竈東壁 部床直	口 16.9	粗砂粒/良好/にぶい赤	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。内外面。断面の一部に漆?付着。

表71 (5) 95号住居跡出土遺物観察表 (第217・218図)

採集番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	須恵器 高杯	胴部片	埴土中	径 12.4	粗砂粒/還元焼/黄褐	コブコ整形。回転方向不明。胴部はへう割り。3ヵ所に透孔。形状・組織不明。
2	土師器 杯	1/4	埴土中	口 12.2 径 13.0	粗砂粒/良好/暗灰褐	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL-137	土師器 杯	ほぼ完形。口 縁部一部欠損	埴土中	口 12.6 高 4.5 径 13.5	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
4	土師器 杯	1/3	床面直 上	口 12.0 高 3.9 径 13.2	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
5	土師器 杯	1/3	埴土中	口 12.6 高 4.1 径 13.8	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
6 PL-137	土師器 杯	ほぼ完形。口 縁部一部欠損	竈東壁 部床直	口 17.7 高 4.3 径 15.9	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 器種	形状 (保存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
7 PL-137	土師器 杯	2/3	埋土中	口 12.4 高 3.7 径 11.3	細砂粒/良好/灰黄	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建り。
8 PL-137	土師器 杯	ほぼ完成。口 縁部一部欠損	表面直 上	口 13.6 高 4.8 径 12.6	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
9	土師器 杯	1/4	埋土中	口 13.9 高 13.0	細砂粒/良好/灰黄	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
10	土師器 杯	1/2	埋土中	口 14.3 高 3.6 径 13.2	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
11	土師器 鉢	口縁部~体部 中位片	穴内 土中	口 19.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ。体部へう割り。内面体部はへう割き。
12	土師器 鉢	口縁部~体部 上位片	埋土中	口 11.6	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。体部へう割り。内面体部はへう割ナデ。
13 PL-137	土師器 盥	口縁部~胴部 片	埋土中	口 17.8	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。胴部は東方へう割りか。内面胴部はへう割ナデ。
14	土師器 盥	底部~胴部 位	埋土 中	高 5.3	粗砂粒/良好/灰黄褐	胴部、底部ともへう割り。底部磨面磨建。内面はへう割ナデ。
15	土師器 台付盥	口縁部~胴部 上位片	埋土 中	口 13.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐	内面に輪積み痕が見える。口縁部横ナデ。胴部へう割。内面胴部はへう割ナデ。

表72 (5) 98号住居跡出土遺物観察表(第219~223頁)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	形状 (保存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-138	土師器 杯	ほぼ完成。口 縁部1/4欠損	埋土中	口 13.4 高 4.9 径 14.5	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建り。
2 PL-138	土師器 杯	4/5	埋土中	口 11.9 高 4.0 径 11.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建りか。
3 PL-138	土師器 杯	完成	竈土 中	口 12.0 高 4.2 径 12.3	細砂粒/良好/暗灰黄	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建り。
4 PL-138	土師器 杯	3/4	表面直 上	口 13.9 高 4.6 径 12.8	細砂粒/良好/黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
5	土師器 杯	1/5	表面直 上	口 14.0 高 13.9	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建りか。
6 PL-138	土師器 杯	口縁部1/4欠 損	埋土中	口 14.2 高 4.4 径 12.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
7	土師器 杯	2/3	表面直 上	口 13.0 高 4.7 径 11.8	細砂粒/良好/灰褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り後へう割き。内面に放射状へう割き。
8	土師器 杯	1/4	表面直 上	口 14.4 高 4.4 径 13.2	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面に放射状へう割き。
9 PL-138	土師器 鉢	口縁部~体部 上位1/4欠損	埋土中	口 24.0 高 12.5 径 9.4	細砂粒/良好/にぶい黄	外面に輪積み痕が見える。口縁部横ナデ。体部から底部はへう割り。内面体部、底部へう割ナデ。
10 PL-138	土師器 盥	底部~胴部、 口縁部欠損	表面直 上	5.0×4.6	細砂粒/良好/明赤褐	胴部横ナデ。胴部は上位と下位がへう割り。中位ナデ。底部へう割り。内面胴部はへう割ナデ。
11	土師器 短頸盥	口縁部~胴部 の一部欠損	埋土中	口 11.9 高 10.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部から底部はへう割り。内面胴部から底部はへう割ナデ。
12	土師器 台付鉢	口縁部~胴部 の一部欠損	埋土中	口 12.5 高 19.7 径 10.0	粗砂粒・赤内磨/良好/明 褐	口縁部横ナデ。胴部から胴部はへう割り。胴部はナデ。内面胴部はへう割ナデ。胴部はナデ。
13	土師器 甕	ほぼ完成	埋土中	口 18.6 高 17.6 径 5.4 孔 1.5	細砂粒/良好/明赤褐	胴部外面に輪積み痕が見える。口縁部横ナデ。胴部は底部周辺がへう割り。その他はナデ。内面胴部はへう割ナデ。
14 PL-138	土師器 盥	口縁部3/4、胴 部一部欠損	表面直 上	口 18.5 高 30.5 径 5.3	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ。胴部へう割り。下半はカマダ装着の襷で平割肌。内面胴部はへう割ナデ。
15	土師器 盥	3/4	表面直 上	口 21.0 高 36.5 径 4.7	粗砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへう割ナデ。
16 PL-138	土師器 盥	4/5	表面直 上	口 20.6 高 38.4 径 5.0	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへう割ナデ。
17	土師器 盥	口縁部~体部 上位	北側 埋土中	口 20.8	細砂粒・褐色粒/良好/に ぶい黄褐	胴部外面に輪積み痕が見える。口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへう割ナデ。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

探検番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
18 PL-138	土師器 壺	口縁部~胴部 中位	甕前垣 礎付込	口 21.9	細砂粒/良好/橙	内面着色処理。口縁部横ナデ、胴部へう削り、内面胴部はへうナデ。
19 PL-138	土師器 壺	1/3	床面上	口 20.2 高 29.3 底 7.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部、底部へう削り、内面胴部はへうナデ。器底内面とも厚縁のため不明。
20 PL-139	土師器 壺	口縁部~胴部 上半4/5	床面上	口 20.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、胴部へう削り、内面胴部はへうナデ。
21-1	土師器 壺	口縁部~胴部 中位片	床面上	口 22.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は器底厚縁のため形状不明、内面胴部も器底厚縁で形状不明。
21-2	土師器 壺	底部~胴部中 位1/4	床面上	高 9.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はへう削り、底部もへう削り、器底厚縁のため単位不明、内面胴部はへうナデ。
22-1	土師器 壺	口縁部小片	床面上	口 34.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は内外とも横ナデ。
22-2	土師器 壺	胴部片	床面上		細砂粒/良好/橙	胴部は外面が縦方向へう削り、内面がへうナデ。

表73 (5) 99号住居跡出土遺物観察表 (第224図)

探検番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 小型壺	口縁~胴部 1/5	埋土中	口 13.8 高 16.8	細砂粒・粗砂粒・細焼/着色肌/橙色	横溝み。口縁部内外面横ナデ。胴部外面横へう削り、胴部内面へうナデ。

表74 (5) 101号住居跡出土遺物観察表 (第225図)

探検番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 壺	口縁~底部 2/3	埋土中	口 19.6 高 24.0 底 6.0	細砂粒・粗砂粒・細焼/着色肌/橙色	横溝み。口縁部内外面横ナデ。胴部外面へうナデ、胴部内面へうナデ後、器底のへう削り、外周スリ付着。

表75 (5) 103号住居跡出土遺物観察表 (第226図)

探検番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	床面上	口 20.2	粗砂粒/良好/灰青	口縁部横ナデ、胴部へう削り、内面胴部はへうナデ。口縁部底み込。

表76 (5) 105号住居跡出土遺物観察表 (第227図)

探検番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-139	土師器 杯	2/3	野穴埋 土中	口 12.6 高 4.2 横 13.6	細砂粒・褐色肌/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう削り。
2	土師器 杯	1/2	北東壁 際	口 12.7 高 3.1 横 13.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう削り、内面器底に放射状へう削り。
3 PL-139	土師器 杯	完整	野穴埋 土中	口 13.2 高 4.2 横 11.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう削り。
4	土師器 壺	底部~胴部下 位	埋土中	高 5.0	粗砂粒/良好/橙	胴部、底部へう削り、内面はへうナデ、器底厚縁のため単位不明。
探検番号 図版番号	類別 機種	出土 位置	計 測 値 (cm, g)			備 考
5 PL-139	土製品 土師	埋土中	長:5.2 径:1.4 孔:0.3 重量:8.4	胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:橙色		側面はナデ、両端部は面取り。
6 PL-139	土製品 土師	埋土中	長:4.1 径:1.2 孔:0.4 重量:5.0	胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:褐色		側面はナデ。
7 PL-140	石製品 新羅石	埋土中	上径:4.0 下径:2.5 厚:1.6 孔:0.7 重量:31.6			上面の一部が欠損。かなり丁寧な研削が施される。 側面下方には列線が1本通る。

表77 (5) 106号住居跡出土遺物観察表 (第228・229図)

検出番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	口縁部~体部 片	竈石地 盤面上	口 10.8 径 12.8	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
2 PL.130	土師器 杯	1/2	床面直上	口 11.8 径 12.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
3 PL.130	土師器 杯	1/2	竈石地 盤面上	口 12.4 径 12.2	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL.130	土師器 杯	1/3	竈穴地 土中	口 13.1 径 11.9	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内面は花弁状へう割り。
5	土師器 瓶	口縁部~体部 片	埋土中	口 10.0 径 12.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)はへう割り。内面体部はヘラナデ。
6 PL.130	土師器 壺	口縁部2/3部 胴	口	口 19.8 径 5.0	粗砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ、胴部へう割り。底部に木葉痕が残る。内面胴部はヘラナデ。胴部 上段にコマダ美着時の痕跡。
7	土師器 壺	1/4	床面上	口 18.3 径 10.1	粗砂粒/良好/青	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。

表78 (5) 107号住居跡出土遺物観察表 (第230・231図)

検出番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	2/3	埋土中	口 11.6 径 12.4	細砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗り。
2 PL.130	土師器 杯	2/3	竈石地 中	口 13.8 径 12.4	細砂粒/良好/青	口縁部横ナデ、体部(後下)から底部は手持ちへう割り。
3 PL.130	土師器 杯	口縁部の大断面 分欠片	竈石地 盤面上	口 12.5 径 4.4	細砂粒/褐色粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、体部(後下)ナデ、底部周辺へう割り。底部木葉痕が残る。
4 PL.130	土師器 壺	口縁部~胴部 上半	竈石地 床面上	口 18.2	粗砂粒/良好/青	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。
5 PL.130	土師器 壺	胴部下位	竈石地 盤面上	径 4.3 高 11.7	粗砂粒/良好/にぶい赤褐色	胴部と底部はへう割り。内面はヘラナデ。次期部地層等から跡として転用か。
6 PL.140	土師器 壺	ほぼ完全 下位片	竈石地 中	口 19.2 径 3.5	粗砂粒/佳/良好/青	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。
7 PL.140	土師器 壺	ほぼ完全	竈石地 中	口 22.3 径 4.9	粗砂粒/良好/青	口縁部横ナデ、胴部へう割り。下は器部厚縁のため不詳明。内面胴部はヘラナデ。
8 PL.140	土師器 壺	口縁部~胴部 下位片	床面直上	口 17.8	粗砂粒、佳/良好/青	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。
9 PL.140	土師器 壺	口縁部~胴部 下位	竈石地 中	口 19.7	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。下は器部厚縁のため単位 不明。
検出番号 図版番号	検出 器種	出土位置	計測値 (cm, g)		備 考	
10 PL.140	土製品 管玉	床面直上	長:2.8 径:0.6 孔:0.2 重量:1.4	管形品。かなり丁寧な研削が施される。穿孔は両端からであるが、穿孔方向がず れ、側面に達する。		

表79 (5) 109号住居跡出土遺物観察表 (第232図)

検出番号 図版番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.140	土師器 鉢	2/3	埋土中	口 20.4 径 7.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部、底部はへう割りか、器部厚縁のため不詳明。内面も同様。
検出番号 図版番号	検出 器種	出土位置	計測値 (cm, g)		備 考	
2 PL.140	土製品 土師	床面直上	長:5.9 径:1.4 孔:0.5 重量:9.1 胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:にぶい黄褐色	側面、底部ともナデ。		
3 PL.140	土製品 土師	埋土中	長:5.8 径:1.4 孔:0.5 重量:9.0 胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:にぶい黄褐色	側面、底部ともナデ。		
4 PL.140	土製品 土師	埋土中	長:5.5 径:1.3 孔:0.6 重量:7.3 胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:にぶい黄褐色	側面、底部ともナデ。		

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

表80 (5) 110号住居跡出土遺物観察表 (第233図)

経度番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1	土師器 杯	口縁部~体部 片	埋土中	口 13.0 径 11.8	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部(横下)は手持ちへう割り。内外面磨建り。
2	土師器 杯	口縁部~体部 片	埋土中	口 13.4 径 10.4	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部(横下)は手持ちへう割り。
3	土師器 壺	口縁部~胴部 上片	表層土 床面上	口 19.4	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。

表81 (5) 113号住居跡出土遺物観察表 (第234・235図)

経度番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-140	土師器 杯	1/2	埋土中	口 13.8 高 4.7 径 12.4	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建り。
2 PL-140	土師器 短頸壺	1/3	埋土中	口 12.1 高 16.4	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部横ナデ、胴部へう割り。底部へう割り。内面は胴部から底部へう割り。
3 PL-140	土師器 小型壺	4/5	砂付土 埋土中	口 16.6 高 16.5 径 5.8	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
4 PL-140	土師器 小型壺	3/4	砂埋土 中	口 16.4 高 19.2 径 6.0	粗砂粒/良好/黄	胎形歪み大。口縁部横ナデ、胴部、底部へう割り。内面胴部へうナデ。
5 PL-140	土師器 壺	口縁部~胴部 下位1/2片	砂埋土 中	口 17.4	粗砂粒/良好/黄	外面は磨建り厚減により整形不明。内面は口縁部横ナデ、胴部へうナデ。
6 PL-141	土師器 壺	口縁部~胴部 下片	砂埋土 中	口 21.5×20.2	粗砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、胴部から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。

表82 (5) 114号住居跡出土遺物観察表 (第236図)

経度番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-141	土師器 杯	3/4	埋土中	口 12.1 高 4.1 径 10.1	細砂粒/良好/灰黄	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。横し焼成?

表83 (5) 132号住居跡出土遺物観察表 (第237図)

経度番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-141	土師器 杯	口縁部1/2穴 部	約穴埋 土中	口 12.8 高 4.7 径 14.4	細砂粒/良好/褐	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面磨建り。
2	土師器 杯	1/4	電石地 胎土中	口 13.8 径 13.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
3	土師器 壺	底部~胴部 上片	埋土中	高 5.7 径 2.6	細砂粒/良好/にぶい黄	胴部・底部ともへう割り。内面胴部はへうナデ。
4 PL-141	土師器 壺	胴部下平1/4、 底部穴部	ビッド 埋土中	口 11.1	細砂粒/良好/灰褐	口縁部横ナデ、胴部縦方向へう割り。内面胴部はへうナデ。

表84 (7) -1区 1号住居跡出土遺物観察表 (第238・239図)

経度番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-141	煎茶器 高杯	口縁部片1/3	埋土中	口 17.8	粗砂粒/還元焼/灰	口の整形、割取面回りか。口縁部に斜な凹線が1条ある。体部~底部は割取 へう割り。
2 PL-141	土師器 小型壺	口縁部上平 1/2穴	床面上	口 7.9 高 3.5 径 3.8	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部上平ナデ、下平へう割り。底部もへう割り。内面口縁部横ナ デ、底部ナデ。
3 PL-141	土師器 小型壺	1/3	床面上 上	口 8.7 高 4.0 径 5.4	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、体部は上平ナデ。下平はへうナデ。底部もへうナデ。
4 PL-141	土師器 小型壺	口縁部上平 1/4穴	甕前部 部	口 9.3 高 4.4 径 3.8	粗砂粒・密内焼/良好/に ぶい黄	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部はへう割り。内面は横ナデ。
5 PL-141	土師器 鉢	5/6	甕前部 部	口 18.0 高 10.3 径 5.7	粗砂粒/良好/にぶい褐	外面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ。体部ナデ。底部へう割り。内面体部はへ うナデ。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
6 PL-141	土師器 壺	1/3	埋土中	口 17.4 高 17.6 底 5.0	粗砂粒/良好/赤灰	口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。底部には木葉痕が残る。
7 PL-141	土師器 甕	口縁部・胴部 一部欠損	実直土中	口 24.4 高 27.2 底 8.8	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
8 PL-141	土師器 壺	4/5	甕前庭 部前	口 19.0 高 23.3 底 4.6	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
9 PL-141	土師器 壺	口縁部1/4、胴部 一部欠損	甕前庭 部前	口 18.1 高 28.4 底 3.1	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
10 PL-141	土師器 壺	胴部1/8欠損	甕前庭 部前	口 18.6 高 28.4 底 5.6	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。底部木葉痕が残る。内面胴部はヘラナデ。

表85 (7) - 1区 5号住居跡出土遺物観察表 (第240・241図)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1 PL-143	土師器 小型壺	2/3	甕石垣 脇	口 13.6 高 12.0 底 7.0	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り底部部分的にヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。下位と底部はヘラ磨き。
2 PL-143	土師器 小型壺	1/3	実直土中	口 12.9 高 14.1	粗砂粒/良好/灰褐色	口縁部横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
3 PL-143	土師器 壺	口縁部・胴部 中位	甕埋土中	口 21.8	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
4 PL-143	土師器 壺	胴部・胴部下 位	甕埋土中	底 6.2	粗砂粒/良好/黄褐色	胴部は縦方向ヘラ削り。底部もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
5 PL-143	土師器 壺	口縁部・胴部 下位	甕埋土 +甕由	口 19.8	粗砂粒・雑/良好/灰黄褐色	口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
6 PL-143	土師器 壺	胴部・胴部上 位	実直土中	底 6.4	粗砂粒/良好/灰黄褐色	胴部は縦方向ヘラ削り。底部もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
7 PL-143	須恵器 壺	口縁部・胴部 左	実直土中	口 26.8 高 53.3	粗砂粒/還元焰/灰褐色	胴部至小大。胴部に縞面帯が走る。口縁部上中2段の凹線区画に波状文が走る。胴部は外面に平行帯、内面に同心円状アタリ具痕が残る。

表86 (7) - 2区 17号住居跡出土遺物観察表 (第242図)

検出番号 図版番号	土器種類 形態	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 高杯?	杯身口縁部片	貯穴埋 土中	口 15.6	粗砂粒/良好/赤褐色	杯部下位に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ。杯部ヘラ削り。内面はヘラナデ。
2	土師器 高杯	杯身部片	貯穴埋 土中	口 16.8 底 11.4	粗砂粒/良好/明褐色	口縁部から杯部横ナデ。底部ヘラナデ。内外面磨き?
3	土師器 高杯	胴部下半片	甕石垣 脇床土	底 12.8	粗砂粒/良好/明赤褐色	内面に輪積み痕が残る。胴部はヘラ削りか。表面磨減不鮮明。胴部は横ナデ。
4	土師器 小型壺	3/5	貯穴埋 土中	口 13.0 高 8.0 底 3.6	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、中位・下位ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
5	土師器 甕	1/3	貯穴埋 土中	口 21.0 高 23.8 底 16.2	粗砂粒/良好/黄褐色	口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、中位・下位ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。
6-1	土師器 壺	口縁部・胴部 上段片	貯穴・ 甕埋土	口 15.0	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	胴部ヘラ削り。表面磨減不鮮明。底部ヘラ削り。内面はヘラナデ。
6-2	土師器 壺	胴部・胴部上 位	貯穴・ 甕埋土	底 6.3	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ。胴部上位はナデ。内面胴部はヘラナデ。
7 PL-144	土師器 壺	胴部・胴部 5/6	貯穴埋 土中	底 6.8	粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい赤褐色	胴部・底部ともにヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。

2. 掘立柱建物

該期とした掘立柱建物遺構の全てが、後述する古墳の墳丘下に検出された遺構である。調査された古墳15基は、7世紀前半の築造と考えられることから、本項で扱う掘立柱建物はそれ以前の遺構であることは明らかである。

以下、各遺構ごとに記す。

(5) 1号掘立柱建物 (第243図、PL.45)

位置(座標)：X軸=38.423~430、Y軸=-45.336~343。

本掘立柱建物は調査区の北部にあり、11号墳の墳丘下に検出された。本遺構のすぐ北東側に2号掘立柱建物が、南西12mに4号掘立柱建物がある。規模は梁行3間(4.8m、4.0m)×桁行3間(4.9m、5.1m)の歪みを持った長方形を呈する建物で、梁行方向の北側の延長線上にP6が検出されていることから、障壁状施設を付設した建物の可能性がある。各柱間距離は梁行1.0~2.0m、桁行1.4~2.2mを測る。桁行方向は北西を向く。各柱穴の規模は径20~68cm、深さ10~51cmを測る。柱穴埋土は少量の軽石粒子を含んだ黒褐色土ないしは暗褐色土がベースである。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、周辺の遺構の状況や11号墳よりも時期が古いことから、古墳時代後期と思われる。

(5) 2号掘立柱建物 (第244図、PL.45)

位置(座標)：X軸=38.429~431、Y軸=-45.334~338。

本掘立柱建物は調査区の北部にあり、11号墳墳丘下で確認されている。柱穴上面は重複する古墳によって削平されているため、いずれも深さは浅い。本遺構のすぐ南西側に1号掘立柱建物が、南西18.5mに4号掘立柱建物がある。規模は梁行1間(1.7m、1.9m)×桁行1間(3.2m、3.0m)のやや歪みを持つ長方形を呈する建物で、桁行方向は西を向く。各

柱穴の規模は径28~34cm、深さ12~14cmを測る。柱穴埋土は暗褐色土がベースである。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、周辺の遺構の状況や11号墳よりも時期が古いことから、古墳時代後期と思われる。

(5) 4号掘立柱建物 (第244図、PL.45)

位置(座標)：X軸=38.417~420、Y軸=-45.352~358。

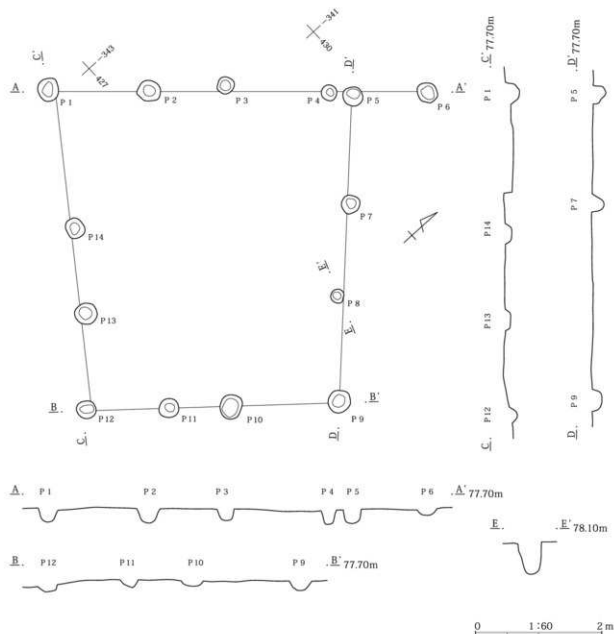
本掘立柱建物は調査区の北部にあり、7号墳墳丘下で確認されている。本遺構の南東6mに5号掘立柱建物が、北東12mに1号掘立柱建物がある。本遺構は、梁行方向の南側2間分2.6mと桁行方向の西側3間分4.3mのみが検出された。遺構の検出状況から、二辺の直角の障壁状構造物の可能性もある。柱間距離は梁行1.1m、1.5m、桁行1.2~1.8mを測る。桁行方向は北西を向く。各柱穴の規模は径35~48cm、深さ23~50cmを測り、残存状態は比較的良好。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、周辺の遺構の状況や、7号墳よりも時期が古いことから、古墳時代後期と思われる。

(5) 5号掘立柱建物 (第245図、PL.45)

位置(座標)：X軸=38.406~413、Y軸=-45.347~354。

本掘立柱建物は調査区の北部にあり、7号墳墳丘下で確認されている。本遺構のすぐ南側に6号掘立柱建物が、北西6mに4号掘立柱建物がある。規模は梁行3間(4.5m、4.4m)×桁行3間(4.7m、4.6m)の長方形を呈する建物で、各柱間距離は梁行1.2~1.8m、桁行1.4~1.8mを測る。桁行方向は北西を向く。各柱穴の規模は径32~51cm、深さ17~40cmを測り、掘り込みがしっかりしたものが多い。建物中央からやや南寄りに焼土が半円形状に確認されていることから、本建物跡は炉を付設した平地式住居の可能性はある。



第243図 (5) 1号掘立柱建物跡平面図

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、周辺の遺構の状況や、7号墳よりも時期が古いことから、古墳時代後期と思われる。

(5) 6号掘立柱建物 (第246図、PL.45)

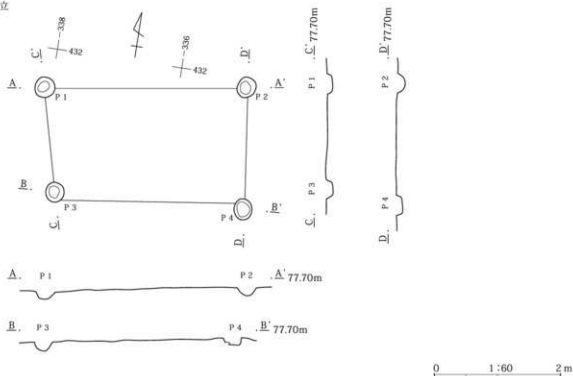
位置(座標)：X軸=38.397~405、Y軸=-45.346
~353。

本掘立柱建物は調査区の北部にあり、7号墳墳丘

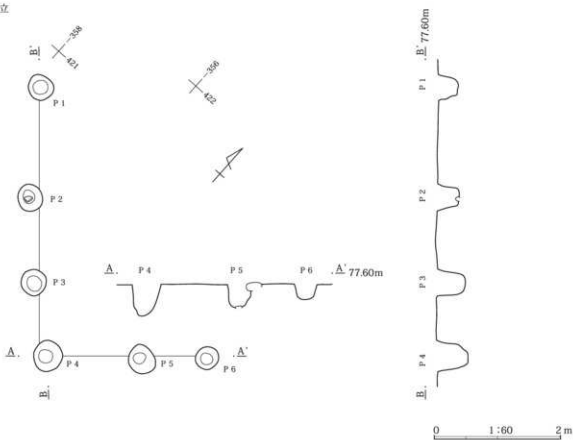
下で確認されている。本遺構よりも時期が新しい1・2号畠、7号溝と重複しているが、直接切り合っていない。本遺構のすぐ北側に5号掘立柱建物が、北13mに4号掘立柱建物がある。規模は梁行2間(4.7m、4.8m)×桁行3間(5.2m、4.9m)の長方形を呈する建物で、各柱間距離は梁行2.3m、2.4m、桁行1.6~1.9mを測る。桁行方向は北西を向く。各柱穴の規模は径33~61cm、深さ18~64cmを測る。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

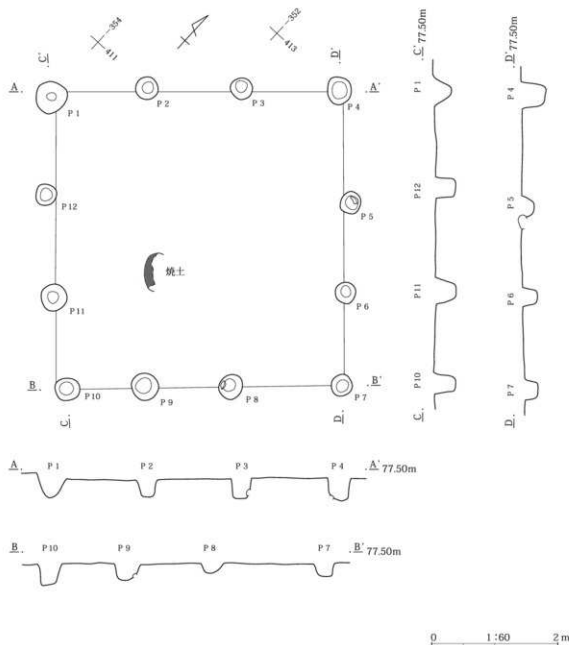
2号掘立



4号掘立



第244図 (5) 2・4号掘立柱建物跡建物跡平面図



第245図 (5) 5号掘立柱建物跡平面図

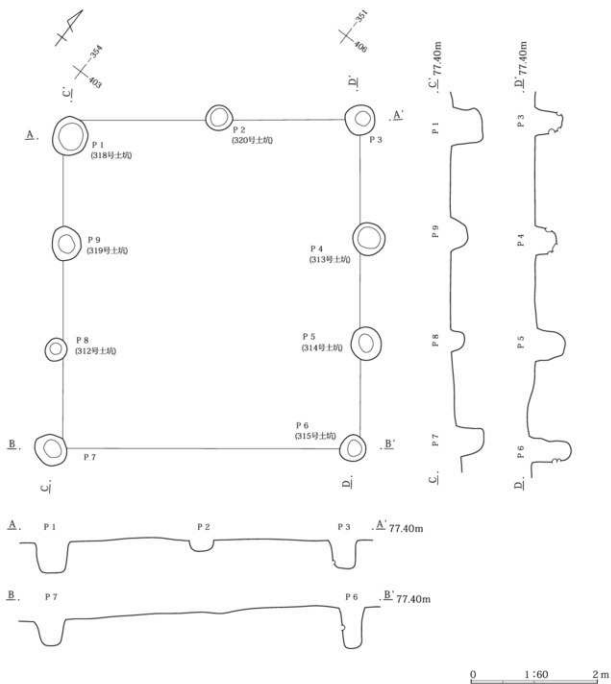
出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、周辺の遺構の状況や、7号墳よりも時期が古いことから、古墳時代後期と思われる。

(5) 9号掘立柱建物 (第247図、PL.45)

位置(座標)：X軸=38.388~397、Y軸=-45.318
~325。

本掘立柱建物は調査区の北部にあり、1号墳丘皮下で確認されている。本遺構の南東6mに5号掘立柱建物が、北東12mに1号掘立柱建物がある。規模は梁行2間(4.9m)×桁行2間(5.9m)の長方形を呈する建物で、梁行方向の北側の延長線上にP1が検出されていることから、障壁状施設を付設した建物の可能性がある。各柱間距離は梁行2.0~2.7m、

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

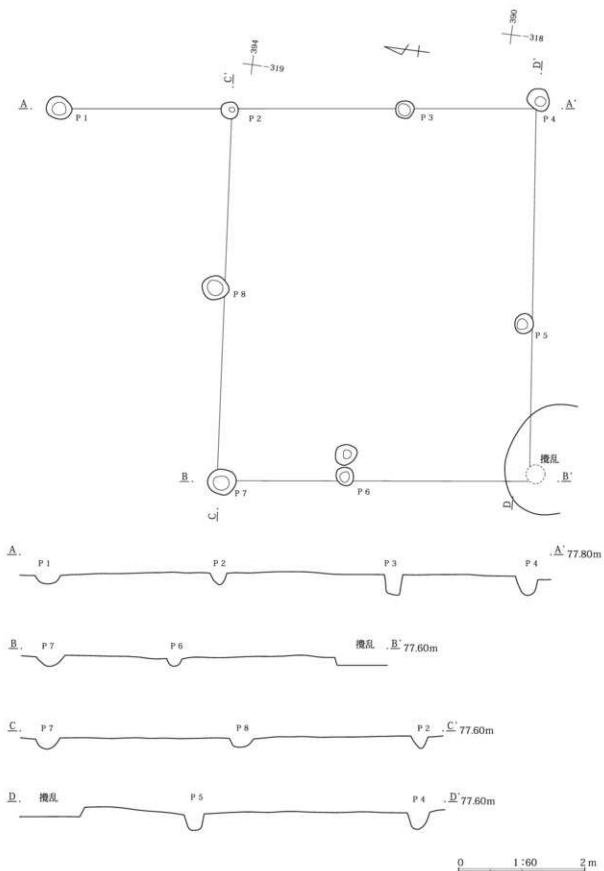


第246図 (5) 6号掘立柱建物跡平面図

桁行2.8～3.5mを測る。桁行方向は東を向く。各柱穴の規模は径27～45cm、深さ11～31cmを測る。梁行と桁行の延長線上の交点部分に柱穴があると推測されるが、攪乱によって検出されていない。

出土遺物が少なく、時期の特定は難しいが、周辺

の遺構の状況や、1号墳よりも時期が古いことから、古墳時代後期と思われる。



第247図 (5) 9号独立柱建物跡平面図

3. 集石遺構

検出された集石遺構は、西野原遺跡（5）の古墳の墳丘下に1箇所を検出した。後述するように、古墳は7世紀前半の築造と考えられることから、本項で扱う集石遺構はそれ以前の遺構であることは明らかである。

(5) 1号集石（第248図、PL.50）

位置(座標)：X軸=38.390~395、Y軸=-45.310~320。

調査区の北部にあり、1号墳墳丘下に検出された。古墳の石室掘方により一部が壊され、この掘方と石室調査の際のトレンチによって遺構形状は判然としないが、北西方向に長軸をもち、集石範囲は長軸10.4m、短軸2.8mほどの長楕円状を呈する。同様に1号墳墳丘下で検出された石室掘方の西側に位置する9号掘立柱建物とは、ぎりぎり接することはなく、土器集中とも接していない。

集石の状況は、10~20cmほどの拳大の円礫を用い、かなり密に平坦に敷き詰められている。

さらに、本集石の下層からは、後述する7号畝が検出されている。

出土遺物がなく、時期の特定は難しいが、重複関係から1号墳よりも古く、7号畝よりも新しいことは明らかで、古墳時代後期と思われる。なお、遺構の性格は不明。

4. 土器集中

土器集中は、西野原遺跡（5）の1号墳と7号墳の墳丘下にそれぞれ検出された。後述するように、両古墳は7世紀前半の築造と考えられ、本項で扱う土器集中はそれ以前の遺構であることは明らかである。

(1) 1号墳墳丘下の土器集中

1号墳の墳丘下に検出された土器集中は、古墳の石室掘方の西側に位置し、X軸=38.389~395、Y軸=-45.319~326の範囲に遺物が分布する（第249図）。遺物の出土状態および土器の集中の状況には、やや粗密があり、およそ第1~3の三つのグループに分別することができる。

また、土器集中下面から炉跡状の焼土、カマド状の遺構が検出されており、併せて記述する。

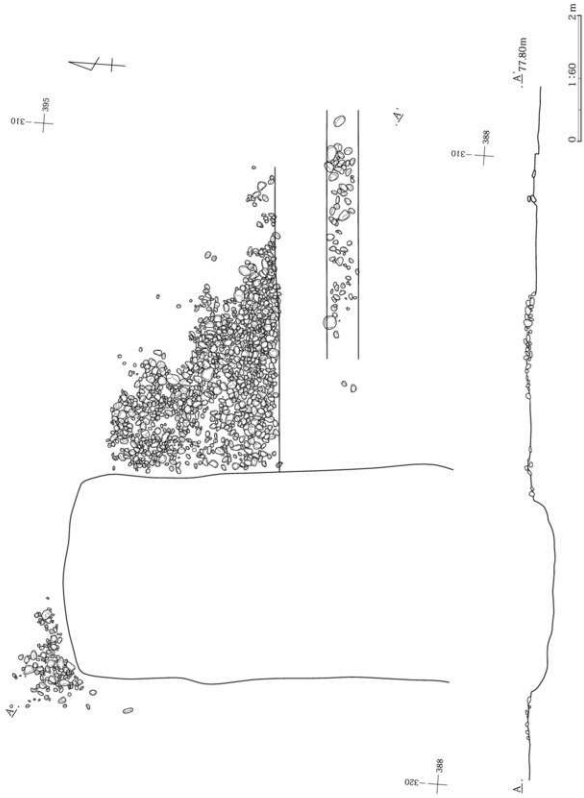
土器集中第1グループ（第250・254~256図、表87、PL.46・47・145・146）

第1グループは、土器集中全体の北側に位置し、X軸=38.394、Y軸=-45.324を中心とした2~3mの範囲に遺物が集中する。20~30cmほどの人頭大の楕円礫を組んだような配石状の遺構を伴い、土器が多量に散乱する。

出土状態をみると、9号掘立柱建物の柱穴際に楕円礫がハ字状に組まれるように在り、礫の内側に第254図7の大型高坏の脚部が据えられたように正位で出土している。この部分を頂点とするように、西側に遺物が集中して散乱する。

復元できた土器には、1~3の坏、4・5の碗形の手握ね土器、6~11の高坏、13~19の小型甕および甕があり、石製品には22の玉が1点ある。他のグループに比べ、高坏が多く、手握ね土器と玉の存在が特徴的で、須恵器は出土していない。

また、時期の異なる土器として、20のへら磨きの施された甕、21の櫛描麻状文をもつ大型の甕も出土している。



第248図 (5) 1号集石平面図

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

土器集中第2グループ (第251・257・258図、表88、PL.47～49・146・147)

第2グループは、土器集中全体の南半西側に位置し、X軸=38.391、Y軸=-45.324を中心とした4mほどの範囲に遺物が広がる。20～30cmほどの楕円礫も散乱し、土器が最も多量に集中する。土器の出土量は、三つのグループの中で最も多い。

出土状態をみると、楕円礫は北側の第1グループ寄りにもみられ、その南側に最も土器が集中する。この集中部の上位に、第257図1の須恵器の高環が出土している。また、この集中部の西側に、弧状に土器が多く散布する。

復元できた土器には、1の須恵器の高環、2～23の環、25の鉢、26の甕、24・27～30の小型甕および甕がある。他のグループに比べ、須恵器の高環が存在する点と、環が多量に出土している点が特徴的である。

なお、本グループの北側の下位面から、炉跡状の焼土が検出されているが(第253図、PL.50)、本グループとの関係は不明である。

土器集中第3グループ

(第252・259図、表89、PL.47・49・147)

第3グループは、土器集中全体の南半東側に位置し、X軸=38.391、Y軸=-45.321を中心とした3mほどの範囲に遺物が広がる。土器の出土量は、三つのグループの中で最も少ない。

出土状態をみると、ドーナツ状に土器が分布し、東南部にやや多く出土している。

復元できた土器には、1の須恵器の鉢、2～5の環、6の鉢、7の甕、8の甕がある。

なお、本グループの北側の下面には、カマド状の遺構が検出されている(第253図、PL.50)。調査時に、カマドとして扱った遺構で、全体がやや焼土化し、中央部が凹むように周囲が弧状に盛り上がり、盛り上がりの先端部に第259図8の甕が逆位に出土している。掘方は、浅い土坑状を呈する。本グループとの関係および性格は不明である。

土器集中出土遺物(第260図、表90、PL.147)

上記の土器集中グループに帰属できなかった遺物として、1の須恵器の鉢、2の椀形の手握ね土器、～8の環、10の甕があり、11は土鍾である。9は体部にへう磨きが施される環で、土器集中の主体を成す土器群とは時期が異なる。

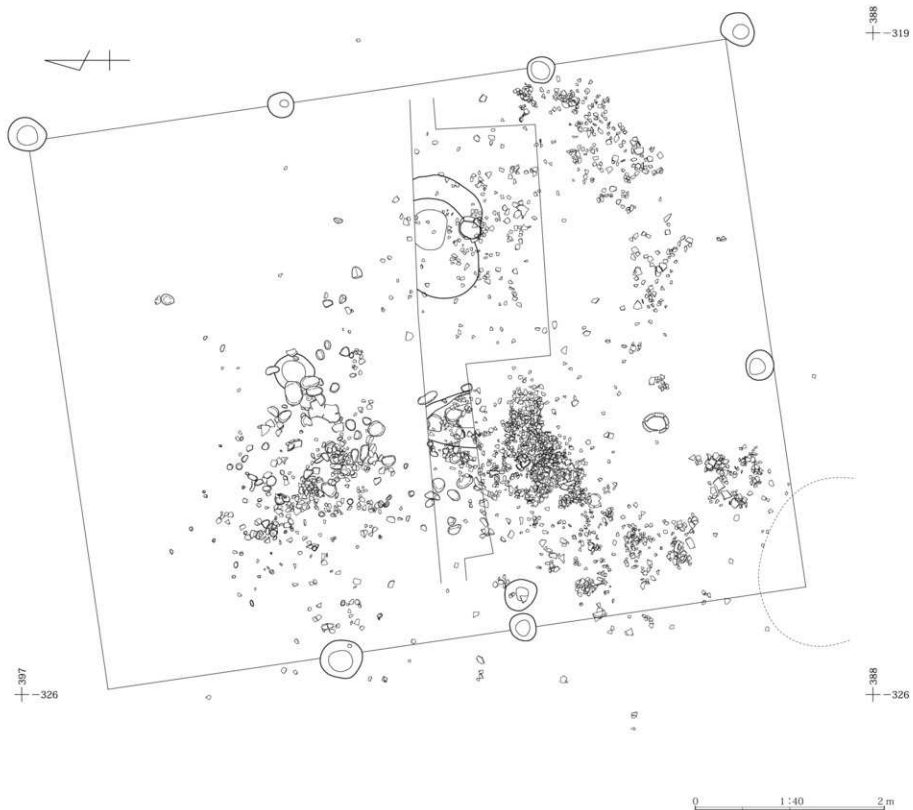
以上、1号墳の墳丘下に検出された土器集中について記述してきたが、第1グループでの楕円礫がハ字状に組んだような遺構と大型高環が据えられたような出土のあり方、手握ね土器や玉の存在等から、この土器集中が祭祀的な遺構である可能性が考えられる。また、第249図に示すように、土器集中の範囲がほぼ9号掘立柱建物内に取まることから、両者が一体の遺構である可能性をもち、9号掘立柱建物が祭祀的な土器集中の上屋と考えることもできる。

一方、炉跡状の遺構の存在から、古墳時代後半の土器集中よりも古い住居跡があった可能性もあり、第256図21の壺ないし第255図20の甕が、そうした古い住居に伴う遺物である可能性も考えられる。

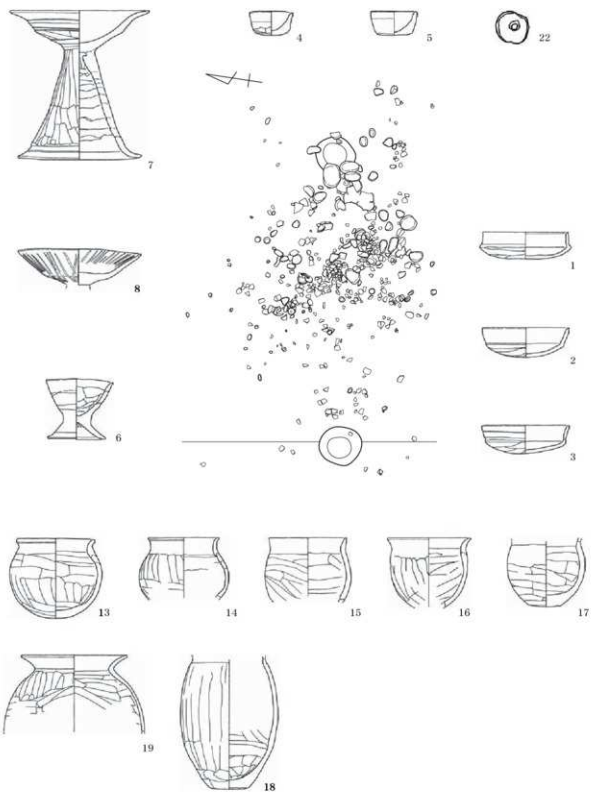
(2) 7号墳墳丘下の土器集中

7号墳の墳丘下の東寄りに、数個体の須恵器の大甕を集中して出土させる箇所が検出されている。

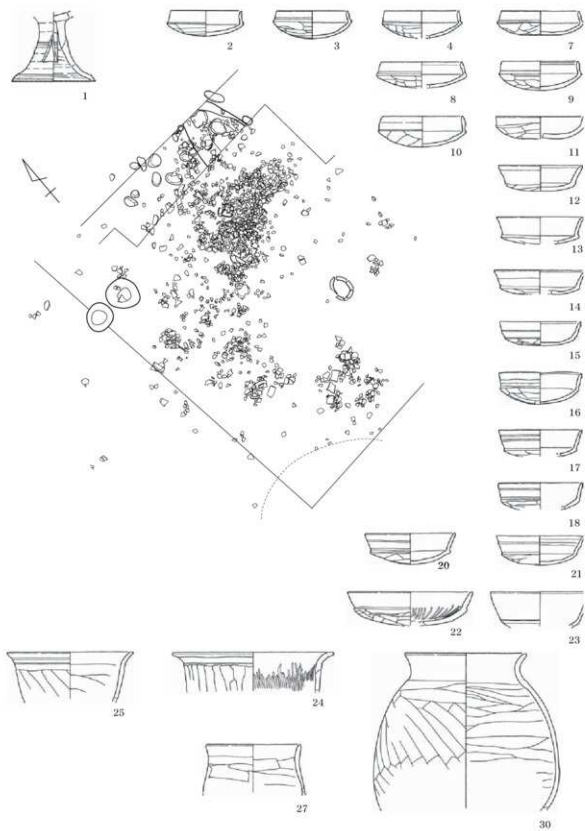
詳細については、後述の7号墳の記述の中で触れる。



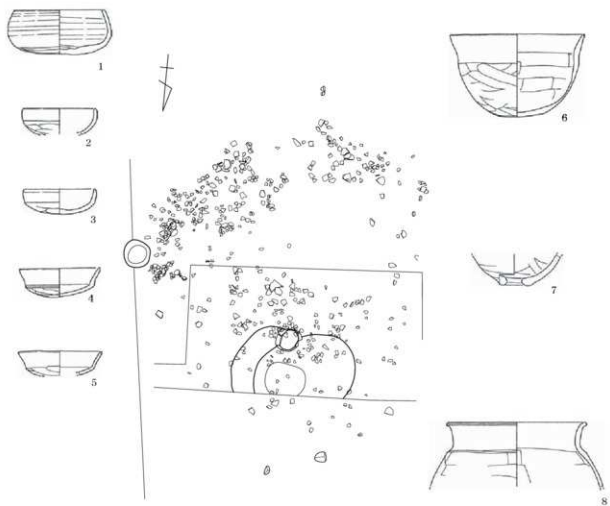
第249図 (5) 9号掘立柱建物跡と土器集中全体図



第250図 (5) 土器集中グループ1 平面図 (S = 1/40) 及び出土遺物

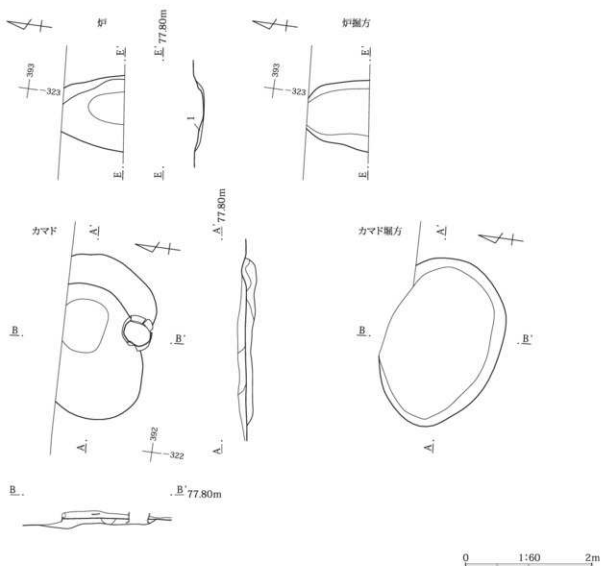


第251図 (5) 土器集中グループ2 平面図 (S=1/40) 及び出土遺物



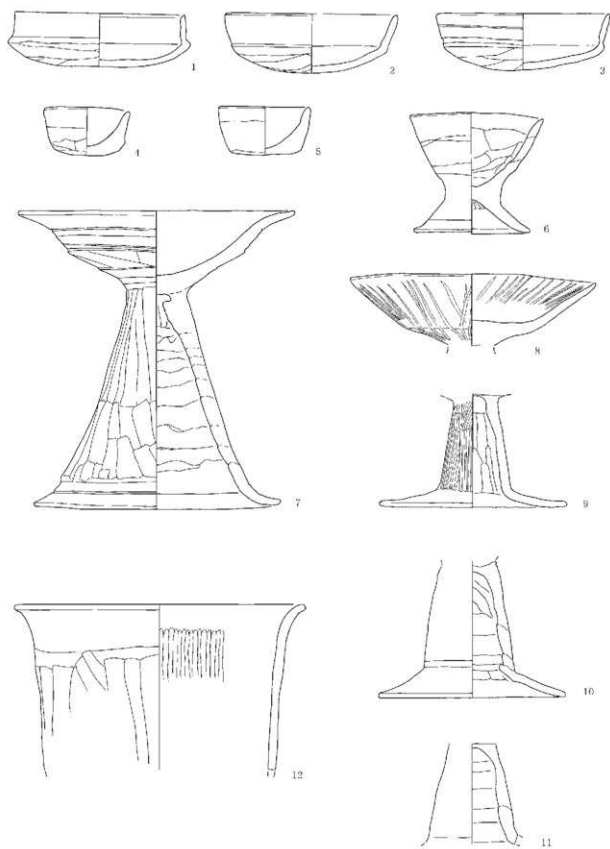
第252図 (5) 土器集中グループ3 平面図及び(S=1/40)出土遺物

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第253図 (5) 土器集中部カマド・炉跡平面図

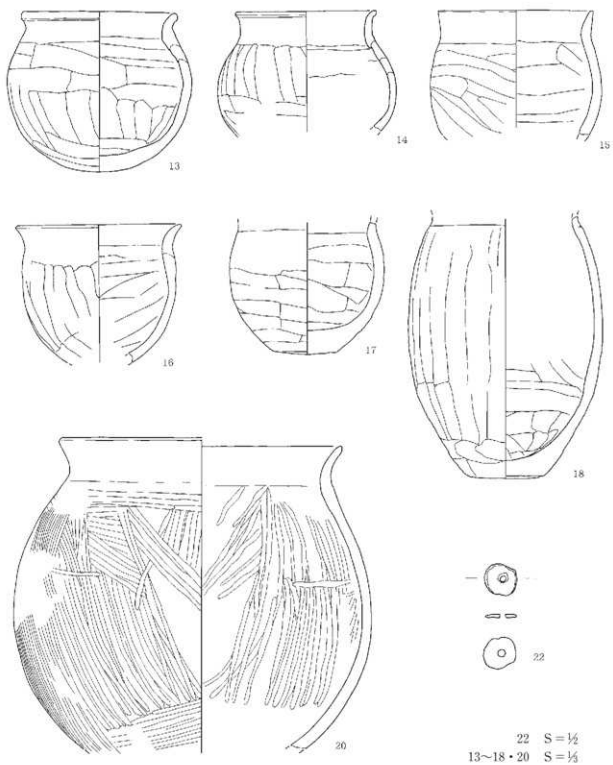
第2節 検出された遺構と遺物



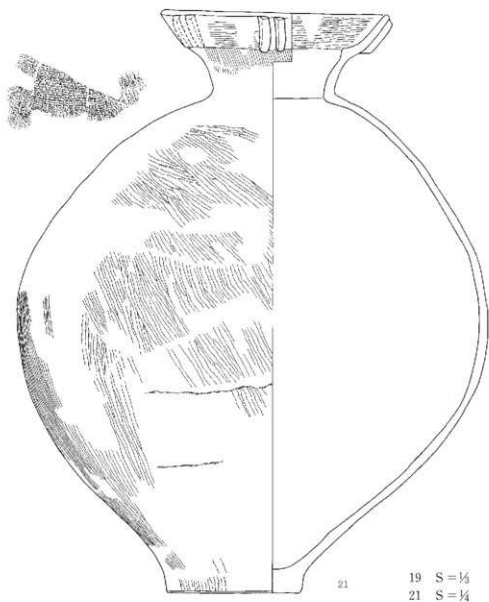
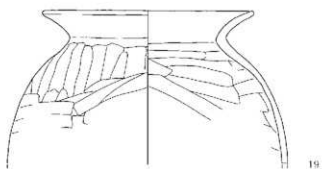
S = 1/4

第254図 (5) 土器集中グループ1 出土遺物(1)

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

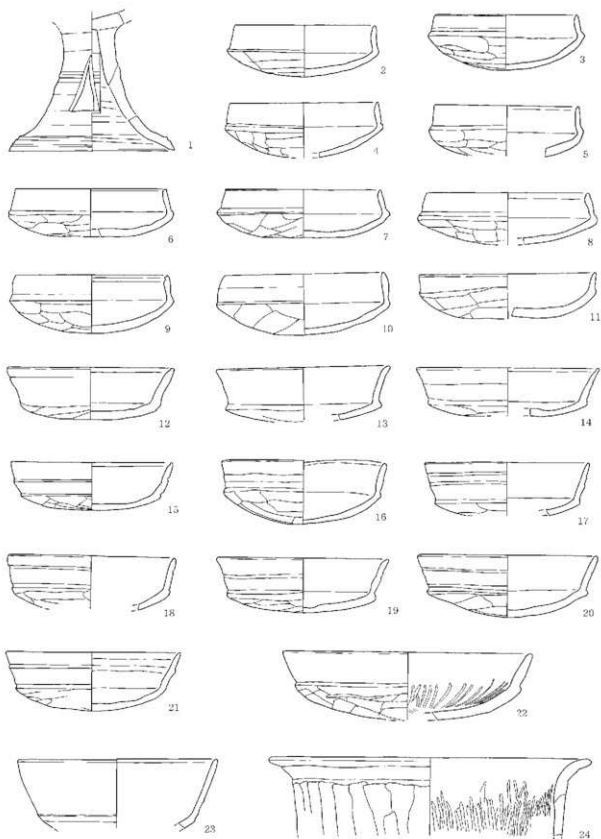


第255図 (5) 土器集中グループ1 出土遺物(2)



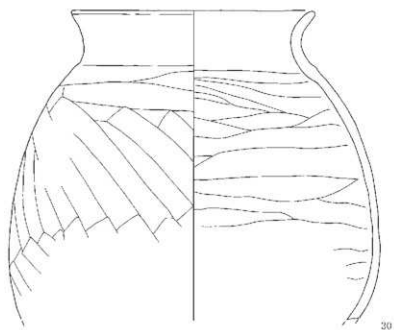
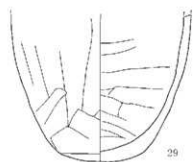
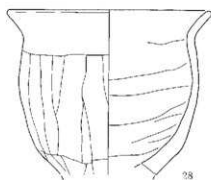
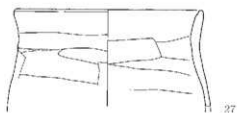
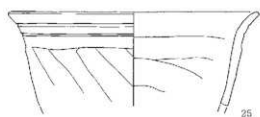
第256図 (5) 土器集中グループ1 出土遺物(3)

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第257図 (5) 土器集中グループ2 出土遺物(1)

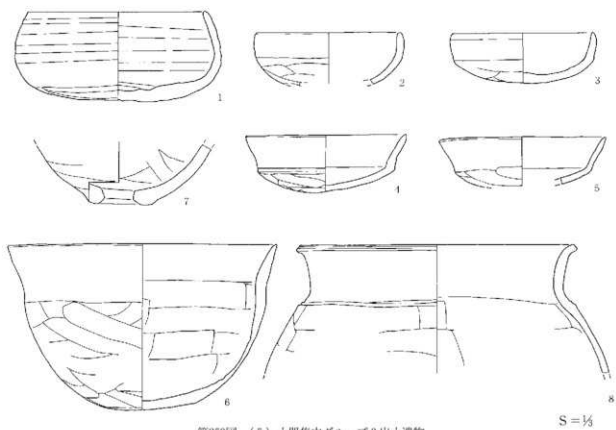
S = ¼



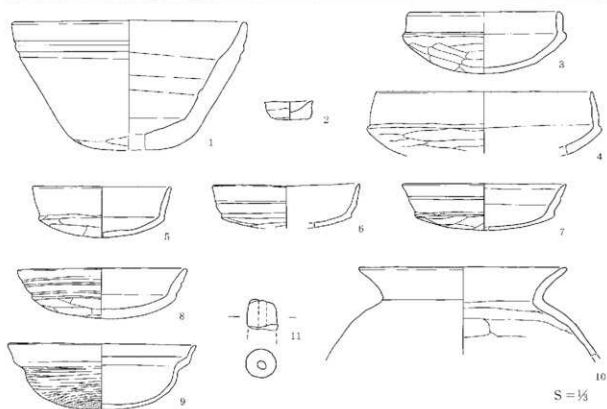
S = 1/4

第258図 (5) 土器集中グループ2 出土遺物②

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物



第259図 (5) 土器集中グループ3出土遺物



第260図 (5) 土器集中出土遺物

表87 (5) 土器集中グループ1 出土遺物観察表 (第254~256図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.145	土師器 杯	1/2		口 13.3 高 4.2 径 14.4	細砂粒/良好/にぶい焼	口縁部横ナデ、(体部) から底部は手持りへう割り。
2 PL.145	土師器 杯	ほぼ完整		口 13.4 高 4.7 径 12.3	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、(体部) から底部は手持りへう割り。内外面漆塗り。
3 PL.145	土師器 杯	ほぼ完整		口 13.5 高 4.5 径 12.7	細砂粒/黄色焼/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、(体部) から底部は手持りへう割り。
4 PL.145	手捏ひ土師 瓶形	2/3		口 6.5 高 3.8 径 5.0	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、体部土手ナデ、下半へう割り、底部へう割り。内面は横ナデ。
5 PL.145	手捏ひ土師 瓶形	口縁部1/3欠損		口 7.0 高 3.9 径 5.5	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部へう割り。内面は横ナデ。
6 PL.145	土師器 高杯	口縁部1/3と 基部1/4欠損		口 10.4 高 9.6 径 8.9	細砂粒/良好/にぶい赤黄	杯唇部に輪積み痕が残る。口縁部と頸部横ナデ、体部から胴部はナデ。杯唇部はナデ。
7 PL.145	土師器 高杯	3/4		口 21.7 高 23.5 径 19.4	細砂粒/良好/黄	胴部内面に輪積み痕が残る。頸部貼付。口縁部と頸部は横ナデ、体部・胴部はへう割り、底部はナデ。内面胴部はナデ。
8 PL.145	土師器 高杯	杯唇部		口 19.3	細砂粒/良好/明赤黄	杯唇と頸部は貼付。杯唇は内外面とも長尺状へう割り。内面底部は前面胴部。
9 PL.145	土師器 高杯	頸部、基部 2/3欠損		径 14.7	細砂粒/良好/黄	胴部へう割り、基部横ナデ。内面胴部ナデ。
10 PL.146	土師器 高杯	頸部、基部 2/4欠損		径 14.6	細砂粒/良好/にぶい赤黄	内面に輪積み痕が残る。頸部はナデ。基部は横ナデ。内面胴部はナデ。
11 PL.146	土師器 高杯	頸部			細砂粒/良好/黄	胴部内面に輪積み痕が残る。頸部はへう割り。器底等縁のため単位不明。内面はナデ。
12 PL.146	土師器 壺	口縁部~胴部 上位		口 21.5×24.2	粗砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部は前面半端で不明。一部へう割きが残る。
13 PL.146	土師器 小型壺	1/2		口 11.9 高 12.6	粗砂粒/良好/にぶい赤黄	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部から底部へう割り。内面胴部はへう割り。
14 PL.146	土師器 小型壺	口縁部~胴部 中位		口 11.0	粗砂粒/良好/にぶい黄	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへう割り。
15 PL.146	土師器 小型壺	口縁部~胴部 上平片		口 12.0	粗砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、基部ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへう割り。
16 PL.146	土師器 小型壺	口縁部~胴部 下位		口 12.8	粗砂粒/良好/にぶい黄	胴部内面に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへう割り。
17 PL.146	土師器 小型壺	基部~胴部・ 頸部		径 4.8	粗砂粒/良好/にぶい黄焼	胴部上位はナデ。中位から底部はへう割り。内面胴部はへう割り。
18 PL.146	土師器 壺	基部~頸部片		径 5.8	粗砂粒/良好/にぶい黄	頸部横ナデ、胴部・基部へう割り。内面胴部はへう割り。
19 PL.146	土師器 壺	口縁部~胴部 上半		口 16.4	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへう割り。
20 PL.146	土師器 壺	口縁部~胴部 下位		口 21.8	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、胴部はへう割り後へう割り。内面胴部はへう割り後へう割り。
21 PL.146	土師器 壺	1/3		口 23.4 高 41.5 径 13.6	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部に2本一對の棒状突起を3箇所貼付。胴部上位上平は5から6段の膨脹痕状文。上位下平から下位へう割り。内面は口縁部上平へう割り。胴部はへう割り。
22 PL.146	石製品 玉	出土 位置		計測値 (cm, g)		備 考
		横径下 径: 1.75 厚: 0.2 孔: 0.35 重量: 0.6				かなり小さい玉で、やや緑な硝子が施される。白玉の薄く剥離したものの再利用か。

表88 (5) 土器集中グループ2 出土遺物観察表 (第257・258図)

検出番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL.146	甕蓋 高杯			径 13.0	細砂粒/微孔引?/暗赤黄	口の整形、回転取り。杯唇部と頸部は貼付。
2 PL.146	土師器 杯	口縁部一部欠損		口 10.9 高 4.2 径 12.0	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、(体部) から底部は手持りへう割り。
3 PL.146	土師器 杯	3/4		口 11.2 高 4.4 径 12.4	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、(体部) から底部は手持りへう割り。

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

経緯番号 図版番号	土器種類 器種	高・位 (改存率)	出土 位置	計測部 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特長
4	土師器 杯	1/4		口 11.6 径 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
5	土師器 杯	口縁部~体部 1/3		口 11.6 径 12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
6	土師器 杯	1/4		口 12.0 径 11.1	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。外面面線盛り。
7	土師器 杯	口縁部淺か、 底部2/3	高 3.8	口 12.2 径 13.6	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
8 PL-146	土師器 杯	1/4		口 12.6 径 14.8	細砂粒/良好/褐色	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
9 PL-146	土師器 杯	4/5	高 4.5	口 12.0 径 13.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。口唇部は平出眼を存し。凹線が2本走る。
10 PL-146	土師器 杯	ほぼ完整	高 4.8	口 12.5 径 14.7	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
11 PL-146	土師器 杯	1/2	高 3.7	口 12.7 径 14.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
12 PL-146	土師器 杯	3/4		口 12.8 径 11.0	細砂粒/良好/灰褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
13 PL-147	土師器 杯	1/2		口 12.4 径 12.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。底部(横下)から底部は手持ちへう割り。
14 PL-147	土師器 杯	1/3	高 3.8	口 14.2 径 12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
15 PL-147	土師器 杯	2/3	高 3.7	口 12.6 径 10.7	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面線盛り。
16 PL-147	土師器 杯	ほぼ完整	高 5.1	口 12.8 径 12.4	粗砂粒/良好/明褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
17	土師器 杯	口縁部~体部 1/4		口 12.8 径 11.4	細砂粒/良好/褐色	内面着色処理。口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
18	土師器 杯	口縁部~体部 1/4		口 12.1 径 12.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。口縁部に凹線が走る。
19 PL-147	土師器 杯	3/4	高 4.3	口 13.4 径 11.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
20 PL-147	土師器 杯	1/3	高 3.0	口 13.0 径 12.8	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。口縁部に凹線が走る。
21 PL-147	土師器 杯	2/3	高 4.7	口 12.9 径 11.3	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部上半ナデ。下半から底部は手持ちへう割り。内外面線盛り。
22 PL-147	土師器 杯	2/3		口 19.4 径 18.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面底部に放射状へう割り。内外面線盛り。
23 PL-147	土師器 杯	口縁部片		口 15.4	粗砂粒/良好/暗赤褐	口縁部横ナデ。体部(横下)へう割り。
24 PL-147	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片		口 25.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐	胴部外面に輪模みねが残る。口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへう割り。
25 PL-147	土師器 鉢	口縁部~体部 1/3		口 19.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ。体部へう割り。内面体部はへうナデ。
26	土師器 甕	底部片	径 10.2		細砂粒/良好/明褐	外面へう割り。内面へうナデ。
27 PL-147	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片		口 14.3×15.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
28	土師器 小型壺	口縁部~胴部 下位片		口 15.9	粗砂粒/良好/暗赤褐	口縁部から胴部は横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
29	土師器 壺	底部~胴部下 位	径 6.2		粗砂粒/良好/にぶい橙	胴部下位から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
30 PL-147	土師器 壺	口縁部~胴部 下位		口 18.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。

表89 (5) 土器集中グループ3 出土遺物観察表 (第259図)

検出番号 図版番号	土器類別 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-147	深部附 鉢	3/4		口 13.8 高 7.1 底 12.5	細砂粒/還元焼/灰	口クロ整形、回転石回り。底部は手持ちへう割り、両面に強いナデ。
2 PL-147	土師器 杯	1/3		口 11.2	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、体部上ナデ。下平から底部は手持ちへう割り。
3 PL-147	土師器 杯	2/3		口 11.1 高 3.9 横 11.1	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
4 PL-147	土師器 杯	1/2		口 12.4 高 4.7 横 16.8	細砂粒/やや軟質/にぶい 焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
5 PL-147	土師器 杯	2/3		口 13.0 横 16.6	細砂粒/やや軟質/焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
6 PL-147	土師器 鉢	体部下平・底 部一部欠損		口 21.2 高 13.1 底 7.6	細砂粒/褐色粒/良好/に ぶい焼	胴部下位から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
7	土師器 壺	底部片		底 4.4 孔 3.4	細砂粒/良好/にぶい黄焼	胴部下位から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
8 PL-147	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片		口 21.6	細砂粒/良好/焼	口縁部横ナデ、胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。

表90 (5) 土器集中 出土遺物観察表 (第260図)

検出番号 図版番号	土器類別 器種	高さ (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-147	深部附 鉢	4/5		口 18.3 高 10.3	細砂粒・粗砂粒/還元焼/ 灰	口クロ整形、回転石回り。体部は6キ目。底部は手持ちへう割り。
2	手捏ね土器 瓶形 分文欠損	口縁部の大部 分を欠損		口 4.2 高 1.4 底 2.7×3.1	細砂粒/良好/明赤焼	内外面ともナデ。
3 PL-147	土師器 杯	1/4		口 11.6 高 4.9 横 13.0	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、体部(横下)上平はナデ。下平から底部は手持ちへう割り。
4	土師器 杯	口縁部~体部 1/4		口 17.0 横 17.6	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗りか。
5	土師器 杯	1/4		口 10.8 横 10.0	細砂粒/良好/焼	口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
6 PL-147	土師器 杯	1/2		口 11.5 横 10.4	細砂粒/良好/浅黄焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
7	土師器 杯	1/4		口 12.8 横 10.0	細砂粒/良好/にぶい焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内外面漆塗りか。口縁部 に凹線が走る。
8 PL-147	土師器 杯	2/3		口 15.2 高 4.3 横 11.3	細砂粒/良好/にぶい黄焼	口縁部横ナデ、体部(横下)から底部は手持ちへう割り。
9 PL-147	土師器 杯	1/2		口 14.8 高 5.2	微砂粒/良好/明赤焼	口縁部横ナデ、体部から底部はへう割り。
10	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片		口 16.2	細砂粒/良好/明焼	口縁部横ナデ、胴部へう割り。断面準圓のため単位不明。内面胴部はへうナデ。
検出番号 図版番号	検出 機種	出土 位置	計 測 値 (cm, g)			備 考
11 PL-147	土師器 土師		深:1.6 孔:0.4 重量:3.5	胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:にぶい黄色		外面ナデ。

5. 畠

本調査で検出された古墳時代の畠遺構は、古墳の墳丘下に検出された遺構と、西野原遺跡(5)の調査区南側に検出された遺構とがある。墳丘下に検出された為、畠の広がりは墳丘範囲に止まっており、全体を捉えることはできなかった。また、1号墳墳丘下では畠と集石遺構および土器集中が、7号墳墳丘下では畠と土器集中等が検出されており、古墳築造以前の土地利用の姿を垣間見ることのできる良例と言えよう。

以下、各畠ごとに記載する。

(5) 1号畠(第261・262図、PL.51・52・53)

位置(座標): X軸=38.397~415、Y軸=-45.348~366。

本畠は、調査区の北側に位置する7号墳の墳丘下に検出された遺構である。墳丘下での検出であることからその範囲は限られ、墳丘下の南西半部に主体をもつ。古墳の築造に絡んで、石室部は畠を掘り込んで石室堀方を地形しているため、その部分の畠は壊されている。東側の畠が分布しない区域では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された。

石室堀方を挟んで12列の溝状の畝間(サク)が並ぶ。走向はN-42°-Wを示す。調査区西壁付近では、さほど風化の見られない良好な遺存状況の畝が確認されている。調査行程上、畝の上面をこの部分でしか認識できなかったが、本来は全体に良好な畠跡が残されていたと考えられる。調査区西壁の土層観察からは、畝の直上に古墳の墳丘盛土が堆積していることが確認でき、畝間の埋土もローム小ブロックを含んだ暗褐色土(黄灰色土)で、墳丘の盛土である。良好な畝の状況、畝直上の堆積土、畝間の埋没土から、畠の耕作終了から古墳築造が行われるまでに長い時間を経っていないことが窺われる。

畠は、畝の幅50cm前後、高さ12cm、畝間の芯々間距離はおおよそ110cm~130cmを測り、畝間列の長さは20mを測る。また、溝状となる畝間の基底面には、

鋤先痕と思われる半月形の農具痕跡が明瞭に残存している。

(5) 2号畠(第262図、PL.53)

位置(座標): X軸=38.397~415、Y軸=-45.348~366。

本畠は、先の1号畠と同じ7号墳の墳丘下部で確認された遺構である。1号畠の調査時に、1号畠の耕作土を除去した際に検出された。1号畠の畝間の中間に同じ走向、間隔の平行する溝状の畝間列として確認された。この畝間列は、1号畠の畝の下に位置することから、1号畠跡に先行する畠であることが明らかである。畝間の埋土は軽石粒子を含む黒褐色土(暗灰色土)であり、先の1号畠での墳丘盛土とは異なる。

検出された畝間溝は12条、確認面からの深さは16cmほどで、畝間の芯々間距離1.1m前後を測り、ほぼ一定で1号畠と同様である。畝間列の長さは20mを測る。また、溝状となる畝間の基底面には、1号畠と同様に、鋤先痕と思われる半月形の農具痕跡が明瞭に残存している。

なお、7号墳の墳丘下から検出された1・2号畠の土壌分析の結果、植物珪酸体の産状は、ネズミ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科なども認められている。一方、畠の耕作土中からは栽培植物であるイネ属も認められ、上位で出現率が高くなる。葉部に形成されるイネ属短細胞列もわずかに見られる。他に、栽培植物であるキビを含む分類群のキビ属、オオムギやコムギなどを含む分類群のオオムギ族も検出されている。

(5) 3号畠(第263図、PL.53)

位置(座標): X軸=38.355~365、Y軸=-45.285~291。

本畠跡は調査区の中央より北東寄りに位置する4号墳の墳丘下に検出された遺構である。墳丘下での

検出であることからその範囲は限られ、墳丘下の北半に僅かに溝状の畝間列を確認した。

確認面から畝間の基底面までは浅く、その走行は北東方向を向き、確認できた畝間列は7条で、畝間間の芯々間距離は0.9～1.2mを測る。

同一古墳の墳丘下で検出された4・5号畝の上面で検出され、4・5号畝の畝間の走向とも異なることから、4・5号畝とは異なる畝で、4・5号畝よりも後出の畝と考えられる。

(5) 4号畝 (第263・264図、PL.53)

位置(座標): X軸=38.353～360、Y軸=-45.285～291。

方向: 西北西。

本畝跡は調査区の中央よりやや北東寄りに位置する4号墳の墳丘下で検出された遺構である。墳丘下での検出であることからその範囲は限られ、墳丘下の石室堀方の西側に、本畝と交差する5号畝と共に溝状の畝間列を確認した。

交差する5号畝とは、埋土等から、本畝が5号畝に先行する畝であることが明らかとなっている。

検出された溝状の畝間列は6条で、走向はN-68°-Wを向く。確認面から畝間の基底面までの深さは8cm、畝間間の芯々間距離は0.9～1.2mを測る。畝間の埋土は、軽石粒子を多く含む黒褐色土である。

(5) 5号畝 (第263・264図、PL.53・54)

位置(座標): X軸=38.353～361、Y軸=-45.285～291。

本畝跡は調査区の中央よりやや北東寄りに位置する4号墳の墳丘下で検出された遺構である。墳丘下での検出であることからその範囲は限られ、墳丘下の石室堀方の西側に、本畝と交差する4号畝と共に溝状の畝間列を確認した。

交差する4号畝とは、埋土等から、本畝が4号畝に後出する畝であることが明らかとなっている。

検出された溝状の畝間列は6条で、走向はN-39°-Wを向く。確認面から畝間の基底面までの深さは

9cm、畝間間の芯々間距離は0.9～1.2mを測る。畝間の埋土は、軽石粒子を多く含む黄褐色土である。

なお、4号墳の墳丘下から検出された4・5号畝の土壌分析の結果、植物珪酸体の産状は、1・2号畝と同様にネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められている。また、イネ属やオオムギ族もわずかに検出されている。

(5) 6号畝 (第265図、PL.54)

位置(座標): X軸=38.452～465、Y軸=-45.351～357。

本畝は、調査区の北端に位置する9号墳の墳丘下で検出された遺構である。墳丘下での検出であることからその範囲は限られ、墳丘下の東半に主体をもつ。

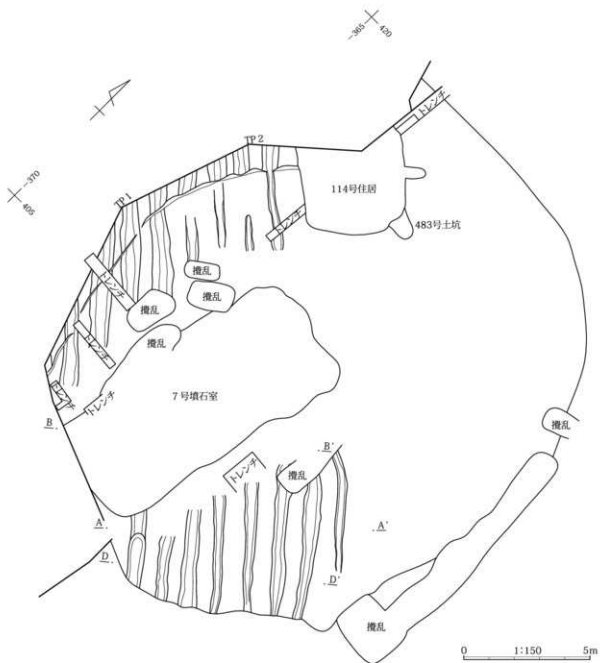
検出された溝状の畝間列は9条で、走向は北東方向を向く。確認面から畝間の基底面までの深さは8cm、畝間間の芯々間距離は0.9～1.4mを測る。畝間の埋土は、黒褐色土である。

土壌分析の結果、植物珪酸体の産状は、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つが、栽培植物や栽培種を含む分類群に由来する植物珪酸体は全く認められていない。

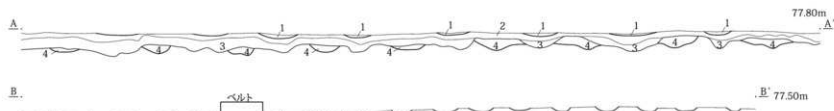
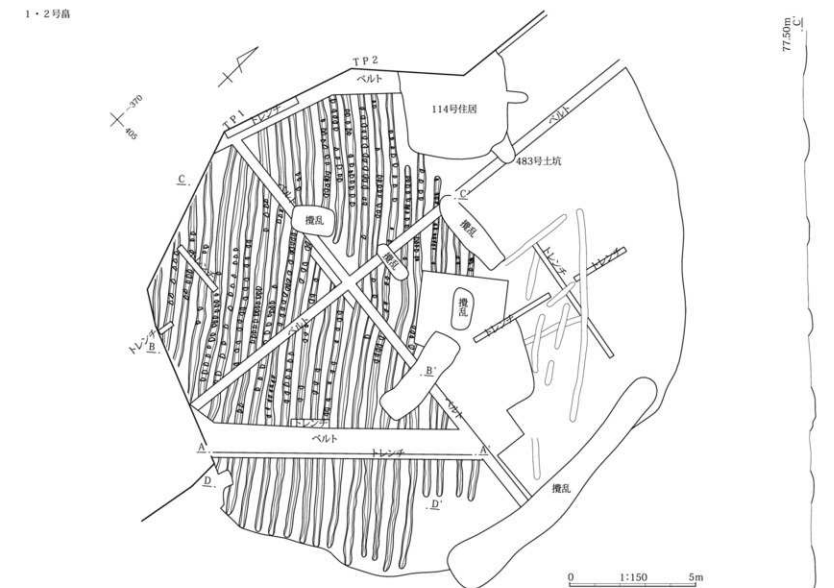
(5) 7号畝 (第266図、PL.54)

位置(座標): X軸=38.386～401、Y軸=-45.308～321。

本畝は、調査区の北側に位置する1号墳の墳丘下で検出された遺構である。墳丘下での検出であることからその範囲は限られ、墳丘下の北側から東側にかけて主体をもつ。また、本畝の上面には、幅約2m、長さ5mほどの長方形の範囲に拳大の礫が平らに敷き並べられた1号集石遺構が築かれている。さらに、古墳の築造に絡んで、石室部は本畝と1号集石遺構を掘り込んで石室堀方を地形しているため、その重複した部分は壊されている。なお、南西側の畑が分布しない区域では、掘立柱建物跡や土器集中

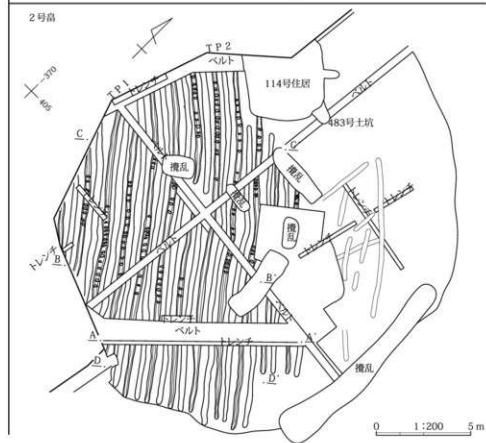
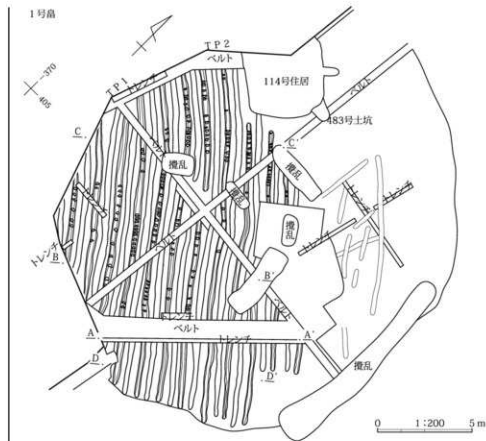


第261図 (5) 1号墓上面平面図

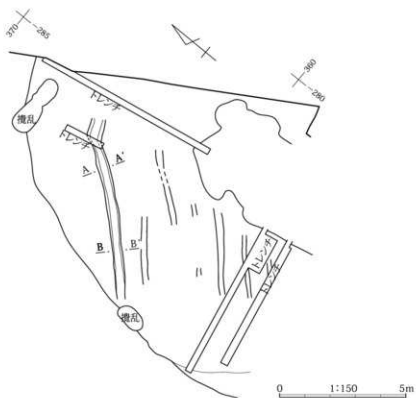


- 1 黄褐色土 ロームの再堆積であり、7号古墳の墳丘盛土。
- 2 黒褐色土 暗褐色のブロック、軽石粒子を含む、1畠の耕作土。
- 3 黒色土 軽石粒子を含み、下部にロームブロックを含む、1畠の耕作土。
- 4 暗褐色土 軽石粒子を含む、2畠の耕作土。

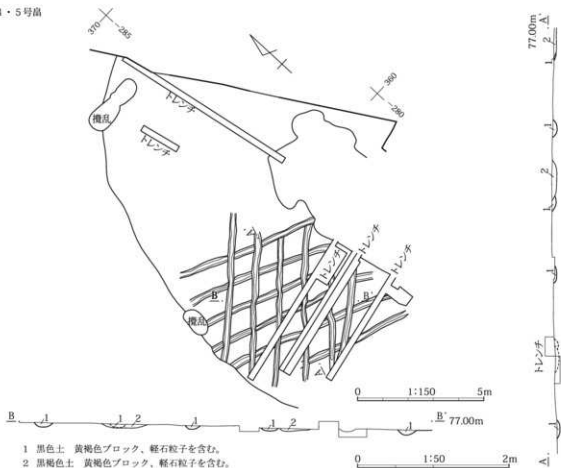
第262図 (5) 1・2号畠平面図



3号畠



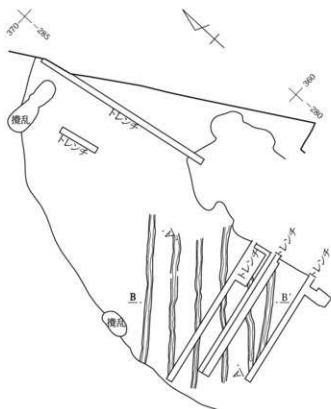
4・5号畠



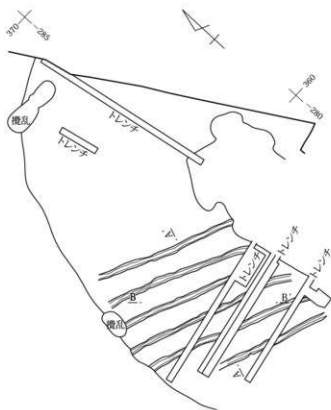
第263図 (5) 3・4・5号畠平面図(1)

第4章 古墳時代後半の遺構と遺物

4号墓

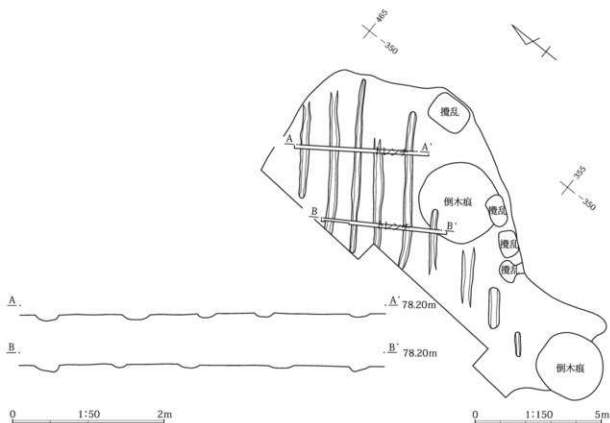


5号墓



0 1:150 5m

第264図 (5) 4・5号墓平面図(2)



第265図 (5) 6号島平面図

等が検出されている。

検出された溝状の畝間列は17条で、確認面から畝間の基底面までの深さは9cm程である。畝間の走向をみると、北東方向を向く列と、北北東を向く列があると共に、両方が合流する列など、走向に違いがみられる。さらに、畝間間の芯々間距離もかなりまちまちで、その単位が判然としない。複数期の時期差によるものと思われるが、単位の区分はできなかった。は0.9~1.2mを測る。畝間の埋土は、軽石粒子を多く含む黒褐色土ないしは暗褐色土である。

土壌分析の結果、植物珪酸体の産状は、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、イネ属とキビ属もわずかに認められている。イネ属には、葉部に形成されるイネ属短細胞もわずかに検出されている。

(5) 9号島 (第267図、P.L54)

位置(座標)：X軸=38.386~401、Y軸=-45.308~321。

本島は調査区の南部に位置し、畝間は浅く、痕跡程度の状況である。7号掘立柱建物および土抗(中世以降)と重複するが、本島の方が古い。

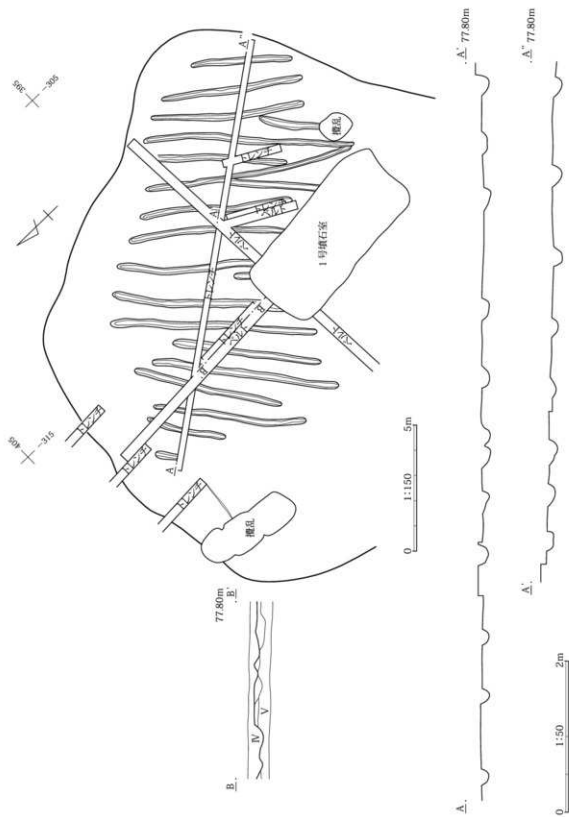
検出された溝状の畝間列は10条で、走行は北西方向を向く。畝間間の芯々間距離は1.0~1.5mを測る。

(5) 10号島跡 (第267図、P.L54)

位置(座標)：X軸=38.266~270、Y軸=-45.285~290。

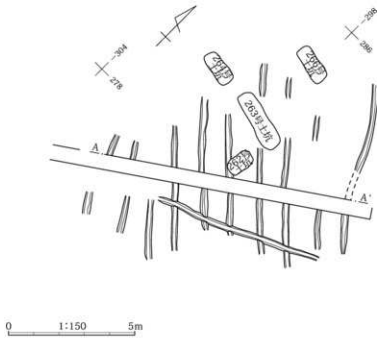
本島は調査区の南部に位置し、畝間は浅く、痕跡程度の状況である。129号住居跡(7世紀後半)と重複するが、本島の方が古い。

検出された溝状の畝間列は3条で、走行は北東方向を向く。畝間間の芯々間距離は1.25~1.30mを測る。

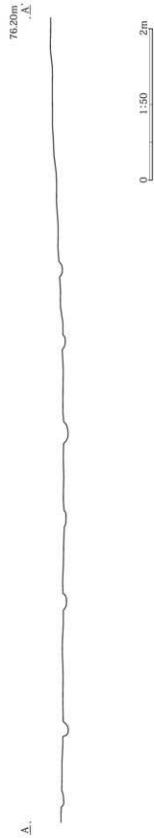
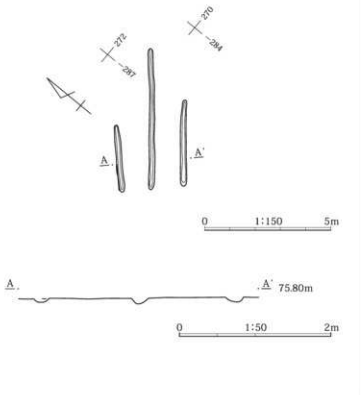


第266図 (5) 7号墳平面図

9号畝



10号畝



第267图 (5) 9・10号畝平面图

第5章 古墳群

第1節 古墳群の概要

1. 周辺の古墳群

昭和13(1938)年に刊行された『上毛古墳総覧』には、旧藪塚本町域に所在が確認出来る古墳として121基が収録されている。その後、平成3(1991)年に刊行された『藪塚本町誌』編纂に関わる分布調査で、『上毛古墳総覧』収録外の古墳として新たに14基の古墳が確認されたが、町誌編纂時の調査で確認できた旧町域内の古墳は55基に過ぎず、『上毛古墳総覧』以降、昭和末年までの間に半数以上の古墳が何らかの形で破壊され消滅したことになる。

町誌編纂段階で確認された古墳55基のうち、本遺跡の一角を占める「西野の古墳群」以外は、湯之入、滝之入の両谷周辺の八王子丘陵西尾根上及びそこから延びる緩傾斜地に造営されたもので、圧倒的に円墳が多く、規模は径5～20mくらいと小型のものが多く。

湯之入と滝之入の谷に挟まれた八王子丘陵西尾根の先端部に立地する西山古墳は、全長34mの前方後円墳で、尾根先端部の高所に位置し、周辺の尾根上に展開する数十基の古墳群の主墳的性格を有すると考えられている。横穴式石室で、墳丘裾部に円筒埴輪配列の痕跡が認められ、町誌では6世紀末～7世紀初頭の年代観が示されている。同じく、湯之入の尾根の奥の標高135mの地点に立地する北山古墳は、径22mの横穴式石室を有する円墳である。埴輪の配列は現状では全く確認できず、町誌では6世紀終末から7世紀初頭頃の年代観が示されている。また、湯之入と滝之入の谷に挟まれた南西方向に延びる尾根の末端に位置する向山古墳は、山寄せ古墳としての形状をとどめており、横穴式石室を有する径約23mの円墳とみられる。埴輪の配列はなく、石室は後世に大きく破壊されているが、太刀、刀子、鉄鏃、

鏝、金環など豊富な遺物が出土している。出土遺物から下限は7世紀前半と考えられている。

さらに、同じ八王子丘陵の南側には西長岡東山古墳群、菅塩西山古墳群、菅塩山崎古墳群、北金井御嶽山古墳群、成塚向山古墳群、大鷲大平古墳群といった多くの古墳群が点在する。特に、成塚向山古墳群の1号墳は4世紀末の方墳であることが知られている。

本遺跡周辺で最大規模を有するのは、本遺跡の南、1.3kmに位置する太田市新田天良町の二ツ山古墳群の二つの前方後円墳(1号一全長74m、高さ6m、2号一全長45m、高さ6m)で、6世紀後半以降の築造である。この二ツ山古墳群の南西となる旧新田町域にも、古墳群が多く点在することが周知されている。同様に、本遺跡の南側には西長岡横塚古墳群、成塚古墳群等がある。

2. 本遺跡の古墳群

本古墳群は、大間々扇状地の扇央部南東縁で、標高約76m前後の台地端に位置する。八王子丘陵は、本遺跡の東側に、沖積低地帯を挟んで位置する。

『上毛古墳総覧』に記載された「西野」に所在する古墳は、藪塚本町第80～120号までの40基である。この「西野」所在の一角が本調査の対象となり、第268図に示したように、調査対象地内に第103・109・112・113・115・116・120号と『上毛古墳総覧』に記載された古墳が所在する。ちなみに、『上毛古墳総覧』では、次のような記載がある。

- 第103号 …… 不詳
- 第104号 …… 円型、大サ25尺、高サ6尺
- 第105号 …… 不詳
- 第106号 …… 円型、大サ25尺、高サ9尺

- 第107号 …… 不詳
 第108号 …… 円型、大サ28尺、高サ9尺
 第109号 …… 大サ32尺
 第112号 …… 不詳
 第113号 …… 不詳
 第115号 …… 不詳
 第116号 …… 不詳
 第120号 …… 不詳

さらに、同図に示した、町誌編纂時の調査で確認できた古墳4基が、調査の対象となる古墳(計16基)として想定されていた。

各古墳の個別調査に先立ち、調査前の現況を図化したのが第269図である。この現況図から解るように、その片鱗を窺えることのできる古墳は、「上毛古墳総覧」第107・109・115・116号の4基と、町誌編纂時に追加となった2基の古墳である。この中でも、第107号の残りがろうじて良く、墳丘中央部が盛り上がるようにあり、その頂部には石室の一部が露呈した状態にあった。他は、墳丘の高まりを僅かに残すのみであった。西野原遺跡(7)―1区に想定されていた「上毛古墳総覧」第103～106・108号の古墳については、全くその片鱗をみることはできなかった。この状況は、東武鉄道を挟んだ西側の西野原遺跡(5)は、耕地整備の行われていない畑地であり、東側の西野原遺跡(7)―1区は耕地整備の済んだ水田地であったことに起因し、削平されたことによると思われる。

各古墳の個別調査にあたっては、「上毛古墳総覧」の古墳番号とは別に、西野原遺跡(5)・(7)を通じての通し番号とし、新たに1・2・3・・・号墳の名称を付した。

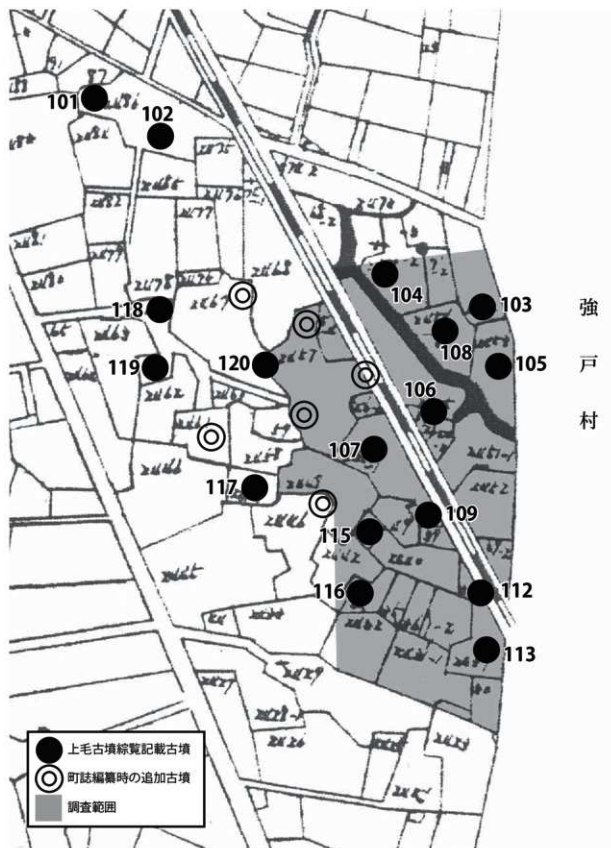
古墳の調査の結果、第270図の全体図に示した通りで、1～15号墳までの15基の古墳を調査した。その結果、「上毛古墳総覧」および町誌編纂時の追加古墳を確認できた古墳と、確認できなかった古墳が明ら

かとなった。調査した古墳と周知の古墳との対応は、次の通りである。

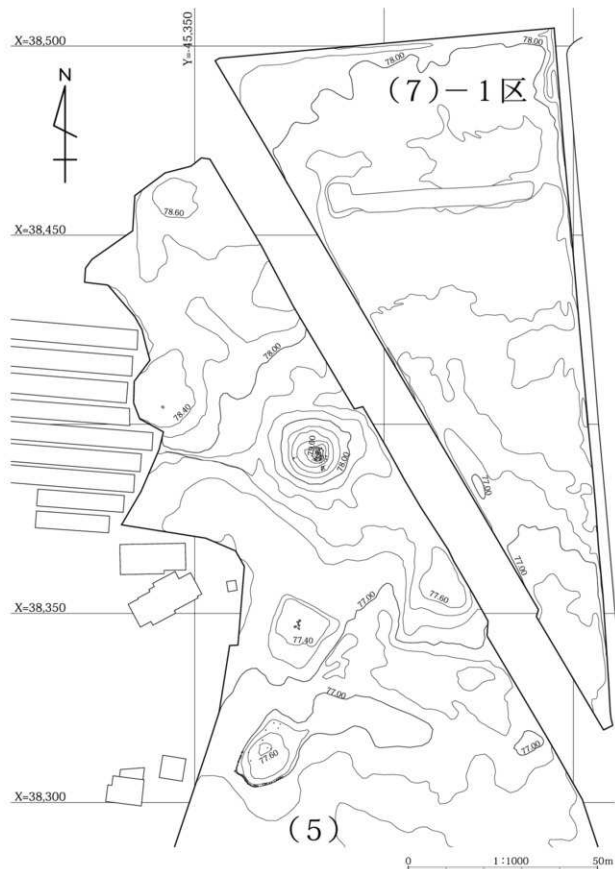
- 1号墳……「上毛古墳総覧」第107号
 2号墳……「上毛古墳総覧」第115号
 3号墳……「上毛古墳総覧」第116号
 4号墳……「上毛古墳総覧」第109号
 5号墳……「上毛古墳総覧」第112号
 6号墳
 7号墳……町誌編纂時の追加古墳
 8号墳……町誌編纂時の追加古墳
 9号墳……町誌編纂時の追加古墳
 10号墳……「上毛古墳総覧」第120号
 11号墳
 12号墳……町誌編纂時の追加古墳
 13号墳
 14号墳……「上毛古墳総覧」第106号
 15号墳

上記の対応からも解るように、「上毛古墳総覧」第103・104・105・108・113号の5基の古墳については、想定された位置には検出されていない。しかし、「上毛古墳総覧」第104号は本調査の6号墳の可能性があり、「上毛古墳総覧」第105号ないし第108号は本調査の15号墳の可能性が高い。

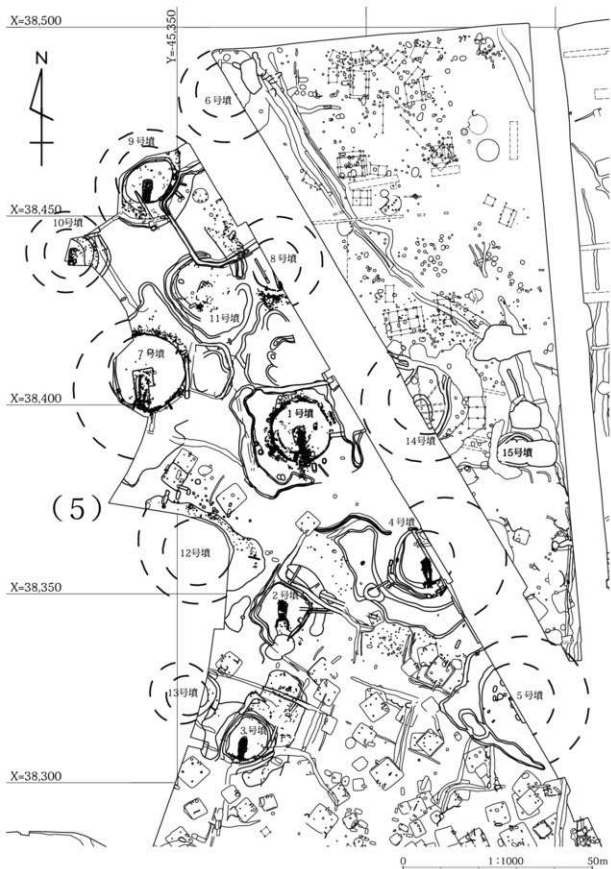
なお、「上毛古墳総覧」第103・113号の2基の古墳については、対応する古墳はみつからなかった。また、第270図の11・13号墳については、「上毛古墳総覧」および町誌編纂時の調査でも認知されておらず、本調査で新たに解った古墳である。



第268図 「上毛古墳総覧」および叡塚本町町誌編纂時の周知の古墳（耕地図（文書館所蔵）「叡塚本町」を使用）



第269図 西野原遺跡(5)(7)調査前古墳現況図 (S=1/1000)



第270図 西野原遺跡(5) (7) 調査古墳全体図

第2節 検出された遺構と遺物

本調査で検出された古墳は、「西野古墳群」と称される古墳群の南側の一角で、15基の古墳が調査対象となった。各古墳の残存状況は、全体に良くない。その中でも、最も良い状態にあったのが1号墳である。基壇、墳丘の一部および前庭、石室を残す円墳で、周堀が方形様を呈する。多くの古墳の墳丘が削平されている中、2号墳のように、土地(畠)の区画に作用されて円墳が方形に変形している例もある。

一方、石室の残存する古墳では、ほとんどの石室の中軸が南北方向を向き、南側に開口する。また、石室の部材には、近接する八王子丘陵地帯で産出する石材で、凝灰岩質の軟質な割石が組み合わされて使用されている。

墳丘を取り巻く周堀の状況は、全体に明瞭さを欠き、各古墳共に一律ではない。特に、古墳が密接する7号墳、11号墳、8号墳では、伴う周堀のプランが判然としない。

以下、各遺構ごとに記載する。

1号墳 (第271～277・330～332図、表91・99、PL.57～63・148)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高78m付近、本調査区の中央部よりやや北側に位置し、東側に14号墳、北西側に8号墳、11号墳、7号墳が近接する。調査前の現況は、主体部を頂点に周囲より高く盛り上がり、石室の一部が露出していた。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」藪塚本町第107号墳に相当する。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第271図)

葦石の基底部分における墳丘規模は、主軸方向で16.3m、主軸直交方向で15.8m、周堀を含めた東西長は38.0mを測る円墳である。墳丘の中心は、横穴式石室の奥壁の位置となる。墳丘は、基壇部分と墳

丘部との2段築成になっており、基壇・墳丘ともに側面には外表施設として葦石が巡る。

なお、後述の周堀形状が方形様を呈するもの、所謂「上円下方墳」とは異なる墳形であると思われる。

(2) 周堀 (第271図)

周堀の東側は調査区外となっており、周堀の北側は攪乱によって壊されている。周堀形態は、外形が方形様を呈し、南東部が1箇所途切れる。掘り込みは全体にあまい。周堀の確認面での規模は、最も幅の広い部分で上幅5.8m、下幅4.4m、深さ0.7mを測り、最も狭い部分で上幅1.8m、下幅0.6m、深さ0.2mを測る。両壁とも緩やかに立ち上がる形状である。

埋土は、As-C 軽石および Hr-FP を含んだ黒褐色土がベースで、上層に As-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況

周堀内からは、土器の小片が僅かに出土しているのみである。

(4) 葦石 (第273図)

葦石は、平面的には二重の環状を呈する。

基壇となる外縁の葦石(以下、基壇葦石)の外環径は16.6mを測るが、精美な円形を呈していない。特に、北西部と東部では、同心円上から約50cmほど内側に入り込む等、直線的になっている部分が見られる。この基壇葦石は残存状況は良く、東部で一部途切れているが、その両端部は前庭の翼壇と連結し、ほぼ全周する。垂直高84cm、原位置6～7段の石積みを確認された。葦石の石材は、一辺10～20cmほどの拳大の円礫を主に用い、部分的に大振りな円礫を平積みしている。また、基底石は、一辺28～56cmのかなり大振りな石を平置きにしている。

内側となる墳丘の葦石(以下、墳丘葦石)は、残存状況が悪く、西部で基底の一部が検出されたのみで、2段目までの石積みを確認している。石材は、一辺20～48cmの大振りな円礫を平置きにしている。

第5章 古墳群

なお、基壇基石・墳丘葺石共に、径の中心は石室奥壁の位置となる。

3. 前庭

(1) 概要 (第274図)

前庭の平面形は、南側が開く台形を呈する。前庭の中軸の長さは、2.00mを測る。各部位の計測値は、前垣幅1.90m（西側前垣幅0.50m、東側前垣幅0.50m、前垣高1.05m）、西側翼垣長2.05m、東側翼垣長2.10m、翼垣高0.90m、前庭の先端幅3.35mを測る。前庭開口度は、西側開口度が100度、東側開口度が105度である。

なお、調査当初の段階では、葺石と思われる多くの石が、この前庭に崩落している状態が確認されている。

(2) 前庭部における遺物出土状況

出土した遺物には、鉄鍔が3点、刀装具1点（第332図44）があり、いずれも床面直上から出土している。

(3) 前庭の石積壁 (第274図)

石積みの残存状況は、全体としては良好である。石材の大きさや積み方は、前垣と翼垣では若干異なる。前垣では、一辺5～20cm程度の比較的小振りな拳大の円礫を多用し、7～9段を積み上げている。翼垣では、基底石に一辺20～70cmの大振りの円礫を平置きし、2段目以上は一辺15～30cmのやや大振りの円礫を小口積みしており、最高で8段目までを確認している。

石積みの高さについては、残存状況が良好で、前垣と翼垣の接点で高さ0.90mを測る。翼垣はこの接点を最高点とし、南に向かうに従い、高さを減じていき、翼垣の先端部において基壇葺石と連結する。

4. 石室

(1) 概要 (第275図)

石室は、両袖型横穴式石室である。石室全長は5.83m、玄室長は主軸位置で3.30m、玄室幅は中央位置で1.55m、玄室壁の最高残存値は1.66mを測る。

また、羨道長は主軸位置で2.53m、羨道幅は中央位置で0.82m、羨道壁の最高残存値は0.91mを測る（詳細計測値は後述）。

残存状況は、床面は玄室、羨道いずれも比較的良好である。玄室の側壁は、西側壁の方が残存状態は良く、羨道の側壁は、東側壁の方が残存状態は良い。また、閉塞石も残存していた。

(2) 羨道部の閉塞状況 (第274図)

羨道部の閉塞は、羨門位置に直径30～60cmのかなり大型な垂円礫と、直径15cm以下の垂円礫を主体にランダムに積み上げられている。閉塞は、この羨門位置のみであり、羨道部内への閉塞は確認されなかった。

(3) 石室内における遺物出土状況 (第276図)

玄室内からは、北側半分の床面上から集中的に遺物が出土しており、遺物には多量の鉄鍔、大刀、小刀、刀子、刀装具の鞘金具、留具、鷲目金具等の金属・金銅製品、弓飾りの両頭金具（金銅製品）等があり、さらには被葬された人骨も出土している。

玄室奥壁際からは第331図40の小刀と鉄鍔が、玄室中央奥壁寄りには第331図39の大刀と第332図41の刀子、刀装具類が出土している。また、刀装具については、玄室中央や玄室南側からも出土している。さらに、多量に出土した鉄鍔は、玄室内の奥壁および両側壁寄りに出土している。

一方、被葬された人骨の出土状態は、玄室の北半に顕著に検出され、大腿骨や骨片等が幾つものブロック状に散乱したような状態にあり、1箇所に集中した状態にはなかった。この状態は、盗掘等によるものかとも思われたが、遺物の残存状況からして盗掘の可能性は考えづらく、複数回の追葬による結果である可能性が想定された。後述する人骨の鑑定結果において、出土歯の重複歯種の下顎第1大臼歯でみると、成人5個体と未成年1個体の合計6個体が推定された。さらに、下顎第1大臼歯の歯冠計測値比較および咬耗度の観察から、20歳代男性2体、30歳代男性2体、30歳代女性1体、そして乳幼児1体であることが判明した。

羨道内からは、遺物の出土はなかった。

(4) 石室床面の状況 (第275図)

床石は、玄室・羨道とも鋪石はなく、石室構築面（この面については後述）の上に、径5～15cmの玉石を直に敷設しており、奥壁から羨門側に向かって僅かに傾斜している。また、玄室と羨道との床面の高低差はないが、境に割石をもつ。

(5) 石室の平面および立面の状況 (第274・275図)

開口方向 ほぼ南向きに開口する。S—2°—Wを指す。

平面形状 玄室は両袖型で、短冊形を呈する。羨道は羨門側に向かって開き気味となる。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で3.30m、西側壁3.24m、東側壁3.27mを測る。

玄室幅：奥壁1.34m、中央位置1.55m、袖付近で1.50mを測る。

羨道長：主軸位置で2.53m、西側壁2.50m、東側壁2.72mを測る。

羨道幅：玄門付近で0.71m、中央位置0.82m、羨門付近で0.94mを測る。

立面形状 玄室は僅かな転びをもつ。その状況は東西側壁の奥壁付近で確認できる。羨道はほぼ垂直に立ち上がる。

立面規模 本石室は、上位の側壁石が一部崩落し、壁面の残存状況が悪く、各箇所の残存する最高値は次の通りである。

玄室高：奥壁1.80m、西側壁1.66m、東側壁1.38mを測る。

玄門高：西側玄門0.41m、東側玄門0.78mを測る。

羨道高：西側壁0.41m、東側壁0.91mを測る。

羨門高：西羨門0.78m、東羨門0.75mを測る。

上記の数値から推測される石室の立面規模は、玄室高が $1.80\text{m} + \alpha\text{m}$ 、羨道高が $0.91\text{m} + \alpha\text{m}$ となる。

石材の種類 表91に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどが溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。ただし、玄門に使用された石材は、長方体状の石材であることから、何らかの面取り加工が施された可能性をもつ。

壁面の構成 残存する玄室奥壁は、溶結凝灰岩の割石が9石からなる。置き方は平積みないし横積みで、4ないし5段を互目積み風に積み重ね、横方向に目地が通っている。

玄室側壁は、溶結凝灰岩の割石を使い、基底となる根石の置き方は横積みを主とし、2段目以上を小口積または横積に積み上げている。側壁は2段から5段目までが残存し、乱石積で、各個の石の間に小石を目詰めしている。

玄門左側は幅28cm、高さ74cm、奥行き60cm、玄門右側は幅37cm、高さ77cm、奥行き65cmの溶結凝灰岩の割石を用いて立柱石状としている。

羨道側壁は、溶結凝灰岩の割石を使い、基底となる根石の置き方は横積みを主とし、2段目以上を小口積または横積に積み上げている。残存の良い部分で、4段目までを確認できる。

なお、羨門部に位置する南端の両側壁の割石は、65度の角度で面が揃えられるように3段ほど積み上げられている。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第271図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸方向、主軸に直交する3本のベルトを残して土層断面の観察を行った。

その結果、墳丘と石室の構築とは連動して行われていることが判明した。盛土の各層は石室構築に合わせて盛られており、石材を積む毎に盛土を行っていたことが窺える。

(2) 墳丘の盛土

盛土の種類は、大きく「黒色土」、「黒褐色土」、「暗褐色土」、「灰褐色・黄灰色砂利層」に分層でき、これらの盛土は地山に存在するものである。

第5章 古墳群

盛土の単位は、層厚が15～45cmと幅をもつが、層厚20cm前後の層が最も多い。石室周りの盛土は、石材を積み上げる毎に灰褐色砂利層と黄灰色砂礫、暗褐色土の混土層を交互に寄せかけており、礫を多く含んでいることから、裏込め様のあり方を示す。

そして、この周囲を後込として黒色土、黒褐色土、暗褐色土を主体に被覆し、盛土を行っている。

なお、墳丘断ち割り調査の結果、前庭の前垣部の石垣は、左右共に長さ2.4m、高さも接する翼垣と同一位置（高さ80cm）まで葺石を施しており、前庭を造り出す際にこの部分に土を寄せて基壇を付設していたことが明らかとなっている。所謂、「付け基壇」を有している。

盛土のあり方から、本墳は周囲に基壇を巡らせた2段築成であることが明らかとなった。

(3) 石室石材（第277図、表91）

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。なお、特に断りのない限り、ここで用いる「石室石材」とは、壁材として原位置を保持していた石材のことを指す。

石材の種類 溶結凝灰岩を用いる。

石材の規模 石材重量は2.9～310kgを量る。200kg以上の重量のものは7石程度であり、多用されている石材重量は60～100kg程度のものである。

石材の形状 主体をなす形状は、キャラメル形とサイコロ状を呈する。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれも粗割のみで、明確な加工痕は確認できなかった。

石材の諸属性と積み方の関係 奥壁、玄門、羨門には90kg以上の石材を用いている。奥壁は平積を主に横積みを一部に、玄門、羨門においても横積みあるいは平積である。側壁の基底石は大型の石を使用し、横積を主体にし、平積を客体的に行っている。2段目以降は、使用される石材の形状に合わせて横積と小口積による。

(4) 石室根石

石室の根石(基底石)は、すべての石材が石室掘方面に直置きされていたが、その周囲には栗石が取り巻いている。なお、石材を置く順序は不明である。

(5) 石室構築面（第274図）

石室構築面は、石室断面A-A'、B-B'で知ることができるが、不明な点が多く、貼り床の有無は確認できていない。

(6) 石室・前庭掘方（第276図）

石室掘方は、平面形が隅丸長方形を呈する竪穴状で、規模は南北長約8.9m、東西長3.2m、玄室の最深部は33cm、最浅部は10cm、羨道の最深部は23cm、最浅部は18cmを測る。底面の凹凸は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦である。

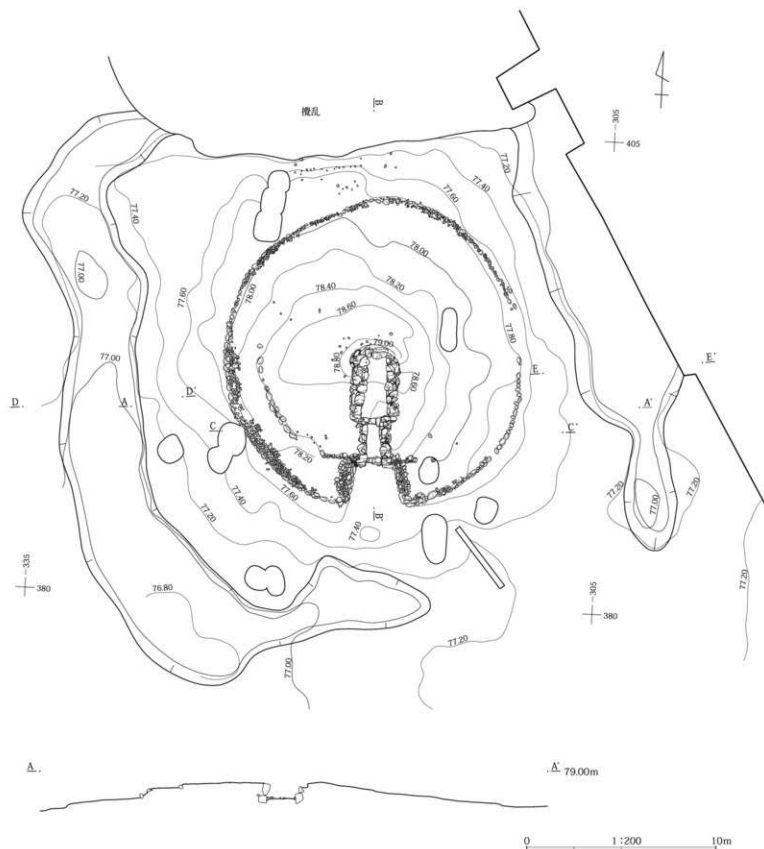
前庭掘方は、左右の翼垣部のみが布掘り状に掘方をもつ状況がある。

(7) 墳丘盛土下地山面

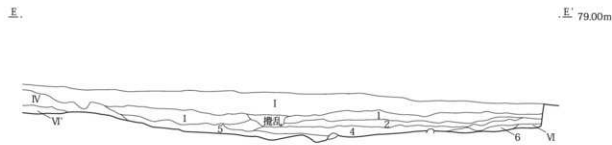
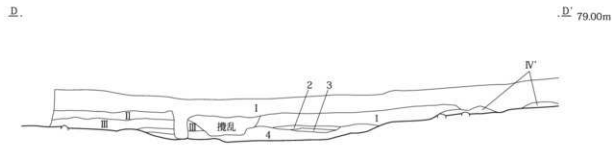
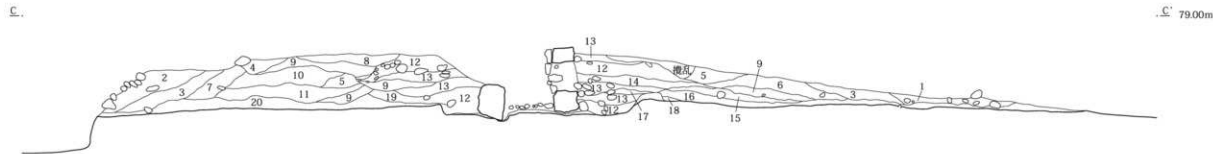
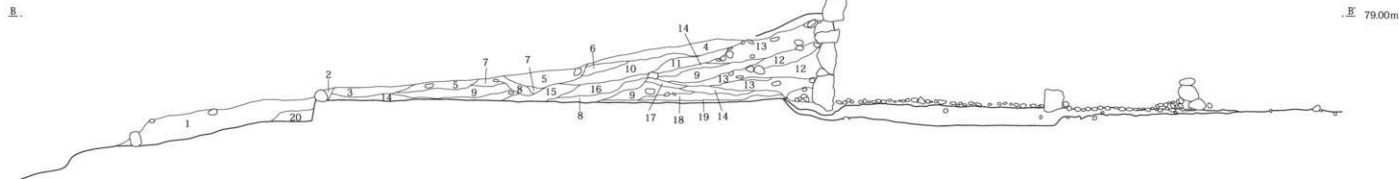
墳丘盛土下地山面からは、古墳築造に伴う関連遺物等は存在しなかった。しかし、墳丘下からは、先述した1号集石遺構、7号畠跡、さらに9号掘立柱建物跡および土器集中箇所が検出されており、これらの各遺構との新旧関係は明らかである。

6. 重複する他遺構との新旧関係

本墳は、墳丘下に27号住居(古墳時代後半)と31号住居(古墳時代前半)が検出され、27号住居は周堀によって一部が壊されている。また、先述したように、1号集石遺構、7号畠跡、さらに9号掘立柱建物跡および土器集中箇所が検出されているが、何れの遺構よりも本墳が新しい。



第271图 1号墳墳丘平面図・断面図



0 1:60 2m

D-D' 79.00m

E-E' 79.00m

B-B'

- 1 暗褐色土 礫を含む。
- 2 暗褐色土 しまりやがある。ローム粒を少量含む。
- 3 5層に類するが部分的にロームブロックが混じる。
- 4 暗褐色土 ローム粒を含む。焼土粒が僅かに混じる。
- 5 黒褐色砂質土 少量の炭化物と焼土粒を含む。
- 6 5層に比しやや黒褐色土が多い。
- 7 IV層ブロック。
- 8 ローム粒主体で暗褐色土が混じる。
- 9 ロームブロックがやや多い黒色土ブロックとの混土。
- 10 黒褐色土とローム粒と焼土粒の混土。
- 11 薄層ブロックを主とし、黒色土ブロックとローム小ブロックが混じる。
- 12 灰褐色砂利層。
- 13 黄灰色砂礫に暗褐色土が混じる。
- 14 黒色土 (19層) が主体、少量のローム粒を含む。
- 15 5層に類するが黒褐色土の比率がより多く暗色。
- 16 10層に比しロームやや少ない。
- 17 8層に比しロームがやや少ない。
- 18 黒色土 (19層) とロームブロックの混土。しまりあり。
- 19 黒色土 Hr-FAを多量に含む。(基本土V層)
- 20 明褐色土 ローム質土の薄移層。

C-C'

- 1 暗褐色土 黒褐色土(16層)とローム粒、礫(径5cm前後~15cm)が多く混じる。
- 2 1層に比し、ロームの含有が少ない。
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む。焼土粒が僅かに混じる。
- 4 3層に比し、しまり強い。
- 5 黒色土 16層に比し、やや砂質。
- 6 黒褐色土とローム粒と焼土粒の混土。
- 7 黒褐色土とローム粒の混土。焼土粒を含まない。
- 8 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 9 黒色土 (16層) が主体、少量のローム粒を含む。
- 10 9層に比しロームブロックをやや多く含む。
- 11 9層に比しロームの含有が多い。
- 12 灰褐色砂利層。
- 13 黄灰色砂礫に暗褐色土が混じる。
- 14 13層中に暗褐色土が混じる。
- 15 ローム粒主体で黒褐色土が混じる。
- 16 黒色土 Hr-FAを多量に含む。(基本土V層)
- 17 13層中に暗褐色土が混じる。
- 18 明褐色土 ローム質土の薄移層。
- 19 黒色土 (16層) とロームブロックの混土。しまりあり。
- 20 16層が主、やや砂質。

D, E共通

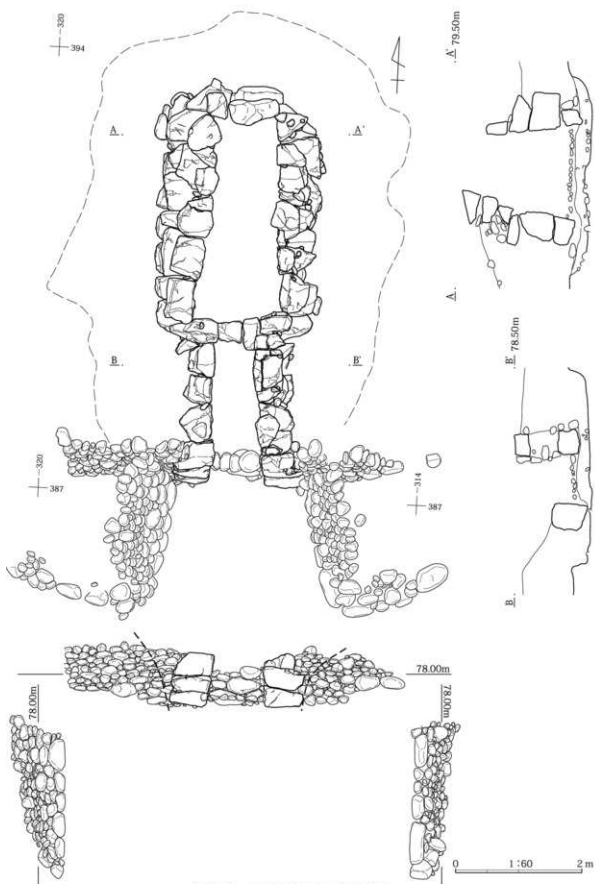
- I 灰褐色砂 細粒土。(基本土I層)
- II 黄褐色ローム質土と黒褐色砂質土の混土 耕作土。(基本土I層)
- III 灰褐色砂 深水による堆積。(基本土I層)
- IV 黒色砂質土 細粒でよくなる。少量の白色粒子を含む。
- IV' 暗褐色土 黒褐色土粒、ローム粒を含む。

- 1 明褐色砂質土 Aa-Bを含む。
- 2 暗褐色土 Aa-Bを多量に含む。
- 3 Aa-B堆積 上面は硬皮面。
- 4 黒褐色土 Hr-FF, Aa-Cを含む。
- 5 明褐色土 やや砂質、ローム粒を含む。
- 6 明褐色土 ローム粒と軽石を含む。

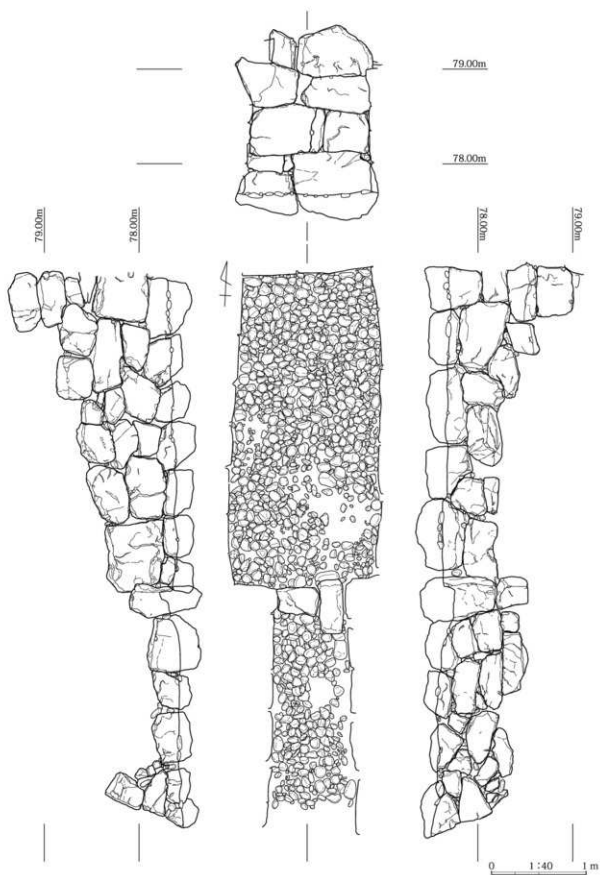
第272図 1号墳墳丘・周堀土層断面図



第273図 I号墳基石平面図

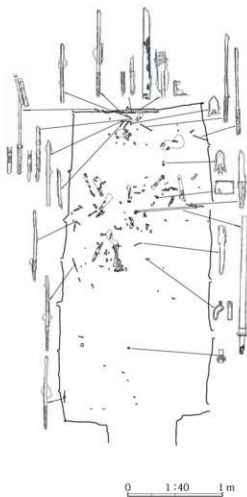


第274图 1号墳石室上面・前庭展開図

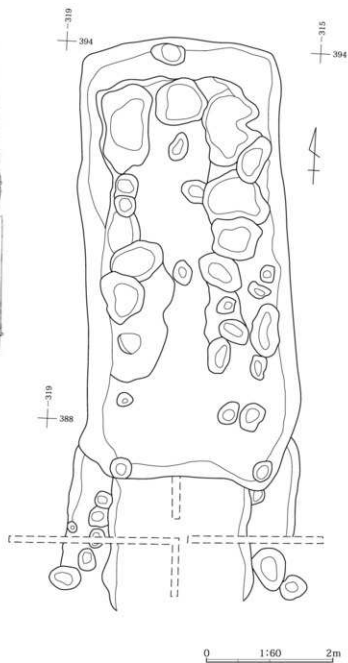


第275図 1号墳石室展開図

遺物分布図

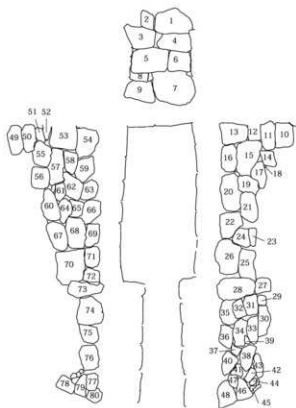


掘方平面図



第276図 1号墳石室内遺物分布図・石室掘方平面図

第2節 検出された遺構と遺物



第277図 1号墳石室石材番号図

表91 1号墳石室石材計測表

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備考
1	297	71	51	31	横積	部殿	
2	62	39	34	36	横積	部殿	
3	149	68	48	52	横積	部殿	
4	180	82	38	33	横積	部殿	
5	132	77	52	33	横積	部殿	
6	60	48	43	19	横積	部殿	
7	226	88	70	44	横積	部殿	
8	62	56	17	47	横積	部殿	
9	138	59	39	40	横積	部殿	
10	100	53	37	38	横積	部殿	
11	116	70	31	58	横積	部殿	
12	70	38	27	33	横積	部殿	
13	102	47	57	39	横積	部殿	
14	60	33	26	46	横積	部殿	
15	310	74	49	58	横積	部殿	
16	158	60	29	39	横積	部殿	
17	80	50	30	44	横積	部殿	
18	未計測	5	4	11	小口積	部殿	
19	96	35	41	50	小口積	部殿	
20	250	77	37	53	横積	部殿	
21	137	42	29	58	小口積	部殿	
22	195	55	45	53	横積	部殿	
23	40	36	16	23	横積	部殿	
24	72	39	35	36	小口積	部殿	
25	110	60	32	46	横積	部殿	

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備考
26	165	73	44	32	横積	部殿	
27	28	20	35	50	小口積	部殿	
28	222	37	77	65	横積	部殿	
29	20	20	17	47	小口積	部殿	
30	94.8	67	26	22	横積	部殿	
31	74	44	29	32	横積	部殿	
32	55	40	25	50	横積	部殿	
33	66	60	24	30	横積	部殿	
34	85	60	28	44	横積	部殿	
35	109	50	25	39	横積	部殿	
36	89	49	29	47	横積	部殿	
37	13.8	18	30	32	小口積	部殿	
38	85	56	33	50	横積	部殿	
39	6.4	18	9	27	小口積	部殿	
40	120	61	33	48	横積	部殿	
41	27.8	25	24	41	小口積	部殿	
42	36	30	13	50	小口積	部殿	
43	33.5	39	19	37	横積	部殿	
44	6.9	8	16	28	小口積	部殿	
45	2.9	17	13	48	小口積	部殿	
46	130	41	30	70	小口積	部殿	
47	13	21	19	32	小口積	部殿	
48	130	43	37	60	小口積	部殿	
49	80	44	31	51	横積	部殿	
50	72	51	28	33	横積	部殿	
51	37.3	34	18	48	小口積	部殿	
52	94	60	19	49	横積	部殿	
53	227	63	52	48	横積	部殿	
54	144	66	46	37	横積	部殿	
55	94.8	未計測	35	36	小口積	部殿	
56	70	37	30	29	横積	部殿	
57	145	81	35	52	横積	部殿	
58	55	47	30	37	横積	部殿	
59	137	41	44	39	横積	部殿	
60	108	69	34	48	横積	部殿	
61	50	36	25	42	小口積	部殿	
62	127	70	40	42	横積	部殿	
63	100	42	34	50	横積	部殿	
64	73	50	27	32	横積	部殿	
65	55	33	27	48	小口積	部殿	
66	100	45	42	44	横積	部殿	
67	160	60	40	49	横積	部殿	
68	192	63	43	42	横積	部殿	
69	122	48	30	40	横積	部殿	
70	286	69	54	33	横積	部殿	
71	107	44	29	36	横積	部殿	
72	139	28	11	32	小口積	部殿	
73	167	28	74	60	横積	部殿	北門左
74	158	54	52	32	横積	部殿	
75	96	35	37	41	横積	部殿	
76	123	52	38	48	横積	部殿	
77	40	39	23	38	横積	部殿	
78	107	24	33	62	小口積	部殿	
79	92	46	22	66	小口積	部殿	
80	93	23	33	61	小口積	部殿	

7. 出土遺物 (第330～132図、表99、PL.148)

(1) 土器

墳丘の盛土内から出土した、S字状口縁台付甕の1点を図示した。石室、前庭、周堀内からの出土土器は無い。

(2) 金属製品

本調査で最も多くの金属製品を出土した古墳であり、図示した製品には鉄鏃37点、刀2点、刀子2点、刀装具9点、弓飾り5点、不明な金銅製品1点、不明な鉄製品1点がある。

鉄鏃には、有茎脇扶長三角形鏃が5点あり、この内の4点が基部に木質を残存している。また、長頸片刃鏃14点(内、完形品4点)、長頸三角形鏃4点(内、完形品3)、刃部を欠損する長頸鏃ないし基部を主に残存する長頸鏃14点を数えるが、図示できなかった鉄鏃片も数多く出土している。これらの長頸鏃の基部には、木質および樹皮巻きの痕跡が残存するものが見られる。

刀には、大刀1点(第331図39)と小刀1点(第331図40)がある。大刀は平造りで、刃部の先端を欠くがほぼ完形。柄部には木質が残り、鏃(鉄製)・鐏(鉄製)・環状の緑金具(金銅製)がそのまま残存し、さらに柄部には目釘(鉄製)が残存する。全長は58.3cm、刃長47.3cm、刃幅2.0～2.7cm、刃厚0.7～0.9cm、柄長11.0cmを測り、総重量は476.2gを量る。小刀は平造りの完形で、刃幅の広いかなり丁寧な造り。刃部には鞘の木質が残り、鏃(鉄製)・緑金具(金銅製)も残存し、鏃の内側には木質が残る。全長は45.8cm、刃長36.4cm、刃幅2.8cm、刃厚0.8cm、柄長9.4cmを測り、総重量は385.0gを量る。

刀子には、第332図41の先端部を欠くほぼ完形で、柄部に木質を残すもの。第332図42とした先端部を欠くものの2点がある。

さらに、刀装具としてやや大振りの鞘尻金具3点(第332図44・45・46)、小振りな鞘尻金具1点(第332図47)、小振りな緑金具1点(第332図47)、足金具と思われる吊り下げ状の銅製の金具1点(第332図49)、緒の先端部と思われる金銅製の金具1点(第332

図50)、金銅製の鳩目金具2点(第332図51・52)がある。なお、第332図43は木質のみであるが、出土時には47の緑金具(金銅品)と共にあり、木質に緑青が付着している。

他に、弓飾りで両端に花弁状を有する金銅製の両頭金具5点(第332図53～57)、用途不明な細い金銅製品1点と鉄製品1点がある。

8. 時期

墳丘の形状および出土遺物から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

2号墳 (第278～282・333図、表92・100、PL.64～67・149)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77m付近、本調査区の中央部に位置し、北西側に12号墳が近接する。調査前の現況は、墳丘は削平されていたが、主体部付近は、石室石材と思われる大振りの溶結凝灰岩が露出している状況であった。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」藪塚本町第115号墳に相当する。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第278図)

墳丘周縁部は、畑の耕作による削平および近世以降の溝によって壊され、方形に残存する状況で、墳丘の規模は不明である。また、周堀の状況もあまり良くないが、弧状を描く周堀の内側から、直径16m前後の規模をもつ円墳と考えられ、先の1号墳と同等規模であると推測される。墳丘を構成する盛土はほとんど削平されており、幸うじて石室の下部が残存していたに止まる。なお、石室の周囲には、石室を取り巻くように溝状の攪乱を受けていた。

(2) 周堀 (第278図)

石室の北東部と南部、西部の3箇所で周堀を検出している。北東部の周堀は、東側から北側にかけて長さ22.5mに渡り、弧状に検出されている。南側に

検出された周堀は、前庭部前に位置する。平面形状は楕円形を呈し、長軸の向きが他の周堀の軸とずれ、緩い立ち上がりとなる。また、西側に位置する周堀も短く、東側から北側へ延びる周堀との間には、近接する13号墳の周堀が優先するように位置する。

周堀の確認面での規模は、最広・最深部で上幅5.5m、下幅3.8m、深さ0.73m、最狭・最浅部で、上幅2.3m、下幅1.1m、深さ0.22mを測る。周堀形態は、外形が北東部で円形状を呈して両端は途切れ、南部と西部は長さ8～9mほどの部分的な検出状況である。

埋土は、As-C軽石およびHr-FPを含んだ暗褐色土ないしは黒色土がベースで、上層にAs-B軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 葺石

墳丘盛土の削平が著しく、葺石列は確認できなかった。ただし、前庭部において、崩落した葺石が検出されていることから、墳丘に葺石が存在したことが推測される。

3. 前庭

(1) 概要 (第280図)

前庭は平面形は、南側が僅かに開く台形を呈する。前庭の中軸の長さは、2.45mを測る。各部位の計測値は、前垣幅2.27m（西側前垣幅0.84m、東側前垣幅0.68m、前垣残存高0.50m）、西側翼垣長1.90m、東側翼垣長2.75m、翼垣残存高0.43m、前庭の先端推定幅は約3.0mを測る。前庭開口度は、西側、東側共に推定で98度である。

なお、前庭部には、崩落したと思われる葺石が検出されている。

(2) 前庭の石積壁 (第280図)

石積みの残存状況は、良くない。

前垣は、羨門の石材を主体に構成される。西前垣は石材の広い面を前庭側に向け、東前垣は石材の広い面を羨道内部に向けている。なお、東前垣と翼垣の接点部は抜き取られていて残存状態は悪く、前垣の状況は把握できない。

翼垣は、東西で様相がやや異なる。西翼垣は一辺10～15cmの小振りの亜円礫を用い、東翼垣は一辺10～30cmのやや大振りの亜円礫を主体的に用いている。積み方は東西ともにランダムに積み上げている。特に西翼垣の先端部は残存していない。

石積みの高さについては、残存状況が悪いため、不明である。

4. 石室

(1) 概要 (第281図)

石室は、両袖型横穴式石室である。石室全長は4.80m、玄室の推定長は主軸位置で2.70m、玄室幅は中央位置で1.25m、玄室壁の最高残存値は0.65mを測る。

羨道の推定長は主軸位置で2.10m、羨道幅は中央位置で0.72m、羨道壁の最高残存値は0.42mを測る（詳細計測値は後述）。

残存状況は、玄室南部から玄門付近が特に悪く、床石の一部も抜き取られている状況がある。側壁は残っていても2段までで、羨道側壁は基底石まで抜き取られている箇所もある。

(2) 羨道部の閉塞状況

羨道部の閉塞は、羨門から羨道内にかけての下部が残っていた。

閉塞の石材には、直径30～60cmの亜円礫と直径15cm以下の亜円礫が主体に用いられ、閉塞石は羨門から1.62mの範囲に存在した。充填された閉塞石の層厚は、羨道床面に敷かれた玉石直上の一石分しか残存していない。

(3) 石室内における遺物出土状況 (第280図)

玄室の床面から2点の鉄鏝が出土している。共に、無茎腸状長三角形鏝である。

(4) 石室床面の状況 (第281図)

床石は、玄室南側から玄門付近は抜き取られていて残存していない。玄室・羨道の床面は、共に径2～12cmの玉石を、厚さ20cm程に敷き詰められている。玄室と羨道の床面はほぼ平坦にあり、その間を仕切る欄石は不明。玄室・羨道とも、鋪石はない。

(5) 石室の平面および立面の状況 (第280・281図)

開口方向 南方向に開口する。

平面形状 玄門が残存していないため不明な点はあるが、玄室は無袖の胴張り形を呈するものと推測され、羨道は両側壁がほぼ平行である。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で2.70m、西側壁は推定2.75m、東側壁は推定2.70mを測る。

玄室幅：奥壁で0.97m、中央位置で1.25mを測るが、玄門は不明。

羨道長：主軸位置で推定2.10mを測る。

羨道幅：中央位置で0.72m、羨門付近で0.70mを測る。

立面形状 2段目までの残存であるため、詳細は不明。

立面規模 石室の残存状況が悪く、計測値は全て残存値である。

玄室高：奥壁1.13m、西側壁0.60m、東側壁0.64mを測る。

玄門高：不明。

羨道高：西側壁0.35m、東側壁0.48mを測る。

羨門高：西羨門0.42m、東羨門0.48mを測る。

上記の数値から推測される石室の立面規模は、玄室高が $1.13\text{m} + \alpha\text{m}$ 、羨道高が $0.48\text{m} + \alpha\text{m}$ となる。

石材の種類 表92に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどに溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具痕を残す石材は見当たらなかった。

壁面の構成 玄室奥壁は、巨大な1枚の溶結凝灰岩を縦置きして壁面を構成している。幅77.5cm、高さ133cm、奥行63cmを測る。

玄室側壁は、一辺が37～79cmほどの溶結凝灰岩の割石を用い、置方は小口積または横積である。側壁は2段目まで残存し、2段目はやや小振りな大型の石材が用いられ、乱石積で各個の隙間に小石を填め込んでいる。

羨道側壁は、一辺53～104cmほどの溶結凝灰岩の割石を基底石に用いている。

なお、羨門部に位置する南端の両側壁には、一辺33～103cmの大型の割石が左右に一石づつ残存する。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第278図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸方向(278図C-C')と、主軸に直交する方向(278図A-A'、B-B')に断り割りを入れ、土層の断面観察を行った。

その結果、墳丘盛土はすべて削平されていることを確認し、石室周囲の攪乱により不明な点を多く残す状況ではあったが、石室の構築についての調査を主に行った。

(2) 石室石材 (第279図)

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。なお、ここで用いる「石室石材」とは、壁材として原位置を保持していた石材のことを指す。

石材の種類 全て溶結凝灰岩。

石材の規模 石材重量は6.1～805kgを量る。残存するのは18石と少なく、この内200kg以上を量るのは9石で、奥壁に用いられた石材の重量は805kgを量る。

石材の形状 主体をなす形状は、キャラメル形である。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれも粗削のみで、明確な加工痕は確認できなかった。

石材の諸属性と積み方の関係 積み上げられている箇所が少ない状況であるが、側壁の基底石は比較的大振りの石を使用して横積を主体にし、平積を客体的に行っている。羨門も同様である。

(3) 石室根石 (第282図)

石室の根石(基底石)は、そのほとんどが石室の

掘方面に直置きされており、根石の周囲には径5～20cmほどの栗石が取り巻いている状況が認められた。なお、石材を置く順序は不明である。

(4) 石室・前庭掘方 (第282図)

石室の掘方は、平面形が長方形を呈する竪穴状で、南側の前庭部も竪穴状に取り付くがやや膨らむ。規模は、南北長約8.6m、東西長2.5m、最深度37cm、最浅部18cmを測る。底面の凹凸は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦である。

なお、前庭南端は、そのまま地表面に連続する形状を呈している。

(5) 墳丘盛土下地山面

削平が墳丘下地山面まで達しており、詳細は不明。

6. 重複する他遺構との新旧関係

本墳と重複する遺構には、古墳時代前半の97・109号住居跡、古墳時代後半の95・107・110号住居跡があるが、いずれの住居跡も周堀に壊されている。特に、107号住居跡は石室前庭下に検出された遺構である。当然ながら、これらの住居跡よりも本墳の方が新しい。

7. 出土遺物 (第333図、表100、PL.149)

(1) 土器

出土した土器には、土師器の坏と高坏の脚部が1点づつあるが、坏は石室掘方内から、高坏の脚部は周堀内から出土している。

(2) 鉄製品

玄室の床面直上から出土した2点の鉄鏃は、共に無茎脇杖長三角形鏃である。第333図3には僅かに木質の痕跡が残る、4は中央に孔を有する。

(3) その他の遺物

土鏝が3点出土しているが、いずれも表土中からである。

8. 時期

重複する遺構および出土遺物から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

3号墳 (第283～287図、表93・101、PL.68～72・149)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77m付近、本調査区の南西部に位置する。後述する5号墳と共に、古墳群の南端となり、北西側に13号墳が近接する。

調査前の現況は、僅かな地形の高まりとして確認ができる状況で、高まりの周囲にはやや大振りの溶結凝灰岩(石室の石材と思われる)が列べられている。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」藪塚本町第116号墳に相当する。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第283図)

墳丘の周縁部は、西側が大きく削平され、南側の前庭付近も削平を受け、東半も近世以降の溝が取り巻くように壊している。このため、その規模は不明であるが、墳丘を取り巻く周堀の内側からすると径15m前後の円墳と考えられる。

残存する墳丘の盛土は、大きな削平等を受けていない石室周辺から東半であり、基壇が位置するであろう墳丘周縁の状況は不明である。

(2) 周堀 (第284図)

周堀は、墳丘南西部の一部以外は円周し、北東部は浅く大きく広がる。また、底面は一様ではなく、大きく数カ所が深くなる。しかし、周堀の内側は、概ね円形となる弧を描く。

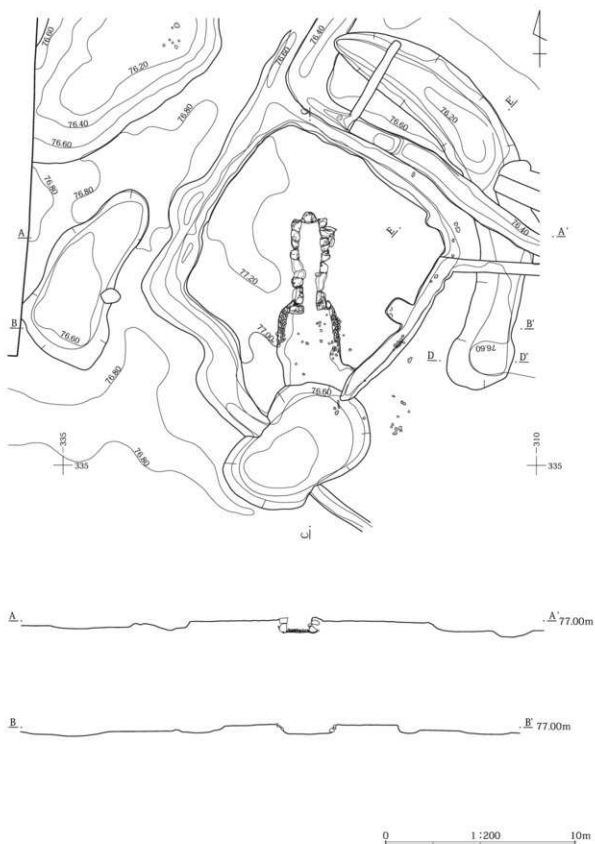
規模は、概ね上幅4.0m前後を測るが、最広部では上幅13.5mを測り、深さは最深で0.70mを測る。

埋土は、As-C軽石およびHr-FPを含んだ黒褐色土がベースで、上層にAs-B軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

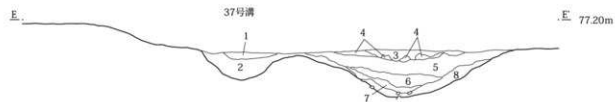
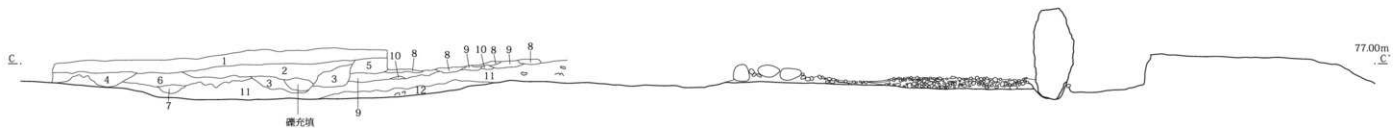
なお、周堀内からは、僅かではあるが土器片が出土している。

(3) 墓石

墳丘周縁の残存が悪く、墓石の状況は不明である。現存するのは、漢門に続く前垣と、僅かに残る畷垣の一部である。



第278图 2号墳墳丘平面图・断面图



C-C'

- 1 灰褐色砂 畑耕土。(基本土1層)
- 2 暗灰褐色砂質土
- 3 2層に比し暗色。
- 4 灰褐色砂
- 5 暗茶灰褐色砂質土
- 6 暗茶褐色砂
- 7 暗茶褐色砂
- 8 As-B 混。黒くしまる。
- 9 Hr-FA が覆じる黒色土を主体。ロームが混じる。
- 10 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、砂粒、Hr-FA を含む。
- 11 暗褐色土 ローム粒、Hr-FP を少量含む。
- 12 暗褐色土と黒褐色土の混土。やや砂質。

D-D'

- 1 黒色土 Hr-FP を含む。
- 2 明褐色土 やや砂質。ローム粒を含む。
- 3 2層よりローム多い。

E-E'

- 1 暗茶褐色粗砂。
- 2 暗灰色細砂。
- 3 黒色土 As-B を多量含む。
- 4 As-B 純層またはほぼ純層。
- 5 暗褐色土 やや黒味がかる。ローム粒。
- 6 黒色土 Hr-FA を少量含む。
- 7 暗褐色土 As-C を少量含む。ローム粒を含む。
- 8 明褐色土 やや砂質。ローム粒を含む。

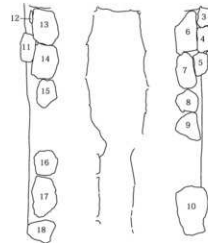
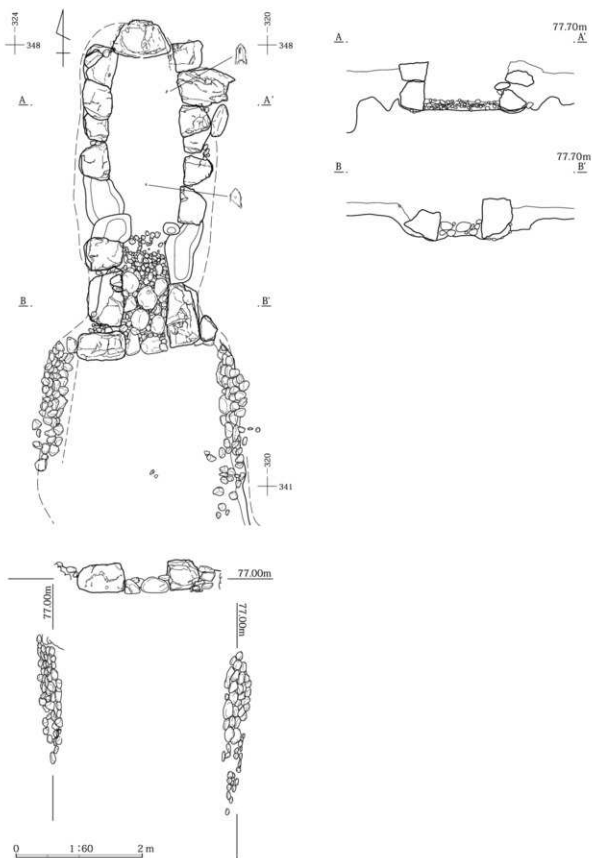


表92 2号墳石室石材計測表

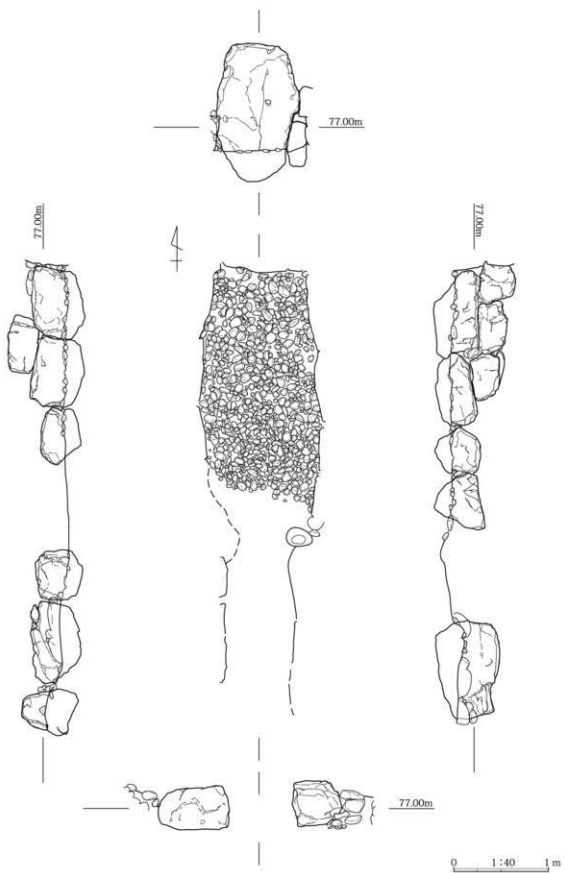
番号	縦長 (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	敷打 (cm)	置き方	石材	備考
1	865	77.5	133	63		滑麗	
2	33.5	20	57	15		滑麗	
3	115	48	26	43		滑麗	
4	210	47	29.5	79		滑麗	
5	70	46.5	28	44.5		滑麗	
6	250	88	44.5	36		滑麗	
7	235	72	35.5	49		滑麗	
8	125	43.5	36.5	48.5		滑麗	
9	120	56	42	41.5		滑麗	
10	465	103	49.5	62		滑麗	
11	118	48.5	20.5	47.5		滑麗	
12	6.17	32	11.5	14		滑麗	※数値確認
13	270	75.5	50	48		滑麗	
14	235	72	49.5	42.5		滑麗	
15	137	60	40	35		滑麗	
16	195	38	38	37.5		滑麗	
17	270	85	41	56		滑麗	
18	265	33	61.5	40.5		滑麗	

0 1:60 2m

第279図 2号墳墳丘・周堀土層断面図、石室石材番号図

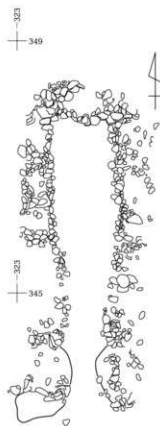


第280図 2号墳石室上面図・前庭展開図



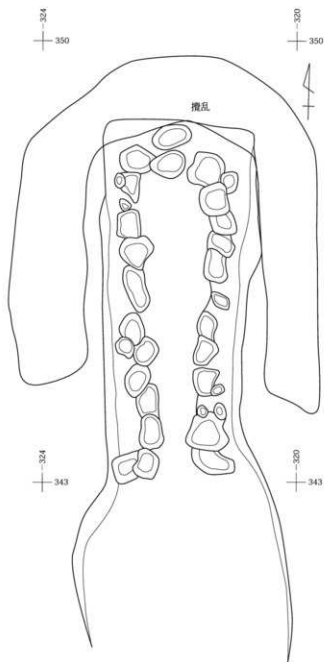
第281图 2号墳石室展開図

石室基部



0 1:60 2m

掘方平面図



第282図 2号墳石室基部・掘方平面図

3. 前庭の概要

前庭部は、重複する29号溝および削平により大きく壊され、検出できたのは石室入り口付近と、裏垣の一部と思われる僅かな石組みのみである。

4. 石室

(1) 概要 (第286図)

石室は、両袖型横穴式石室である。石室の全長は5.50m、玄室長は主軸位置で3.14m、玄室幅は中央位置で1.24m、玄室壁の最高残存値は0.98mを測る。

また、羨道長は主軸位置で2.36m、羨道幅は中央位置で0.76m、羨道壁の最高残存値は0.80mを測る(詳細計測値は後述)。

残存状況は、玄室、羨道いずれも比較的良好で、閉塞石も残存している。

(2) 羨道部の閉塞状況 (第285図)

羨道部の閉塞は、比較的良好に残存している。

閉塞の状況は、羨道内に直径15cmほどの垂円礫(上・下層)と直径5cm以下の小さな垂円礫(中層)を3層に積み上げ、羨門は大型の垂円礫を用いて塞いでいる。

(3) 石室内における遺物出土状況

石室内からの遺物の出土はない。

(4) 石室床面の状況 (第286図)

床石は、玄室・羨道とも舗石はなく、石室構築面の上に、径5～15cmの玉石を直に敷設しており、玄室床面は厚さ13cm程を測る。奥壁から羨門までの床面は平坦で、玄室と羨道との床面の高低差はないが、境に軋石をもつ。

(5) 石室の平面および立面の状況 (第285・286図)

開口方向 南南西に開口する。S-12°-Eを指す。

平面形状 玄室は奥壁側がやや窄まる形状を呈し、羨道は両側壁がほぼ平行である。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で3.14m、西側壁3.18m、東側壁3.20mを測る。

玄室幅：奥壁0.95m、中央位置1.24m、袖付近で

1.24mを測る。

羨道長：主軸位置で2.36m、西側壁2.36m、東側壁2.26mを測る。

羨道幅：玄門付近で0.64m、中央位置0.76m、羨門付近で0.62mを測る。

立面形状 玄室は僅かな転びをもち、羨道は垂直に立ち上がる。

立面規模 石室の残存する各箇所の最高値は、次の通りである。

玄室高：奥壁0.93m、西側壁0.96m、東側壁1.00mを測る。

玄門高：玄門西側0.47m、玄門東側0.60mを測る。

羨道高：西側壁0.66m、東側壁0.82mを測る。

羨門高：羨門西側0.76m、羨門東側0.70mを測る。

上記の数値から推測される石室の立面規模は、玄室高が $1.00m + \alpha m$ 、羨道高が $0.82m + \alpha m$ となる。

石材の種類 表93に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどが溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。ただし、玄門に使用された石材は、長方体状の石材であることから、何らかの面取り加工が施された可能性をもつ。

壁面の構成 残存する玄室の奥壁は、2石の溶結凝灰岩で壁面を構成し、置き方は横積みである。

玄室側壁は、大きさにばらつきはあるが、大型の溶結凝灰岩の割石を使い、基底となる根石の置き方は横積みを主とし、2段目以上を小口積みないし横積みしている。側壁は2段から4段目まで残存し、乱石積で、各個の石の間に小石を詰めしている。

玄門左側は幅33.5cm、高さ86.0cm、奥行き28.0cm、玄門右側は幅39.0cm、高さ69.5cm、奥行き44.0cmの溶結凝灰岩の割石を用いて立柱石状としている。

羨道側壁は、溶結凝灰岩の割石を使い、基底となる根石の置き方は横積みを主とし、2段目以上

を小口積または横積に積み上げている。残存の良い部分で、4段目までを確認できる。

なお、羨門部に位置する南端の両側壁の割石は、3段目までが残存する。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第283図)

墳丘の解体に際しては、石室の主軸方向に平行して2箇所(283図A-A'、B-B')、石室主軸の直交方向に平行して1箇所(283図C-C')の断割を入れ、断面観察を行った。なお、石室には断割りが入れられなかったため、墳丘と石室の構築の関係については不明である。

(2) 墳丘の盛土

盛土の種類は、大きく「黒色土」、「黒褐色土」、「暗褐色土」、「明黄褐色土」「灰褐色・黄灰色砂り層」に分層でる。

盛土の単位は、層厚が5～35cmと幅をもつが、層厚20cm前後の層が最も多い。明確な裏込めは検出されていないが、石室周りの下部盛土には灰褐色砂り層が盛られ、裏込め様のあり方を示す。

また、墳丘の周縁および前庭の残存が悪く不明な部分を残すが、前庭部の石垣のあり方から前庭床面(羨門床面)が、両脇より低い位置にあること、僅かではあるが翼垣の一部と思われる石組みが残存することから、基礎の存在が想定される。

(3) 石室石材 (第287図)

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。

石材の種類 ほとんどが溶結凝灰岩。

石材の規模 石材重量は1～530kgを量る。200kg以上の重量のものは6石で、多用されているのは60～100kg程の重量の石材である。

石材の形状 主体をなす形状は、キャラムル形とサイコロ状のものである。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれ

も粗割のみで、明確な加工痕は確認できなかった。石材の諸属性と積み方の関係 奥壁、玄門、玄室の側壁は、ほとんどが100kg以上の石材を用いており、置き方は平積みないしは横積みである。側壁の基底石は大振りの石を使用し、横積みを主体にしている。2段目以降は、使用される石の形状に合わせて横積みと小口積みおよび平積みによる。

(4) 石室根石 (第287図)

石室の根石(基底石)は、すべての石材が石室掘方面に直置きされているが、各根石の周囲に栗石が取り巻いている。なお、石材を置く順序は、不明である。

(5) 石室・前庭掘方 (第287図)

石室掘方は、平面形が長方形を呈する竪穴状で、規模は南北長約6.6m、東西長3.3m、深さは23cmを測る。底面の凹凸は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦である。

なお、南端は前庭部に連続する形状を呈しているものと思われるが、詳細は不明。られなかった。

(5) 墳丘盛土下地山面

本墳下地山面からは、古墳築造に伴う関連遺物は存在しなかった。

6. 重複する他遺構との新旧関係

前庭下には102号住居跡(古墳時代前半)が検出されており、本墳の方が新しいことは明確である。また、本墳の周堀西側で13号墳の周堀と接する部分があるが、新旧関係は不明。

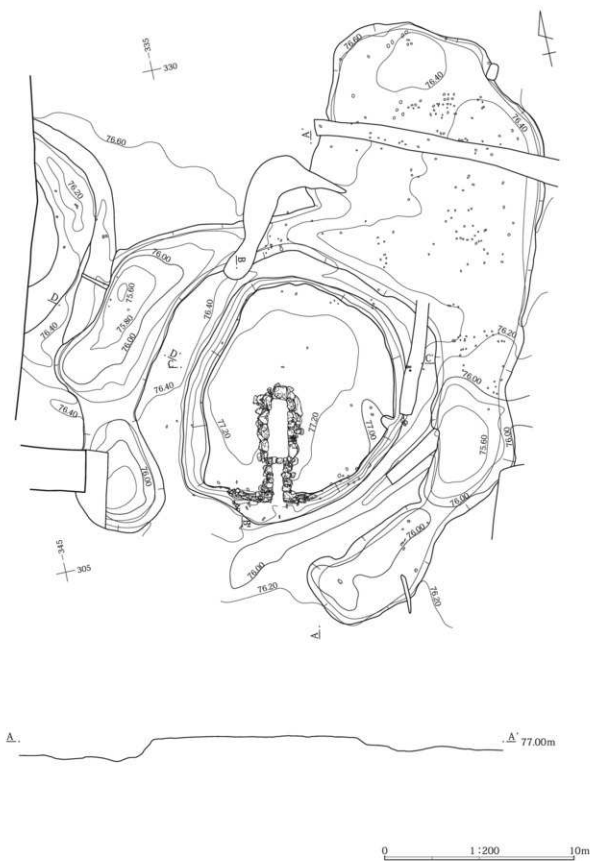
7. 出土遺物 (第334図、表101、P.L149)

(1) 土器

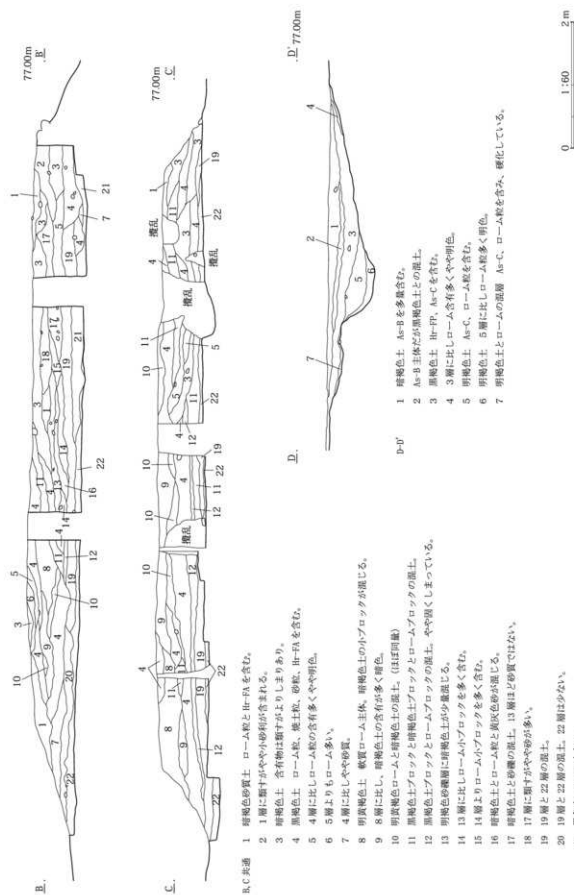
出土した土器には、土師器の高坏、埴、甕、壺があるが、1・5は周堀内から、それ以外は盛土内から出土している。

8. 時期

重複する遺構および周辺の状況から、本墳は古墳

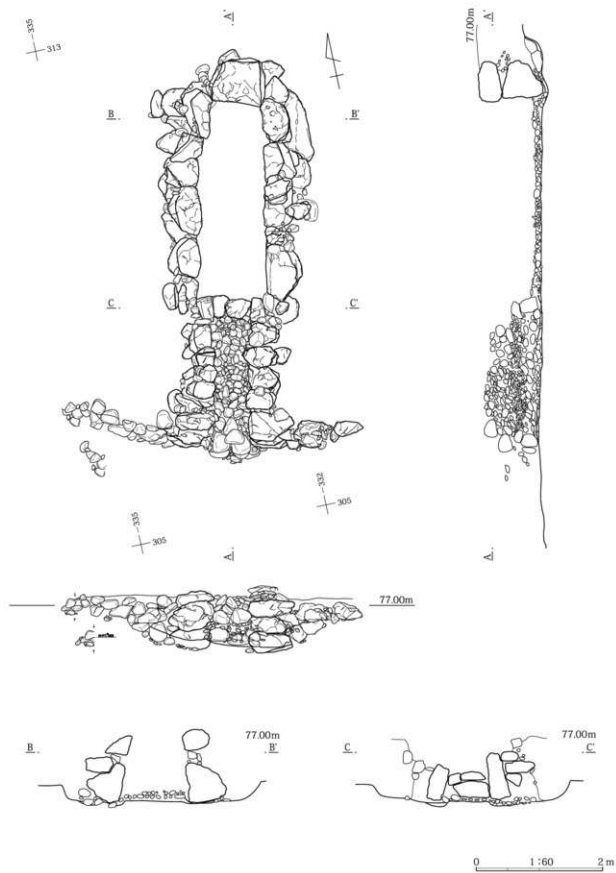


第283图 3号墳填丘平面图·断面图

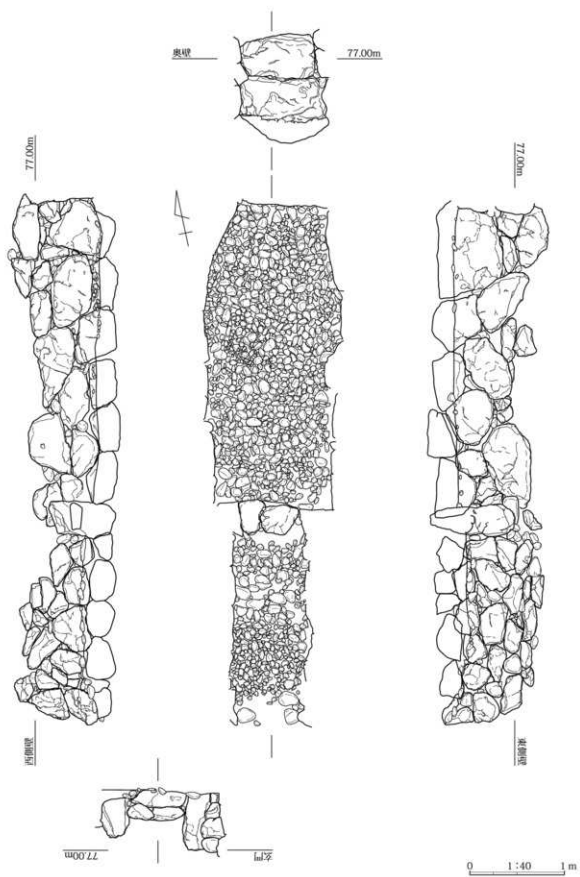


- B, C共通
- 1 暗褐色砂質土 ローム粒とHr-FAを含む。
 - 2 1層に層状がやや小砂利が含まれる。
 - 3 暗褐色土 含有物は層状がよりあり。
 - 4 黒褐色土 ローム粒、他土粒、砂粒、Hr-FAを含む。
 - 5 4層に比しローム粒の含有が多くやや明色。
 - 6 5層よりもローム多い。
 - 7 4層に比しやや砂質。
 - 8 明褐色土 軟質ローム主体、暗褐色土の小ブロックが混じる。
 - 9 6層に比し、暗褐色土の含有が多く暗色。
 - 10 明褐色土ロームと暗褐色土の混土。(ほぼ同量)
 - 11 黒褐色土ブロックと暗褐色土ブロックとロームブロックの混土。
 - 12 暗褐色土ブロックとロームブロックの混土、やや固くしまっている。
 - 13 明褐色土砂礫層に暗褐色土が少量混じる。
 - 14 13層に比しローム小ブロックを多く含む。
 - 15 14層よりローム小ブロックを多く含む。
 - 16 暗褐色土とローム粒と黄灰色砂が混じる。
 - 17 暗褐色土と砂礫の混土。13層ほど砂質ではない。
 - 18 17層に層状がやや砂が多い。
 - 19 19層と22層の混土。
 - 20 19層と22層の混土。22層は少ない。
 - 21 黒色土 Hr-PPが少ない。
 - 22 明褐色土 ローム質土の漸砂質。
- D, D'共通
- 1 暗褐色土 As-Bを多量含む。
 - 2 As-B主体だが暗褐色土との混土。
 - 3 黒褐色土 Hr-PP, As-Cを含む。
 - 4 3層に比しローム含有が多くやや明色。
 - 5 明褐色土 As-C, ローム粒を含む。
 - 6 明褐色土 5層に比しローム粒多く明色。
 - 7 明褐色土とロームの混層 As-C, ローム粒を含み、硬化している。

第284図 3号墳墳丘・周堀土層断面図



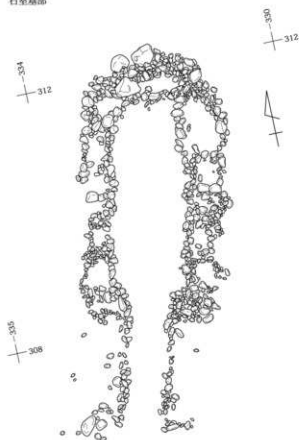
第285図 3号墳石室上面図



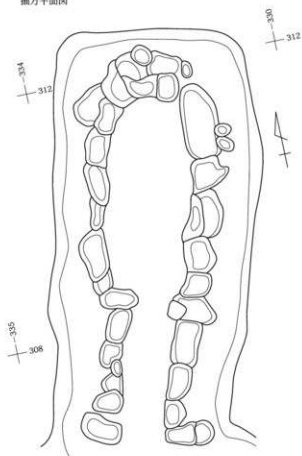
第288図 3号墳石室展開図

第5章 古墳群

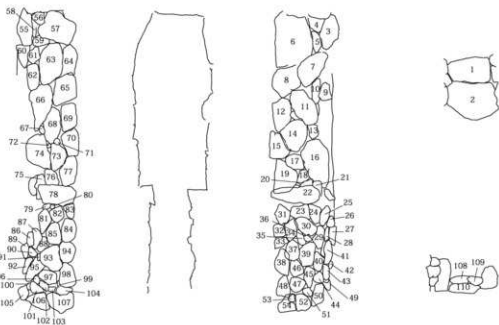
石室基部



掘方平面図



0 1:60 2m



第287图 3号墳石室基部・掘方平面図、石材番号図

表93 3号墳石室石材計測表

番号	重量 (kg)	縦 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	石種	備 考
1	275	7.9	39.5	71	磨製	
2	310	101	56	64.5	磨製	
3	90	69	30	38.5	磨製	
4	73.6	35.5	56	37.5	磨製	
5	26	38	13.5	29.5	磨製	
6	530	116	64	59	磨製	
7	125	72	34	34.5	磨製	
8	200	37	44.5	53	磨製	
9	20.2	22	13	39.5	磨製	
10	49.1	47	14	46.5	磨製	
11	115	46.5	70	49.5	磨製	
12	150	60	35	44	磨製	
13	17.3	未計測	未計測	未計測	磨製	
14	123.3	54.5	45	33.5	磨製	
15	66.1	44	34	42	磨製	
16	233	84	45	49	磨製	
17	21.8	27	30	22.5	磨製	
18	20.8	25.5	17	39.5	磨製	
19	98	67	40	39.5	磨製	
20	60	41.5	27.5	58	磨製	
21	24	19.5	17.5	38	磨製	
22	110	33.5	86	28	磨製	
23	54.4	26	35.5	19.5	磨製	
24	27	34	22	44	磨製	
25	23.5	34.5	19.5	46	磨製	
26	8	18.5	19	14.5	磨製	
27	33.1	34	15	48.5	磨製	
28	12.4	24	12.5	27.5	磨製	
29	51.4	42.5	20	48.5	磨製	
30	46.8	26	42	38	磨製	
31	63.5	38	39	270	磨製	
32	34	24	23	49.5	磨製	
33	27.9	30	17	39	磨製	
34	35.8	40	23	34	磨製	
35	27.6	27	18	37	磨製	
36	5.5	8	12.5	25	磨製	
37	28.6	32	25	33	磨製	
38	68.4	50	28	49.5	磨製	
39	56.2	46	28	38.5	磨製	
40	55	36	29	46	磨製	
41	30.6	43	48	19	磨製	
42	2.2	13.5	6	13.5	磨製	
43	29.7	35	48	13	磨製	
44	16.4	20	19	29	磨製	
45	45.6	41.5	21.5	41	磨製	
46	59.1	34	24	36	磨製	
47	29.7	28	28	35	磨製	
48	41.9	42	26	27	磨製	
49	1	9.5	5	13.5	磨製	
50	100	42.5	29.5	69	磨製	
51	10.2	17	14.5	29	磨製	
52	75	35.5	36	35.5	磨製	
53	5.5	10	10	21.5	磨製	
54	110	31	69	29.5	磨製	
55	110	76.5	35	40	磨製	
56	48.2	22.5	26	47	磨製	
57	265	35.5	58	70	磨製	
58	0.5	11.5	3	7.5	磨製	
59	56.5	18.5	30	60	磨製	
60	36	31.5	18	32.5	磨製	
61	80	32	18.5	67.5	磨製	
62	70	47.5	20	50	磨製	
63	165	28.5	41	44	磨製	
64	90	46	23	58.5	磨製	
65	160	50	48	37	磨製	
66	110	89	39.5	41	磨製	
67	3.22	15	7	22	磨製	
68	120	61.5	33	45.5	磨製	
69	80	45	29	32	磨製	
70	53.7	43	22	35.5	磨製	
71	4.9	13	12.5	24	磨製	
72	2.9	14	9	16.5	磨製	
73	70	54	28	35.5	磨製	
74	150	64	42	44.5	磨製	
75	22.2	44	20.5	23	磨製	
76	41.5	38	39	39.5	磨製	
77	80	53	29	41.5	磨製	
78	127	39	49.5	44	磨製	
79	3.4	9	7.5	26	磨製	
80	4	9	14.5	27	磨製	
81	27.5	45	22.5	40	磨製	
82	39.2	30	23	41	磨製	
83	23.5	31	27	25	磨製	
84	39.3	41	27	27	磨製	
85	51.8	35	30	40	磨製	
86	9.8	24.5	11.5	26.5	磨製	
87	29.7	37	13	34	磨製	
88	17.3	24.5	16.5	32	磨製	
89	11.4	28	15	21	磨製	
90	23.5	20	12	48	磨製	
91	31.4	28	28	46	磨製	
92	0.4	13	4	6	磨製	
93	59.1	46	34	31	磨製	
94	44.5	36	29	30	磨製	
95	55	44	18	51.5	磨製	
96	11.7	15	14	33.5	磨製	
97	90	23	33.5	54.5	磨製	
98	58.1	45	29	27	磨製	
99	3	14	8.5	16	磨製	
100	1.1	12	7	10	磨製	
101	15	12	26.5	32	磨製	
102	7.2	10	20	23.5	磨製	
103	7.4	14	12	35	磨製	
104	21.4	27	15	42	磨製	
105	32.1	20	18.5	60.5	磨製	
106	85	35.5	30	70	磨製	
107	80	50	28	65.6	磨製	
108	14.8	25	15	32	磨製	
109	21.4	47	15	30	磨製	
110	67.5	58	25	34	磨製	

時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

4号墳 (第288～294・335図、表94・102、PL.73～77・149)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77m付近、本調査区(5)の中央東端に位置する。墳丘の北東側およそ半分は調査区外となるが、東武鉄道を挟んだ(7)―1区の西端で、本墳の周堀の一部が検出されている。

調査前の現況は、僅かな地形の高まりとして確認ができる程度で、かなり削平された状況にあった。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」蔵塚本町第109号墳に相当する。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第288図)

墳丘の周縁部を重複する溝によって壊されているため、規模は不明であるが、残存する墳丘のあり方から、直径17m前後の円墳と考えられる。

葦石等は検出されていないが、前庭の翼垣の一部が残存する。

(2) 周堀 (第288図)

(5)の調査区内で検出された周堀は、墳丘の南部から西側にかけてであり、北側には明確な掘り込みは検出されていない。検出された周堀の内縁は弧状を呈するが、外縁は不整形で、周堀の幅は一定していない。規模は、最広で幅11.8m、最狭で幅4.7mを測り、底面の最深は0.58mを測る。壁は、全体に緩やかに立ち上がる。また、(7)―1区の西端で、本墳の周堀の一部が検出されていることから、墳丘を取り巻く周堀の形状は、かなり不整形にあると推測される。

埋土は、As-C軽石およびHr-FPを含んだ暗褐色土がベースで、上層にAs-B軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

なお、周堀内からは、僅かではあるが土器片が出土している。

(3) 葦石

墳丘周縁の残存が悪く、葦石の状況は不明である。現存するのは、羨門に続く前垣と、僅かに残る翼垣の一部である。

3. 前庭

(1) 概要 (第291図)

前庭部の大半が、重複する8号溝および攪乱、削平を受けていることから、規模・形状等は不明。僅かに残存するのは、前垣と西側翼垣の接続部分である。また、前庭床面には、羨門の閉塞石と思われるやや大型の亜円礫が崩落した状況で検出されている。

なお、前庭部からの出土遺物はない。

(2) 前庭の石積壁 (第291図)

石積みの残存状況は、極めて悪い。僅かに残存する西側翼垣は、前垣と接続する部分に大型の扁平な亜円礫を平置きし、その上に小型な亜円礫を積み上げている。この接続位置は、羨門の石材幅が見える位置にある。

4. 石室

(1) 概要 (第292図)

石室は、両袖型横穴式石室である。石室の全長は6.40m、玄室長は主軸位置で3.53m、玄室幅は中央位置で1.50m、玄室壁の最高残存値は0.86mを測る。

羨道の長さは主軸位置で2.87m、羨道幅は中央位置で0.81m、羨道壁の最高残存値は0.56mを測る。

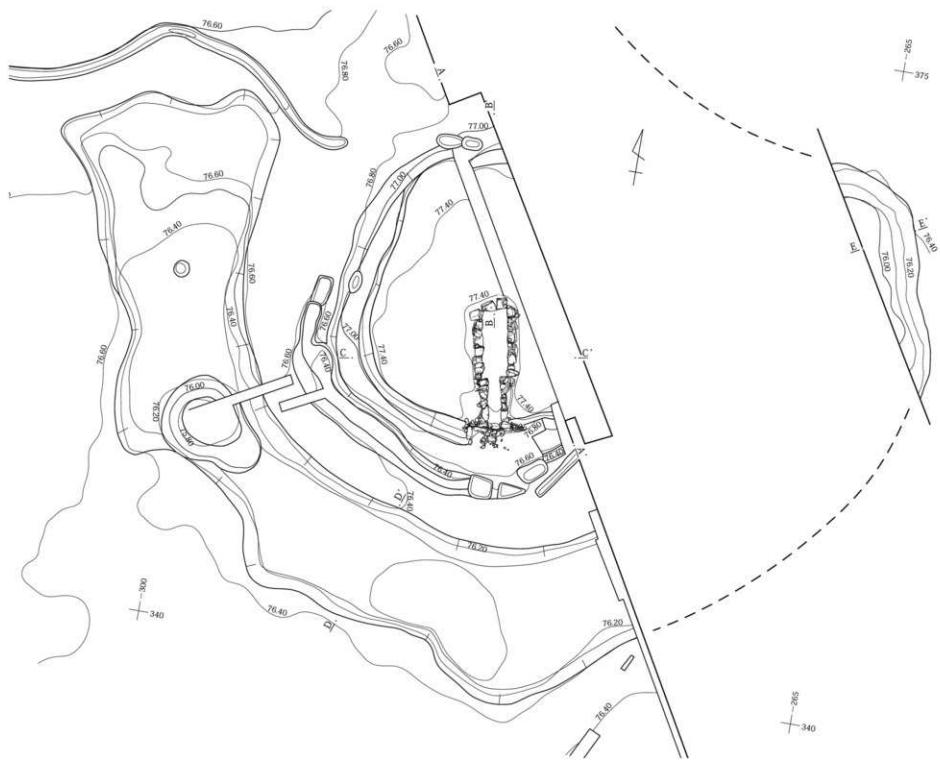
残存状況は比較的良く、玄室および羨道の側壁は2段目までが部分的に残存している。

(2) 羨道部の閉塞状況 (第291図)

羨道部の閉塞は、羨門を直径30～50cmの亜円礫と直径15cm以下の亜円礫を主体にランダムに積み上げて塞ぎ、その一部が前庭側に崩落した状況が見られた。また、羨道内の閉塞は、羨道中央から羨門側に寄せて閉塞石が積まれる状況にある。

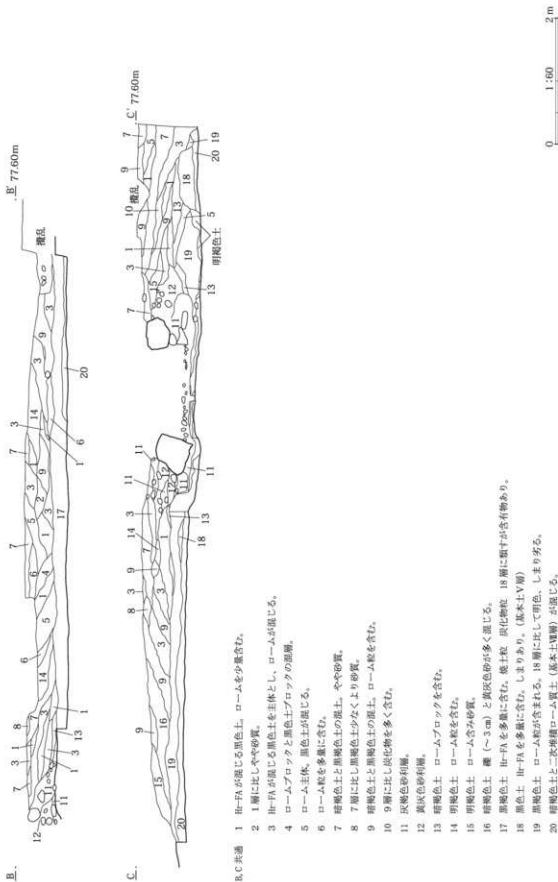
(3) 石室内における遺物出土状況 (第293図)

玄室東側壁中央際の床面上から、鉄鏃、刀の小片、



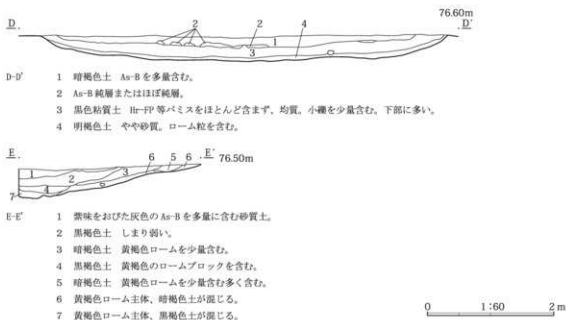
0 1:200 10m

第288图 4号墳丘平面圖・断面圖



- B, C 共通
- 1 Ⅱ-Aが混じる黒色土、ロームを少量含む。
 - 2 1層に比し、やや砂質。
 - 3 Ⅱ-Aが混じる黒色土を主体とし、ロームが混じる。
 - 4 ロームブロックと黒色土ブロックの混層。
 - 5 ローム主体、黒色土が混じる。
 - 6 ローム粒を多量に含む。
 - 7 暗褐色土と黒褐色土の混土、やや砂質。
 - 8 7層に比し、黒褐色土が少なくより砂質。
 - 9 暗褐色土と黒褐色土の混土、ローム粒を含む。
 - 10 9層に比し、炭化物を多く含む。
 - 11 灰褐色砂粘層。
 - 12 黒灰色砂粘層。
 - 13 暗褐色土、ロームブロックを含む。
 - 14 明褐色土、ローム粒を含む。
 - 15 明褐色土、ロームを含み砂質。
 - 16 暗褐色土、Ⅱ (~3cm) と黒褐色土が多く混じる。
 - 17 黒褐色土、Ⅱ-Aを多量に含む、炭土粒、炭化物粒、18層に数十が含有物あり。
 - 18 黒色土、Ⅱ-Aを多量に含む、しまりあり。(基本土V層)
 - 19 明褐色土、ローム粒が含まれる。18層に比して明色、しまり劣る。
 - 20 暗褐色土と二次堆積ローム質土(基本土V層)が混じる。

第288図 4号墳墳丘・周堀土層断面図



第290図 4号墳墳丘・周堀土層断面図

刀装具の鞘金具、蠅目金具等の金属・金銅製品、金銅製の耳環等の遺物が出土している。

さらに、床面直上からは人骨も出土しているが、残存状況が極めて悪い。耳環の出土数からして、複数の被葬者があった可能性をもつ。

(4) 石室床面の状況 (第292図)

玄室の床石は、石室の構築面上に敷設されており、補石はもたない。径5～15cmの玉石が敷き詰められ、奥壁付近では10cm程の厚さを測る。

また、玄室内の玄門付近から羨道中央にかけての床石はなく、欄石も検出されていない。このことから、羨道内は床石を敷設していない可能性もある。

(5) 石室の平面および立面の状況 (第291・292図)

開口方向 南南東方向に開口する。S-10°-Eを指す。

平面形状 玄室は両袖型で、短冊形を呈する。羨道は、両側壁がほぼ平行である。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で3.53m、西側壁3.58m、東側壁3.62mを測る。

玄室幅：奥壁1.30m、中央位置1.50m、袖付近1.38

mを測る。

羨道長：主軸位置で2.87m、西側壁2.86m、東側壁2.87mを測る。

羨道幅：玄門付近で0.72m、中央位置0.81m、羨門付近で0.70mを測る。

立面形状 第291図の石室断面で確認できるように、玄室・羨道は僅かに転びをもつ。

立面規模 各箇所に残存する最高値は、次の通りである。

玄室高：奥壁0.82m、西側壁0.86m、東側壁0.64mを測る。

玄門高：玄門西側0.73m、玄門東側0.81mを測る。

羨道高：西側壁0.56m、東側壁0.51mをはかる。

羨門高：羨門西側で0.60m、羨門東側で0.59mを測る。

上記の数値から推測される石室の立面規模は、玄室高が $0.86m + \alpha$ m、羨道高が $0.60m + \alpha$ mとなる。

石材の種類 表94に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどに溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。た

だし、玄門に使用された石材は、長方体状の石材であることから、何らかの面取り加工が施された可能性をもつ。

壁面の構成 残存する玄室の奥壁は、2石の溶結凝灰岩で壁面を構成し、置き方は2列の横積みである。

玄室側壁は、大きさにばらつきはあるが、大型の溶結凝灰岩の割石を使い、基底となる根石の置き方は横積みと平積みを主とし、2段目は小口積みが多い。側壁は2段目まで残存し、各個の石の間に小石を目詰めている。

玄門東側は幅36.0cm、高さ101.0cm、奥行き61.0cm、玄門西側は幅37.0cm、高さ88.0cm、奥行き66.0cmの溶結凝灰岩の割石を用いて立柱石状としている。

羨道側壁は、溶結凝灰岩の割石を使い、基底となる根石の置き方は平積みを主とし、残存する2段目も平積みである。

なお、羨門は、2段目までが残存し、65度の角度で面が揃えられている。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第288図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸方向、主軸に直交する3本のベルトを残して土層断面の観察を行った。

(2) 墳丘の盛土 (第289図)

盛土の種類は、大きく「黒色土」、「黒褐色土」、「暗褐色土」、「灰黄褐色砂利層」に分層できる。

盛土の単位は、層厚が5～25cmと幅をもつが、層厚15cm前後の層が多い。石室周りには、礫を多く含む灰黄褐色砂利層が巡り、裏込め様のあり方を示す。

なお、前庭に翼垣が残存していることから、本墳は周囲に基壇を巡らせた2段築成であったと思われる。

(3) 石室石材 (第294図、表94)

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特

徴は、次の通りである。

石材の種類 溶結凝灰岩を用いる。

石材の規模 個々の石材重量は、0.6～467kgを量る。

残存する石材の内、200kg以上の重量のものは13石あり、60～100kgを量る石材も多い。

石材の形状 主体をなす形状は、キャメル形とサイコロ状を呈する。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれも粗割のみで、明確な加工痕は確認できなかった。

石材の諸属性と積み方の関係 奥壁、玄門、羨門には200kg以上のより大型な石材を用い、側壁の基底石にも300kgを越す大型の石材が使用されている。これらの大型石材は、平積みおよび横積みを主とし、やや小振りな石材には小口積みが見られる。

(4) 石室根石 (第293図)

石室の根石(基底石)は、すべての石材が石室掘方面に直置きされていたが、その周囲には径5～30cmほどの栗石が取り巻いている。なお、石材を置く順序は不明である。

(5) 石室構築面 (第274図)

構築面の断面状況は、断面B—B'、D—D'で知ることができるが、不明な点が多く、貼り床の有無は確認できていない。

(6) 石室・前庭掘方 (第276図)

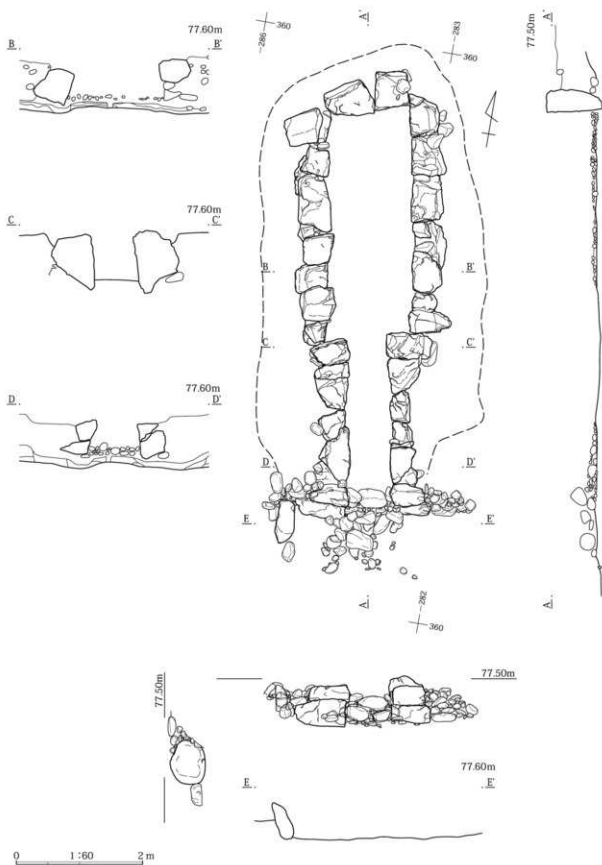
石室掘方は、平面形が隅丸長方形を呈する竪穴状で、規模は南北長約9.2m、東西長3.5m、玄室の最深部は27cmを測る。底面の凹凸は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦である。

前庭掘方は、不明である。

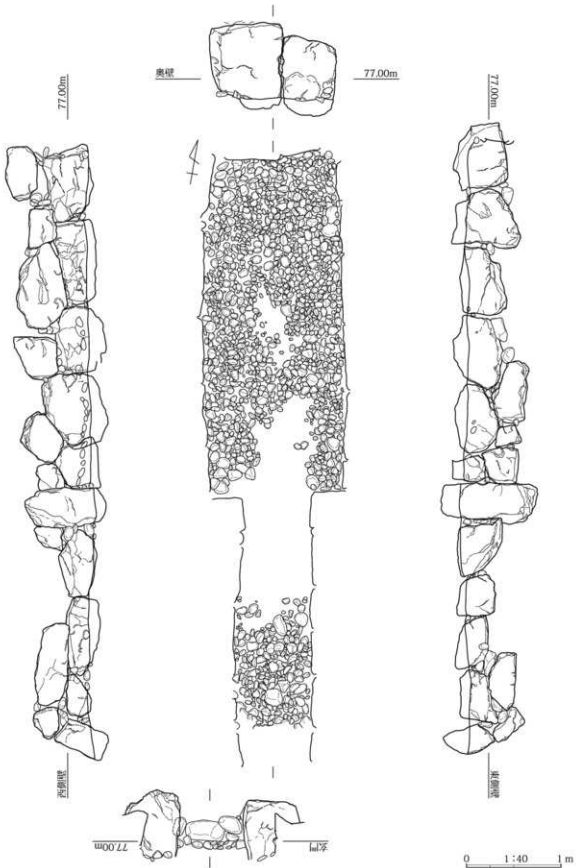
(7) 墳丘盛土下地山面

墳丘盛土下地山面からは、古墳築造に伴う関連遺物等は存在しなかった。しかし、墳丘下からは、先述した3～5号畚跡が検出されており、本墳との新旧関係は明らかである。

第5章 古墳群

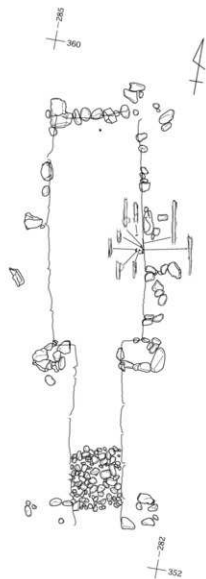


第291图 4号墳石室上面・前庭展開図



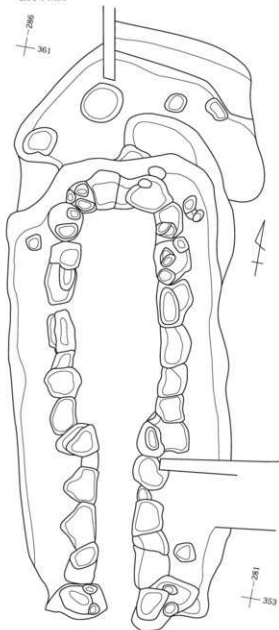
第292図 4号墳石室展開図

遺物分布図



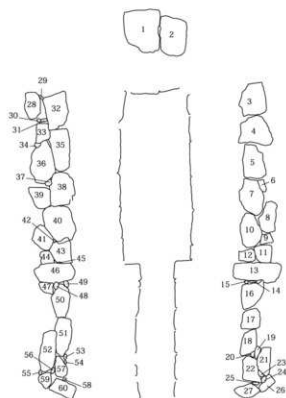
0 1:60 2m

掘方平面図



第293図 4号墳石室遺物分布図・掘方平面図

第2節 検出された遺構と遺物



第294図 4号墳石室石材番号図

表94 4号墳石室石材計測表

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備考
1	467	85	65	60		磨板	
2	385	57	82	37		磨板	
3	275	63	53	40	平積	磨板	
4	305	56	60	47	平積	磨板	
5	385	70	43	52	平積	磨板	
6	10.5	22	32	23	横積	磨板	
7	247	70	48	45	平積	磨板	
8	140	60	34	46	横積	磨板	
9	35	18	23	38	小口積	磨板	
10	142	71	44	33	平積	磨板	
11	102	35	36	50	小口積	磨板	
12	75	26	32	44	小口積	磨板	
13	342	36	101	41	横積	磨板	
14	0.1	4	5	4.5			*ダブリ
15	0.2	4.5	6.5	5			*ダブリ
16	134	49	49	43	平積	磨板	
17	81	39	45	26	平積	磨板	
18	90	46	29	21	平積	磨板	
19	11.9	21	8	36	小口積	磨板	
20	0.6	10	8	8.5			
21	70	57	30	29	横～平	磨板	
22	221	53	33	37	平積	磨板	
23	1.8	15	7.5	15			
24	3.3	15.5	7	23			
25	1.3	14	5	17			

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備考
26	65	40	19	54	小口積	磨板	
27	169	28	42	58	小口積	磨板	
28	126	50	31	53	小口積	磨板	
29	1.1	4.5	8.5	16			
30	3	11	7.5	22			
31	1.5	10.5	4.5	16			
32	284.4	71	43	42	横積	磨板	
33	52	41	29	36	横積	磨板	*ダブリ
34	1.2	18	3	19	小口積	磨板	
35	245	84	38	44	横～平	磨板	
36	258	90	49	45	平積	磨板	
37	6.9	15	8	35	小口積	磨板	
38	189	71	48	31	平積	磨板	
39	95	46	38	45	横～平	磨板	
40	287	73	57	50	平積	磨板	
41	139	48	40	46	小口積	磨板	
42	1.9	32	6	15			
43	122	57	40	36	平積	磨板	
44	26.5	34	21	30	横～平	磨板	
45	6.8	10	7	12	小口積	磨板	
46	246	37	88	60	横積	磨板	
47	36	22	31	37	小口積	磨板	
48	7.8	19	11	27			
49	7	29	9.5	26			
50	179	71	36	49	平～横	磨板	
51	152	未計測	32	30	平積	磨板	
52	136	93	31	47	平積	磨板	
53	16.3	20	23	31			
54	1.9	13.5	5.5	14			
55	6.9	14	5	10.1			
56	5.7	18	7	24			
57	88	44	25	43	横積	磨板	
58	3.4	16	7	21			
59	75.4	33	28	59			
60	215	29	53	75	小口積	磨板	

6. 重複する遺構との新旧関係

本墳は、羨門と周堀までの間に29号住居（古墳時代後半）と30号住居（古墳時代前半）が下層より検出され、石室西側の墳丘下からは3～5号畚跡が検出されている。しかし、何れの遺構よりも本墳の方が新しい。

7. 出土遺物（第335図、表102、PL.149）

(1) 土器

出土した土器4点を図示したが、1・2・4は周堀内から、3は表土中から出土した。1は須恵器の甕で、胴部にカキ目と波状文が巡る。2は須恵器の平底で、胴下半がへら削り。3は高坏の脚部で、4は甕の口縁部片である。

(2) 金属製品

図示した製品には、鉄鏃13点、刀の破片1点、刀子1点、刀装具3点、不明な鉄製品3点、金銅製の耳環3点がある。

鉄鏃には、長頸片刃鏃3点、刃部を欠損する長頸鏃ないし基部を主に残存する長頸鏃10点を数えるが、図示できなかった鉄鏃片もある。これらの長頸鏃の基部には、木質が残存のものが見られる。

刀の破片（第335図19）は柄部で、目釘（鉄製）が残存する。

刀子は、第335図18の木質を残す基部。

刀装具には、第335図20・21の鞘尻金具2点と、第335図22の金銅製の鴨貝金具1点がある。

他に、用途不明なやや細目な大きく湾曲する鉄製品が3点、さらに金銅製のやや大きな耳環1点および小さな耳環2点の計3点がある。

これらの大半が、玄室内から出土している。

8. 時期

墳丘の形状および出土遺物から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

5号墳（第295・336図、表103、PL.78・149）

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77m付近、本調査区（5）の中央東端に位置する。先述した3号墳と共に古墳群の南端にあたり、4号墳の南側にある。墳丘の東側半分は調査区外となるが、東武鉄道を挟んだ（7）—1区の西端で、本墳の周堀の一部が検出されている。

調査前の現況は、かなり削平された状況にあった。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」藪塚本町第112号墳に相当する。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘（第295図）

墳丘は、削平が著しく、残存していなかった。しかし、墳丘の周囲を取り巻く周堀の内縁が弧状を呈していることから、径20m前後の円墳であったものと思われる。

(2) 周堀（第295図）

（5）の調査区内で検出された周堀は、墳丘の西半であり、南側は明確な掘り込みは無く途切れる。検出された周堀の内縁は弧状を呈するが、外縁は不整形で、周堀の幅は一定していない。規模は、最狭で幅10.7m、最狭で幅2.3mを測り、底面の最深は0.38mを測り浅い。壁は、全体に緩やかに立ち上がる。また、（7）—1区の西端で、本墳の周堀の一部が検出されていることから、墳丘を取り巻く周堀の形状は、かなり不整形であると推測される。

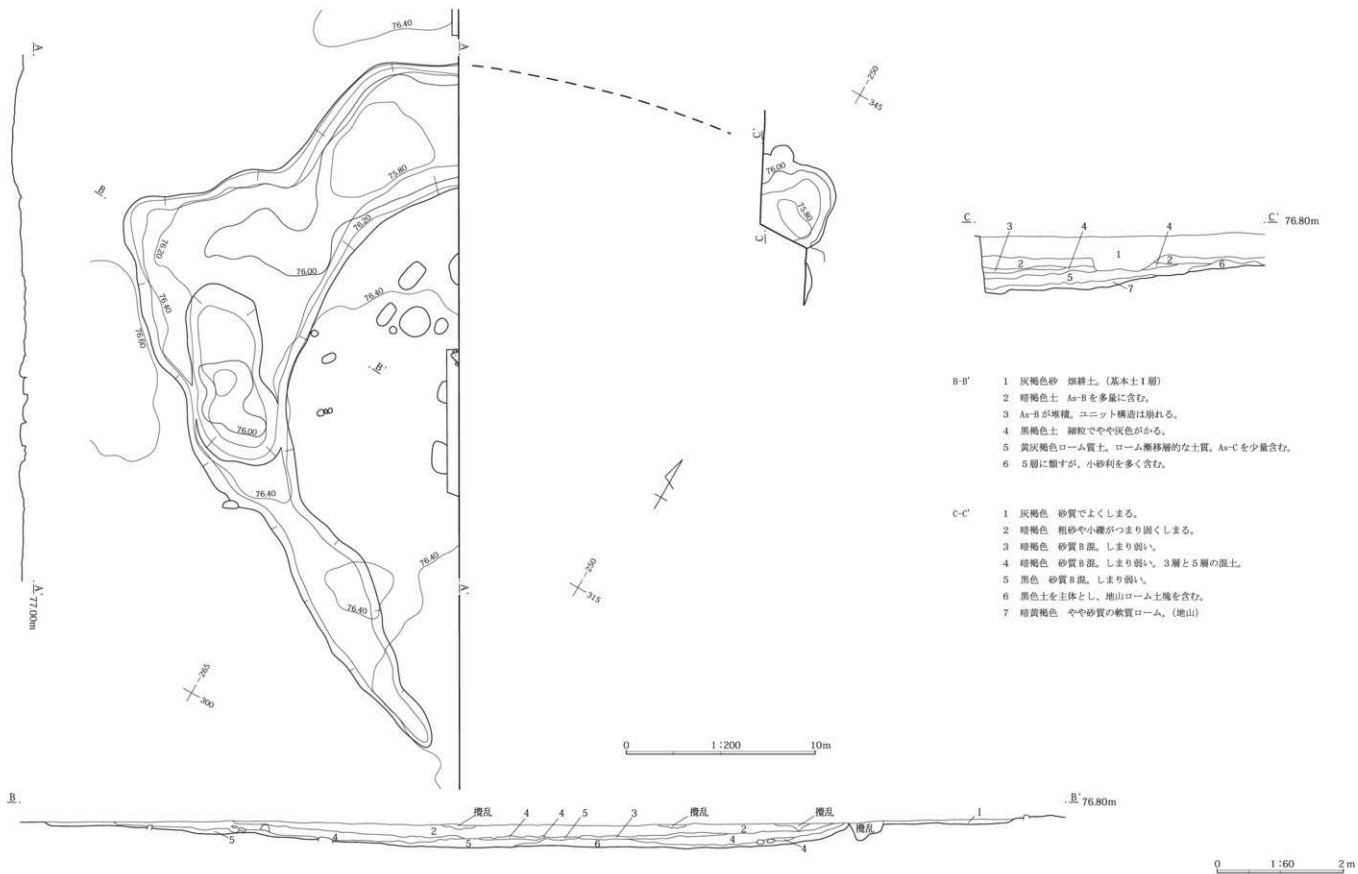
埋土は、As-C 軽石を含んだ黒褐色土がベースで、上層にAs-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況

鉄鏃1点が出土している。

4. 石室

石室は確認できなかった。石室が想定される位置には掘乱坑が連続しており（第89図に示した6号住居跡の土層断面）、削平時に石室の側壁を抜き取った痕跡の可能性はある。



- B-B'
- 1 灰褐色砂 畑耕土。(基本土1層)
 - 2 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
 - 3 As-Bが堆積。ユニット構造は崩れる。
 - 4 黒褐色土 細粒でやや灰色がかる。
 - 5 黄灰褐色ローム質土。ローム漸移層的な土質。As-Cを少量含む。
 - 6 5層に懸桁が、小砂利を多く含む。

- C-C'
- 1 灰褐色 砂質でよくしまる。
 - 2 暗褐色 粗砂や小礫がつまり固くしまる。
 - 3 暗褐色 砂質B泥。しまり弱い。
 - 4 暗褐色 砂質B泥。しまり弱い。3層と5層の混土。
 - 5 黒色 砂質B泥。しまり弱い。
 - 6 黒色土を主体とし、地山(ローム)土塊を含む。
 - 7 暗黄褐色 やや砂質の軟質ローム。(地山)

第295図 5号墳墳丘平面・断面図、周堀土層断面図

5. 重複する他遺構

墳丘下となる石室下に6号住居(古墳時代後半)、墳丘下ないし周堀に重複して42~44号住居(古墳時代後半)が検出されている。

6. 出土遺物(第336図、表103、PL.149)

(1) 土器

須恵器の坏身1点、碗形の手握ね土器1点が出土している。

(2) 鉄製品

周堀の埋土中から出土した鉄鏃1点のみで、雁股型の半完形品である。

7. 時期

他の古墳と同様に、7世紀代の築造の可能性が高い。

6号墳(第296・337図、表104、PL.78・149)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77.6m付近、本調査区内(7)―1区の北西隅に位置する。後述する14・15号墳と共に古墳群の東端にあたり、9号墳の北東側にある。墳丘の西側半分は調査区外となり、その規模等は不明。

調査前の現況は、ローム面まで削平された状況にあって、極めて残存状況が悪い。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」蕨塚本町第104号墳に相当する可能性をもつが、「上毛古墳総覧」に記載の位置と検出された本墳の位置が若干ずれていることから、104号墳とは別な古墳の可能性もある。ちなみに、本墳が104号墳とは別の古墳であれば、104号墳は完全に削平され、消滅したことになる。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘(第296図)

墳丘は、削平が著しく、残存していなかった。しかし、墳丘の周囲を取り巻く周堀の内縁は弧状を呈していることから、径15m前後の円墳であったもの

と思われる。

(2) 周堀(第296図)

検出された周堀は、墳丘の東半であり、墳丘を取り巻くように巡る。検出された周堀の内縁は弧状を呈するが、外縁はやや不整形気味な弧状。規模は、最狭で幅7.0m、最狭で幅3.5mを測り、底面の最深は0.6mを測り深い。壁は、全体に緩やか気味に立ち上がる。

埋土は、As-B軽石を含んだ黒色土がベースである。

(3) 周堀内における遺物出土状況

土師器の細片と、鉄製の釘1点が出土している。

4. 石室

墳丘位置はローム面まで削平されており、調査区内では石室を確認できなかった。

5. 出土遺物(第337図、表104、PL.149)

(1) 土器

細片のため図示できなかった。

(2) 鉄製品

図示した鉄製の釘1点、周堀の埋土中から出土した。

6. 時期

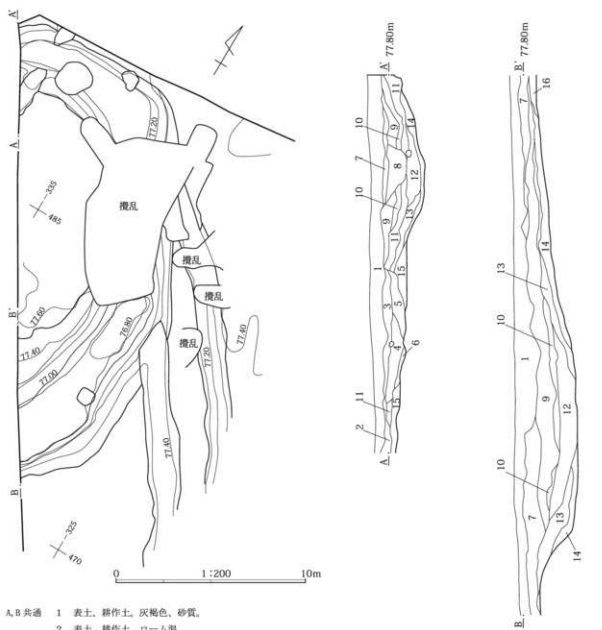
他の古墳と同様に、7世紀代の築造の可能性が高い。

7号墳(第297~303・338~340図、表95・105、PL.79~83・149・150)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高78m付近、調査区(5)の中央よりやや北西端に位置し、北東側に11号墳、南東側に1号墳が近接する。

調査前の現況は、本墳の南側となる畠の地境で本墳側が一段高くなっていたが、墳丘は削平され、平坦となっていた。また、主体部と思われる辺りには、大振りの滑結凝灰岩が1石露出している状況であっ



- A, B共通
- 1 表土、耕作土。灰褐色、砂質。
 - 2 表土、耕作土。ローム混。
 - 3 暗褐色砂質土とロームブロックの混土、ロームブロックが多い。
 - 4 3層と同質だがロームブロックが少ない、ローム土が増える。
 - 5 全体に暗黄褐色砂質土、ローム土が多く、ロームブロック少量混じる。
 - 6 暗褐色砂質土 ロームブロックなし。
 - 7 暗褐色B混 白色粒が多量に混じる。
 - 8 黒色B混 焼土粒、焼土ブロックを多く含む。
 - 9 黒色B混 白色粒が少量混じる。
 - 10 黒色B混 灰白色砂層混入。
 - 11 黒色B混 ロームブロック、ローム塊が混じる。
 - 12 黒色B混 夾雑物特になし。
 - 13 褐色土 黒色土にローム土が少量混じる。ローム塊を少量含む。
 - 14 暗黄褐色土 ローム土主体で黒色土が少量混じる。
 - 15 褐色砂質土 砂質ロームと黒色土が混じる。
 - 16 暗褐色砂質土 砂質ロームと黒色土が混じる。黒色土がやや多い。

第296図 6号墳平面図、周堀土層断面図

た。

なお、本墳は『上毛古墳総覧』には記載されていないが、その後の町誌編纂時の調査で確認された古墳(第268図)である。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘(第297図)

墳丘の規模は、主軸方向で21.0mを測る円墳である。墳丘の中心は、石室の奥壁の位置となる。現存する墳丘は、前庭の先端に接続し、墳丘の東側外縁を巡る葺石、および葺石の残存しない西半であり、基壇までが現存しているものと思われる。この東側外縁を巡る葺石は、高さ0.66mを測る。

また、前庭部上面には大量の垂円礫が崩落した状態で出土しており、墳丘の前面が葺石で覆われていた可能性をもつ。状況的には、基壇を有する2段築成であった可能性が高い。

(2) 周堀(第297図)

検出された周堀は、墳丘を巡る東半であり、西半は調査区外となる。周堀の内縁は、弧状を呈するが、残存する葺石との間に0.5~0.7m前後の平坦面が帯状に巡る。外縁はかなり不整形で、特に南側は上幅12.8mと大きく広がり、11号墳と近接する辺りでも不整に広がる。概ね、5.0m前後幅の周堀と思われる。底面は深さ0.89~0.46mを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

埋土は、As-C軽石およびHr-FPを含んだ黒褐色土がベースで、上層にAs-B軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況(第338図)

周堀内から出土した土器には、細片が多い。図示した1は、周堀上位からの出土である。

(4) 葺石(第299図)

先述したように、基壇外縁の東半に葺石が残存する。残存状況は比較的良く、高さ0.66m前後を測り、前庭の東翼垣端部に接続する。

基壇の葺石と東翼垣端部が接続する角には、長さ30~50cmほどの扁平な礫を縦列方向に8段積み上げ

ている。この連結部分から続く東半縁の基壇葺石は、基底に長い扁平な礫ないし人頭大の垂円礫を平置きし、その上段の葺石の積み方には規則性が見られる。それは、ある程度の間隔をもって3~4列を20cm前後の垂円礫で縦列方向に7ないし8段積み上げ、その縦列の間隔間に10~20cmほどの垂円礫をランダムに充填するように積み上げている。

3. 前庭

(1) 概要(第274図)

前庭の平面形は、南側が開く台形を呈する。前庭の中軸の長は、2.30mを測る。各部位の計測値は、前垣幅(推定)2.60m、西側前垣幅0.90m、東側前垣幅(推定)0.95m、前垣高0.75mを測り、西側翼垣長2.55m、東側翼垣長(推定)2.75m、翼垣高0.55m、前庭の先端幅は3.60mを測る。前庭の西側開口度は100度である。

なお、前庭部上面には大量の垂円礫が崩落した状態で出土している。

(2) 前庭部における遺物出土状況

出土遺物には、第340図に示した鉄鏝3点が出土している。

(3) 前庭の石積壁(第300図)

石積みの残存状況は概ね良好ではあるが、東側翼垣の大部分が残存していない。残存する西側翼垣では、基底に長さ40~75cmの大型の垂円礫を用い、2段目以上は15~30cmの垂円礫を積み上げており、前垣に接する付近で4段目までが確認できる。

翼垣の高さは、西側翼垣では前垣との接点部が最も高く、南の先端側へ高さを減じる状態での残存であるが、東側翼垣は先端の基壇葺石との連結部付近しか残存していない。しかし、基壇葺石の残存状況と、前庭底面がほぼ平坦である状況からすると、翼垣の高さは前垣との接点部から先端部にかけて余り差のない状況が窺える。

4. 石室

(1) 概要 (第275図)

石室の残存状況は、あまり良くない。玄室内の奥壁および東側壁の大部分、さらに玄門の石は抜き取られている状態で、石室の形状は判断し難い。抜き取られた痕跡からすると、無袖型ないし片袖型の横穴式石室である可能性がある。

石室の規模は、推定で全長7.33m、玄室の長さは主軸位置で4.30m、玄室幅は中央位置で1.72m、玄室壁の残存値は0.51mを測る。羨道長は主軸位置で3.03m、羨道幅は中央位置で0.96m、羨道壁の残存値は0.63mを測る。

なお、残存する玄室の側壁は基底の1段目のみであり、羨道側壁は一部に2段目までが残存する。

(2) 羨道部の閉塞状況 (第300図)

閉塞石は、羨門付近のみに検出され、羨道内部には検出されていない。羨門を塞ぐ閉塞石は、直径70cmほどの亜角礫1石が残存し、その隙間を直径20cm以下の亜円礫を充填している。

(3) 石室内における遺物出土状況

石室内は奥壁や側壁が抜き取られている状況からして、その残存状況は悪い。出土した遺物は、玄室内から鉄鏝1点、刀子片1点、鉄釘1点、白玉1点、板状の鉄製品1点が出土している。

羨道内からは、遺物の出土はなかった。

(4) 石室の平面および立面の状況 (第300-301図)

開口方向 ほぼ南方向に開口する。S-7'-Wを指す。

平面形状 玄室は無袖型ないし片袖型で、短冊形を呈する。羨道は羨門側に向かってやや窄まり気味となる。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で推定4.30mを測る。側壁の長さについては不明。

玄室幅：奥壁の幅は不明。中央位置で1.72mを測るが、袖付近は不明。

羨道長：主軸位置で推定3.03mを測る。

羨道幅：玄門付近は不明。中央位置で0.96m、羨門付近で0.73mを測る。

立面形状 玄室は僅かな転びをもつと思われるが、基底石のみの残存であるため、不明。

羨道部は側壁の状況から僅かな転びをもつ。

立面規模 壁面の残存状況が悪く、各箇所に残存する最高値は次の通りである。

玄室高：側壁は0.51mを測る。

羨道高：西側壁0.63m、東側壁0.60mを測る。

羨門高：西羨門0.60m、東羨門0.48mを測る。

石材の種類 表95に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどに溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。

壁面の構成 玄室の奥壁は、抜き取られていたため不明。玄室の残存する側壁は基底石のみで、一辺が8~87cmほどの溶結凝灰岩の割石を用い、置方は小口積または横積である。各個の石の隙間に小石を充填している。玄門の石は残存していない。

羨道の側壁は、直径5~75cmほどの溶結凝灰岩の割石を使い、一部に2段目が残存している。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第297図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸方向、主軸に直交するベルトを残して土層断面の観察を行った。

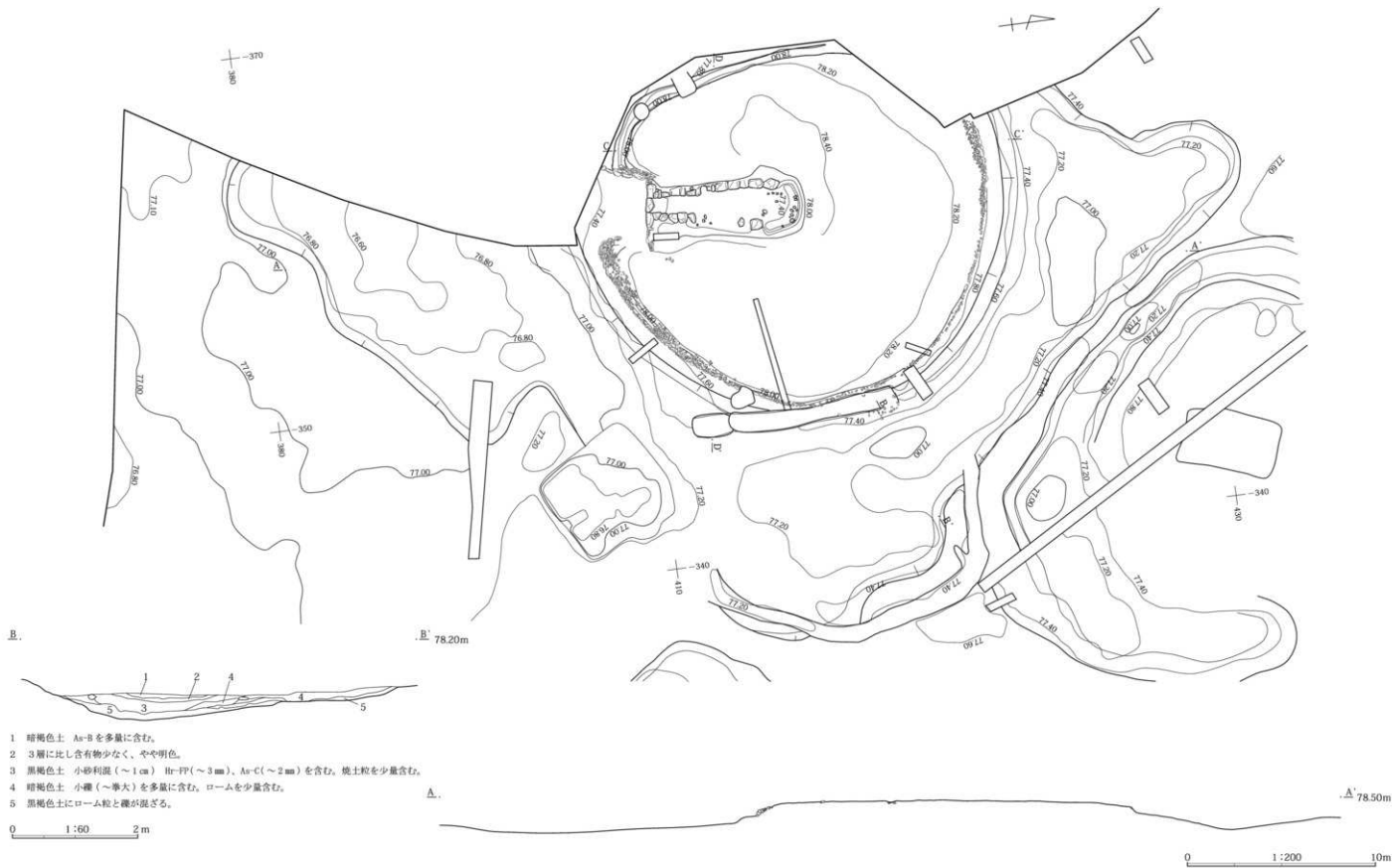
(2) 墳丘の盛土

盛土の種類は、大きく「黒色土」「黒褐色土」「暗褐色土」「明褐色土」「灰褐色・黄灰色砂利層」に分層できる。

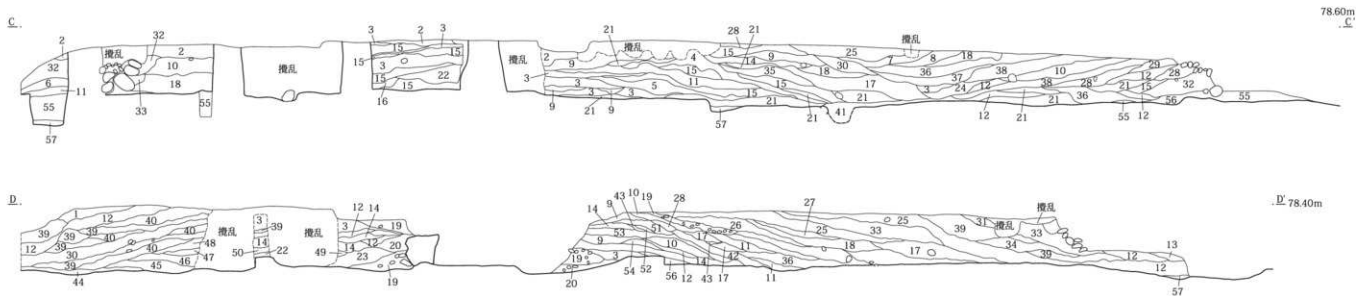
盛土の単位は、層厚が10~30cmと幅をもつが、層厚15cm前後の層が最も多い。石室周りは、灰褐色砂利層と黄灰色砂利層を交互に盛土し、礫を多く含んでいることから、裏込め様のあり方を示す。

そして、この周囲を黒色土、黒褐色土、暗褐色土を主体に被覆し、盛土を行っている。

なお、墳丘断ち割り調査の結果、前庭の前垣部の

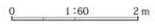


第297図 7号墳墳丘土層断面図



- C, D 共通
- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 明褐色砂質土 黄灰色砂を含む。 | 31 明褐色砂質土。小礫を多く含む。 |
| 2 暗褐色土 黄灰色砂質ロームブロックを含む。 | 32 31層に比して強くしめる。 |
| 3 ローム主体。(少量の黒褐色土を含む) | 33 31層に比してやや黒味を帯びる。 |
| 4 黄灰色砂質ロームが主体。(粒子の流れが確認できるので、分離) | 34 31層に比して色調が明色。 |
| 5 やや暗褐色土を多量に含む。 | 35 暗褐色土+ローム粒 焼土粒。炭化物粒。 |
| 6 砂質ローム主 | 36 明褐色土とロームブロックの混土。焼土粒と土器片を含む。 |
| 7 ロームブロック主 黒褐色土小ブロック、焼土粒。 | 37 36層に比してロームブロック多。炭化物。土器片を多量に含む。 |
| 8 7層よりもローム少ない。焼土なし。 | 38 36層中最もロームの含有少なく、暗色。 |
| 9 明褐色土 多量のローム粒と、黒褐色土 (III-IV層) の小ブロックを含む。 | 39 明茶褐色土 ロームブロック、黒褐色砂質土を含む。 |
| 10 9層に比しロームの含有多い。 | 40 39層に比しロームブロックが多く礫を含む。 |
| 11 暗褐色土 ローム粒、H-PPを少量含む。 | 41 住居礫土か。 |
| 12 暗褐色土 ロームの小ブロックを含む。 | 42 ローム土と黒色土の混土。 |
| 13 やや黒味を帯びる。 | 43 ローム土。 |
| 14 黒褐色土 ローム粒を少量含む。 | 44 黒色土とロームの混土。黒色土がやや多い。 |
| 15 黒褐色土 ローム粒と焼土粒を含む。 | 45 ロームブロックと少量の黒褐色土ブロックの混土。 |
| 16 15層に比し黒褐色土の比率が多い。 | 46 黒色土を主体とし、ロームが混じる。 |
| 17 黒褐色土 IV層主体。ローム粒を少量含む。礫を混じる。 | 47 黒色土とロームの混土。 |
| 18 17層に比しロームの含有やや多い。 | 48 黒色土を主体とし、ロームが少量混じる。 |
| 19 灰褐色砂利層。 | 49 黒色土とロームの混土。黒色土がやや多い。 |
| 20 黄灰色砂利層。 | 50 黒色土とロームの混土。黒色土が多い。 |
| 21 黒褐色土 IV層に若干焼土等が混じる。 | 51 ロームと黒色土の混土。ロームがやや多い。 |
| 22 黒褐色土とローム層が互層をなす。 | 52 黒色土ブロック |
| 23 22層に類する土の流れが異なる。 | 53 42層に比しやや暗い。 |
| 24 黒褐色土とロームブロックの混土。焼土粒。炭化物粒を含む。 | 54 14層に比し明るい。 |
| 25 暗褐色土 ローム粒と多量の礫が混じる。 | 55 黒色土 III-FAを多量に含む。しまりあり。(基本土V層) |
| 26 25層に比し礫が少ない。 | 56 55層に比しロームが混じる。 |
| 27 25層に比しややしまりあり。 | 57 明褐色土 ローム質土の漸移層。 |
| 28 明褐色土 ローム小ブロックを含む。 | |
| 29 28層に比しやや明色。焼土粒を含む。 | |
| 30 ロームブロックと黒褐色土ブロックの混土。 | |

第298図 7号墳墳丘土層断面図





第299図 7号填壁石平面図

第5章 古墳群

石垣は、西側が長さ2.4m、東側が1.8m、高さも接する裏垣と同位置（高さ73cm）まで葺石を施しており、前庭を造り出す際にこの部分に土を寄せて基壇を付設していたことが明らかとなっている。所謂、「付け基壇」を有している。

盛土のあり方から、本墳は周囲に基壇を巡らせた2段築成であると思われる。

(3) 石室石材（第303図、表95）

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。

石材の種類 溶結凝灰岩を用いる。

石材の規模 残存する石材重量は、0.7～370kgを測る。200kg以上の重量のものは、玄室側壁の基底石と羨門の基底石の8石である。

石材の形状 主体をなす形状は、キャラメル形とサイコロ状を呈する。

石材の加工 露出面（石室内部から見える面）、側面（他石と接する左右上下の接地面）、背面はいずれも粗割のみで、明確な加工痕は確認できなかった。石材の諸属性と積み方の関係 側壁の基底石は大型の石を使用するが、玄室内はより大型の石材を用いる。置き方は、横積を主体に、平積ないし小口積もみられる。

(4) 石室根石

石室の根石（基底石）は、残存する石材が石室掘方面に直置きされ、その周囲には栗石が取り巻いている。

(5) 石室・前庭掘方（第302図）

石室掘方は前庭の一部にまで達し、平面形が隅丸長方形を呈する竪穴状で、規模は南北長約11.1m、東西長4.7mを測る。底面の凹凸は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦である。

(6) 墳丘盛土下地山面

墳丘盛土下地山面からは、第339図12・13、第340図14の須恵器の大甕が墳丘下東寄りに集中して出土し、さらに東側に接する11号墳の周堀内から出土した第344図4の須恵器大甕と接合した破片を出土さ

せている。この第344図4の須恵器大甕の状況からすると、本7号墳築造時には11号墳の周堀が存在していたこととなる。

また、本墳丘下からは、先述した1・2号畠跡が検出されており、新旧関係は明らかである。

6. 重複する他遺構との新旧関係

本墳の墳丘下からは、69・114号住居（古墳時代後期）、4～6号掘立柱建物、さらに1・2号畠跡が検出され、周堀下から4号住居（古墳時代後期）が検出されている。これらの各遺構よりも本墳の方が新しいことは明確であるが、各遺構の重複および検出状況から、古墳築造直前の遺構としては1号畠跡があり、共に114号住居、5号掘立柱建物が存在していた可能性が高い。

7. 出土遺物（第338～340図、表105、PL.149-150）

(1) 土器

出土した土器は、須恵器の杯身、大甕、土師器の坏、椀、鉢、甕の計14点を図示した。先述したように、第338図1の杯身は周堀上位からの出土であり、第339図12・13と第340図14の須恵器大甕は墳丘下東寄りに集中して出土している。さらに、これら大甕の集中箇所からは、東側に接する11号墳の周堀内から出土した第344図4の須恵器大甕と接合した破片を出土させている。

(2) 鉄製品

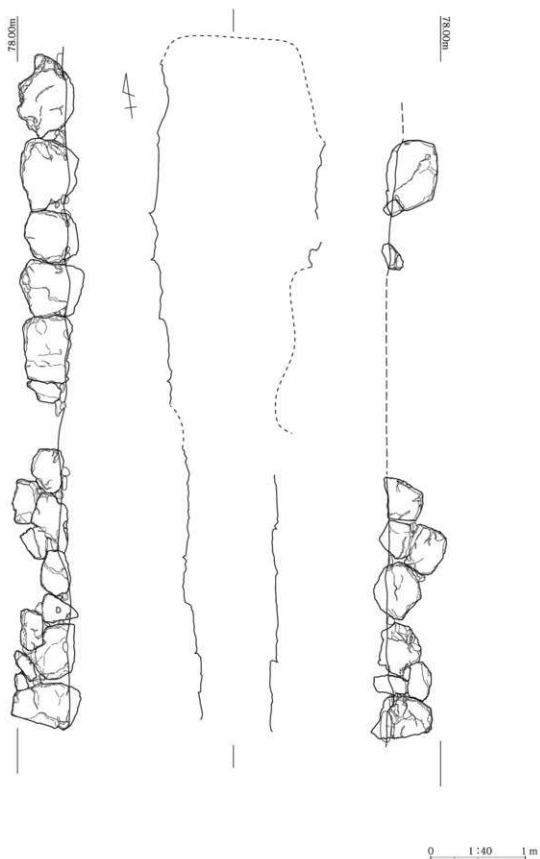
出土した鉄製品には、鉄鎌、刀子片、鉄斧、鉄釘、板状の鉄製品がある。先述したように、前庭部からは第340図15の長頸三角形鎌、17・18の長頸鎌が、玄室内から340図16の長頸片刃鎌、19の刀子片、21の板状鉄製品、24の鉄釘が出土している。24の鉄斧は、本墳からの出土であるが、出土位置は不明。に示した鉄鎌3点が出土している。

(3) その他の遺物

上記以外の遺物に、第340図25の白玉1点が玄室内から出土している。石材は、滑石製である。



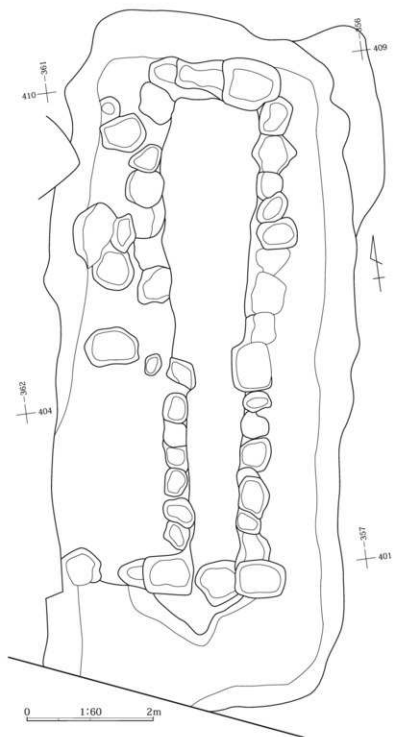
第300图 7号填石室上面·前底部平面图·断面图



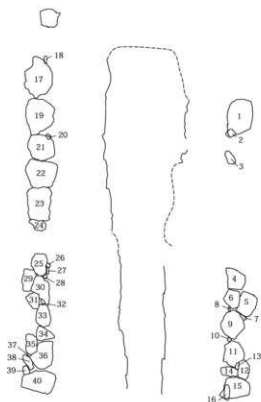
第301図 7号墳石室展開図

第5章 古墳群

掘方平面図



第302図 7号墳石室掘方平面図



第303図 7号墳石室石材番号図

8. 時期

墳丘の形状および出土遺物、重複する遺構等から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

表95 7号墳石室石材計測表

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備考
1	350	70	40	56	平一横	凝灰	
2	10.2	16	15	17		凝灰	
3	20.9	20	24	25	平横	凝灰	
4	120	40	25	45	平一横	凝灰	
5	125	45	34	57	横一小	凝灰	
6	89	38	28	38	平一横	凝灰	
7	3.3	12	8	21	小口横	凝灰	
8	0.7	10	5	11			
9	129	56	41	33	平横	凝灰	
10	1.1	6	10	12			
11	135	60	41	41	横横	凝灰	
12	54	40	24	24	横横	凝灰	
13	2	12.5	5.5	18.5			
14	15.6	15	27	37	小口横	凝灰	
15	271	42	56	75	小口横	凝灰	
16	15.1	14	19.5	30			
17	320	87	57	43	平横	凝灰	
18	5.6	15	8.5	25.5			
19	320	69	56	56	平横	凝灰	
20	1.1	12	7.5	8.5			
21	200	55	48	42	平横	凝灰	
22	266	60	60	44	平横	凝灰	
23	226	71	50	50	平横	凝灰	
24	29	14	24	32	小口横	凝灰	
25	105	44	36	43	横一小	凝灰	
26	1.5	11.5	10	18.5			
27	1.8	13.5	5.5	14			
28	2.4	10	8.5	20			
29	70	46	25	43	横一平	凝灰	
30	112	40	38	45	平一横	凝灰	
31	50	36	23	44	小口横	凝灰	
32	3.1	11.5	7	25			
33	62	47	30	37	横一平	凝灰	
34	90	29	34	37	小口横	凝灰	
35	50	43	20	36	横一平	凝灰	
36	164	63	45	36	平横	凝灰	
37	1.4	4.5	9	20			
38	29	35	14	46	小口横	凝灰	
39	9.1	15	12	30	小口横	凝灰	
40	370	43	71	68	小一横	凝灰	

8号墳 (第304～306・341図、表106、PL.84・150)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高78.30m付近、調査区(5)の北部に位置し、墳丘の東側2/3以上は調査区外となる。西側に11号墳が近接する。墳丘の削平は甚だしく、調査区外に延びる遺構上には鉄道の軌道が敷設されている。

なお、本墳は『上毛古墳総覧』には記載されていないが、その後の町誌編纂時の調査で確認された古墳(第268図)である。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第304図)

墳丘は、そのほとんどが削平され、僅かに下部が残存していた。また、葦石の残存かと思われる石列が、南西部に検出されており、石室前垣に続く葦石であることが後に判明した。墳丘の規模は不明であるが、墳丘の周囲を取り巻いていたであろう周堀内からは、多量ではないが垂円礫が出土しており、葦石の崩落の可能性を示している。

(2) 周堀 (第304図)

調査区内で検出された本墳の周堀は、全体的に不明瞭である。北側および南側は、浅い谷地状に広く低くなり、11号墳と接する西側には、周堀が存在する。しかし、この周堀は11号墳に伴う状況を呈しているものの、本8号墳寄りの壁面側に崩落したであろう葦石の垂円礫が出土していることから、岡古墳が共有する周堀である可能性が高い。一方、南側の谷地状に広く低くなる部分においても、本墳寄りの落ち込み面には多くの崩落したであろう葦石の垂円礫が出土していることから、この部分も本墳に伴う周堀であったと考えられ、さらには前庭ないし墳丘に葦石を有していたことが窺える。

これらの埋土は、As-C 軽石および Hr-FP を含んだ黒褐色土がベースで、上層に As-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況

周堀内からは、第348図に示した土器が出土してい

る。1の杯および5の須臾器大甕は、西側の11号墳と共有する周堀内の本墳寄りに、崩落した葦石と共に出土している。また、2～4の手捏ね土器は、南側の周堀内から出土している。

(4) 葦石 (第304図)

残存する葦石は、墳丘の南西部にみられ、基底の1段目が列状に石室前垣へと続く。また、周堀内での垂円礫の出土状況から、墳丘周囲に葦石を有していた可能性を持つ。

3. 前庭

前庭部は、不明である。しかし、石室の前垣と周堀の間は、僅かではあるが平坦面が存在する。

4. 石室

(1) 概要 (第306図)

石室の残存状況は、削平により悪い。また、石室の大半が調査区外にあり、検出できたのは羨道西側壁の一部および石室堀方の西辺のみである。

(2) 羨道部の閉塞状況 (第306図)

羨道部の閉塞状況は、僅かに確認できたのみである。羨道内には直径15cmほどの垂円礫が、羨門は大型の垂円礫を用いて塞いでいる。

(3) 石室の平面および立面の状況 (第306図)

開口方向 羨道西側壁の状況から、南南東方向に開口し、S-16°-Eを指すと想定される。

平面形状・平面規模 不明である。確認できた羨道西側壁は、基底の根石が3石のみで直線的。西羨門の石材は抜き取られている状況であった。

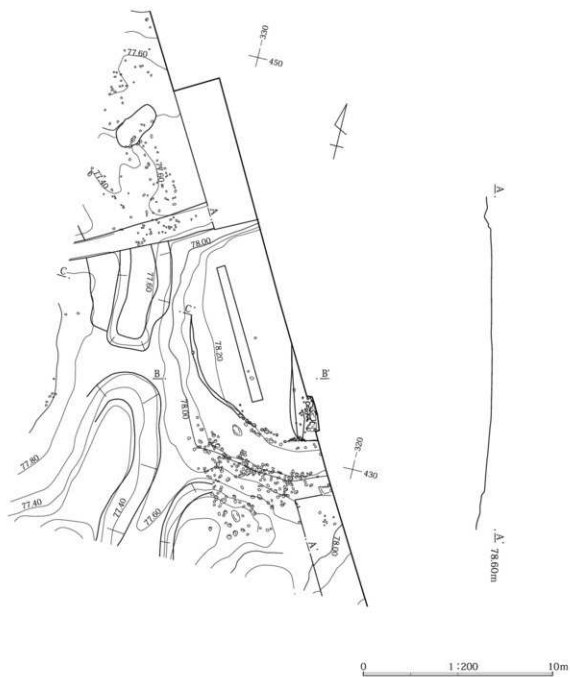
石材の種類 確認できた3石は、溶結凝灰岩である。

5. 解体調査

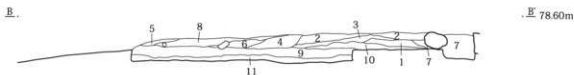
(1) 墳丘の盛土

盛土の種類は、大きく、「黒色土」「黒褐色土」「暗褐色土」「明褐色土」「黄灰色砂利層」に分層できる。

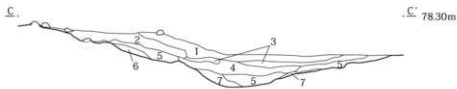
盛土の単位は、10～20cmの幅の層厚をもつ。石室周りは、礫を多く含んだ黄灰色砂利層が盛土され、裏込め様のあり方を示す。その周囲を、黒色土、黒



第304図 8号墳墳丘平面図・断面図



- 1 明褐色砂質土 黄灰色砂を含む。
- 2 暗褐色土 黄灰色砂質ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 4 ロームがブロック状に多量に入る。
- 5 暗褐色土 ロームの小ブロックを含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒を少量含む。やや砂質。
- 7 黄灰色砂り層。
- 8 暗褐色土 ローム、Hr-FAを少量含む。礫が混じる。
- 9 黒色土 Hr-FAを多量に含む。しまりあり。(基本土V層)
- 10 9層に比してややしまり弱く、ローム多く含まれる。
- 11 明褐色土 ローム質土の漸移層。



- 1 暗褐色土 As-Bを混在する。
- 2 暗褐色土 As-Bを多量含む。
- 3 As-B純層またはほぼ純層。
- 4 黒褐色土 Hr-FP、As-Cを含む。
- 5 明褐色土 やや砂質。ローム粒を含む。
- 6 ロームブロック主体 暗褐色土ブロックと混じる。
- 7 6層に比し暗褐色土を多量に含む。

0 1:60 2m

第305図 8号墳填丘・周堀土層断面図

褐色土、暗褐色土を主体に被覆し、盛土を行っている。

(2) 石室根石

確認ができたのはごく一部であるが、根石(基底石)は、残存する石材が石室掘方面に直置きされ、その周囲には栗石が取り巻いている。

(3) 石室・前庭掘方(第306図)

検出できた部分は、石室の西際であり、不明な点が多い。規模は不明であるが、平面形は隅丸長方形を呈する竅穴状と思われる。羨門付近の底面は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦で

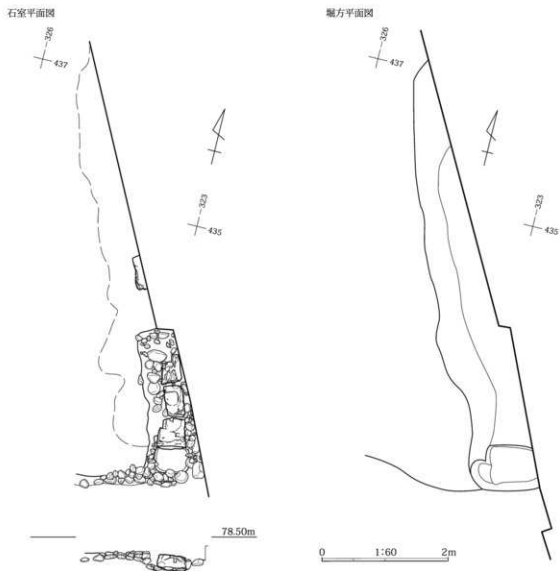
ある。

(4) 墳丘盛土下地山面

墳丘盛土下地山面からは、古墳築造に伴う関連遺物は検出されていない。

6. 重複する他遺構との新旧関係

本墳の墳丘下からは、46号住居(古墳時代後期)が検出されており、本墳の方が新しいことは明確である。



第306図 8号墳石室平面図、堀方平面図

7. 出土遺物 (第341図、表106、PL.150)

出土した土器は周堀からで、土師器の坏、手捏ね土器、須恵器大甕の計5点を図示した。

8. 時期

墳丘の形状および出土遺物、重複する遺構等から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

9号墳 (第307～311・342図、表96・107、PL.85・86・150)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高78.60m付近、調査区(5)の最北端に位置し、墳丘の北西側およそ1/3は調査区外となる。南西側に10号墳が近接する。

調査前の現況は、墳丘は削平され、平坦となっていた。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」には記載されていないが、その後の町誌編纂時の調査で確認された古

墳（第268図）である。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘（第307図）

墳丘周縁の削平が甚だしく、後世の攪乱や開削等により、原形はとどめていない。僅かに、石室前の平坦部と石室入り口付近が残存しているのみである。そのため、墳丘の規模は不明であるが、現存する部分からすると、径14m以上の円墳であると考えられる。

(2) 周堀（第307図）

検出された周堀は、墳丘を巡る南半であり、北半は調査区外となる。周堀の内縁は、弧状を呈すると思われるが、溝や攪乱等により詳細は不明である。僅かに、石室前に平坦面をもつ。外縁は、概ね弧状を呈し、4.0m前後幅の周堀と思われる。底面は深さ0.6mを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

埋土は、As-C 軽石および Hr-FP を含んだ黒褐色土がベースで、上層に As-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況（第342図）

周堀内から出土した土器には、細片が多い。1・2の坏、3の鉢、4の甕がある。

(4) 葺石（第299図）

石室入り口となる羨門の東側に、僅かに葺石が残存する。また、周堀内の南西部に、少量の垂円礫が散在していることから、羨門の周辺のみ葺石を積み上げていた可能性がある。

3. 前庭

前庭部は、不明である。しかし、石室と周堀の間は、僅かではあるが平坦面が存在する。

4. 石室

(1) 概要（第275図）

石室の残存状況は、あまり良くない。玄室内の奥壁および両側壁の大部分、さらに玄門、羨道側壁の一部、羨門の石が抜き取られている状況で、石室の

形状は判断し難い。抜き取られた痕跡からすると、無袖型の横穴式石室である可能性もある。

石室の規模は、推定で全長5.43m、玄室の長さは主軸位置で3.03m、玄室幅は中央位置で1.20m、玄室壁の最高残存値は0.20mを測る。また、羨道長は主軸位置で2.40m、羨道幅は中央位置で0.96m、羨道壁の最高残存値は0.33mを測る（詳細計測値は後述）。

なお、残存する玄室の側壁は基底の1段目のみであり、羨道側壁は一部に2段目までが残存する。

(2) 羨道部の閉塞状況（第309図）

羨道部の閉塞は、部分的に残存していた。

閉塞の状況は、羨道内に大型の垂円礫が僅かに残存するのみであった。羨門を塞ぐ閉塞石は、40cmほどの大型の垂角礫2石が残存する。

(3) 石室内における遺物出土状況

石室内は奥壁や側壁が抜き取られている状況からして、その残存状況は悪い。

出土した遺物は、玄室内から鉄線1点、紡錘車の軸と思われる鉄製品1点、金銅製品として耳環4点、白玉？1点が出土している。

羨道内からは、遺物の出土はなかった。

(4) 石室床面の状況（第309図）

玄室・羨道床面は、いずれも径5～10cmの玉石が敷き詰められている。しかし、全体にかなり荒れている状況がある。

(5) 石室の平面および立面の状況（第309・310図）

開口方向 ほぼ南方向に開口する。S—6°—Wを指す。

平面形状 玄室は無袖型？で、短冊形を呈する。羨道は、両側壁がほぼ平行と思われる。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で推定3.03mを測る。側壁の長さについては不明。

玄室幅：奥壁の幅は不明。中央位置で1.20mを測るが、袖付近は0.90mを測る。

羨道長：主軸位置で推定2.40mを測る。

羨道幅：玄門付近は不明。中央位置で0.73m、羨門付近で0.72mを測る。

立面形状 玄室、羨道ともに不明。

立面規模 壁面の残存状況が悪く、各箇所の残存する最高値は次の通りである。

玄室高：側壁は0.20mを測る。

羨道高：西側壁0.32m、東側壁0.33mを測る。

石材の種類 表96に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどに溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。

壁面の構成 玄室の奥壁は、抜き取られていたため不明。玄室の残存する側壁は基底石のみで、一辺が30～65cmほどの溶結凝灰岩の割石を用い、置方は平積である。

羨道の側壁は、直径6～61cmほどの溶結凝灰岩の割石を使い、一部に2段目が残存している。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第307図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸方向、主軸に直交するベルトを残して土層断面の観察を行った。

(2) 墳丘の盛土

盛土の種類は、大きく「黒色土」「黒褐色土」「暗褐色土」「明褐色土」に分層できる。

盛土の単位は、層厚が10～30cmと幅をもつが、層厚15cm前後の層が多い。石室周りは、一部に礫を多く含む暗褐色土層が確認されている。

(3) 石室石材 (第311図、表96)

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。

石材の種類 溶結凝灰岩を用いる。

石材の規模 残存する石材重量は、2.4～147kgを測る。

石材の形状 残存するものは、キャラメル形とサイコロ状を呈する。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれも粗割のみで、明確な加工痕は確認できなかった。石材の諸属性と積み方の関係 残存する石材が限られているため、不明である。

(4) 石室根石

石室の根石(基底石)は、残存する石材が石室掘方面に直置きされ、その周囲には栗石が取り巻いている。

(5) 石室・前庭掘方 (第311図)

石室掘方は、根石(基底石)を直置きした部分のみを、長いコ字状に掘りくぼめた布堀状となる。規模は、南北長約6.7m、東西長2.6m、深さは0.33mである。床面の凹凸は、設置された石材の圧痕が目立つ。

(6) 墳丘盛土下地山面

墳丘盛土下地山面からは、古墳築造に伴う関連遺物は検出されていない。

また、本墳丘下からは、先述した6号畠跡が検出されている。

6. 重複する他遺構との新旧関係

本墳の墳丘下からは、6号畠跡が検出され、本墳の方が新しいことは明確である。また、1・5号溝によって、本墳の一部が壊されている。

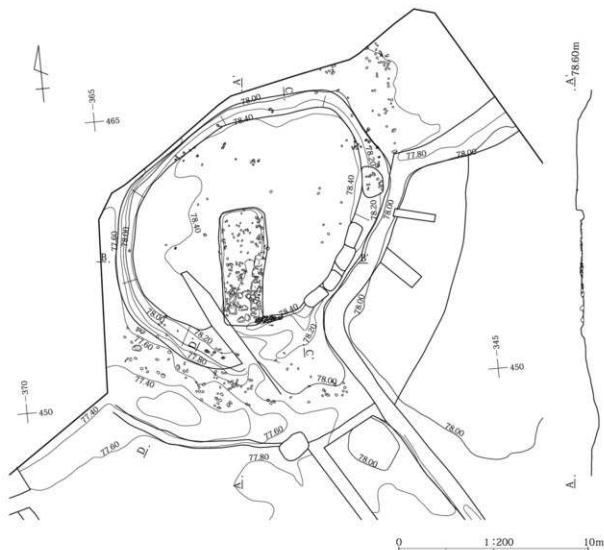
7. 出土遺物 (第342図、表107、PL.150)

(1) 土器

出土した土器は、全て周堀内からで、坏2点、鉢1点、甕1点の計4点を図示した。

(2) 金属製品

出土した鉄製品には、鉄鎌、刀片、紡錘車の軸と思われる鉄製品1点がある。先述したように、鉄鎌および紡錘車の軸と思われる鉄製品は玄室からの出土である。刀片は、墳丘周縁の捜査内から出土した。さらに、玄室からは、金銅製品の耳環が4点出土している。いずれも、外径2.2cmを測る大きさで、表面には金の薄板を被せている。



第307図 9号墳丘陵平面図・断面図

(3) その他の遺物

上記以外の遺物に、12の穿孔をもつ玉？が1点出土している。石材は、滑石製である。

8. 時期

墳丘の形状および出土遺物、重複する遺構等から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

10号墳

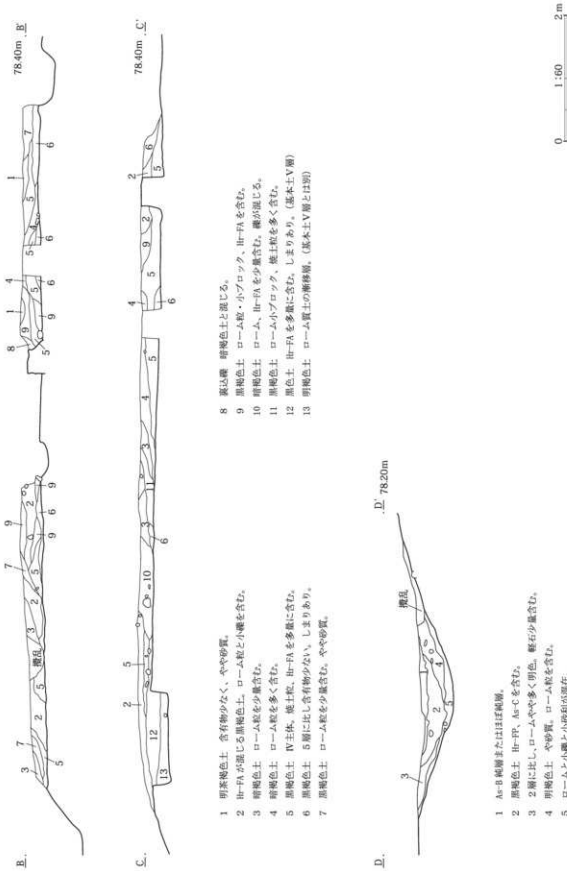
(第312～316・343図、表97・108、PL.87～91・150)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高78m付近、調査区(5)の北西端に位置し、石室を含めた古墳の東側の一部が調査対象で、墳丘のおよそ3/4は調査区外となる。北東側に9号墳が近接する。

調査前の現況は、墳丘は削平され、平坦となっていた。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」藪塚本町第120号墳に相当する。



第308図 9号墳墳丘・周堀土層断面図

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第312図)

墳丘は、そのほとんどが削平され、僅かに下部が残存していた。調査範囲が少なく、規模は不明であるが、径10m前後の円墳と考えられる。なお、墳丘外縁には、葺石は確認されていない。

(2) 周堀 (第312図)

検出された周堀は、墳丘を巡る東部のみである。南半であり、北半は調査区外となる。周堀の内外縁は、共に弧状を呈すると思われ、上幅4.7m、下幅2.4m、深さ0.5mを測り、壁は緩やかに立ち上がる。

埋土は、As-C 軽石および Hr-FP を含んだ黒褐色土がベースで、上層に As-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況

周堀内から出土した土器は、僅かに細片のみである。

3. 石室

(1) 概要 (第314図)

石室は、両袖型横穴式石室である。石室の全長は4.92m、玄室長は主軸位置で2.86m、玄室幅は中央位置で1.44m、玄室壁の最高残存値は0.53mを測る。

また、羨道長は主軸位置で2.06m、羨道幅は中央位置で0.73m、羨道壁の最高残存値は0.52mを測る(詳細計測値は後述)。

残存状況は、玄室、羨道いずれも比較的良好であるが、玄室奥壁は残存していない。石室内からは、比較的多くの遺物が出土している。

(2) 羨道部の閉塞状況 (第314・315図、PL.87・88)

羨道部の閉塞は、比較的良好であり、羨道内の全体に閉塞石が詰められていた。

閉塞状況は、人頭大の大振りの垂円礫で羨門側と玄門側を塞ぎ、その間の羨道内に5～10cmほどの垂円礫を、羨道側壁の2段目までの高さに積み上げている。なお、玄門側を塞ぐ大振りの礫は、小口積みとなっている。

(3) 石室内における遺物出土状況

(第316・343図、PL.89・90)

玄室内の床面上からは、比較的多くの遺物が出土している。遺物には多くの鉄鏃、大刀、刀子、刀装具、さらに金銅製品の耳環が出土している。

玄室南半の西側壁際に遺物が集中し、鉄鏃や大刀といった武器類のほとんどが出土している。大刀はほぼ完形品で、柄金具と鐙が装着された状態で出土している。耳環は、玄室南半の奥壁寄りの床面から出土している。

(4) 石室床面の状況 (第315図)

玄室および羨道の床面は、いずれも径1～20cmの玉石を敷き詰めている。この玉石の下層には、扁平礫が敷き詰められ、鋪石と思われる。これら床面の玉石から鋪石までを含めた厚さは、20cmほどである。

なお、玄室と羨道を区切る柵石は、検出されていない。

(5) 石室の平面および立面の状況

(第314・315図)

開口方向 南南西方向に開口する。S-16°-Wを指す。

平面形状 玄室は両袖型で、僅かに胸張りを呈する。

羨道は、両側壁がほぼ平行となる。

平面規模 平面形における細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で2.86m、西側壁2.85m、東側壁2.85mを測る。

玄室幅：奥壁1.00m、中央位置1.44m、袖付近で1.25mを測る。

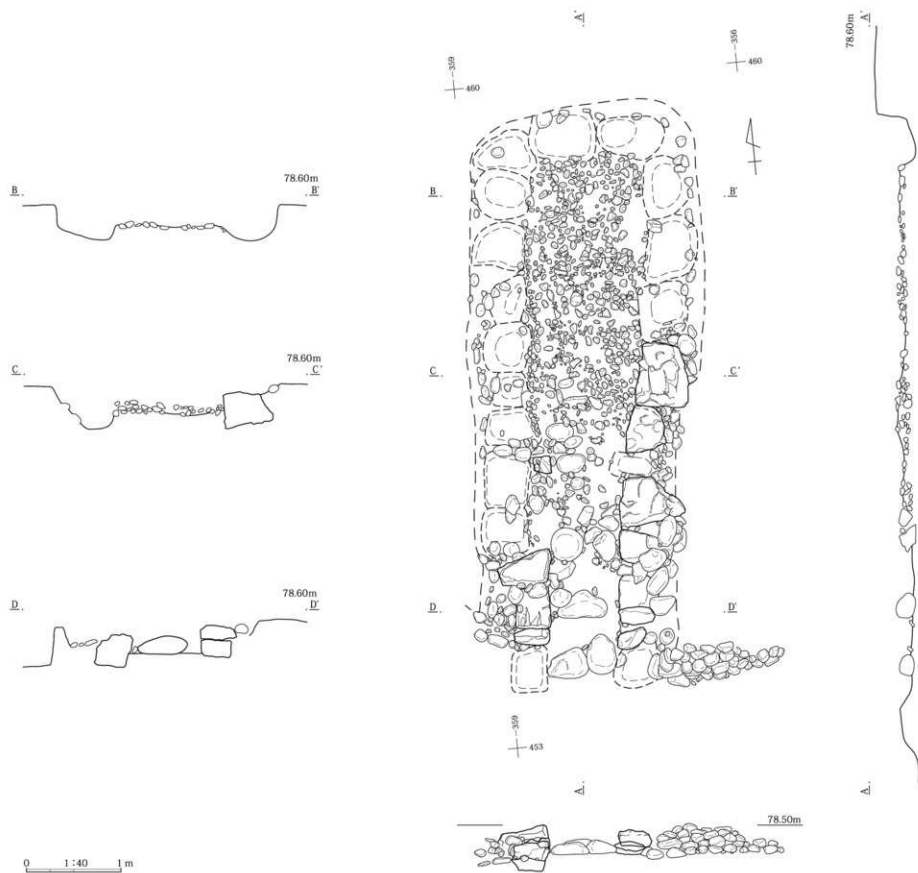
羨道長：主軸位置で2.06mを測る。

羨道幅：玄門付近で0.70m、中央位置0.73mを測る。

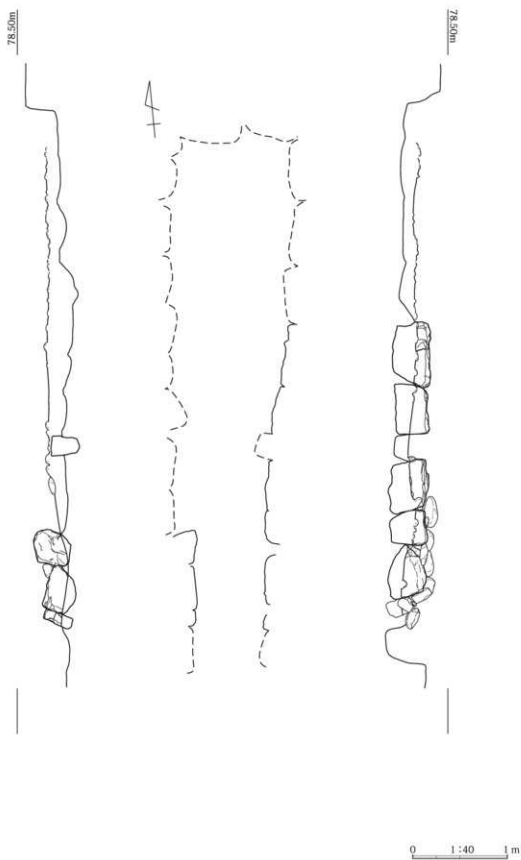
立面形状 現存する玄室および羨道の側壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。

立面規模 各箇所の残存する最高値は、次の通りである。

玄室高：西側壁0.53m、東側壁0.43を測る。



第309图 9号填石室平面图·断面图



第310図 9号墳石室展開図

第5章 古墳群

掘方平面図

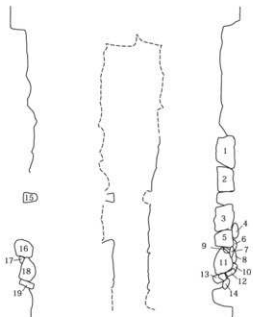
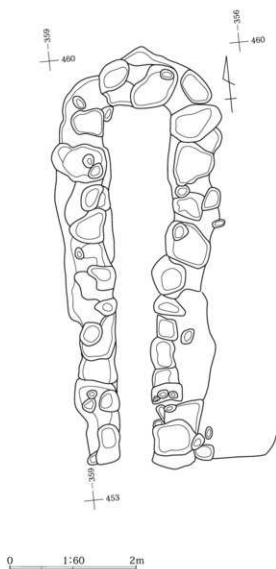


表96 9号墳石室石材計測表

番号	長さ (ka)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備 考
1	147	65	37	30	平積	石灰	
2	101	52	33	36	平積	石灰	
3	144	53	33	61	横積	石灰	
4	14.2	17.5	17.5	33			
5	92	27	37	44	小口積	石灰	
6	7	23	11	39			
7	2.4	29	6	7	横積		
8	12.1	18.5	13.5	34			
9	3.3	13	10	26			
10	10.8	20	13	27.5			
11	99	52	29	35	横積	石灰	
12	13.9	15	26	38	小口積	石灰	
13	13.2	35	34	25	平積	石灰	
14	8.7	20	10	33	小口積	石灰	
15	15.8	32	39	35	平積	石灰	
16	80	38	31	44	小口積	石灰	
17	3.8	10.5	12.5	18			
18	84	47	33	33	平積	石灰	
19	17.7	13	30	37	小口積	石灰	

第311図 9号墳掘方平面図、石室石材番号図

玄門高：西側玄門0.47m、東側玄門0.45mを測る。

羨道高：西側壁0.52m、東側壁0.50mを測る。

羨門高：東羨門0.32mを測る。

石材の種類 表97に示すように、石室の壁を構成する石材のほとんどが溶結凝灰岩を用いている。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。ただし、玄門に使用された石材は、長方体状の石材であることから、何らかの面取り加工が施された可能性をもつ。

壁面の構成 玄室奥壁は、抜き取られていて残存しない。玄室側壁は、一辺が5～62cmほどの溶結凝灰岩の割石を用い、置方は小口積または横積である。側壁は2段目まで残存する。各個の石の隙間に、小石を充填している。

玄門には、一辺17～66cmを測る直方体状の溶結凝灰岩の割石を用い、立柱石状としている。

羨道側壁は、玄室側壁よりも一回り小さい3～55cmほどの溶結凝灰岩の割石を使い、置方は小口積または横積である。側壁は最高で3段目まで残存している。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第312図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸に直交するベルトを残して、土層断面の観察を行った。

(2) 墳丘の盛土

盛土の種類は、大きく「黒色土」「黒褐色土」「暗褐色土」「明褐色土」「黄灰色砂利層」に分層できる。

盛土の単位は、層厚が10cm前後の幅が多い。石室周りは、黄灰色砂利層が確認でき、礫を多く含んでいることから、裏込め様のあり方を示す。

(3) 石室石材 (第316図、表97)

石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。

石材の種類 溶結凝灰岩を用いる。

石材の規模 残存する石材重量は、0.3～160kgを測る。100kg以上の重量の石材は3石のみで、他は比較的小さい石材で構成されている。

石材の形状 主体をなす形状は、キャラメル形とサイコロ状を呈する。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれも粗割のみで、明確な加工痕は確認できなかった。

石材の諸属性と積み方の関係 玄室内の側壁の基底石には、比較的大型の石材が用いられている。置方は、小口積または横積を主体とし、2段目以上は使用される石材の形状に合わせて横積ないし平積、小口積となっている。

(4) 石室根石

石室の根石(基底石)は、石材が石室掘方面に直置きされ、その周囲には栗石が僅かに取り巻いている状況であった。

(5) 石室掘方 (第316図)

石室掘方は、平面形が隅丸長方形を呈する竪穴状で、規模は南北長約5.6m以上、東西長3.2m、深さは23cmを測る。底面の凹凸は、設置された石材の圧痕以外は目立たず、比較的平坦である。

(6) 墳丘盛土下地山面

墳丘盛土下地山面からは、古墳築造に伴う関連遺物は検出されていない。

6. 重複する他遺構との新旧関係

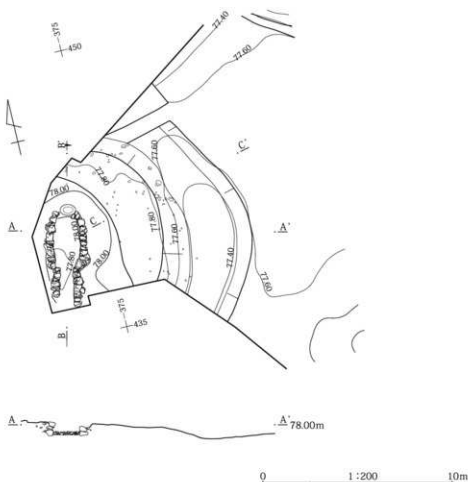
本墳の墳丘下からは、47号住居跡(古墳時代前半)、48号住居(古墳時代後期)が検出されており、本墳の方が新しいことは明確である。

7. 出土遺物 (第343図、表108、PL.150)

(1) 金属製品

先述したように、玄室内から多くの金属製品が出土しており、図示した鉄製品には鉄鎌15点、大刀1点、刀子1点、刀装具2点、さらに金銅製品の耳環2点がある。

鉄鎌には、長頸腸状長三角形鎌が10点あり、1～6



第312図 10号墳墳丘平面図・断面図

までの6点はほぼ完成品で、茎部に木質を残存している。他は、刃部を欠損する長頸鎌ないし茎部に主に残存する長頸鎌で、図示できなかった鉄片も多い。これらの長頸鎌の茎部には、木質を残存するものが見られる。

16の大刀は、細身の平造りで、柄の下端を欠くがほぼ完成。柄金具と釦が装着された状態で出土している。柄の柄金具部には、木質が残存する。全長は62.0cm、刃長56.9cm、刃幅2.5cm、刃厚0.7cm、柄長の残存部は5.1cmを測り、総重量は423.6gを量る。柄（縁）金具は鉄製で、楕円形を呈し、長軸2.9cm、短軸2.1cm、幅1.0cm、厚さ0.2cmを測る。また、17の釦は鉄製で、上端が丸く、下端が尖り気味な板状を呈する。象嵌等はない。外径は長軸6.0cm、短軸4.7

cm、内径は長軸2.4cm、短軸1.7cm、厚さ0.4cmを測り、重量は36.0gを量る。

18の刀子は、刃部片である。

さらに、玄室からは、金銅製品の耳環が2点出土している。いずれも、外径1.8cmを測る大きさと、表面には金の薄板を被せている。

8. 時期

墳丘の形状および出土遺物、重複する遺構等から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

78.00m
A78.00m
B

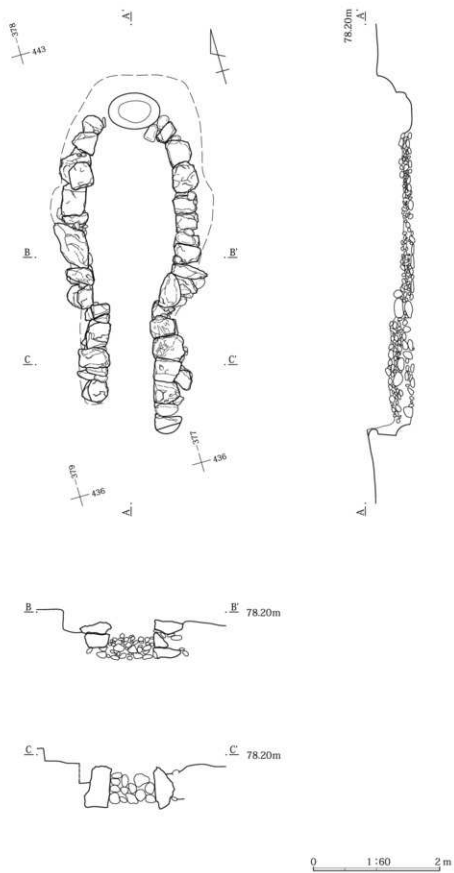
- 1 黒褐色土 ローム粒を含みやや砂質。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 IIr-FAを多数含む。しまりあり。やや褐色がかる。
- 4 黒褐色土 IVが主で砂を含む。
- 5 10～20 cmの大型の礫玉体。
- 6 黄灰色砂利層。
- 7 暗褐色土 礫(～5 cm)を含む。
- 8 黒色土 IIr-IVを多数に含む。しまりあり。(基本土V層)
- 9 明褐色土 ローム質土の漸移層。

78.10m
C

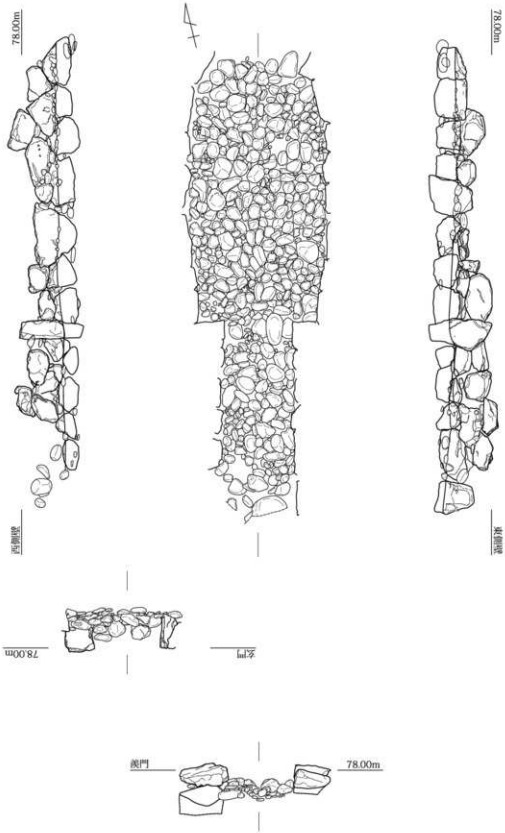
- 1 明褐色土 Aa-Bを多数に含む。
- 2 Aa-B純層またはほぼ純層。
- 3 黒褐色土 IIr-IV, Aa-Cを含む。
- 4 明褐色土 やや砂質。ローム粒を含む。
- 5 明褐色土 より明色で砂質。
- 6 黒色砂質土 細粒でよくしまる。少量の白色粒子を含む。
- 7 明褐色土 ローム質土の漸移層。

0 1:60 2m

第313図 10号墳墳丘・周堀土層断面図



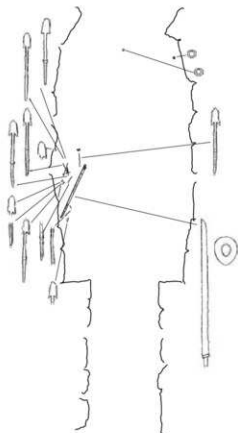
第314图 10号墳石室平面圖・断面圖



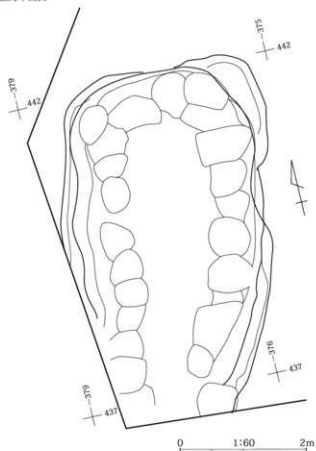
第315図 10号墳石室展開図

第5章 古墳群

遺物分布图



掘方平面图



0 1:40 1m

石材番号图

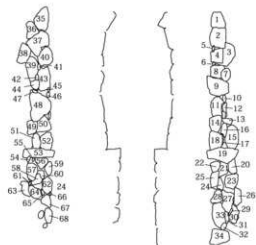


表97 10号墳石室石材計測表

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備考
1	36	19	27	34	小口横	溶岩	
2	103	44	30	45	横~平	溶岩	
3	65	46	26	40	横横	溶岩	
4	43	30	27	41	小口横	溶岩	
5	2.6	12.5	7.5	19			
6	1.7	13	8.5	11			
7	30	26	15	22	小口横	溶岩	
8	30	28	21	24	平~横	溶岩	
9	95	36	38	39	平横	溶岩	
10	1.1	9	6	15			
11	29	37	25	35		溶岩	
12	36	27	15	40	小口横	溶岩	
13	10	22	12	54	小口横	溶岩	
14	41	39	26	31	平横	溶岩	
15	50	54	31	28	平横	溶岩	
16	22	31	15	42	小口横	溶岩	
17	10.9	20.5	13.6	13.5			
18	41	34	24	30	横横	溶岩	
19	82	32	62	35	横~平	溶岩	
20	23.5	33	16	39	横横	溶岩	

第316图 10号墳石室内遺物分布图、掘方平面图、石室石材番号图

番号	重量 (kg)	縦 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備 考
21	15	26	15	23	横積	磨製	
22	34	17	23	30	小口積	磨製	
23	75	26	26	53		磨製	
24	13.8	30	13	33		磨製	
25	40	34	15	37		磨製	
26	50	37	16	42	小口積	磨製	
27	40	41	19	40	横積	磨製	
28	総計鋼	21	25	45		磨製	
29	1.5	12.5	6	12			
30	41	26	20	37	小口積	磨製	
31	5.6	34	6	23	横積	磨製	
32	12.3	20.5	10.5	33			
33	70	47	26	37	横積	磨製	
34	137	40	26	55	小口積	磨製	
35	52.6	40	33	31	平積	磨製	
36	29.3	33	21	28	横積	磨製	
37	82	40	25	49	横～小	磨製	
38	44.7	31	21	28	横積	磨製	
39	85	61	24	36	横積	磨製	
40	12	39	28	32	横積	磨製	
41	1.4	14	5	14			
42	1.8	12	5.5	18			
43	75	54	26	30	平積	磨製	
44	11.8	15	12	41	小口積	磨製	
45	1.6	13	6	14.5			
46	2.2	12.5	6	17			
47	1.2	5	10	16			
48	160	40	41	48		磨製	
49	31	25	15	29	小口積	磨製	
50	33.1	62	38	48	平積	磨製	
51	17.1	31	15	25	横積	磨製	
52	37.8	34	20	41	横積	磨製	
53	89	17	66	36	横積	磨製	
54	3.6	7	12	25	小口積	磨製	
55	0.3	9	3	6			
56	22.8	24	26	27	小口積	磨製	
57	26.4	33	17	31	平積	磨製	
58	13.7	19	23	30	小口積	磨製	
59	26	37	17	21	横積	磨製	
60	11	16	9	37	小口積	磨製	
61	2.3	11	9.5	18			
62	27.3	35	20	33	横積	磨製	
63	34.5	30	15	47	小口積	磨製	
64	26.6	21	22	47	小口積	磨製	
65	2	12	8	25		磨製	
66	0.9	7	7.5	8			
67	30	25	21	45	横積	磨製	
68	31.4	28	19	37		磨製	

11号墳 (第317～321・344図、表98・109、PL.92・93・150・151)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高78.60m付近、調査区(5)の北部中央に位置する。北東側に8号墳が、南西側に7号墳が近接する。

調査前の現況は、墳丘は大きく削平され、平坦となっていた。

なお、本墳は「上毛古墳綜覧」に記載はなく、その後の町誌編纂時の調査でも確認されていない。新たに、検出された古墳である。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第317図)

削平が甚だしく、墳丘の規模は不明であるが、周堀の内径から約15mほどの円墳であると考えられる。

(2) 周堀 (第317図)

検出された周堀は、北東部が途切れるが、それ以外は墳丘を巡る。7号墳の周堀と近接する南西部は、やや直線気味にある。8号墳と接する東部は、南側から続く周堀が途切れ、その先には8号墳の周堀が存在する。南東部では、幅が大きく広がる。

周堀の内縁は、概ね弧状を呈するが、南西部はやや直線気味。外縁は、歪な弧状を呈する。規模は、最広となる南東部で幅7.8m、北西部で幅2.4m、底面の深さは0.6mを測る。壁は、緩やかに立ち上がる。

埋土は、As-C 軽石およびHr-FPを含んだ黒褐色土がベースで、上層にAs-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内における遺物出土状況 (第344図)

周堀内から出土した土器には、第344図に示した坏、甗、須恵器の大甕がある。

(4) 葦石 (第317図)

削平により詳細は不明であるが、石室入り口付近に僅かに円礫が散乱し、列をなすような部分もあり、一部に葦石を有していた可能性をもつ。周堀内からは、円礫は出土していない。

3. 前庭

前庭部の詳細は不明であるが、石室と周堀の間には距離があり、平坦面が存在する。また、石室入り口前に多量の円礫が散乱している状況から、翼垣を有する前庭があった可能性もある。

4. 石室

(1) 概要 (第319図)

石室の残存状況は、あまり良くない。石室の奥壁および側壁の大部分、さらに玄門・羨道の石は抜き取られている状況で、残存するのは4石のみである。石室の形状は判断し難いが、抜き取られた痕跡からすると、両袖型の横穴式石室と考えられる。

玄室の奥壁寄り底面には、大きく攪乱が及ぶ状況で、石室床面全体が攪乱の影響を受けているものと思われる。

石室の規模を基底石の痕跡から推測すると、全長4.5m前後、玄室の長さは主軸位置で2.5m、玄室幅は中央位置で1.1m、玄室壁の残存値は0.12mを測る。羨道長は主軸位置で2.0m、羨道幅は中央位置で0.75m、羨道壁の残存値は0.2mを測る。

なお、残存する4石はいずれも基底の1段目で、玄室東・西側壁の1石ずつと、羨道東側壁の2石である。

(2) 羨道部の閉塞状況

閉塞石は、検出されていない。

(3) 石室内における遺物出土状況

出土していない。

(4) 石室の平面および立面の状況

(第319・320図)

開口方向 南南西方向に開口する。S-20°-Wを指す。

平面形状 玄室は両袖型で、短冊形を呈する。羨道は、両側壁がほぼ平行と思われる。

平面規模 平面形における推定される細部規模は、次の通りである。

玄室長：主軸位置で2.50mを測る。

玄室幅：奥壁の幅は不明。中央位置で1.10m、袖

付近で1.10mを測る。

羨道長：主軸位置で2.00mを測る。

羨道幅：玄門付近で0.75m、中央位置で0.75mを測る。羨門付近は不明。

立面形状 基底石のみの残存であるため、不明。

立面規模 壁面の残存状況が悪く、各箇所に残存する最高値は次の通りである。

玄室高：東側壁0.12mを測る。

羨道高：東側壁0.20mを測る。

石材の種類 表98に示すように、残存する4石は溶結凝灰岩である。

石材の加工 使用された溶結凝灰岩は、荒削状態の石材で、工具を残す石材は見当たらなかった。

壁面の構成 玄室の奥壁は、抜き取られていたため不明。残存する側壁は基底石のみで、すべて溶結凝灰岩の削石である。置方は小口積、横積、平積である。

5. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第317・319図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸に直交するトレンチで土層断面の観察を行った。

(2) 墳丘の盛土

盛土は削平されて残存していない。石室周りの掘方内には、下層に円礫、上層に黄灰色砂利層が確認でき、裏込め様のあり方を示す。

(3) 石室石材 (第321図、表98)

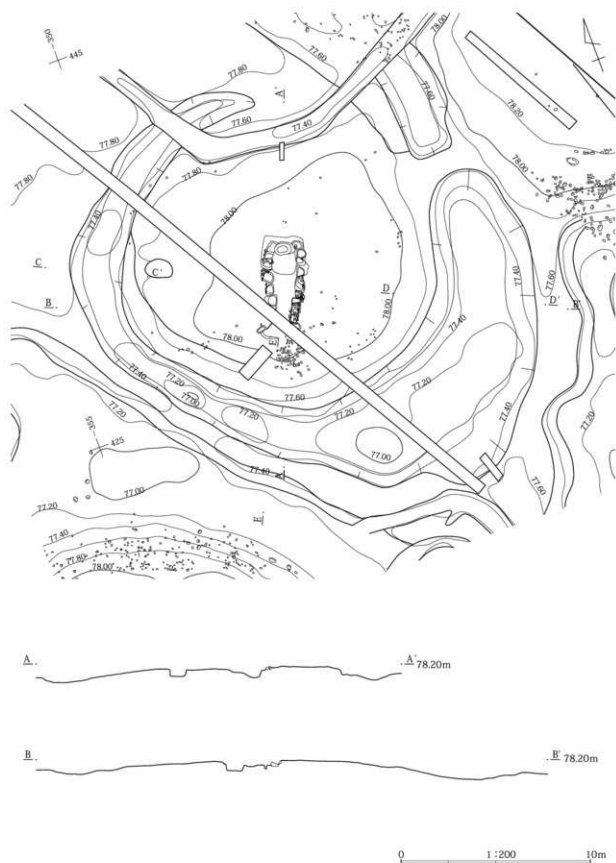
石室の解体に際して、石室を構成する各石材について観察を加え、その特徴の抽出を試みた。その特徴は次の通りである。

石材の種類 溶結凝灰岩を用いる。

石材の規模 一辺が10～51cmほどの石材で、重量は9.5～78kgを測る。

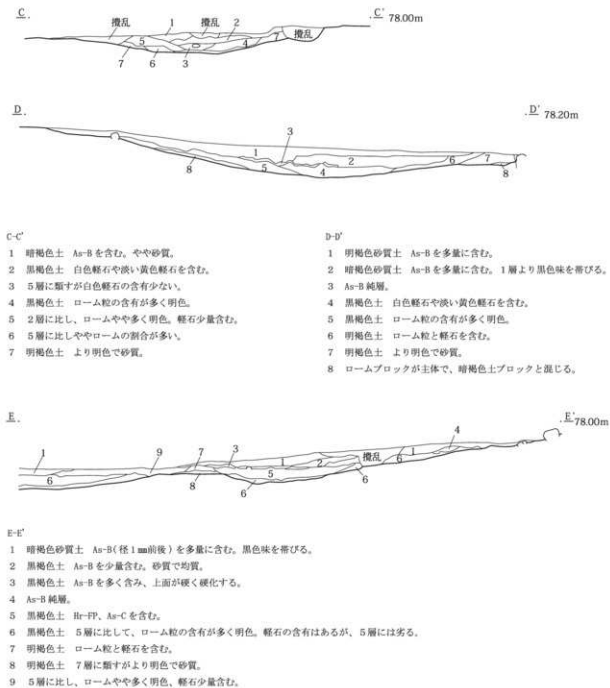
石材の形状 残存する石材はキャラメル形である。

石材の加工 露出面(石室内部から見える面)、側面(他石と接する左右上下の接地面)、背面はいずれも粗削のみで、明確な加工痕は確認できなかった。

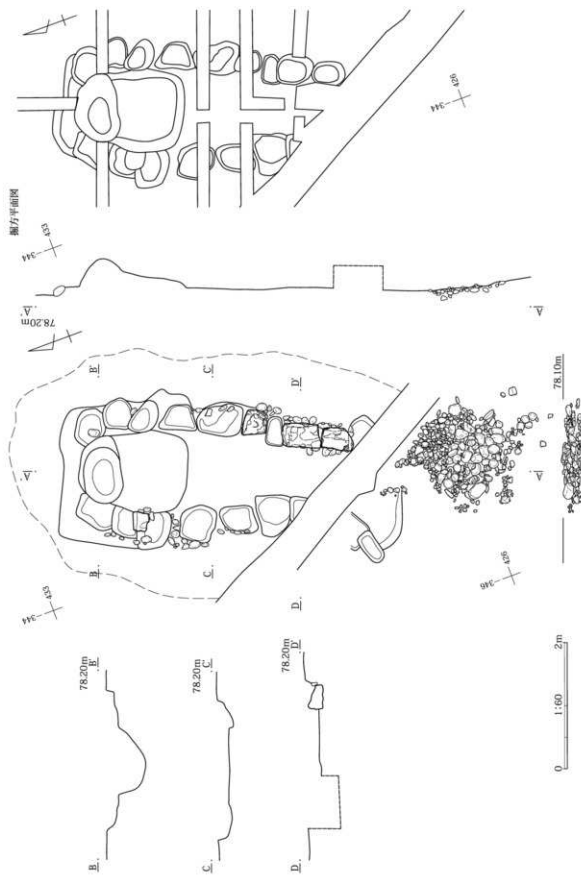


第317図 11号墳墳丘平面図・断面図

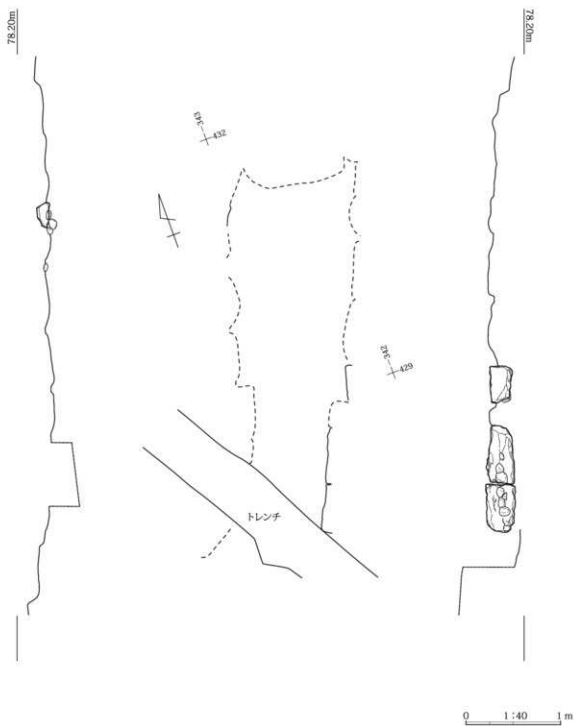
第5章 古墳群



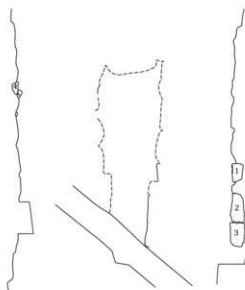
第318図 11号墳周堀土層断面図



第319図 11号墳石室平面図・断面図・掘方平面図



第320図 11号墳石室展開図



第321図 11号墳石室石材番号図

表98 11号墳石室石材計測表

番号	重量 (kg)	幅 (cm)	高さ (cm)	奥行 (cm)	置き方	石材	備	考
1	40	33	20	39	横積	須臾		
2	28	51	28	34	平積	須臾		
3	60	51	29	30	平積	須臾		
4	9.5	25	22	10	小口積	須臾		

(4) 石室根石

石室の根石（基底石）は、残存する石材が石室掘方面に直置きされ、その周囲には栗石が取り巻いている。

(5) 石室・前庭掘方（第319図）

石室掘方は、平面形が隅丸長方形を呈する竪穴状である。前庭の掘方はない。

6. 重複する他遺構との新旧関係

本墳の墳丘下からは、45号住居（古墳時代後期）、1・2号掘立柱建物が検出されており、本墳の方が新しいことは明確である。

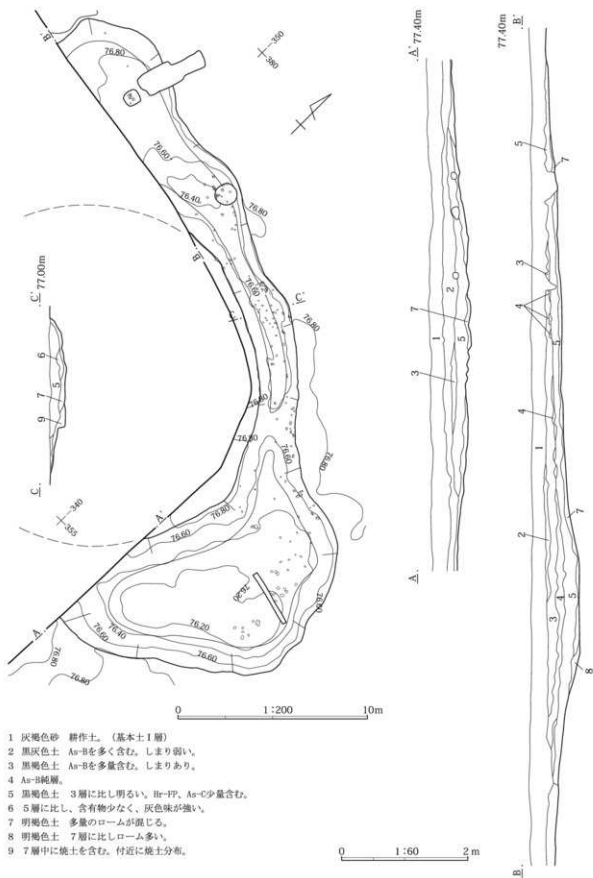
7. 出土遺物（第344図、表109、PL.150・151）

出土した土器は周堀からで、図示した坏、甕、須臾器の大甕がある。この内、4の須臾器大甕は、本墳の南西に近接する7号墳墳丘下東寄りに検出された土器集中出土の破片と接合しており、本11号墳の周堀が7号墳築造時に存在していた状況を示している。

8. 時期

出土遺物、重複する遺構等から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と考えられる。

第5章 古墳群



第322図 12号墳丘平面図・断面図、周堀土層断面図

12号墳 (第322・345図、表110、PL.94・151)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77.2m付近、調査区(5)の中央西端に位置し、ほとんどが調査区外となり、検出されたのは周堀の一部である。南東側に2号墳が近接する。

なお、本墳は『上毛古墳総覧』には記載されていないが、その後の町誌編纂時の調査で確認された古墳(第268図)である。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第322図)

墳丘部は調査区外にあり、詳細は不明。周堀の内縁から、径18m前後の円墳と考えられる。

(2) 周堀 (第322図)

調査区内で検出された周堀は、本墳の北側を巡る部分である。周堀の内縁は、ほぼ弧状を呈する。外縁はかなり歪で、東側と西側が大きく広がる。東側の広がる部分で幅9.2m、深さ0.54m、北側で幅2.4m、深さ0.26mを測る。両壁とも緩やかに立ち上がる。

これらの埋土は、As-C軽石およびHr-FPを含んだ黒褐色土がベースで、上層にAs-B軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

(3) 周堀内の出土遺物

(第345図、表110、PL.151)

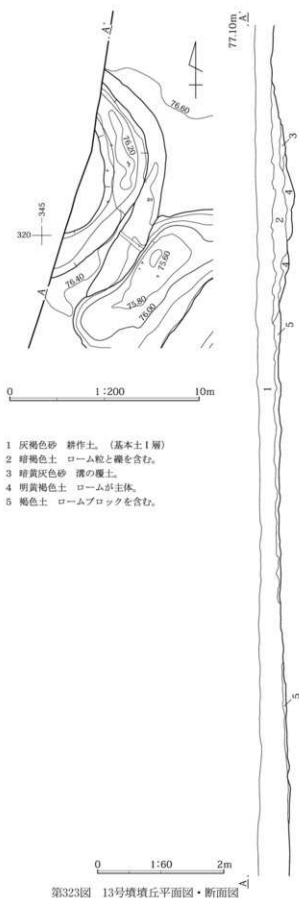
周堀内から出土した土器は、小片のみである。図示できたのは、1・2の甕、3の台付甕の脚部である。

3. 重複する他遺構との新旧関係

本墳の周堀が35号住居(古墳時代前半)を壊しており、本墳の方が新しい。

4. 時期

周辺の状況および重複する遺構等から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と推測される。



第323図 13号墳墳丘平面図・断面図

13号墳 (第323図、PL.94)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77m付近、調査区(5)の中央西端に位置する。検出されたのは東側の周堀の一部で、大半は調査区外となる。南東側に3号墳が近接する。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」に記載はなく、その後の町誌編纂時の調査でも確認されていない。新たに、検出された古墳である。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第323図)

墳丘部は調査区外にあり、詳細は不明。調査区域の土層観察では、削平により墳丘盛土は確認されていない。周堀の内縁から、径8m前後の円墳と考えられる。

(2) 周堀 (第323図)

調査区内で検出された周堀は、本墳の東側を巡る部分である。周堀の内外縁は、ほぼ弧状を呈する。幅2.0m前後、深さは0.35~0.54mを測る。両壁とも緩やかに立ち上がる。

(3) 周堀内の出土遺物

遺物の出土はない。

3. 時期

周辺の状況から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と推測される。

14号墳 (第324~326・346図、表111、PL.95・151)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高77.1m付近、調査区(7)―1の中央南寄りの西端に位置し、南西側半分が調査区外となる。南東方向に15号墳が近接する。

調査前の現況は、墳丘はすべて削平され、後世の溝および攪乱が著しく、石室の大半は残存していない。

なお、本墳は「上毛古墳総覧」藪塚本町第106号墳

に相当する。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第324図)

墳丘は削平され、詳細は不明。周堀の内縁は歪んでいるが、径20m前後の円墳と考えられる。

(2) 周堀 (第324図)

検出された周堀は、墳丘を巡る東半である。北側の一部は途切れ、途切れた位置に(7)―1区5号住居(古墳時代後期)がある。周堀の内外縁は、共に歪な弧状を呈し、最も広がる北東部で幅8.5m、深さ0.5mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。

埋土は、As-C 軽石およびHr-FPを含んだ黒褐色土がベースで、上層にAs-B 軽石の一次堆積層が薄く堆積する。

埋土は、白色微粒を含んだ黒色土がベースで、上層にAs-B 軽石の混土層が存在する。

(3) 周堀内の出土遺物 (第346図)

周堀内からは、図示した1の須恵器の甕が出土している。口縁部上半には縦位の刷毛目、胴部中に刺突文が巡る。

3. 石室

(1) 概要 (第325図)

石室の残存状況は、極めて悪い。石室の周囲を取り巻くように攪乱があり、石室の奥壁および側壁は、すべて抜き取られて残存しない。そのため、石室の形状は判断し難い。

玄室の底面には、舗石と思われる扁平礫が敷き詰められた状況を確認できたが、大きく攪乱が及ぶ部分もある。

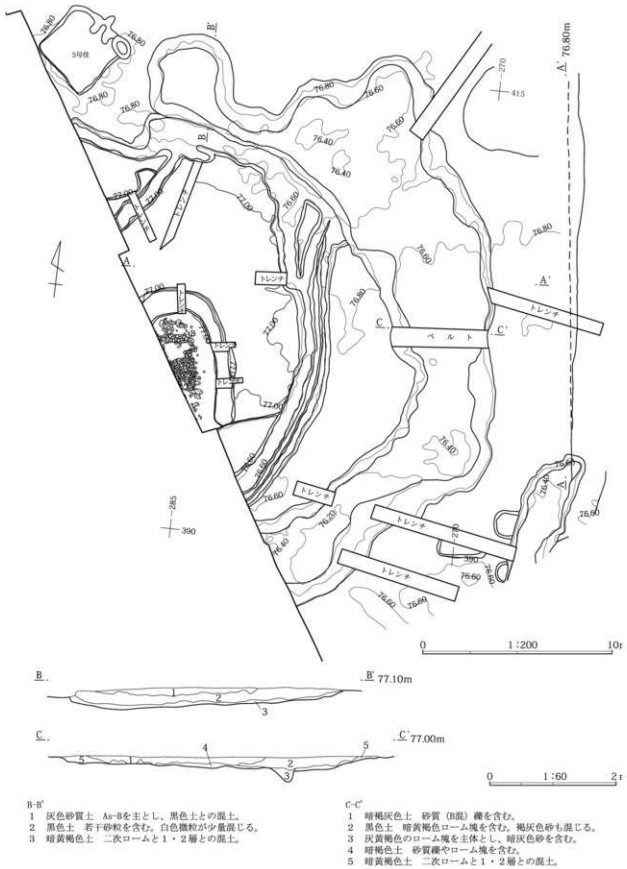
石室の規模を基底石の痕跡から推測すると、全長5.7m前後と思われる。また、その痕跡から、玄室の平面形状は胴張り呈していた可能性がある。

(2) 羨道部の閉塞状況

閉塞石は、検出されていない。

(3) 石室内における遺物出土状況

攪乱等により荒れた石室内ではあるが、鉄鏝、大



第324図 14号墳丘平面図・断面図、周堀土層断面図



第325图 14号墳石室平面图・断面图



図共通

- 1 褐色土 攪乱土。
- 2 3層土と漸移層ローム塊の混土。ローム塊は圧力を受けて扁平に。
- 2' 暗褐色土 2層に近似するが、ロームを含まない。
- 3 黒色土 基本土層V層であり、古墳築造時は地山。
- 4 暗褐色土 5層土が斑状に混在。
- 5 褐色土 ローム漸移層。

第326図 14号墳石室掘方平面図・土層断面図

第5章 古墳群

刀、板状の鉄製品が1点ずつ出土している。

(4) 石室床面の状況 (第325図)

玄室の底面には、舗石と思われる扁平礫が敷き詰められた状況を確認できたが、床面については不明。

4. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第326図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸に直交するトレンチで土層断面の観察を行った。

(2) 墳丘の盛土

盛土は削平されて残存していない。石室周りも不明。

(3) 石室根石 (第326図)

根石(基底石)の周囲に取り巻いていたと思われる累石が僅かに確認されていることから、石材は石室底面に直置きされた可能性をもつ。

5. 出土遺物 (第346図、表111、PL.151)

石室内から出土した鉄鍔、大刀、板状の鉄製品、確認面および覆乱内から出土した鉄鍔2点、刀片1点、穿孔を持たない勾玉1点、石製の紡錘車1点がある。なお、5の大刀については、分析対象として金属分析を行い、先刊の第2分冊に掲載している(金属分析№37)。

6. 時期

周辺の状況から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と推測される。

15号墳 (第327～329・347図、表112、PL.96・97・151)

1. 調査前

本古墳が存在する地点は、標高76.95m付近、調査区(7)―1の中央南寄りに位置する。北西側に14号墳が近接する。

調査前の現況は、墳丘はすべて削平され、表土除去後は大小の円礫が石室面に露出している状況で

あった。

なお、本墳の検出された位置は、『上毛古墳総覧』での記載位置と異なるが、藪塚本町第105号墳ないし第108号墳に相当する可能性を持つ。

2. 墳丘と周堀

(1) 墳丘 (第327図)

墳丘は削平され、詳細は不明。円墳と思われるが、覆乱による破壊が著しい。

(2) 周堀 (第327図)

検出された周堀は、墳丘を巡る西側から石室の南側にかけてであり、その両端は途切れる。周堀も覆乱を受け、残存する周堀の内外縁は、共に歪な弧状を呈する。南西付近の最も広がる部分で幅3.5m、深さ0.35mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。

埋土は、白色粒を含んだ黒褐色砂質土がベースである。

(3) 周堀内の出土遺物

周堀内から出土した土器は、僅かに細片のみである。

3. 前庭

前庭部は、覆乱により不明であるが、残存する石室と周堀の間は、僅かではあるが空間が空く。

4. 石室

(1) 概要 (第328・329図)

石室の残存状況は、極めて悪い。石室の周囲を取り巻くように覆乱があり、石室の奥壁および側壁は、すべて抜き取られて残存しない。そのため、石室の形状は判断し難い。

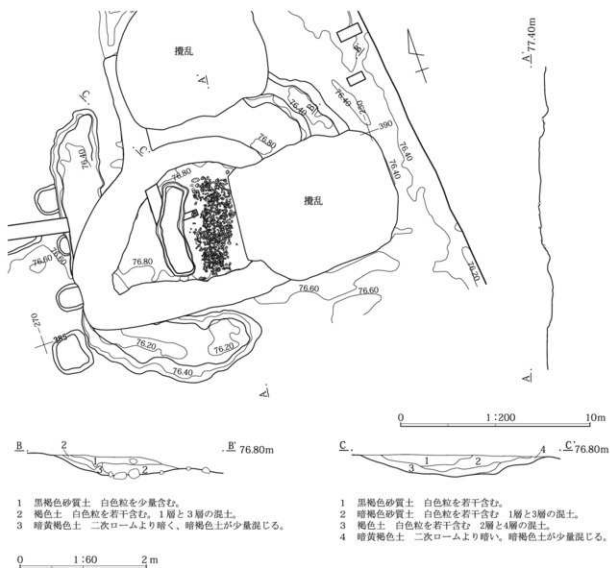
石室の規模を基底石の痕跡から推測すると、全長4.2m以上と思われる。

(2) 羨道部の閉塞状況

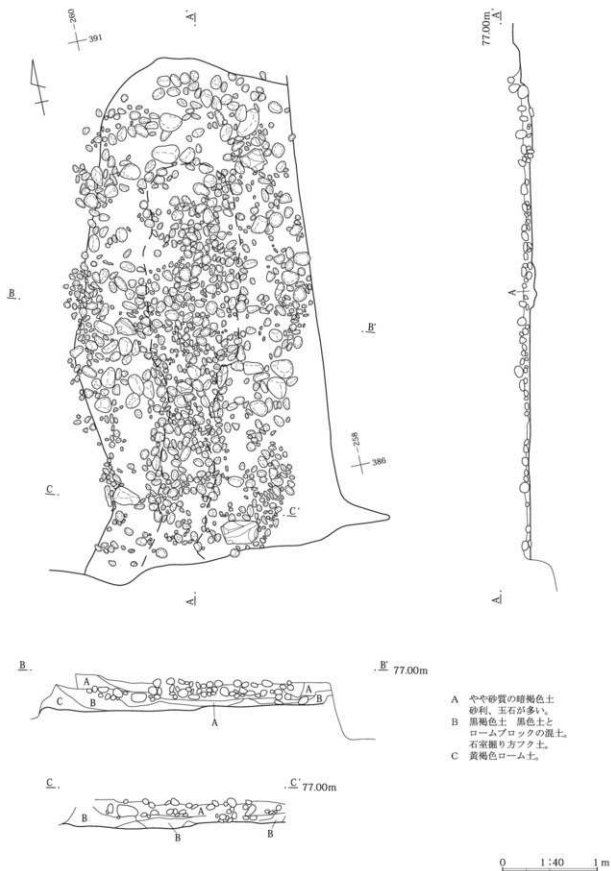
閉塞石は、残存していない。

(3) 石室内における遺物出土状況 (第329図)

石室内からは、礫の隙間に鉄鍔16点、刀子2点、刀装具1点が出土している。

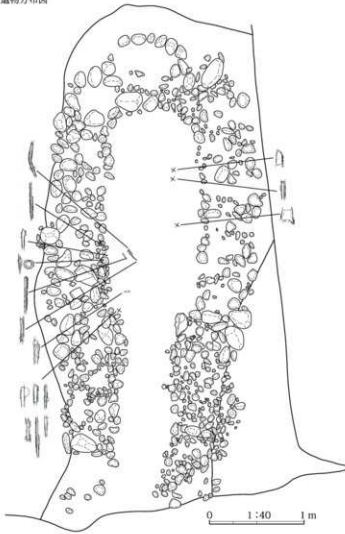


第327図 15号墳墳丘平面図・断面図、周堀土層断面図

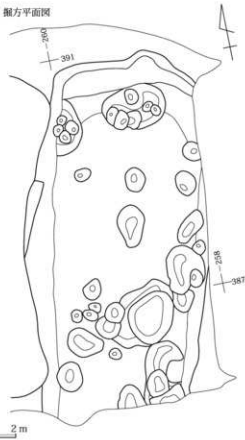


第328図 15号墳石室平面図・土層断面図

遺物分布図



掘方平面図



第329図 15号墳石室遺物分布図、掘方平面図

第5章 古墳群

(4) 石室床面の状況 (第328図)

玄室および羨道の床面は、いずれも径1~20cmの玉石を敷き詰めている。この玉石の下層は、扁平礫が多くなることから、舖石の可能性もある。

(5) 石室の平面状況 (第328・329図)

開口方向 南南西方向に開口する。S-12-Wを指す。

平面形状 基底石の痕跡から推測すると、玄室は両袖型で短冊形を呈し、羨道は両側壁がほぼ平行と思われる。

4. 解体調査

(1) 墳丘・石室の解体 (第327~329図)

墳丘・石室の解体に際しては、石室の主軸および主軸に直交するトレンチで土層断面の観察を行った。

(2) 墳丘の盛土

盛土は削平されて残存していない。石室周りも不明。

(3) 石室根石 (第329図)

根石(基底石)の周囲に取り巻いていたと思われる栗石が確認されており、石材は石室底面に直置きされたと思われる。

(4) 石室掘方 (第329図)

南・東側および西側の一部が、攪乱によって壊されている。掘方の平面形は、隅丸長方形を呈すると思われる。残存する規模は、長軸5.6m、短軸2.8m、深さ0.15mを測る。底面の状態は、設置された石材の圧痕等による凹凸が目立つ。

5. 出土遺物 (第347図、表112、PL.151)

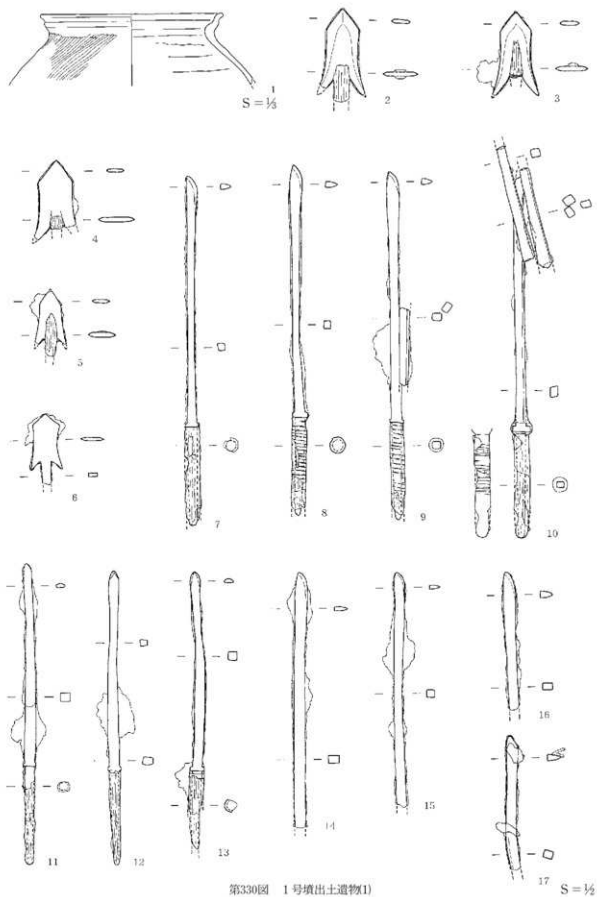
石室内から出土した鉄鏃16点、刀子2点、刀装具1点、他に周囲の攪乱坑の中から鉄鏃6点、板状の鉄製品1点、刀装具2点、耳環2点を図示した。攪乱坑内には、石室に使用されていたと思われる石材が詰め込まれていたことから、これらの遺物も本墳に伴う遺物と考えられる。

1は有茎腸状長三角形鏃で、欠損した基部付近に

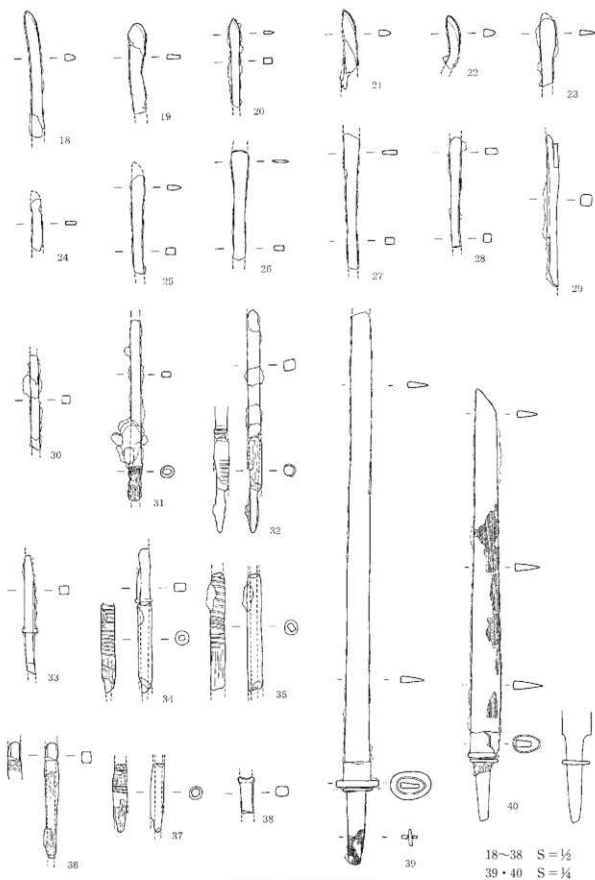
木質が残存している。他の鉄鏃は、2・3の長頸片刃鏃、刃部を欠損する長頸鏃ないし基部である。16の刀子には木質が残存し、25の板状鉄製品は用途不明。刀装具とした26は鉄製で、27・28は細長い金剛製品。29の耳環は金剛製で、外径2.0cmを測り、表面には金の薄板を被せている。30の耳環は鉄製で、やや小型で外径1.5cmを測り、表面には錆が著しい。

6. 時期

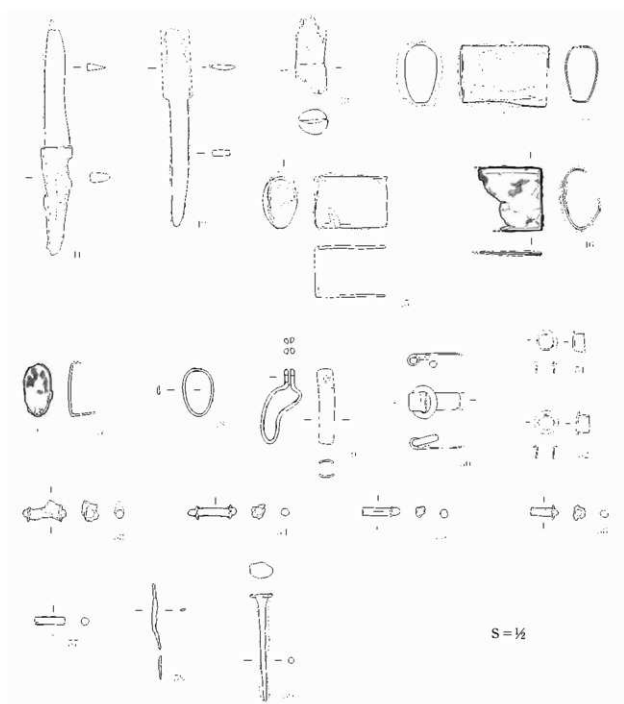
周辺の状況から、本墳は古墳時代終末期に当たる7世紀代の築造と推測される。



第330図 1号墳出土遺物(1)

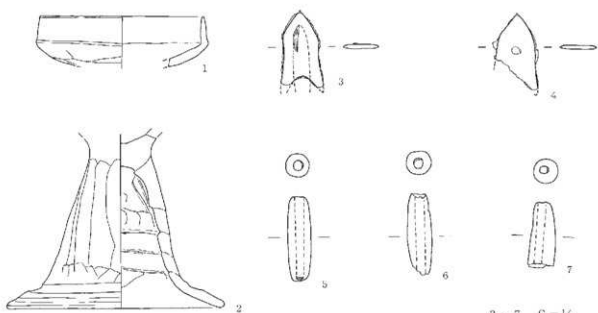


第331図 1号墳出土遺物(2)



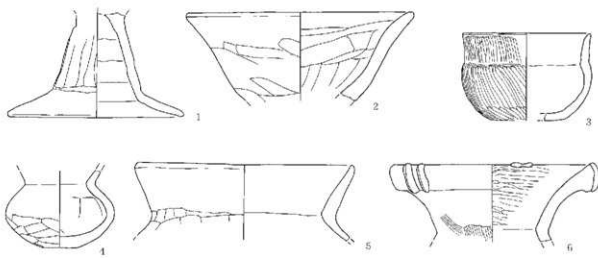
第332図 1号墳出土遺物(3)

第5章 古墳群



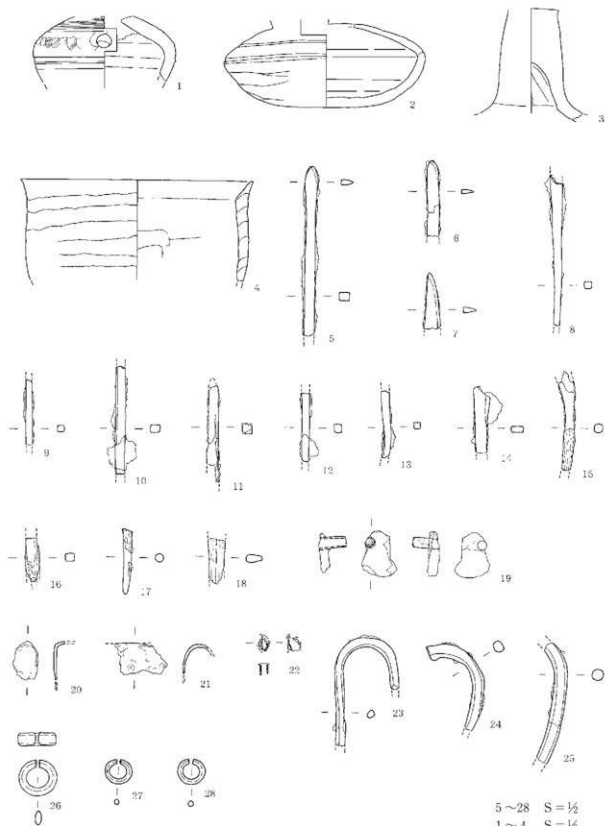
第333図 2号墳出土遺物

3~7 S=1/2
1・2 S=1/4



第334図 3号墳出土遺物

S=1/4

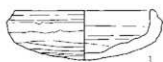


5~28 S=1/2

1~4 S=1/3

第335図 4号墳出土遺物

第5章 古墳群



1



2

3 S = 1/2

1・2 S = 1/3



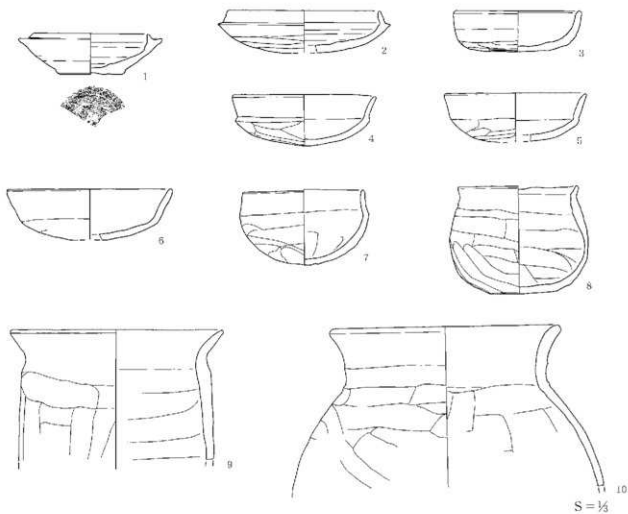
3

第336图 5号墳出土遺物



S = 1/2

第337图 6号墳出土遺物

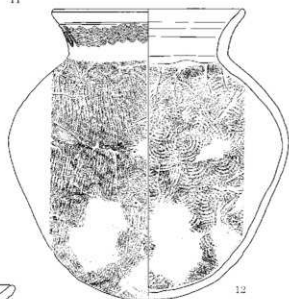


第338图 7号墳出土遺物(1)

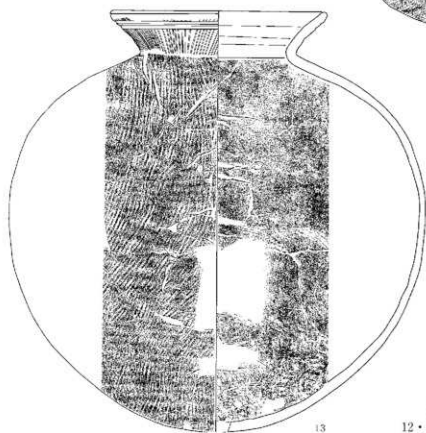
S = 1/3



11



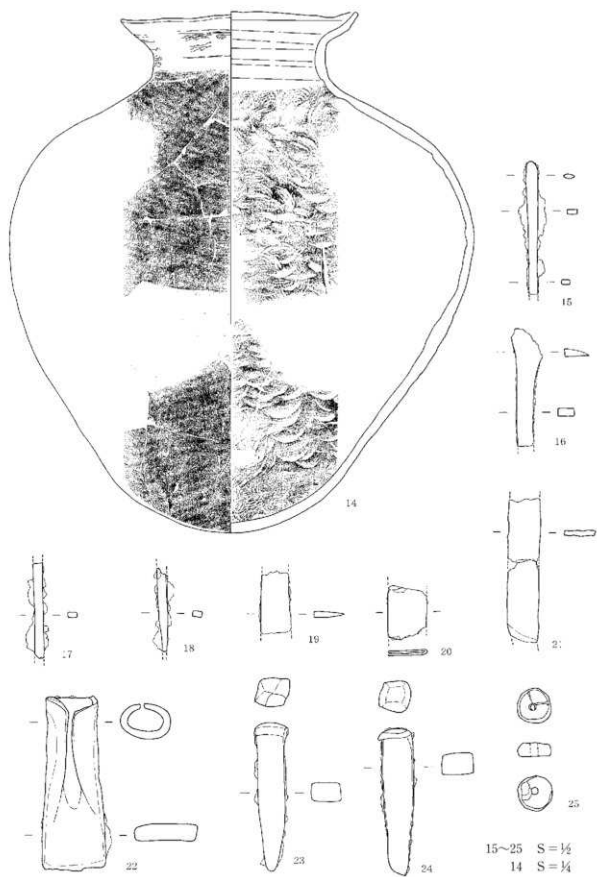
12



13

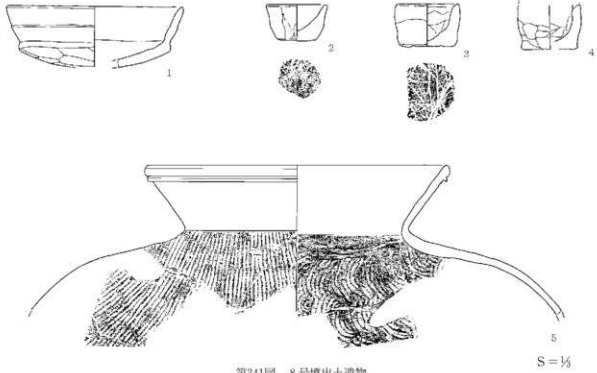
11 S = 1/2
12・13 S = 1/4

第339図 7号墳出土遺物②

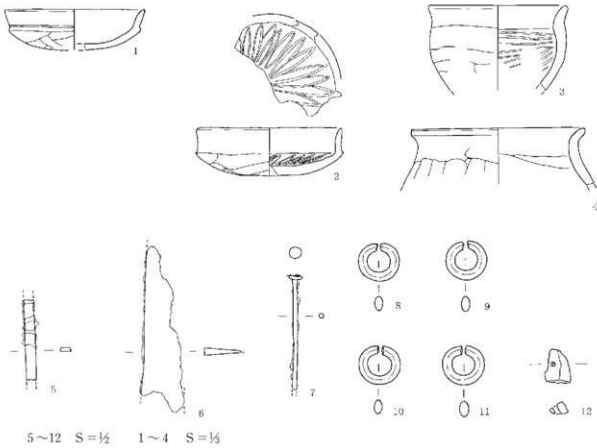


第340图 7号墳出土遺物(3)

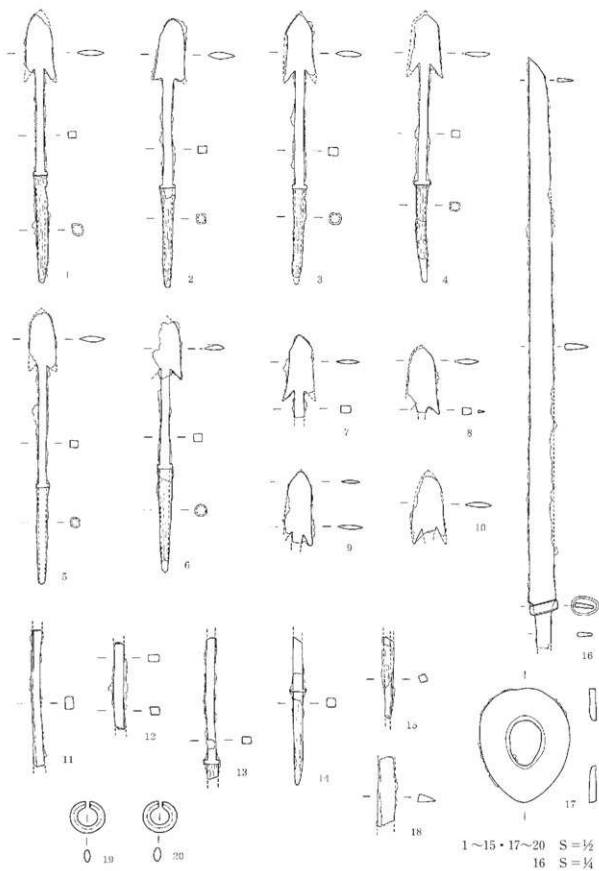
第2節 検出された遺構と遺物



第341図 8号墳出土遺物

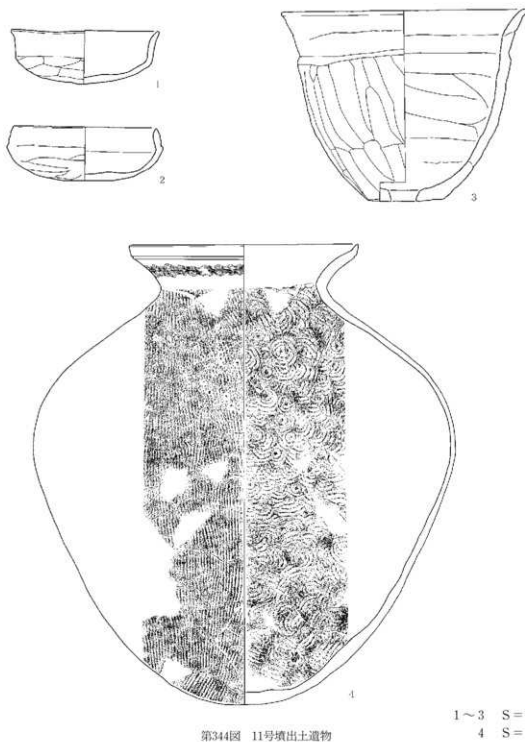


第342図 9号墳出土遺物



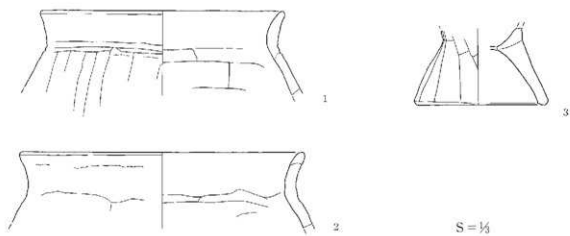
1~15・17~20 S=1/2
16 S=1/4

第343図 10号墳出土遺物

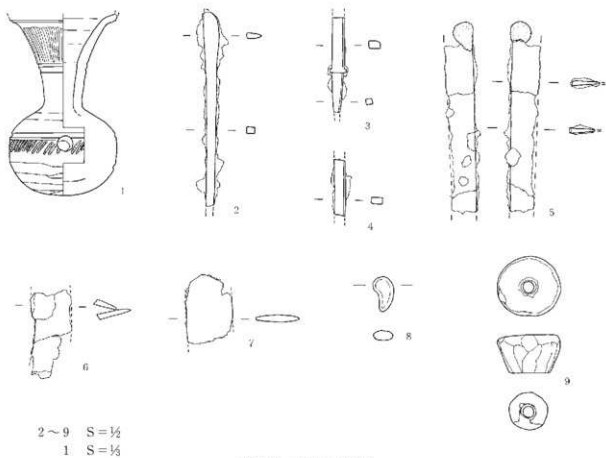


第344図 11号墳出土遺物

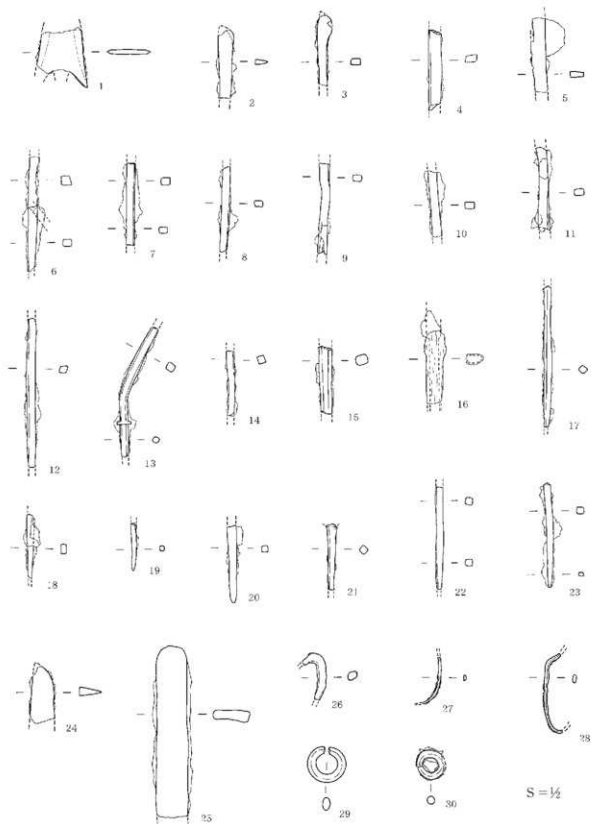
第5章 古墳群



第345図 12号墳出土遺物



第346図 14号墳出土遺物



第347図 15号墳出土遺物

第5章 古墳群

表99 1号墳出土遺物観察表 (第330~332図)

図録番号 図録番号	土器名 目録	器 名 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)				胎土/焼成/色調				成・形状の特徴				
図録番号 図録番号	器名 目録	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	備 考
1 PL-148	土師器 台付甕	口縁部・胴部 土位小片		□ 14.2				細砂粒/良好/濃い橙				口縁部残ナド、胴部ハケリ、内面胴部はヘラナド。				
2 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	6.4	(5.1)	4.5	1.9	0.2					1.9	0.8		有葉鍔長三角形鏃 基部に木貫残存	
3 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	7.0	(4.5)	(4.5)	2.5	0.3						0.6		有葉鍔長三角形鏃 基部に木貫残存	
4 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	5.7	(4.2)	(4.2)	1.9	0.3					0.9	0.7		有葉鍔長三角形鏃 基部に木貫残存	
5 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	2.9	(3.6)	(2.9)	1.5	0.3					(2.1)	0.5		有葉鍔長三角形鏃 基部に木貫残存	
6 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	3.1	3.8	3.0	1.3	0.2	1.0	0.5	0.2	1.2	0.5			有葉鍔長三角形鏃	
7 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	15.4	18.6	2.5	0.4	0.3	10.9	0.4	0.4	5.2	0.6			長楕円片刃鏃 基部に木貫残存	
8 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	19.2	(18.5)	2.2	0.6	0.4	10.6	0.4	0.5	4.8	0.4			長楕円片刃鏃 基部に木貫・銅皮巻き痕残存	
9 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	23.0	18.4	2.7	0.5	0.3	10.5	0.5	0.4	5.2			計測 不能	長楕円片刃鏃	
10 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	24.6	(19.1)	1.3	0.7	0.3	(13.0)	0.4	0.5	6.1	0.4			長楕円片刃鏃	
11 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	13.8	15.8	0.6	0.6	0.2	11.3	0.5	0.5	3.9	0.4			長楕三角形鏃 基部に木貫残存	
12 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	13.7	15.5	0.6	0.6	0.2	9.9	0.5	0.4	5.0	0.4			長楕三角形鏃 基部に木貫残存	
13 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	12.3	(14.6)	0.5	0.6	0.2	9.8	0.5	0.5	(4.2)	0.5			長楕三角形鏃 基部に木貫残存	
14 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	15.6	(13.6)	3.5	0.7	0.2	10.1	0.7	0.4					長楕円片刃鏃	
15 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	12.3	(12.4)	2.4	0.5	0.2	10.0	0.4	0.3					長楕円片刃鏃	
16 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	6.5	(7.2)	3.0	0.7	0.4	4.3	0.5	0.4					長楕円片刃鏃	
17 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	6.4	(7.1)	(1.1)	0.7	0.3	(7.1)	0.5	0.4					長楕円片刃鏃	
18 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	6.5	(6.7)	3.4	3.5	0.3	3.3	3.5	0.5					長楕円片刃鏃	
19 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	3.5	(4.8)	2.6	0.7	0.2	(2.2)	0.7	0.4					長楕円片刃鏃	
20 PL-148	鉄製品 鉄鏃	銅鏃	2.9	(4.7)	1.5	0.6	0.3	(3.2)	0.5	0.4					長楕円片刃鏃	
21 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	2.6	(4.2)	(2.2)	0.7	0.3	(2.1)	0.7	0.5					長楕円片刃鏃	
22 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	1.9	(2.9)	(2.8)	0.6	0.5	計測 不能	計測 不能	計測 不能					長楕円片刃鏃	
23 PL-148	鉄製品 鉄鏃	銅鏃	2.6	(3.6)				(3.6)	0.5	0.4					長楕鏃	
24 PL-148	鉄製品 鉄鏃	土室	0.7	(2.2)	(0.7)	(0.6)	0.2	(2.0)	0.6	0.2					長楕鏃	
25 PL-148	鉄製品 鉄鏃	土室	3.4	(5.2)	(1.5)	0.8	0.3	(3.7)	0.5	0.4					長楕鏃	
26 PL-148	鉄製品 鉄鏃	土室	4.0	(5.8)	1.5	0.9	0.2	(4.3)	0.6	0.3					長楕鏃	
27 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	3.1	(7.2)				(6.3)	0.6	0.4					長楕鏃	

第2節 検出された遺構と遺物

器具番号 図説番号	類別 遺物	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃厚 (cm)	柄長 (cm)	柄幅 (cm)	柄厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備考
28 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	4.2	(5.9)	0.5	0.7	0.3	(5.4)	0.5	0.5			長柄三角形鏃
29 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	7.2	(8.0)				(8.0)	0.6	0.6			長柄鏃
30 PL-148	鉄製品 鉄鏃	前庭	3.5	(5.0)				(5.0)	0.5	0.5			長柄鏃
31 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	14.0	(9.6)				(7.7)	0.5	0.3	(6.3)	0.4	長柄鏃 基部に木質・靱皮巻き痕残存
32 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	11.5	(11.0)				(6.7)	0.6	0.7	4.8	0.5	長柄鏃 基部に木質・靱皮巻き痕残存
33 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	2.7	(6.3)				(4.0)	0.6	0.5	(2.3)	0.5	長柄鏃
34 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	6.0	(7.0)				(2.8)	0.6	0.4	4.8	0.4	長柄鏃 基部に木質・靱皮巻き痕残存
35 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	4.4	(6.2)							計測 不能	0.4	長柄鏃 基部に木質・靱皮巻き痕残存及び欠木質残存
36 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	4.8	(6.1)				(1.0)	0.4	0.5	(5.1)	計測 不能	長柄鏃 基部に木質・靱皮巻き痕残存
37 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	2.0	(3.0)							(3.0)	0.4	長柄鏃 基部に木質・靱皮巻き痕残存
38 PL-148	鉄製品 鉄鏃	石室	1.8	(2.0)				(2.0)	0.7	0.5			長柄鏃
器具番号 図説番号	類別 遺物	出土位置	計 測 値 (cm, g)										備 考
39 PL-148	鉄製品 大刀	石室	【刀身】全長：(58.3) 刃長：(47.3) 刃幅：2.0-2.7 刃厚：0.7-0.9 茎長：11.0 【髹】外径長軸：4.4 外径短軸：3.2 厚：0.7 【鍔】長：2.0 外径長軸：2.07 外径短軸：1.85 厚：— 【鍔金具】長：6.5 外径軸：2.06 外径軸：1.67 内長軸：2.9 内短軸：1.5 【目釘】径：1.8 径：0.4 総重量：476.2										刃部の先端を欠くがほぼ定形品。平造り。鞘部には木質が残る。計測不能とする柄金具がそのまま残存。柄金具溝は鉄製で、鍔は銅製で縁巻が付着。さらに鞘部には鉄製の目釘が残存する。
40 PL-148	鉄製品 小刀	石室	【刀身】全長：45.8 刃長：36.4 刃幅：2.8 刃厚：0.8 茎長：9.4 【鍔】長：2.6 外径軸：3.2+2.8 短軸：2.2+1.8 最大厚：0.4 【鍔金具】長軸：2.9 短軸：1.8 幅：0.3 厚：0.3 総重量：385										定形品。平造り。刃部曲に鞘の木質が残存する。基部には鍔及び鍔金具が残る。鞘内部には木質が残る。茎には目釘孔は無い。
41 PL-148	鉄製品 刀子	石室	全長：(11.9) 刃長：(6.3) 刃幅：1.1 刃厚：0.4 茎長：5.6 【髹】(木質部)長軸：1.7 短軸：1.1 総重量：19.8										刃部先端を僅かに欠損する定形品。基部には鞘となる木質部が残り、4mmほど良好に残存。
42 PL-148	鉄製品 刀子	石室	全長：(10.6) 刃長：(3.7) 刃幅：1.5 刃厚：0.3 茎長：6.8 重量：14.5										刃部を大きく欠損。鏃による脱落。
43 PL-148	木質 石室	長：(4.1) 幅：1.7 厚：1.3 重量：1.1											42と共に出土。木質外側に縁巻が付着。鋭ないし鈍の木質の可成りあり。
44 PL-148	鉄製品 刀器具	前庭	全長：4.6 外径長軸：3.2 外径短軸：2.2 厚：0.1 重量：16.6										鞘小尻。僅かに欠損するがほぼ定形。
45 PL-148	鉄製品 刀器具	石室	全長：3.9 外径長軸：2.8 外径短軸：1.6 厚：0.1 重量：12.2										鞘小尻。僅かに欠損するがほぼ定形。鋭い副付け。
46 PL-148	鉄製品 刀器具	石室	全長：(3.3) 外径長軸：3.3 内径長軸：2.95 厚：0.1 重量：3.9										鞘口金具。
47 PL-148	鉄製品 刀器具	石室	長：1.1 長軸：2.8 短軸：1.5 厚0.1 重量：1.7										鞘小尻の破片。
48 PL-148	銅製品 刀器具	石室	外径長軸：2.6 外径短軸：1.7 幅：0.4 厚0.1 重量：1.6										43の木質の外側の金具。
49 PL-148	銅製品 刀器具	石室	外径長軸：3.9 幅：0.8 厚：0.15 重量：4.3										鞘金具(足金具?)。上部を折り曲げ左右で合わせる形。上部に孔あり。
50 PL-148	金銅製品 刀器具?	石室	全長：(2.8) 最大幅：0.9 最大厚：0.6 板厚：0.06 【鍔部】長軸：1.7 短軸：1.3 幅：0.3 総重量：5.1										鍔の一部か。端部に横穴状の溝を持ち、溝へ鍔を挟む構造か。
51 PL-148	金銅製品 刀器具	石室	径：1.2 長：6.6 厚：0.02 重量：0.5										毎日金具。
52 PL-148	金銅製品 刀器具	石室	径：1.2 長：6.7 厚：0.05 重量：0.7										毎日金具。
53 PL-148	鉄製品 弓鋸	石室	全長：2.2 軸長：1.6 軸径：0.5 花弁径：0.9 重量：1.7										折り弓金具。両端が環状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花弁状に切り開かれている。軸部には木質残存。

第5章 古墳群

経度番号 図版番号	種別 種類	出土位置	計測値 (cm, g)	備考
54 PL-148	鉄製品 弓鋸	石室	全長:2.6 軸長:1.7 軸径:0.4 花弁径:0.8 重量:1.2	折り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花弁状に切り開かれている。
55 PL-148	鉄製品 弓鋸	石室	全長:2.0 軸長:1.3 軸径:0.4 重量:0.8	折り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花弁状に切り開かれている。
56 PL-148	鉄製品 弓鋸	石室	全長:1.4 軸長:(1.2) 軸径:0.4 花弁径:0.8 重量:0.8	折り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花弁状に切り開かれている。
57 PL-148	鉄製品 弓鋸	石室	軸長:1.6 厚:0.4 重量:0.8	折り弓金具。軸の両端欠損。
58 PL-148	金銅製品 不明	石室	全長:4.8 軸:0.3 厚:0.1 重量:0.3	鍍銀い散状。金板を装せる。
59 PL-148	鉄製品 不明	墳丘表土 Dブロック	全長:5.7 最大幅:1.2 軸径:0.6 重量:5.8	鏽による剥落が著しい。鉄製の器の可能性もあり。

表100 2号墳出土遺物観察表 (第333図)

経度番号 図版番号	土器種類 種別	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴						
1 PL-149	土師器 杯	口縁部~体部 1/3		口 13.7 径 13.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、体部(復下)から底部は平持ちへ削り、胴部一部割落。内外面漆塗りか。						
2 PL-149	土師器 高杯	胴部		径 17.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	内面に輪痕み痕が残る。胴部へ削り。胴部横ナデ。内面胴部はナデ。						
経度番号 図版番号	種別 種類	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	柄長 (cm)	柄幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備考	
3 PL-149	鉄製品 鉄鏃	実室	4.5	(4.0)	(4.0)	(2.3)	0.2				無茎鏃長三角形鏃。基部に木骨残存。	
4 PL-149	鉄製品 鉄鏃	実室	3.3	(3.9)	(3.9)	2.1	0.2				無茎鏃長三角形鏃。中央に孔あり。	
経度番号 図版番号	種別 種類	出土位置	計測値 (cm, g)								備考	
5 PL-149	土製品 土師		長:4.3 径:1.2 孔:0.5 重量:4.3									外周ナデ。
6 PL-149	土製品 土師		胎土:細砂粒 焼成:良好 色調:にぶい褐色									外周ナデ。
7 PL-149	土製品 土師		長:(3.4) 径:1.3 孔:0.5 重量:6.1									外周ナデ。下平部欠損。

表101 3号墳出土遺物観察表 (第334図)

経度番号 図版番号	土器種類 種別	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-149	土師器 高杯	胴部		径 13.4	細砂粒・焼/良好/黄	胴部はヘナナデ。胴部は横ナデ。内面胴部はナデ。
2	土師器 高杯	杯身口縁部~ 体部片		口 17.6	細砂粒/良好/黄	口縁部横ナデ。体部へ削り、中位はナデ消されている。内面体部はヘナナデ。
3 PL-149	土師器 甕	1/3		口 16.6 高 6.8 底 6.9	細砂粒/良好/黄	口縁部胴部ともへ削り。底部へ削り。内面口縁部は横ナデ、胴部はヘナナデ。
4 PL-149	土師器 甕	底部~胴部片		底 3.0	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部上平ナデ。下平から底部はへ削り。内面胴部はヘナナデ。
5 PL-149	土師器 甕	口縁部~胴部 片		口 16.8	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部へ削り。内面胴部はヘナナデ。
6	土師器 甕	口縁部小片		口 15.47	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部に1対の突起状。胴部にへ削り。内面はへ削り。

表102 4号墳出土遺物観察表 (第335図)

経度番号 図版番号	土器種類 種別	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・整形の特徴
1 PL-149	灰土器 甕	胴部上平片			細砂粒/微化屑多量/にぶい褐色	ワケロ整形。回転石回りか。胴部上位は9×8目。中位は口縁部内面に波状文が施される。

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	土器種別 器種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特長							
2 PL-149	磁青唐 平瓶	肩部～胴部 1/3		底 約19.0	細砂粒/還元/灰	口ノ整形、回転方向不明。肩部ヘラナダ。胴部下半へ削り。							
3 PL-149	土師器 高杯	胴部上平片			細砂粒/良好/黄	胴部はナダ、内面はナダ。							
4	土師器 口縁部	口縁部～胴部 中位片		口 16.2	細砂粒/良好/赤褐色	外面に輪痕み痕が残る。口縁部横ナダ。胴部整形不明。内面胴部はヘラナダ。							
検出番号 図版番号	器種 器種	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃厚 (cm)	柄長 (cm)	柄幅 (cm)	柄厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備 考
5 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	9.1	(9.0)	0.7	0.8	0.3	(8.3)	0.6	0.3			長薄片刃鏃(長短三角形鏃?)
6 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	3.7	(4.0)	1.0	0.8	0.2	3.0			0.7	0.5	長薄片刃鏃
7 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	1.9	(3.0)	(2.9)	1.0	0.5						長薄片刃鏃
8 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	4.8	(8.0)				(2.0)	0.7	0.5	6.0	0.5	長柄鏃
9 PL-149	鉄製品 鉄鏃	墳丘表土 Aゾロップ	3.4	3.5				3.5	0.5	0.4			長柄鏃
10 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	5.4	(5.7)				(5.7)	0.5	0.4			長柄鏃
11 PL-149	鉄製品 鉄鏃	石室	2.9					(5.0)	0.6	0.5			長柄鏃
12 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	3.4	(3.6)				(3.6)	0.7	0.6			長柄鏃
13 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	2.2	(3.6)				(3.6)	0.5	0.4			長柄鏃
14 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	4.0	(3.6)	1.0	0.7	0.3	(2.6)	0.6	0.4			長柄鏃
15 PL-149	鉄製品 鉄鏃	石室	4.1	(5.3)				(1.4)	0.8	0.5	(2.9)	0.6	長柄鏃 基部に木質残存
16 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	1.2	(2.3)							(2.3)	0.4	基部 基部に木質残存
17 PL-149	鉄製品 鉄鏃	玄室	1.4	(3.5)							0.4	0.4	基部 基部に木質残存
検出番号 図版番号	器種 器種	出土位置	計 測 値 (cm, g)										備 考
18 PL-149	鉄製品 刀子	玄室	全長:(2.4) 軀:0.9 厚:0.6 重量:2.3										刀身の柄部の破片。柄部に木質が残存。
19 PL-149	鉄製品 刀	玄室	柄部 全長:2.4 最大幅:1.8 厚:0.5 目釘 長:1.3 径:0.6 総重量:6.0										刀の柄部の破片。目釘が残る。目釘表面には金板が張る。
20 PL-149	鉄製品 刀器具	玄室	全長:(0.7) 刃部 長軸:1.9 短軸:1.3 厚:0.2 重量:1.7										鞘内の金具片。内面に僅かに緑锈が見られる。
21 PL-149	鉄製品 刀器具	玄室	全長:(2.8) 長軸:(1.7) 短軸:(1.5) 最大厚:0.2 重量:2.3										鞘の金具片。鞘口が鞘口から不明。
22 PL-149	金銅製品 刀器具	玄室	全長:0.7 最大幅:(0.7) 厚:0.05 重量:0.1										柄部の懸濁石に用いられた短目金具。磨れた状態。
23 PL-149	鉄製品 不明	玄室	全長:(5.7) 軀:(3.0) 径:0.4 重量:10.8										帯金具の可能性あり。
24 PL-149	鉄製品 不明	墳丘表土	全長:(3.9) 軀:4.0 径:0.5 重量:6.7										帯金具の可能性あり。
25 PL-149	鉄製品 不明	墳丘表土 Aゾロップ	全長:(5.9) 軀:1.9 径:0.6 重量:6.2										帯金具の可能性あり。
26 PL-149	銅製品 耳環	石室	外径:2.0 内径:1.2 厚さ:0.6 切れ目:0.2 重量:8.1										金の降板を被せる。
27 PL-149	銅製品 耳環	石室 掘り方	外径:1.4 内径:1.9 厚さ:0.3 切れ目:0.2 重量:1.0										金の降板を被せる。
29 PL-149	銅製品 耳環	玄室	外径:1.5 内径:1.9 厚さ:0.3 切れ目:0.2 重量:1.6										金の降板を被せる。

第5章 古墳群

表103 5号墳出土遺物観察表(第336図)

図記番号 図記番号	土器類別 器種	部 位 (残存率)	出 土 位置	計 測 値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形 状 の 特 徴							
1 PL-149	甕蓋割 杯身	1/2		口 16.8 高 3.9 径 13.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へう割り。							
2 PL-149	手取石土器 碗形	口縁部1/2欠 損		口 5.3 高 4.7 底 4.0	細砂粒/良好/にぶい黄緑	口縁部から体部はナデ。底部はヘラナデ。内面はナデ。							
図記番号 図記番号	類別 器種	出 土 位 置	重量 (g)	全長 (cm)	対長 (cm)	対幅 (cm)	対厚 (cm)	頸長 (cm)	頸幅 (cm)	頸厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備 考
3 PL-149	鉄製品 鉄鏃	周堀 フウ土	20.9	(12.7)	6.3	1.2	0.4	3.9	0.8	0.6	2.3	0.6	短梨型。上部片側を欠損。基部に木貫れあり。

表104 6号古墳出土遺物観察表(第337図)

図記番号 図記番号	類別 器種	出 土 位 置	計 測 値 (cm, g)	備 考
1 PL-149	鉄製品 釘	周堀	全長:8.5 最大幅:1.7 厚:1.1 重量:29.7	頭部は大きく鋭曲する。溝に若干の割傷が著しい。

表105 7号墳出土遺物観察表(第338~340図)

図記番号 図記番号	土器類別 器種	部 位 (残存率)	出 土 位置	計 測 値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形 状 の 特 徴							
1	甕蓋割 杯身	1/6		口 9.0 高 3.2 径 11.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へう割り。							
2	甕蓋割 杯身	1/4		口 12.0 高 3.3 径 12.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部手持ちへう割り。							
3 PL-149	甕蓋割 杯身	口縁部の一部 を欠損		口 9.8 高 3.2 底 8.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へう割り。底部は手持ちへう割り。							
4 PL-149	土師陶 杯	3/4		口 11.1 高 4.1 径 10.8	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横ナデ体部(横下)から底部は手持ちへう割り。							
5 PL-149	土師陶 杯	3/4		口 11.9 高 4.1 径 10.1	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横ナデ体部(横下)から底部は手持ちへう割り。							
6	土師陶 杯	1/5		口 12.8 高 4.0 径 9.8	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。							
7 PL-149	土師陶 碗	完整		口 9.4 高 6.0 径 10.1	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横ナデ。体部(横下)から底部は手持ちへう割り。内面体部から底部はヘラナデ。							
8 PL-149	土師陶 鉢	完整		口 9.3 高 8.5 底 5.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部から底部はへう割り。内面胴部はヘラナデ。							
9	土師陶 壺	口縁部~胴部 下位片		口 16.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。							
10	土師陶 壺	口縁部~胴部 上位片		口 17.7	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。							
11	土師陶 壺	口縁部~胴部 上位片		口 19.7	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はヘラナデ。口縁部中に凹線が2本並ぶ。							
12 PL-149	甕蓋割 壺	3/4		口 19.8 高 30.7	粗砂粒/良好/灰	口縁部ロクロ整形。胴部内面平行引き。内面同心円状アケ具痕が残る。口縁部には波状文が施される。							
13 PL-149	甕蓋割 壺	1/2		口 22.6 高 44.6	粗砂粒/還元焰/灰	口縁部はロクロ整形。胴部は外面平行引き。内面はアケ具痕が残るが大部分ナデ消されている。口縁部は放射状へう割り。							
14 PL-150	甕蓋割 壺	3/5		口 25.0 高 54.9	粗砂粒/還元焰/灰	口縁部ロクロ整形。胴部は内面にアケ具痕が残る。外面は口縁部に2段の波状文、胴部は下半平へう割り。上半は底部はナデ。							
図記番号 図記番号	類別 器種	出 土 位 置	重量 (g)	全長 (cm)	対長 (cm)	対幅 (cm)	対厚 (cm)	頸長 (cm)	頸幅 (cm)	頸厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備 考
15 PL-150	鉄製品 鉄鏃	前堀	4.8	(7.1)	0.5	0.7	0.2	(6.6)	0.5	0.3~ 0.2			長頸三角形鏃
16 PL-150	鉄製品 鉄鏃	実室	10.3	(6.2)	1.7	1.6	0.3	(4.3)	1.0	0.6			長頸片刃鏃(輪刃造)
17 PL-150	鉄製品 鉄鏃	前堀	2.9	(5.0)				(5.0)	0.5	0.2			長頸鏃
18 PL-150	鉄製品 鉄鏃	前堀	2.6	(4.4)				(3.0)	0.5	0.3	(1.4)	0.3	長頸鏃

第2節 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	種別 遺構	出土位置	計 測 値 (cm, g)		備 考
19 PL-150	鉄製品 刀子	石室	全長: (3.4)	刃幅: 1.7 刃厚: 0.3 重量: 6.0	刀子の刃部片。
20 PL-150	鉄製品 不明	横江表土 アブロツク	全長: (2.9)	最大幅: 2.1 最大厚: 0.3 重量: 3.0	厚さ 1mm の薄い板状のものを折り返して二重にしている。 上・下端は破損。
21 PL-150	鉄製品 不明	石室 横孔	全長: (7.6)	最大幅: 1.7 最大厚: 0.3 重量: 8.9	縦身で薄い板状を呈する。下端は大きく歪む。 上端は欠損。
22 PL-150	鉄製品 斧	No1	全長: 9.2 最大幅: 3.5 最大厚: 2.1 刃厚: 0.5 重量: 127.7		刃部は平坦となる。刃厚はやや厚め。 鍔の進行が美しい。
23 PL-150	鉄製品 釘	石室 横孔	全長: 7.9 最大幅: 1.8 厚: 1.3 重量: 60.0		断面が長方形となる太身の釘。
24 PL-150	鉄製品 釘	井土 Cブロッツク	全長: 7.8 最大幅: 1.7 厚: 1.2 重量: 62.0		断面が長方形となる太身の釘。
25 PL-150	石製品 白土	石室埋土	径: 1.8 厚さ: 0.7 孔: 0.4 重量: 3.0		表面は研削が施され、裏面は研削面を若干残すが、大半が磨く剥落している。

表106 8号墳出土遺物観察表 (第341図)

検出番号 図版番号	土器種類 形	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-150	土師器 杯	1/2		口 13.8 径 12.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ。体部(腹下)から底部は手持ちへう張り。
2 PL-150	手捏ね土器 碗形	1/2		口 4.8 高 2.8 径 3.0	細砂粒/良好/明褐色	口縁部から体部はナデ。底部は砂底か。内面もナデ。
3	手捏ね土器 碗形	2/3		口 4.8 高 3.3 径 4.3	細砂粒/良好/明黄褐色	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部へう張り?内面強ひナデ。
4	手捏ね土器 碗形	口縁部。体部 1/2欠損		径 4.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部へう張り。
5	須恵器 甕	口縁部~胴部 上位片		口 23.4	細砂粒/還元焰/灰褐色	胴部に平打ち。内面に同心円状アナタ具残る。頸部付近はナデ。

表107 9号墳出土遺物観察表 (第342図)

検出番号 図版番号	土器種類 形	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-150	土師器 杯	1/2		口 10.8 高 3.2 径 10.4	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。体部(腹下)から底部は手持ちへう張り。
2	土師器 杯	1/3		口 11.2 高 3.8 径 11.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ。体部(腹下)から底部は手持ちへう張り。内面底部は花弁状へう張り。
3	土師器 鉢	口縁部~体部 片		口 10.6	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部横ナデ。体部上位はナデ。中位はへう張り。内面体部に磨なへう張り。
4	土師器 甕	口縁部~胴部 上位片		口 12.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。胴部はへう張り。内面胴部はへうナデ。

検出番号 図版番号	種別 遺構	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃厚 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備 考
5 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	2.0	(4.2)					0.6	0.2	長條鏃
検出番号 図版番号	種別 遺構	出土位置	計 測 値 (cm, g)								備 考
6 PL-150	鉄製品 刀	アブロツク 横孔	刃長: (8.8)	刃幅: 2.3	刃厚: 0.4	重量: 22.2					刀の破片。鍔が著しく、割落が顕著。
7 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	全長: (8.1)	最大幅: 0.7	最大厚: 0.3	重量: 2.4					鉄製鉄鏃の軸部と思われ、断面内状で縦身、両端部は欠損。
8 PL-150	銅製品 耳環	石室 下部	外径: 2.2	内径: 1.2	厚さ: 0.7	切れ目: 0.2	重量: 10.1				金の薄板を被せる。
9 PL-150	銅製品 耳環	石室	外径: 2.2	内径: 1.2	厚さ: 0.8	切れ目: 0.3	重量: 10.9				金の薄板を被せる。
10 PL-150	銅製品 耳環	石室	外径: 2.2	内径: 1.3	厚さ: 0.7	切れ目: 0.2	重量: 11.1				金の薄板を被せる。

第5章 古墳群

図録番号 図録番号	器物 種類	出土位置	計測値 (cm, g)	備考
11 PL-150	銅製品 耳環	石室	外径: 2.2 内径: 1.2 厚さ: 0.8 切れ目: 0.2 重量: 12.4	金の鍍板を被せる。
12 PL-150	石製品 玉釧?	E	長さ: 1.7 最大幅: 1.3 厚さ: 0.65 孔: 0.1 重量: 1.6	上面がイキ面であり外はすべて破面。本来の形状は不明。

表108 10号墳出土遺物観察表 (第343図)

図録番号 図録番号	器物 種類	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃厚 (cm)	柄幅 (cm)	柄厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備考
1 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	13.3	14.3	3.5	1.4	0.3	5.5	0.4	0.3	5.7	0.4 長楕圓状長三角形鏃 基部に木質残存
2 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	17.8	14.3	3.3	1.5	0.3	5.7	0.5	0.4	5.3	計測 不能 長楕圓状長三角形鏃 基部に木質残存
3 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	14.1	14.0	3.7	1.4	0.3	6.2	0.5	0.5	4.7	0.5 長楕圓状長三角形鏃 基部に木質残存
4 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	14.0	14.2	3.2	1.5	0.2	6.5	0.4	0.3	5.1	計測 不能 長楕圓状長三角形鏃 基部に木質残存
5 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	12.8	14.4	2.8	1.4	0.3	6.5	0.4	0.3	5.1	計測 不能 長楕圓状長三角形鏃
6 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	10.3	(13.3)	(3.0)	(1.1)	0.2	5.0	0.4	0.3	5.4	計測 不能 長楕圓状長三角形鏃 基部に木質残存
7 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	4.0	(4.0)	(3.3)	1.3	0.2	(1.4)	0.5	0.4		長楕圓状長三角形鏃
8 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	4.1	(3.5)	(3.5)	(1.1)	0.2	0.5	0.5	0.3		長楕圓状長三角形鏃
9 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	3.2		3.9	1.4	0.2					長楕圓状長三角形鏃
10 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室 位置不明	2.9		(3.0)	1.4	0.3					長楕圓状長三角形鏃
11 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室		(7.1)					0.7	0.5		長楕圓
12 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	3.9	(4.4)					0.6	0.4		長楕圓
13 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	6.1	(7.4)				(6.6)	0.5	0.4	(6.0)	0.5 長楕圓 基部に木質残存
14 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	5.7	(7.8)				(2.8)	0.5	0.4	5.0	長楕圓 基部に木質残存
15 PL-150	鉄製品 鉄鏃	石室	2.8	(4.3)								計測 不能 基部 基部に木質残存
図録番号 図録番号	器物 種類	出土位置	計測値 (cm, g)									備考
16 PL-150	銅製品 大刀	①石室	【刀身】全長: 82.0 最大幅: 3.0 最大厚: 0.9 刃長: 56.3 刃幅: 2.5 刃厚: 0.7 茎長: 3.1 重量: 423.6 【柄金具】長軸: 2.9 短軸: 2.1 幅: 1.0 厚: 0.2 重量: 8.0									刀身全体に銅で、柄の下部を欠損する。柄金具及び刀 と一体で出土。柄の柄金具部分に木質が残存する。 総重量: 422g
17 PL-150	鉄製品 鏃	②石室	外径: 長軸: 6.0 短軸: 4.7 厚: 0.4 内径: 長軸: 2.4 短軸: 1.7 重量: 36.0									車輪等は残されていない。土層が厚く、下部がやや硬い気味の 板状を示す。
18 PL-150	鉄製品 刀子	石室 位置不明	全長: 0.7 刃長: 3.4 刃幅: 0.9 刃厚: 0.4 重量: 3.8									刀子の刃部片。
19 PL-150	銅製品 耳環	石室	外径: 1.8 内径: 1.0 厚さ: 0.7 切れ目: 0.2 重量: 6.3									金の鍍板を被せる。
20 PL-150	銅製品 耳環	石室	外径: 1.8 内径: 1.1 厚さ: 0.7 切れ目: 0.2 重量: 5.9									金の鍍板を被せる。

表109 11号墳出土遺物観察表 (第344図)

図録番号 図録番号	土器種類 種類	形状 (存在)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-150	土師器 杯	口縁部1/2欠 損		口 11.4 高 4.3 腹 10.8	細砂粒/軟質/黄	口縁部欠ナ。底部(後下)から底部は手持ちへ勾り。

第2節 検出された遺構と遺物

経度番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
2 PL-150	土師器 杯	1/4		口 11.4 高 4.2 径 12.6	細砂粒/良好/明赤褐色	口縁部横ナデ。体部(残下)から底部は手持りへう割り。
3	土師器 甕	2/3		口 19.2 高 15.0 底 6.0 孔 2.0	細砂粒・雜/良好/にぶい黄褐色	輪積み残が残る。口縁部横ナデ。胴部から底部はへう割り。内面胴部はへうナデ。
4 PL-151	須恵器 壺	3/4		口 24.0 高 48.7	粗砂粒/良好/灰	口縁部口クロ整形。胴部外面平行印直。内面同心円状アケ具痕が残る。口縁部には波状文が施る。

表110 12号墳出土遺物観察表 (第345図)

経度番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片		口 19.0	粗砂粒/良好/明赤褐色	胴部に輪積み残が残る。口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
2	土師器 壺	口縁部片		口 22.2	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部に輪積み残が残る。口縁部横ナデ。胴部へう割り。内面胴部はへうナデ。
3 PL-151	土師器 台付壺	胴部片		径 16.0	粗砂粒/良好/橙	胴部は折片。外面へう割り。内面ナデ。

表111 14号墳出土遺物観察表 (第346図)

経度番号 図版番号	土器種類 形 種	部 位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴							
1 PL-151	須恵器 壺	口縁部欠損			粗砂粒/還元焼/暗灰	口クロ整形。回転方向不明。口縁部上半にへう目。胴部中に刺突文。胴部下位は別形へう割り。底部は手持りへう割り。							
経度番号 図版番号	器物 種類	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	厚 (cm)	最大幅 (cm)	厚幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備 考	
2 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室 中央	7.4	(10.3)	1.7	0.7	0.3	4.5	0.4	0.3	(1.2)	0.4	長薄片刃鏃
3 PL-151	鉄製品 鉄鏃	南 覆瓦	4.7	(5.0)				(3.0)	0.7	0.4	(2.0)	0.5	長鏃
4 PL-151	鉄製品 鉄鏃	表土 南	2.3	(3.0)				(2.0)	0.6	0.5			長鏃
経度番号 図版番号	器物 種類	出土位置	計 測 値 (cm, g)									備 考	
5 PL-151	鉄製品 大刀	石室	全長: 17.6	刃長: 16.4	刃幅: 3.1	刃厚: 0.4	重量: 119.9						大刀の刃部片。鏃が著しく、小鏃が附着する(金属分析№27第2分組3検)。
6 PL-151	鉄製品 刀	北 覆瓦	全長: (4.8)	刃幅: 2.0	刃厚: 0.3	重量: 10.0						刀の刃部片。	
7 PL-151	鉄製品 短杖	石室	全長: (3.7)	幅: 2.5	厚: 0.4	重量: 0.7						大刀の刺突片の可能性あり。	
8 PL-151	石製品 碧玉	覆瓦北	長さ: 1.8	厚さ: 0.5	最大幅: 1.0	重量: 1.2						丁寧に研磨されるが、穿孔を持たない。	
9 PL-151	石製品 磁漆器	墳丘内	上縁: 13.3	下縁: 2.2	厚さ: 2.0	孔: 0.7	重量: 24.7						外面は研磨されるが、粗く研磨面が残る。

表112 15号墳出土遺物観察表 (第347図)

経度番号 図版番号	器物 種類	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	厚 (cm)	最大幅 (cm)	厚幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備 考
1 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	4.8	(3.2)	(0.3)	(2.7)	0.4	(2.7)	0.6	0.3		有茎鍔状長三角形鏃 基部に木質残存
2 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	2.5	(3.6)	(2.3)	0.7	0.3	(1.1)	0.6			長薄片刃鏃
3 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	2.1	(3.6)	(0.9)	0.6	0.2	(2.7)	0.5	0.4		長薄片刃鏃
4 PL-151	鉄製品 鉄鏃	C北 覆瓦	3.2	(4.3)				(4.3)	0.7	0.4~ 0.5		長鏃
5 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	4.5	(3.9)				(3.9)	0.7	0.4		長鏃

第5章 古墳群

経度番号 図版番号	種別 機軸	出土位置	重量 (g)	全長 (cm)	刃長 (cm)	刃幅 (cm)	刃厚 (cm)	頸長 (cm)	頸幅 (cm)	頸厚 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	備考
6 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	4.7 (6.1)					(6.1)	0.5	0.4			長機鏃
7 PL-151	鉄製品 鉄鏃	C南 機軸	4.4 (4.3)					(4.3)	0.5	0.4			長機鏃
8 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	2.7 (4.5)					(4.3)	0.4	0.3			長機鏃
9 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	2.7 (4.8)					(4.8)	0.5	0.3			長機鏃
10 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	2.1 (3.5)					(2.5)	0.5	0.4			長機鏃
11 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	3.9 (3.8)					(3.8)	0.6	0.5~ 0.3			長機鏃
12 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	5.1 (7.9)					(7.9)	0.5	0.4			長機鏃
13 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	5.8 (7.0)					(3.0)	6.0	6.0 (4.0)	0.5		長機鏃
14 PL-151	鉄製品 鉄鏃	C北 機軸	1.9 (3.4)					(3.4)	0.5	0.4			長機鏃
15 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	3.7 (3.6)					(3.6)	0.7	0.5			長機鏃
17 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	3.5 (7.4)					(7.4)	0.5	0.4			長機鏃
18 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	1.6 (3.4)						0.3		(3.4)	詳細 不明	基部
19 PL-151	鉄製品 鉄鏃	C南 機軸	0.4 (2.5)						0.3	0.3	(2.5)	0.3	基部
20 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	2.4 (4.1)						0.5	0.5	(4.1)	0.4	基部
21 PL-151	鉄製品 鉄鏃	C南 機軸	1.3 (3.5)								(3.5)	0.4	基部
22 PL-151	鉄製品 鉄鏃	C南 機軸	3.0 (5.4)					(3.0)	0.4	0.4	(2.4)	0.4	基部 基部に木質残存。
23 PL-151	鉄製品 鉄鏃	石室	3.0 (5.6)	(6.7)	0.6	0.1	(4.9)	0.3	0.2~ 0.3				基部 長機三角形鏃
経度番号 図版番号	種別 機軸	出土位置	計 測 値 (cm, g)									備考	
16 PL-151	刀子 柄	石室	全長:(4.9) 最大幅:1.3 最大厚:0.7 柄長:3.7 重量:5.5									刃部を僅かに残し、柄部には木質が残存。	
24 PL-151	刀子	石室	全長:(3.1) 刃幅:1.3 刃厚:0.6 重量:4.1									刃部の先端部。	
25 PL-151	鉄製品 不明	380-260G	長さ:9.1 幅:1.9 厚さ:0.6 重量:22.6									先端は丸い形状の鉄製品。下端は破断。	
26 PL-151	鉄製品 刀器具	石室	長さ:(2.3) 幅:0.4 厚さ:0.2 重量:1.7									鞘に巻き付けた金具片。錆が著しい。	
27 PL-151	刀器具	C南 機軸	長さ:2.5 幅:0.3 厚さ:0.2 重量:0.5									鞘に巻き付けた金具片。錆が著しい。	
28 PL-151	刀器具	C北 機軸	長さ:4.2 幅:0.4 厚さ:0.2 重量:7.1									鞘に巻き付けた金具片。上部が大きく凹んでいる。磨痕あり。	
29 PL-151	鉄製品 耳環	C 機軸	外径:2.0 内径:1.2 厚さ:0.7 切れ目:0.2 重量:7.4									金の輝眼を被せる。	
30 PL-151	鉄製品 耳環	C北 機軸	外径:1.5 内径:0.7 厚さ:0.4 切れ目:一 重量:2.5									鉄製と思われ、全体に錆が著しい。切れ目は僅れ、全体にやや歪み。	

第6章 土 坑

本調査で検出された土坑は、総数1,691基を数える。土坑調査に際しては、各調査区ごとに通し番号とし、ピット、柱穴、土坑を包括して遺構番号をしたため、土坑番号は膨大となっている。全体的には、土坑出土の遺物として掲載したものは少なく、小片の出土にとどまっている例がほとんどである。

以下、各調査地点・区ごとに記載する。

第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑

西野原(5)で検出された土坑は、443基を数えるが、本項で土坑として扱う遺構は147基である。また、調査の進行上、表113の土坑一覧に示すように遺構番号に欠番が多くなっている状況がある。全体的には時期を特定し難い土坑が多い中、縄文時代前期後半、弥生時代中期後半、古墳時代、平安時代の各時期に帰属する土坑が明らかとなっている。

以下、各土坑ごとに記載する。

(5) 1号土坑(第348図、PL.98)

位置(座標): X軸=38.446、Y軸=-45.356

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.56m、短軸1.24m、深さ38cmを測る。土層断面の観察から、北西側が大きく削平されている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 2号土坑(第348図、PL.98)

位置(座標): X軸=38.373、Y軸=-45.346

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.24m、短軸1.15m、深さ52cmを測る。埋土はAs-B軽石を多く含んだ暗褐色土の単一土層である。土層断面の観察から、南側が大きく削平されている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 3号土坑(第348図、PL.98)

位置(座標): X軸=38.373、Y軸=-45.357

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.66m、短軸1.02m、深さ27cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 4号土坑(第348図、PL.98)

位置(座標): X軸=38.373、Y軸=-45.353

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.86m、深さ17cmを測る。埋土はAs-B軽石を含んだ黒褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 5号土坑(第348図、PL.98)

位置(座標): X軸=38.358、Y軸=-45.300

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.87m、深さ14cmを測る。埋土はAs-B軽石を多く含んだ黒褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 7号土坑(第348図、PL.98)

位置(座標): X軸=38.310、Y軸=-45.304

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.86m、短軸2.71m、深さ38cmを測り、規模は大きい。埋土中から大型の礫が多く出土しており、土坑の北東側底面に焼土が分布する。

第6章 土 坑

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 9号土坑 (第349図、PL.98)

位置 (座標): X軸=38.310、Y軸=-45.299

本土坑は12号住居(古墳時代前半)と重複しており、本土坑の方が新しい。また、土層断面の観察から、10号土坑に切られており、本土坑の方が古いと思われる。平面形状ははっきりせず、規模は長軸の残存値1.05m、短軸0.98m、深さ12cmを測る。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(5) 10号土坑 (第349図)

位置 (座標): X軸=38.310、Y軸=-45.298

本土坑は12号住居(古墳時代前半)、9号土坑と重複しており、いずれも本土坑の方が新しい。平面形状ははっきりせず、規模は長軸の残存値0.90m、短軸1.01m、深さ21cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 12号土坑 (第349図、PL.98)

位置 (座標): X軸=38.331、Y軸=-45.279

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.27m、短軸0.90m、深さ24cmを測る。底面には炭が分布し、土坑東側の縁の一部で焼土が確認されている。また、底面上には大型の礫が多量に出土している。

出土土器はなく、時期は不明である。

(5) 13号土坑 (第349図、PL.98)

位置 (座標): X軸=38.315、Y軸=-45.299

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.80m、深さ46cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。

埋土中から縄文土器が出土している。出土土器から、時期は縄文前期後半の諸磯a式期と考えられる。なお、本土坑出土遺物は、は西野原遺跡(5)(7)第1分冊—縄文・弥生時代編—に掲載される。

(5) 14号土坑 (第349図、PL.98)

位置 (座標): X軸=38.292、Y軸=-45.292

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.29m、短軸0.51m、深さ18cmを測る。底面は荒れているが、掘り込みがほぼ直角である。埋土はAs-B軽石を含んだ明褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 15号土坑 (第349図、PL.98)

位置 (座標): X軸=38.300、Y軸=-45.305

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.53m、短軸1.76m、深さ42cmを測り、規模は比較的大きい。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 16号土坑 (第349図、PL.98)

位置 (座標): X軸=38.302、Y軸=-45.310

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.86m、短軸1.24m、深さ31cmを測り、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含んだ暗褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 17号土坑 (第350図、PL.99)

位置 (座標): X軸=38.385、Y軸=-45.306

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.05m、短軸0.68m、深さ65cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土上面はAs-B軽石を含んだ黒褐色土である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 18号土坑 (第350図)

位置 (座標): X軸=38.381、Y軸=-45.349

本土坑の平面形状はほぼ長方形を呈し、規模は長軸2.55m、短軸0.83m、深さ21cmを測り、長軸がか

なり長い。掘り込みがほぼ直角で、底面は平坦である。埋土はAs-B軽石を含んだ灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 19号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.378、Y軸=-45.348

本土坑は34号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。また、21・24号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.63m、短軸0.74m、深さ32cmを測り、長軸がかなり長い。掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。埋土は暗灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 21号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.377、Y軸=-45.346

本土坑は先の19号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.38m、短軸0.79m、深さ12cmを測る。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 22号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.382、Y軸=-45.348

本土坑は34号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。なお、本土坑は25号土坑と接する。平面形状は円形に近く、規模は径0.85m、深さ29cmを測る。埋土はAs-B軽石を多く含んだ黒色砂質土の単一土層である。土層断面の観察から、北側が削平されている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 23号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.383、Y軸=-45.352

本土坑は34号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.54m、短軸0.73m、深さ19cmを測り、長軸がかなり長い。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 24号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.378、Y軸=-45.249

本土坑は34号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。また、先の19号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.79m、短軸の残存値0.50m、深さ31cmを測る。埋土は黒色砂質土の単一土層である。土層断面の観察から、北側が削平されている。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 25号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.379、Y軸=-45.349

本土坑は34号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。なお、本土坑は22号土坑と接する。平面形状は円形を呈し、規模は径0.35m、深さ20cmを測る。埋土はAs-B軽石を多く含んだ黒色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 26号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.363、Y軸=-45.287

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸0.74m、短軸0.60m、深さ4cmを測り、残存状態は悪い。埋土は明黄褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 27号土坑(第350図、PL.99)

位置(座標): X軸=38.364、Y軸=-45.286

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸

第6章 土 坑

1.14m、短軸0.51m、深さ4cmを測り、残存状態は悪い。埋土は明黄褐色ローム土と暗褐色土ブロックを含む。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 28号土坑 (第350図、PL.99)

位置 (座標) : X軸=38.362、Y軸=-45.286

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.37m、短軸0.43m、深さ5cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 29号土坑 (第351図、PL.99)

位置 (座標) : X軸=38.362、Y軸=-45.284

本土坑の東側は調査区外となる。平面形状は長方形を呈するものと思われる。規模は長軸の残存値2.30m、短軸0.78m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 30号土坑 (第351図)

位置 (座標) : X軸=38.364、Y軸=-45.283

本土坑の東側は調査区外となる。31号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

検出された部分はごく僅かなため、平面形状や埋土は不明で、出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 31号土坑 (第351図、PL.99)

位置 (座標) : X軸=38.364、Y軸=-45.283

本土坑の東側は調査区外となる。先の30号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

平面形状や埋土は不明で、出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 32号土坑 (第351図、PL.99)

位置 (座標) : X軸=38.382、Y軸=-45.342

本土坑は33・34号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は

長軸3.62m、短軸2.32m、深さ21cmを測り、規模はかなり大きい。埋土は黒色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 33号土坑 (第351図、PL.99)

位置 (座標) : X軸=38.383、Y軸=-45.341

本土坑は先の32号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸0.95m、短軸0.60m、深さ19cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 34号土坑 (第351図、PL.99)

位置 (座標) : X軸=38.381、Y軸=-45.342

本土坑は先の32号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.87m、短軸0.50m、深さ19cmを測る。埋土は黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 37号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標) : X軸=38.371、Y軸=-45.336

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.18m、短軸0.75m、深さ28cmを測る。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 38号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標) : X軸=38.373、Y軸=-45.335

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸0.98m、短軸0.66m、深さ22cmを測る。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明であるが、形状および埋土の状況から、先の37号土坑と時期が近いものと思われる。

(5) 100号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標) : X軸=38.336、Y軸=-45.299

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸

1.29m、短軸0.73m、深さ19cmを測る。埋土は黒褐色砂質土の単一土層である。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 124号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.333、Y軸=-45.273

本土抗の平面形状は円形を呈し、規模は径0.66m、深さ59cmを測り、掘り込みがしっかりしている。埋土上面は黒色土、下面は暗褐色土である。平面および断面形状から柱穴の可能性が考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 139号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.376、Y軸=-45.349

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.32m、短軸0.95m、深さ41cmを測る。掘り込みが直角で、底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含んだ暗灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 140号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.373、Y軸=-45.343

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径0.49m、深さ11cmを測り、規模は小さい。埋土は黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 141号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.372、Y軸=-45.342

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.84m、短軸0.73m、深さ25cmを測る。埋土は黒色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 147号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.377、Y軸=-45.342

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸

0.63m、短軸0.49m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。埋土は黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 150号土坑 (第352図)

位置 (座標): X軸=38.374、Y軸=-45.349

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.43m、短軸0.37m、深さ29cmを測る。埋土は黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 151号土坑 (第352図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.379、Y軸=-45.344

本土抗の平面形状は方形を呈し、規模は一辺1.28m、深さ16cmを測る。埋土は黒色土をベースとする。底辺はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 152号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.380、Y軸=-45.340

本土抗の平面形状は円形を呈し、規模は径0.83m、深さ43cmを測り、残存状態は比較的良好。埋土は黒色土をベースとする。埋土は上面が黒色土、下面が暗褐色土である。平面および断面形状から柱穴の可能性も考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 156号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.376、Y軸=-45.352

本土抗は157・167号土坑と重複しているが、土層断面の観察から、いずれも本土抗の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値1.65m、短軸0.93m、深さ27cmを測る。埋土はAs-B軽石を含んだ暗灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(5) 157号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.374、Y軸=-45.353

本土坑は156・167号土坑と重複しており、土層断面の観察から、いずれも本土坑の方が古い。平面形状は長方形と思われ、規模は長軸の残存値2.08m、短軸の残存値0.53m、深さ58cmを測る。掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含んだ暗灰褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 160号土坑 (第353図)

位置 (座標): X軸=38.376、Y軸=-45.345

本土坑は161号土坑と重複しているが、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は円形に近く、規模は径0.27m、深さ22cmを測り、規模は小さい。埋土は黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 161号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.376、Y軸=-45.345

本土坑は先の160号土坑と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.91m、短軸0.69m、深さ18cmを測る。埋土はAs-B軽石を含んだ暗灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 162号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.372、Y軸=-45.340

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は径0.76m、深さ25cmを測る。本土坑は163号土坑と隣接する。出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 163号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.372、Y軸=-45.339

本土坑は164号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は円形に近く、規

模は径0.61m、深さ25cmを測る。本土坑は先の162号土坑と隣接する。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 164号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.371、Y軸=-45.339

本土坑は先の163号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。平面形状は円形に近く、規模は径0.53m、深さ19cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 166号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.369、Y軸=-45.330

平面形状は円形に近く、規模は径0.58m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 167号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.374、Y軸=-45.353

本土坑は先の156・157号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑は156号土坑より古く、157号土坑より新しい。平面形状は長方形と思われ、規模は長軸2.09m、短軸の残存値0.80m、深さ63cmを測り、重複する157号土坑と同様に掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。埋土は暗灰褐色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 168号土坑 (第353図、PL.100)

位置 (座標): X軸=38.338、Y軸=-45.305

平面形状は円形を呈し、規模は径0.77m、深さ31cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 170号土坑 (第353図、PL.101)

位置 (座標): X軸=38.332、Y軸=-45.307

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.93m、短軸0.63m、深さ6cmを測り、長軸がかな

り長い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 178号土坑(第354図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.350、Y軸=-45.311

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.23m、短軸0.71m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 179号土坑(第354図)

位置(座標): X軸=38.330、Y軸=-45.297

本土坑は180号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。平面形状は円形を呈し、規模は径0.35m、深さ13cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 180号土坑(第354図)

位置(座標): X軸=38.330、Y軸=-45.297

本土坑は先の179号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.01m、短軸0.58m、深さ8cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 202号土坑(第354図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.361、Y軸=-45.308

本土坑は203号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.03m、短軸0.80m、深さ15cmを測る。埋土は黒色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 203号土坑(第354図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.361、Y軸=-45.308

本土坑は先の202号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.57m、短軸0.30m、深さ4cmを測り、残存状態

は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 207号土坑(第354図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.305、Y軸=-45.322

本土坑は208号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.91m、短軸0.86m、深さ26cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 208号土坑(第354図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.305、Y軸=-45.323

本土坑は先の207号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.63m、短軸1.54m、深さ28cmを測り、底面はほぼ平坦で、規模は比較的大きい。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 213号土坑(第354図)

位置(座標): X軸=38.375、Y軸=-45.308

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.02m、短軸0.87m、深さ13cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 216号土坑(第354図)

位置(座標): X軸=38.308、Y軸=-45.278

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.76m、短軸0.66m、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 217号土坑(第354図)

位置(座標): X軸=38.312、Y軸=-45.376

本土坑は218号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.26m、短軸0.62m、深さ24cmを測る。埋土はAs-B軽石を少量含んだ黒褐色をベー

第6章 土 坑

スとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 218号土坑 (第354図)

位置 (座標): X軸=38.312、Y軸=-45.375

本土坑は先の217号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.14m、短軸1.55m、深さ11cmを測る。底面は平坦である。埋土はAs-B 軽石を含んだ黒褐色をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 220号土坑 (第355図、PL101)

位置 (座標): X軸=38.324、Y軸=-45.276

平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.43m、短軸0.53m、深さ45cmを測る。埋土はAs-B 軽石を多く含んでいる。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 222号土坑 (第355図、PL101)

位置 (座標): X軸=38.284、Y軸=-45.300

本土坑は37住居 (古墳時代前半) と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸4.86m、短軸1.04m、深さ33cmを測り、長軸がかなり長く、規模が大きい。底面はほぼ平坦である。埋土は明茶褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 224号土坑 (第355図)

位置 (座標): X軸=38.316、Y軸=-45.268

本土坑は44号住居 (古墳時代前半) と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.87m、短軸0.66m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 227号土坑 (第355図)

位置 (座標): X軸=38.456、Y軸=-45.347

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は径0.79m、深さ21cmを測る。埋土は明褐色土をベースとする。

埋土中から銅文土器片が出土しているが、混入物と思われる。時期は不明である。

(5) 229号土坑 (第355図、PL101)

位置 (座標): X軸=38.430、Y軸=-45.339

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.95m、深さ28cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 231号土坑 (第355図)

位置 (座標): X軸=38.349、Y軸=-45.281

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.86m、深さ27cmを測る。出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 232号土坑 (第355図)

位置 (座標): X軸=38.454、Y軸=-45.348

平面形状は円形に近く、規模は径0.94m、深さ22cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 233号土坑 (第355図)

位置 (座標): X軸=38.454、Y軸=-45.349

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径1.06m、深さ33cmを測る。埋土は黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 234号土坑 (第355図、PL101)

位置 (座標): X軸=38.450、Y軸=-45.340

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.02m、短軸0.85m、深さ32cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は暗褐色土をベースとし、小礫が含まれる。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(5) 236号土坑(第356図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.360、Y軸=-45.326

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸2.22m、短軸1.03m、深さ33cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を多く含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 237号土坑(第356図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.358、Y軸=-45.323

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.78m、短軸0.83m、深さ31cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を多く含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 238号土坑(第356図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.360、Y軸=-45.325

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.82m、短軸0.62m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を多く含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 240号土坑(第356図、PL.101)

位置(座標): X軸=38.283、Y軸=-45.260

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値2.50m、短軸0.79m、深さ5cmを測り、残存状態はかなり悪く、東側のプランがはっきりしない。埋土は黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 241号土坑(第356図、PL.102)

位置(座標): X軸=38.281、Y軸=-45.258

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.10m、短軸0.73m、深さ23cmを測る。埋土は礫を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 242号土坑(第356図、PL.102)

位置(座標): X軸=38.284、Y軸=-45.264

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.00m、短軸1.07m、深さ27cmを測り、残存状態は良く、掘り込みが比較的しっかりしている。底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 244号土坑(第356図、PL.102)

位置(座標): X軸=38.256、Y軸=-45.232

本土抗は68号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土抗の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸3.64m、短軸1.06m、深さ14cmを測り、長軸がかなり長い。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 245号土坑(第357図、PL.102)

位置(座標): X軸=38.258、Y軸=-45.231

本土抗の平面形状はほぼ方形を呈し、規模は長軸1.27m、短軸1.19m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 250号土坑(第357図、PL.102)

位置(座標): X軸=38.301、Y軸=-45.257

第6章 土 坑

本土坑は63号住居（古墳時代前半）と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.85m、短軸1.18m、深さ16cmを測る。底面はほぼ平坦である。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(5) 252号土坑（第357図）

位置（座標）：X軸=38.337、Y軸=-45.271

本土坑は20号住居（古墳時代前半）と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は円形を呈し、規模は径0.83m、深さ16cmを測る。埋土は黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 254号土坑（第357図）

位置（座標）：X軸=38.339、Y軸=-45.273

本土坑は20号住居（古墳時代前半）と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.37m、短軸1.32m、深さ23cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層で、径2～5cmの小礫を多く含む。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 257号土坑（第357図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.263、Y軸=-45.286

本土坑は130号住居（飛鳥時代）と重複し、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸3.46m、短軸0.89m、深さ26cmを測り、長軸がかなり長い。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 258号土坑（第357図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.271、Y軸=-45.289

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.13m、短軸0.53m、深さ7cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 259号土坑（第357図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.271、Y軸=-45.292

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.27m、短軸0.59m、深さ11cmを測る。残存状態は良くないが、掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 260号土坑（第357図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.273、Y軸=-45.291

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.21m、短軸0.61m、深さ21cmを測る。掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 261号土坑（第357図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.275、Y軸=-45.294

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.58m、短軸0.68m、深さ14cmを測る。掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 262号土坑（第358図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.278、Y軸=-45.297

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.10m、短軸0.61m、深さ36cmを測る。残存状態は良く、掘り込みがほぼ直角で、底面は平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 263号土坑（第358図、PL.102）

位置（座標）：X軸=38.280、Y軸=-45.297

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.49m、短軸0.68m、深さ36cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

- (5) 264号土坑 (第358図、PL.102)
 位置 (座標): X軸=38.281、Y軸=-45.300
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.40m、短軸0.60m、深さ22cmを測る。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 265号土坑 (第358図、PL.102)
 位置 (座標): X軸=38.280、Y軸=-45.302
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.33m、短軸0.67m、深さ21cmを測る。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 266号土坑 (第358図、PL.102)
 位置 (座標): X軸=38.283、Y軸=-45.297
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.53m、短軸0.60m、深さ27cmを測る。残存状態は良く、掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 267号土坑 (第358図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.284、Y軸=-45.299
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.18m、短軸0.58m、深さ14cmを測る。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 268号土坑 (第358図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.287、Y軸=-45.299
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.32m、短軸0.68m、深さ21cmを測る。底面はほぼ平坦である。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 269号土坑 (第358図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.285、Y軸=-45.301
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸0.67m、短軸0.50m、深さ10cmを測る。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 270号土坑 (第358図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.288、Y軸=-45.301
 本土抗は281号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.21m、短軸0.60m、深さ13cmを測る。掘り込みがほぼ直角で、底面はほぼ平坦である。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 271号土坑 (第359図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.287、Y軸=-45.303
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.75m、短軸0.67m、深さ22cmを測る。底面はほぼ平坦である。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 272号土坑 (第359図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.275、Y軸=-45.264
 本土抗は70号住居(古墳時代後半)の柱穴と重複しており、本土抗の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸0.83m、短軸0.66m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦である。
 出土遺物はなく、時期は不明である。
- (5) 273号土坑 (第359図、PL.103)
 位置 (座標): X軸=38.288、Y軸=-45.290
 本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.68m、短軸1.41m、深さ13cmを測り、残存状態はあまり良くない。底面はほぼ平坦である。
 埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。
- (5) 274号土坑 (第364図)
 位置 (座標): X軸=38.267、Y軸=-45.256
 本土抗は467号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.87m、短軸0.86m、深さ13cmを測る。掘り込みがほぼ直角で、底面は平坦である。
 出土遺物はなく、時期は不明である。

第6章 土 坑

(5) 275号土坑 (第359図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.328、Y軸=-45.340

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.43m、短軸1.62m、深さ24cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 276号土坑 (第359図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.278、Y軸=-45.311

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.10m、短軸0.60m、深さ39cmを測る。残存状態は良く、掘り込みがほぼ直角で、底面は平坦である。

埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 277号土坑 (第359図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.280、Y軸=-45.310

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.33m、短軸0.78m、深さ26cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 278号土坑 (第359図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.282、Y軸=-45.310

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.20m、短軸0.65m、深さ23cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 279号土坑 (第359図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.278、Y軸=-45.308

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.28m、短軸0.56m、深さ6cmを測り、残存状態は悪い。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 280号土坑 (第360図)

位置 (座標) : X軸=38.280、Y軸=-45.302

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.21m、短軸0.58m、深さ9cmを測り、残存状態は悪い。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 281号土坑 (第360図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.288、Y軸=-45.300

本土抗は先の270号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.56m、短軸1.44m、深さ47cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 282号土坑 (第360図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.294、Y軸=-45.327

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.52m、短軸1.13m、深さ13cmを測る。埋土はAs-B軽石を少量含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(5) 283号土坑 (第360図、PL.103)

位置 (座標) : X軸=38.458、Y軸=-45.357

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.99m、短軸1.17m、深さ30cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 284号土坑 (第360図、PL.104)

位置 (座標) : X軸=38.461、Y軸=-45.354

本土抗の平面形状は円形を呈し、規模は径0.77m、短軸0.68m、深さ13cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 286号土坑 (第361図、PL.104)

位置 (座標) : X軸=38.284、Y軸=-45.301

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸2.55m、短軸2.34m、深さ10cmを測り、規模は大き

い。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 289号土坑(第361図、PL.104)

位置(座標): X軸=38.331、Y軸=-45.323

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.42m、短軸0.81m、深さ23cmを測る。埋土は白色粒子を含む暗茶褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(5) 290号土坑(第361図、PL.104)

位置(座標): X軸=38.342、Y軸=-45.310

本土坑は109号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.55m、短軸0.95m、深さ14cmを測る。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 291号土坑(第361図)

位置(座標): X軸=38.298、Y軸=-45.349

本土坑の西側は調査区外となる。本土坑は96号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値1.47m、短軸0.66m、深さ34cmを測る。残存状態は比較的良く、掘り込みが直角で、底面は平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 304号土坑(第361図、PL.104)

位置(座標): X軸=38.285、Y軸=-45.345

本土坑は305号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値1.51m、短軸1.90m、深さ22cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 305号土坑(第361図、PL.104)

位置(座標): X軸=38.284、Y軸=-45.343

本土坑は先の304号土坑と重複しており、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.46m、短軸1.10m、深さ20cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 321号土坑(第362図)

位置(座標): X軸=38.289、Y軸=-45.338

本土坑は322号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.71m、短軸0.46m、深さ30cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 322号土坑(第362図)

位置(座標): X軸=38.288、Y軸=-45.339

本土坑は321・324号土坑と重複しており、新旧関係はいずれも不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.47m、短軸1.34m、深さ91cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 323号土坑(第362図)

位置(座標): X軸=38.286、Y軸=-45.339

本土坑は先の322号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.92m、短軸0.75m、深さ27cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 324号土坑(第362図)

位置(座標): X軸=38.291、Y軸=-45.338

本土坑は先の322号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値3.21m、短軸1.04m、深さ50cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 335号土坑(第362図)

位置(座標): X軸=38.265、Y軸=-45.285

第6章 土 坑

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸3.14m、短軸1.20m、深さ48cmを測る。残存状態は良く、掘り込みが直角でしっかりしており、底面は平坦である。埋土は灰褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 338号土坑 (第362図)

位置 (座標) : X軸=38.264、Y軸=-45.237

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.59m、短軸0.74m、深さ39cmを測る。残存状態は良く、掘り込みが直角でしっかりしており、底面は平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明であるが、規模こそ違うが、先の335号土坑と時期が近いと思われる。

(5) 362号土坑 (第363図、PL104)

位置 (座標) : X軸=38.257、Y軸=-45.264

本土坑は123号住居(飛鳥時代)と重複し、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.64m、短軸0.83m、深さ15cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 363号土坑 (第363図)

位置 (座標) : X軸=38.265、Y軸=-45.287

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.51m、短軸1.21m、深さ13cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 405号土坑 (第363図、PL104)

位置 (座標) : X軸=38.269、Y軸=-45.297

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.66m、短軸0.80m、深さ34cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(5) 407号土坑 (第363図、PL104)

位置 (座標) : X軸=38.258、Y軸=-45.263

本土坑は123号住居(飛鳥時代)と重複し、本土坑の方が新しい。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.20m、短軸1.25m、深さ16cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 446号土坑 (第363図、PL104)

位置 (座標) : X軸=38.334、Y軸=-45.270

本土坑の上位部分は5号墳の周溝によって壊されており、底面近くが残存している。そのため、平面形状は不整形となっている。残存する底面近くから、遺物が比較的多く出土している。規模は長軸1.32m、短軸1.13m、深さ58cmを測る。土層断面の観察から、南側が大きく削平されている。埋土は暗褐色砂質土をベースとする。

出土土器は、弥生土器と土製の紡錘車で、出土土器から、弥生時代中期と考えられる。

なお、本土坑出土遺物は、は西野原遺跡(5)(7)第1分冊—縄文・弥生時代編—に掲載されている。

(5) 451号土坑 (第363図、PL104)

位置 (座標) : X軸=38.292、Y軸=-45.302

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.00m、短軸1.07m、深さ35cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 453号土坑 (第363図)

位置 (座標) : X軸=38.364、Y軸=-45.284

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸0.79m、短軸0.42m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は不明であるが、底面には炭が確認されている。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 454号土坑 (第363図、PL.104)

位置 (座標): X軸=38.261、Y軸=-45.260

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.94m、短軸0.55m、深さ33cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 461号土坑 (第364図、PL.104)

位置 (座標): X軸=38.275、Y軸=-45.270

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.30m、短軸0.51m、深さ12cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 467号土坑 (第364図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.269、Y軸=-45.255

本土抗は先の274号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.37m、短軸1.02m、深さ25cmを測る。掘り込みが直角で、底面はほぼ平坦である。

埋土中から鉄製品が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(5) 468号土坑 (第364図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.256、Y軸=-45.263

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.47m、短軸0.68m、深さ26cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 469号土坑 (第364図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.286、Y軸=-45.288

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.75m、短軸0.67m、深さ11cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 474号土坑 (第364図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.297、Y軸=-45.290

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.99m、短軸0.73m、深さ10cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土した遺物は内面黒色処理の環と、墨書を持った須恵器の高台付椀である。

出土土器から、時期は9世紀と考えられる。

なお、本土抗出土遺物は、西野原遺跡(5)(7)第2分冊-飛鳥・平安時代以降編-に掲載されている。

(5) 476号土坑 (第365図)

位置 (座標): X軸=38.287、Y軸=-45.241

本土抗は480号土坑(飛鳥時代)と重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は不明で、規模は長軸の残存値0.58m、短軸0.55m、深さ16cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 477号土坑 (第365図)

位置 (座標): X軸=38.287、Y軸=-45.241

本土抗は480号土坑(飛鳥時代)・499号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値1.50m、短軸の残存値0.59m、深さ17cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 478号土坑 (第364図)

位置 (座標): X軸=38.277、Y軸=-45.236

調査時は土抗として検出したが、11号掘立柱建物(飛鳥時代)の柱穴の1つであることが分かった。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.26m、短軸1.00m、深さ54cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面には円形の柱痕がみられる。埋土は不明であるが、大型の礫を多く含む。

なお、本土抗は西野原遺跡(5)(7)第2分冊-飛鳥・平安時代以降編-に掲載されており、その再録となる。

第6章 土 坑

(5) 479号土坑 (第364図)

位置 (座標): X軸=38.282、Y軸=-45.238

調査時は土坑として検出したが、11号掘立柱建物(飛鳥時代)の柱穴の1つであることが分かった。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.89m、短軸0.85m、深さ78cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面には円形の柱痕がみられる。埋土は明褐色土をベースとする。

なお、本土坑は西野原遺跡(5)(7)第2分冊一飛鳥・平安時代以降編-に掲載されており、その再録となる。

(5) 480号土坑 (第365図)

位置 (座標): X軸=38.287、Y軸=-45.242

本土坑は476・477・499・502号土坑と重複しており、いずれも新旧関係は不明である。調査時は土坑として検出したが、10号掘立柱建物(飛鳥時代)の柱穴の1つであることが分かった。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.30m、短軸1.00m、深さ42cmを測る。底面には礫が確認されている。埋土は明褐色土をベースとする。

なお、本土坑は西野原遺跡(5)(7)第2分冊一飛鳥・平安時代以降編-に掲載されており、その再録となる。

(5) 487号土坑 (第365図)

位置 (座標): X軸=38.414、Y軸=-45.357

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径1.27m、深さ14cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 494号土坑 (第365図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.292、Y軸=-45.304

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.24m、短軸0.55m、深さ13cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土中に大型の礫が入る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 497号土坑 (第365図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.269、Y軸=-45.284

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.15m、短軸0.64m、深さ12cmを測る。土層断面の観察から、南側が削平されている。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 498号土坑 (第365図、PL.105)

位置 (座標): X軸=38.290、Y軸=-45.292

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.60m、短軸0.62m、深さ18cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(5) 499号土坑 (第365図)

位置 (座標): X軸=38.288、Y軸=-45.242

本土坑は477・480号土坑(飛鳥時代)と重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸の残存値0.51m、短軸0.52m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

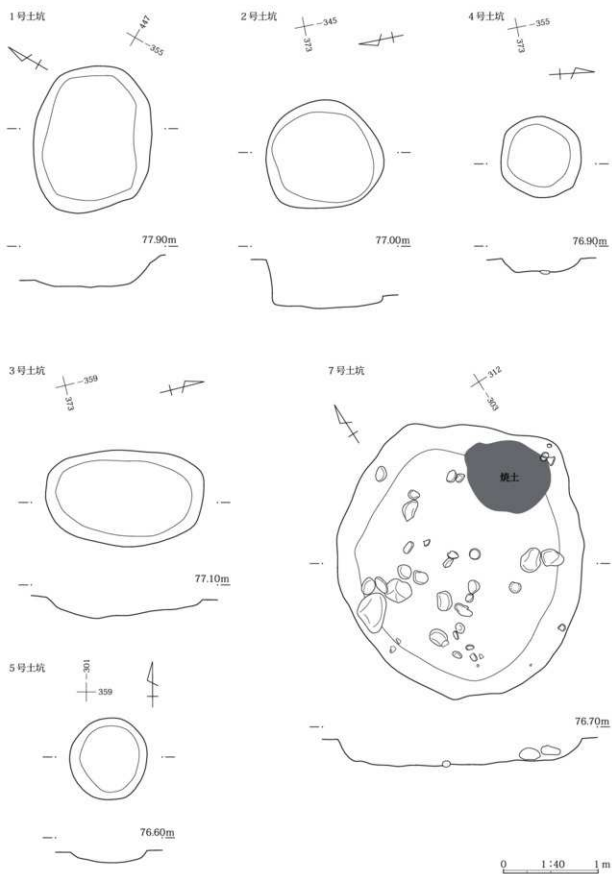
(5) 502号土坑 (第365図)

位置 (座標): X軸=38.286、Y軸=-45.243

本土坑は先の480号土坑(飛鳥時代)と重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.00m、短軸1.36m、深さ13cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

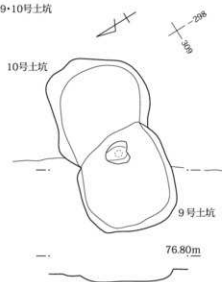
第1節 西野原遺跡（5）検出の土坑



第348図 (5) 1～5・7号土坑平面図

第6章 土坑

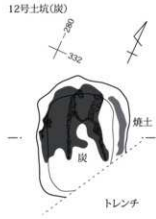
9・10号土坑



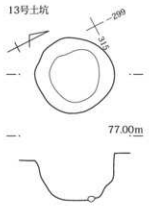
12号土坑(石)



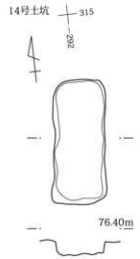
12号土坑(炭)



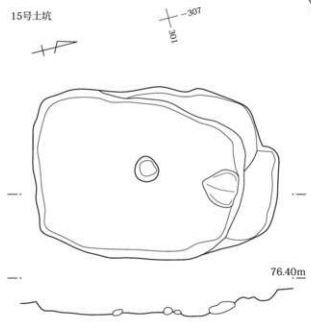
13号土坑



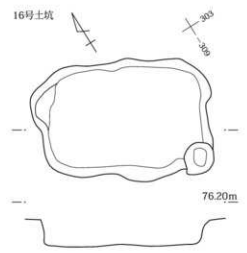
14号土坑



15号土坑



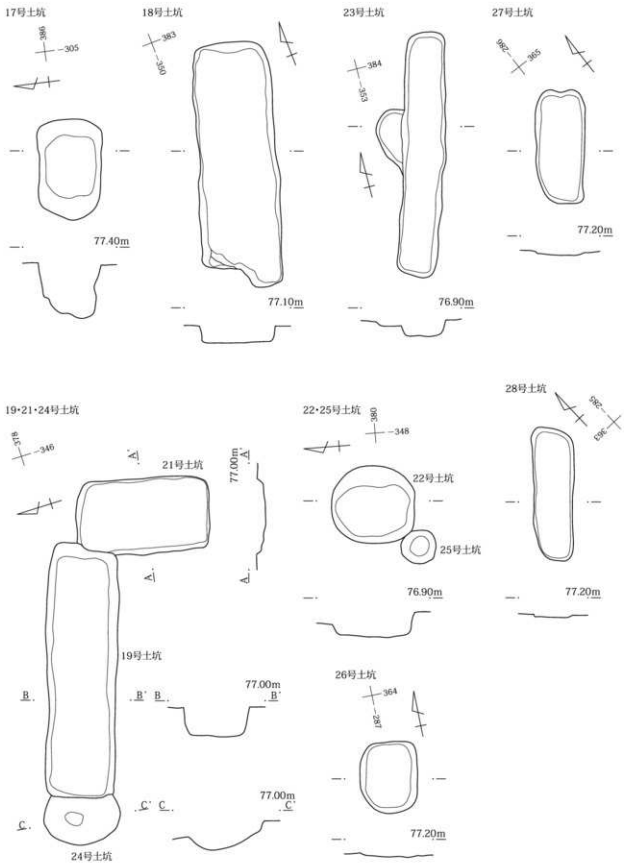
16号土坑



第349図 (5) 9・10・12~16号土坑平面図



第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑

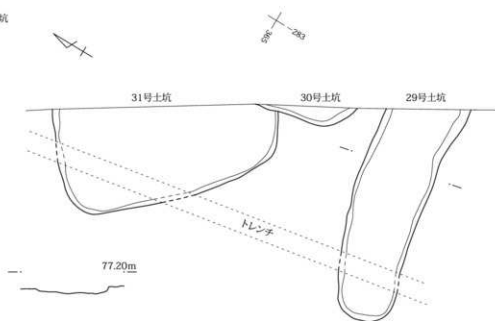


第350図 (5) 17~19・21~28号土坑平面図

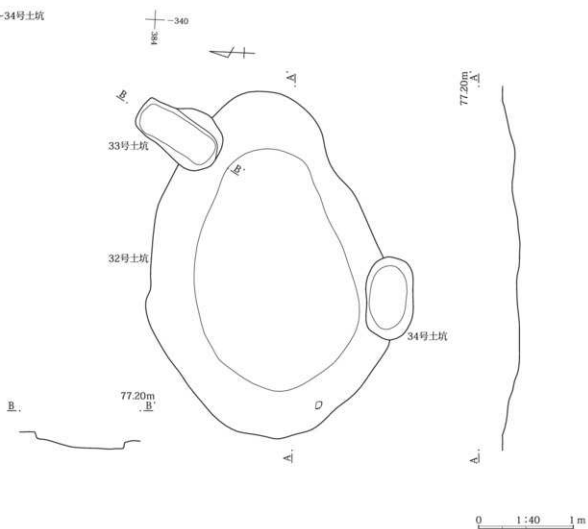
0 1:40 1m

第6章 土 坑

29~31号土坑

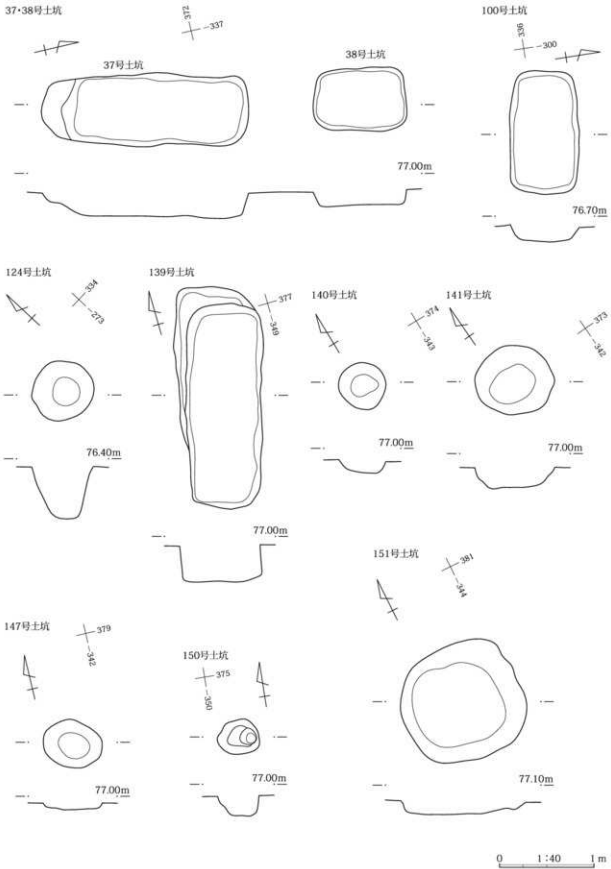


32~34号土坑



第351图 (5) 29~34号土坑平面图

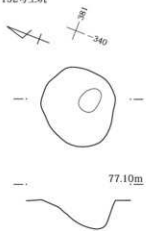
第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑



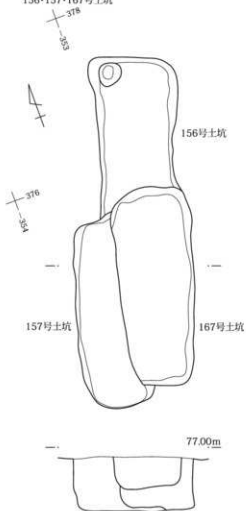
第352図 (5) 37・38・100・124・139~141・147・150・151号土坑平面図

第6章 土坑

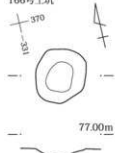
152号土坑



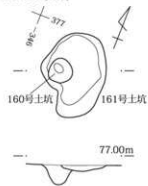
156·157·167号土坑



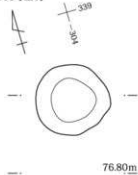
166号土坑



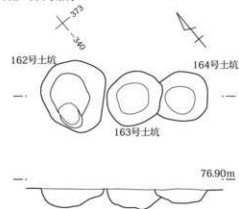
160·161号土坑



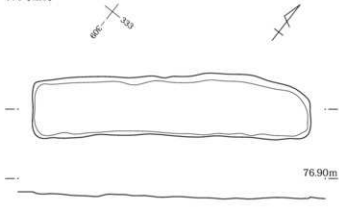
168号土坑



162~164号土坑



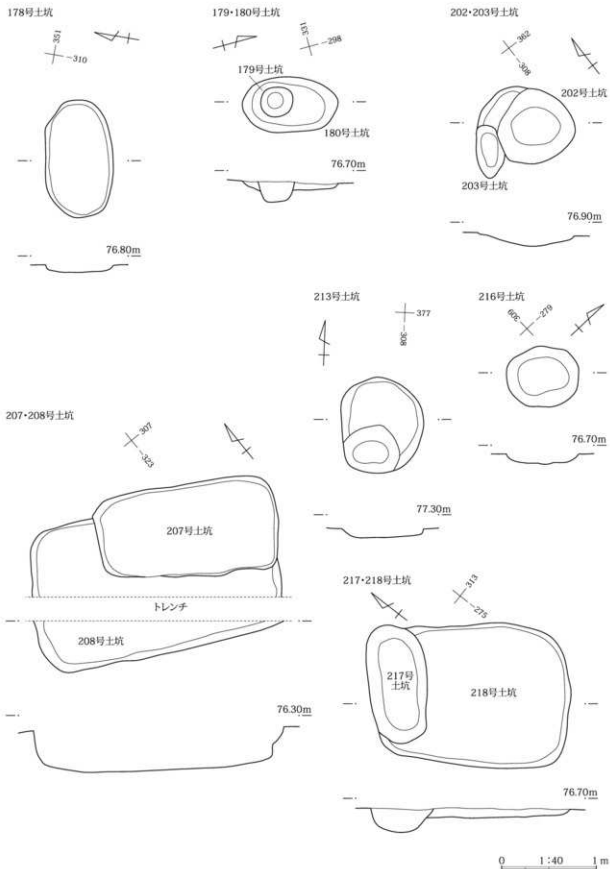
170号土坑



0 1:40 1m

第353图 (5) 152·156·157·160~164·166~168·170号土坑平面图

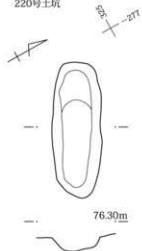
第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑



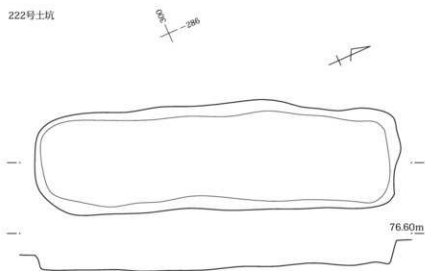
第354図 (5) 178～180・202・203・207・208・213・216～218号土坑平面図

第6章 土坑

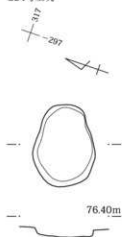
220号土坑



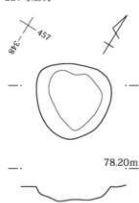
222号土坑



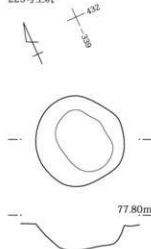
224号土坑



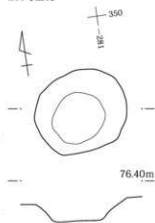
227号土坑



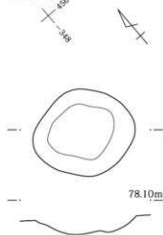
229号土坑



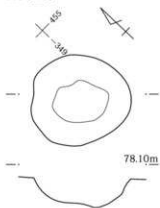
231号土坑



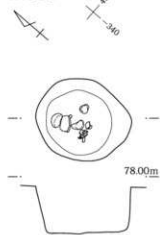
232号土坑



233号土坑



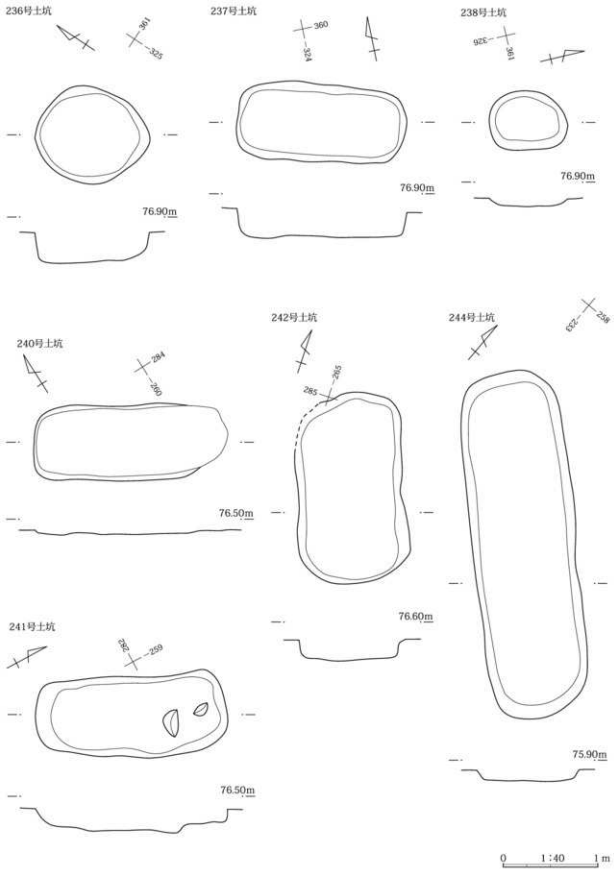
234号土坑



0 1:40 1m

第355图 (5) 220·222·224·227·229·231~234号土坑平面图

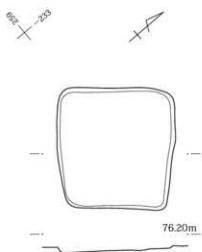
第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑



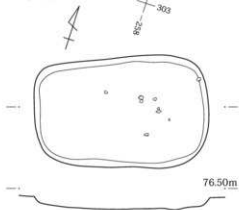
第356図 (5) 236~238・240~242・244号土坑平面図

第6章 土坑

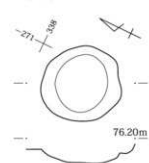
245号土坑



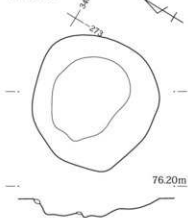
250号土坑



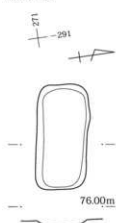
252号土坑



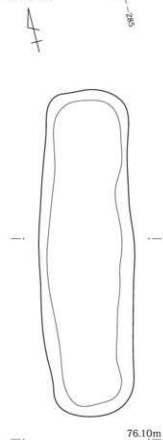
254号土坑



258号土坑



257号土坑



259号土坑



260号土坑



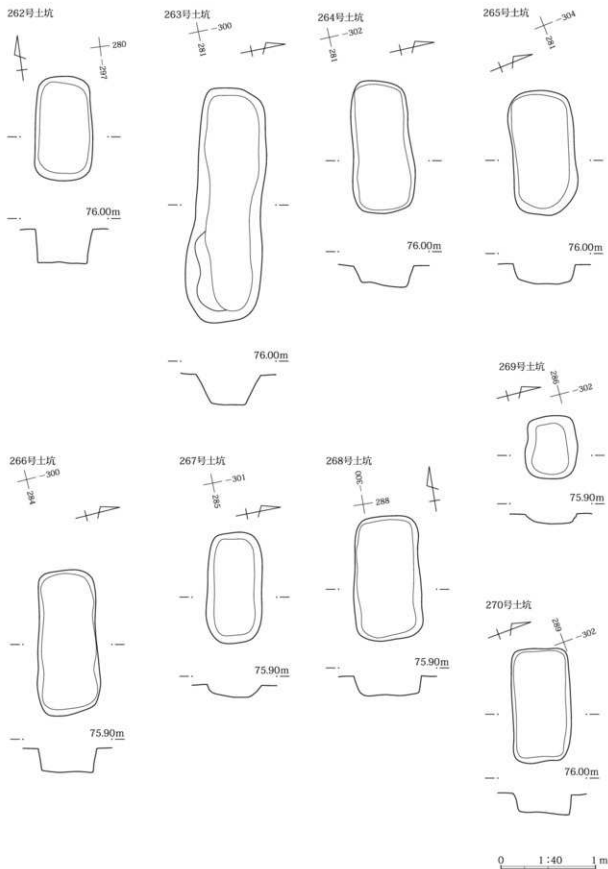
261号土坑



0 1:40 1m

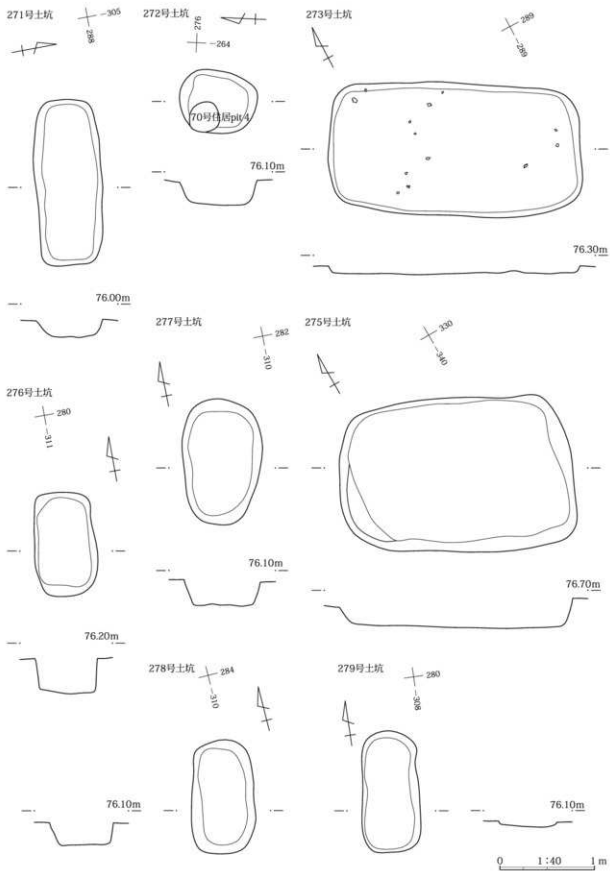
第357图 (5) 245·250·252·254·257~261号土坑平面图

第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑



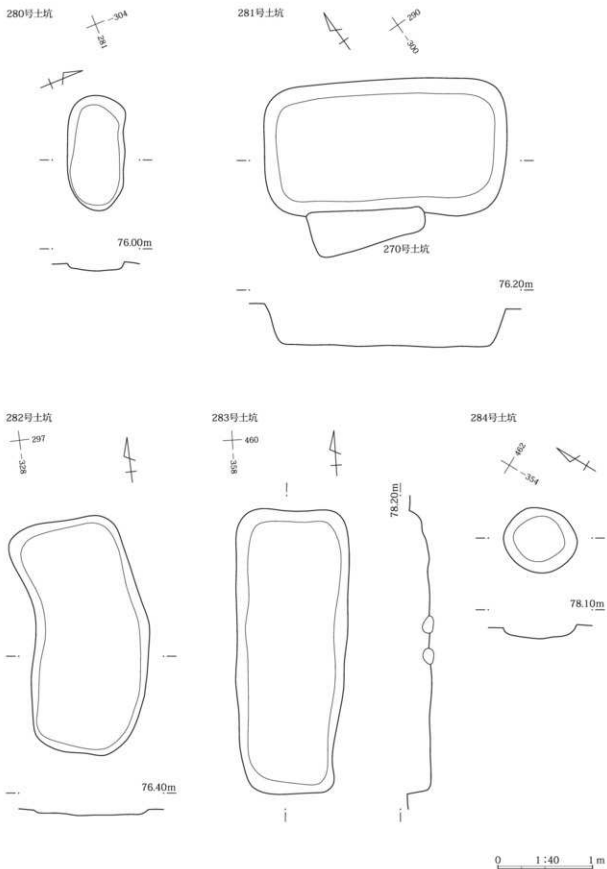
第358図 (5) 262~270号土坑平面図

第6章 土坑



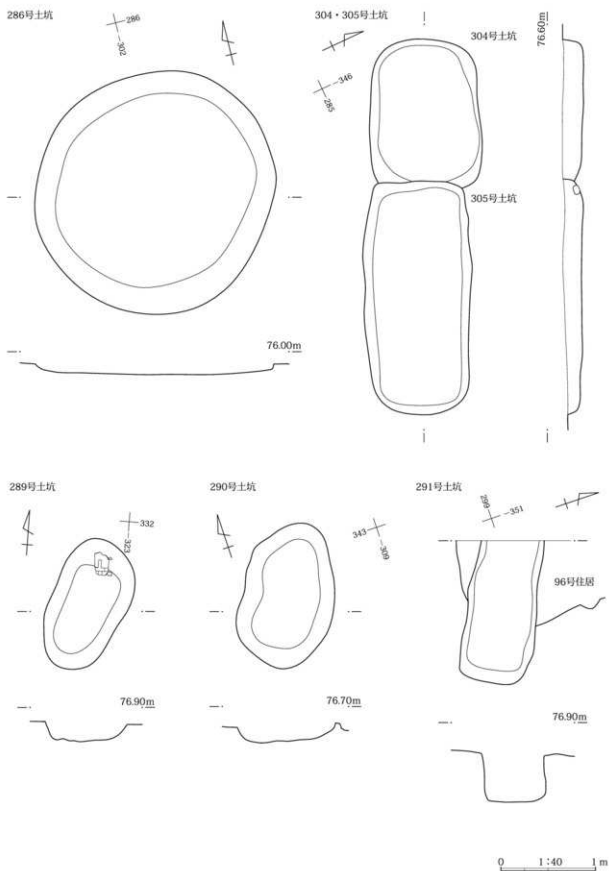
第359图 (5) 271~273·275~279号土坑平面图

第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑



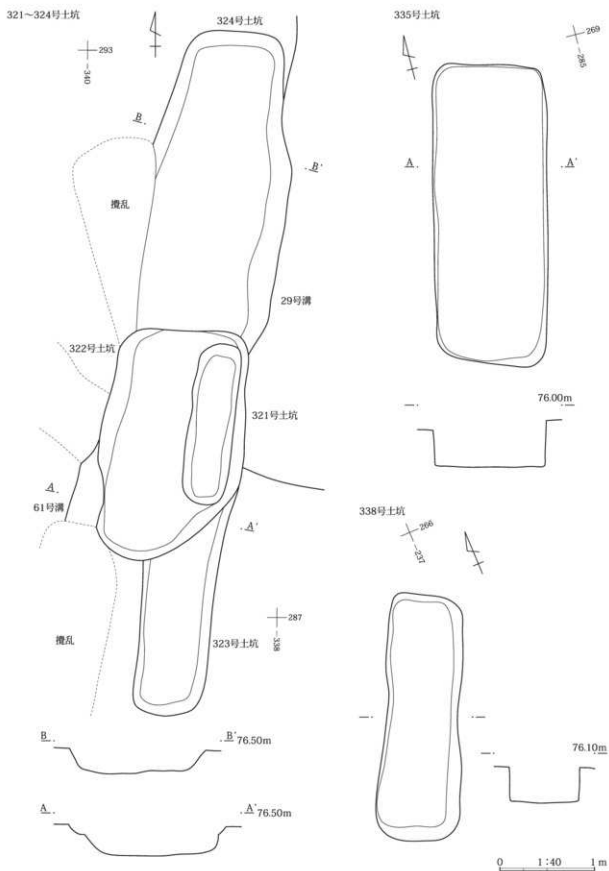
第360図 (5) 280~284号土坑平面図

第6章 土坑



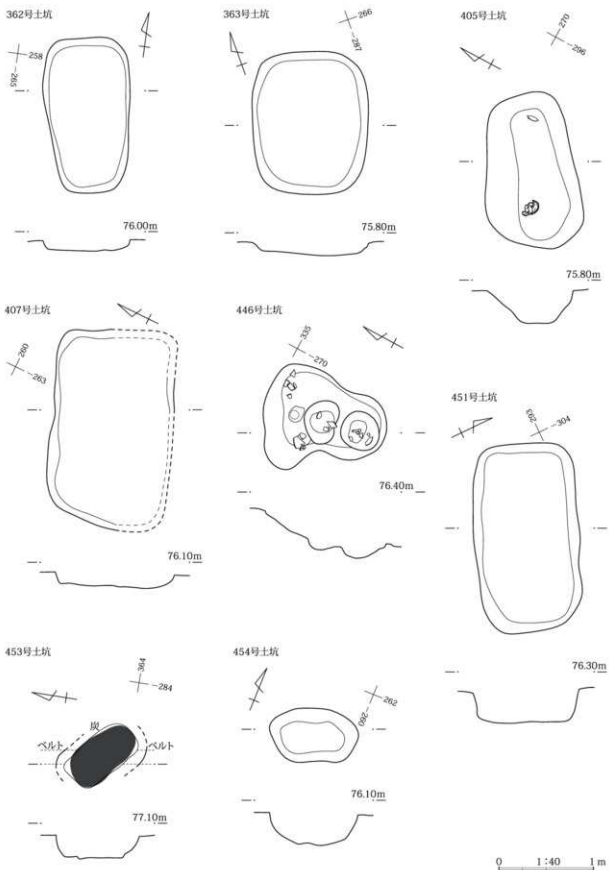
第361图 (5) 286・289~291・304・305号土坑平面图

第1節 西野原道跡(5) 検出の土坑



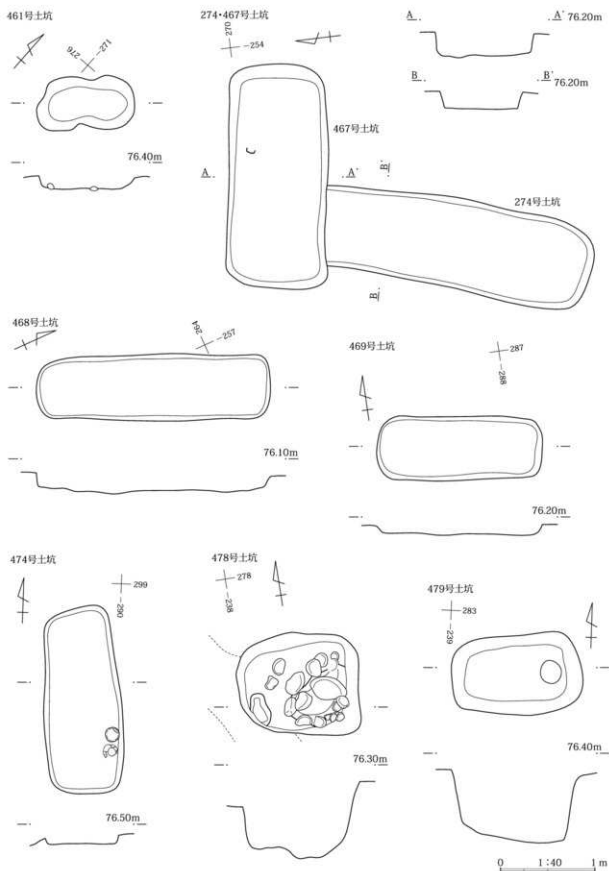
第362図 (5) 321~324・335・338号土坑平面図

第6章 土坑



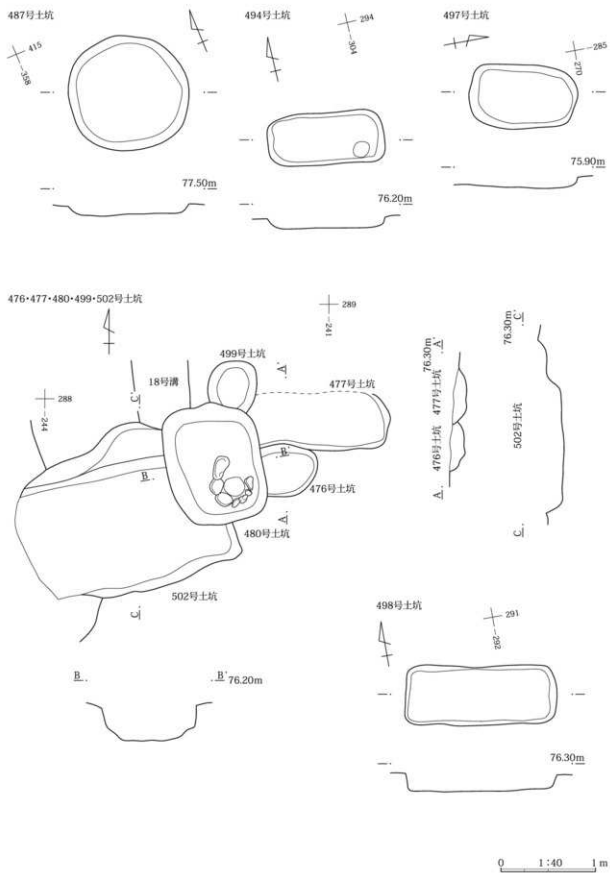
第363图 (5) 362·363·405·407·446·451·453·454号土坑平面图

第1節 西野原遺跡(5) 検出の土坑



第364図 (5) 461・274・467～469・474・478・479号土坑平面図

第6章 土坑



第365图 (5) 487·494·497·498·476·477·480·499·502号土坑平面图

第2節 西野原遺跡(7) — 1区検出の土坑

西野原(7) — 1区で検出された土坑は、表114の土坑一覧に示すように780基を数えるが、本項で土坑として扱う遺構は137基である。掘立柱建物遺構の柱穴も土坑として番号を付したため、土坑番号が膨大な数となっている。なお、出土遺物から時期を特定することのできる土坑は無かったが、中世の掘立柱建物との重複から特定できる土坑がある。

以下、各土坑ごとに記載する。

(7) — 1区 7号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.351、Y軸=-45.254

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.62m、深さ6cmを測り、残存状態は悪い。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 8号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.356、Y軸=-45.255

本土坑の東側は擾乱の影響を受けているため、平面形状は不明で、規模は長軸の残存値1.35m、短軸の残存値0.79m、深さ14cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 9号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.357、Y軸=-45.256

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.52m、深さ21cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 10号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.364、Y軸=-45.259

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.03m、短軸0.86m、深さ29cmを測る。埋土は灰色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 12号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.376、Y軸=-45.271

本土坑の南西側は調査区外となる。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.03m、短軸0.65m、深さ11cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 16号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.382、Y軸=-45.272

本土坑の西側1/3ほどが擾乱によって壊されている。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.36m、短軸の残存値1.10m、深さ16cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 17号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.387、Y軸=-45.268

本土坑は18号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、規模は径0.88m、深さ17cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 18号土坑(第366図、PL.106)

位置(座標): X軸=38.386、Y軸=-45.267

本土坑は先の17号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.43m、短軸1.25m、深さ17cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(7) —1区 19号土坑 (第366図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.389、Y軸=-45.270

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.89m、短軸0.76m、深さ10cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —1区 20号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.391、Y軸=-45.266

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.36m、短軸1.32m、深さ27cmを測り、規模は比較的大きい。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 22号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.396、Y軸=-45.275

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.88m、短軸0.85m、深さ31cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 23号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.398、Y軸=-45.274

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.01m、短軸0.74m、深さ32cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとし、小礫が多く含まれる。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 24号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.405、Y軸=-45.263

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.08m、短軸0.98m、深さ29cmを測る。埋土は暗褐色

砂質土をベースとし、小礫が多く含まれる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —1区 25号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.420、Y軸=-45.294

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.74m、短軸1.28m、深さ10cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色土の単一土層である。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) —1区 27号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.416、Y軸=-45.287

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径0.90m、深さ15cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —1区 30号土坑 (第367図、PL.106)

位置 (座標): X軸=38.417、Y軸=-45.285

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.67m、短軸1.05m、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —1区 38号土坑 (第367図、PL.107)

位置 (座標): X軸=38.340、Y軸=-45.251

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.25m、短軸1.15m、深さ16cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとし、小礫を含む。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —1区 39号土坑 (第368図)

位置 (座標): X軸=38.349、Y軸=-45.256

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.56m、短軸0.83m、深さ11cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 45号土坑(第368図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.413、Y軸=-45.252

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径1.06m、深さ24cmを測る。底面はほぼ平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 46号土坑(第368図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.415、Y軸=-45.251

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.04m、短軸1.08m、深さ24cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 47号土坑(第368図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.400、Y軸=-45.254

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸3.89m、短軸0.96m、深さ35cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は小礫を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 49号土坑(第368図)

位置(座標): X軸=38.417、Y軸=-45.284

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.48m、短軸0.44m、深さ44cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 50号土坑(第369図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.389、Y軸=-45.267

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.25m、短軸1.14m、深さ11cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 51号土坑(第369図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.383、Y軸=-45.288

本土坑の平面形状は方形を呈し、規模は一辺1.81m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土

の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 52号土坑(第369図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.410、Y軸=-45.278

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.42m、短軸0.98m、深さ17cmを測る。埋土は黒色土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) — 1区 53号土坑(第369図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.420、Y軸=-45.257

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.07m、短軸0.89m、深さ17cmを測る。埋土は暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 54号土坑(第369図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.421、Y軸=-45.254

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.34m、短軸0.63m、深さ56cmを測る。埋土は暗褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) — 1区 55号土坑(第369図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.427、Y軸=-45.277

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径0.98m、深さ16cmを測る。埋土は黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 59号土坑(第370図、PL.107)

位置(座標): X軸=38.366、Y軸=-45.249

本土坑は60号土坑と重複しており、土層の断面観察から本土坑の方が新しい。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.46m、短軸0.44m、深さ31cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含

第6章 土 坑

む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 60号土坑 (第370図、PL.107)

位置 (座標) : X軸=38.366、Y軸=-45.248

本土坑は先の59号土坑と重複しており、土層の断面観察から本土坑の方が古い。平面形状は不明で、規模は長軸の残存値1.32m、短軸の残存値0.77m、深さ22cmを測る。埋土は軽石粒子を含む褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 62号土坑 (第370図、PL.107)

位置 (座標) : X軸=38.390、Y軸=-45.270

本土坑の北側は調査区外となるため、平面形状は不明で、規模は長軸の残存値2.39m、短軸の残存値0.60m、深さ29cmを測る。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 63号土坑 (第370図、PL.107)

位置 (座標) : X軸=38.341、Y軸=-45.247

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.53m、短軸1.34m、深さ32cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 82号土坑 (第370図)

位置 (座標) : X軸=38.289、Y軸=-45.271

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.47m、短軸0.91m、深さ29cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 93号土坑 (第370図、PL.108)

位置 (座標) : X軸=38.353、Y軸=-45.252

本土坑の東側は擾乱によって壊されているため、平面形状は不明で、規模は長軸の残存値0.94m、短軸の残存値0.94m、深さ25cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 129号土坑 (第370図、PL.108)

位置 (座標) : X軸=38.421、Y軸=-45.289

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.92m、深さ15cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 130号土坑 (第370図、PL.108)

位置 (座標) : X軸=38.430、Y軸=-45.296

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.44m、短軸0.96m、深さ20cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 131号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標) : X軸=38.428、Y軸=-45.296

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.70m、短軸1.04m、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 132号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標) : X軸=38.429、Y軸=-45.292

本土坑は20号掘立柱建物、192号土坑と重複しており、柱穴の切り合い関係から、掘立柱建物より古い。192号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.14m、短軸0.87m、深さ34cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土は

As-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 153号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.421、Y軸=-45.291

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.98m、短軸0.60m、深さ32cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 155号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.422、Y軸=-45.294

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.91m、短軸0.45m、深さ28cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 192号土坑 (第371図)

位置 (座標): X軸=38.429、Y軸=-45.292

本土抗は先の132号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.33m、短軸0.19m、深さ27cmを測り、規模は小さい。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 195号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.429、Y軸=-45.280

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径0.90m、深さ23cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む黒色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 196号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.426、Y軸=-45.276

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.75m、短軸0.59m、深さ20cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 212号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.421 Y軸=-45.263

本土抗は229号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.79m、短軸0.66m、深さ25cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 223号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.428、Y軸=-45.278

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.66m、深さ25cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 229号土坑 (第371図)

位置 (座標): X軸=38.421、Y軸=-45.263

本土抗は先の212号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、規模は径0.29m、深さ15cmを測り、規模は小さい。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 280号土坑 (第371図、PL.108)

位置 (座標): X軸=38.406、Y軸=-45.282

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.91m、短軸0.68m、深さ28cmを測る。埋土はAs-B

第6章 土 坑

軽石を含む黒色土をベースとし、

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 285号土坑 (第372図、PL.108)

位置 (座標) : X軸=38.406、Y軸=-45.268

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.92m、短軸0.88m、深さ24cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとし、中礫を多く含む。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 289号土坑 (第372図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.408、Y軸=-45.269

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.12m、短軸0.79m、深さ20cmを測る。埋土は暗褐色土をベースとする。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 295号土坑 (第372図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.437、Y軸=-45.258

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径1.16m、深さ14cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 298号土坑 (第372図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.435、Y軸=-45.264

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.29m、短軸1.18m、深さ9cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む暗灰色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 306号土坑 (第372図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.431、Y軸=-45.259

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.33m、短軸1.19m、深さ18cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 308号土坑 (第372図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.432、Y軸=-45.261

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.14m、短軸1.06m、深さ19cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 312号土坑 (第372図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.437、Y軸=-45.266

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径1.27m、深さ23cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 313号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.438、Y軸=-45.266

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.59m、短軸1.12m、深さ23cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 314号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.438、Y軸=-45.267

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.87m、短軸0.66m、深さ21cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土

の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 316号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.439、Y軸=-45.267

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.20m、短軸1.00m、深さ22cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 320号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.430、Y軸=-45.273

本土抗の東側は攪乱の影響を受けている。平面形状は楕円形と思われ、規模は長軸の残存値1.13m、短軸1.06m、深さ37cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 321号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.438、Y軸=-45.269

本土抗は22号溝に一部壊されている。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.73m、短軸0.66m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 322号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.434、Y軸=-45.280

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.95m、短軸0.90m、深さ18cmを測る。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 323号土坑 (第373図、PL.109)

位置 (座標) : X軸=38.435、Y軸=-45.281

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.12m、短軸0.97m、深さ12cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 324号土坑 (第373図、PL.110)

位置 (座標) : X軸=38.437、Y軸=-45.280

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.98m、短軸0.94m、深さ21cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 325号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標) : X軸=38.439、Y軸=-45.281

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.10m、短軸0.99m、深さ24cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 326号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標) : X軸=38.437、Y軸=-45.282

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径0.94m、深さ17cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 328号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標) : X軸=38.437、Y軸=-45.285

本土抗の平面形状は円形を呈し、規模は径0.90m、深さ23cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(7) — 1区 331号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.442、Y軸=-45.266

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.32m、短軸0.74m、深さ21cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 332号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.441、Y軸=-45.279

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.40m、短軸1.06m、深さ31cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 336号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.443、Y軸=-45.280

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.05m、短軸0.83m、深さ25cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとし、礫を含む。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 341号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.441、Y軸=-45.278

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.90m、短軸0.76m、深さ44cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は中礫を含む黒色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期は不明である。

(7) — 1区 342号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.446、Y軸=-45.271

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.77m、短軸0.67m、深さ17cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 343号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.447、Y軸=-45.270

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.96m、短軸0.69m、深さ22cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 347号土坑 (第374図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.444、Y軸=-45.279

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.95m、短軸0.90m、深さ18cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 351号土坑 (第375図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.442、Y軸=-45.286

本土坑は350号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.11m、短軸0.67m、深さ16cmを測る。埋土は白色粒子を含む黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 352号土坑 (第375図、PL.110)

位置 (座標): X軸=38.438、Y軸=-45.282

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.57m、短軸1.19m、深さ26cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 364号土坑 (第375図)

位置 (座標): X軸=38.433、Y軸=-45.299

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.46m、短軸0.36m、深さ12cmを測り、規模は小さい。埋土はAs-B軽石を含む暗灰色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 365号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.433、Y軸=-45.300

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.96m、深さ32cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 371号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.438、Y軸=-45.301

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径0.92m、深さ22cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 375号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.443、Y軸=-45.305

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径0.82m、深さ22cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 378号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.439、Y軸=-45.299

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.45m、短軸1.21m、深さ41cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は白色粒子を含む黒色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土

の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 390号土坑 (第376図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.435、Y軸=-45.279

本土坑は391号土坑と重複し、土層断面の観察から本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.21m、短軸0.93m、深さ30cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 391号土坑 (第376図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.435、Y軸=-45.278

本土坑は先の390号土坑と重複し、土層断面の観察から本土坑の方が古い。本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.31m、短軸1.36m、深さ16cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 392号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.440、Y軸=-45.265

本土坑は386・406号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑は406号土坑よりも新しいが、386号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.14m、短軸0.94m、深さ28cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む黒褐色砂質土をベースとあうる。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 405号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.440、Y軸=-45.266

本土坑は406号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。平面形状は円形に近く、規模は径0.73m、深さ23cmを測る。埋土はAs-B軽

第6章 土 坑

石を含む暗灰色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 406号土坑 (第375図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.440、Y軸=-45.265

本土坑は先の386・392・405号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑は392・405号土坑よりも古いが、386号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.96m、短軸1.40m、深さ24cmを測る。埋土は褐色粘質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 1区 407号土坑 (第376図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.439、Y軸=-45.277

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.44m、短軸0.90m、深さ12cmを測る。埋土は白色粒子を含む黒色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 418号土坑 (第376図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.461、Y軸=-45.287

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.53m、短軸1.80m、深さ11cmを測り、規模は比較的大きい。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 429号土坑 (第376図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.467、Y軸=-45.277

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径0.91m、深さ9cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 439号土坑 (第376図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.472、Y軸=-45.303

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.41m、短軸0.93m、深さ30cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 444号土坑 (第377図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.460、Y軸=-45.304

本土坑は22号掘立柱建物、445号土坑と重複しているが、柱穴の切り合い関係から、本土坑の方が新しいが、445号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は不明で、規模は長軸1.37m、短軸は不明、深さ34cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 445号土坑 (第377図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.461、Y軸=-45.303

本土坑は先の444号土坑と重複するが、新旧係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸2.15m、短軸の残存値1.39m、深さ32cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 446号土坑 (第377図、PL.111)

位置 (座標) : X軸=38.460、Y軸=-45.301

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.29m、短軸1.11m、深さ15cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 449号土坑 (第377図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.476、Y軸=-45.306

本土坑は450号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不明で、規模は長軸の残存値1.16m、短軸1.16m、深さ11cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 450号土坑 (第377図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.476、Y軸=-45.307

本土坑は先の449号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.22m、短軸1.09m、深さ32cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 477号土坑 (第377図、PL.111)

位置 (座標): X軸=38.455、Y軸=-45.309

本土坑は24号溝と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は円形を呈し、規模は径0.94m、深さ18cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗黄褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 491号土坑 (第377図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.482、Y軸=-45.314

本土坑は492号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.35m、短軸1.18m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B 軽石とローム土を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 492号土坑 (第377図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.482、Y軸=-45.313

本土坑は491・493号土坑と重複し、土層断面の観察から、491号土坑よりも古い。493号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、規模は径1.30m、深さ37cmを測る。埋土はAs-B 軽石とローム土を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 493号土坑 (第377図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.481、Y軸=-45.312

本土坑は先の492号土坑と重複しているが、攪乱の影響を受けているため、新旧関係は不明で、平面形状も不明である。深さは残存値17cmを測る。埋土はAs-B 軽石とローム土を多く含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 494号土坑 (第378図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.482、Y軸=-45.316

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径1.20m、深さ21cmを測る。底面はほぼ平坦であるが、中央部がやや窪みがある。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 495号土坑 (第378図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.484、Y軸=-45.316

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.71m、短軸1.18m、深さ14cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗黄褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(7) —1区 496号土坑 (第378図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.486、Y軸=-45.316

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.51m、短軸1.17m、深さ23cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 497号土坑 (第378図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.482、Y軸=-45.318

本土坑は498号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形に近く、規模は径1.12m、深さ18cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B 軽石とローム土を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 498号土坑 (第378図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.483、Y軸=-45.319

本土坑は28号溝、先の497号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸の残存値3.11m、短軸1.85m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B 軽石とローム土を含む暗灰色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 499号土坑 (第379図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.480、Y軸=-45.300

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.40m、短軸1.14m、深さ13cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 501号土坑 (第380図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.485、Y軸=-45.304

本土坑は511号・528・605号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑は511号土坑より新しいが、他の土坑との新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.90m、短軸1.05m、深さ26cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 505号土坑 (第380図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.482、Y軸=-45.308

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.10m、短軸0.92m、深さ48cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗灰色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 508号土坑 (第380図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.493、Y軸=-45.322

本土坑は攪乱の影響を多く受けている。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.44m、短軸1.00m、深さ40cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 509号土坑 (第381図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.487、Y軸=-45.297

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.96m、短軸0.74m、深さ12cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 511号土坑 (第380図)

位置 (座標): X軸=38.485、Y軸=-45.304

本土抗は先の501号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土抗の方が古い。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸の0.54m、短軸の0.49m、深さ23cmを測り、形状から柱穴と思われる。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 528号土坑 (第380図)

位置 (座標): X軸=38.485、Y軸=-45.306

本土抗は先の501号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、規模は径0.29m、深さ12cmを測り、規模は小さい。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 536号土坑 (第379図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.482、Y軸=-45.284

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径0.92m、深さ13cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 537号土坑 (第379図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.481、Y軸=-45.283

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.10m、短軸0.98m、深さ15cmを測る。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 538号土坑 (第379図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.478、Y軸=-45.285

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.55m、短軸1.06m、深さ32cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を少量含む黒褐色砂質土の単一土層であ

る。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 539号土坑 (第380図、PL.112)

位置 (座標): X軸=38.474、Y軸=-45.285

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.40m、短軸1.40m、深さ21cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 541号土坑 (第379図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.475、Y軸=-45.280

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.35m、短軸0.88m、深さ30cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 545号土坑 (第379図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.483、Y軸=-45.291

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.93m、短軸0.80m、深さ12cmを測る。底面はほぼ平坦である。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 546号土坑 (第379図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.486、Y軸=-45.290

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.15m、短軸0.89m、深さ17cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(7) —1区 547号土坑 (第380図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.487、Y軸=-45.288

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.90m、短軸0.80m、深さ16cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 549号土坑 (第380図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.473、Y軸=-45.281

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径0.70m、深さ10cmを測り、規模は小さく、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色粘質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 550号土坑 (第380図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.479、Y軸=-45.277

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.27m、短軸0.85m、深さ13cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 552号土坑 (第381図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.472、Y軸=-45.278

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.92m、短軸0.71m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 557号土坑 (第381図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.462、Y軸=-45.297

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.92m、深さ31cmを測る。埋土はAs-B

軽石と礫を多く含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 558号土坑 (第381図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.461、Y軸=-405.293

本土抗の南側はトレンチによって壊されている。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸の残存値1.49m、短軸0.83m、深さ9cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 585号土坑 (第381図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.486、Y軸=-45.284

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.56m、深さ16cmを測る。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 586号土坑 (第381図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.490、Y軸=-45.289

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.20m、短軸0.84m、深さ22cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) —1区 601号土坑 (第381図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.485、Y軸=-45.287

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.06m、短軸0.80m、深さ21cmを測る。埋土はAs-B軽石と礫を多く含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 602号土坑 (第381図)

位置 (座標): X軸=38.490、Y軸=-45.299

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.91m、短軸0.65m、深さ23cmを測る。埋土はAs-B軽石と中礫を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 605号土坑 (第380図)

位置 (座標): X軸=38.485、Y軸=-45.304

本土坑は先の501号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、規模は径0.33m、深さ49cmを測り、形状から柱穴と考えられる。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 606号土坑 (第382図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.491、Y軸=-45.274

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.70m、短軸1.30m、深さ25cmを測る。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 607号土坑 (第382図、PL.113)

位置 (座標): X軸=38.491、Y軸=-45.276

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.09m、深さ26cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 619号土坑 (第382図、PL.114)

位置 (座標): X軸=38.495、Y軸=-45.288

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.82m、短軸1.16m、深さ27cmを測り、残存状態は

良く、掘り込みがしっかりしている。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 628号土坑 (第382図)

位置 (座標): X軸=38.479、Y軸=-45.489

本土坑は629号土坑と隣接する。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.63m、短軸0.41m、深さ24cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 629号土坑 (第382図、PL.114)

位置 (座標): X軸=38.479、Y軸=-45.289

本土坑は先の628号土坑と隣接する。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.91m、短軸0.74、深さ29cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 630号土坑 (第381図、PL.114)

位置 (座標): X軸=38.478、Y軸=-45.288

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.96m、短軸0.54m、深さ19cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 1区 633号土坑 (第382図、PL.114)

位置 (座標): X軸=38.496、Y軸=-45.270

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.30m、深さ28cmを測る。埋土はAs-B軽石と小礫を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(7) - 1区 634号土坑 (第382図、PL.114)

位置 (座標): X軸=38.496、Y軸=-45.268

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.25m、深さ20cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) - 1区 650号土坑 (第382図、PL.114)

位置 (座標): X軸=38.491、Y軸=-45.306

本土坑は651号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.91m、深さ19cmを測る。埋土はAs-B 軽石を含む暗灰色砂質土をベースとす

る。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) - 1区 651号土坑 (第382図)

位置 (座標): X軸=38.491、Y軸=-45.306

本土坑は先の650号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.69m、短軸0.48m、深さ39cmを測り、掘り込みがしっかりしている。埋土はAs-B 軽石を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第3節 西野原遺跡 (7) - 2区検出の土坑

西野原(5)で検出された土坑は、表115の土坑一覧に示すように468基を数えるが、本項で土坑として扱う遺構は90基である。掘立柱建物遺構の柱穴も土坑として番号を付したため、土坑番号がかなり多くなっている。また、時期を特定し難い土坑が多い中、出土遺物から平安時代に帰属する土坑が、埋土から中世以降とすることのできる土坑が明らかとなっている。

以下、各土坑ごとに記載する。

(7) - 2区 3号土坑 (第383図、PL.115)

位置 (座標): X軸=38.370、Y軸=-45.171

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径0.86m、深さ12cmを測る。埋土は白色粒子を少量含む黒褐色土の単一土層である。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) - 2区 4号土坑 (第383図、PL.115)

位置 (座標): X軸=38.370、Y軸=-45.172

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸

0.60m、短軸0.43m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。埋土は礫を多く含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 6号土坑 (第383図、PL.115)

位置 (座標): X軸=38.375、Y軸=-45.172

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.21m、短軸0.61m、深さ17cmを測る。埋土は小礫を含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 8号土坑 (第383図、PL.115)

位置 (座標): X軸=38.370、Y軸=-45.176

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.86m、短軸0.67m、深さ6cmを測り、残存状態は悪い。埋土は炭化物を多量に含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 9号土坑(第383図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.378、Y軸=-45.177

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.37m、短軸0.70m、深さ28cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は小礫を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 10号土坑(第383図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.378、Y軸=-45.176

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.06m、短軸0.75m、深さ20cmを測る。埋土は小礫を含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 11号土坑(第383図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.376、Y軸=-45.178

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.98m、短軸0.88m、深さ41cmを測り、残存状態は良い。埋土は小礫を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 25号土坑(第383図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.394、Y軸=-45.180

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸3.64m、短軸0.97m、深さ32cmを測り、残存状態は良い。埋土は暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 26号土坑(第383図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.378、Y軸=-45.194

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.69m、短軸1.58m、深さ22cmを測る。埋土は白色粒子を含む黒褐色土の単一土層である。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) — 2区 27号土坑(第384図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.400、Y軸=-45.191

本土坑の平面形状は不明で、規模は長軸の残存値1.91m、短軸1.04m、深さ37cmを測り、掘り込みがしっかりしている。埋土は白色粒子を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 28号土坑(第384図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.376、Y軸=-45.199

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径1.12m、深さ9cmを測り、残存状態は悪い。埋土は白色粒子と小礫を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 29号土坑(第384図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.399、Y軸=-45.176

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.12m、短軸0.73m、深さ11cmを測る。埋土は焼土と炭化物を多く含む赤褐色土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) — 2区 40号土坑(第384図、PL.115)

位置(座標): X軸=38.394、Y軸=-45.192

本土坑は10号住居(平安時代)と重複し、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.71m、短軸0.69m、深さ35cmを測る。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) — 2区 53号土坑(第384図、PL.116)

位置(座標): X軸=38.393、Y軸=-45.194

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.89m、短軸0.79m、深さ9cmを測り、残存状態は悪い。埋土は白色粒子を少量含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第6章 土 坑

(7) - 2区 57号土坑 (第384図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.393、Y軸=-45.184

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.73m、短軸0.91m、深さ33cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は礫を少量含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 59号土坑 (第384図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.379、Y軸=-45.168

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.58m、深さ64cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は礫を多く含んだ黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 60号土坑

位置 (座標): X軸=38.377、Y軸=-45.184

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.91m、短軸0.69m、深さ13cmを測る。

出土遺物は土師器の小型台付甕である。

出土土器から、時期は9世紀と考えられる。

なお、本土坑出土遺物は、西野原遺跡(5)(7)第2分冊一飛鳥・平安時代以降編一に掲載されている。

(7) - 2区 73号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.311、Y軸=-45.157

本土坑は18号住居(平安時代)と89号土坑と重複し、住居よりも本土坑の方が新しいが、89号土坑との新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.18m、短軸0.73m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) - 2区 78号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.296、Y軸=-45.159

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.02m、短軸0.77m、深さ26cmを測る。埋土は小礫を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 79号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.305、Y軸=-45.160

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.16m、深さ18cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) - 2区 87号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.299、Y軸=-45.157

本土坑は3・4号掘立柱建物と重複しており、柱穴の切り合い関係から、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.74m、短軸1.11m、深さ43cmを測る。埋土は礫を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 99号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.311、Y軸=-45.175

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.77m、短軸0.76m、深さ6cmを測り、残存状態は悪い。埋土は焼土粒を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 100号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.318、Y軸=-45.152

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.77m、短軸1.14m、深さ15cmを測る。埋土はAs-B軽石とローム土を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 2区 101号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.312、Y軸=-45.151

本土抗は17号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土抗の方が新しい。平面形状は円形に近く、規模は径1.07m、深さ11cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 2区 102号土坑 (第385図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.312、Y軸=-45.153

本土抗は17号住居(古墳時代後半)と重複しており、本土抗の方が新しい。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.92m、短軸0.85m、深さ10cmを測る。埋土はAs-B軽石を含む黒褐色砂質土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) — 2区 103号土坑 (第386図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.302、Y軸=-45.168

本土抗は104号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は長方形を呈し、規模は長軸4.96m、短軸1.73m、深さ53cmを測る。埋土は白色粒子を少量含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 104号土坑 (第386図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.302、Y軸=-45.165

調査当初は土坑としていたが、底面のあり方から、8号井戸にした。しかし、出土した土器は井戸に伴っていないことから、土抗と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は径1.70mを測る。埋土中から黒

書を持った須恵器の坏が出土している。

出土土器から、時期は9世紀と考えられる。

なお、本土抗出土遺物は、西野原遺跡(5)(7)第2分冊-飛鳥・平安時代以降編-に掲載されている。

(7) — 2区 106号土坑 (第386図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.312、Y軸=-45.173

本土抗は19号住居(平安時代)と重複し、本土抗の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.23m、短軸0.88m、深さ43cmを測り、掘り込みがしっかりしている。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 107号土坑 (第386図、PL.116)

位置 (座標): X軸=38.304、Y軸=-45.167

本土抗は先の104号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形に近く、規模は径1.50m、深さ39cmを測る。埋土は礫を少量含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 108号土坑 (第386図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.300、Y軸=-45.170

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.67m、短軸1.38m、深さ21cmを測る。埋土は炭粒と多量の礫を含む黒色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 120号土坑

位置 (座標): X軸=38.295、Y軸=-45.157

本土抗の平面形状は円形を呈し、規模は径0.4m、深さ11cmを測る。埋土中から鉄弁が出土している。

なお、本土抗出土遺物は、西野原遺跡(5)(7)第2分冊-飛鳥・平安時代以降編-に掲載されている。

(7) — 2区 127号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.292、Y軸=-45.155

第6章 土 坑

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.40m、短軸1.26m、深さ14cmを測る。埋土は小礫と焼土粒を含む黒褐色土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) - 2区 130号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.292、Y軸=-45.163

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径0.93m、深さ22cmを測る。埋土は礫と焼土粒を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 133-A号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.292、Y軸=-45.157

本土抗の平面形状は円形に近く、規模は径1.18m、深さ38cmを測る。埋土は小礫と焼土粒を含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 133-B号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.290、Y軸=-45.156

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.66m、短軸0.99m、深さ42cmを測る。埋土は小礫と焼土粒を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 142号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.337、Y軸=-45.151

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.87m、短軸1.12m、深さ11cmを測り、残存状態は悪い。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 158号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.340、Y軸=-45.154

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.19m、短軸0.78m、深さ13cmを測る。埋土は黒褐

色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 170号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.341、Y軸=-45.156

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.94m、短軸0.82m、深さ13cmを測る。埋土は白色粒子と焼土粒を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 171号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.286、Y軸=-45.151

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.62m、短軸0.86m、深さ16cmを測る。埋土は焼土粒を少量含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 172号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.344、Y軸=-45.157

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.11m、短軸0.92m、深さ14cmを測る。埋土は焼土粒を少量含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 173号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.344、Y軸=-45.155

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.85m、短軸0.72m、深さ18cmを測る。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 175号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.347、Y軸=-45.153

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.72m、短軸0.51m、深さ11cmを測り、規模は小さい。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 177号土坑 (第387図、PL.117)

位置 (座標): X軸=38.328、Y軸=-45.167

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.15m、短軸1.07m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 184号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.347、Y軸=-45.158

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.37m、短軸1.07m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。埋土は焼土粒を少量含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 189号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.342、Y軸=-45.154

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.22m、短軸1.08m、深さ14cmを測る。埋土は中礫を多く含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 190号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.342、Y軸=-45.155

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、断面形状はやや袋状になっている。規模は長軸1.20m、短軸0.99m、深さ66cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は小礫を含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 193号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.335、Y軸=-45.161

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.96m、短軸1.57m、深さ17cmを測る。中央部はやや窪む。埋土は白色粒子を含む黒褐色土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できな

かった。時期は不明である。

(7) —2区 198号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.343、Y軸=-45.160

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.85m、短軸0.69m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 202号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.343、Y軸=-45.165

本土抗の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.49m、短軸1.15m、深さ23cmを測る。埋土は炭を多く含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 206号土坑 (第388図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.344、Y軸=-45.169

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.63m、短軸1.44m、深さ24cmを測る。埋土は炭化物を多量に含む黒色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 207号土坑 (第389図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.349、Y軸=-45.156

本土抗の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸3.56m、短軸1.05m、深さ15cmを測り、長軸はかなり長い。底面はほぼ平坦である。埋土は黒色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) —2区 208号土坑 (第389図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.345、Y軸=-45.161

本土抗の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.46m、短軸1.31m、深さ15cmを測る。埋土は礫を多く含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第6章 土 坑

(7) - 2区 212号土坑 (第389図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.325、Y軸=-45.168

本土坑は47号住居 (平安時代) と重複しており、本土坑の方が新しい。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.70m、短軸1.54m、深さ35cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は暗褐色土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) - 2区 213号土坑 (第389図)

位置 (座標): X軸=38.349、Y軸=-45.161

本土坑は25号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不明で、深さは残存値15cmを測る。埋土は炭化物を少量含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 214号土坑 (第389図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.352、Y軸=-45.235

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸2.06m、短軸1.28m、深さ36cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。底面はほぼ平坦である。埋土は炭化物を少量含む暗褐色土をベースとするが、上層はAs-B 軽石を含む灰色砂質土で覆われる。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) - 2区 218号土坑 (第390図、PL.118)

位置 (座標): X軸=38.354、Y軸=-45.154

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.95m、短軸1.65m、深さ14cmを測る。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 219号土坑 (第390図、PL.119)

位置 (座標): X軸=38.358、Y軸=-45.192

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸

1.42m、短軸1.04m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。埋土は炭化物を多く含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 224号土坑 (第390図、PL.119)

位置 (座標): X軸=38.294、Y軸=-45.157

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.01m、短軸0.81m、深さ16cmを測る。埋土は白色粒子を僅かに含む黒褐色土の単一土層である。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) - 2区 225号土坑 (第390図、PL.119)

位置 (座標): X軸=38.294、Y軸=-45.156

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.18m、短軸0.58m、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 229号土坑 (第390図、PL.119)

位置 (座標): X軸=38.360、Y軸=-45.162

本土坑の平面形状は長方形を呈し、規模は長軸1.25m、短軸0.73m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。埋土は炭化物を含む黒褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 230号土坑 (第390図、PL.119)

位置 (座標): X軸=38.356、Y軸=-45.174

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.98m、深さ34cmを測る。埋土は礫を少量含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 233号土坑 (第390図、PL.119)

位置 (座標): X軸=38.362、Y軸=-45.170

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸

1.18m、短軸0.77m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。埋土は小礫を含む暗褐色土をベースとする。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 240号土坑(第390図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.366、Y軸=-45.169

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.66m、短軸1.23m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。埋土は小礫を含む暗褐色土の単一土層である。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 242号土坑(第391図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.367、Y軸=-45.167

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.43m、短軸1.21m、深さ36cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。埋土は礫を含む暗褐色土をベースとする。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 243号土坑(第391図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.368、Y軸=-45.164

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.52m、短軸1.22m、深さ10cmを測り、残存状態は悪い。埋土は小礫を含む暗褐色土の単一土層である。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 244号土坑(第391図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.367、Y軸=-45.161

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.22m、短軸0.89m、深さ26cmを測る。埋土は小礫を含む暗褐色土をベースとする。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 246号土坑(第391図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.360、Y軸=-45.162

本土坑は247号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.14m、短軸0.84m、深さ11cmを測る。埋土は焼土粒を

含む黒褐色土をベースとする。

埋土中から土器片が出土しているが、図示できなかった。時期は不明である。

(7) — 2区 247号土坑(第391図)

位置(座標): X軸=38.360、Y軸=-45.162

本土坑は先の246号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.96m、短軸0.59m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。中央付近はやや窪む。埋土は焼土粒を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 257号土坑(第391図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.366、Y軸=-45.165

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.05m、短軸1.50m、深さ37cmを測り、残存状態は良く、掘り込みがしっかりしている。出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 258号土坑(第391図、PL.119)

位置(座標): X軸=38.295、Y軸=-45.162

本土坑は259号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.40m、短軸1.12m、深さ31cmを測る。埋土は白色粒子を含む黒色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) — 2区 261-A号土坑(第391図、PL.120)

位置(座標): X軸=38.421、Y軸=-45.224

本土坑は261-B号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.83m、短軸0.69m、深さ16cmを測る。埋土はAs-B軽石を少量含む黒褐色土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

第6章 土 坑

(7) - 2区 261-B号土坑 (第391図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.421、Y軸=-45.223

本土坑は先の261-A号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形状は円形を呈し、規模は径0.81m、深さ32cmを測り、掘り込みがしっかりしている。埋土はAs-B 軽石を含む黒褐色土をベースとする。出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、埋土の状況から中世以降と思われる。

(7) - 2区 296号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.301、Y軸=-45.150

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.83m、短軸0.54m、深さ26cmを測る。埋土は礫を含む暗黄褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 298号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.301、Y軸=-45.148

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸0.88m、短軸0.56m、深さ19cmを測る。埋土は白色粒子を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 314号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.334、Y軸=-45.165

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.28m、短軸0.78m、深さ8cmを測り、残存状態は悪い。埋土は暗黄褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 315号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.333、Y軸=-45.166

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.61m、短軸0.94m、深さ21cmを測る。埋土は黒色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 319号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.339、Y軸=-45.163

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.84m、短軸0.64m、深さ12cmを測る。埋土は礫を多く含む暗褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 322号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.331、Y軸=-45.165

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸1.77m、短軸0.94m、深さ25cmを測る。埋土は白色粒子を含む暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 337号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.344、Y軸=-45.152

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.04m、深さ21cmを測る。埋土は黒色砂質土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 343号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.333、Y軸=-45.151

本土坑の平面形状は円形を呈し、規模は径0.85m、深さ25cmを測る。埋土は白色粒子を含む暗褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 355号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.332、Y軸=-45.163

本土坑の平面形状は不明で、規模は長軸の残存値0.94m、短軸0.82m、深さ30cmを測る。埋土は礫を含む暗褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) - 2区 371号土坑 (第392図、PL.120)

位置 (座標): X軸=38.308、Y軸=-45.151

本土坑は28号住居 (平安時代) と重複しており、本土坑の方が古い。平面形状は不整形を呈し、規模

は長軸1.19m、短軸0.75m、深さ12cmを測る。埋土は焼土粒を含む黒褐色砂質土の単一土層である。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、重複する遺構との関係から、新しくても平安時代と考えられる。

(7) -2区 383号土坑(第392図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.485、Y軸=-45.190

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.82m、短軸0.63m、深さ6cmを測り、残存状態は悪い。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) -2区 384号土坑(第393図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.297、Y軸=-45.154

本土坑は15号住居(平安時代)と重複しており、本土坑の方が古い。本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.64m、短軸1.10m、深さ31cmを測る。埋土は暗褐色砂質土をベースとする。

出土遺物がなく、時期の特定はしがたいが、重複する遺構との関係から、新しくても平安時代と考えられる。

(7) -2区 404号土坑(第393図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.427、Y軸=-45.181

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.80m、短軸0.45m、深さ18cmを測る。埋土は白色粒子と小礫を含む暗灰褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) -2区 416号土坑(第393図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.442、Y軸=-45.180

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸1.13m、短軸0.87m、深さ33cmを測り、残存状態は良く掘り込みがしっかりしている。埋土は白色粒子を含む暗灰褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) -2区 417号土坑(第393図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.440、Y軸=-45.183

本土坑の平面形状は不整形を呈し、規模は長軸2.08m、短軸0.91m、深さ29cmを測る。埋土は白色粒子を含む暗灰褐色土をベースとする。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) -2区 420号土坑(第393図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.433、Y軸=-45.170

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.72m、短軸0.66m、深さ15cmを測る。埋土は白色粒子を備かに含む暗灰色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) -2区 424号土坑(第393図、PL.121)

位置(座標): X軸=38.423、Y軸=-45.167

本土坑の平面形状は円形に近く、規模は径1.22m、深さ21cmを測る。埋土は白色粒子を含む暗灰褐色土の単一土層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

(7) -2区 429号土坑(第393図、PL.121)

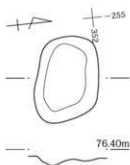
位置(座標): X軸=38.418、Y軸=-45.167

本土坑の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸0.74m、短軸0.56m、深さ7cmを測り、残存状態は悪い。埋土は白色粒子を含む暗灰褐色土の単一土層である。

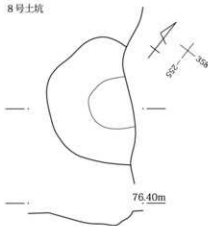
出土遺物はなく、時期は不明である。

第6章 土坑

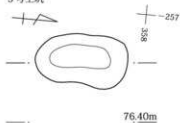
7号土坑



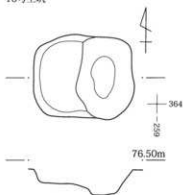
8号土坑



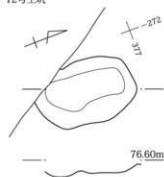
9号土坑



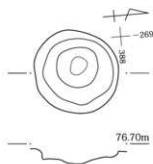
10号土坑



12号土坑



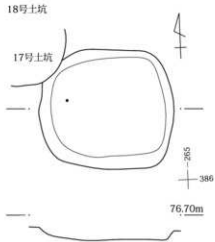
17号土坑



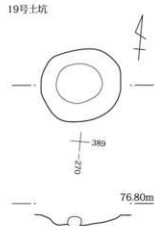
16号土坑



18号土坑



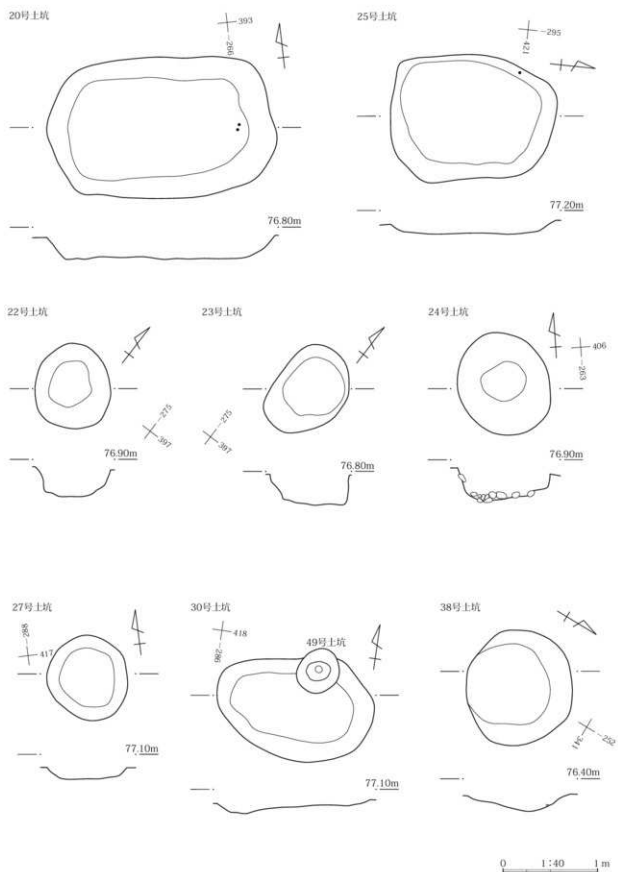
19号土坑



0 1:40 1m

第366图 (7) — 1区 7~10·12·16~19号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



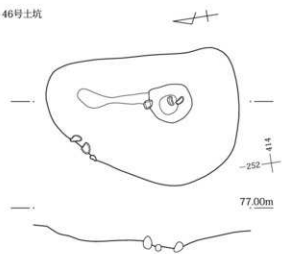
第367図 (7) - 1区 20・22~25・27・30・38号土坑平面図

第 6 章 土 坑

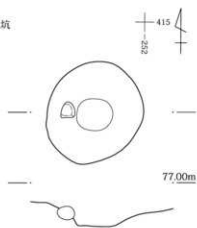
39号土坑



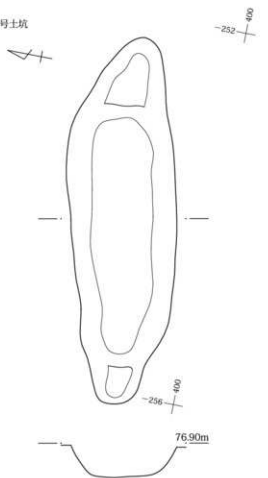
46号土坑



45号土坑



47号土坑



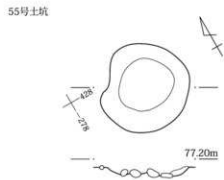
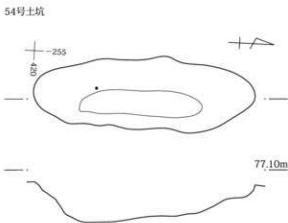
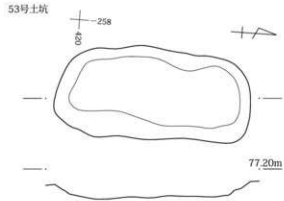
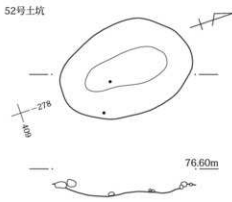
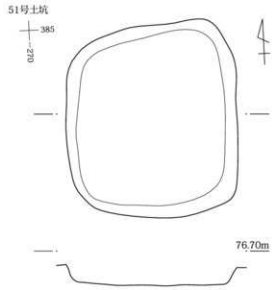
49号土坑



0 1:40 1 m

第368图 (7) - 1区 39·45~47·49号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑

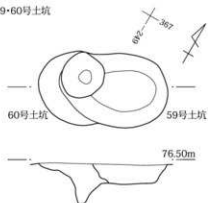


0 1:40 1m

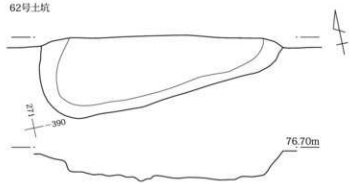
第369図 (7) - 1区 50~55号土坑平面図

第6章 土坑

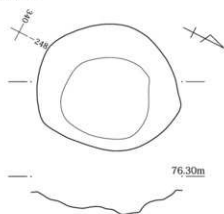
59·60号土坑



62号土坑



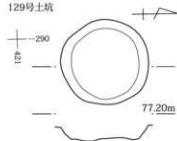
63号土坑



82号土坑



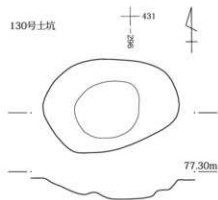
129号土坑



93号土坑



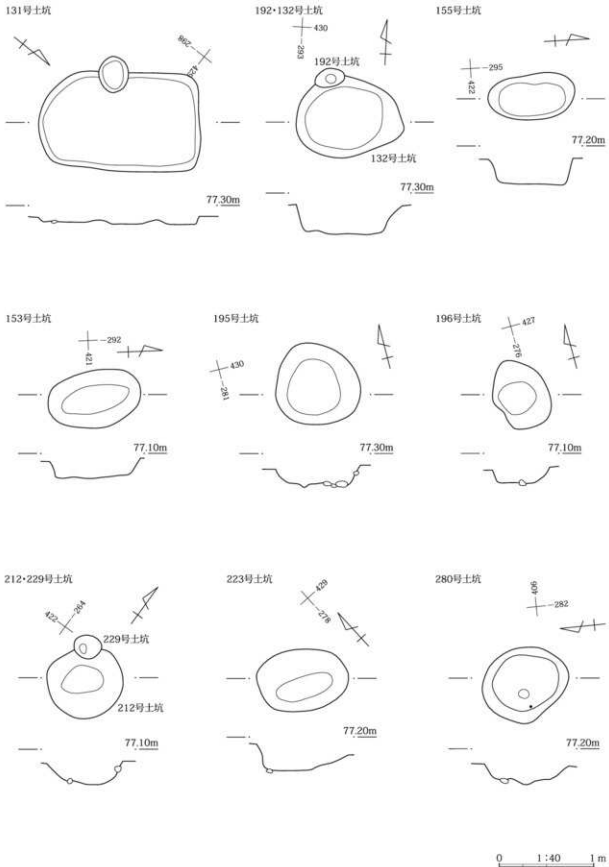
130号土坑



0 1:40 1 m

第370图 (7) - 1区 59·60·62·63·82·93·129·130号土坑平面图

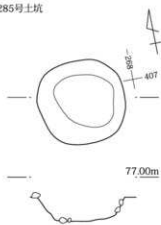
第3節 西野原遺跡（7）-2区検出の土坑



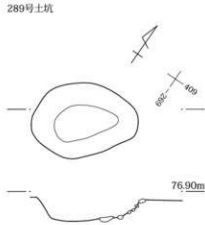
第371図 (7) - 1区 131・132・153・155・192・195・196・212・223・229・280号土坑平面図

第6章 土坑

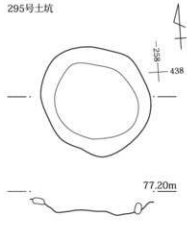
285号土坑



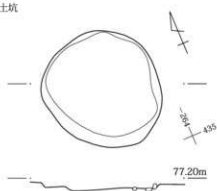
289号土坑



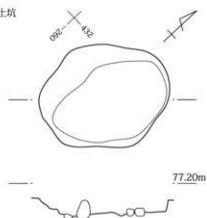
295号土坑



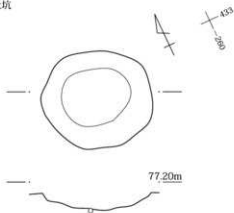
298号土坑



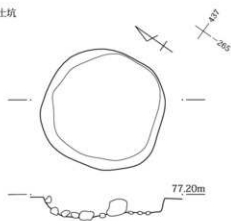
306号土坑



308号土坑



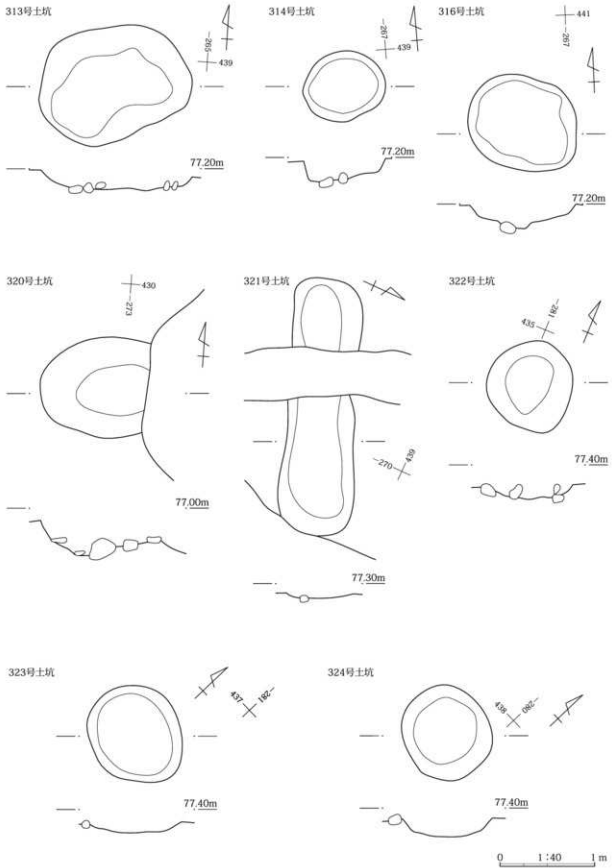
312号土坑



0 1:40 1m

第372图 (7) — 1区 285·289·295·298·306·308·312号土坑平面图

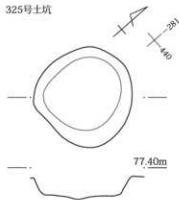
第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



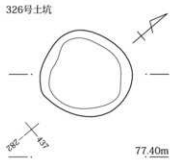
第373図 (7) - 1区 313・314・316・320~324号土坑平面図

第6章 土坑

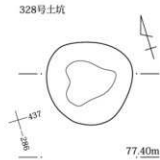
325号土坑



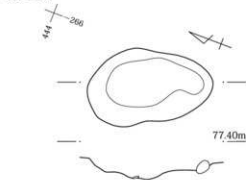
326号土坑



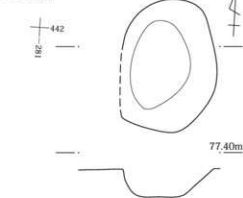
328号土坑



331号土坑



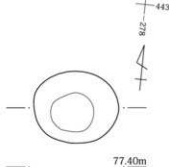
332号土坑



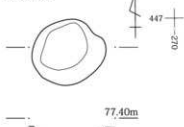
336号土坑



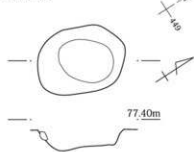
341号土坑



342号土坑



343号土坑



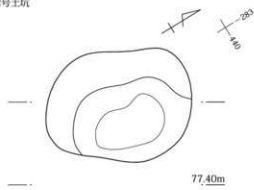
347号土坑



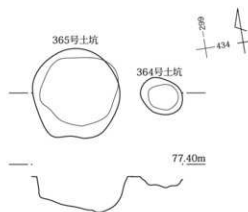
0 1:40 1 m

第374图 (7) - 1区 325·326·328·331·332·336·341~343·347号土坑平面图

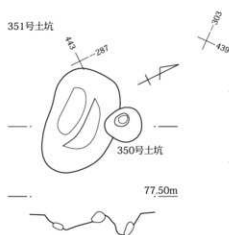
352号土坑



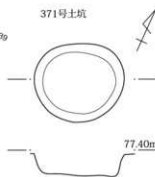
364・365号土坑



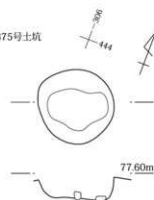
351号土坑



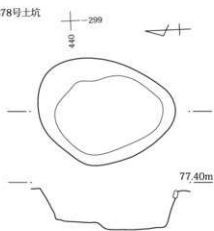
371号土坑



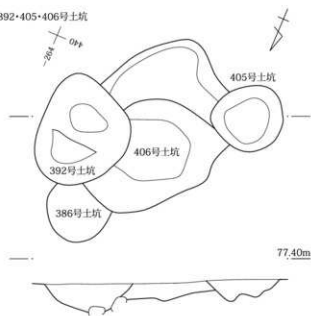
375号土坑



378号土坑



392・405・406号土坑

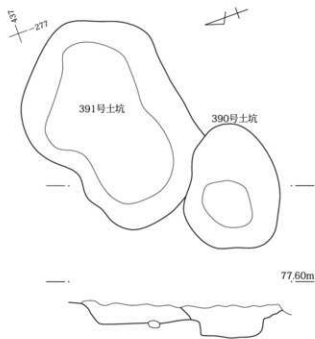


0 1:40 1m

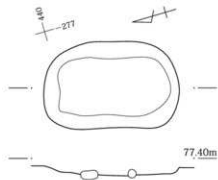
第375図 (7) - 1区 351・352・364・365・371・375・378・392・405・406号土坑平面図

第6章 土坑

390·391号土坑



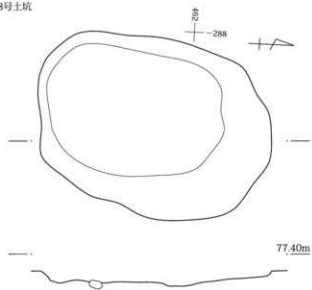
407号土坑



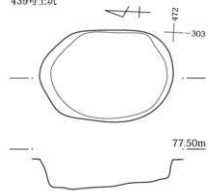
429号土坑



418号土坑



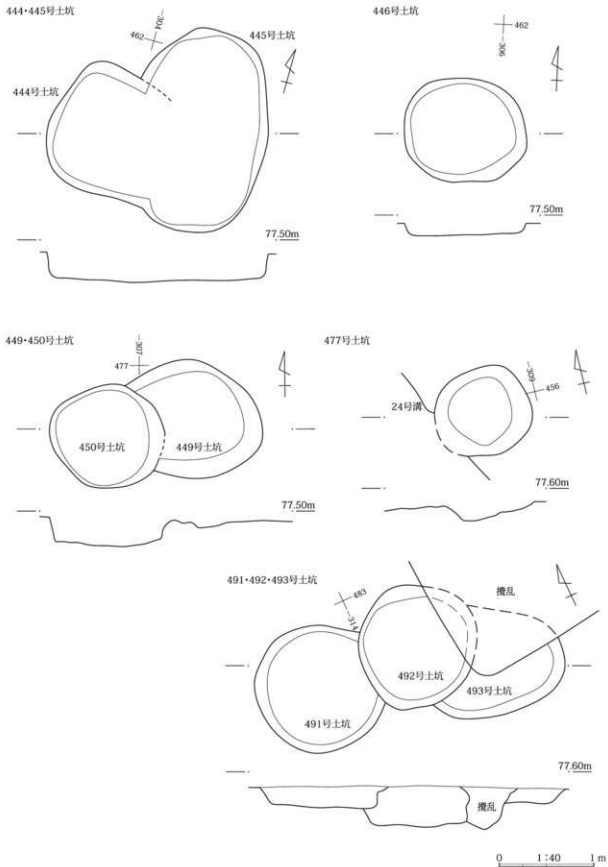
439号土坑



0 1:40 1m

第376图 (7) — 1区 390·391·407·418·429·439号土坑平面图

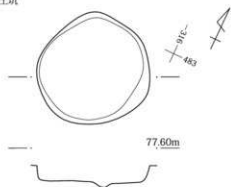
第3節 西野原遺跡（7）—2区検出の土坑



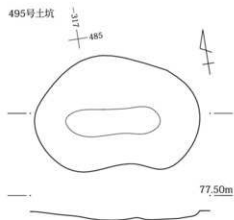
第377図 (7) —1区 444～446・449・450・477・491～493号土坑平面図

第6章 土坑

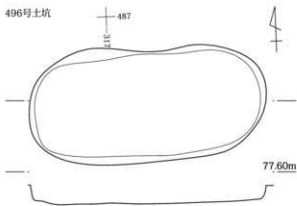
494号土坑



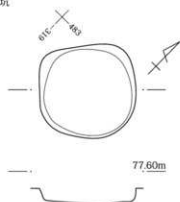
495号土坑



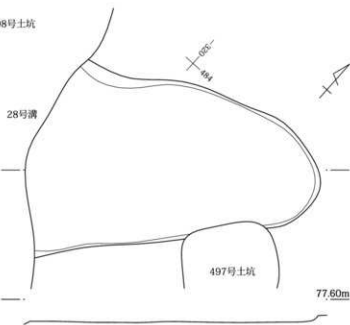
496号土坑



497号土坑



498号土坑



0 1:40 1m

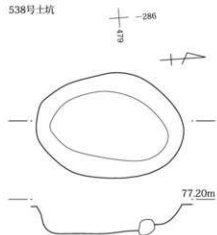
第378图 (7) - 1区 494~498号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑

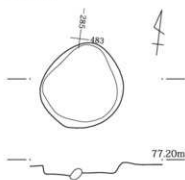
499号土坑



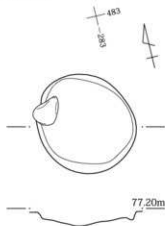
538号土坑



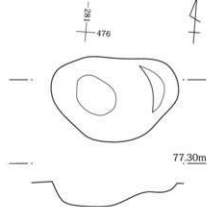
536号土坑



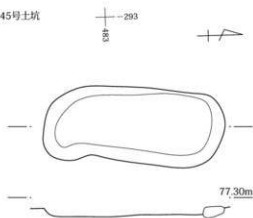
537号土坑



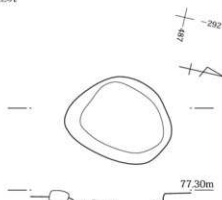
541号土坑



545号土坑



546号土坑

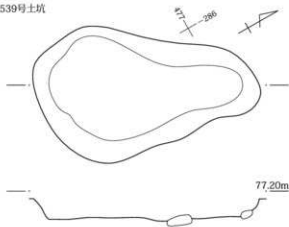


0 1:40 1m

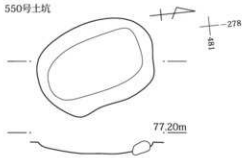
第379図 (7) - 1区 499・536~538・541・545・546号土坑平面図

第6章 土坑

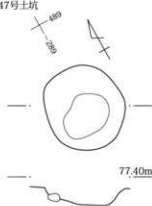
539号土坑



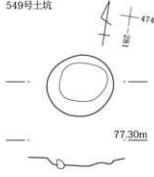
550号土坑



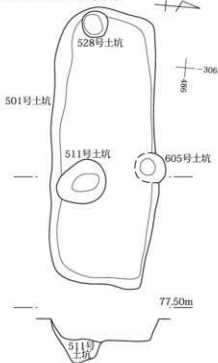
547号土坑



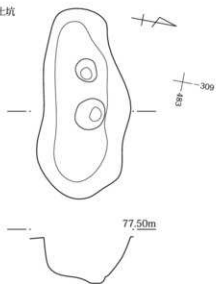
549号土坑



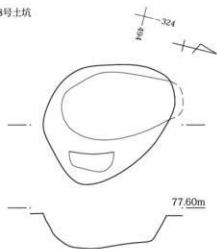
501·511·528·605号土坑



505号土坑



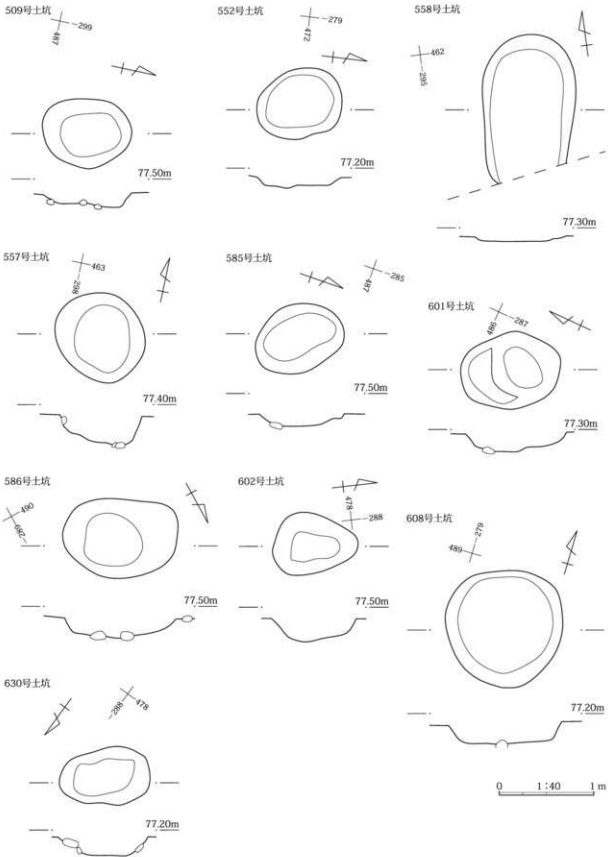
508号土坑



0 1:40 1 m

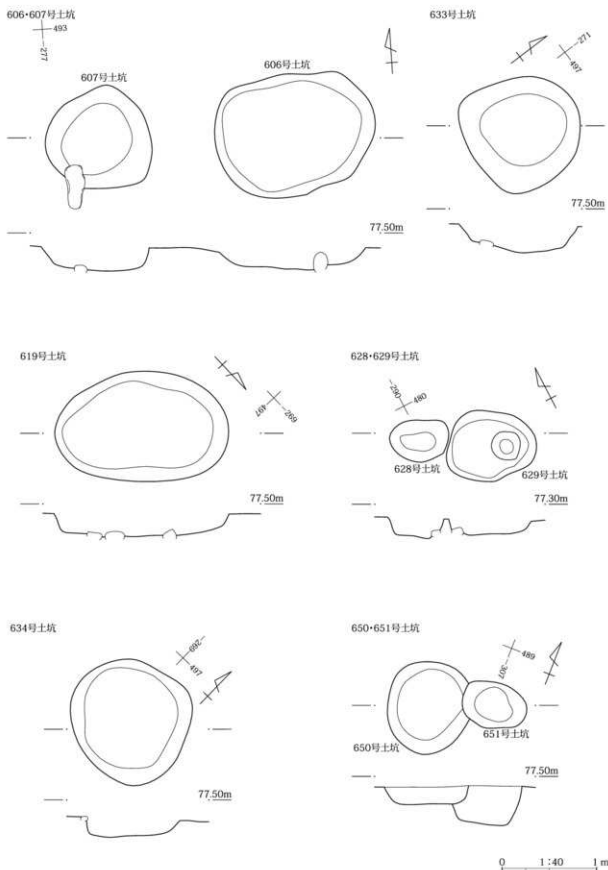
第380图 (7) - I区 501·505·508·511·528·539·547·549·550·605号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



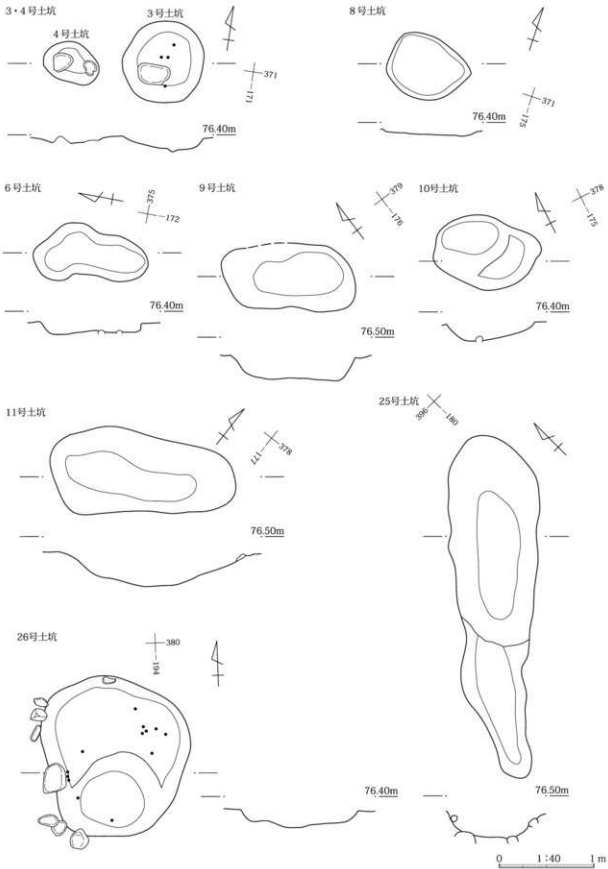
第381図 (7) - 1区 509・552・557・558・585・586・601・602・608・630号土坑平面図

第6章 土坑



第382图 (7) - 1区 606·607·619·628·629·633·634·650·651号土坑平面图

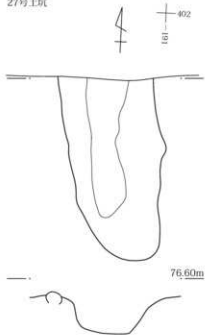
第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



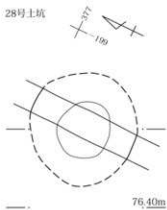
第383図 (7) - 2区 3・4・6・8~11・25・26号土坑平面図

第6章 土坑

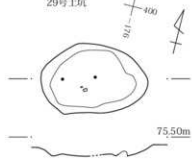
27号土坑



28号土坑



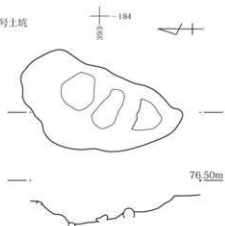
29号土坑



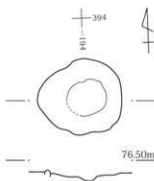
40号土坑



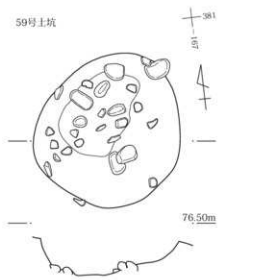
57号土坑



53号土坑

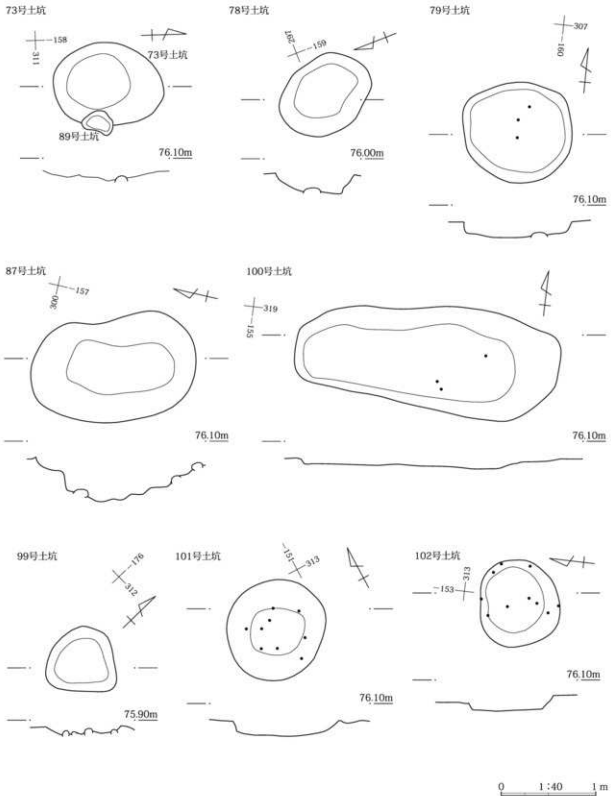


59号土坑



0 1:40 1 m

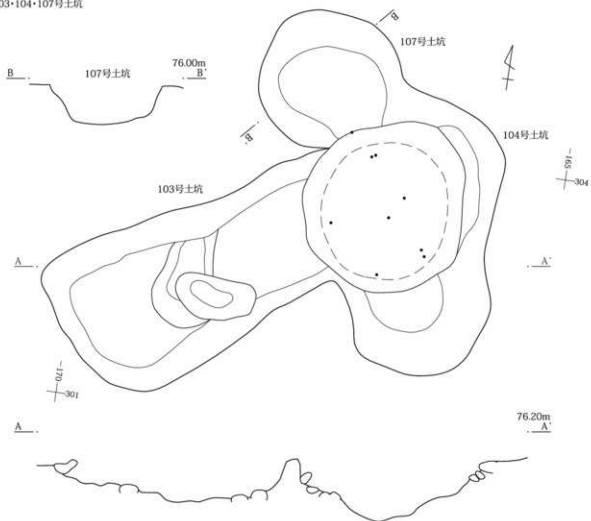
第384图 (7) - 2区 27~29·40·53·57·59号土坑平面图



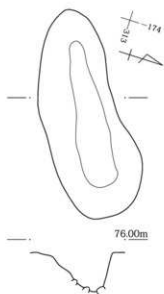
第385図 (7) - 2区 73・78・79・87・99~102号土坑平面図

第6章 土坑

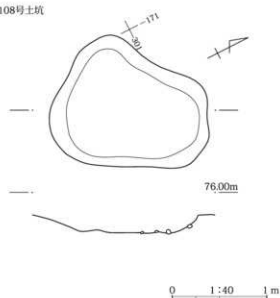
103·104·107号土坑



106号土坑

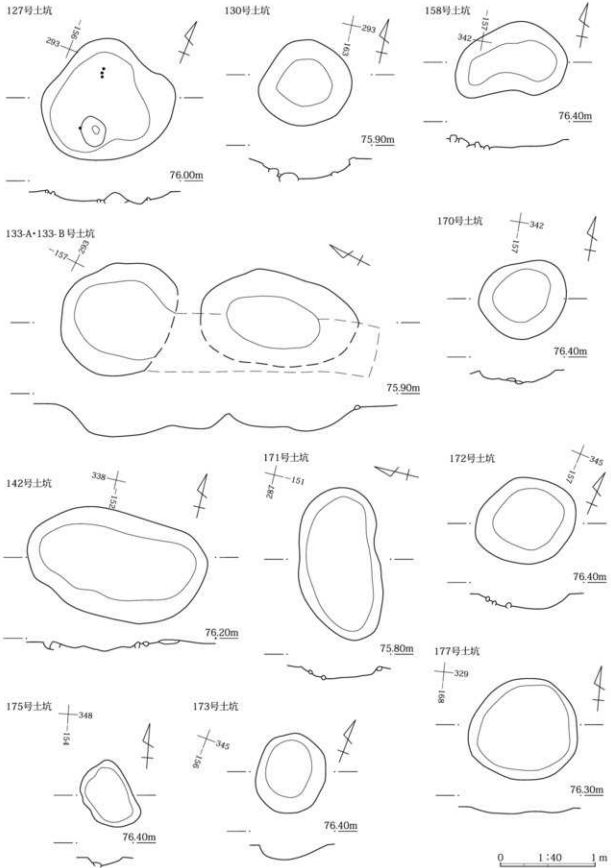


108号土坑



第386图 (7) — 2区 103·104·106~108号土坑平面图

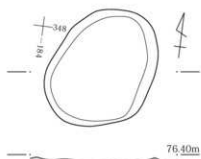
第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



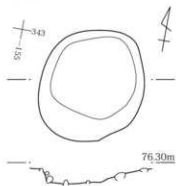
第387図 (7) - 2区 127・130・133-A・B・142・158・170~173・175・177号土坑平面

第6章 土坑

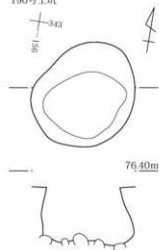
184号土坑



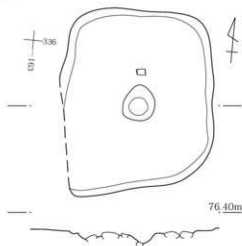
189号土坑



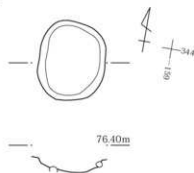
190号土坑



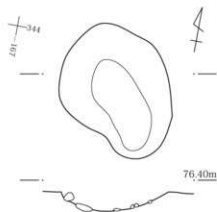
193号土坑



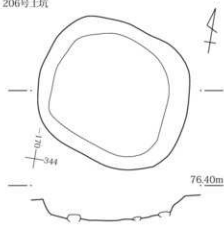
198号土坑



202号土坑



206号土坑

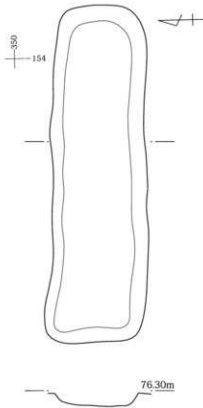


0 1:40 1 m

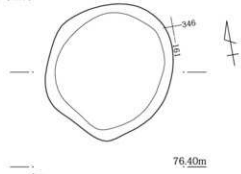
第388图 (7) — 2区 184·189·190·193·198·202·206号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑

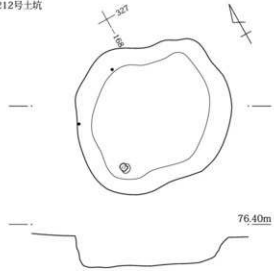
207号土坑



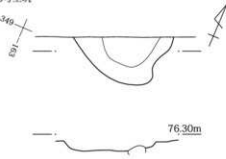
208号土坑



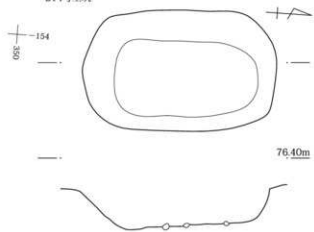
212号土坑



213号土坑



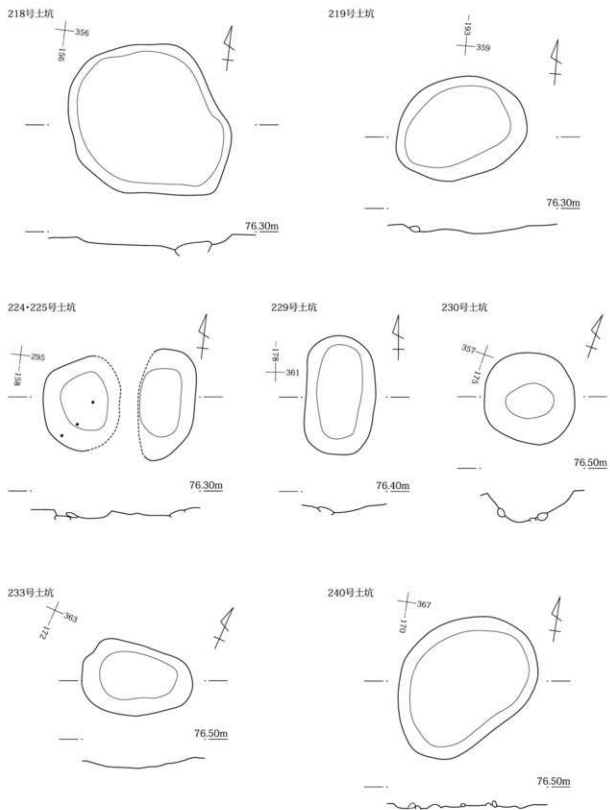
214号土坑



0 1:40 1m

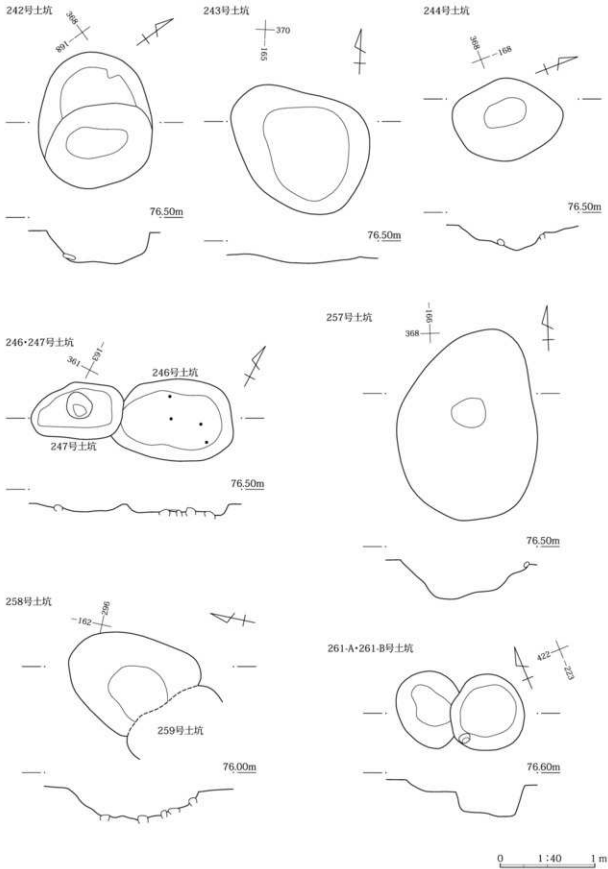
第389図 (7) - 2区 207・208・212~214号土坑平面図

第6章 土坑



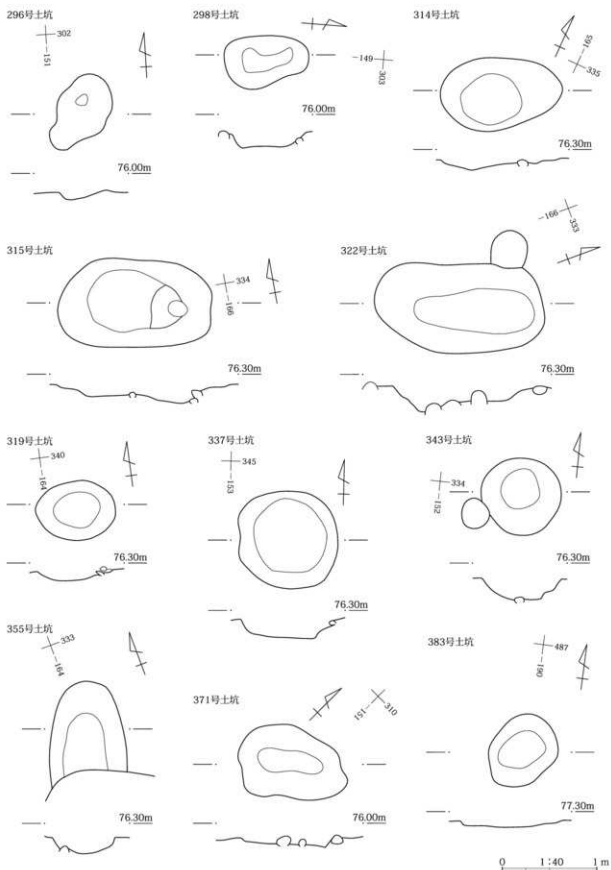
第390图 (7) - 2区 218·219·224·225·229·230·233·240号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



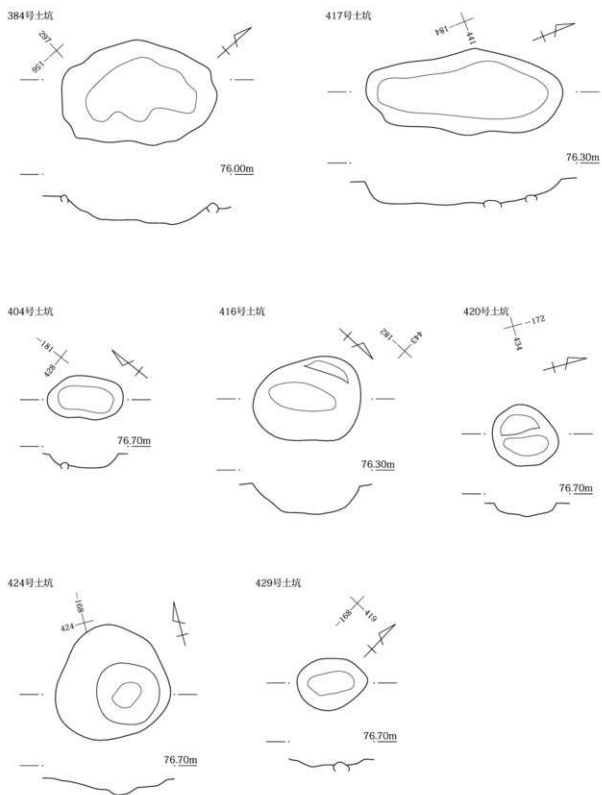
第391図 (7) - 2区 242~244・246・247・257・258・261-A・B号土坑平面図

第6章 土坑



第392图 (7) - 2区 296 • 298 • 314 • 315 • 319 • 322 • 337 • 343 • 355 • 371 • 383号土坑平面图

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑



第393図 (7) - 2区 384・404・416・417・420・424・429号土坑平面図

第6章 土 坑

表113 西野原遺跡(5) 土坑一覽表

※座標値はX軸=38,446、Y軸=-45,356の下の桁を表記

番号	位置		形状	規 模			備 考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
1	446	356	長円形	1.56	1.24	0.38	
2	373	346	不整形	1.24	1.15	0.52	
3	373	357	長円形	0.66	1.02	0.27	
4	373	353	円形	0.86	—	0.17	
5	358	300	円形	0.87	0.82	0.14	
6							穴番
7	310	304	長円形	2.86	2.71	0.38	
8	311	298	不明	(1.43)	1.71	0.15	9土・10土
9	310	299	不明	(1.05)	0.98	0.12	8土・10土
10	310	298	不明	(0.90)	1.01	0.21	8土・9土
11	326	280	不明	(0.13)	不明	(0.26)	
12	331	279	不整形長円形小	1.27	0.90	0.24	
13	314	298	円形	0.78	—	0.46	
14	292	292	不整形長円形	1.29	0.51	0.18	
15	300	305	不整形長円形	2.53	1.76	0.42	
16	302	310	不整形長円形	1.86	1.24	0.31	
17	385	306	隅丸長方形	1.05	0.68	0.65	
18	381	349	不整形長方形	2.55	0.83	0.21	20土
19	378	348	不整形長方形	2.63	0.74	0.32	20・21・24土
20	381	350	円形	0.58	—	0.55	18・19・22~25土
21	377	346	長方形小	1.38	0.79	0.12	19土
22	382	348	長方形	0.85	0.81	0.29	20土・25土
23	383	352	不整形長方形	2.54	0.73	0.19	20土
24	378	249	不明	0.79	—	0.31	19土・20土
25	379	349	円形	0.35	—	0.2	20土・22土
26	363	287	隅丸長方形	0.74	0.60	0.04	
27	364	286	不整形長方形	1.14	0.51	0.04	
28	362	286	隅丸長方形	1.37	0.43	0.05	
29	362	284	不整形長方形小	(2.30)	(0.78)	0.07	
30	364	283	不明	不明	不明	(0.01)	33土
31	365	284	不明	不明	(2.31)	(0.03)	30土
32	382	342	長円形小	3.62	(2.32)	0.21	33土・34土
33	383	341	不整形長方形	0.95	0.60	0.19	32土
34	381	342	隅丸長方形	0.87	0.50	0.19	32土
35							穴番
36							穴番
37	371	336	隅丸長方形	2.18	0.75	0.28	
38	373	335	隅丸長方形	0.98	0.66	0.22	
39	387	346	長円形	0.38	0.29	0.22	
40	333	290	長円形	0.24	0.19	0.29	
41	334	290	隅丸長方形	0.27	0.22	0.13	
42	334	290	円形	0.19	0.18	0.2	
43	335	291	円形	0.25	—	0.21	
44	333	291	不整形円形	0.25	—	0.27	
45	333	292	不整形長円形	0.21	0.18	0.09	
46	334	291	不整形長円形	0.20	0.15	0.18	
47	334	292	不整形円形	0.41	0.35	0.18	
48	334	293	長円形	0.27	0.24	0.24	
49	335	291	長円形	0.34	0.31	0.18	
50	334	293	不整形長円形	0.24	0.17	0.13	
51	334	295	不整形長円形	0.37	0.27	0.19	
52	335	294	不整形円形	0.29	0.31	0.28	
53	336	295	円形	0.29	—	0.18	
54	335	294	長円形	0.25	0.20	0.18	
55	337	295	長円形	0.36	0.32	0.14	
56	337	295	不整形長円形	0.28	0.24	0.09	
57	338	294	長円形	0.35	0.27	0.13	88土
58	337	293	円形	0.30	—	0.03	
59	337	293	不整形円形	0.37	—	0.48	
60	338	293	不整形円形	0.21	—	0.07	
61	339	293	不整形円形	0.28	0.26	0.27	
62	340	294	長円形	0.23	0.21	0.24	
63	341	292	不整形円形	0.26	—	0.29	
64	341	292	不整形長円形	0.35	0.27	0.32	
65	339	292	不整形円形	0.28	—	0.33	
66	339	291	不整形円形	0.27	0.25	0.33	
67	340	291	不整形長円形	0.26	0.24	0.31	
68	340	291	円形	0.29	0.28	0.35	
69	338	292	円形	0.25	0.23	0.17	
70	338	291	長円形	0.21	0.18	0.19	
71	339	289	不整形円形	0.27	0.26	0.33	
72	340	288	長円形	0.26	0.24	0.17	
73	340	290	円形	0.17	—	0.12	
74	337	291	不整形円形	0.23	0.21	0.18	
75	336	290	不整形円形	0.23	—	0.23	
76	336	291	長円形	0.23	0.21	0.23	
77	335	291	不整形長円形	0.35	0.30	0.32	
78	336	292	長円形	0.36	0.30	0.32	
79	337	292	不整形円形	0.25	—	0.23	
80	335	293	不整形長円形	0.29	0.26	0.27	
81	336	293	長円形	0.31	0.26	0.38	
82	336	293	不整形長円形	0.31	0.22	0.34	
83	334	294	不整形円形	(0.36)	0.25	0.3	85土
84	333	294	円形	0.42	—	0.15	
85	334	293	不整形円形	(0.31)	0.28	0.18	83土
86	334	292	円形	0.39	0.37	0.39	
87	338	295	不整形長円形小	(0.36)	0.50	0.13	88土
88	338	295	長円形	0.47	0.42	0.21	57土・87土
89	338	294	円形	0.16	—	0.17	
90							穴番
91							穴番
92	340	295	長円形	0.23	0.21	0.12	
93	339	296	不整形円形	0.25	0.23	0.25	
94	338	298	長円形	0.33	0.25	0.2	
95	338	296	長円形	0.40	0.36	0.08	
96	336	296	長円形	0.27	0.2	0.16	
97	336	296	円形	0.29	—	0.16	
98	335	296	円形	0.24	—	0.15	
99	337	298	不整形円形	0.31	—	0.18	
100	336	299	長方形	1.29	0.73	0.19	
101	338	285	長円形	0.24	0.21	0.09	
102	337	284	円形	0.18	0.16	0.07	
103	334	291	不整形円形	0.17	—	0.12	
104	335	290	円形	0.31	0.28	0.29	
105	336	292	不整形円形	0.35	0.33	0.25	
106	338	284	円形	0.18	—	0.15	
107	340	284	円形	0.23	0.21	0.12	
108	338	283	長円形	0.34	0.31	0.1	
109	338	282	不整形長円形	0.40	0.34	0.07	
110	338	282	長円形	0.32	0.26	0.12	
111	338	281	長円形	0.29	0.26	0.12	
112	337	281	不明	(0.28)	0.35	0.23	113土
113	336	281	長円形小	(0.26)	0.23	0.25	112土
114	336	281	不整形長円形	0.29	0.25	0.22	
115	336	280	長円形	0.19	0.16	0.13	
116	333	280	不整形長円形	0.22	0.19	0.18	
117	333	280	不整形長円形小	(0.31)	(0.30)	0.39	118土
118	333	279	長円形	0.31	0.26	0.44	117土

第3節 西野原遺跡(7) — 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
119	333	279	不整形円形	0.29	0.27	0.17	
120	333	278	円形	0.30	—	0.34	
121	333	276	円形	0.28	0.26	0.29	
122	333	275	長円形	0.27	0.22	0.08	
123	333	275	長円形	0.33	0.29	0.1	
124	333	273	円形	0.66	0.63	0.59	
125	334	274	長円形	0.28	0.23	0.28	
126	335	272	長円形	0.27	0.24	0.25	
127	339	286	長円形	0.37	0.33	0.17	
128	332	273	長円形	0.29	0.24	0.12	
129	332	273	不整形円形	0.18	0.17	0.11	
130	331	273	長円形	0.29	0.27	0.29	
131	328	274	長円形	0.20	0.17	0.14	
132	328	274	円形	0.22	0.20	0.07	
133	325	275	長円形	0.24	0.20	0.19	
134	325	275	不整形円形	0.25	—	0.14	
135	324	277	円形	0.30	0.28	0.13	
136	338	287	不整形長円形	0.27	0.23	0.3	
137	339	288	不整形円形	0.30	0.27	0.13	
138	375	342	円形	0.43	—	0.1	
139	376	349	不整形長方形	2.32	0.95	0.41	
140	373	343	円形	0.49	—	0.11	
141	372	342	長円形	0.84	0.73	0.25	
142	374	343	長円形	0.32	0.29	0.11	
143	374	342	長円形	0.43	0.38	0.35	
144	373	341	長円形	0.49	0.43	0.21	
145	374	340	不整形円形	0.51	0.47	0.31	
146	371	340	円形	0.37	—	0.11	
147	377	342	円形	0.63	0.49	0.1	
148	375	344	円形	0.26	—	0.25	
149	375	343	円形	0.30	—	0.12	
150	374	349	不整形円形	0.43	0.37	0.29	
151	379	344	楕丸正方形	1.28	0.24	0.16	
152	380	340	円形	0.83	0.77	0.43	
153	374	350	不整形正方形	0.35	0.32	0.09	
154	370	337	長円形	0.42	0.37	0.43	
155	380	342	円形	0.23	—	0.08	
156	376	352	長方形か	(1.65)	0.93	0.27	157土・167土
157	374	353	長方形か	(2.08)	(0.53)	0.58	
158	380	346	円形	0.26	0.25	0.1	
159	381	346	円形	0.39	0.37	0.17	
160	376	345	長円形	0.27	0.25	0.22	
161	376	345	不整形長円形	0.91	0.69	0.18	
162	372	340	長円形	0.76	0.72	0.25	
163	372	339	長円形	0.61	0.54	0.19	164土
164	371	339	長円形	(0.51)	0.53	0.25	163土
165	369	334	長円形	0.41	0.33	0.24	
166	369	330	長円形	0.58	0.54	0.1	
167	374	353	長方形か	2.09	(0.80)	0.63	156土・157土
168	338	305	円形	0.77	0.74	0.31	
169	334	305	長方形	2.44	0.59	不明	
170	332	307	楕丸長方形	2.93	0.63	0.06	
171	337	312	円形	0.31	—	0.06	
172	332	303	長円形	0.30	0.21	0.09	
173	332	300	長円形	0.32	0.23	0.2	
174	338	298	不整形長円形	0.28	0.25	0.1	
175	339	299	不整形長円形	0.29	0.23	0.16	
176	339	300	円形	0.26	0.24	0.15	
177	331	303	円形	0.34	0.32	0.21	
178	350	311	長円形	1.23	0.71	0.1	
179	330	297	円形	0.35	0.31	0.13	180土
180	330	297	長円形	1.01	0.58	0.08	179土
181	362	315	円形	0.27	0.25	0.25	
182	362	314	長円形	0.36	0.31	0.25	
183	361	313	長円形	0.36	0.33	0.24	184土
184	361	313	円形か	0.30	—	0.18	183土
185	359	311	楕丸長方形	0.33	0.28	0.26	
186	356	314	円形	0.22	0.21	0.09	
187	354	308	長円形	0.29	0.23	0.15	
188	352	307	不整形円形	0.25	—	0.46	
189	350	307	円形	0.20	—	0.14	
190	349	306	円形	0.25	0.20	0.15	
191	351	306	長円形	0.33	0.30	0.37	
192	350	305	不整形円形	0.28	0.27	0.31	
193	350	303	楕丸長方形	0.33	0.28	0.43	
194	351	303	不整形円形	0.30	0.28	0.39	
195	352	305	円形	0.20	—	0.14	
196	355	304	楕丸長方形	0.31	0.24	0.07	
197	357	306	円形	0.25	—	0.2	
198	357	306	円形	0.20	—	0.25	
199	358	308	長円形	0.29	0.27	0.24	
200	359	306	長円形	0.48	0.42	0.27	
201	359	306	楕丸正方形	0.25	—	0.31	
202	361	308	不整形長円形	1.03	0.80	0.15	203土
203	361	308	長円形	0.57	0.30	0.04	202土
204	362	310	長円形	0.41	0.31	0.18	
205	364	309	円形	0.30	—	0.12	
206	365	312	長円形	0.40	0.32	0.18	
207	305	322	楕丸長方形	1.91	0.86	0.26	208土
208	305	323	楕丸長方形か	2.63	1.54	0.28	207土
209	382	354	円形	0.34	—	0.26	210土
210	382	354	不整形円形	0.38	0.36	0.18	209土
211	351	301	不整形長円形	0.57	0.43	0.21	
212	358	305	長円形	0.35	0.30	0.41	
213	375	308	楕丸長方形	1.02	0.87	0.13	
214	366	304	長円形	0.40	0.35	0.18	
215	373	302	不整形円形	0.71	—	0.1	
216	308	278	不整形長円形	0.76	0.66	0.13	
217	312	376	長円形	1.26	0.62	0.24	218土
218	312	375	長方形	2.14	1.55	0.11	217土
219	281	302	長円形	0.76	0.69	0.36	
220	324	276	楕丸長方形	1.43	0.53	0.45	
221	326	272	円形	0.33	—	0.16	
222	294	300	楕丸長円形	4.86	1.04	0.33	
223	313	280	不整形	0.75	0.28	0.65	
224	316	268	不整形長円形	0.87	0.66	0.34	
225	332	336	円形	0.22	0.20	0.05	
226	332	336	円形	0.22	0.21	0.17	
227	456	347	円形	0.79	—	0.1	
228	310	294	長円形	0.35	0.29	0.28	
229	430	339	円形	0.95	0.92	0.28	
230	429	345	不整形円形	0.78	0.69	0.22	
231	349	281	長円形	0.97	0.86	0.27	
232	454	348	不整形正方形	0.94	0.91	0.22	
233	454	349	長円形	1.06	0.96	0.33	
234	450	340	長円形	1.02	0.85	0.52	
235	451	342	不整形円形	0.46	0.42	0.27	
236	360	326	長円形	1.22	1.03	0.33	

第6章 土 坑

序号	位置		形状	规格			备 考
	X轴	Y轴		长(m)	短片(m)	深度(m)	
237	358	323	长方形	1.78	0.83	0.31	
238	360	325	长方形	0.82	0.62	0.08	
239	452	340	圆形	0.44	0.41	0.23	
240	283	290	不整长方形	2.50	0.79	0.05	
241	281	258	不整长方形	2.10	0.73	0.23	
242	284	264	不整长方形	2.00	1.07	0.27	
243							欠番
244	256	232	圆孔长方形	3.64	1.06	0.14	
245	258	231	正方形	1.27	1.19	0.07	
246	295	254	圆形	0.31	—	0.19	
247							欠番
248							欠番
249							欠番
250	301	257	圆孔长方形	1.85	1.18	0.16	
251	344	280	圆形	0.38	0.36	0.24	
252	337	271	圆形	0.83	0.81	0.16	
253	336	273	不整圆形	0.86	0.84	0.28	
254	339	273	圆形	1.37	1.32	0.23	
255							欠番
256							欠番
257	263	286	长方形	3.46	0.89	0.26	
258	271	289	不整长方形	1.13	0.53	0.07	
259	271	292	不整长方形	1.27	0.59	0.11	
260	273	291	长方形	1.21	0.61	0.21	
261							欠番
262							欠番
263	280	297	不整长方形	2.49	0.68	0.23	
264	281	300	不整长方形	1.40	0.60		385土
265	280	302	不整长方形	1.33	0.67		280土・400土
266	283	297	不整长方形	1.53	0.60	0.27	
267	284	299	长方形	1.18	0.58	0.14	
268	287	299	圆孔长方形	1.32	0.68	0.21	
269	285	301	不整长方形	0.67	0.50		380土
270	288	301	圆孔长方形	1.21	0.60	0.13	
271	287	303	圆孔长方形	1.75	0.67	0.22	
272	275	264	长方形	0.83	0.66	0.25	70号住居
273	288	290	圆孔长方形	2.68	1.41	0.13	471・472・475土
274	267	256	圆孔长方形	(2.87)	0.86	0.13	467土
275	328	340	长方形	2.43	1.62	0.24	
276	278	311	不整长方形	1.10	0.60	0.39	
277	280	310	长方形	1.33	0.78	0.26	
278	282	310	长方形	1.20	0.65	0.23	
279	278	308	不整长方形	(1.28)	0.56		352土
280	280	302	长方形	1.21	0.58		265土・400土
281	288	300	圆孔长方形	2.56	1.44		270土
282	294	327	不整长方形	2.52	1.13	0.13	
283	458	357	长方形	2.99	1.17	0.3	
284	461	354	长方形	0.77	0.68	0.13	
285	346	285	圆形	0.57	0.53	0.08	
286	284	301	圆形	2.55	2.34		378・379・382土
287	349	330	圆形	0.28	—	0.2	
288							西野原(2)
289	331	323	不整长方形	1.42	0.81	0.23	
290	342	310	不整长方形	1.55	0.95	0.14	
291	298	349	长方形	(1.47)	0.66	0.34	
292	401	362	长方形	0.50	0.43	0.29	
293	402	361	圆形	0.27	—	0.25	
294	403	360	长方形	0.45	0.41	0.39	
295	400	360	长方形	0.44	0.38	0.27	
296	401	360	长方形	0.33	0.28	0.27	
297	401	360	圆形	0.33	—	0.18	
298	404	361	圆形	0.35	—	0.19	
299	405	359	长方形	0.53	0.48	0.22	
300	403	357	长方形	0.63	0.58	0.31	
301	409	363	圆形	0.36	0.33	0.32	
302	411	360	长方形	0.30	0.27	0.14	
303	412	359	长方形	0.33	0.28	0.25	
304	285	345	圆孔长方形	(1.51)	1.90	0.22	305土
305	284	343	圆孔长方形	2.46	1.10	0.22	304土
306	401	358	长方形	0.33	0.30	0.25	
307	400	358	圆形	0.28	—	0.14	
308	400	357	圆形	0.44	—	0.32	
309	401	347	长方形	0.31	0.28	0.18	
310	399	355	长方形	0.35	0.20	0.23	
311	399	352	长方形	0.66	0.62	0.22	
312	399	351	圆形	0.37	0.34	0.22	6 掘立
313	403	348	圆形	0.50	—	0.34	6 掘立
314	402	347	长方形	0.50	0.49	0.46	6 掘立
315	400	346	长方形	0.43	0.41	0.64	6 掘立
316	405	348	圆形	0.40	0.37	0.27	
317	403	357	圆形	0.29	—	0.19	
318	402	353	圆形	0.51	0.50	0.49	6 掘立
319	400	352	长方形	0.53	0.46	0.27	6 掘立
320	403	351	圆形	0.40	—	0.17	6 掘立
321	289	338	圆孔长方形	1.71	0.46	0.3	
322	288	339	不整长方形	2.47	1.34	0.91	323土
323	286	339	不整长方形	1.92	0.75	0.27	322土
324	291	338	不整长方形	(3.21)	1.04	0.5	
325							西野原(2)
326							西野原(2)
327							西野原(2)
328							西野原(2)
329							西野原(2)
330							西野原(2)
331							西野原(2)
332							西野原(2)
333							西野原(2)
334							西野原(2)
335							
336	283	291	不明				42号住居
337							西野原(2)
338	264	237	圆孔长方形	2.59	0.74	0.39	
339							西野原(2)
340	272	305	圆形	0.36	0.38	0.15	
341	275	306	长方形	0.38	0.37	0.43	7 掘立
342	275	305	长方形	0.59	0.45	0.49	8 掘立
343	276	305	圆形	0.45	0.44	0.5	8 掘立
344	276	305	圆形	0.29	0.29	0.19	
345	277	306	圆形	0.33	0.30	0.39	
346	279	306	圆形	0.34	0.31	0.4	8 掘立
347	276	307	圆形	0.39	0.37	0.4	7 掘立
348	277	308	圆形	0.44	0.40	0.5	8 掘立
349	278	307	圆形	0.49	0.45	0.51	8 掘立
350	277	309	圆形	0.38	0.36	0.42	7 掘立
351	279	309	圆形	0.24	0.21	0.09	
352	279	308	圆形	0.41	0.36	0.28	7 掘立
353	280	307	圆形	0.31	0.30	0.2	7 掘立
354	282	307	圆形	0.24	0.23	0.23	

第3節 西野原遺跡(7) — 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
335	284	307	円形	0.24	0.23	0.21	
336	286	317	長円形	0.62	0.54	0.13	
337	285	305	長円形	0.53	0.39	0.29	
338	320	298	不整形円形	0.37	0.35	0.17	
339	320	295	不整形円形	0.29	—	0.21	
360	410	338	長円形	0.20	0.18	0.28	
361	390	332	長円形	0.45	0.40	0.21	
362	257	264	長円形	1.64	0.83	0.15	
363	265	287	楕丸長方形	1.51	1.21	0.13	
364	273	301	円形	0.30	0.29	0.27	
365	276	303	円形	0.50	0.40	0.4	
366	277	304	円形	0.39	0.33	0.37	8 竪立
367	278	304	円形	0.23	0.21	0.11	
368	276	301	円形	0.39	0.38	0.36	7 竪立
369	276	300	長円形	0.46	0.35	0.28	
370	277	300	円形	0.39	0.38	0.44	7 竪立
371	278	300	円形	0.40	0.39	0.57	7 竪立
372	279	299	円形	0.35	0.32	0.49	7 竪立
373	278	300	長円形	0.60	0.49	0.5	
374	279	300	円形	0.26	0.25	0.18	
375	281	304	円形	0.54	0.51	0.51	
376	283	304	不整形円形	0.44	0.40	0.52	7 竪立
377	282	303	円形	0.43	0.42	0.54	7 竪立
378	283	303	円形	0.37	0.35	0.22	
379	284	301	長円形	0.50	0.34	0.33	
380	285	300	円形	0.44	0.40	0.35	
381	285	300	円形	0.31	0.31	0.43	
382	282	301	長円形	0.34	0.20	0.25	
383	283	300	不整形円形	0.39	0.38	0.25	
384	283	300	円形	0.22	0.22	0.23	
385	281	301	円形	0.29	0.20	0.12	
386	276	297	長円形	0.46	0.39	0.19	
387	279	295	円形	0.29	0.29	0.09	
388	279	294	長円形	0.54	0.41	0.27	
389	281	292	円形	0.38	0.35	0.34	
390	277	293	不整形円形	0.32	0.29	0.06	
391	277	293	円形	0.22	0.21	0.09	
392	273	303	円形	0.51	0.46	0.48	7 竪立
393	274	303	円形	0.49	0.49	0.17	
394	274	302	円形	0.33	0.30	0.22	
395	274	302	円形	0.36	0.34	0.34	7 竪立
396	275	303	円形	0.72	0.63	0.45	
397	275	305	円形	0.27	0.26	0.19	
398	274	304	円形	0.35	0.34	0.31	7 竪立
399	282	306	円形	0.33	0.32	0.3	7 竪立
400	280	302	円形	0.46	0.45	0.21	
401	281	301	円形	0.38	0.35	0.32	7 竪立
402	280	300	円形	0.21	0.20	0.08	7 竪立
403	262	293	長円形	0.69	0.47	0.16	
404	262	293	円形	0.37	0.32	0.18	
405	269	297	不整形長円形	1.66	0.80	0.34	
406	273	302	円形	0.49	0.48	0.29	
407	258	263	楕丸長方形	(2.20)	(1.25)		362土
408							西野原(2)
409							西野原(2)
410							西野原(2)
411							西野原(2)
412							西野原(2)
413							西野原(2)
414							西野原(2)
415							西野原(2)
416							西野原(2)
417							西野原(2)
418							西野原(2)
419							西野原(2)
420							西野原(2)
421							西野原(2)
422							西野原(2)
423							西野原(2)
424							西野原(2)
425							西野原(2)
426							西野原(2)
427							西野原(2)
428							西野原(2)
429							西野原(2)
430							西野原(2)
431							西野原(2)
432							西野原(2)
433							西野原(2)
434							西野原(2)
435							西野原(2)
436							西野原(2)
437	256	274	円形	0.46	0.46	0.21	
438	256	276	円形	0.35	0.50	0.29	
439	257	279	不整形円形	0.55	0.50	0.51	
440							西野原(2)
441	289	302	長円形	2.14	(0.67)	0.12	127号住P I
442	277	239	不明	不明	不明	不明	
443	291	287	円形	0.58	0.53	0.1	10 竪立
444	282	240	不整形円形	1.00	0.99	0.55	
445	281	241	不整形長円形	0.94	0.73	0.45	
446	334	270	不整形	1.32	1.13	0.58	
447	288	286	長円形	0.67	0.45	0.24	
448	284	241	不整形長円形	1.26	0.70	0.81	
449	285	240	不整形円形	0.50	0.40	0.1	
450	285	239	長円形	0.55	0.33	0.16	
451	292	302	楕丸長方形	2.00	1.07	0.35	
452	276	242	不整形長円形	1.15	0.80	0.99	10 竪立
453	364	284	長方形	0.79	0.42	不明	
454	261	260	不整形長円形	0.94	0.55	0.33	
455	276	242	不整形長円形	1.11	0.83	0.99	
456	261	260	円形	0.35	0.20	0.24	
457	263	261	不整形円形	0.34	0.28	0.2	
458	261	263	円形	0.35	0.32	0.13	
459	252	253	円形	0.36	0.35	0.14	
460	274	267	円形	0.36	0.35	0.1	
461	275	270	不整形長円形	1.30	0.51	0.12	
462	274	271	円形	0.51	0.49	0.14	
463	272	274	円形	0.73	0.74	0.21	
464	263	278	円形	0.33	0.33	0.2	
465	273	253	円形	0.49	0.44	0.3	
466	272	255	円形	0.37	0.32	0.32	
467	269	255	楕丸長方形	2.37	1.02	0.25	
468	256	263	楕丸長方形	2.47	0.68	0.26	
469	286	288	楕丸長方形	1.75	0.67	0.11	
470	286	289	円形	0.31	0.28	0.12	
471	287	291	円形	0.50	0.45		273土
472	288	290	円形	0.36	0.33		273土

第6章 土 坑

番号	位置		形状	規 模			備 考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
473	293	282	円形	0.46	0.41	0.2	
474	297	290	楕丸長円形	1.99	0.73	0.1	
475	287	289	円形	0.38	0.36		273土
476	287	241	長円形か	(0.58)	(0.51)	0.16	480土
477	287	241	不整長円形か	(1.50)	(0.59)	0.17	480土・499土
478	277	236	不整長円形	1.26	1.00	0.54	11掘立
479	282	238	不整長円形	1.89	0.85	0.78	11掘立
480	287	242	不整長円形	1.30	1.00	0.42	10掘立
481	298	294	円形	0.38	0.37	0.24	
482	272	295	長円形	0.54	0.40	0.08	
483	414	338	不明	(0.91)	(0.87)	0.56	
484	284	238	楕丸長円形か	(0.93)	0.85	0.75	11掘立
485	409	337	円形	0.55	—	0.22	
486	408	335	長円形	0.85	0.74	0.39	
487	414	337	円形	1.27	1.22	0.14	欠番
488							欠番
489							

番号	位置		形状	規 模			備 考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
490							西野原(2)
491							西野原(2)
492	291	324	円形	0.88	0.78	0.15	
493	299	310	長円形	0.61	0.53	0.4	
494	292	304	楕丸長方形	1.24	0.55	0.13	
495	287	292	円形	0.50	0.47	0.39	
496	287	292	長円形	0.38	0.30	0.1	
497	269	284	不整長円形	1.15	0.64	0.12	
498	290	292	楕丸長円形	1.60	0.62	0.18	
499	288	242	円形	(0.54)	0.52	0.25	480土
500							
501	270	248	円形	0.55	0.54	0.31	
502	286	243	不整長円形か	(2.00)	1.36	0.13	480土
503	422	340	不明	0.41	(0.179)	0.09	
504	423	340	不整長円形	0.28	0.21	0.16	
505	279	237	楕丸正方形	1.25	1.22	0.64	

表114 西野原遺跡(7) - 1 土坑一覧表

※座標値はX軸=38,340、Y軸=-45,250の下3桁を表記

番号	位置		形状	規 模			備 考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
1	340	250	円形	0.50	0.50	0.1	
2	348	252	不整長円形	0.39	0.38	0.5	
3	358	250	円形	0.31	0.30	0.11	
4	359	251	円形	0.49	0.45	0.21	
5	359	252	円形	0.55	0.53	0.12	
6	360	251	不整長円形	0.67	0.66	0.13	
7	351	254	不整長円形	0.97	0.62	0.06	
8	356	255	長円形か	1.35	0.79	0.14	
9	357	256	不整長円形	0.97	0.52	0.21	
10	364	259	不整長円形	1.03	0.86	0.29	
11	372	265	長円形	0.66	0.37	0.08	
12	376	271	不整長円形	1.03	0.65	0.11	
13							欠番
14							欠番
15							
16	382	272	長円形か	1.36	1.10	0.16	
17	387	268	円形	0.88	0.88	0.17	18土
18	386	267	楕丸長方形か	1.43	1.25	0.17	17土
19	389	270	長円形	0.89	0.76	0.1	482土
20	391	266	不整長円形	2.36	1.32	0.27	
21	391	280	長円形	0.54	0.46	0.02	
22	396	275	円形	0.88	0.85	0.31	
23	398	274	長円形	1.01	0.74	0.32	
24	405	263	長円形	1.08	0.98	0.29	
25	420	294	不整長円形	1.74	1.28	0.1	
26	416	293	円形	0.70	0.65	0.23	
27	416	287	円形	0.90	0.85	0.15	
28	419	287	不整長円形	1.14	0.77	0.13	
29	419	285	不整長円形	0.67	0.64	0.48	2掘立
30	417	285	長円形か	1.67	1.05	0.13	49土
31	419	284	円形	0.47	0.42	0.53	
32	418	283	不整長円形	0.48	0.25	0.07	
33	417	282	不整長円形	0.71	0.44	0.36	
34	417	281	円形	0.24	0.22	0.17	

番号	位置		形状	規 模			備 考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
35	419	281	長円形	0.94	0.53	0.16	
36	417	279	円形	0.35	0.34	0.28	
37	418	279	円形	0.75	0.70	0.2	
38	340	251	円形	1.25	1.15	0.16	
39	349	256	不整長円形	2.56	0.83	0.11	
40							欠番
41	420	285	円形	0.40	0.39	0.27	2掘立
42	419	293	円形	0.38	0.35	0.33	2掘立
43	421	293	円形	0.35	0.32	0.4	2掘立
44							欠番
45	413	252	円形	1.06	1.02	0.24	
46	415	251	不整長円形	2.94	1.08	0.24	
47	400	254	不整長円形	3.89	0.96	0.35	
48	419	285	不整長円形	0.58	0.41	0.52	
49	417	284	円形	0.48	0.44	0.44	
50	389	267	長円形	1.25	1.14	0.11	
51	383	288	楕丸正方形	1.81	1.81	0.25	
52	410	278	長円形	1.42	0.98	0.17	
53	420	257	不整長円形	2.07	0.89	0.17	
54	421	254	不整長円形	2.34	0.63	0.56	
55	427	277	不整長円形	0.98	0.94	0.16	
56	399	272	不整長円形	0.48	0.28	0.15	1掘立
57	399	273	円形	0.35	0.32	0.18	
58	399	270	円形	0.43	0.43	0.2	1掘立
59	366	249	円形	0.46	0.44	0.31	60土
60	366	248	不整長円形	1.32	0.77	0.22	59土
61	350	249	長円形か	1.04	0.73	0.24	
62	390	270	長円形か	(2.30)	(0.60)	0.29	3号溝、19土
63	341	247	長円形	1.53	1.34	0.32	
64	396	268	円形	0.36	0.33	0.32	1掘立
65	399	268	円形	0.34	0.32	0.24	1掘立
66	396	272	円形	0.40	0.35	0.24	1掘立
67	396	270	円形	0.42	0.39	0.2	1掘立
68	394	268	長円形	0.64	0.42	0.11	

第3節 西野原遺跡(7) — 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
69	393	272	円形	0.41	0.37	0.27	1 掘立
70	394	274	円形	0.39	0.33	0.36	
71	392	275	円形	0.67	0.60	0.39	
72	394	276	円形	0.38	0.34	0.38	
73	390	274	長円形	0.31	0.26	0.27	
74	391	277	長円形	0.32	0.24	0.3	
75	393	278	長円形か	(0.69)	(0.60)	0.24	
76	392	278	不整長円形	0.66	0.23	0.12	
77	391	279	不整長円形	1.05	0.41	0.28	
78	402	272	円形	0.35	0.30	0.17	1 掘立
79	394	267	不整長円形	0.48	0.32	0.44	80土
80	394	266	長円形か	(0.70)	(0.55)	0.47	79土・80土
81	394	266	長円形か	(0.69)	(0.47)	0.2	80土
82	289	271	不整長円形か	(1.47)	(0.91)	0.29	
83	353	246	不整長円形	0.89	0.53	0.18	
84	393	277	円形	0.29	0.26	0.23	
85	391	278	長円形	0.72	0.45	0.34	86土
86	391	277	長円形	0.52	(0.47)	0.15	85土
87	402	268	円形	0.34	0.31	0.34	1 掘立
88	364	261	不整円形か	0.78	0.15	0.12	2号住居
89	366	262	長円形	0.42	0.35	0.26	
90	368	262	円形	0.50	0.48	0.2	97土・98土
91	362	261	円形	0.22	0.22	0.16	
92	385	273	長円形	0.46	0.29	0.2	
93	353	252	長円形か	(0.94)	0.94	0.25	
94	401	273	長円形	(0.12)	0.11	0.29	95土
95	406	274	不整長円形	(1.45)	1.11	0.41	94土
96	369	263	不整長円形か	0.34	0.25	0.4	
97	368	263	長円形か	0.55	(0.43)	0.23	90土
98	368	262	長円形か	(0.62)	(0.47)	0.2	90土
99	420	279	円形	0.29	0.25	0.13	
100	421	279	長円形	0.30	0.23	0.2	
101	421	279	円形	0.24	0.23	0.22	
102	422	279	円形	0.30	0.30	0.12	
103	422	279	円形	0.21	0.20	0.1	
104	422	279	円形	0.39	0.35	0.33	
105	423	279	円形	0.40	0.39	0.27	
106	423	278	円形	0.21	0.18	0.18	
107	420	277	円形	0.36	0.33	0.16	
108	422	277	長円形	0.57	0.37	0.25	19 掘立
109	422	277	円形	0.40	0.37	0.28	
110	421	276	円形	0.38	0.36	0.25	
111	421	276	円形	0.24	0.23	0.14	
112	421	276	円形	0.35	0.28	0.17	
113	421	276	円形	0.21	0.21	0.09	
114	419	290	長円形	0.44	0.35	0.29	2 掘立
115	420	288	長円形	0.32	0.23	0.33	2 掘立、203土
116	422	291	長円形	0.43	0.36	0.38	2 掘立
117	422	288	円形	0.40	0.36	0.36	2 掘立
118	424	294	円形	0.35	0.36	0.35	2 掘立
119	424	291	長円形	0.43	0.35	0.31	2 掘立
120	425	289	長円形か	(0.49)	(0.33)	0.35	121・125土
121	425	289	長円形か	(0.43)	(0.38)	0.34	2 掘立、120土
122	420	284	長円形	0.36	0.22	0.65	
123	422	284	円形	0.35	0.34	0.32	
124	422	282	円形	0.56	0.51	0.31	
125	422	281	円形	0.35	0.34	0.25	
126	423	282	長円形	0.50	0.42	0.34	
127	423	281	円形	0.26	0.25	0.18	
128	423	286	長円形か	(0.37)	0.31	0.35	199土
129	421	289	円形	0.92	0.90	0.15	
130	430	296	長円形	1.44	0.96	0.2	
131	428	296	隅丸正方形	1.70	(1.04)	0.13	275土
132	429	292	不整長円形	1.14	(0.87)	0.34	182土
133	427	288	円形	0.26	0.25	0.23	
134	429	288	円形	0.41	0.38	0.28	
135	427	294	円形	0.29	0.27	0.22	20 掘立
136	427	292	不整円形	0.24	0.23	0.3	20 掘立
137	427	282	円形	0.30	0.26	0.13	
138	427	280	長円形	0.27	0.23	0.12	
139	426	281	円形	0.17	0.11	0.04	
140	426	280	円形	0.17	0.16	0.07	
141	426	279	不整長円形	0.27	0.21	0.15	
142	425	278	円形	0.18	0.16	0.03	
143	425	277	長円形	0.47	0.35	0.3	19 掘立
144	429	277	円形	0.47	0.45	0.37	
145	429	276	不整円形	0.37	0.37	0.23	
146	419	284	円形	0.24	0.20	0.33	
147	420	281	長円形か	0.31	0.20	0.23	209土
148	424	264	不整円形	0.35	0.30	0.06	
149	423	263	円形	0.29	0.28	0.11	
150	426	262	円形	0.31	0.31	0.23	
151	427	260	円形	0.22	0.21	0.11	
152	420	258	長円形か	0.49	(0.43)	0.18	225土
153	421	291	長円形	0.98	0.60	0.32	
154	418	290	円形	0.26	0.25	0.21	2 掘立
155	422	284	長円形	0.91	0.45	0.09	
156	420	297	円形	0.24	0.22	0.24	
157	425	289	長円形か	(0.40)	(0.29)	0.33	120土
158	425	287	円形	0.51	0.49	0.3	
159	422	282	円形	0.18	0.16	0.07	
160	428	277	不整円形	0.31	0.20	0.26	19 掘立
161	416	282	円形	0.66	0.59	0.27	
162	417	282	長円形	0.74	0.56	0.25	
163	419	288	円形	0.26	0.24	0.16	2 掘立
164	417	283	円形	0.26	0.22	0.23	1 掘立、26土
165	417	284	円形	0.24	0.20	0.16	2 掘立
166	419	284	円形	0.29	0.25	0.31	2 掘立
167	421	295	長円形	0.24	0.21	0.16	2 掘立
168	423	295	長円形	0.36	0.30	0.18	2 掘立
169	425	295	長円形	0.41	0.40	0.07	
170	425	294	長円形	0.35	0.25	0.12	
171	425	291	不整円形	0.37	0.34	0.17	
172	426	289	円形	0.11	0.09	0.13	
173	428	288	円形	0.25	0.24	0.09	
174	425	286	円形	0.38	0.35	0.31	2 掘立
175	423	286	円形	0.40	0.38	0.28	2 掘立
176	421	284	円形	0.22	0.22	0.13	2 掘立
177	419	284	円形	0.21	0.20	0.07	2 掘立
178	422	283	円形	0.22	0.21	0.12	
179	421	281	円形	0.24	0.22	0.16	
180	423	282	円形	0.23	0.23	0.2	
181	423	280	円形	0.23	0.21	0.13	
182	423	281	円形	0.19	0.19	0.22	
183	422	280	円形	0.43	0.39	0.34	19 掘立
184	421	280	円形	0.24	0.22	0.28	
185	420	280	円形	0.44	0.38	0.22	
186	418	280	円形	0.25	0.25	0.21	

第6章 土 坑

番号	位置		形状	規 格			備 考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
187	418	280	円形	0.25	0.25	0.16	37土
188	427	287	円形	0.31	0.28	0.23	
189	426	285	円形	0.22	0.19	0.81	2 観立
190	425	291	長円形	0.28	0.24	0.13	
191	425	277	長円形	0.52	0.37	0.12	19 観立
192	429	292	長円形	0.33	0.19	0.27	20 観、132土
193	427	276	円形	0.24	0.23	0.18	
194	423	277	円形	0.23	0.21	0.21	
195	429	280	円形	0.90	0.87	0.23	
196	426	276	不整形円形	0.75	0.59	0.2	
197	426	273	円形	0.25	0.24	0.25	
198	428	275	長円形	0.54	0.47	0.3	222土
199	423	286	長円形	0.35	0.29	0.34	128土
200	423	271	円形	0.30	0.29	0.31	
201	423	271	円形	0.30	0.29	0.3	
202	422	271	長円形	0.64	0.56	0.32	
203	420	288	長円形少	0.32	0.23	0.32	115土
204	423	284	長円形	0.27	0.21	0.21	2 観立
205	422	258	円形	0.29	0.27	0.22	
206	422	258	円形	0.25	0.24	0.18	
207	424	280	不整形長円形	0.54	0.39	0.23	224土
208	425	281	長円形	0.39	0.31	0.18	224土
209	420	281	長円形少	0.34	0.27	0.22	147土
210	424	289	長円形	0.57	0.50	0.21	
211	427	284	不整形円形	0.50	0.26	0.17	
212	421	263	長円形少	0.79	0.66	0.25	229土
213	421	264	長円形少	1.37	0.53	0.23	230土
214	426	291	円形	0.26	0.25	0.12	
215	427	263	長円形少	(0.41)	0.40	0.21	233土
216	426	263	不整形円形	0.30	0.29	0.2	
217	422	290	長円形	0.37	0.24	0.28	
218	423	291	長円形	0.27	0.22	0.21	
219	423	291	円形	0.29	0.27	0.25	
220	422	291	円形	0.28	0.27	0.24	
221	417	272	不整形長円形	0.29	0.20	0.15	251土
222	428	275	円形少	0.46	(0.38)	0.3	198・231土
223	428	278	長円形	0.97	0.66	0.25	
224	424	280	長円形少	(0.74)	(0.56)	0.17	196、207土
225	420	257	円形少	(0.49)	0.49	0.21	152・236土
226	420	257	円形	0.31	0.30	0.16	225土
227	426	259	円形	0.26	0.24	0.1	
228	427	259	不整形長円形	0.76	0.70	0.24	
229	421	263	円形	0.29	0.28	0.15	212土
230	421	264	長円形	0.34	0.27	0.18	213土
231	428	275	長円形少	0.50	(0.45)	0.28	222土
232	426	276	円形	0.20	0.19	0.09	
233	427	263	不整形長円形	0.32	0.20	0.18	215土
234	416	277	円形	0.40	0.36	0.21	
235	420	278	円形	0.22	0.21	0.15	
236	420	278	円形	0.24	0.22	0.14	237土
237	420	278	長円形少	0.37	(0.24)	0.14	236土
238	418	271	円形	0.39	0.39	0.16	
239	419	277	長円形	0.50	0.46	0.22	
240	417	277	円形	0.45	0.37	0.24	
241	417	276	円形	0.30	0.29	0.11	
242	419	276	円形	0.33	0.30	0.32	
243	416	277	円形	0.29	0.27	0.14	
244	415	281	円形	0.62	0.60	0.15	
245	416	281	長円形	0.52	0.46	0.23	
246	418	274	円形	0.33	0.31	0.1	
247	418	273	長円形	0.49	0.38	0.14	
248	416	275	円形	0.37	0.33	0.18	
249	416	275	円形	0.36	0.34	0.28	
250	416	274	長円形	0.60	0.49	0.36	
251	417	282	長円形	0.31	0.25	0.11	221土
252	416	271	不明	0.53	0.29	0.1	
253	425	273	不整形長円形	1.19	0.80	0.26	
254	425	275	長円形	0.31	0.26	0.12	
255	425	275	円形	0.21	0.19	0.11	
256	421	257	円形	0.27	0.26	0.2	
257	420	256	円形	0.21	0.20	0.12	
258	423	273	円形	0.33	0.30	0.32	
259	414	270	円形	0.32	0.31	0.11	
260	423	290	円形	0.25	0.23	0.11	
261	423	289	円形	0.21	0.17	0.18	
262	421	252	円形	0.75	0.69	0.31	
263	422	251	円形	0.32	0.26	0.18	
264	418	283	円形	0.47	0.47	0.24	
265	416	281	不整形長円形	0.53	0.25	0.17	
266	418	275	長円形	0.31	0.26	0.21	
267	418	275	長円形	0.53	0.36	0.2	
268	418	270	円形	0.34	0.32	0.19	
269	428	285	不整形長円形	0.40	0.23	0.06	
270	427	281	不整形円形	0.36	0.34	0.28	19 観立
271	428	281	円形	0.37	0.36	0.22	
272	429	294	長円形	0.29	0.21	0.2	20 観立
273	428	301	長円形	0.53	0.45	0.21	
274	427	297	円形	0.49	0.45	0.16	
275	428	297	円形	0.39	0.31	0.08	131土
276	428	276	円形	0.80	0.76	0.27	
277	350	254	円形	0.26	0.26	0.11	
278	381	249	円形	0.37	0.34	0.21	
279	380	248	円形	0.24	0.23	0.12	
280	406	282	不整形長円形	0.91	0.68	0.28	
281							
282	396	265	円形	0.21	0.21	0.24	
283	401	276	円形	0.68	0.67	0.34	
284	393	268	円形	0.43	0.40	0.31	1 観立
285	406	268	円形	0.92	0.88	0.24	
286	406	266	不整形円形	0.40	0.37	0.13	
287	405	265	不整形長円形	0.89	0.64	0.24	
288	410	268	不整形長円形	0.78	0.50	0.27	
289	408	269	不整形長円形	1.12	0.79	0.2	
290	409	270	不整形長円形	0.51	0.44	0.13	
291	404	266	不整形長円形	0.57	0.54	0.17	
292	411	266	不整形長円形	0.51	0.37	0.15	
293	349	255	円形	0.33	0.29	0.27	
294	395	284	不整形円形	(0.84)	0.79	0.33	14号墳
295	437	258	円形	1.16	1.14	0.14	
296	435	253	不整形長円形	0.59	0.49	0.15	
297	435	254	長円形	0.57	0.32	0.17	
298	435	264	長円形	1.29	1.18	0.09	
299	430	254	円形	0.74	0.70	0.22	
300	430	256	円形	0.60	0.55	0.21	
301	430	256	不整形長円形	0.42	0.36	0.21	
302	429	257	不整形長円形	(0.73)	(0.63)	0.2	303土
303	430	257	不整形円形	0.51	0.51	0.14	302土
304	430	258	不整形円形	0.50	0.48	0.12	

第3節 西野原遺跡(7) — 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
305	430	239	不整長円形	1.25	1.07	0.25	
306	431	239	不整長円形	1.33	1.19	0.18	
307	431	261	不整長円形	0.70	0.45	0.19	
308	432	261	長円形	1.14	1.06	0.19	
309	434	261	長円形	0.95	0.75	0.74	
310	434	262	不整円形	0.73	0.72	0.21	
311	433	265	長円形	0.44	0.38	0.17	
312	437	266	円形	1.27	1.26	0.23	
313	438	266	不整長円形	1.59	1.12	0.23	
314	438	267	長円形	0.87	0.66	0.21	
315	438	268	不整長円形	0.57	0.45	0.15	
316	439	267	長円形	1.15	1.10	0.16	
317	436	270	長円形	0.30	0.21	0.29	
318	442	289	不整円形	0.56	0.56	0.13	
319	444	270	不整長円形	0.71	0.47	0.15	
320	430	273	長円形△	(1.13)	1.06	0.37	1号竪穴
321	438	269	不整長円形	2.73	0.66	0.07	25・26溝
322	434	280	円形	0.95	0.90	0.18	
323	435	281	円形	1.12	0.97	0.12	
324	437	280	円形	0.98	0.94	0.21	
325	439	281	不整円形	0.10	0.99	0.24	
326	437	282	円形	0.94	0.90	0.17	
327	436	283	不整長円形	0.68	0.55	0.26	
328	437	285	円形	0.90	0.89	0.23	
329	437	284	不整長円形	0.74	0.60	0.19	
330	440	284	不整円形	0.76	0.71	0.14	
331	442	266	不整長円形	1.32	0.74	0.21	
332	441	279	不整長円形	1.40	1.06	0.31	
333	435	284	円形	0.70	0.66	0.3	
334	442	282	不整長円形	0.71	0.60	0.13	
335	442	282	不整長円形	0.63	0.55	0.13	
336	443	280	不整長円形	1.05	0.83	0.25	
337	442	284	長円形	1.02	0.76	0.22	
338	440	288	円形	0.75	0.71	0.28	
339	434	285	不整長円形	0.75	0.61	0.18	
340	439	289	不整長円形	0.91	0.73	0.24	
341	441	278	長円形	0.90	0.76	0.44	
342	446	271	不整長円形	0.77	0.67	0.17	
343	447	270	不整長円形	0.96	0.69	0.22	
344	444	277	不整長円形	0.48	0.30	0.19	
345	444	277	長円形	0.72	0.53	0.16	
346	440	283	円形	0.24	0.24	0.14	
347	444	279	不整円形	0.95	0.90	0.18	
348	441	289	不整長円形	0.77	0.61	0.22	
349	443	284	不整円形	0.50	0.49	0.38	
350	443	286	円形	0.40	0.37	0.24	
351	442	286	長円形△	1.03	0.67	0.22	
352	438	282	不整長円形	1.57	1.19	0.26	
353	441	283	長円形	0.61	0.55	0.12	
354	429	291	円形	0.52	0.50	0.15	
355	444	286	円形	0.34	0.31	0.15	
356	438	286	不整長円形	0.70	0.60	0.1	
357	432	295	不整長円形	0.84	0.64	0.3	
358	431	292	円形	0.29	0.22	0.21	
359	433	296	不整長円形	0.37	0.24	0.08	
360	434	296	円形	0.71	0.31	0.13	
361	433	297	長円形	0.80	0.54	0.07	
362	432	296	不整長円形	0.85	0.45	0.1	
363	432	297	長円形	0.86	0.69	0.45	
364	433	299	長円形	0.46	0.36	0.12	
365	433	300	不整円形	0.96	0.95	0.32	
366	435	297	不整長円形	0.82	0.59	0.16	
367	439	302	円形	0.29	0.28	0.08	
368	435	299	長円形	0.65	0.54	0.21	
369	436	298	長円形	0.71	0.45	0.23	
370	436	299	不整長円形	0.80	0.53	0.19	
371	438	301	円形	0.92	0.87	0.14	
372	441	305	円形	0.83	0.79	0.23	
373	445	296	不整円形	0.48	0.47	0.3	
374	443	294	不整長円形	0.54	0.46	0.15	
375	443	305	円形	0.82	0.79	0.22	
376	440	304	不整長円形	0.55	0.48	0.13	
377	442	304	不整長円形	0.42	0.35	0.12	
378	439	299	長円形	1.45	1.21	0.41	
379	432	301	長円形	0.41	0.35	0.21	
380	438	304	不整円形	0.30	0.25	0.11	
381	442	295	不整円形	0.56	0.53	0.09	
382	432	298	長円形	0.54	0.25	0.14	
383	445	298	円形	0.46	0.43	0.39	
384	440	291	長円形	0.35	0.21	0.1	
385	431	294	円形	0.23	0.21	0.23	20竪立
386	441	264	円形	0.69	0.64	0.11	
387	448	293	不整長円形	0.44	0.20	0.2	
388	449	257	長円形	0.37	0.29	0.18	
389	440	301	円形	0.43	0.41	0.08	
390	435	279	長円形	1.21	0.93	0.3	
391	435	278	不整長円形	2.31	1.36	0.16	390土
392	440	265	長円形	1.14	0.94	0.27	386・406土
393	451	258	不整長円形	0.25	0.15	0.13	
394	447	259	不整円形	0.16	0.16	0.19	
395	449	260	不整長円形	0.21	0.15	0.12	21竪立
396	447	261	円形	0.17	0.17	0.03	21竪立
397	450	261	不整長円形	0.36	0.29	0.34	21竪立
398	448	262	長円形	0.35	0.29	0.16	21竪立
399	447	262	不整長円形	0.26	0.15	0.17	21竪立
400	451	263	円形	0.19	0.17	0.16	21竪立
401	450	264	不整長円形	0.36	0.20	0.34	
402	449	264	不整長円形	0.29	0.20	0.24	21竪立
403	448	264	長円形	0.29	0.23	0.18	21竪立
404	451	260	不整長円形	0.49	0.26	0.24	21竪立
405	440	266	円形	0.73	0.72	0.23	406土
406	440	265	長円形△	1.96	(1.50)	0.24	386・392土
407	439	277	長円形	1.44	0.90	0.11	
408	431	298	円形	0.84	0.81	0.3	
409	431	301	長円形	1.14	0.87	0.48	
410	433	302	長円形△	0.89	0.71	0.44	
411	434	301	円形	0.41	0.36	0.07	412土
412	434	301	円形	(0.35)	0.33	0.13	411土
413	431	300	円形	0.42	0.40	0.19	
414	464	284	円形	0.48	0.48	0.11	
415	477	288	長円形	0.51	0.44	0.2	
416	467	283	不整円形	0.43	0.43	0.36	
417	466	284	不整長円形	0.65	0.65	0.25	
418	461	287	不整長円形	2.53	1.80	0.11	
419	467	284	不整長円形	1.21	0.44	0.19	
420	463	289	不整長円形	0.19	0.10	0.07	
421	463	288	不整長円形	0.50	0.44	0.12	
422	461	289	長円形	0.50	0.47	0.21	

第6章 土 坑

序号	位置		形状	规格			备 考	序号	位置		形状	规格			备 考
	X轴	Y轴		长(m)	短片(m)	深度(m)			X轴	Y轴		长(m)	短片(m)	深度(m)	
423	461	290	不整形	0.36	0.33	0.03		481	456	300	不整形	0.24	0.20	0.17	
424	462	292	不整形	0.69	0.48	0.23		482	454	302	不整形	0.20	0.20	0.16	
425	468	286	不整形	0.57	0.44	0.19		483	454	305	不整形	0.53	0.48	0.21	
426	464	290	不整形	0.36	0.36	0.09		484	465	304	不整形	0.42	0.40	0.38	17孤立
427	467	289	不整形	0.55	0.32	0.1		485	468	304	内形	0.27	0.25	0.24	
428	469	280	不整形	0.72	0.41	0.26		486	465	300	内形	0.34	0.27	0.25	17孤立
429	467	277	不整形	0.91	0.88	0.09		487	465	300	内形	0.34	0.30	0.32	22孤立
430	468	283	长片形	(0.60)	0.59	0.14	431土	488	465	301	内形	0.61	0.49	0.39	17孤立
431	468	283	不整形	0.64	0.54	0.42	430土	489	464	301	不整形	0.27	0.23	0.27	
432	460	284	不整形	(0.60)	0.46	0.22		490	464	299	内形	0.20	0.20	0.1	
433	463	303	内形	0.99	0.62	0.4	17孤立	491	482	314	内形	1.35	(1.18)	0.25	492土
434	452	293	不整形	0.41	0.39	0.05		492	482	313	内形	0.30	(0.29)	0.37	491·493土
435	453	292	内形	0.41	0.39	0.05		493	481	312	长片形	(1.13)	1.04	0.17	492土
436	454	291	不整形	0.62	0.29	0.17		494	482	316	内形	1.20	1.19	0.21	
437	456	291	不整形	0.28	0.21	0.06		495	484	316	不整形	1.71	1.18	0.14	
438	450	297	不整形	0.22	0.21	0.09		496	486	316	不整形	2.51	1.17	0.23	
439	472	303	不整形	1.41	0.93	0.3		497	482	318	内形	1.12	1.10	0.18	498土
440	469	306	内形	0.55	0.52	0.11		498	483	319	内形	(3.11)	2.04	0.07	497土、溝
441	166	306	不整形	1.46	0.57	0.58		499	480	300	不整形	2.40	1.14	0.13	522土
441b	465	306	长片形	(0.76)	(0.25)	0.27		500	477	327	圆孔正方形	0.86	0.81	0.04	
442	163	304	内形	0.53	0.39	0.19		501	485	304	不整形	2.90	1.05	0.26	311·528土
443	465	303	不整形	0.90	0.62	0.22	22孤立	502	477	299	内形	0.90	0.60	0.2	
444	460	304	不明	1.37	不明	0.34	445土	503	477	297	内形	0.75	0.73	0.11	
445	461	302	长片形	2.15	1.39	0.32	444土	504	482	307	不整形	0.70	0.33	0.26	
446	460	301	内形	1.29	0.11	0.15	640土	505	482	308	不整形	2.10	0.92	0.48	
447	461	316	内形	0.85	0.83	0.22		506	476	299	内形	0.57	0.47	0.12	
448	475	309	内形	1.03	0.72	0.33		507	487	311	内形	0.53	0.49	0.1	
449	476	306	内形	(1.16)	(1.16)	0.11	450土	508	493	322	内形	1.44	1.00	0.4	
450	476	307	内形	1.22	1.09	0.32	449土	509	487	297	内形	0.96	0.74	0.12	
451	473	300	不整形	0.42	0.30	0.15		510	468	321	内形	0.84	0.46	0.4	
452	472	311	不整形	0.65	0.43	0.57		511	485	304	内形	0.54	0.49	0.23	511土
453	463	305	内形	0.74	0.56	0.09		512	479	298	内形	0.23	0.19	0.09	
454	467	306	不整形	0.99	0.60	0.28		513	479	297	内形	0.70	0.50	0.31	
455	467	303	内形	0.29	0.27	0.3	22孤立	514	481	296	不整形	0.89	0.65	0.23	
456	469	308	内形	0.51	0.43	0.23		515	483	296	内形	0.31	0.25	0.09	516土
457	469	308	内形	0.73	0.55	0.26		516	483	296	不整形	0.77	0.54	0.23	515土
458	463	304	内形	0.60	0.45	0.32		517	479	296	不整形	0.58	0.57	0.1	
459	463	302	内形	0.67	0.56	0.27		518	492	294	内形	0.77	0.63	0.2	
460	463	302	内形	0.88	0.65	0.37		519	494	298	内形	0.64	0.62	0.24	
461	465	301	内形	0.67	0.46	0.21		520	481	301	内形	0.37	0.28	0.12	7孤立
462	463	301	内形	0.58	0.35	0.35	17孤立	521	480	301	内形	(0.36)	(0.35)	0.22	522土
463	462	300	内形	0.35	0.25	0.34		522	480	301	内形	(0.40)	(0.26)	0.22	521·489土
464	463	299	内形	0.28	0.24	0.28	17孤立	523	480	297	内形	0.40	0.40	0.26	
465	467	312	不整形	0.40	0.35	0.24		524	478	299	内形	0.38	0.34	0.13	
466	461	300	内形	0.34	0.22	0.18		525	475	300	内形	0.54	0.50	0.14	
467	460	301	内形	0.45	0.44	0.43	17孤立	526	476	300	内形	0.54	0.39	0.26	
468	467	300	不整形	0.30	0.28	0.15	22孤立	527	480	306	不整形	0.34	0.25	0.14	
469	459	304	内形	0.31	0.30	0.18		528	485	306	内形	0.29	0.28	0.12	501土
470	459	303	内形	0.36	0.30	0.12		529	486	304	不整形	0.91	0.65	0.31	
471	476	308	内形	1.21	1.09	0.23		530	481	305	不整形	(0.65)	(0.50)	0.19	531土
472	455	297	不整形	0.20	0.15	0.07		531	481	305	不明	(0.40)	(0.20)	0.16	530土
473	490	320	内形	0.52	0.35	0.24		532	489	303	内形	0.40	0.39	0.19	12孤立
474	458	313	不整形	0.36	0.29	0.25		533	481	287	内形	0.85	0.78	0.16	
475	457	314	内形	0.34	0.25	0.32		534	479	287	不整形	0.95	0.95	0.23	10孤立
476	456	313	内形	0.32	0.29	1.01		535	482	286	内形	0.78	0.77	0.17	
477	455	309	内形	0.94	0.18	0.18	22溝	536	482	284	内形	0.92	0.88	0.13	
478	492	320	不整形	0.42	0.22	0.2		537	481	283	内形	1.10	0.98	0.15	
479	490	322	内形	0.70	0.36	0.31		538	478	285	内形	1.55	1.06	0.32	
480	460	303	内形	0.33	0.22	0.14	22孤立	539	474	285	不整形	2.40	0.77	0.21	

第3節 西野原遺跡(7) — 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考	番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)			X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
540	476	282	不整形円形	0.90	0.64	0.25	7 竪立	599	476	287	長円形	0.65	0.45	0.17	7・18竪立 501土
541	475	280	不整形長円形	1.35	0.88	0.3		600	474	301	長円形	0.31	0.23	0.21	
542	472	284	長円形	0.66	0.50	0.15		601	485	287	長円形	1.06	0.61	0.21	
543	481	300	長円形	0.66	0.44	0.17		602	490	299	長円形	0.91	0.57	0.23	
544	481	299	長円形	0.40	0.30	0.22		603	488	298	長円形	0.35	0.24	0.15	
545	483	291	不整形長円形	1.03	0.74	0.12		604	488	304	円形	0.32	0.30	0.34	
546	486	290	長円形	1.15	0.89	0.17		605	485	304	円形か	0.33	0.30	0.49	
547	487	288	長円形	0.90	0.80	0.16		606	491	274	不整形長円形	1.70	1.20	0.25	
548	481	291	円形	0.49	0.48	0.11		607	491	276	円形	1.09	1.07	0.26	
549	473	281	円形	0.70	0.65	0.1		608	488	278	円形	0.25	0.24	0.21	
550	479	277	不整形長円形	1.27	0.85	0.13	609	496	282	長円形	0.79	0.59	0.19		
551							穴蓋	610	496	280	長円形	0.46	0.36	0.14	
552	472	278	不整形長円形	0.92	0.71	0.07		611	497	280	円形	0.56	0.53	0.21	
553	476	288	長円形	0.65	0.52	0.24		612	495	284	不整形円形	0.38	0.37	0.16	
554	467	301	長円形	0.64	0.50	0.29		613	495	285	不整形円形	0.37	0.34	0.22	
555	466	299	円形	0.35	0.35	0.19		614	495	286	円形	0.47	0.45	0.22	
556	460	299	円形	0.26	0.22	0.12		615	491	286	円形	0.40	0.34	0.33	
557	462	297	円形	0.97	0.92	0.31		616	491	286	不整形長円形か	0.99	0.62	0.33	
558	461	293	長円形か	(1.49)	(0.83)	0.09		617	491	285	不整形長円形	0.74	0.60	0.23	
559	487	305	不明	(0.50)	(0.23)	0.21		618	488	284	円形	0.35	0.30	0.15	
560	487	303	円形	0.38	0.27	0.34		619	495	288	長円形	1.82	1.16	0.27	
561	487	300	円形	0.33	0.32	0.16	620	495	291	円形	0.62	0.62	0.2		
562	489	301	長円形	0.55	0.38	0.16	621	496	283	長円形	0.34	0.29	0.25		
563	490	301	長円形	0.67	0.25	0.28	12竪立	622	483	280	長円形	0.42	0.32	0.12	
564	490	301	長円形	0.32	0.23	0.17		623	491	292	不整形長円形	0.47	0.24	0.08	
565	492	310	長円形	0.50	0.42	0.22		624	486	297	円形	0.33	0.31	0.15	
566	493	308	円形	0.31	0.30	0.18		625	491	301	長円形	0.30	0.24	0.18	
567	489	304	円形	0.50	0.35	0.31		626	485	286	円形	0.35	0.35	0.12	
568	490	304	円形か	0.25	(0.20)	0.1		627	493	334	不整形長円形	0.84	0.41	0.29	
569	490	304	不整形長円形	0.61	0.33	0.3		628	479	489	長円形	0.63	0.41	0.24	
570	481	294	長円形	0.71	0.50	0.26		629	479	289	不整形長円形	0.91	0.59	0.29	
571	490	304	長円形	0.31	0.25	0.23		630	478	288	不整形長円形	0.96	0.54	0.19	
572	490	308	円形	0.26	0.24	0.22		631	476	279	長円形	0.66	0.50	0.18	
573	491	309	円形	0.28	0.22	0.15	632	489	297	不整形長円形	0.62	0.52	0.36		
574	489	313	円形	0.35	0.35	0.2	633	496	270	長円形	1.32	1.26	0.28		
575	480	269	長円形	0.37	0.34	0.25	634	496	268	長円形	1.31	1.24	1.07		
576	490	294	円形	0.40	0.36	0.17	635	457	291	長円形	0.75	0.55	0.14		
577	488	304	不整形円形	0.71	0.69	0.36	636	465	307	円形	0.34	0.33	0.41		
578	487	305	不整形長円形	0.84	0.53	0.33	637	465	306	円形	0.59	0.54	0.34		
579	490	293	不整形長円形	0.51	0.44	0.23	638	462	307	円形	0.44	0.43	0.62		
580	470	279	長円形	0.42	0.38	0.25	25竪立、583土	639	462	306	円形	0.25	0.24	0.12	
581	470	279	円形	0.36	0.35	0.17		640	460	306	長円形か	0.46	(0.30)	0.45	
582	471	280	円形	0.30	0.29	0.09	25竪立	641	460	305	円形	0.52	0.47	0.11	
583	470	278	偶丸正方形	0.31	0.30	0.27		642	453	263	円形	0.27	0.26	0.11	
584	470	277	長円形	0.35	0.25	0.21		643	453	262	長円形	0.35	0.26	0.19	
585	486	284	長円形	0.97	0.56	0.16		644	488	308	円形	0.30	0.26	0.19	
586	490	289	長円形	1.20	0.84	0.22		645	488	307	円形	0.21	0.22	0.29	
587	493	289	円形	0.70	0.57	0.23		646	488	306	円形	0.27	0.25	0.22	
588	493	290	長円形	0.41	0.34	0.21		647	488	305	円形	0.30	0.25	0.23	
589	494	289	円形	0.29	0.28	0.23		648	439	306	長円形	0.49	0.36	0.32	
590	495	290	長円形	0.38	0.30	0.26		649	439	307	不整形長円形	0.50	0.38	0.41	
591	479	292	円形	0.49	0.46	0.19		650	491	306	円形	0.97	0.57	0.19	
592	478	291	長円形	0.51	0.27	0.1	651	491	306	長円形	0.69	0.48	0.39		
593	491	303	不整形長円形	0.75	0.27	0.27	652	491	305	長円形	0.34	0.29	0.47		
594	481	295	円形	0.31	0.26	0.15	653	490	306	円形	0.33	0.28	0.43		
595	481	296	不整形長円形	0.31	0.22	0.13	654	490	305	円形	0.28	0.26	0.17		
596	496	286	長円形	0.34	0.26	0.11	655	492	307	不整形長円形	0.90	0.63	0.34		
597	495	287	長円形	0.62	0.50	0.1	656	490	307	長円形	0.36	0.25	0.5		
598	490	304	長円形	0.49	0.39	0.27	568土	657	493	206	不整形長円形	0.36	0.30	0.37	

第6章 土 坑

序号	位置		形状	规格			备 考	序号	位置		形状	规格			备 考
	X轴	Y轴		长(m)	短片(m)	深度(m)			X轴	Y轴		长(m)	短片(m)	深度(m)	
658	493	305	不规则形	0.40	0.40	0.24	18组立	717	462	304	不明	(0.32)	(0.25)	0.13	458土
659	492	305	凹形	0.29	0.29	0.17		718	466	307	凹形	0.23	0.21	0.28	684・724土
660	486	305	凹形	0.49	0.37	0.2		719	464	302	凹形	0.49	0.49	0.16	10组立
661	474	299	凹形	0.24	0.24	0.18		720	464	300	凹形	0.30	0.21	0.15	
662	473	299	凹形	0.45	0.40	0.12		721	487	291	凹形	0.62	0.50	0.16	
663	471	297	凹形	0.32	0.26	0.11		722	488	289	凹形	0.57	0.46	0.15	
664	470	297	凹形	0.32	0.23	0.27		723	491	287	凹形	0.57	0.57	0.2	
665	494	270	凹形	0.41	0.31	0.12		724	455	287	凹形	0.42	0.42	0.15	725土
666	491	263	凹形	0.50	0.46	0.18		725	455	286	凹形	1.46	(0.67)	0.17	684・724土
667	493	267	不规则形	0.60	0.51	0.16		726	484	288	凹形	0.45	0.40	0.08	10组立
668	493	267	凹形	0.40	0.31	0.13		727	496	271	凹形	0.34	0.34	0.11	
669	494	266	凹形	0.46	0.40	0.13		728	460	320	凹形	(1.04)	(0.50)	1.59	
670	491	268	凹形	0.63	0.40	0.16		729	465	304	凹形	0.79	0.75	0.16	
671	491	267	凹形	0.64	0.56	0.1		730	492	280	凹形	0.85	0.84	0.32	692・733土
672	492	266	凹形	0.45	0.50	0.18		731	469	270	凹形	0.77	0.73	0.16	
673	492	265	凹形	0.63	0.54	0.12		732	497	270	不规则形	2.00	1.40	0.17	
674	493	265	凹形	0.70	0.66	0.2		733	491	280	凹形	(0.68)	(0.63)	0.18	
675	493	264	凹形	0.36	0.27	0.06		734	468	282	凹形	0.63	0.40	0.22	24组立
676	492	264	凹形	0.76	0.55	0.22	735	467	282	凹形	0.95	0.79	0.38		
677	490	266	凹形	0.92	0.54	0.22	736	467	282	凹形	0.53	0.39	0.18		
678	488	266	凹形	0.39	0.28	0.11	737	481	283	凹形	1.10	0.96	0.15	23组立	
679	489	266	凹形	0.83	0.57	0.16	738	466	281	凹形	0.44	0.41	0.09		
680	480	333	凹形	(0.52)	(0.18)	0.17	739	466	281	凹形	0.49	0.42	0.18		
681	482	334	凹形	0.50	0.33	0.19	740	451	292	凹形	0.38	0.21	0.12	10号住居	
682	472	289	不规则形	0.48	0.20	0.19	741	451	292	凹形	0.49	0.45	0.13	10号住居	
683	453	286	凹形	0.38	0.35	0.19	742	451	291	凹形	0.48	0.47	0.2	10号住居	
684	455	286	凹形	(0.75)	0.56	0.49	743	451	294	不规则形	0.72	0.34	0.28	10号住居	
685	457	280	凹形	0.56	0.46	0.23	744	452	294	凹形	0.31	0.25	0.16	10号住居	
686	491	277	凹形	0.37	0.36	0.11	745	452	294	凹形	0.41	0.35	0.16	10号住居	
687	493	493	凹形	0.40	0.39	0.09	746	468	278	凹形	0.35	0.34	0.15	24组立	
688	451	288	凹形	0.49	0.26	0.11	747	468	277	凹形	0.32	0.30	0.06		
689	452	294	凹形	0.28	0.26	0.11	748	468	277	凹形	0.36	0.35	0.09	25组立	
690	495	283	凹形	0.54	0.34	0.18	749	465	276	凹形	0.45	0.37	0.1	23组立	
691	491	281	凹形	0.45	0.39	0.21	750	464	276	凹形	(0.839)	(0.71)	0.07	776・782土	
692	491	280	凹形	0.55	0.44	0.12	751	466	278	凹形	0.39	0.36	0.14	24组立	
693	493	283	凹形	0.30	0.26	0.08	752	465	278	凹形	0.51	0.36	0.09		
694	497	275	凹形	0.32	0.30	0.12	753	464	276	凹形	0.46	0.45	0.06		
695	497	274	凹形	0.70	0.49	0.13	754	464	277	凹形	0.31	0.29	0.04	24组立	
696	496	275	凹形	0.44	0.41	0.13	755	465	277	凹形	0.81	0.75	0.05		
697	497	274	凹形	0.41	0.27	0.07	756	465	279	凹形	0.52	0.45	0.09	25组立	
698	497	273	凹形	0.06	0.05	0.08	757	463	278	凹形	0.49	0.44	0.08	23组立	
699	496	273	凹形	0.26	0.26	0.11	758	467	278	凹形	0.77	0.51	0.17		
700	497	272	凹形	0.43	0.28	0.18	759	469	279	凹形	0.43	0.32	0.14	23组立	
701	463	300	不规则形	0.29	0.29	0.19	760	468	279	凹形	0.31	0.29	0.09		
702	476	281	凹形	0.49	0.34	0.09	761	468	279	凹形	0.35	0.34	0.11	25组立	
703	478	279	凹形	0.51	0.47	0.12	762	468	280	凹形	0.39	0.31	0.2		
704	479	281	凹形	0.37	0.37	0.08	763	465	282	凹形	0.39	0.35	0.11	24组立	
705	480	282	凹形	0.50	0.39	0.12	764	463	282	凹形	0.38	0.37	0.14	24组立	
706	480	281	凹形	0.29	0.23	0.11	765	463	281	凹形	0.51	0.49	0.14		
707	482	282	凹形	0.34	0.27	0.15	766	463	281	凹形	0.45	0.44	0.16		
708	483	282	凹形	0.46	0.27	0.1	767	464	284	不规则形	0.43	0.35	0.24	23组立	
709	484	279	不规则形	0.34	0.30	0.1	768	464	284	凹形	0.81	0.39	0.24		
710	482	279	凹形	0.33	0.27	0.11	769	464	283	凹形	0.30	0.27	0.1		
711	474	311	凹形	0.47	0.30	0.34	770	464	276	凹形	0.50	0.33	0.13	750土	
712	465	300	不规则形	0.42	0.23	0.17	771	465	283	凹形	0.53	0.30	0.11		
713	459	303	凹形	0.19	0.17	0.12	772	467	282	凹形	0.29	(0.27)	0.26		
714	497	273	凹形	0.24	0.22	0.12	773	493	269	凹形	0.37	0.35	0.26		
715	460	307	不规则形	0.24	0.20	0.39	774	492	309	凹形	0.78	0.58	0.16		
716	462	305	凹形	0.35	0.25	0.26	775	494	268	凹形	0.54	0.45	0.07		

第3節 西野原道跡(7) — 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長辺(m)	短辺(m)	深度(m)	
776	494	267	長円形	0.67	0.61	0.75	
777	493	267	長円形	0.49	0.39	0.14	
778	492	268	円形	0.42	0.40	0.1	
779	492	268	円形	0.46	0.45	0.13	
780	493	269	不整長円形か	(0.38)	(0.30)	0.17	
781	493	270	長円形	0.49	0.29	0.12	

表115 西野原道跡(7) — 2 土坑一覧表

※座標値はX軸=38,395、Y軸=-45,189の下3桁を表記

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長辺(m)	短辺(m)	深度(m)	
1							1号井戸
2	395	189	長円形	0.50	0.41	0.21	
3	370	171	円形	0.86	0.83	0.12	
4	370	172	長円形	0.60	0.43	0.12	
5	371	172	長円形	0.35	0.30	0.1	
6	375	172	不整形	1.21	0.61	0.17	
7	377	175	長円形か	(0.29)	0.34	0.06	10土
8	370	176	長円形	0.86	0.67	0.06	
9	378	177	不整形	1.37	0.70	0.28	
10	378	176	不整長円形	1.06	0.75	0.35	7土
11	376	178	長円形	1.98	0.88	0.41	
12	392	160	不明	(0.71)	(0.91)	(0.23)	
13	368	196	長円形	0.62	0.58	0.09	
14	384	187	長円形	0.48	0.39	0.23	
15	370	197	円形	0.42	—	0.05	
16	388	188	不整長円形	0.69	0.53	0.15	1掘立
17	372	192	不整長円形	0.44	0.34	0.06	
18	371	191	不整長円形	0.50	0.33	0.07	
19	373	197	不整長円形	0.70	0.63	0.12	
20	385	191	長円形	0.66	0.36	0.25	1掘立
21	375	197	不整形	0.40	0.38	0.13	
22	384	192	不整形	0.33	—	0.16	1掘立
23	385	193	長円形	0.56	0.39	0.12	1掘立
24	392	182	長円形	0.58	0.48	(0.11)	
25	394	180	不整形	3.64	0.97	0.32	
26	378	194	不整形	1.69	1.58	0.22	
27	400	191	不明	(1.91)	1.04	0.37	
28	376	199	円形か	1.12	—	0.09	
29	399	176	長円形	1.12	0.73	0.11	
30	371	166	円形	0.37	0.34	0.17	
31	373	167	不整形	0.38	—	0.11	
32	390	162	長円形	0.44	0.35	0.19	
33	389	162	円形か	0.42	(0.42)	0.25	
34	391	163	不整長円形	0.43	0.34	0.32	
35	375	175	円形か	0.38	不明	0.08	
36	391	166	長円形	0.72	0.47	0.16	
37	396	187	円形	0.24	—	0.06	
38	398	188	不整形	0.42	—	0.1	
39	398	188	不整長円形	0.32	0.26	0.08	
40	394	192	不整形	1.71	0.69	0.35	
41	397	192	円形	0.39	0.35	0.25	
42	373	199	長円形	0.30	(0.23)	0.07	
43	398	186	長円形か	0.41	(0.32)	0.09	
44	392	163	不整長円形	0.32	0.25	0.17	
45	393	159	不明	不明	不明	(0.14)	

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長辺(m)	短辺(m)	深度(m)	
46	392	172	不明	(0.58)	(0.90)	0.2	
47	392	174	不明	(0.66)	(1.02)	0.27	
48							欠番
49	368	196	長円形	(0.60)	0.63	0.06	
49B	294	212	長円形	0.67	0.51	0.19	
49C	295	212	長円形	0.46	0.30	0.29	
50	374	201	不明	(0.32)	0.32	0.13	
51	374	200	円形	0.42	—	0.13	
52	372	201	不整形	0.28	—	0.18	
53	383	194	長円形	0.89	0.79	0.11	
54	391	199	不整長円形	0.45	0.39	0.13	
55	386	164	不整形	0.55	0.32	0.18	
56	392	192	不整形	1.05	0.72	0.16	
57	393	184	不整形	1.73	0.91	0.33	
58	396	187	不整形	0.87	0.62	0.11	
59	379	168	不整形	1.58	—	0.64	
60	377	184	長円形	0.91	0.69	0.13	
61							欠番
62	296	163	不整形	0.49	0.47	0.16	
63	298	164	長円形	0.60	0.43	0.33	
64	298	163	長円形	0.47	0.44	0.24	
65	297	175	長円形	1.13	0.63	0.45	
66	298	161	不整形	0.53	0.50	0.13	
67	298	162	楕丸長方形	0.60	0.53	0.13	
68	299	161	円形	0.51	0.47	0.18	
69	299	162	長円形	0.45	0.36	0.13	
70	299	160	不整形	0.42	—	0.11	
71	300	161	不整形	0.42	0.39	0.28	
72	303	161	長円形	0.59	0.49	0.16	
73	311	157	長円形	1.18	(0.73)	0.07	80土
74	288	159	長円形	0.48	0.43	0.13	
75	306	162	円形	0.66	0.63	0.12	
76	303	155	長円形	0.60	0.46	0.28	4掘立
77	298	160	円形	0.40	0.37	0.28	
78	296	159	長円形	1.02	0.77	0.26	
79	305	160	長円形	1.16	1.07	0.18	6掘立
80	303	152	不整長円形	0.59	0.51	0.31	4掘立
81	303	151	長円形	0.81	0.67	0.09	
82	301	152	長円形	0.45	0.40	0.16	
83	302	151	円形	0.24	0.22	0.2	
84	302	151	不整形	0.31	0.28	0.15	
85	302	151	不整形	0.32	—	0.06	
86	303	150	長円形	0.58	0.51	0.27	4掘立
87	299	157	不整形	1.74	1.11	0.43	3・4掘立
88	298	150	長円形	0.66	0.51	0.13	4掘立

第6章 土 坑

序号	位置		形状	规格			备 考		
	X轴	Y轴		长(m)	短片(m)	深度(m)			
89	311	157	不整形	0.33	0.21	0.05	73土		
90	312	157	不整形	0.23	0.21	0.06			
91	312	158	凹形	0.15	—	0.07			
92	317	153	凹形	0.56	0.51	0.03			
93	299	148	凹形	0.47	0.37	0.21			
94	299	148	凹形	0.43	0.36	0.16			
95	308	162	不整形	1.57	0.55	0.18			
96	306	180	不整形	0.40	0.39	0.16			
97	307	179	凹形	0.53	0.37	0.36			
98								27号住居	
99	311	175	不整形	0.77	0.76	0.06			
100	318	152	凹形	2.77	1.14	0.15			
101	312	151	凹形	1.07	1.03	0.11			
102	312	153	凹形	0.92	0.85	0.1			
103	302	168	不整形	4.96	1.73	0.53	107土 8号并戸		
104									
105	315	151	不整形	0.29	0.23	0.08			
106	312	173	不整形	2.23	0.88	0.43			
107	304	167	凹形小	(1.44)	1.50	0.39			103土
108	302	166	不整形	(0.96)	1.46	0.47			
108	300	170	不整形	1.67	1.38	0.21			
109	302	153	不整形	0.51	(0.39)	0.13			
110	302	153	不整形	0.52	(0.42)	0.1		109土	
111	302	150	不整形	0.47	0.37	0.1			
112	302	149	不整形	0.51	0.44	0.14			
113	302	149	凹形	0.46	0.39	0.11			
114	302	148	不整形	0.57	0.30	0.08			
115	302	148	不整形	0.60	0.42	0.15			
116	302	148	不整形	0.70	0.43	0.16			
117	303	147	不整形	0.62	0.46	0.13			
118	300	148	凹形	0.48	0.44	0.21			
119	300	147	不整形	0.48	0.38	0.15			
120	295	157	凹形	0.40	0.27	0.11			
121	295	157	不整形	0.59	0.41	0.27			
122	298	159	不整形	0.78	0.47	0.23			
123	295	154	凹形	0.36	0.31	0.1			
124	298	155	凹形	0.37	0.30	0.14			
125	299	156	凹形	0.72	0.51	0.39			
126	300	159	凹形	0.28	—	0.17			
127	292	155	不整形	0.82	0.79	0.26			
128	297	148	凹形	0.41	0.36	0.26			
129	296	148	凹形	0.53	0.51	0.16			
130	292	163	不整形	0.93	0.92	0.22			
131	293	150	凹形	0.80	0.76	0.31			
132	280	159	凹形	0.78	0.74	0.31			
133A	292	157	凹形小	(1.18)	1.20	0.38			
133B	290	156	凹形	1.66	(0.99)	0.42			
134	311	158	凹形	0.42	0.34	0.32			
135	328	151	不整形	0.36	0.33	0.09			
136	329	155	凹形	0.33	0.28	0.15			
137	329	154	不整形	0.43	—	0.22			
138	329	153	凹形	0.45	0.40	0.15			
139	330	154	凹形	0.45	0.36	0.22			
140	335	153	不整形	0.87	0.86	0.37	9掘立		
141	336	151	凹形	0.60	0.39	0.05			
142	337	151	凹形	1.87	1.12	0.11			
143	326	157	不整形	0.51	0.37	0.15			
144	328	157	凹形	0.42	0.40	0.15			
145	328	157	凹形	0.42	—	0.26			
146	337	155	凹形	0.44	—	0.13		8×9掘立	
147	337	153	不整形	0.87	0.71	0.35			
148	338	155	凹形	0.64	0.57	0.06			
149	329	158	凹形	0.39	0.35	0.12			
150	295	149	凹形	0.41	—	0.21			
151	295	148	凹形	0.57	0.42	0.14			
152	295	147	不整形	0.64	—	0.11			
153	295	147	凹形	0.47	0.43	0.07			
154	298	150	不整形	0.57	0.40	0.08			
155	336	159	不整形	0.56	0.41	0.17	8掘立		
156	336	158	凹形	0.88	0.59	0.2			
157	340	153	不整形	0.60	0.47	0.18			
158	340	154	不整形	1.19	0.78	0.13			
159	337	159	凹形	0.57	0.38	0.09		8掘立	
160	337	160	凹形	0.52	0.29	0.1			
161	332	158	凹形	2.53	1.31	0.11			
162	333	152	不整形	2.22	1.69	0.41			
163	338	158	不整形	0.41	0.36	0.11			
164	338	157	凹形	0.55	0.40	0.08			
165	339	157	不整形	0.51	0.48	0.2			
166	339	157	不整形	0.41	0.31	0.08			
167	339	156	不整形	0.53	0.35	0.2			
168	340	159	不整形	0.57	0.49	0.14	8掘立		
169	339	160	不整形	0.56	0.41	0.15			
170	341	156	不整形	0.94	0.82	0.13			
171	296	151	凹形	1.62	0.86	0.16			
172	344	157	凹形	1.11	0.92	0.14			
173	344	155	凹形	0.85	0.72	0.18			
174	346	153	凹形	0.41	0.32	0.06			
175	347	153	不整形	0.72	0.51	0.11			
176	339	154	不整形	(1.09)	(0.78)	0.49		9掘、157土	
177	328	167	凹形	1.15	1.07	0.08			
178	338	161	不整形	0.34	0.33	0.17			
179	339	161	凹形	0.51	0.46	0.09			
180	340	161	不整形	0.56	0.30	0.13			
181	345	159	不整形	0.76	0.47	0.15	8掘立		
182	346	160	凹形	0.60	—	0.25			
183	346	159	凹形	0.56	—	0.09			
184	347	158	凹形	1.37	1.07	0.08			
185	347	156	不整形	0.76	0.57	0.14			
186	342	156	凹形	0.65	0.43	0.15		8掘立	
187	328	154	不整形	0.56	0.48	0.28			
188	345	157	凹形	0.22	—	0.11			
189	342	154	不整形	1.22	1.08	0.14			
190	342	155	凹形	1.20	0.99	0.66			
191	337	156	不整形	0.35	0.29	0.15			
192	337	156	凹形	0.91	0.68	0.41	8掘立		
193	335	161	凹形	1.96	(1.57)	0.17			
194	334	164	凹形	0.38	—	0.11			
195	345	151	不明	(2.50)	(0.82)	(0.3)			
196	345	160	不整形	1.08	0.85	0.14			
197	342	159	凹形	0.77	0.61	0.36		8掘立	
198	343	160	凹形	0.85	0.69	0.17			
199	340	165	不整形	0.49	0.41	0.26			7掘立
200	341	167	凹形	0.64	0.50	0.28			
201	342	167	凹形	0.46	0.41	0.21			
202	343	165	不整形	1.49	1.15	0.23			
203	344	167	凹形	0.47	—	0.29			
204	342	169	凹形	0.38	0.34	0.2			

第3節 西野原遺跡(7) - 2区検出の土坑

番号	位置		形状	規模			備考	
	X軸(m)	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)		
205	342	170	不整形	0.73	0.59	0.24	7 掘立	
206	344	169	楕円長方形	1.63	1.44	0.24		
207	349	156	長方形	3.56	1.05	0.15		
208	345	161	不整形	1.46	1.31	0.15		
209	342	171	長方形	0.69	0.46	0.24		
210	337	161	長方形	0.77	0.61	0.15		
211	335	160	長方形	0.30	0.24	0.2		
212	325	168	不整形	1.70	1.54	0.35		
213	349	161	不明	不明	不明	(0.15)		
214	352	235	長方形	2.06	1.28	0.36		
215	331	159	不整形	0.29	0.26	0.14		216土
216	331	159	長方形	0.50	(0.37)	0.23		215土
217	326	130	不整形	0.82	0.70	0.15		
218	354	154	長方形	1.95	1.65	0.14		
219	358	182	長方形	1.42	1.04	0.08		
220	295	156	長方形	0.43	0.37	0.23		
221	295	155	長方形小	(0.83)	0.53	0.29		222土
222	295	155	不明	0.73	(0.40)	0.12		221・223土
223	295	155	円形小	0.73	(0.66)	0.1		222土
224	294	157	長方形小	1.01	(0.81)	0.16		
225	294	156	長方形小	1.18	(0.58)	0.13		
226	365	174	円形	0.38	-	0.14		
227	365	175	長方形	0.51	0.43	0.1		
228	364	175	長方形	0.51	0.35	0.06		
229	360	162	長方形	1.25	0.73	0.1		
230	356	174	円形	0.98	0.95	0.34		
231	361	170	長方形小	(0.63)	0.53	0.29	232土	
232	360	170	不整形	0.75	0.72	0.13	231土	
233	362	170	長方形	1.18	0.77	0.1		
234	364	170	長方形	0.46	0.26	0.07		
235	365	173	楕円長方形	0.61	0.56	0.23		
236	367	177	円形	0.34	0.32	0.14		
237	365	177	円形	0.35	0.33	0.18		
238	365	177	長方形	0.38	0.29	0.19		
239	362	178	不整形長方形	0.86	0.75	0.22		
240	366	169	不整形長方形	1.66	1.23	0.1		
241	368	172	円形	0.61	0.54	0.09		
242	367	167	長方形	1.43	1.21	0.36		
243	368	164	不整形長方形	1.52	1.22	0.14		
244	367	161	長方形	1.22	0.89	0.26		
245	362	163	不整形	1.61	0.77	0.15		
246	360	162	不整形長方形	(1.14)	0.84	0.11	247土	
247	360	162	長方形	0.96	0.59	0.2	246土	
248	361	157	不整形長方形	0.49	0.37	0.1		
249	361	158	長方形	0.43	0.35	0.07		
250	363	152	不整形	0.34	0.32	0.09		
251	359	168	円形	0.48	-	0.11		
252	361	168	円形	0.66	0.62	0.33		
253	335	165	円形	0.51	0.48	0.18		
254	364	162	長方形	0.51	0.35	0.06		
255	365	158	不整形	0.66	0.64	0.08		
256	363	166	不整形長方形	0.37	0.32	0.18		
257	366	165	不整形長方形	2.05	1.50	0.37		
258	295	162	不整形	(1.06)	1.12	0.31	259土	
259	294	162	不明	1.11	(0.92)	0.26	258土	
260	294	163	不整形	0.62	-	0.2	3 掘立	
261A	421	223	長方形	0.83	0.69	0.16	261B土	
261B	421	223	円形	0.81	0.78	0.32	261A土	
262	477	246	長方形	0.76	0.65	0.27		
263	335	193	長方形	0.59	0.44	0.35		
264	299	156	長方形	0.50	0.43	0.24	4 掘立	
265	299	166	長方形	0.69	0.59	0.11		
266	296	166	不整形	0.33	0.28	0.17	2 掘立	
267	294	166	長方形	0.53	0.47	0.12	3 掘立	
268	298	163	長方形	0.49	0.42	0.1		
269	296	163	円形	0.45	0.42	0.17	2 掘立	
270	291	163	長方形	0.97	0.68	0.16	2 掘立	
271	298	160	長方形	0.49	0.42	0.21		
272	296	160	長方形	0.61	0.53	0.31	2 掘立	
273	294	160	不整形	0.71	0.63	0.22	3 掘立	
274	291	161	長方形	0.65	0.52	0.09	2 掘立	
275	296	157	円形	0.39	0.34	0.12	2 掘立	
276	294	158	長方形	0.52	0.43	0.09	3 掘立	
277	291	157	長方形	0.57	0.50	0.07	2 掘立	
278	303	157	円形	0.47	0.43	0.2	4 掘立	
279	306	163	長方形	0.56	0.40	0.17	6 掘立	
280	305	157	不整形	0.54	0.44	0.2	6 掘立	
281	304	154	不整形	0.53	0.51	0.13	6 掘立	
282	303	147	円形	0.42	0.39	0.14	5 掘立	
283	301	147	長方形	0.44	0.39	0.1	5 掘立	
284	299	147	長方形	0.56	0.54	0.15	5 掘立	
285	297	147	長方形	0.52	0.37	0.07	5 掘立	
286	306	155	不整形長方形	0.42	0.26	0.23		
287	337	171	長方形	0.64	0.56	0.34		
288	337	170	円形	0.26	0.23	0.04		
289	305	147	円形	0.40	0.37	0.23		
290	306	151	不整形長方形	0.61	0.46	0.14		
291	305	151	不整形長方形	0.59	0.49	0.16		
292	275	170	円形小	0.53	0.42	0.34	313土	
293	304	149	長方形	0.47	0.38	0.07		
294	304	149	円形	0.31	-	0.11		
295	302	152	長方形	0.37	0.31	0.22		
296	301	150	不整形	0.83	0.54	0.26		
297	300	150	不整形	0.52	-	0.13		
298	301	148	不整形	0.88	0.56	0.19		
299	302	147	長方形	0.42	0.38	0.26		
300	298	147	円形	0.40	-	0.05		
301	298	148	長方形	0.43	0.38	0.12		
302	298	149	円形	0.26	0.24	0.15		
303	297	148	長方形	0.38	0.32	0.11		
304	296	149	円形	0.63	0.60	0.06		
305	302	159	長方形	0.68	0.58	0.2		
306	302	159	長方形	0.42	0.32	0.17		
307	338	169	長方形	0.39	0.33	0.27		
308	296	147	円形	0.39	-	0.09		
309	297	148	円形	0.41	0.40	0.24		
310	307	148	不整形	0.60	0.38	0.1		
311	294	149	不整形長方形	0.39	0.34	0.19		
312	304	155	不整形	0.41	0.32	0.08		
313	275	170	不整形	0.37	0.32	0.33	292土	
314	334	165	長方形	1.28	0.78	0.08		
315	333	166	不整形長方形	1.61	0.94	0.21		
316	338	171	長方形	0.59	0.44	0.18		
317	339	174	長方形	0.51	0.45	0.27		
318	340	170	不整形	0.58	-	0.27		
319	339	163	長方形	0.84	0.64	0.12		
320	340	170	円形	0.45	-	0.05	7 掘立	
321	340	170	長方形	0.55	0.49	0.18		

第6章 土 坑

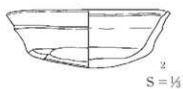
序号	位置		形状	规格			备 考	序号	位置		形状	规格			备 考
	X轴	Y轴		长(m)	短(m)	深度(m)			X轴	Y轴		长(m)	短(m)	深度(m)	
322	331	165	不整形	1.77	0.94	0.25	323掘立	381	330	170	具内形	0.60	0.46	0.23	
323	332	165	具内形	0.40	0.38	0.15	322掘立	382	285	148	不整形	0.57	0.47	0.22	
324	337	168	具内形	(0.50)	0.49	0.21	43号住居	383	485	190	具内形	0.82	0.63	0.06	
325	338	168	具内形	0.51	0.42	0.1		384	297	154	不整形	1.64	1.10	0.31	
326	242	165	具内形	0.63	0.55	0.32		385	288	147	不整形	0.68	0.60	0.14	
327	338	165	具内形	0.52	0.47	0.21		386	287	148	不整形	0.46	0.42	0.31	
328	337	165	具内形	0.53	0.45	0.3		387	287	149	不整形	0.63	0.48	0.21	
329	338	163	不整形	0.78	0.75	0.18		388	286	150	具内形	0.67	0.60	0.21	
330	340	168	不整形	0.61	0.59	0.2		389	342	168	具内形	0.47	0.37	0.2	
331	294	150	不整形	0.94	0.76	0.45		390	290	148	不整形	0.40	—	0.07	
332	338	170	内形	0.49	0.45	0.11		391	335	171	具内形	0.55	0.43	0.11	7掘立
333	336	167	具内形	(0.47)	0.52	0.2		392	335	169	不整形	0.55	0.46	0.21	7掘立
334	335	167	内形	0.42	0.39	0.13		393	315	158	不整形	0.92	0.76	0.22	
335	335	158	不整形	0.69	0.56	0.21		394	384	189	具内形	0.45	0.33	0.14	
336	322	152	不整形	0.54	—	0.13		395	384	189	内形	0.27	—	0.14	
337	344	152	不整形	1.04	—	0.21		396	383	190	不整形	0.26	0.24	0.09	
338	338	152	具内形	0.55	0.42	0.07		397	384	190	不整形	0.35	0.28	0.13	
339	338	152	不明	0.58	—	0.17	332土	398	384	191	具内形	0.42	0.29	0.13	
340	334	150	具内形	0.56	0.49	0.06		399	385	191	具内形	0.64	0.56	0.17	
341	334	151	具内形	0.45	—	0.11	162土	400	386	192	具内形	0.73	0.48	0.19	
342	333	151	内形	0.32	0.30	0.11	343土	401	387	191	具内形	0.74	0.46	0.2	
343	333	151	内形	0.85	0.81	0.25	342土	402	388	190	不整形	0.89	0.65	0.2	
344	335	154	具内形	0.53	0.37	0.23	8掘立	403	388	191	内形	0.58	0.52	0.15	
345	325	157	具内形	0.47	0.41	0.23	8掘立	404	427	181	具内形	0.80	0.45	0.18	
346	334	157	具内形	0.49	0.41	0.26		405	429	180	具内形	0.43	0.36	0.23	
347	334	157	具内形	(0.33)	(0.57)	0.14	33号住居	406	430	180	具内形	0.30	0.24	0.13	
348	334	158	具内形	0.47	0.42	0.23	347土	407	430	180	内形	0.49	—	0.17	
349	335	157	具内形	0.55	0.40	0.21		408	430	181	具内形	0.55	0.42	0.28	
350	338	155	内形	0.41	—	0.06		409	440	180	具内形	0.54	0.39	0.09	
351	340	156	具内形	0.62	0.52	0.09	8掘立	410	437	177	具内形	0.51	0.44	0.23	
352	337	152	具内形	0.32	0.26	0.1	339土	411	439	177	不整形	0.32	0.27	0.13	
353	340	174	具内形	0.32	0.24	0.08		412	441	178	具内形	0.39	0.31	0.09	
354	329	163	不明	0.51	(0.42)	0.22		413	441	179	具内形	0.26	0.22	0.15	
355	332	163	具内形	(0.94)	0.82	0.3	39—B住居	414	440	180	具内形	0.27	0.25	0.13	
356	300	155	不整形	0.59	0.46	0.06	6掘立	415	441	180	具内形	0.42	0.32	0.08	
357	297	149	不整形	0.97	0.79	0.32		416	442	180	不整形	1.13	0.87	0.33	
358	335	166	具内形	0.47	0.40	0.08	7掘立	417	440	183	不整形	2.08	0.91	0.29	
359	335	163	具内形	0.39	0.39	0.2	360土	418	441	183	不整形	0.40	0.37	0.12	
360	334	163	具内形	0.46	0.40	0.28	359土	419	432	170	不整形	0.29	0.27	0.1	
361	297	160	不整形	0.49	0.47	0.19		420	433	170	不整形	0.72	0.66	0.15	
362	306	157	内形	0.51	—	0.19		421	433	170	不整形	0.30	0.18	0.06	
363	306	155	不整形	0.43	—	0.17		422	434	170	不整形	0.43	0.31	0.08	
364	303	157	具内形	0.61	0.51	0.22		423	423	169	内形	0.41	0.39	0.07	
365	301	156	不整形	0.96	0.91	0.23	3掘立	424	423	167	内形	1.22	1.19	0.21	
366	303	152	不整形	0.39	—	0.12		425	420	168	内形	0.33	—	0.13	
367	300	151	不整形	0.49	0.44	0.09		426	419	168	内形	0.27	—	0.08	
368	298	149	不整形	0.50	0.45	0.18	3掘立	427	419	169	不整形	0.44	0.39	0.18	
369	309	150	具内形	0.35	0.27	0.06		428	418	168	不整形	0.31	0.26	0.18	
370	310	149	不整形	0.84	0.62	0.24		429	418	167	具内形	0.74	0.56	0.07	
371	308	151	不整形	1.19	0.75	0.12	3掘立	430	415	172	不整形	0.38	—	0.26	
372	299	160	具内形	0.52	0.46	0.21		431	409	167	内形	0.40	—	0.2	
373	293	148	不整形	0.56	0.52	0.11		432	409	168	内形	0.45	—	0.2	
374	293	148	内形	0.50	0.46	0.24		433	429	180	不整形	0.55	0.55	0.18	
375	292	151	具内形	0.78	0.55	0.28		434	387	192	具内形	0.35	0.22	0.07	
376	311	161	不整形	0.46	0.39	0.26		435	301	211	具内形	0.75	0.54	0.16	
377	292	149	不整形	0.42	0.37	0.16		436	300	212	不整形	1.23	0.97	0.16	437土
378	307	154	不整形	0.46	0.30	0.08		437	299	212	不整形	1.51	0.81	0.19	9、12掘立
379	304	164	不整形	0.46	0.41	0.08		438							
380	301	165	具内形	0.44	0.37	0.09		439							

第3節 西野原遺跡(7) — 2区検出の土坑

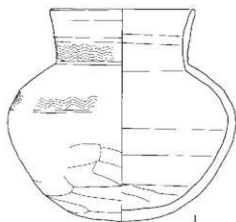
番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
440	299	221	長円形か	0.96	(0.31)	0.18	
441	295	209	長円形	0.34	0.29	0.09	32粘土
442	293	210	不整形	0.67	0.44	0.22	
443	294	211	不整形	0.39	0.37	0.19	31・50粘土
444							
445	294	209	長円形	1.44	(0.61)		36・37粘土
446	298	210	不整形長円形	0.97	0.63	0.16	64粘土
447	293	210	長円形	0.50	0.42	0.06	445土
448	295	209	長円形か	0.48	0.28	0.19	32・35粘土
449	280	202	長円形	0.46	0.30	0.08	450土
450	279	202	長円形	1.13	(0.56)	0.29	449・451土
451	280	202	不整形	0.83	0.62	0.16	450土
452	283	206	長円形か	1.23	0.68	0.3	110・104粘土
453	283	204	長円形か	1.00	0.75	0.28	56粘土
454	283	203	長円形	0.46	0.33	0.12	
455	282	203	長円形	0.79	0.61	0.09	
456	282	205	長円形か	(0.59)	0.54	0.28	42粘土
457	281	204	不整形長円形	0.83	0.51	0.4	
458	284	204	長円形	0.86	0.60	0.26	40粘土

番号	位置		形状	規模			備考
	X軸	Y軸		長さ(m)	短片(m)	深度(m)	
459	286	206	不整形	0.48	0.40	0.25	76粘土
460	273	200	長円形か	(0.54)	(0.33)	0.18	58・59粘土
461	272	200	長円形か	(0.60)	(0.52)	0.22	59・60・91粘土
462	268	197	長円形か	(0.46)	0.57	0.29	465土、70粘土
463	267	197	長円形か	(0.61)	0.51	0.22	466土、71粘土
464	270	199	長円形か	(0.47)	0.48	0.23	67・68・84粘土
465	268	197	長円形	0.55	0.46	0.41	462土、70粘土
466	267	197	長円形か	(0.31)	(0.25)	0.18	463土、71粘土
467	277	205	長円形か	(0.45)	0.42	0.29	
468	285	208	長円形か	(0.63)	0.56	0.31	78・81粘土
469	286	208	不整形	0.48	0.46	0.16	製本3B土
470	290	210	長円形	(0.64)	0.51	0.25	63・96粘土
471	294	213	不整形	(0.94)	0.89	0.31	49・103粘土
472	295	213	不整形	(0.44)	0.49	0.22	476土、28粘土
473	281	208	不整形	1.80	(1.10)	1.33	製本5土
474	283	209	長円形か	0.64	0.53	0.42	製本3B土
475	282	210	不整形	1.37	0.72	0.56	製本3A土
476	296	213	不整形	0.88	0.78	0.24	472土、51粘土

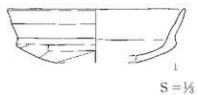
第6章 土 坑



第394图 (5) 7号土坑出土遗物



第395图 (5) 20号土坑出土遗物



第396图 (5) 148号土坑出土遗物

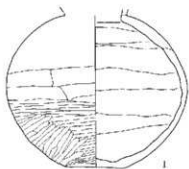


S = 1/2

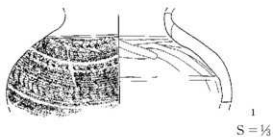
第397图 (5) 290号土坑出土遗物



第398图 (5) 395号土坑出土遗物



第399图 (5) 405号土坑出土遗物



第400图 (5) 478号土坑出土遗物

表116 (5) 7号土坑出土土物観察表 (第394図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-152	土師器 杯	口縁 口縁部1/6欠損		口 11.4 高 4.3 径 9.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、(体部) から底部は平持ちへう割り。
2 PL-152	土師器 杯	底部		口 12.5 高 4.5 径 9.8	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部横ナデ、(体部) (後下) から底部は平持ちへう割り。内外面漆塗り。

表117 (5) 20号土坑出土土物観察表 (第395図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-152	土師器 短頸甕	1/2		口 11.2 高 16.7	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。口縁部下半と胴部中に波状文、胴部下半はへう割り。内面胴部下位から底部はへうナデ。

表118 (5) 148号土坑出土土物観察表 (第396図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 杯	1/3		口 13.9 径 12.6	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、(体部) (後下) から底部は平持ちへう割り。

表119 (5) 290号土坑出土土物観察表 (第397図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	出土 位置	計測値 (cm, g)	備考
1 PL-152	土師器 土師		高: 5.1 径: 1.3 孔: 0.6 重量: 7.3 胎土: 細砂粒 焼成: 良好 色調: にぶい黄褐色	胴部ナデ。

表120 (5) 395号土坑出土土物観察表 (第398図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-152	土師器 短頸甕	ほぼ底部		口 11.0 高 8.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から胴部中に波状文へう割り。

表121 (5) 405号土坑出土土物観察表 (第399図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1 PL-152	土師器 甕	底部、胴部 2/3		径 4.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐色	胴部はへう割り後、下半はへう割り、上半はナデ。内面胴部はへうナデ。

表122 (5) 478号土坑出土土物観察表 (第400図)

検出番号 図記番号	土器類別 器種	部位 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 甕	胴部上平片			粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、胴部上位は凹線により2段二区画、上位区画は刺突文1段、下位区画は刺突文2段、中位は6本目。内面はへうナデ。

第7章 遺構外出土遺物

1. 土器

出土した遺構外の土器のうち、図示したのは第401図の(5)谷部出土土器と、第402図の土器である。

西野原(5)の谷部とは、調査区の南端で、測道となる西野原(2)に隣接する辺りを称しており、遺構が密集する周辺よりもやや低くなった場所である。この谷部から、ややまとまって土器が出土した。出土した土器には、土師器の坏、高坏、甕、壺の破片が多く、特に高坏の脚部が多い。図示した第401図1～9は高坏で、2は坏身の内外面に放射状のヘラ磨きを施している。10は甕。11は口縁部にヘラ磨きを施した壺である。これら出土した土器から、この谷部は古墳築造以前の地形であったと思われる、その後埋没と考えられる。

第402図12は西野原(7)－1区出土で、口縁部上半に3段の区画線と波状文が巡る須恵器の大甕である。13は高坏、14は6孔の透かしをもつ器台の脚部。15は口縁部が有段状となる壺。

2. 埴輪

調査対象となった古墳は全て7世紀台の古墳であり、埴輪を伴う古墳は検出されていない。第403～407図に示した埴輪片は、ほとんどが遺構外からの出土である。

器材埴輪には16・17・43の3点があり、16は刻線による鋸歯文を施す盾形埴輪片。17も盾形埴輪片。43は家形埴輪片と思われる、幅広い突帯を横位にもつ。形象埴輪には18がある。動物(馬)の脚部片と思われる。

朝顔形埴輪の大きく外反する口縁部片には19～22が、湾曲する頭部片には26～28がある。

円筒埴輪の口縁部片には23～25があり、胴部片には29～42・44～57が、底部片には58～65がある。な

お、29～33の胴部には、円形等の透かしをもつ。

3. 石製品

遺構外出土の石製品には、白玉6点、剣形2点、円盤状1点、不明な玉1点がある。

第408図66～71は白玉で、石材には滑石が用いられ、全体に丁寧な研磨が施されている。

第408図73・74は剣形の模造品で、共に石材には滑石が用いられ、丁寧な研磨を施す完形品である。73は表面の中軸に稜をもち、裏面は平坦となる。74は表裏面共に平坦であるが、両側面に刃部となる稜をもつ。

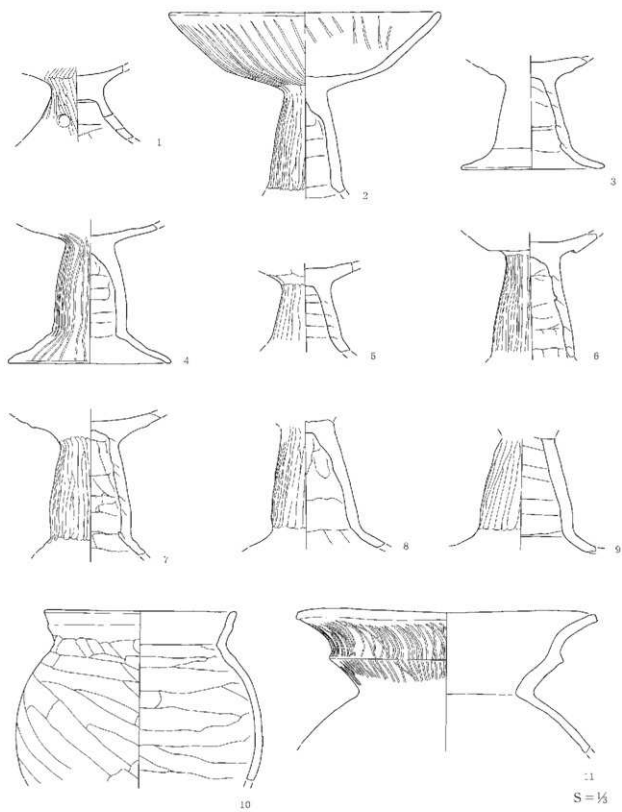
第408図75は円盤状を呈し、石材には滑石が用いられ、全体に丁寧な研磨が施されている。中央には孔をもつ。鏡の模造品か。

第408図76は孔を有する玉の破損品。石材には滑石が用いられている。

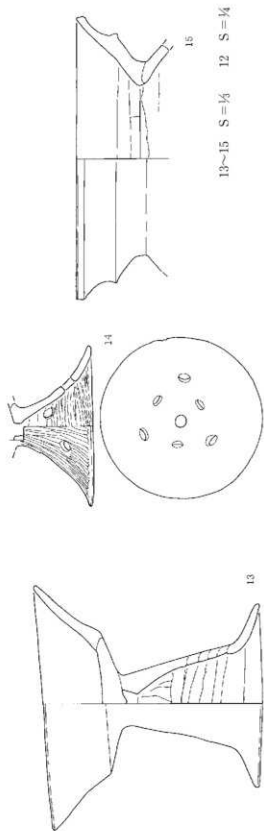
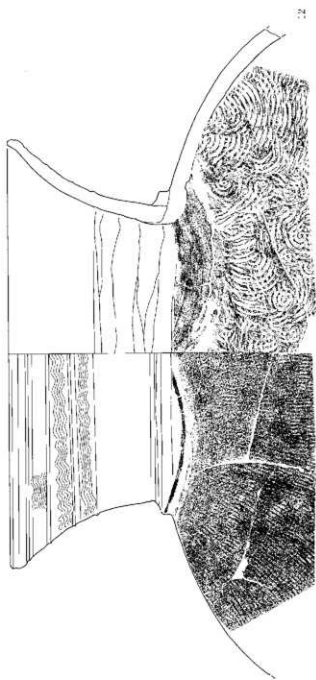
4. 土製品

遺構外出土の土製品には、第408図72の丸玉(土玉)と、77の土鍾の2点がある。

72は径0.9cmほどの丸玉状で、中央に細い孔を貫通させている。77は土鍾の破片。

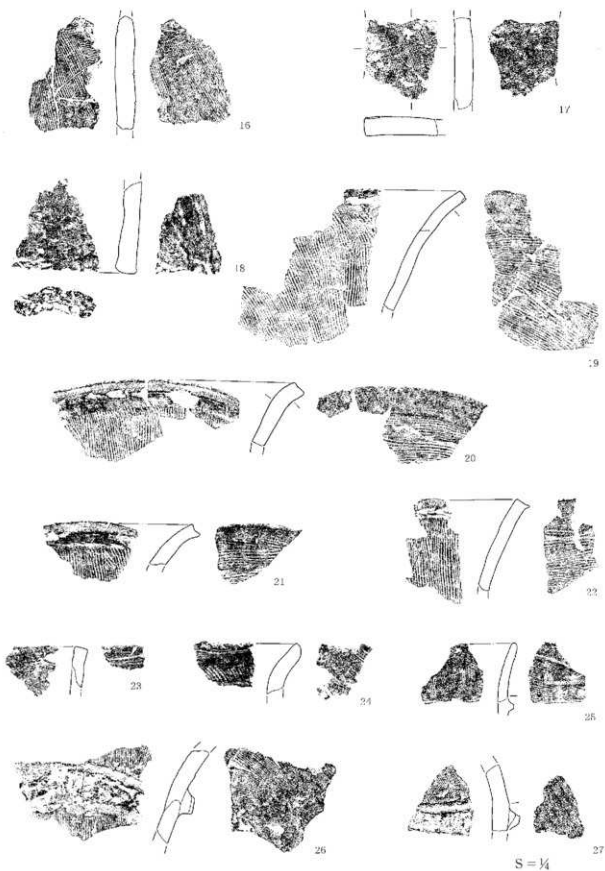


第401図 (5) 遺構外(谷部)出土遺物1



13~15 S = 1/4 12 S = 1/4

第402図 道標外出土遺物(2)



第403図 遺構外出土遺物(3)

第7章 遺構外出土遺物



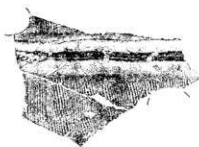
28



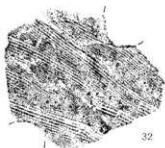
29



30



31



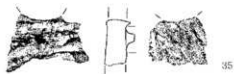
32



33



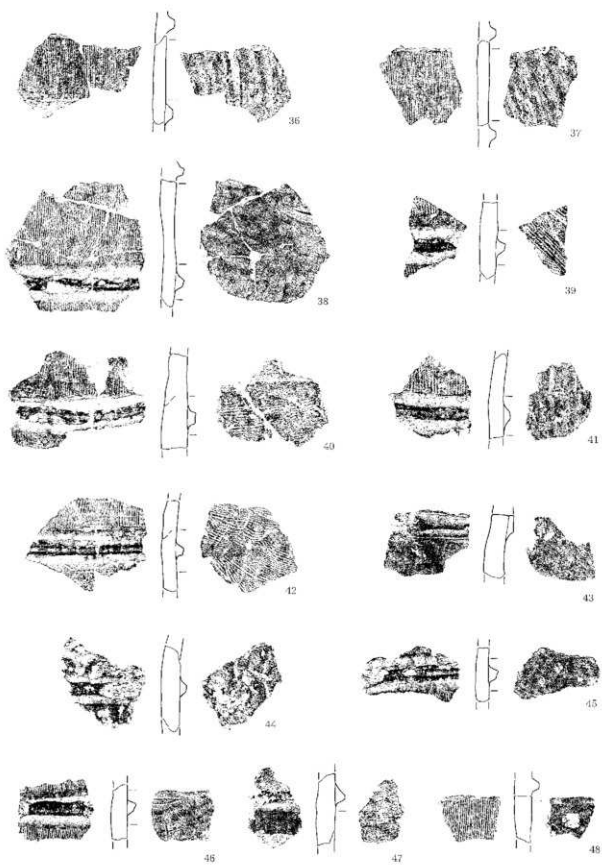
34



35

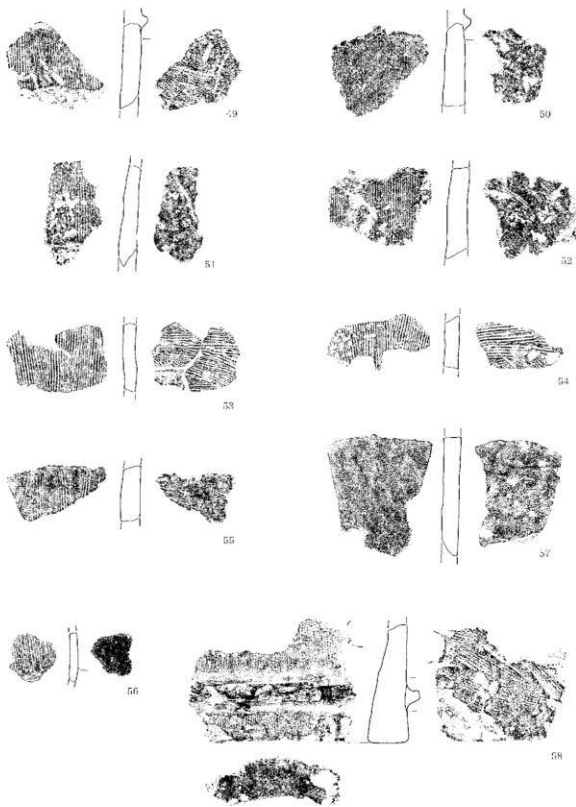
第404図 遺構外出土遺物(4)

S = ¼



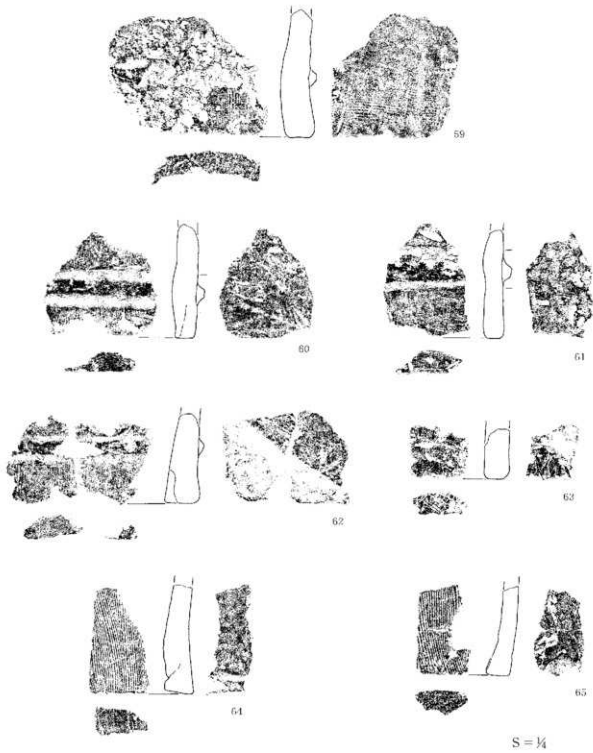
第405図 遺構外出土遺物5)

S = ¼



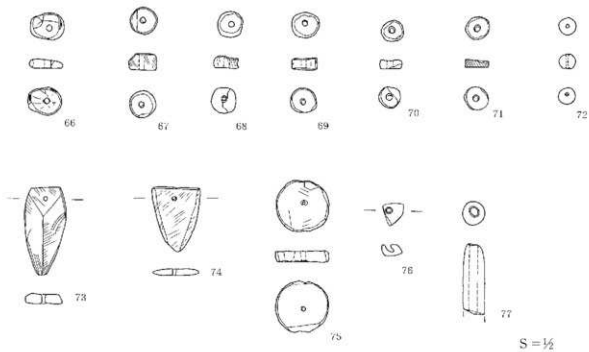
第406図 遺構外出土遺物(6)

S = ¼



第407図 道構外出土遺物(7)

第7章 遺構外出土遺物



第408図 遺構外出土遺物(8)

表123 (5) 遺構外 土器観察表 (第401~408図)

図記番号 図取番号	土器類 目録	形状 (残存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/焼成/色調	成・形状の特徴
1	土師器 高杯	杯身底部~脚 部	(5) 谷部		細砂粒/良好/橙	杯身底部、脚部ともへう磨き。内面脚部はナダ。脚部に3孔の透孔。
2 PL-152	土師器 高杯	杯身1/2、脚部 片	(5) 谷部	□ 21.1	細砂粒/良好/橙	杯身は放射状、脚部は扇方向へう磨き。内面は杯身放射状へう磨き。脚部ナダ。
3	土師器 高杯	脚部、基部A/ 5次周	(5) 谷部	脚 11.2	細砂粒/良好/明赤褐	脚部内面に輪模み痕が残る。脚部はへうナダ。基部は横ナダ。内面脚部はナダ。
4	土師器 高杯	杯身底部~脚 部、基部片	(5) 谷部	脚 13.0	細砂粒/良好/明赤褐	外面は底部へう磨り、脚部へうナダ。基部横ナダ後縁方向のへう磨き。内面脚部はナダ。
5	土師器 高杯	杯身底部~脚 部	(5) 谷部		細砂粒/良好/にぶい橙	脚部内面に輪模み痕が残る。杯身底部はへう磨り、脚部ともへう磨り。内面脚部はナダ。
6	土師器 高杯	杯身底部~脚 部	(5) 谷部		細砂粒/良好/にぶい橙	脚部内面に輪模み痕が残る。杯身はナダ。脚部はへう磨り後へう磨き。内面脚部はナダ。
7	土師器 高杯	脚部片	(5) 谷部		細砂粒/良好/にぶい橙	脚部内面に輪模み痕が残る。脚部はへう磨き。内面はナダ。
8	土師器 高杯	脚部片	(5) 谷部		細砂粒/良好/明赤褐	脚部へう磨き。基部横ナダ。内面脚部はナダ。基部はへうナダ。
9	土師器 高杯	脚部	(5) 谷部		細砂粒/良好/明赤褐	脚部は縦かへう磨り。基部は横ナダ。内面脚部はへうナダ。
10 PL-152	土師器 壺	口縁部~胴部 中位	(5) 谷部	□ 14.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナダ。胴部へう磨り。内面胴部はへうナダ。
11 PL-152	土師器 壺	口縁部~胴部 上位片	(5) 谷部	□ 23.3	細砂粒/良好/橙	口縁部へう磨き。胴部ナダ。内面は断面割落のため形状不明。
12	灰土器 壺	口縁部~胴部 上位片	(7) 1区	□ 44.4	粗砂粒/黄灰色/灰	胴部に輪帯帯が通る。口縁部上半段の凹縁状面に放射状文が面る。胴部は外面に平行筋。内面に同心円状アナ具痕が残る。
13 PL-152	土師器 高杯	2/3		□ 19.0 高 18.0 底 11.2 脚 14.5	細砂粒/良好/橙	杯身と脚部は放射、脚部内面に輪模み痕が残る。杯身口縁部横ナダ。底部から脚部へう磨り。基部横ナダ。内面脚部ナダ。
14 PL-152	土師器 高台	脚部		脚 12.5	細砂粒/良好/橙	底面穿孔。脚部に6孔の透孔。脚部は内外面ともへう磨き。
15 PL-152	土師器 壺	口縁部~胴部 片		□ 22.0	細砂粒/良好/橙	脚部内面に輪模み痕が残る。口縁部横ナダ。内面は下半がへうナダ。
16	埴輪 器材	器面片	(7) 1区		砂粒・粗粒・チャート/良 好/赤褐	器形不明。外面は横・斜めハケ後、縦割による断面状。赤色塗料が、内面は斜めハケ後部分的にナダ。
17	埴輪 器材	器面片	(7) 1区		砂粒・チャート・角閃石/ 良好/赤褐	器形不明。外面は斜めハケ。内面はナダ。
18	埴輪 彩象	器面片	(7) 2区		砂粒・赤褐色・角閃石/ 良好/橙	動物の器面片と思われる。其の、外面は縦線。内面は斜め指ナダ。
19	埴輪 器面	口縁部片	(5)		砂粒・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐	□・54と類似。外面は縦ハケ。内面は横・斜めハケ。口縁部横ナダ。
20	埴輪 器面	口縁部片	(5)		赤褐色粒・チャート/良 好/明赤褐	外面は縦ハケ。内面は横ハケ。口縁部横ナダ。
21	埴輪 器面	口縁部片	(5)		赤褐色粒・チャート/良 好/明赤褐	外面は縦ハケ。内面は横ハケ。口縁部横ナダ。
22	埴輪 器面	口縁部片	(5)		赤褐色粒・チャート/良 好/明赤褐	外面は縦ハケ。内面は横・斜めハケ。口縁部横ナダ。
23	埴輪 器面	口縁部片	(7) 1区		赤褐色粒・角閃石/良好/ 明赤褐	外面は斜めハケ。内面は横ナダ。
24	埴輪 器面	口縁部片	(7) 2区		砂粒・赤褐色・角閃石/ 良好/橙	外面は縦ハケ。口縁部横ナダ。内面は斜めハケ後ナダ。口縁部横ナダ。
25	埴輪 器面	口縁部片	(7) 2区		赤褐色粒・角閃石/良好/ にぶい赤褐	外面は縦ハケ後横ナダ。内面は横ハケ。輪状瓦版。
26	埴輪 器面	器面片	(7) 2区		砂粒・白色粒・チャート/ 良好/橙	外面上半は灰色で、やや黄灰色の焼成。突部の先端は割落。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ後ナダ。
27	埴輪 器面	器面片	(5)		赤褐色粒・チャート/良 好/橙	尖等割落。外面は斜めハケ。内面は斜め指ナダ。
28	埴輪 器面	器面片	(7) 1区		赤褐色粒・粗粒チャート/ 良好/橙	突部は台形。外面は斜めハケ。内面はナダ後下半斜め指ナダ。

第7章 遺構外出土遺物

経度番号 緯度番号	土器種別 器種	層位 (改存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・整形の特徴
29	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/ 良好/磨	透し孔あるが、形状不明。突帯は台形。内外面の裏面凹み、磨滅。内面はナテ調整か。
30	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/良 好/赤褐色	透し孔あるが、形状不明。突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ後部分的 にナテ。指環状部。
31	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/磨	透し孔は2つあるが、形状不明。突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ、 指環状部。
32	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・角閃石/ 良好/磨	透し孔は円形。突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ。
33	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/赤褐色	透し孔あるが、形状不明。突帯は先端は割落。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ、 横状部。
34	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐色	突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ後横・斜め指ナテ。
35	磁輪 門筒	割断片	(7) 2区		赤褐色・粗粒チャート/良 好/明赤褐色	突帯は十字。外面は縦ハケ。内面は斜め指ナテ。
36	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/良 好/明赤褐色	突帯は割落。外面は縦ハケ後部分的に斜めナテ。内面は斜め指ナテ。
37	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・粗粒チャート/ 良好/明赤褐色	外面は縦ハケ。内面は斜め指ナテ。
38	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐色	突帯は台形。外面は縦ハケ。内面はナテ。
39	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/ 良好/磨	突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ。
40	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・チャート・赤褐色/ にぶい	内面は褐色。突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は横ハケ。
41	磁輪 門筒	割断片	(7) 2区		赤褐色・粗粒チャート/ 良好/磨	突帯は台形。内外面の裏面凹み、やや磨滅。外面は縦ハケ。内面は縦ナテ。
42	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・赤褐色・チャート/ 良好/磨	突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は横・斜めハケ。
43	磁輪 蓋材	割断片	(7) 2区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/磨	形状不明。突帯はやや幅広く台形。内外面の裏面凹み、磨滅。外面は縦ハケ後 ナテ。内面はナテのみ。
44	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐色	突帯は台形。外面は断面割落。内面は斜めハケ後ナテ。
45	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/赤褐色	突帯は十字。外面は縦ハケ。内面は横・斜めナテ。
46	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート/良好/明 赤褐色	突帯は台形。外面は縦ハケ。内面は横ハケ後横・斜めナテ。
47	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐色	突帯は三角形。外面はナテ。内面は横・斜めナテ。
48	磁輪 門筒	割断片	(7) 1区		赤褐色・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐色	外面は縦ハケ。内面は横・斜めナテ。
49	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・チャート/良好/赤 褐色	外面は縦ハケ。内面は斜めハケ後ナテ。
50	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/ 良好/磨	内外面の裏面凹み、やや磨滅。外面は縦ハケ。内面はナテ。
51	磁輪 門筒	割断片	(7) 2区		赤褐色・粗粒チャート/ 良好/磨	外面は縦ハケ。内面は断面凹み、やや磨滅。ナテ。
52	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/良 好/明赤褐色	内面は褐色。外面は縦ハケ。内面は斜めハケ後斜めナテ。
53	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/良 好/明赤褐色	9×54と類似。外面は縦ハケ。内面は横・斜めハケ。
54	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/良 好/明赤褐色	9×53と類似。外面は縦ハケ。内面は横・斜めハケ。
55	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・赤褐色・チャート/良 好/にぶい	内面は褐色。外面は縦ハケ。内面は横ナテ。
56	磁輪 門筒	割断片	(5)		赤褐色・チャート/良好/磨	内面はにぶい褐色。外面は縦ハケ。内面はナテ。

第7章 遺構外出土遺物

標記番号 図版番号	土器種類 器種	部位 (保存率)	出土 位置	計測値 (cm)	胎土/構成/色調	成・形状の特長
57	磁輪 門筒	胴部片	(7) 1区		赤粘・赤褐色胎・角閃石/ 良好/橙	外面は横・斜めナデ。内面は横ナデ、指環圧痕。
58	磁輪 門筒	底部片	(5)		赤粘・チャート・角閃石/ 良好/赤褐	底面肥厚。差し孔あるが、形状不明。底位置突帯で、形状は台形。外面は横ハテ、内面は斜めハテ。
59	磁輪 門筒	底部片	(7) 2区		赤粘・赤褐色胎・チャート/ 良好/橙	底位置突帯。突帯及び外面の断面割直。外面は横ハテ。内面は断面丸れ、やや磨滅。横ハテ後ナデ。
60	磁輪 門筒	底部片	(7) 2区		赤褐色胎・チャート/良好/ 赤い濁	底位置突帯で、形状は台形。外面は断面丸れ、やや磨滅。横ハテ。内面は斜めハテ後横・斜めナデ。
61	磁輪 門筒	底部片	(5)		赤粘・粗粒チャート/良好/ 橙	底位置突帯で、形状は台形。外面は横ハテ。内面は断面丸れ、磨滅。ナデ調整め。
62	磁輪 門筒	底部片	(5)		赤粘・赤褐色胎・チャート/ 良好/橙	底位置突帯で、形状は台形。底面肥厚。内外面の断面丸れ、やや磨滅。外面は横ハテ。内面はナデ。
63	磁輪 門筒	底部片	(5)		赤褐色胎・チャート/良好/ 明赤褐	外面の断面丸れ、やや磨滅。横ハテナデが。底面縁部の圧痕あり。内面ナデ。
64	磁輪 門筒	底部片	(7) 1区		赤粘・チャート・角閃石/ 良好/明赤褐	底面はやや肥厚する。外面灰褐色。外面は横ハテ。内面は斜めハテ後横・斜め筋ナデ。
65	磁輪 門筒	底部片	(7) 2区		赤褐色胎・チャート・角閃 石/良好/橙	底面はやや肥厚する。外面は横ハテ。内面はナデ。
標記番号 図版番号	器種 種類	出土 位置	計 測 値 (cm, g)			備 考
66 PL-132	石製品 白玉		長軸:0.7 短軸:0.4 最大厚:0.4 孔:0.25 重量:1.6		横門状を呈する。丁寧な研磨を施す。	
67 PL-132	石製品 白玉		径:1.35 最大厚:0.9 孔:0.25 重量:2.9		僅かに欠損。丁寧な研磨を施す。	
68 PL-132	石製品 白玉		径:1.35 最大厚:0.55 孔:0.2 重量:1.5		片割れ僅かに割直。丁寧な研磨を施す。	
69 PL-132	石製品 白玉		径:1.4 最大厚:0.65 孔:0.25 重量:2.1		完形品。丁寧な研磨を施す。	
70 PL-132	石製品 白玉		径:1.1 最大厚:0.5 孔:0.28 重量:0.8		僅かに欠損。丁寧な研磨を施す。	
71 PL-132	石製品 白玉		径:1.2 最大厚:0.4 孔:0.25 重量:0.7		完形品。丁寧な研磨を施す。	
72 PL-132	土製品 灰玉		径:0.9 最大厚:0.75 孔:0.1 重量:0.6 構成:良好 色調:黒褐色~褐色		完形品。	
73 PL-132	石製品 砂形		長:4.6 最大幅:2.2 厚:0.6 孔:0.15 重量:9.9		完形品。丁寧な研磨を施す。裏面の中心部に紐を持つ。裏面は平皿。	
74 PL-132	石製品 砂形		長:3.35 最大幅:2.5 厚:0.4 孔:0.1 重量:5.3		完形品。丁寧な研磨を施す。裏面裏にも平皿であるが、両側面に扉部となる紐を持つ。	
75 PL-132	石製品 円板		径:2.7 厚:0.6 孔:0.15 重量:8.4		僅かに欠損。丁寧な研磨を施す。	
76 PL-132	石製品 玉		径:1.15 厚:0.65 孔:0.2 重量:0.6		玉の未製品。穿孔は貫通していない。研磨も顕著ではない。	
77 PL-132	土製品 土塊		長:3.7 径:1.3 孔:0.5 重量:5.6 胎土:黄砂粒 構成:良好 色調:明黄褐色		側面、縁部ともナデ。	

第8章 調査の成果

1. 古墳の墳丘下に見る遺構群とその変遷

今回の調査の結果、各古墳の墳丘下から、古墳築造以前の各種遺構が検出されたことは先述してきた通りである。

ここでは、古墳築造前の集落のあり方について考えると共に、その変遷を辿ってみたい。

1号古墳墳丘下の状況

1号古墳の墳丘下からは、古墳築造前の遺構として27・31号住居跡、9号掘立柱建物跡および土器集中箇所、1号集石遺構、7号畠跡が検出されている。

まず、墳丘の盛土直下からは、北西方向に長軸をもち、長軸10.4m、短軸2.8mほどの長楕円状の範囲に拳大の礫が平らに敷き並べられた1号集石遺構が検出され、その一部を石室掘方が壊している。遺構の性格は、不明。

7号畠は墳丘下の北側から東側にかけて、溝状の畝間列17条を検出したが、走行の違い等から複数期の時期差による可能性をもつ。この畠の上位には1号集石遺構が在り、1号集石遺構と同様に一部を石室掘方が壊している。

一方、墳丘下南西側の畑が分布しない区域には、9号掘立柱建物跡と土器集中が位置する。特に、土器集中の性格が祭祀遺構の要因を強く持つこと、その範囲がほぼ9号掘立柱建物跡内に収まること等から、一連の遺構と考えられている。

これらの墳丘下における各遺構の状況から、1号墳築造前には1号集石遺構が存在し、先行して7号畠跡が在る。9号掘立柱建物跡と土器集中については、その性格から7号畠跡と同時期に存在した可能性も否めない。また、古墳の周堀で壊された27号住居跡と土器集中との時期差はなく、やはり同時期の可能性をもつ。

7号古墳墳丘下の状況

7号古墳の墳丘下からは、古墳築造前の遺構として69・114号住居跡、4～6号掘立柱建物跡、さらに1・2号畠跡、遺物集中が検出され、周堀下においても4号住居跡が検出されている。

1号畠跡は、墳丘下の南西半部に検出され、古墳の石室掘方で分断するように壊されている。石室掘方を挟んで12列の溝状の畝間（サク）が並び、調査区西壁付近ではさほど風化の進んでいない遺存状況の良好な畝が確認され、土層観察からは畝の直上に7号墳の墳丘盛土が堆積していることが確認されている。また、畝間の埋土も墳丘の盛土である。こうした状況から、畠の耕作終了から古墳築造までに長い時間を経っていないものと考えられる。2号畠跡は、1号畠跡の畝間の中間に検出された溝状の畝間（サク）で、1号畠跡の畝下に位置しており、1号畠跡に先行する畠であることが確認されている。

次に住居跡をみると、先ず69号住居跡は、1・2号畠跡の下面から検出された住居である。114号住居跡は、覆土の大部分が人為的堆積によることが確認されているものの、1・2号畠跡との新旧関係には不明な点を残す。4号住居跡は、周堀の底面で検出された住居である。

さらに、検出された掘立柱建物跡は、畠跡の東寄りに位置する。畠跡との重複から、6号掘立柱建物跡は1号畠跡より古く、2号畠跡よりも新しいことが確認されている。また、5号掘立柱建物跡は、墳丘直下で出土した須恵器の大甕（第339図12・13、第340図14）の分布範囲とも共有している点から、同一遺構内の遺物と見ることもでき、古墳築造直前に存在していた可能性が極めて高い。

これらの墳丘下における各遺構の状況から、7号墳築造直前には、1号畠跡と5号掘立柱建物跡および遺物集中が存在し、次いで先行する遺構に6号掘立柱建物跡が、さらに先行して2号畠跡、さらに先

行して69号住居跡という順になり、114号住居跡はいずれかの時期に共存したと考えられる。

4号古墳墳丘下の状況

4号古墳の墳丘下からは、古墳築造前の遺構として3～5号畠跡が検出されている。3号畠跡は、墳丘下の北半に僅かに溝状の畝間列7条を確認した。4・5号畠跡の上面で検出され、畝間の走向も異なり、より後出の畠と考えられる。4・5号畠跡は、墳丘下の石室掘方の西側に交差するように検出され、埋土等から、4号畠が5号畠に先行することが確認されている。

9号古墳墳丘下の状況

墳丘下の東半に、溝状の畝間列9条からなる6号畠跡を検出した。

以上、墳丘下における各種の遺構の状況を確認してきたが、古墳築造直前の遺構には、7号墳下の1号畠跡と5号掘立柱建物跡および遺物集中がそれに当たる。古墳築造に関わり、墳丘下面を整地せずに、墳丘下面が畠のまま築造する例には、埼玉県児玉郡神川町城戸野30号墳や南塚原53号墳などがある。金子彰男氏によれば、こうした事象を畝状遺構が意図的に残されたものと考え、土地神に対する祭祀・儀礼を想定している（金子 2004「古墳墳丘下で確認された畝状遺構について」〔埼玉考古第39号〕）。

一方、古墳築造とは時間差をもつが、多くの墳丘下から畠跡が検出され、また住居跡や掘立柱建物跡、祭祀的な土器集中といった各種遺構は、古墳時代の集落のあり方の片鱗を見せている。これらの各遺構の同時性を見出すことは難しいが、生産域（畠）と居住域が混然としている状況が窺える。渋川市（旧子持村）黒井峯遺跡のように、建物や畠の組み合わせからなる単位構成による集落の形成に近い状況と考えられよう。さらに、各遺構の重複から、建物と畠の位置を組み替えている状況も想定できる。

2. 古墳築造の時期差について

今回の調査対象となった古墳は、『上毛古墳総覧』に記載された第106・107・109・112・115・116・120号の7基と、町誌編纂時の調査で確認された4基、さらに今回の調査で新たに検出された4基の計15基の古墳であり、詳細については先述した通りである。

各古墳の配置をみると、各古墳間はある程度の間隔が空いている状況が着て取れる。しかし、調査区の北側に位置する7・11・8号墳の3墳は、ほとんど間隔が空かず、むしろ7号墳と11号墳の周堀は窮屈に接し、11号墳と8号墳では周堀を共有するような状況にある。そうした中、各古墳の墳丘下出土の土器と、周堀出土の土器とが接合することが確認されたことにより、古墳築造の新旧を見出す手がかりが掴めた。

7号墳の墳丘下からは、第339図12・13、第340図14の須恵器の大甕が集中して出土している。この土器集中から出土した他の須恵器大甕片は、7号墳の東側に接する11号墳の周堀内から出土した第344図4の須恵器大甕と接合することでほぼ完形の一體となった。この接合の意味することは、7号墳の築造直前に存在していたであろう5号掘立柱建物跡および須恵器の大甕を主とした土器集中（古墳築造に関わる儀礼?）が機能していた時期に、11号墳の周堀が存在していたこととなる。つまり、7号墳は11号墳より後出の古墳ということになる。

3. 西野原遺跡の全体像について

西野原遺跡（5）（7）とした石田川調節池等整備事業（D池）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告は、本報告書をもって終了となる。

西野原遺跡は、本事業の他に一般県道国定韮塚線（北関東自動車道側道）と北関東自動車道（高速道路本線）の3事業に関わり、当事業団と太田市教育委員会が発掘調査を行い、『西野原（1）（2）』群馬

果埋蔵文化財調査事業団調査報告第387集(2006)、『西野原(3)(4)』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第447集(2008)、『西野原(5)(7)』第1分冊 縄文・弥生時代編一』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第456集(2009)、『西野原(5)(7)』第2分冊 飛鳥時代・平安時代以降編一』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第489集(2010)として、各報告書が刊行されている。

ここでは、各調査箇所を通じて、西野原遺跡の全体像を確認することで調査のまとめをしたい。

縄文時代 縄文時代の遺構には、西野原(5)で前期後半のの諸磯式期の住居跡が1軒、西野原(5)と(7)1区に跨った北側に中期後半のの加曾利E式期の環状集落が検出された。出土した遺物の分布は、西野原(3)にも散見できるが、主体は中期の環状集落の周辺である。

弥生時代 西野原(5)を中心に(2)および(7)1区に跨り、中期後半の集落が検出された。調査区北側の縄文集落に対し、弥生集落は調査区中央から南側に集中し、台地周縁部にあっても地点を異にする。北島式土器を出土させ、当地域での該期の集落の存在は初例であり、その重要性は極めて高い。

古墳時代 古墳時代前半の集落は、西野原(5)および(7)に跨り、広い範囲に点在する。西野原(3)では、小型土器のみを集中させた祭祀的な場所も検出されている。古墳時代後半の集落は、西野原(5)を中心に(7)、(2)、(6)、(3)に跨り、広範囲に展開する。但し、(7)2区および(3)では希薄となり、集落の限界域となる。また、古墳の墳丘下からは、壘が検出されている。

古墳は、『上毛古墳総覧』(1938)の藪塚本町「西野」所在の一角であり、計15基が調査対象となった。残存状況は全体に悪く、全て7世紀前半の古墳であった。台地上に点在する「西野」古墳群としては、西野原(5)・(7)1区が南限となる。

飛鳥時代 7世紀後半の遺構は、西野原遺跡(5)(7)2区に跨り、調査区の南側に集中して検出

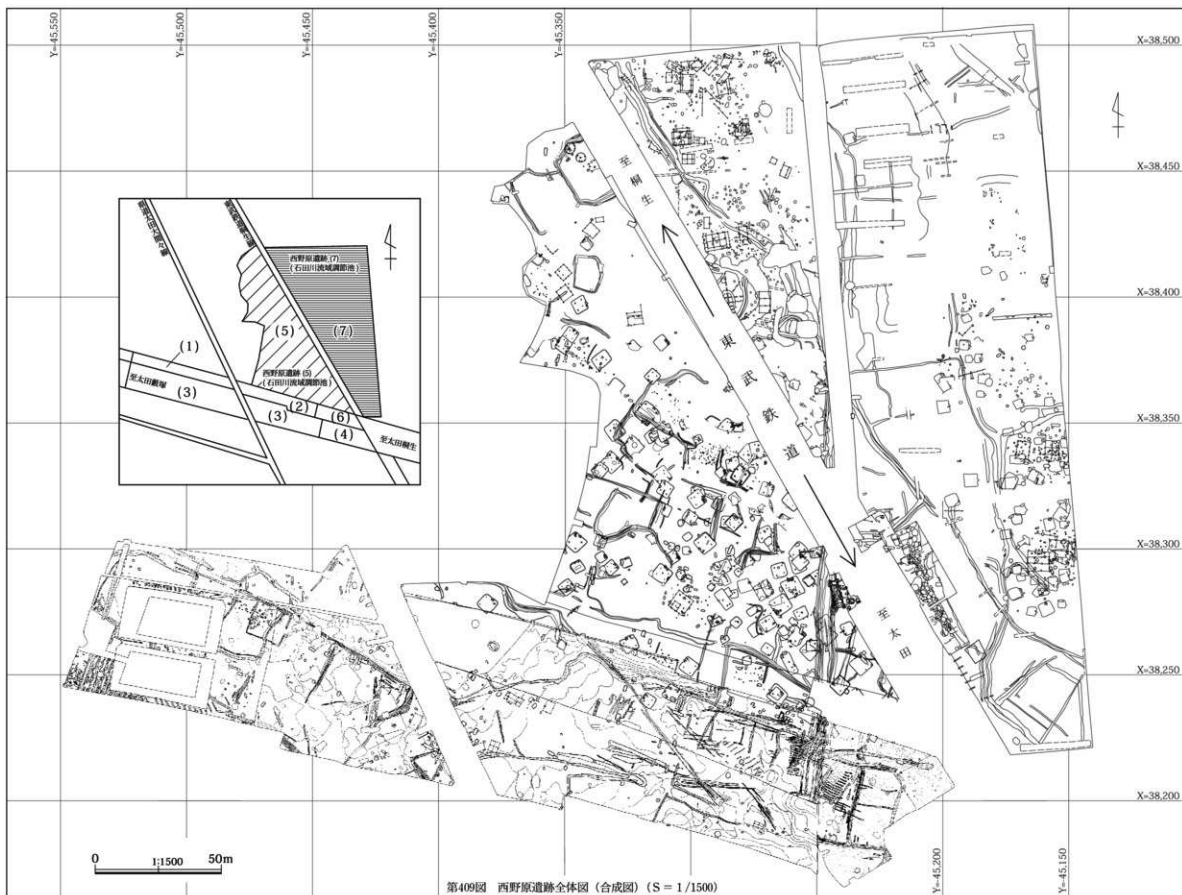
された。主な遺構としては、集落を構成する住居跡や竪穴状遺構、製鉄関連遺構として製鉄炉(箱形炉)をはじめとする竪穴状遺構、土坑、粘土採掘坑、排滓場、砂鉄溜まりといった一連の遺構群、鍛冶工房跡、掘立柱建物跡が検出されている。出土遺物には、土器は基より、製鉄(製錬)に関わる膨大な量の炉壁や鉄滓類、鍛冶に関わる羽口や鍛冶滓、さらに金床石や砥石、敲き石、台石等といった様々な種類の遺物がある。この製鉄(製錬)遺構群の規模・範囲は、台地縁部の東緩斜面を利用した、東西約50m前後、南北約80m前後の範囲に及ぶと推定される。また、今回の調査では4基の製鉄炉が検出されたが、調査地外の東武鉄道桐生線軌道下から身無し川にかけての部分に、製鉄炉群の存在が想定できる。

一方、出土した炉底塊から、「短いタイプの箱形炉」で鉄生産が行われていた可能性をもち、自然科学分析からは、製鉄炉での鋳鉄の生成および鍛冶工房での脱炭行程の作業が行われていた可能性もあると指摘されている。

他方、同時期の周辺遺跡をみると、本遺跡の大規模な製鉄関連遺構群は、新田郡庁ならびに東山道駅路に近接した位置にあり、鍛冶工房内から出土した鉄器等の武器をも生産したとすれば、本遺跡の意味を考える上で、当時の東国における社会情勢をも視野に入れる必要がある。

平安時代 平安時代(9世紀代)の集落は、西野原(7)2区の低地帯の微高部地に検出された。他の調査箇所では、住居跡は検出されていない。また、遺存状況は悪いものの、As-B経石下の水田跡が検出されている。

中世 掘立柱建物跡は、各調査箇所に検出され、数カ所に群在する傾向もある。西野原(7)1区では24棟中18棟が北部に集中し、重複が著しい。また、西野原(3)では、方形の区画溝に囲まれた内部に掘立柱建物跡が存在する遺構が検出されている。



第409図 西野原遺跡全体図 (合成図) (S=1/1500)

分析・同定・鑑定・補遺編

自然科学分析（土壌分析）

西野原遺跡（5）（7）の調査において、古墳の埴土盛土が比較的良好に残存していた古墳の埴丘下から、埴丘築造以前の畝の痕跡と考えられる畝跡・サク跡が多数検出された。特に、7号墳下で検出された1号畝は、埴丘築造直前の畝跡であることが判明しており、その畝の状況もかなり良好な残存状態にあった。このため、古墳築造以前の土地利用および土壌の特性について、検討する必要性が生じた。

検討するにあたり、これら畝跡・サク跡における栽培植物の検証、耕土として利用されたと考えられる土壌についての分析を委託した。また、古墳時代の住居跡内から出土した壺形土器内に、材質の不明な白色物質が確認されており、この白色物質についても併せて分析を委託し、その由来について検討することとした。

分析の結果は、以下の通りである。

I 畝跡における栽培植物の検証および耕作土の土壌分析

I. 畝跡の調査

群馬県下では、弥生時代以降、降下火山灰や噴火等に伴う泥流等の堆積によって、水田跡や畝跡が良好に保存されており、当時の生産遺構が多数確認されている。このことから、当地域では、水田跡や畝跡における栽培植物の検証や、耕作土の土壌の化学成分を対象とした自然科学分析も数多く行われている。

ただし、特に畝跡を対象とした分析では、土壌の特性等の影響から大型植物化石の産状は概して不良の場合が多く、また、土壌の特性も、遺跡の立地・地形、土壌の形成や発達過程、栽培植物の種類や耕作期間、施肥の有無等により、理化学成分の挙動が異なり、遺跡間でも一様でないため、その比較も容易ではないことが明らかとなっている。そのため、現段階では、畝跡等における耕作を検証する場合、遺跡内及び周辺における耕作・非耕作地の層位的な産状の変化を比較対照することが最も有効な検証方法と考えられる。

今回は上述した状況を考慮し、当遺跡で検出された埴丘下における畝跡や畝間溝（以下、サク）を分析対象とし、これらの遺構における土壌の特性や人為的な影響の有無の把握を目的として以下に示す4点の分析課題として設定した。

- (1) 畝・畝間溝を構成する砂・シルト・粘土（粒度）や鉱物の組成
- (2) 畝を形成する堆積物の微細構造
- (3) 畝・畝間溝の植物珪酸体の産状
- (4) 畝・畝間溝の土壌理化学成分の挙動

1. 試料

- (1) 遺跡周辺の地形・地質

藪塚西野原遺跡の立地する大間々扇状地は、桐原面・藪塚面の2面から成り（新井, 1986）、本遺跡は藪塚面東縁部に位置する。藪塚面は、地形面を構成する礫層が扇端に向かって薄くなり、全般に1m前後の上部ローム層で覆われることが明らかとされている。発掘調査区内は藪塚面を構成すると考えられる凹凸が顕著な礫層とその上位には上部ローム層、さらに、黒ボク土層が累重し、この黒ボク土層中には榛名山起源の軽石が混在する。

- (2) 試料採取地点

本遺跡で検出されている遺構は、上述の黒ボク土層より掘込まれ構築されたと考えられるが、これらの堆積

物の削刺や礫層の凹凸により部分的に上部ロームや礫層が露出する状況が確認されている。このうち各古墳の墳丘下から検出された畝跡・サクは、検出された位置や重複関係から1〜7号墳までの名称が付されている。これらの畝跡は、数条の畝・サクで構成され、地点によっては畝跡の下部に異なる畝跡のサクが確認されている。これらのサクは、発掘調査時の所見では、サクの走行を異にし重複する例（4〜5号墳など）や、走行は同方向であるものの異なる時期と考えられる例（1・2号墳など）が認められている。

試料採取を行った各畝跡の土層断面略図及び試料の採取層位を図1に示す。試料採取は、1〜7号墳のうち最も遺存状況が良好であった1・2号墳を主として行った。この他の4〜5・6・7号墳はいずれも畝跡の遺存状況が悪く、あるいは残存せず、サクのみが検出される状況であったことから比較対照試料として試料の採取を行った。さらに、古墳構築後の埋積物である8号墳周縁覆土も比較対照試料として試料採取を行った（図1）。

●1・2号墳

1・2号墳は、7号墳墳丘下部より検出された畝跡である。当畝跡の土層は大きく5層からなる（以下、上位より1〜5層）。これらの土層のうち、5層は下位のローム層と漸移的な土層、4層は1号墳の畝下部に認められる2号墳のサク埋積土、3層は1号墳に伴う耕作土、2層は1号墳耕作土、1層は墳丘盛土と考えられる土層である。2号墳は、1号墳と同方向に畝・サクが延びる。当遺構では、1〜5層が確認された箇所（1地点）より、1層下部から5層まで層厚5cm連続で11点の土壌試料（1地点1〜11）を採取した。さらに、同地点の土壌試料1〜4に相当する層準（1層下部〜3層上部）より柱状で土壌試料を採取した。

●4・5号墳

4・5号墳は、4号墳墳丘下部より検出された畝跡である。の下位で検出された。4〜5号墳の上位には3号墳が検出されているがサクが浅く痕跡程度の状況であった。4・5号墳のサクの走行は斜交しており、当遺構の土層は大きく3層（以下、上位より1〜3層）からなる。これらの土層のうち、3層は上・下部に分けられ、下部は下位のローム層からの漸移層、上部は5号墳の畝あるいはサクの構成土と考えられる土層、2層は、4号墳以前の掘込み埋積土と考えられる土層、1層は4号墳の耕土と考えられる土層であり、3号墳の耕土も含まれている可能性がある。試料は、4号墳サク（1地点）、5号墳サク（2地点）、4号墳畝（3地点）の3箇所を対象とし、各地点1層より層厚5cm連続で、1地点では5点（4・5号墳1地点1〜5）、2地点では4点（4・5号墳2地点1〜4）、3地点では8点（4・5号墳3地点1〜8）の計17点の土壌試料を採取した。

●6号墳

6号墳は、9号墳下部より検出された遺構である。縄文時代包含層である黒一暗褐色土層上面に掘込みの浅いサクのみ検出されている。試料は、サクの埋積土及びサク間の畝に相当すると考えられる地点4箇所を対象に、サク埋積土（1地点1、2地点1、3地点1）3点、畝相当の土層（2地点2〜7、4地点）8点の計11点の土壌試料を採取した。

●7号墳

7号墳は、1号墳下部より検出された畝跡である。黒褐色土上面にサクのみが検出され、サクは下位のローム層に至る。サクの埋積土は上・下部に分けられ、下部はロームの混入が顕著であり、上部は周囲の黒褐色土と類似する。試料は、サク埋積土より下位のローム層まで層厚5cm連続で計5点（7号墳1〜5）の土壌試料を採取した。

●8号墳周縁

8号墳周縁は、砂質ロームを掘込み構築され、周縁底部の砂質ローム上部はわずかに暗色化する状況が認められた。周縁内の埋積物は、下位より暗褐色土、黒褐色土、As-B層と累重する。試料は、周縁が構築された砂質ロームより採取した土壌3点及び周縁内埋積土各層より1点の計6点の土壌試料を採取した。

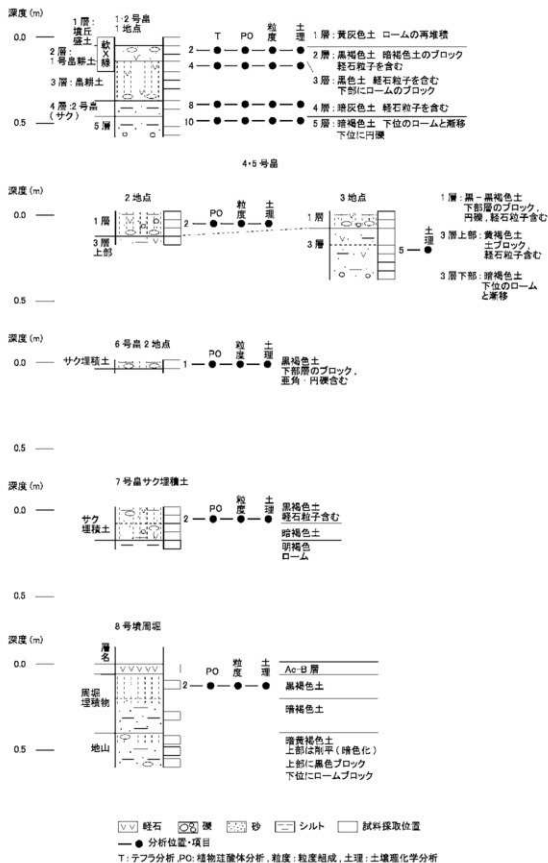


図1 分析試料採取地点土層略図

(3) 分析試料

各畠跡及び周堀内より採取した土壌試料について、前述の各課題を考慮し、分析項目及び試料の選択を行った。その結果、1) 畝・畝間溝を構成する砂・シルト・粘土(粒度)や鉱物の組成については、テフラ分析(4点)・粒度分析(8点)を、2) 畝を形成する堆積物の微細構造観察については、軟X線画像による堆積物微細構造観察・写真撮影(各1点)を、3) 畝・畝間溝の植物珪酸体の産状については植物珪酸体分析(8点)を、4) 畝・畝間溝の土壌理化学成分の挙動については土壌理化学分析(9点)を、それぞれ実施する。分析項目及び分析試料の一覧を表1に示す。

2. 分析方法

(1) テフラ分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

(2) 粒度分析

ピペット法(土壌環境分析法編集委員会, 1997)で測定した。試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とする。また、105°Cで4時間乾燥し、水分量を求める。

風乾細土試料10.00gに水と30%過酸化水素水を加え、熱板上で有機物の分解を行う。分解終了後、遠心洗浄を2回行い、水約500mlを加え、攪拌しながら30分間の超音波処理を行う。この液を500ml沈底瓶に移し、往復振とう機で1時間振とうした後、水で1リットルに定容する。沈底瓶を1分間激しく振り、直ちに静置して所定の時間に5cmの深さから懸濁液10mlを採取する。採取懸濁液を蒸発乾固させ、乾燥させ、秤量する(シルト・粘土の含量)。さらに所定の時間が経過した後、沈底瓶から懸濁液を5cmの深さから10ml採取し、蒸発乾固、乾燥、秤量する(粘土含量)。沈底瓶に残ったシルト・粘土はサイフォンを使ってすべて洗い流し、その残渣を乾燥・秤量する(砂含量)。これを0.2mmφの篩でふるい分け、篩上の残留物を秤量する(粗砂含量)。

これら測定値をもとに粗砂(2.0-0.2mm)、細砂(0.2-0.02mm)、シルト(0.02-0.002mm)、粘土(0.002mm以下)の4成分の合計を100とする各成分の重量%を求め、国際法による土性区分を行う。

(3) 堆積物微細構造観察

試料は、畝に相当する部分を主体とし、墳丘盛土とされる1層の下部より耕作土とされる3層上部を対象として柱状に採取した試料である。室内にて幅7cm、長さ20cm、厚さ1cmの板状に分離し、これを成形し軟X線写真の撮影試料とする。撮影は、ニッテツ・ファインプロダクツ釜石文化財保存処理センターの協力を得ている。

軟X線写真は、ポジ写真の色調を反転したデジタルデータに置き換え、階調や明るさ、コントラストの調整などの簡単な画像補正を行いながら、主な構造のトレースと解析を行う。記載は、「土壌薄片記載ハンドブック」(久馬・八木監訳修, 1989)を参考とする。土壌の基本的構造である粒団(パッド)や粗孔隙ないし空隙、偽隙に由来すると推定される陰影や層相の分布を中心として堆積物の微細堆積構造の記載する。なお、粗孔隙と

表1 分析項目及び試料一覧

遺構名	地点名	試料名・No	分析項目*				
			T	Po	粒	土理	軟X線
1・2号畠	1	2	○	○	○	○	
		4	○	○	○	○	
		8	○	○	○	○	
		10	○	○	○	○	
		ブロック					○
4・5号畠	2	2		○	○	○	
		3	5				○
6号畠	2	1		○	○	○	
7号畠		2		○	○	○	
8号周堀		2		○	○	○	

* T: テフラの検出同定、Po: 植物珪酸体分析、粒: 粒度分析、土理: 土壌理化学分析、軟X線: 堆積物微細構造軟X線写真撮影・観察

間隙の用語については成岡ほか(2000)に従う。面状や管状などの構造単位の特定が可能な亀裂や管状孔隙、間隙、粗孔隙を含む全ての隙間に対して使用している。粗孔隙は、土の乾燥収縮、植物根の腐朽跡あるいは地中動物の通行路などに相当する。

(4) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検しやすいう濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)、およびこれらを含む珪化組織片を近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から栽培植物について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化している。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めている。

(5) 土壌理化学分析

土壌の理化学的特徴を見るため、全炭素量、全窒素量、全リン酸量、可給態リン酸量、可給態窒素量および粒径組成を測定する。全炭素・全窒素はCNコーダー法、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解-パナドモリブデン酸比色法、可給態リン酸はトルオグ法、可給態窒素はリン酸緩衝液抽出-水蒸気蒸留法でそれぞれ行っている(土壌環境分析法編集委員会, 1997前出、小川ほか, 1989)。以下に、各項目の操作工程を示す。

1) 試料調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とする。さらに、加熱減量法(105°Cで4時間の乾燥)により、水分量を求める。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料とする。

2) 全炭素・全窒素量の測定

粉碎土試料500-1000mgを正確に秤り、サンプルポードに充填した後、CNコーダー(ヤナコ分析工業製)に挿入する。試料をキャリアガス(He)気流中で950°Cに加熱燃焼し、発生した燃焼ガスは純化させ、CO₂およびN₂の組成にする。TCD検出器により、炭素および窒素の濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた試料中の水分から乾土あたりの全炭素量(T-C%)および全窒素量(T-N%)を求める。また、全炭素量を全窒素量で除し、C/N比(炭素率)を算出する。

3) 全リン酸量の測定

粉碎土試料1.00gをケルダールフラスコに秤り取り、はじめに硝酸(HNO₃)10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO₄)20mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液(パナドモリブデン酸・硝酸液)を加えて分光光度計によりリン酸(P₂O₅)濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量(P₂O₅ mg/g)を求める。

4) 可給態リン酸量の測定(トルオグ法)

風乾細土試料1.00gを300ml三角フラスコに秤り取り、0.002N硫酸溶液(pH3)200mlを加え、室温で1時間振とうし、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に秤り取り、混合発色試薬を加えて分光光度計によりリン酸濃度を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの可給態リン酸量(P₂O₅mg/乾土100g)を求める。

5) 可給態窒素量の測定

風乾細土試料10.00gを100ml三角フラスコに秤り取り、pH7.0のリン酸緩衝液50mlを加え、室温で1時間振とう

うし、ろ過する。ろ液をケルダール分解し、水蒸気蒸留法によって窒素量を測定する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの可給態窒素量 (Nmg/乾土100g) を求める。

3. 結果

(1) テフラ分析

結果を表2に示す。1・2号畠の4点からは、軽石が検出されるが、スコリアおよび火山ガラスは認められない。軽石は試料番号2(2層)と4(3層)に中量、試料番号8(4層)に少量、試料番号10(5層)に微量含まれる。これらのうち、試料番号10を除く3点の試料には特徴の異なる2種類の軽石が混在する。1つは、最大径約3.0mm、粒径の淘汰度は良好、灰褐色を呈し、発泡はやや良好、斜方輝石の斑品を包有する。もう1つは、最大径約6.0mm、粒径の淘汰度は不良、灰白色を呈し、発泡は不良、角閃石の斑品を包有する。試料番号2では、2種類の軽石がほぼ同量程度に混在する。試料番号4では前者の軽石が多く、試料番号8では後者の軽石は極めて微量しか認められない。また、試料番号10には前者の軽石のみである。

表2 テフラ分析結果

層名	試料番号	スコリア		火山ガラス		軽石		由来するテフラ
		量	量	量	色調・発泡度	最大粒径		
2層	2	-	-	+++	GBr*sg(opx), GW*b(ho)	3.0 (GBr) 6.0 (W)	As-C, Hr-FP	
3層	4	-	-	+++	GBr*sg(opx) > GW*b(ho)	3.0 (GBr) 4.0 (W)	As-C > > Hr-FP	
4層	8	-	-	++	GBr*sg(opx) >> GW*b(ho)	3.0 (GBr) 3.5 (W)	As-C >> Hr-FP	
5層	10	-	-	+	GBr*sg(opx)	3.0	As-C	

凡例 - : 含まれない, (+): きわめて微量, ++: 微量, +++: 少量, ++++: 中量, +++++: 多量。
B: 黒色, G: 灰色, Br: 褐色, GB: 灰黒色, GBr: 灰褐色, R: 赤色, GW: 白色, R: 良好, sg: やや良好, sb: やや不良, b: 不良, 最大粒径はmm, cl: 無色透明, br: 褐色, bw: パブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, (opx): 斜方輝石斑品包有, (ho): 角閃石斑品包有。

(2) 粒度分析

結果を表3、図2に示す。各試料では、砂分の割合が50%以上を占める。1・2号畠の4点は、砂分が40~65%の範囲にある壤土(L)に分類される。また、この他の試料では6号畠2地点の試料番号1(サク埋積土)が同様に壤土である。4・5号畠2地点の試料番号1(4・5号畠の1層)と7号畠の試料番号2(サク埋積土)、および8号墳周囲の試料番号2(周溝埋積物)は更に砂分に富み、砂分が65~85%の範囲にある砂壤土(SL)に分類される。いずれの試料も、養分保持の一端を担う粘土分が10%前後と少ない。

(3) 堆積物微細構造観察

1号畠3層上部から1層下部の軟X線写真および主な構造のトレース図を図版3に示す。上位方向に向かって、次の変化が確認される。

3層上部は、暗褐色を呈する細砂・粗粒砂・中粒砂混じり細粒砂質シルトから成る。軟X線写真では、これら砕屑物から成る垂角状を呈した集合体ないしブロック土が認められる。集合体ないしブロック土の径は上位に向かって減じ、下部で2cm程度、上部で1cm程度である。集合体ないしブロック土の間隙は、上位に向かい

表3 粒度分析結果

遺構名	試料採取地点	試料番号	粒径組成				
			粗砂 (%)	細砂 (%)	シルト (%)	粘土 (%)	土性
1・2号畠	1地点	2	35.1	29.5	23.8	11.6	L
		4	35.9	28.0	24.6	11.5	L
		8	31.8	29.9	27.7	10.6	L
		10	27.5	29.9	31.5	11.1	L
4-5号畠	2地点	2	40.4	28.9	21.7	9.0	SL
6号畠	2地点	1	26.4	29.5	31.5	12.6	L
7号畠		2	44.5	25.1	21.8	8.6	SL
8号墳	周 廻	2	32.4	33.9	20.8	12.9	SL

1) 土性: 土壤調査ハンドブック(ベドログジスト懇談会編, 1984)の野外土性による。L: 壤土(粘土0~15%、シルト20~45%、砂40~65%)、SL: 砂壤土(粘土0~15%、シルト0~35%、砂65~85%)

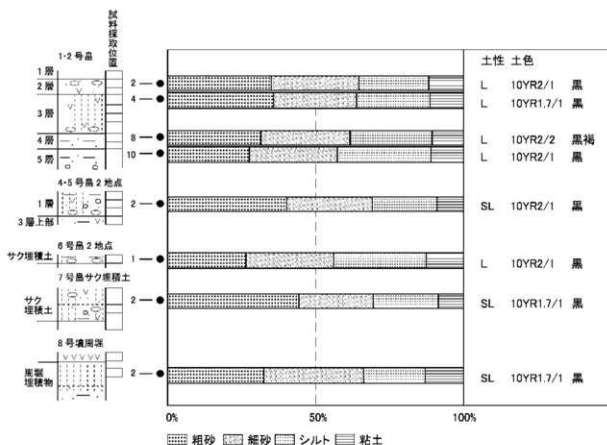


図2 島跡および古墳周縁の粒度組成

漸次増し、間隙の領域も増す。下部では間隙の壁面が平行する(あるいは両側が接合する)、あるいはチャンパー状を呈する。間隙には植物根痕に由来すると思われる不連続な斜め方向のものが認められる。

2層は、暗褐色を呈する細砂・粗粒砂・中粒砂混じりの褐色細粒砂質シルトから成る。軟X線写真では、2層下部～中部に、粒径が比較的揃った垂角状ないし球状の集合体、あるいはブロック土が認められる。球状の集合体には、それらが集合する二次的な集合体を形成している部分もある。集合体の径は下部から中部にかけて減じ、下部で10mm前後、中部で5mm前後である。集合体ないしブロック土の間隙は、2層下部から中部に向かい漸次増し、その領域も増す。さらに間隙の多くは微細な植物根痕に由来する孔隙に相当するものと思われる。2層上部は、中下部と比較して粒径がやや増す。2層中部で認められた集合体も確認されるが、それらが接合した10～20mm程度の大きな集合体ないしブロック土として確認される部分が多い。これらの分布は、下に凸な配置や引きずられたような葉理状に碎屑物が並ぶ場所が認められる(写真トレース図に矢印で示した部分など)。集合体ないしブロック土の間隙密度は、2層中部と比較して低下する。これらの構造は上方からの圧力により本来の構造が変形したものと判断される。1層の盛土の影響によるものと推定される。

1層は褐色を呈する細粒砂質シルトからなる。軟X線写真では、垂角状の集合体およびブロック土からなる。間隙はあまり発達しない。上位から伸びる植物根痕に由来すると判断される間隙が認められるが、2層・3層で確認されたような微細な間隙はほとんど認められなくなる。

(4) 植物珪酸体分析

結果を表4、図3に示す。各島跡試料からは植物珪酸体が検出される。以下に、各地点の植物珪酸体の産状を述べる。

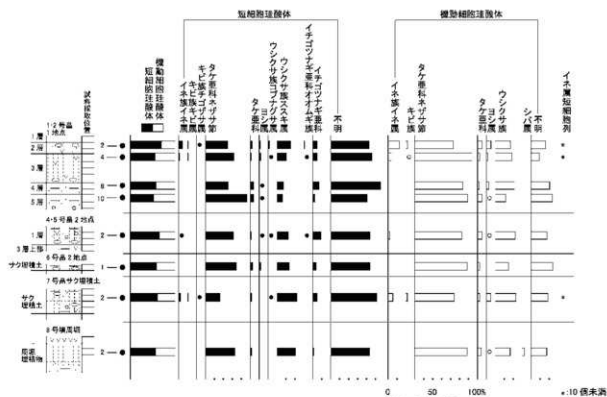


図3 畝跡および古墳周堀の植物珪酸体群集と珪化組織片の産状

出現率は、イネ科葉部短い細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。
 なお、●は1%未満の種類を示す。また、珪化組織片の産状を*で示す。

表4 植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	1・2号品 1地点				4・5号品 2地点	6号品 2地点	7号品	8号墳 周堀
		2	4	8	10	2	1	2	2
イネ科葉部短細胞珪酸体									
イネ族イネ属	12	2	—	—	—	1	—	4	—
キビ族キビ属	2	2	—	—	—	—	—	2	—
キビ族チゴザリ属	1	—	—	—	—	—	—	1	—
タケ亜科ネザサ節	68	51	39	59	61	56	32	51	
タケ亜科	6	2	6	5	2	4	4	3	
ヨシ属	4	3	1	1	1	3	—	—	
ウシクサ族コブナグサ属	5	1	—	—	1	—	1	—	
ウシクサ族ススキ属	41	17	11	8	25	22	44	32	
イネゴツナギ亜科オムギ族	2	1	—	—	1	—	—	—	
イネゴツナギ亜科	14	8	11	3	18	6	9	2	
不明キビ型	58	35	50	30	41	31	45	42	
不明ヒダシバ型	25	16	15	3	20	16	22	11	
不明ダンシク型	34	23	21	19	25	25	35	15	
イネ科葉身機動細胞珪酸体									
イネ族イネ属	15	5	—	—	—	2	—	7	—
キビ族	2	1	—	—	—	—	—	2	—
タケ亜科ネザサ節	51	84	60	68	54	68	56	71	
タケ亜科	6	3	2	6	5	3	3	5	
ヨシ属	6	2	3	1	1	—	6	1	
ウシクサ族	20	24	24	13	23	17	29	20	
シバ属	—	—	—	—	—	—	—	3	
不明	19	12	23	27	18	28	24	21	
合計									
イネ科葉部短細胞珪酸体	272	161	154	128	196	163	199	156	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	119	131	112	115	103	116	127	121	
総計	391	292	266	243	299	279	326	277	
珪化組織片									
イネ属短細胞列	3	1	—	—	—	—	3	—	

● 1・2号畠

1・2号畠では、4点いずれも産状が類似し、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。また、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科なども認められる。ただし、試料番号4(3層)と2(同2層)では栽培植物であるイネ属も認められ、上位の試料番号2で出現率が高くなる。また、葉部に形成されるイネ属短細胞列もわずかに見られる。その他、栽培植物であるキビを含む分類群のキビ属、オオムギやコムギなどを含む分類群のオオムギ属も検出される。

● 4・5号畠

4・5号畠では、1・2号畠と同様にネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。また、イネ属やオオムギ属もわずかに検出される。

● 6号畠

6号畠でも、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。ただし、栽培植物や栽培種を含む分類群に由来する植物珪酸体は全く認められない。

● 7号畠

7号畠でもネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。また、イネ属とキビ属もわずかに認められる。イネ属には、葉部に形成されるイネ属短細胞列もわずかに検出される。

● 8号墳周堀

8号墳周堀でも、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。しかし、栽培植物や栽培種を含む分類群に由来する植物珪酸体は全く認められない。

(5) 土壌理化学分析

結果を表5、図4に示す。畠跡試料の全炭素量は2~5%であり、砂質な土壌としては比較的高い傾向にある。また、一般的に畑のような酸化的状態では炭素や窒素の土壌中への還元が抑制され、また作物によって吸収されることにより窒素が減少する傾向が見られ、この場合、C/N比の減少する傾向が認められる。畠跡試料と8号墳周堀を比較すると、概して畠跡試料で全窒素量が低く、C/N比の値を見る限り畠跡試料でわずかに低い程度である。

全リン酸量は、最も全炭素量の高い8号墳周堀の試料番号2(周溝埋積物)で1.01 P₂O₅mg/gであるのに対し、1号畠1地点の試料番号4(1・2号畠の3層)と2(同2層)および6号畠2地点の試料番号1(サク埋積土)では2.0 P₂O₅mg/g程度とやや全リン酸が多い傾向にある。しかし、植物が利用可能な状態にある可給態リン酸の含量は、いずれの試料も定量下限値以下である。なお、可給態窒素量については2~4 mg/100 g程度と一般的な値にある。

4. 考察

(1) 畝・畝間溝を構成する砂・シルト・粘土(粒度)や鉱物の組成

1・2号畠の土層断面及び試料中に認められた灰褐色を呈する軽石は、上述した特徴や、1・2号畠の上位に構築された古墳の年代観が7世紀前半とされ、明らかにそれ以前の遺構及び土層であること、さらに、遺跡の地理的位置から、古墳時代(4世紀中葉:石川ほか, 1979)に浅間火山から噴出した浅間Cテフラ(As-C:新井, 1979)に由来すると考えられる。一方、灰白色を呈する軽石は、同様に上述した特徴と検出された層位および地理的位置から、古墳時代の6世紀に榛名火山から噴出したテフラに由来すると考えられる。この6世紀に噴出した榛名火山のテフラは、6世紀初頭に榛名二ツ岳岳伊香保テフラ(Hr-FP:新井, 1979; 早田, 1989; 町田・新井, 2003)、6世紀中葉に榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP:新井, 1979; 早田, 1989; 町田・新井, 2003)の2枚があることが知られている。早田(1989)の記載から、Hr-FAは火砕流を主体としたテフラであり、Hr-FPは降下軽石を主体としたテフラであるとされる。また、同記載により、給源より遠隔地では、Hr-FA

表5 土壌理化学分析結果

遺構名	試料採取地点	試料番号	土色	全炭素 (%)	全窒素 (%)	C/N	全リン酸 (mg/g)	可給リン酸 (mg/100g)	可給窒素 (mg/100g)
1号島	1地点	2	10YR2/1 黒	2.79	0.17	16	1.70	N.D	2.7
		4	10YR1.7/1 黒	4.10	0.24	17	2.03	N.D	2.4
		8	10YR2/2 黒褐	3.75	0.20	19	1.20	N.D	2.7
		10	10YR2/1 黒	2.83	0.18	16	1.09	N.D	4.2
4・5号島	2地点	2	10YR2/1 黒	2.23	0.14	16	1.16	N.D	3.3
		5	10YR2/3 黒褐	2.17	0.14	16	0.89	N.D	2.1
3地点	2	10YR2/3 黒褐	2.17	0.14	16	0.89	N.D	2.1	
6号島	2地点	1	10YR2/1 黒	4.78	0.27	18	1.93	N.D	2.0
7号島		2	10YR1.7/1 黒	3.29	0.19	17	1.03	N.D	2.1
8号墳	固 堀	2	10YR1.7/1 黒	4.99	0.28	18	1.01	N.D	3.0

1) 土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。

2) N.D:定量下限値以下

は火砕流に由来する粗粒軽石やスポンジ状の軽石型火山ガラスが多く含まれ、Hr-FPは降下軽石からなるとされている。なお、両テフラの分布域は、Hr-FAは榛名火山より東方の北関東一帯(早田,1989)、Hr-FPは降下堆積物の分布軸が北東からやや東よりの方向に伸びるとされている(早田,1989)が、その分布範囲は南東側の井野川付近まで広がっている(早田,1993)。今回の試料中にはHr-FAに特徴的に含まれる細粒の発達良好な軽石型火山ガラスが認められなかったことから、軽石はHr-FPに由来すると判断した。

ただし、本遺跡の比較的近隣である中内村前遺跡や前沖遺跡(太田市)では、本分析の灰白色軽石とほぼ同様の特徴を有する軽石が検出され、軽石型火山ガラスは検出されていないが、これらの軽石はいずれもHr-FAに由来するとされている(古環境研究所,2003;早田,2004)。なお、中内村前遺跡の分析例では、火山ガラスの屈折率からHr-FAと同定しているが、同時に記載されている同試料の角閃石の屈折率はHr-FPと一致しており、一方の前沖遺跡の分析例では単に軽石の特徴からとされているのみであり、Hr-FAとした特徴は明瞭ではない。

以上のことから、現時点では、本分析の灰白色軽石を確実にHr-FPに由来すると言及するためには、給源と本遺跡間の地域におけるHr-FAとHr-FPの両テフラの分布状況を確認するといった検討が必要である。

なお、本分析結果では灰白色軽石の由来については課題が残るが、上位ほどこの軽石が多くなる産状が指摘され、同時に検出されたAs-Cテフラとの新旧関係は調和的と言える。また、2号島サクの埋積土の4層や1号島耕作土とされる3層、2層中にHr-FPが拡散する産状から、これらの島跡は古くともHr-FP降灰以降、すなわち6世紀中葉(灰白色軽石がHr-FAである場合には6世紀初頭)以降であることが指摘される。

また、島跡の粒度分析結果では、1・2号島と6号島は壤土(L)であり、4・5号島と7号島、8号墳周縁埋積物は砂壤土(SL)に区分された。いずれも、砂分の割合が高く、水はけが良好であったことが示唆される。ただし、いずれの島跡も養分保持能力に関与する粘土分が少なく、養分を保持しにくい土性であったことが示唆される。

(2) 畝を形成する堆積物の微細構造

1・2号島1地点の3層上部から2層下部の土壌構造の変化は、松田・別所(1997)、松田(2004)の畑作地土壌の構造に類似することから、試料に観察された構造も、おそらく畑地の作土としての利用(あるいは何らかの擾乱が行われた)ことを示しているものと考えられる。畑地作土として利用されたものである場合、3層上部が耕起により生じた構造、2層下部一中部が耕起・反転、攪拌により生じた耕作地表層に由来するものと考えられる。ただし、今回の調査では3層全体およびその下位堆積物の微細構造を確認していないため、当地点における人為的擾乱のプロセスについては今後の課題とされる。

また、2層上部は、1層の盛土時の影響を受け、圧密により変形している可能性がある。そのため盛土直前の土壌構造を把握することが難しいが、部分的に2層下部一中部と同様な集集体の存在が確認されることから、耕作土として利用されていた可能性がある。

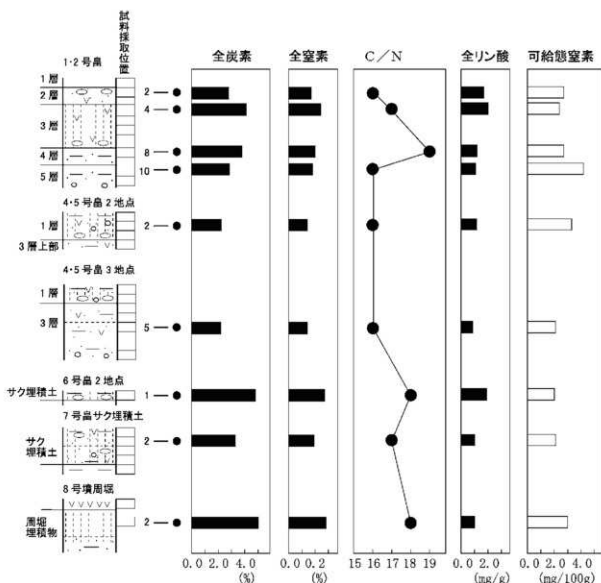


図4 島跡および古墳周壕の理化学性

以上のように軟X線写真による土壌断面の観察から、3層上部-2層が耕作地に利用されていたことが示唆される。ただし、軟X線写真ではメソスケールの記載が主体であり、マイクロスケールでの記載（例えば間隙や孔隙の状態やベッドの性質に関する微細構造記載）は難しい。これら微細構造の記載は耕作地土壌を認定する上でも重要であり、今後は堆積物試料について土壌薄片の観察も併用し、マイクロ・メソの両スケールによる記載を行うことにより、耕作地の状態を復元しうる可能性がある。

(3) 畝・畝間溝の植物珪酸体の産状

本遺跡では、6世紀の榛名火山を給源とする降下火山灰を含む島跡が展開する土地利用から、7世紀前半以降の群集墳の形成といった土地利用への変化が発掘調査によって確認されている。また、8号墳周壕にはAs-Bが堆積することから、分析試料とした8号墳周壕内埋積物は古墳構築後から12世紀前半までに堆積した土層と言える。

この周壕内堆積物における植物珪酸体の産状と各島跡を比較すると、6号島を除く島跡から栽培植物のイネ属が検出された。1号島では、耕作土とされる3・2層でイネ属が認められ、特に墳丘盛土直下の2層で出現

率が高くなる傾向を示した。このことから、当畠跡では陸稲栽培などの稲作が行われた可能性がある。また、4・5号畠や7号畠ではイネ属とともにキビ属やオオムギ族も検出された。これらの植物珪酸体が栽培種に由来するものであれば、陸稲栽培だけではなくキビ類やムギ類の栽培が行われていた可能性もある。当該期の畠耕土から検出された栽培植物に由来する植物珪酸体の検出事例では、中筋遺跡（淡川市）の畠跡からイネ属やキビ属、オオムギ族が（バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993）、行幸田畑中遺跡（淡川市）ではHr-FA直下の畑作の可能性が推定される層位からはイネ属やオオムギ族が検出されている（バリノ・サーヴェイ株式会社, 1992）。

なお、イネ属では、葉部に形成される短細胞も僅かに検出されたことから、イネ属の植物体である稲葉が土壌中に混入していたことが示唆される。その背景として、耕作中に栽培していた植物体が混入した、あるいは、稲葉が畠の保温・保湿のための敷き藁に利用された、稲藁堆肥として混入した可能性が挙げられる。ただし、本分析結果ではイネ属の産状は全体の中でも優占しないことから、耕土中に取り込まれにくい状況であったことが考えられ、これらの畠跡ではイネ科に由来する栽培植物以外の作物を栽培していた可能性もある。イネ科を除く栽培植物としては、特徴的な植物珪酸体を形成しない作物（マメ類など）や、現代の麻栽培の方法、生育期に畝立てされる、畝断面がカマボコ状を呈し1条植えの形態を持つといった点との比較から指摘される麻栽培等の可能性（能登, 1991）を考慮する必要がある。

一方、この他の植物珪酸体の産状を見ると、畠跡や古墳周堀埋積物のいずれの試料においても、ネザサ節などタケ亜科の産状は同様であり、また、産出も目立つ。タケ亜科の植物珪酸体は他のイネ科と比較して風化に強く、また生産量が多い（近藤, 1982；杉山・藤原, 1986）ことから、他の種類よりも残留しやすいとされている。ネザサ節等のタケ亜科には乾いた場所に生育する種類が多いことから、本遺跡の周辺にネザサ節が生育したことが窺われる。また、湿潤な場所に多く生育するヨシ属や、乾いた場所に生育する種類を含むススキ属が検出されていることから、本遺跡や周辺の微高地や沖積地等の植生を反映していると考えられる。

(4) 畝・畝間溝の土壌理化学成分的挙動

本遺跡の畠跡の土壌は、全炭素量から土壌有機物が多く存在することが示唆された。土壌有機物は作物の生育基盤となる土壌の物理性、化学性、生物性を改善し、生育や収量を高める効果を担っており、一般的に多いことが望ましく、腐植量に換算して2%以下の土壌では有機物を施与するなどの改良が必要とされる。また可給態窒素量も一般的な値であった。いずれの畠跡の土壌も、栽培には充分な量の有機物が存在していると言える。ただし、C/N比は8号墳周堀埋積物と比較してわずかに低い程度であり、植物体は利用しにくい状態であった可能性がある。

一方、植物が生育するための三要素のひとつであるリン酸は、1・2号畠1地点の3・2層、6号畠2地点サク埋積土で全リン酸量が多い傾向が認められた。ただし、これらを含めて畠跡の土壌では可給態リン酸が定量下限値以下であった。粒度分析結果で指摘された土壌の特性を考慮すると、いずれも砂質な土壌であるためリン酸を固定する能力が低く、植物が利用可能なリン酸成分が土壌中から流亡しやすかった状況が窺われる。

因みに、群馬県内における畠跡等の耕作地における土壌の理化学的を行った調査事例では、前出の行幸田畑中遺跡のHr-FA直下で検出された畑作の可能性が想定される層位の黒ボク土における全リン酸量は、4.0 P_2O_5 mg/g前後（報文中の400 P_2O_5 mg/100 g前後を P_2O_5 mg/g換算）であり（バリノ・サーヴェイ株式会社, 1992前出）、現代の既耕地の含量3.0 P_2O_5 mg/gと近い値を示した。下田遺跡（佐波郡東村）では、浅間山の天明三年噴火に伴う泥流直下の畑作耕土の調査事例では、全炭素量や全窒素量とともに全リン酸量も高い傾向が確認されている（バリノ・サーヴェイ株式会社, 未公表資料）。この他、長野原久々戸遺跡（吾妻郡長野原町）で検出された同時期の畑遺構の報告例（須永ほか, 2000）では、可給態窒素量と可給態リン酸量の比が畠土壌の場合1.5以下となり、これが畑遺構の特性を表す指標となり得るとの指摘もある。

II 白色物質の由来

23号住居跡より出土した壘形土器内に認められた白色物質は、実体鏡及び顕微鏡観察の結果、わずかに植物珪酸体が認められたのみで、白色を呈する軽石等のテフラも認められなかった。このことから、灰化したイネ科植物片等やテフラが白色物質の本質物質でないことが明らかとされた。なお、これらの観察を行う際の前処理過程で塩酸に対する発泡が認められたことから、炭酸カルシウムを主体とする物質である可能性が想定された。

ここでは白色物質の成分の特定を目的としてX線回折分析を行い、さらに、放射性炭素年代測定 (AMS法) により年代値を得て、鉱物 (岩石) 系 (測定限界を超える値) か、当時生息した貝などに由来するものであるか検証することとした。

1. 試料

試料は、23号住居跡より出土した壘形土器内の白色物質である。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定 (AMS法)

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma) に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV-4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

(2) X線回折分析

採取した白色物質をメノウ乳鉢で微粉砕した後、アセトンを用いて無反射試料板に塗布し、試料を作成する。この試料について、以下の条件で測定する。

装置：理学電気製 MultiFlex	Divergency Slit：1°
Target：Cu (K α)	Scattering Slit：1°
Monochrometer：Graphite 湾曲	Receiving Slit：0.3mm
Voltage：40KV	Scanning Speed：2°/min
Current：40Ma	Scanning Mode：連続法
Detector：SC	Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps	Scanning Range：2～45°

検出された物質の同定解析は、Materials Data, Inc.のX線回折パターン処理プログラム JADE を用い、該当する化合物または鉱物を検索する。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表6に示す。白色物質の年代値 (補正年代) は、1670BPを示した。

(2) X線回折分析

結果を図5に示す。白色物質のX線回折チャートからは、主な構成成分として方解石 (calcite) が確認される。また、燐灰石 (hydroxylapatite) や石灰 (lime) など、他のカルシウム鉱物が認められる。なお石英 (quartz)、斜長石 (anorthite)、雲母鉱物 (muscovite) などの造岩鉱物も微量検出される。

表6 放射性炭素年代測定結果

試料名	試料の質	補正年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 (BP)	Code. No.
23号住居跡壘形土器内白色物質	—	1670 \pm 30	-26.07 \pm 0.65	1690 \pm 30	IAAA-41004

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

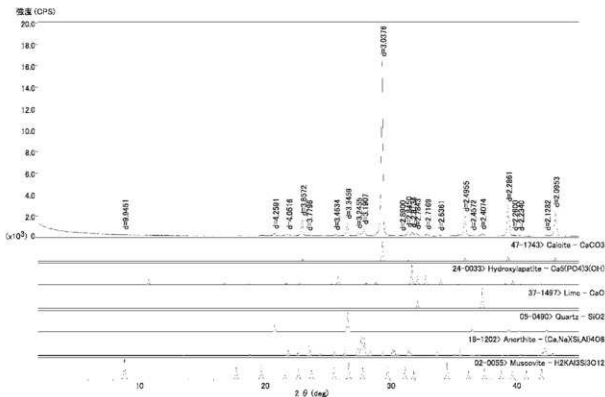


図5 壘形土器出土白色物質のX線回折チャート
測定結果を最上位に示す。また、下に該当する化合物または鉱物の波形を示す。

4. 考察

X線回折分析で確認された白色物質の主要成分は方解石であり、この他に燐灰石や石灰などのカルシウム成分も認められた。また、白色物質からは、地質学的にみれば極めて新しい放射性炭素年代が得られているが、この炭素はおそらく方解石を構成している炭素に由来すると思われる。方解石は、自然界では主に石灰岩の主要な構成鉱物として存在するが、これとは別に貝殻や珊瑚の骨格を構成する鉱物としても存在する。白色物質の主要成分である方解石は、放射性炭素年代測定値から石灰岩に由来するものではないことは確実であることから、貝殻等の生物体に由来する可能性がある。

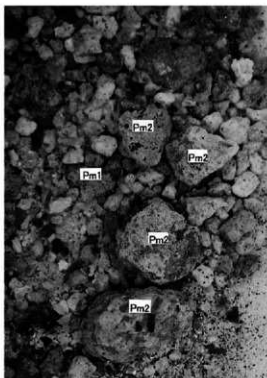
なお、貝殻等の利用については、牡蠣貝や蛤などの貝殻を焼くことにより消石灰が得られることが知られており、スサ材(植物片)と混ぜて漆喰としての利用や、製鉄時のスラグ(不純物)形成への利用例などがある。

引用文献

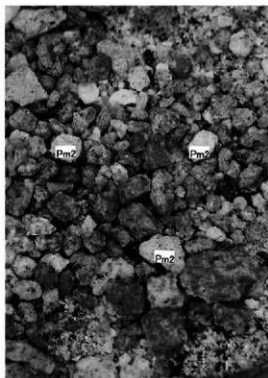
- 新井房夫 (1979) 『関東地方北西部の縄文時代以降の指標ナフラ層』考古学ジャーナル, 157, 41-52.
 新井房夫 (1986) 『関東平野北部の更新統』日本の地質『関東地方』編集委員会編『日本の地質3 関東地方』, 共立出版, 180-181.

- 久馬一剛・八木久義監修 (1989) 『土壌薄片記載ハンドブック』博友社, 176p.
- 土壌環境分析法編集委員会編 (1997) 『土壌環境分析法』博友社, 427p.
- Greggoly J Retallack (2001) Soils of the Past An introduction to paleopedology. BlakwellScience. 404p.
- 近藤謙三 (1982) 『Plant opal 分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究』昭和56年度科学研究費(一般研究C)研究成果報告書, 32p.
- 近藤謙三・佐藤 隆 (1986) 『植物珪酸体分析, その特性と応用』第四紀研究, 25, 31-64.
- 石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一 (1979) 『火山堆積物と遺跡 I』考古学ジャーナル, 159, 3-40.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会, 336p.
- 松田順一郎・別所秀高 (1997) 『大阪府北島遺跡における畑地形成と地形発達』日本文化財科学会第14回大会 研究発表要旨集, 70-71.
- 松田順一郎 (2004) 『古墳時代と江戸時代の畑地堆積物堆積構造の比較—大阪府久宝寺遺跡、京都府山崎津跡の事例—』日本文化財科学会 第21回大会研究発表要旨集, 62-63.
- 成岡 市・岩田幸良・駒村正治 (2000) 『関東ローム層土における粗孔隙の透水、通気および排水機能』農業土木学会論文集, 208, 63-71.
- 能登 健 (1999) 『畑作農耕, 古墳時代の研究 4 生産と流通 I』雄山閣出版, 89-103.
- 小川吉雄・加藤弘道・石川 実 (1989) 『リン酸緩衝液抽出による可給態窒素の簡易測定法』日本土壌肥料学会誌, 60, 160-163.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1992) 『行幸田畑中遺跡自然科学分析報告』淡川市発掘調査報告書第31集「市内遺跡V—1991年度補助事業に伴う調査報告及び試掘記録—」群馬県淡川市教育委員会, 20-31.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1993) 『淡川市中筋遺跡(第7次調査)の自然科学分析調査』淡川市発掘調査報告書第34集「中筋遺跡第7次発掘調査報告書」群馬県淡川市教育委員会, 40-60.
- 早田 勉 (1989) 『六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害』第四紀研究, 27, 297-312.
- 早田 勉 (1993) 『古墳時代におこった榛名山二ツ岳の噴火』新井房夫編 火山灰考古学, 古今書院, 128-150.
- 杉山真二・藤原宏志 (1986) 『機動細胞珪酸体の形態によるタケノコ植物の同定—古環境推定の基礎資料として—』考古学と自然科学, 19, 69-84.
- 須永薫子・坂上寛一・関 俊明 (2000) 『天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した畑土壌の理化学的特性』日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集, 62-63.

図版1 テフラ



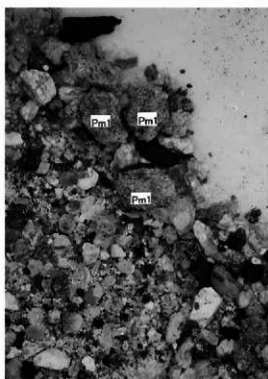
1.As-CとHr-FP(1号島1地点:2)



2.As-CとHr-FP(1号島1地点:4)



3.As-C(1号島1地点:8)

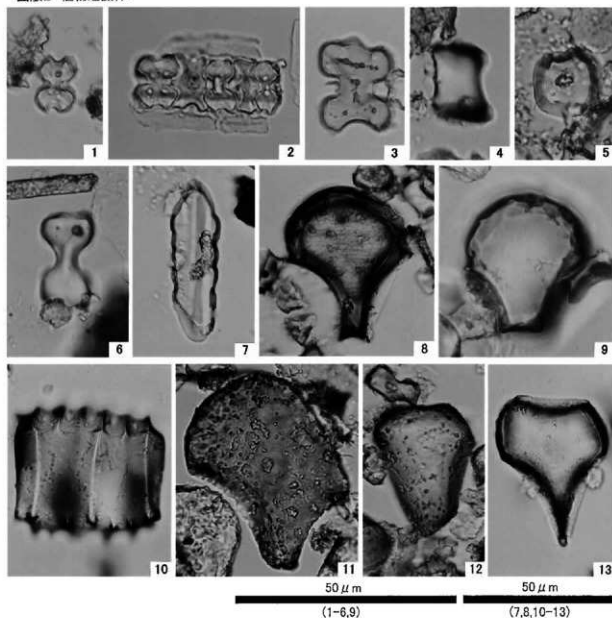


4.As-C(1号島1地点:10)

Pm1:As-C Pm2:Hr-FP

4mm

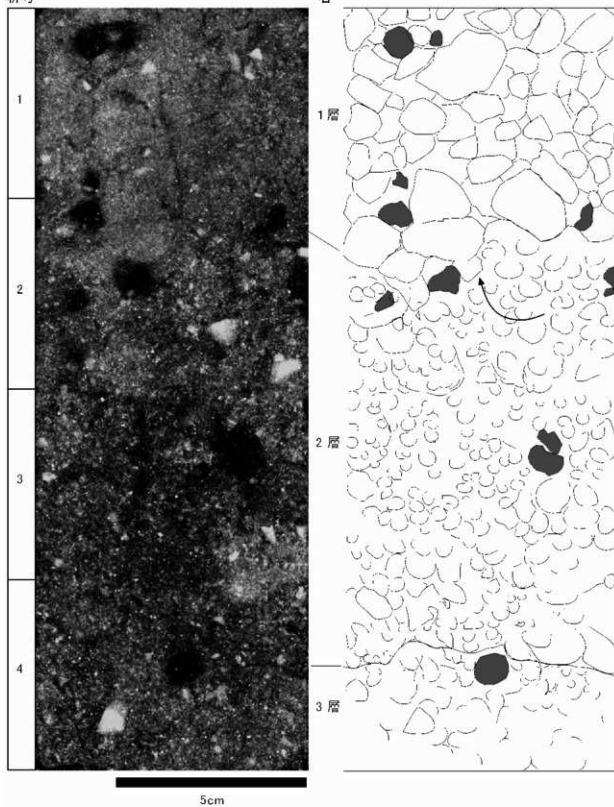
図版2 植物珪酸体



- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) | 2. イネ属短細胞列(7号畠;2) |
| 3. キビ属短細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) | 4. ネザサ節短細胞珪酸体(1号畠 1地点;4) |
| 5. ヨシ属短細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) | 6. ススキ属短細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) |
| 7. オオムギ族短細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) | 8. イネ属機動細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体(7号畠;2) | 10. ネザサ節機動細胞珪酸体(1号畠 1地点;4) |
| 11. ヨシ属短細胞珪酸体(7号畠;2) | 12. ウシクサ族機動細胞珪酸体(1号畠 1地点;2) |
| 13. シバ属機動細胞珪酸体(8号墳周溝;2) | |

図版3 軟X線写真

微
化
石
分
析
号



西野原遺跡の古墳使用岩石

飯島 静 男

この遺跡にみられる岩石はおおむね2群に分けられる。ひとつは円礫類で、おもに古墳の周囲等に並べられている。もう一つは全く円磨されていないブロック類で、おもに石室の構築材に用いられている。

1. 礫類

円磨度は円礫から亜円礫程度で、垂角礫を含む。大きさはこぶし大から人頭大で、最大はその2～3倍までである。礫種は粗粒の輝石安山岩、溶結凝灰岩、石英斑岩、チャート、砂岩、ホルンフェルスなどである。溶結凝灰岩の多くは足尾山地北部に分布する。いわゆる奥日光流紋岩類中のそれに同定される(粗粒の石英を多数含有し、緻密硬質である)。礫種構成から、これらは渡良瀬川の河床礫に同定される。遺跡近傍では大間々扇状地内に同種の礫が分布する。

2. ブロック類

観察した数基の古墳の石室の石材は、一部を除いて、ほぼ同種の岩石である。黄褐色ないし赤褐色を呈する溶結凝灰岩である。赤みは風化に伴う酸化鉄汚染によるもので、表面で部分的に皮膜を成すほか、内部にも網状に汚染が認められる。内部の新鮮な部分は淡黄白色である。

やや粗粒であるが、よく固結していて堅い。比重は約2.2である。

破断面においては細粒の火砕物が雑然と凝集しているように見えるが、切断面では肉眼で、あるいはルーペを用いて、溶結構造が認められる。顕微鏡下でピトログラスチック組織が明瞭である。おもな組成は微細な火山ガラス片(glass shards)と、径0.5～1mmの斜長石(斜長石は最大径2mmまで)である。斜長石は自形および破片状である。火砕岩の分類法に従うと、結晶質ガラス凝灰岩(crystal vitric

tuff)である。岩石は少なく、砂岩、チャートなどの外来の細片、および安山岩ないしデイサイト質で、基質よりやや暗色の類質の細片などである。軽石は試料の汚濁のため、存否が確認できない。以上のほか、現場ではまれに石英を含む石材がみられたが、外来結晶ではないかと思われた。

3. 藪塚周辺の石材

遺跡周辺の地域でよく知られた石材に、金山石、馬見岡凝灰岩、藪塚石などがある。金山石は太田市金山に分布する古第三紀の生成といわれている溶結凝灰岩で、堅硬な石材である。同種の岩石は八王子丘陵の一部にも分布がある。この岩石は粗粒の石英および黒雲母を含む特徴的な岩質で、当遺跡の石材とは異なる。馬見岡凝灰岩は笠懸町天神山などに分布する。流紋岩質で白色軟質の岩石であり、これも当遺跡の石材とは異なる。

藪塚石は藪塚温泉付近で近年まで採掘されており、1994年時点で、八王子丘陵内に20カ所余の採石場跡が残っている。各採石場の岩石を見ると、いくつか異なる石質のものがある。それらを区別する名称として、地元での聞き取りで、菅塩石などの名前もあったが、正確にどの山地のどのような石材を指すのか不明である。一般にはいくつかの種類別の石材に対して、藪塚石の名称が用いられていた可能性がある。ここでは当地域の地層区分に従って、石質の説明をする。

北長岡溶結凝灰岩

流紋岩ないしデイサイト質で、比較的細粒の溶結凝灰岩である。強溶結していて、堅硬な岩石である。湯ノ入北方から菅塩の北の山上にかけて分布する。分布域の北西部では白脱化しているが、その中でも採石場跡はある。南東部はあまり変質しておらず、

赤褐色～黄褐色の岩石である。菅塩北の山頂付近に採掘場跡がある。

滝ノ入軽石凝灰岩

デイサイト質(?)の軽石凝灰岩である。滝ノ入の北から滝ノ入の北にかけて分布する。分布域の北東側のものは乾燥に堆積したとみられ、弱溶結しており、黄灰色を呈する。南西側は一部水底堆積で、黄白色で、やや軟質である。主に軽石とその砕粉とからなる。斑晶鉱物はおもに斜長石で、やや多い。軽石の粒径は10cmからそれ以下と変化に富む。採掘場は滝ノ入北の通称忠治の岩屋がよく知られているが、その周辺に多数ある。

滝ノ入凝灰岩

水底に堆積した凝灰岩ないし凝灰質碎屑岩類である。よく成層しており、切り出した石材の面に灰色砂質部に白色軽石の粒子配列が認められるものなどがある。固結度は低く、打撃に弱い。ほかにラピリ質で黄褐色、帯緑色のものなどがある。

大鷲軽石質凝灰岩

大鷲部層として一括された中には、強溶結で黒色緻密の硬い溶結凝灰岩、弱溶結で灰色ラピリ質の凝灰岩、水底堆積の帯黄暗灰色の軽石～ラピリ凝灰岩などが含まれる。現存する採掘場に前2者を掘ったものはない。滝ノ入層の軽石凝灰岩に似るものもあるが、暗色岩片をやや多く含むことで、いちおう区別される。基質が灰色～暗灰色のものは本層に特徴的で、滝ノ入層のものとは明らかに異なる。

4. 当遺跡石材の同定

当遺跡石材は新鮮面で淡黄白色を呈し、斜長石結晶が多いという点で、滝ノ入層の凝灰岩に似ていると思われた。しかし同層凝灰岩は軽石質で、当遺跡の石材より軟質である。忠治の岩屋の試料について、比重を測定したところ約1.8で明らかに軽い。

堅さの点では北長岡層の溶結凝灰岩のほうが近い。菅塩北の山頂付近からの採取試料について、比重測定結果は2.1である。同試料は破断面ではあまり明瞭ではないが、切断面において溶結構造が容

易に認められる。色は淡黄白色のほか黄褐色、赤褐色などが混じっている。細粒の火山ガラス片のほか、やや粗い本質レンズを含む。細粒の斜長積は多い。外来岩片はチャート、砂岩の砕角礫である。以上の検討結果より、細部において多少異なる点もあるが、当遺跡の石材は北長岡層の溶結凝灰岩と本質的な差はなく、ほぼそれに同定できる。

石材採取地としては、北長岡層の分布する山城およびその周辺がまずあげられる。いっぽう北長岡の西側丘陵の斜面などに、北長岡層溶結凝灰岩と同種の岩塊がみられることもある。それらの岩塊が、どのようにして分布地から離れた場所にもたらされたかは、今のところよくわからない。しかし下強戸礫層や菅塩礫層中に、下位層の溶結凝灰岩や凝灰岩類のブロックが含まれている例もあるので、北長岡層由来の溶結凝灰岩のブロックが、比較的広く散在している、あるいはしていた可能性もいまいには否定できない。

文献

- 須藤定久・田島順子・木崎喜雄 (1976) 『群馬県太田～大間々地域の第三紀火砕岩類』地質学論集第13号、p.241-249
飯島静男・吉川和男 (1994) 『籠塚温泉の温泉地質』群馬県温泉協会学術調査研究調査報告、p.1-12

人骨鑑定

生物考古学研究所 植 崎 修一郎

はじめに

西野原古墳は、群馬県太田市藪塚町及び西長岡町に所在する。00群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成15(2003)年8月～同17(2005)年2月まで実施された。

本遺跡では、7世紀後半に築造された古墳群が13基検出されている。これら、13基の古墳の内、1号古墳及び4号古墳から古墳時代人骨が出土したので以下に報告する。

しかしながら、古墳時代人骨の保存状態は比較的悪く、主に報告できるのは出土歯のみである。なお、出土歯の計測は藤田の方法に従った(藤田, 1949)。また、古墳時代人骨の出土歯の歯冠計測値の比較はMatsumura[松村](Matsumura, 1995)を引用し、現代人の計測値は権田(1959)を引用した。

1. 1号古墳出土人骨

1号古墳は、7世紀前半に築造された直径約16mの円墳である。玄室の規模は、長さ約3.2m・幅約1.2mである。また、羨道の規模は、長さ約2.5m・幅約0.7mである。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、170に分けて玄室から取り上げられている。これらの人骨は、玄室の中でも、主に北半つまり奥から出土している。

(2) 副葬品

副葬品は、以下のように、石室・前庭・周堀から出土している。

- ・石室：太刀4点、鉄鏃39点、刀子2点、鞘1点、鞘口1点、鞘尻2点、留具8点、ハト目2点、銅製品1点
- ・前庭：鉄鏃3点、鞘金具1点
- ・周堀：輪1点、釘1点

(3) 被葬者

①個体数

古墳被葬者の個体数は、副葬品の耳環や人骨の側頭骨で推定する場合が多い。実際、安塚古墳群(群馬県高崎市)や小泉長塚1号古墳(群馬県玉村町)では、耳環の数から推定した個体数と出土歯から被葬者の個体数が一致したという事例がある(植崎, 1998・2005・2006)。

しかしながら、本1号墳では耳環は出土しておらず、側頭骨も1点しか出土していない。

そこで、出土歯の重複歯種の内、下顎第1大臼歯でみると、右下顎第1大臼歯は3本・左下顎第1大臼歯は5本である。したがって、少なくとも、5個体は埋葬されていたと推定される。また、下顎右第1乳臼歯が1点出土しているので、成人5個体・未成年1個体の合計6個体が埋葬されていたと推定される。

なお、このことは、副葬品の数が多いことから支持される。

②性別

出土歯の内、下顎第1大臼歯の歯冠計測値を既存のデータと比較すると、男性4体・女性1体の合計5体が埋葬されていたと推定される。なお、その他、下顎右第1乳臼歯が1点出土しているので、未成年で性別不明の個体1体が加わることになる。

③死亡年齢

出土歯の内、下顎第1大臼歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみのマルティンの1度が2体・象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度が3体である。したがって、20歳代が2体・30歳代が3体となる。

これを、性別と合わせると、20歳代男性2体・30歳代男性2体・30歳代女性1体となる。

さらに、下顎右第1乳臼歯の個体は、保存状態が悪く確かではないが、咬耗が認められない。歯根が保存されていれば、その発達状態から推定も可能であるが、他に乳歯が検出されていないという状況も加味すると、萌出前か萌出直後と推定される。すると、この個体の死亡年齢は、幅を持たせて歯冠が顎骨の中で完成する生後約9ヶ月から2歳としておく。

2. 4号古墳出土人骨

4号古墳は、7世紀前半に築造された直径約16mの円墳である。玄室の規模は、長さ約3.5m・幅約1.2mである。また、羨道の規模は、長さ約3.2m・幅0.7mである。

(1) 人骨の出土状況

人骨は、3つに分けて羨道及び玄室から取り上げられている。しかしながら、出土位置は不明である。

(2) 副葬品

副葬品は、以下のように、石室及び周堀から出土している。

- ・石室：太刀1点、鉄鏃11点、刀子2点、耳環3点、鞘金具1点、鞘尻1点、バツクル1点、ハト目銅製品1点
- ・周堀：鉄鏃1点、鉄製品3点

(3) 被葬者

3つに分けて取り上げられたものの内、羨道出土とされた骨は、骨では無く軽石である。玄室出土の2点は、骨片と歯冠片である。骨片は、同定不能であり、歯冠片は大臼歯片であるが、歯種の同定は不能であった。従って、被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

しかしながら、副葬品の中でも耳環は3点出土している。被葬者の個体数は、この耳環がそれぞれ別個体の副葬品であるとする3体、また、1個体の一対と別個体とする2体であると推定される。

まとめ

西野原古墳の1号古墳と4号古墳から、古墳時代人骨が出土した。

西野原1号古墳には、6個体が埋葬されていたと推定された。これらは、生後約9ヶ月～2歳の性別不明個体1体・20歳代男性2体・30歳代男性2体・30歳代女性1体であると推定される。

西野原4号古墳出土人骨は、残存状態が悪く、人骨から直接被葬者を推定することは困難である。しかしながら、副葬品の耳環からは、少なくとも性別及び死亡年齢不明の2体から3体が埋葬されていたと推定される。

謝辞

本古墳出土人骨を記載する機会を与えていただき、考古学的情報を与えていただいた、御群馬県埋蔵文化財調査事業団の谷藤保彦氏及び田村邦宏氏に感謝いたします。

引用文献

- 藤田恒太郎 (1949) 「歯の計測基準について」人類学雑誌, 61: 1-6.
- 権田和良 (1959) 「歯の大きさの性差について」人類学雑誌, 67: 47-59.
- MATSUMURA, Hirofumi (1995) A microevolutionary history of the Japanese people as viewed from dental morphology. National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum, Tokyo.
- 橋崎修一郎 (1998) 「安坪古墳群出土人骨」, 『長根遺跡群V』群馬県多野郡吉井町教育委員会 [現 高崎市教育委員会], p.368-377.
- 橋崎修一郎 (2005) 「安坪古墳群出土人骨 (安坪III・IV遺跡)」, 『長根遺跡群X 安坪古墳群』群馬県多野郡吉井町教育委員会 [現 高崎市教育委員会], p.350-369.
- 橋崎修一郎 (2006) 「小泉長塚1号古墳出土人骨」, 『小泉長塚遺跡』群馬県佐波郡玉村町教育委員会, p.67-74.

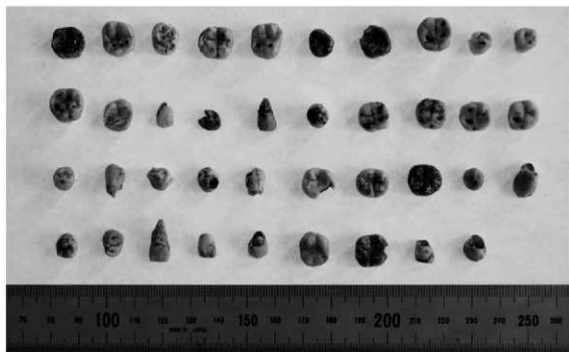


写真1 西野原1号古墳出土人骨出土歯

上段：左から、18・20・22・23・24・25・31・34・42・42

上から2段目：左から、42・64・66・67・111・116・117・118・119・119

上から3段目：左から、119・119・119・126・128・130・137・156・158・159

下段：左から、174・180・202・210・216・224・232・235・244

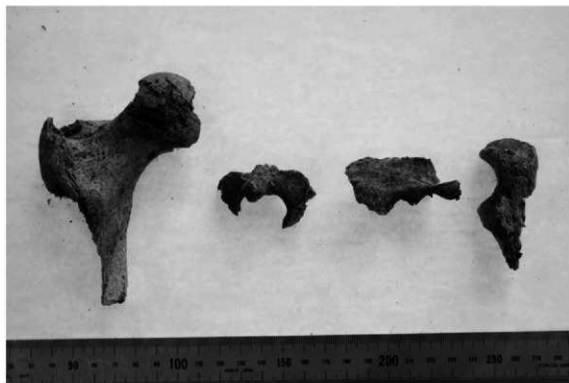


写真2 西野原1号古墳出土人骨

左から、58 (左大腿骨)・113 (第2頸椎)・133 (右側頭骨)・135 (左尺骨)

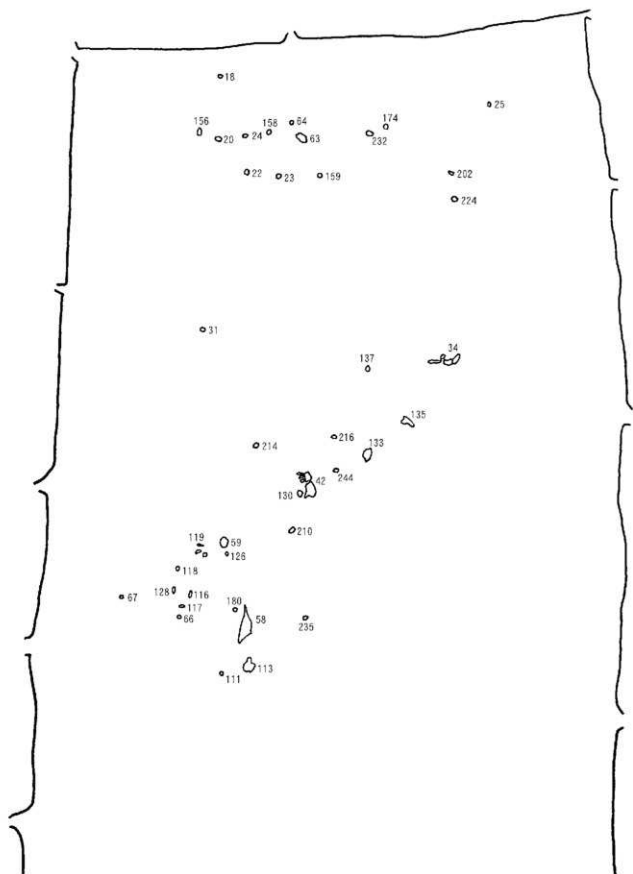


図1 西野原1号古墳女室出土土人骨出土位置(1/10)

補遺編

先に「西野原遺跡(5)(7) 第1分冊—縄文・弥生時代編—」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第456集(2009)を刊行したが、その後の整理作業の中で、弥生時代の住居跡1軒が新たに確認されたため、本項で報告することとした。

また、「西野原遺跡(5)(7) 第2分冊—飛鳥・平安時代以降編—」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第489集(2010)で報告した、飛鳥時代(7世紀後半)の古代製鉄に関わる一連の製鉄関連遺構の検討にあたり、再度の放射性炭素年代測定の結果をも、併せて以下に掲載する。

1 弥生時代の住居跡

(5) 116号住居跡 (補遺編 第1図)

位置(座標): X軸=38.254~257, Y軸=

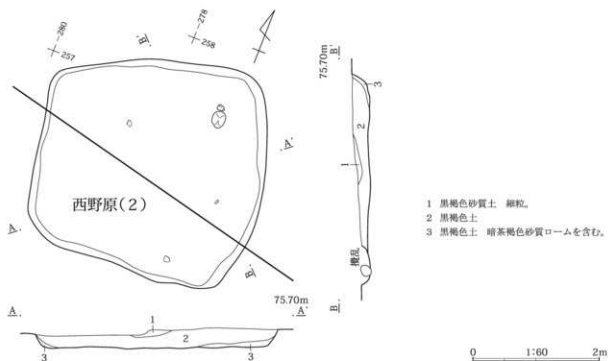
45.276~279。形状: 隅丸方形。規模: 長軸3.61m、短軸3.52m、壁高33cm。長軸方向: 東。

本住居跡は調査区の南部にあり、住居の北側半分が調査範囲内となり、南側半分は西野原遺跡(2)の範囲で調査区外となる。同じ弥生時代の住居には、本住居の北東24mに73号住居がある。

住居形状は隅丸方形を呈するが、大きく歪む。埋土は黒褐色土をベースとする。床面はほぼ平坦である。炉や柱穴等の施設は未検出である。遺物は少量で、甕の口縁部片が出土している。

出土土器から、時期は弥生時代後期と考えられる。

なお、出土土器は「西野原遺跡(1)(2)」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第387集(2006)に掲載されている。



補遺編 第1図 (5) 116号住居跡平面図

放射性炭素年代測定

西野原遺跡（5）（7）の調査において、飛鳥時代（7世紀後半）の製鉄関連遺構が検出され、それに伴う多量の遺物が出土したことは、先に刊行された財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第489集「西野原（5）（7） 第2分冊—飛鳥・平安時代以降編—」（2010）において報告済みである。その際に行った放射性炭素年代測定は、製鉄炉形状が長いタイプの3・4号製鉄炉を対象として行った。結果、ほぼ同様な年代が得られた。

しかし、製鉄炉形状の異なる短いタイプの1・2号製鉄炉、さらにはこれら製鉄炉と一連の鍛冶遺構が存在する。これら遺構間に、年代的な差異が認められるのか追認する必要性が生じたため、再度の放射性炭素年代測定を行った。

測定の結果は、以下の通りである、

1. 試料

試料は、古代の製鉄炉（1～4号製鉄炉）の作業坑や炉底、堀方から出土した炭化材および屋内鍛冶炉を有する住居跡（117,129号住居）の床面付近から出土した炭化材6点である。炭化材試料は、1号製鉄炉の炭化材（分析No.1）は樹皮付近を含む残存年輪幅約2.0cmを測る破片、2号製鉄炉の炭化材（分析No.2）は残存年輪幅約0.7cmを測る破片、3号製鉄炉の炭化材（分析No.3）は樹皮付近を含む残存年輪幅約1.5cmを測る破片、4号製鉄炉の炭化材（分析No.4）はみかけミカン割状を呈する半径約4.5cmを測る破片、117号住居炭化材（分析No.5）は残存年輪幅約1cmを測る破片、129号住居炭化材（分析No.6）は半径約1cmの破片である。放射性炭素年代測定に供する試料は、それぞれ観察範囲内の最外年輪部分より採取している。また、分析試料採取後の炭化材については、試料の履歴（由来）に関わる情報を得るため、それぞれ樹輪同定を行っている。

2. 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9 SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV 5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）

を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5,730 \pm 40年) を較正することである。暦年較正は、CALIB 5.02のマニュアルにしたがひ、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値に基づき、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲) の値を示す。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。表中の相対比 (確率分布) とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果および考察

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果 (補正年代) は、1号製鉄炉 炭化材 (分析No 1) が $1,390 \pm 30\text{yrBP}$ 、2号製鉄炉 炭化材 (分析No 2) が $1,390 \pm 30\text{yrBP}$ 、3号製鉄炉 炭化材 (分析No 3) が $1,330 \pm 30\text{yrBP}$ 、4号製鉄炉 炭化材 (分析No 4) が $1,320 \pm 30\text{yrBP}$ 、117号住居 炭化材 (分析No 5) が $1,450 \pm 30\text{yrBP}$ 、129号住居 炭化材 (分析No 6) が $1,380 \pm 30\text{yrBP}$ を示す (表1)。

これらの補正年代に基づく暦年較正結果 (測定誤差 σ) は、1号製鉄炉 炭化材 (分析No 1) が calAD-639-calAD664、2号製鉄炉 炭化材 (分析No 2) が calAD634-calAD662、3号製鉄炉 炭化材 (分析No 3) が calAD656-calAD760、4号製鉄炉 炭化材 (分析No 4) が calAD658-calAD762、117号住居 炭化材 (分析No 5) が calAD595-calAD642、129号住居 炭化材 (分析No 6) が calAD645-calAD665である (表2)。

上記した暦年較正結果を参考とすると、1・2号製鉄炉は7世紀中頃、3・4号製鉄炉は7世紀中頃～8世紀中頃、117号住居は6世紀末～7世紀中頃、129号住居は7世紀中頃という年代が推定される。3・4号製鉄炉については、これまでに炉底構造内から出土した炭化材 (クヌギ節) を対象とした放射性炭素年代測定が行われている。その結果、7世紀中葉～8世紀後半 (3号製鉄炉: calAD684-calAD771, 4号製鉄炉: calAD-659-calAD764) に相当する較正年代が得られており、今回の3・4号製鉄炉から出土した炭化材の較正年代の範囲は調和する結果と言える。

また、放射性炭素年代測定試料に供した炭化材は、1～4号製鉄炉 炭化材および129号住居 炭化材 (分析No 1～4, 6) が広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*)、117号住居 炭化材 (分析No 5) が広葉樹のクリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) に同定された。クヌギ節は、二次林や河畔林を構成する分類群であり、クリも二次林などに生育する。クヌギ節は、前述した3、4号製鉄炉の炉底構造内から出土した炭化材や、金山丘陵に立地する峯山遺跡の古代の製鉄炉から出土した炭化材などに確認されており (未公表資料)、燃料材としてクヌギ節が多く利用されていたことが推定される。

引用文献

貝塚真平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編 (2000) 『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、349p。

表1 放射性炭素年代測定結果

No	試料			樹種	補正年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代 (yrBP)	測定機関 Code.	
	遺構	層位	性状						
分析No 1	1号製鉄炉	下層		炭化材	クスノ節	1,390±30	-25.24±0.66	1,390±30	IAAA-92410
分析No 2	2号製鉄炉	Q-12 (炉)		炭化材	クスノ節	1,390±30	-23.36±0.65	1,370±30	IAAA-92411
分析No 3	3号製鉄炉	No 8	堀方一面	炭化材	クスノ節	1,330±30	-26.87±0.65	1,360±30	IAAA-92412
分析No 4	4号製鉄炉	No 8		炭化材	クスノ節	1,320±30	-25.66±0.76	1,330±20	IAAA-92413
分析No 5	117号住居	D-6		炭化材	クリ	1,450±30	-24.48±0.67	1,440±30	IAAA-92414
分析No 6	129号住居	F-4		炭化材	クスノ節	1,380±30	-23.76±0.64	1,350±20	IAAA-92415

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2 暦年較正結果

試料名	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	測定機関 Code.
		σ	cal AD	cal BP		
分析No 1 1号製鉄炉 下層 (炭化材)	1,385±27	σ	cal AD 639 - cal AD 664	cal BP 1,311 - 1,286	1.000	IAAA-92410
		2σ	cal AD 609 - cal AD 672	cal BP 1,341 - 1,278	1.000	
分析No 2 2号製鉄炉 Q-12 (炉) (炭化材)	1,392±27	σ	cal AD 634 - cal AD 662	cal BP 1,316 - 1,288	1.000	IAAA-92411
		2σ	cal AD 607 - cal AD 668	cal BP 1,343 - 1,282	1.000	
分析No 3 3号製鉄炉 No 8 堀方一面 (炭化材)	1,328±27	σ	cal AD 656 - cal AD 689	cal BP 1,294 - 1,261	0.914	IAAA-92412
			cal AD 753 - cal AD 760	cal BP 1,197 - 1,190	0.086	
		2σ	cal AD 650 - cal AD 718	cal BP 1,300 - 1,232	0.823	
			cal AD 743 - cal AD 769	cal BP 1,207 - 1,181	0.177	
分析No 4 4号製鉄炉 No 8 (炭化材)	1,321±27	σ	cal AD 658 - cal AD 691	cal BP 1,292 - 1,259	0.803	IAAA-92413
			cal AD 750 - cal AD 762	cal BP 1,200 - 1,188	0.197	
		2σ	cal AD 653 - cal AD 721	cal BP 1,297 - 1,229	0.776	
			cal AD 741 - cal AD 770	cal BP 1,209 - 1,180	0.224	
分析No 5 117号住居 D-6 (炭化材)	1,451±27	σ	cal AD 595 - cal AD 642	cal BP 1,355 - 1,308	1.000	IAAA-92414
		2σ	cal AD 565 - cal AD 649	cal BP 1,385 - 1,301	1.000	
分析No 6 129号住居 F-4 (炭化材)	1,375±26	σ	cal AD 645 - cal AD 665	cal BP 1,305 - 1,285	1.000	IAAA-92415
		2σ	cal AD 615 - cal AD 678	cal BP 1,335 - 1,272	1.000	

- 1) RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

写 真 图 版



西野原遺跡（5）（7）古墳時代集落全体写真



(5) 1号住居跡 全景



(5) 1号住居跡 遺物出土状況



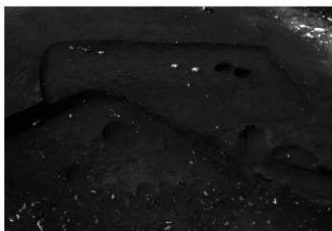
(5) 1号住居跡 遺物出土状況



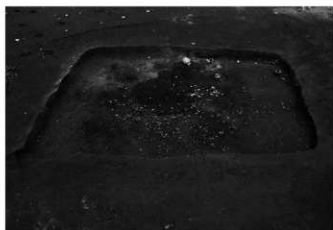
(5) 1号住居跡 カマダ



(5) 1号住居跡 掘方



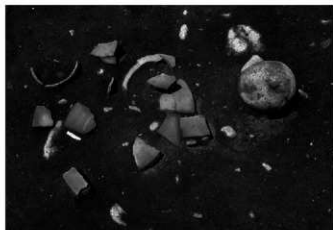
(5) 2号住居跡 全景



(5) 3号住居跡 全景



(5) 3号住居跡 遺物出土状況



(5) 3号住居跡 遺物出土状況



(5) 3号住居跡 遺物出土状況



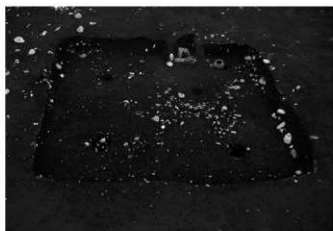
(5) 3号住居跡 遺物出土状況



(5) 3号住居跡 遺物出土状況



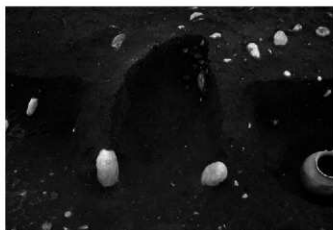
(5) 3号住居跡 遺物出土状況



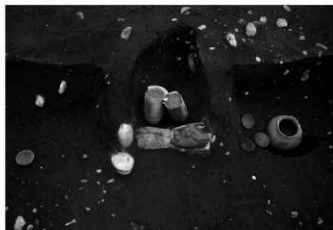
(5) 4号住居跡 全景



(5) 4号住居跡 遺物出土状況



(5) 4号住居跡 カマド



(5) 4号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 4号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 4号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況



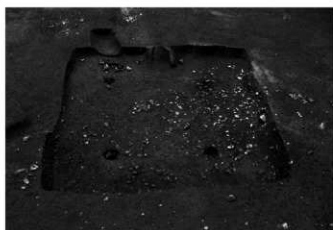
(5) 6号住居 全景



(5) 6号住居跡 遺物出土状況



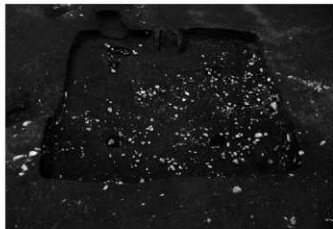
(5) 6号住居跡 土層断面



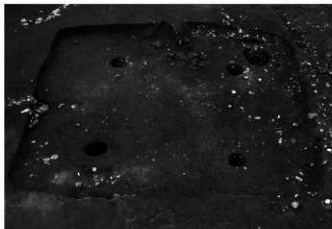
(5) 7号住居跡 全景



(5) 7号住居跡 カマド



(5) 7号住居跡 掘方



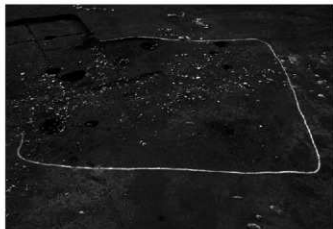
(5) 8号住居跡 全景



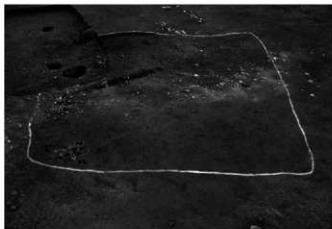
(5) 8号住居跡 遺物出土状況



(5) 8号住居跡 カマダ



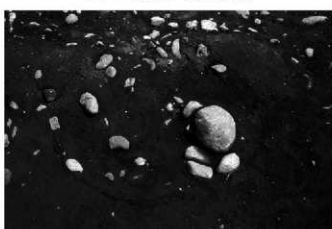
(5) 9号住居跡 全景



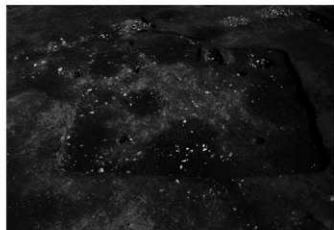
(5) 9号住居跡 遺物出土状況



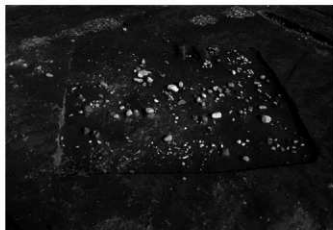
(5) 9号住居跡 遺物出土状況



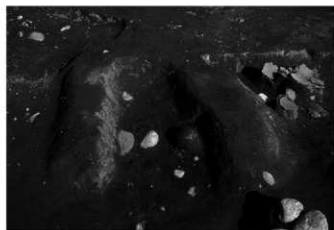
(5) 9号住居跡 カマダ



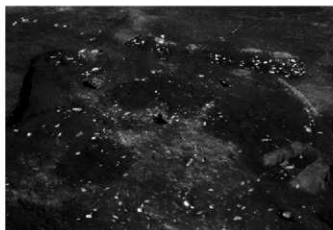
(5) 10号住居跡 全景



(5) 10号住居跡 遺物出土状況



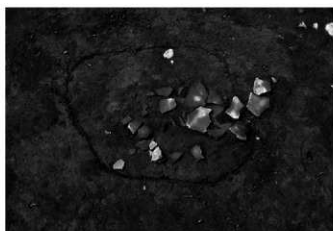
(5) 10号住居跡 カマド



(5) 11号住居跡 全景



(5) 12号住居跡 全景



(5) 12号住居跡 遺物出土状況



(5) 14号住居跡 全景



(5) 14号住居跡 遺物出土状況



(5) 14号住居跡 遺物出土状況



(5) 14号住居跡 カマド



(5) 14号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 15号住居跡 全景



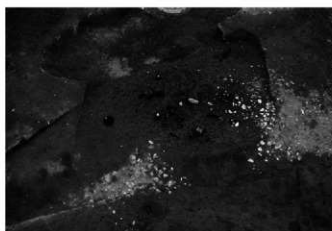
(5) 15号住居跡 遺物出土状況



(5) 15号住居跡 遺物出土状況



(5) 15号住居跡 カマド



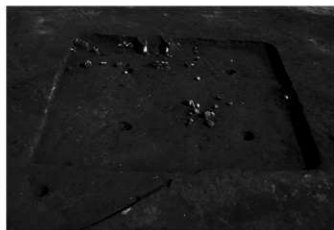
(5) 16号住居跡 全景



(5) 16号住居跡 遺物出土状況



(5) 17号住居跡 全景



(5) 17号住居跡 遺物出土状況



(5) 17号住居跡 遺物出土状況



(5) 17号住居跡 遺物出土状況



(5) 17号住居跡 遺物出土状況



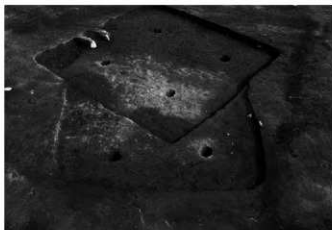
(5) 17号住居跡 カマド



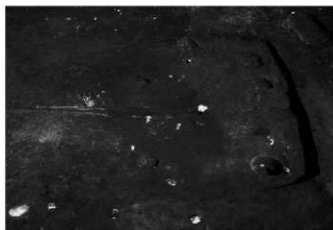
(5) 17号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況



(5) 17号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況



(5) 18号住居跡 全景



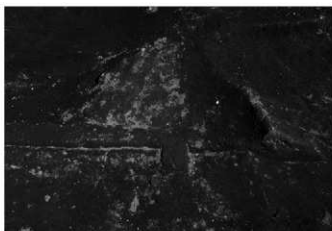
(5) 19号住居跡 全景



(5) 19号住居跡 遺物出土状況



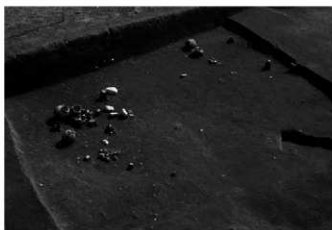
(5) 19号住居跡 遺物出土状況



(5) 19号住居跡 カマド



(5) 20号住居跡 全景



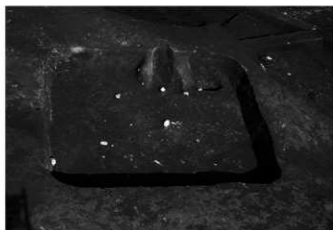
(5) 20号住居跡 遺物出土状況



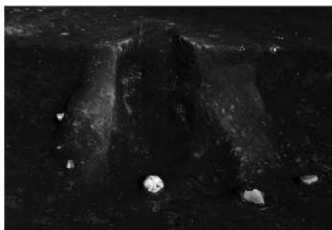
(5) 20号住居跡 遺物出土状況



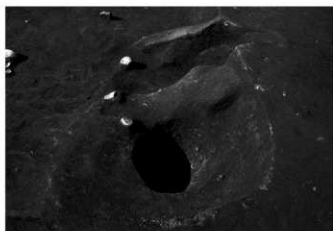
(5) 20号住居跡 遺物出土状況



(5) 21号住居跡 全景



(5) 21号住居跡 カマダ



(5) 21号住居跡 貯蔵穴



(5) 21号住居跡 掘方



(5) 22号住居跡 全景



(5) 23号住居跡 全景



(5) 23号住居跡 遺物出土状況



(5) 23号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 23号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 23号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 23号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 24号住居跡 全景



(5) 24号住居跡 遺物出土状況



(5) 24号住居跡 遺物出土状況



(5) 24号住居跡 遺物出土状況



(5) 24号住居跡 カマド



(5) 24号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 27号住居跡 全景



(5) 27号住居跡 カマド



(5) 28号住居跡 全景



(5) 28号住居跡 カマド痕跡



(5) 29号住居跡 全景



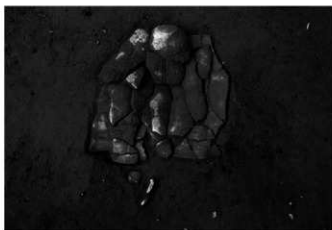
(5) 29号住居跡 遺物出土状況



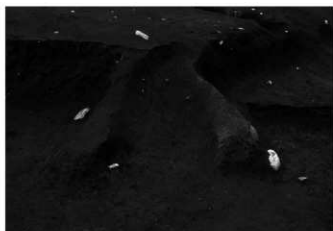
(5) 29号住居跡 遺物出土状況



(5) 29号住居跡 遺物出土状況



(5) 29号住居跡 遺物出土状況



(5) 29号住居跡 カマド



(5) 29号住居跡 カマド掘方



(5) 29号住居跡 掘方



(5) 29・30号住居跡 全景



(5) 30号住居跡 全景



(5) 30号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 31号住居跡 全景



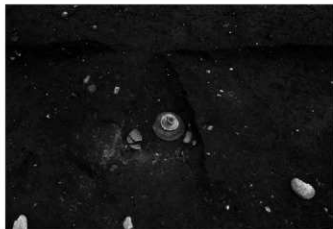
(5) 31号住居跡 遺物出土状況



(5) 31号住居跡 遺物出土状況



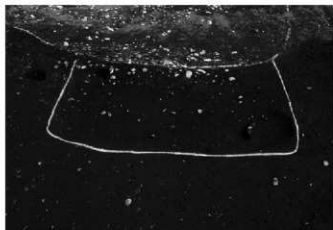
(5) 31号住居跡 遺物出土状況



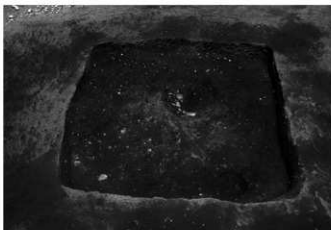
(5) 31号住居跡 カマド



(5) 31号住居跡 掘方



(5) 32号住居跡 全景



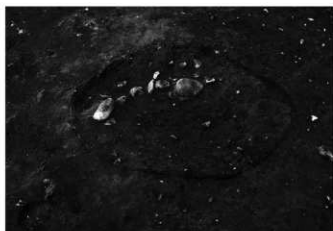
(5) 33号住居跡 全景



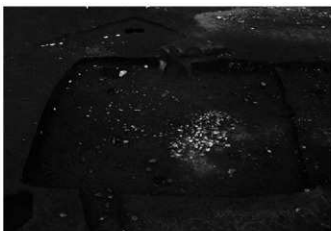
(5) 33号住居跡 遺物出土状況



(5) 33号住居跡 炭化材出土状況



(5) 33号住居跡 灰跡



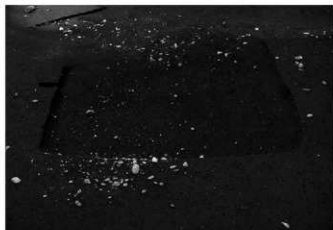
(5) 34号住居跡 全景



(5) 34号住居跡 遺物出土状況



(5) 34号住居跡 カマド



(5) 35号住居跡 全景



(5) 12号墳周溝と35号住居跡



(5) 35号住居跡 遺物出土状況



(5) 37号住居跡 全景



(5) 39号住居跡 全景



(5) 39号住居跡 遺物出土状況



(5) 39号住居跡 遺物出土状況



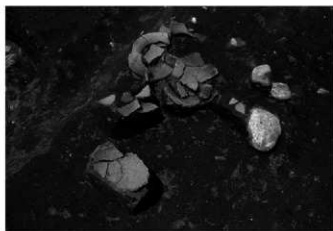
(5) 39号住居跡 遺物出土状況



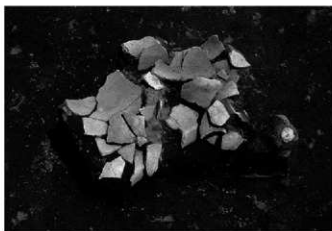
(5) 39号住居跡 遺物出土状況



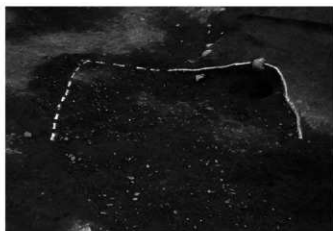
(5) 41号住居跡 全景



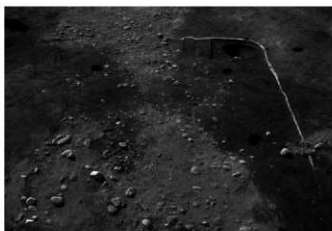
(5) 41号住居跡 遺物出土状況



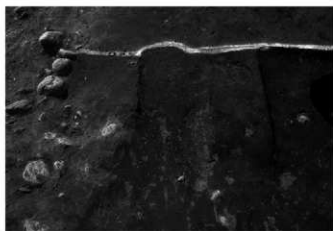
(5) 41号住居跡 遺物出土状況



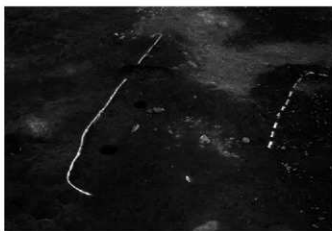
(5) 42号住居跡 全景



(5) 43号住居跡 全景



(5) 43号住居跡 カマド



(5) 44号住居跡 全景



(5) 45号住居跡 全景



(5) 45号住居跡 カマド



(5) 45号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況



(5) 46号住居跡 全景



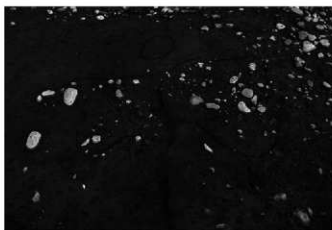
(5) 46号住居跡 カマド



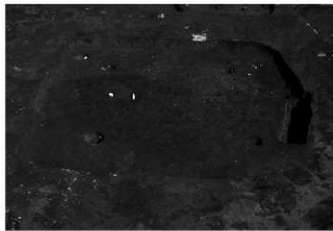
(5) 47号住居跡 全景



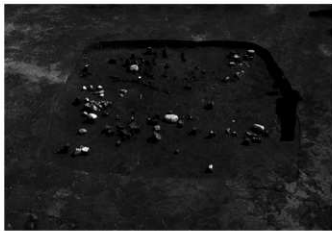
(5) 48号住居跡 全景



(5) 49号住居跡 全景



(5) 54号住居跡 全景



(5) 54号住居跡 遺物出土状況



(5) 54号住居跡 遺物出土状況



(5) 54号住居跡 遺物出土状況



(5) 54号住居跡 炭化材出土状況



(5) 54号住居跡 炉跡



(5) 55号住居跡 全景



(5) 57号住居跡 全景



(5) 57号住居跡 カマド



(5) 58号住居跡 全景



(5) 58号住居跡 貯蔵穴



(5) 59号住居跡 全景



(5) 59号住居跡 遺物出土状況



(5) 59号住居跡 遺物出土状況



(5) 59号住居跡 遺物出土状況



(5) 60号住居跡 全景



(5) 60号住居跡 遺物出土状況



(5) 60号住居跡 遺物出土状況



(5) 60号住居跡 カマダ



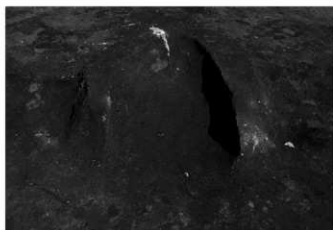
(5) 60号住居跡 カマダ貯蔵穴



(5) 60号住居跡 カマダ袖石



(5) 62号住居跡 全景



(5) 62号住居跡 カマダ



(5) 63号住居跡 全景



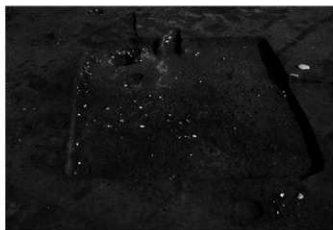
(5) 63号住居跡 遺物出土状況



(5) 63号住居跡 遺物出土状況



(5) 63号住居跡 遺物出土状況



(5) 64号住居跡 全景



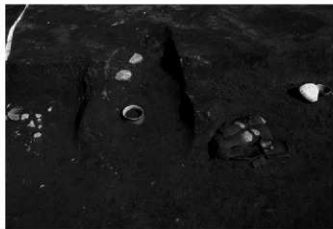
(5) 64号住居跡 遺物出土状況



(5) 64号住居跡 遺物出土状況



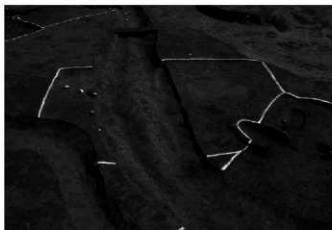
(5) 64号住居跡 遺物出土状況



(5) 64号住居跡 カマド



(5) 64号住居跡 貯蔵穴



(5) 66号住居跡 全景



(5) 67号住居跡 全景



(5) 67号住居跡 遺物出土状況



(5) 67号住居跡 遺物出土状況



(5) 67号住居跡 遺物出土状況



(5) 67号住居跡 遺物出土状況



(5) 67号住居跡 カマド



(5) 68号住居跡 全景



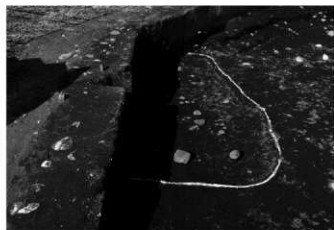
(5) 68号住居跡 遺物出土状況



(5) 68号住居跡 遺物出土状況



(5) 68号住居跡 カマド



(5) 69号住居跡 全景



(5) 70号住居跡 全景



(5) 70号住居跡 遺物出土状況



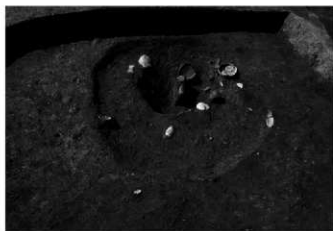
(5) 70号住居跡 遺物出土状況



(5) 70号住居跡 遺物出土状況



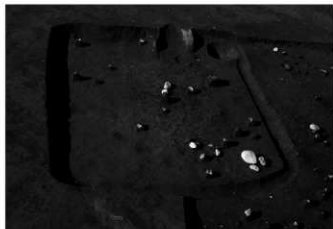
(5) 70号住居跡 カマド



(5) 70号住居跡 貯蔵穴



(5) 71号住居跡 全景



(5) 71号住居跡 遺物出土状況



(5) 71号住居跡 カマド



(5) 72号住居跡 全景



(5) 72号住居跡 遺物出土状況



(5) 72号住居跡 炉跡



(5) 74号住居跡 全景



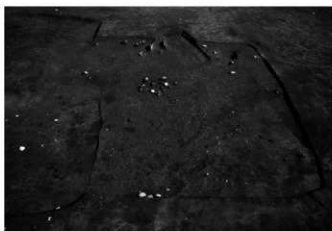
(5) 74号住居跡 遺物出土状況



(5) 74号住居跡 遺物出土状況



(5) 75号住居跡 全景



(5) 75号住居跡 遺物出土状況



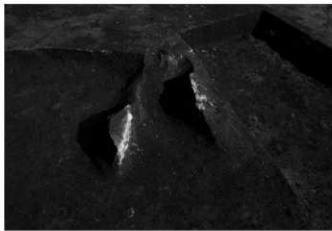
(5) 75号住居跡 遺物出土状況



(5) 75号住居跡 遺物出土状況



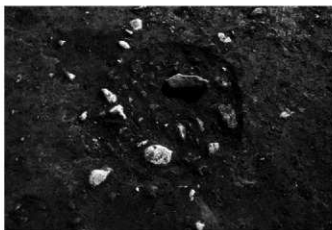
(5) 75号住居跡 遺物出土状況



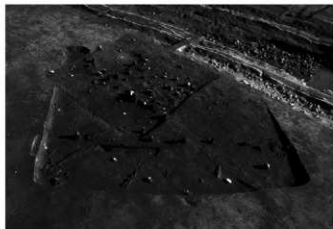
(5) 75号住居跡 カマド



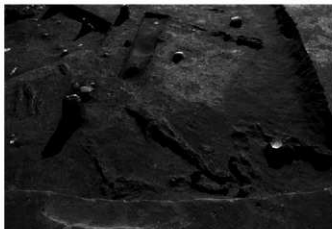
(5) 77号住居跡 全景



(5) 77号住居跡 炉跡



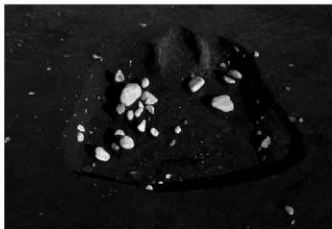
(5) 79号住居跡 全景



(5) 79号住居跡 炭化材出土状況



(5) 82号住居跡 全景



(5) 82号住居跡 遺物出土状況



(5) 82号住居跡 カマド



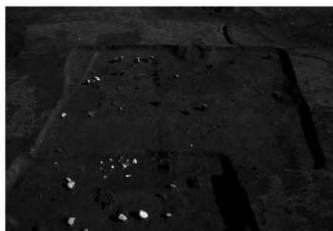
(5) 83号住居跡 全景



(5) 83号住居跡 遺物出土状況



(5) 84号住居跡 全景



(5) 84号住居跡 遺物出土状況



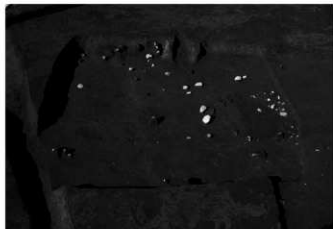
(5) 84号住居跡 遺物出土状況



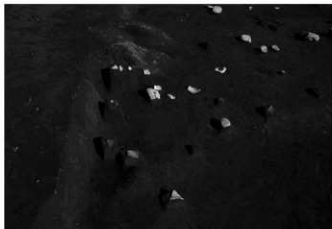
(5) 84号住居跡 カマド



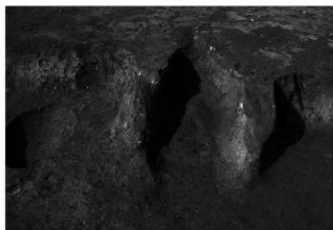
(5) 85号住居跡 全景



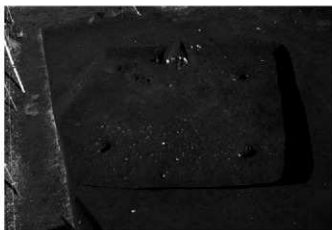
(5) 85号住居跡 遺物出土状況



(5) 85号住居跡 遺物出土状況



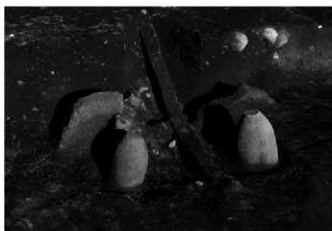
(5) 85号住居跡 カマド



(5) 86号住居跡 全景



(5) 86号住居跡 カマド



(5) 86号住居跡 カマド袖裏



(5) 87号住居跡 全景



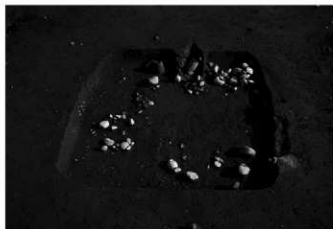
(5) 87号住居跡 カマド



(5) 87号住居跡 貯蔵穴



(5) 88号住居跡 全景



(5) 88号住居跡 遺物出土状況



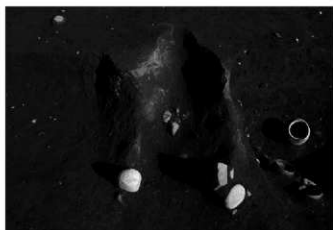
(5) 88号住居跡 遺物出土状況



(5) 88号住居跡 遺物出土状況



(5) 88号住居跡 遺物出土状況



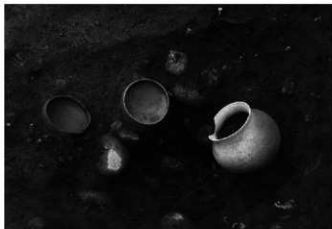
(5) 88号住居跡 カマド



(5) 88号住居跡 カマド遺物出土状況



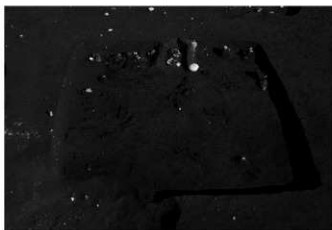
(5) 88号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 88号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況



(5) 90号住居跡 全景



(5) 90号住居跡 遺物出土状況



(5) 90号住居跡 遺物出土状況



(5) 90号住居跡 遺物出土状況



(5) 90号住居跡 遺物出土状況



(5) 90号住居跡 遺物出土状況



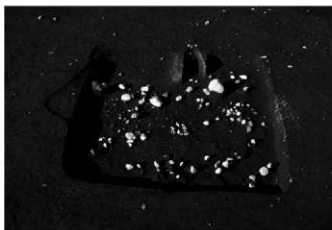
(5) 90号住居跡 カマド



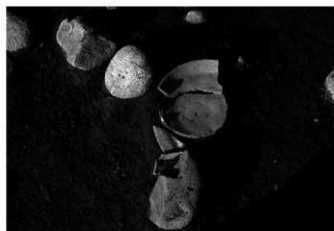
(5) 90号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 90号住居跡 カマド遺物出土状況



(5) 91号住居跡 全景



(5) 91号住居跡 遺物出土状況



(5) 91号住居跡 カマド



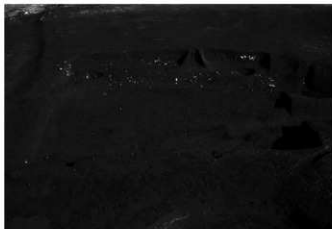
(5) 92号住居跡 全景



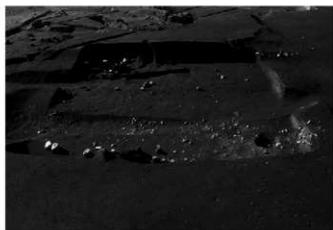
(5) 92号住居跡 カマド



(5) 93号住居跡 全景



(5) 95号住居跡 全景(南西から)



(5) 95号住居跡 全景(北東から)



(5) 95号住居跡 遺物出土状況



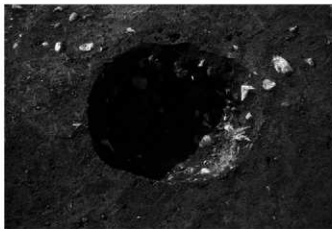
(5) 95号住居跡 遺物出土状況



(5) 95号住居跡 北カマド



(5) 95号住居跡 南カマド



(5) 95号住居跡 北貯蔵穴



(5) 95号住居跡 南貯蔵穴



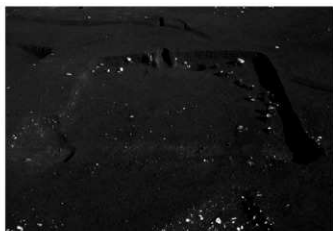
(5) 96号住居跡 全景



(5) 97号住居跡 全景



(5) 97号住居跡 遺物出土状況



(5) 98号住居跡 全景



(5) 98号住居跡 遺物出土状況



(5) 98号住居跡 遺物出土状況



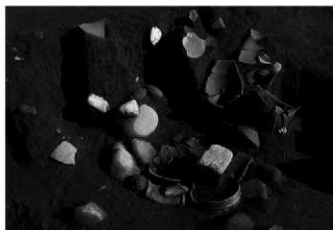
(5) 98号住居跡 遺物出土状況



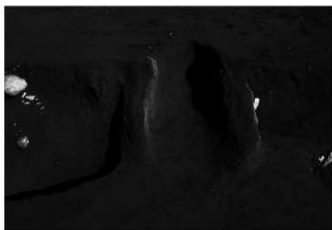
(5) 98号住居跡 遺物出土状況



(5) 98号住居跡 遺物出土状況



(5) 98号住居跡 遺物出土状況



(5) 98号住居跡 カマド



(5) 102号住居跡 全景



(5) 102号住居跡 遺物出土状況



(5) 102号住居跡 遺物出土状況



(5) 102号住居跡 遺物出土状況



(5) 102号住居跡 カマド



(5) 102号住居跡 貯蔵穴



(5) 103号住居跡 全景



(5) 103・104号住居跡 全景



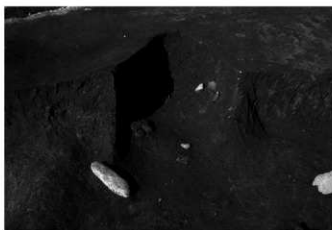
(5) 104号住居跡 全景



(5) 105号住居跡 全景



(5) 105号住居跡 張り出し部



(5) 105号住居跡 カマド



(5) 105号住居跡 貯蔵穴



(5) 106号住居跡 全景



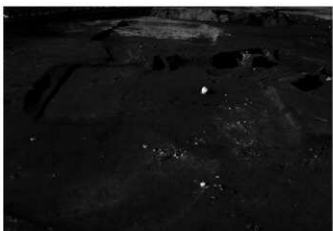
(5) 106号住居跡 遺物出土状況



(5) 106号住居跡 カマド



(5) 106号住居跡 カマド袖裏



(5) 107号住居跡 全景



(5) 107号住居跡 遺物出土状況



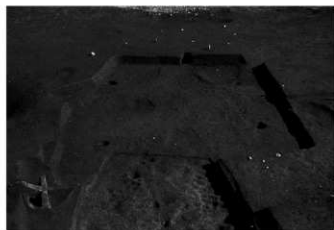
(5) 107号住居跡 遺物出土状況



(5) 107号住居跡 カマド



(5) 107号住居跡 遺物出土状況



(5) 108号住居跡 全景



(5) 108号住居跡 布理跡



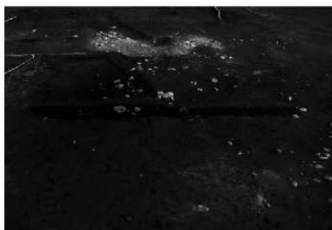
(5) 109号住居跡 全景



(5) 110号住居跡 全景



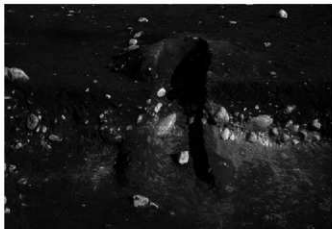
(5) 110号住居跡 カマド



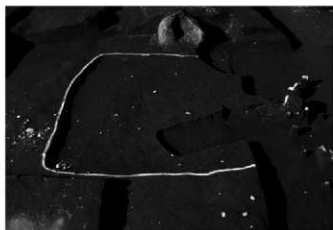
(5) 113号住居跡 全景



(5) 114号住居跡 全景



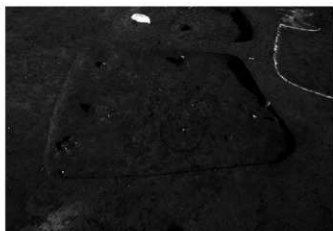
(5) 114号住居跡 カマド



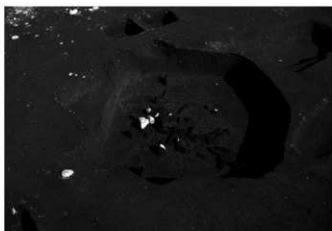
(5) 115号住居跡 全景



(5) 122号住居跡 全景



(5) 125号住居跡 全景



(5) 127・128号住居跡 全景



(5) 127号住居跡 遺物出土状況



(5) 132号住居跡 全景



(5) 132号住居跡 遺物出土状況



(5) 132号住居跡 カマド



(7)-1区1号住居跡 全景



(7)-1区1号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区1号住居跡 遺物出土状況



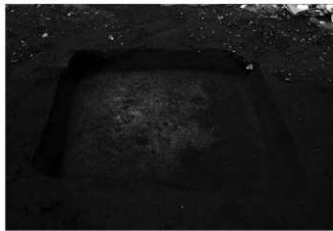
(7)-1区1号住居跡 遺物出土状況



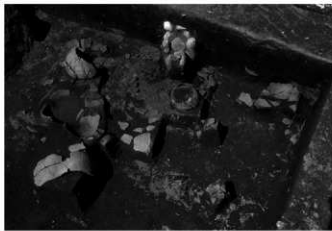
(7)-1区1号住居跡 カマド



(7)-1区1号住居跡 カマド遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 全景



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



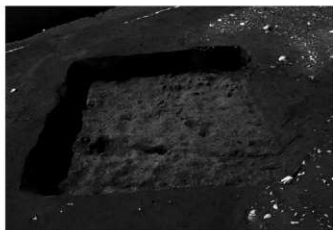
(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



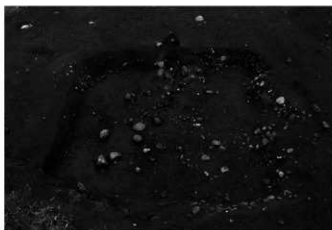
(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区2号住居跡 遺物出土状況



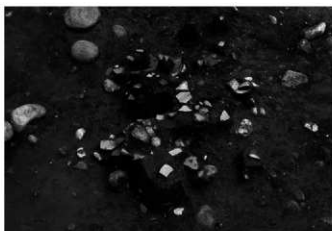
(7)-1区2号住居跡 掘方



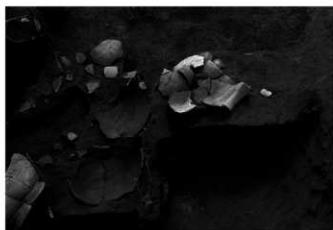
(7)-1区5号住居跡 全景



(7)-1区5号住居跡 遺物出土状況



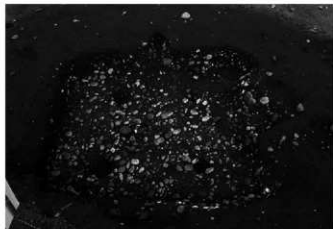
(7)-1区5号住居跡 遺物出土状況



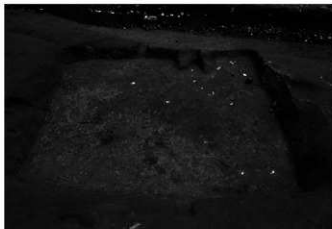
(7)-1区5号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区5号住居跡 カマド



(7)-1区5号住居跡 掘方



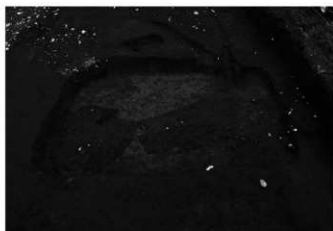
(7)-1区6号住居跡 全景



(7)-1区6号住居跡 カマド



(7)-1区6号住居跡 掘方



(7)-1区7号住居跡 全景



(7)-1区7号住居跡 遺物出土状況



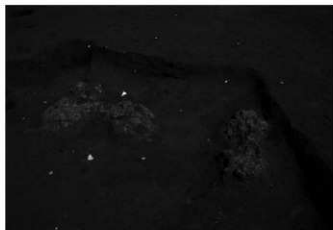
(7)-1区7号住居跡 カマド



(7)-1区8号住居跡 全景



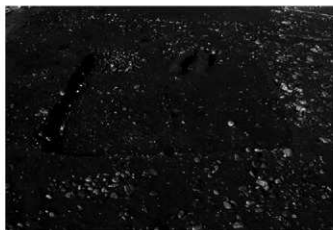
(7)-1区8号住居跡 遺物出土状況



(7)-1区8号住居跡 粘土塊出土状況



(7)-1区8号住居跡 掘方



(7)-2区21号住居跡 全景



(7)-2区21号住居跡 遺物出土状況



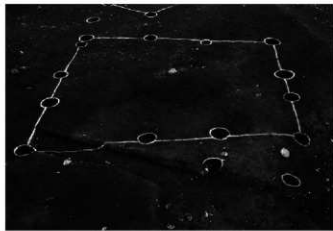
(7)-2区21号住居跡 カマド



(7)-2区21号住居跡 カマド遺物出土状況



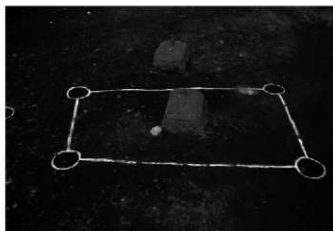
(7)-2区21号住居跡 掘方



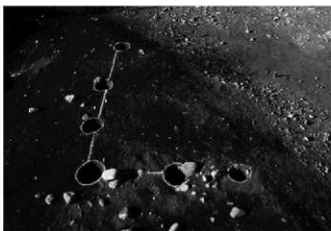
(5) 1号掘立柱建物跡 全景



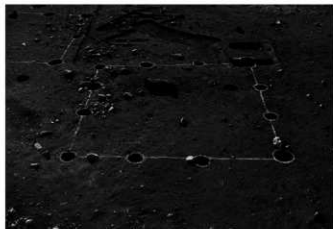
(5) 1・2号掘立柱建物跡 全景



(5) 2号掘立柱建物跡 全景



(5) 4号掘立柱建物跡 全景



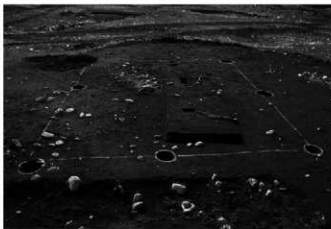
(5) 5号掘立柱建物跡 全景



(5) 5・6号掘立柱建物跡 全景



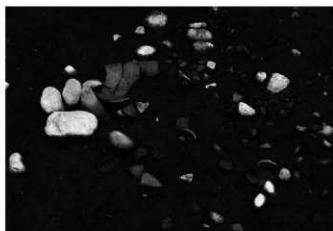
(5) 6号掘立柱建物跡 全景



(5) 9号掘立柱建物跡 全景



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 1グループ遺物出土状況 (玉)



(5) 1号墳下土器集中 2・3グループ遺物出土状況



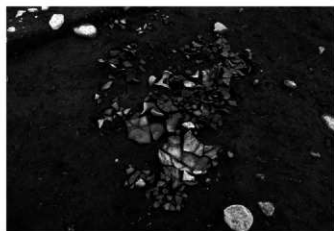
(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



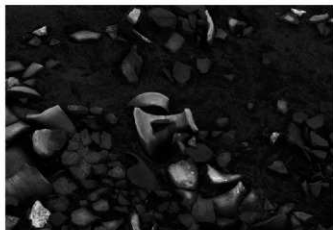
(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



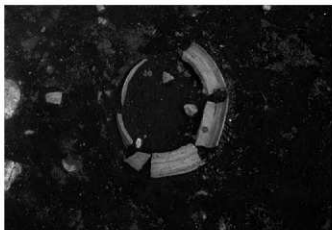
(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



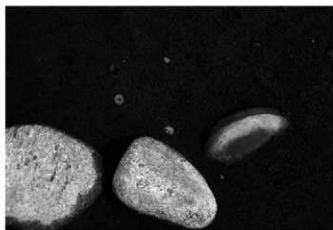
(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



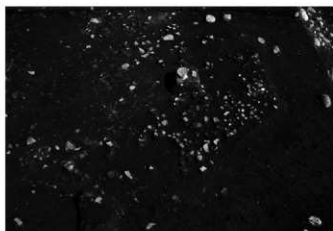
(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 2グループ遺物出土状況(玉)



(5) 1号墳下土器集中 2グループとカマド・焼土



(5) 1号墳下土器集中 3グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 3グループ遺物出土状況



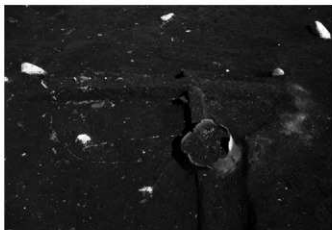
(5) 1号墳下土器集中 3グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 3グループ遺物出土状況



(5) 1号墳下土器集中 カマド・焼土



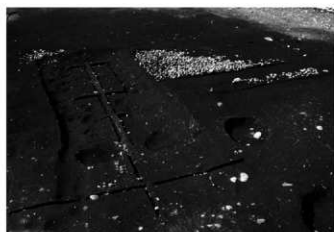
(5) 1号墳下土器集中 カマド



(5) 7号墳下土器集中 遺物出土状況



(5) 7号墳下土器集中 遺物出土状況



(5) 1号墳下 1号集石全景



(5) 1号墳下 1号集石



(5) 谷部全景



(5) 谷部遺物出土状況



(5) 1号畠 上面全景



(5) 1号畠 上面畝間埋没状況



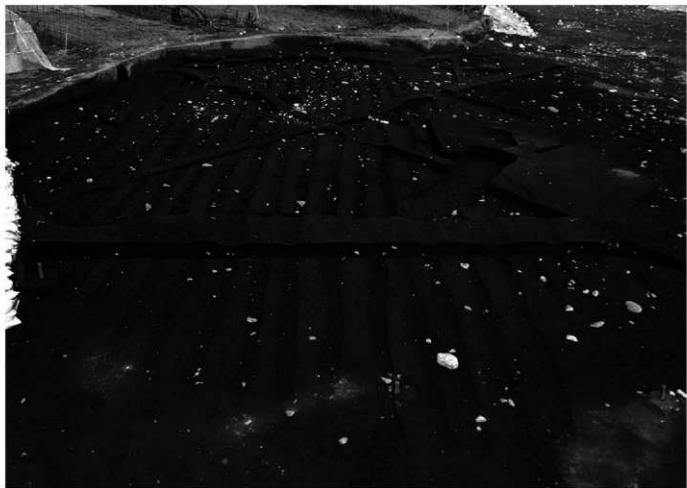
(5) 1号畠 上面畝間埋没状況



(5) 1号畠 上面



(5) 1号畠 上下面



(5) 1・2号品 下面全景



(5) 1号品 下面全景



(5) 1・2号畝 全景



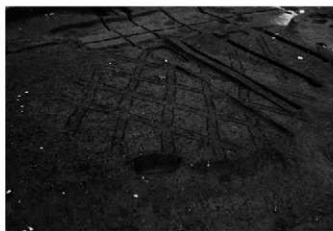
(5) 1・2号畝 畝間耕作痕



(5) 3号畝 全景



(5) 3号畝 全景



(5) 4・5号畝 畝間埋没状況



(5) 5号畠 全景



(5) 6号畠 全景



(5) 7号畠 全景



(5) 9号畠 全景



(5) 10号畠 全景



西野原遺跡古墳群（西野古墳群）全体写真



(5) 調査区内古墳群全景 (南から)



(5) 調査区内古墳群全景 (北から)



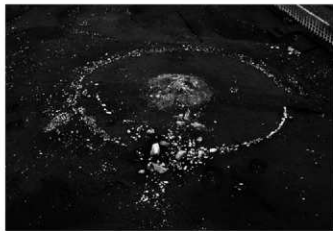
1号墳 全景



1号墳 調査前現況



1号墳 全景 (航空写真)



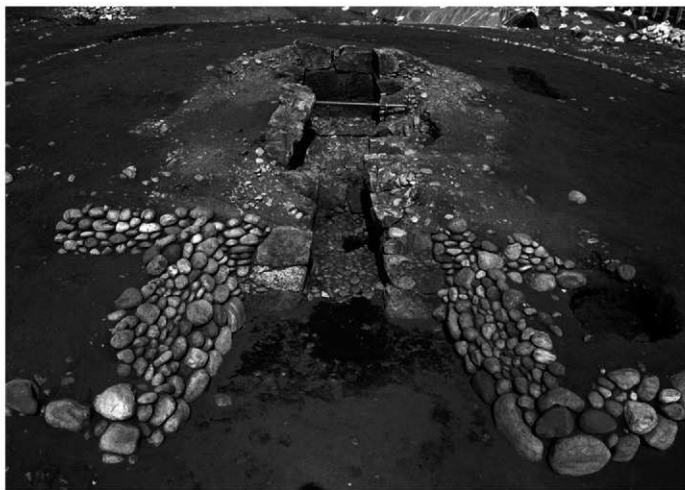
1号墳 墳丘崩落状況



1号墳 墳丘全景



1号墳 前庭及び石室全景



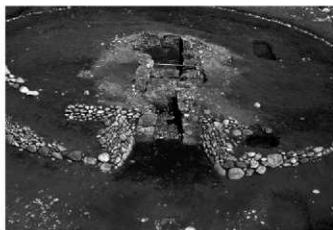
1号墳 前庭及び石室



1号墳 前庭



1号墳 閉塞状況



1号墳 前庭及びび入口部



1号墳 入口部



1号墳 入口部西側石垣



1号墳 入口部東側石垣



1号墳 羨道全景



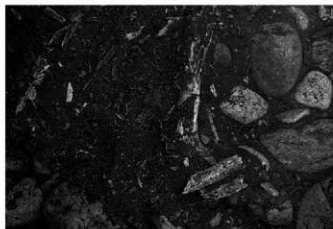
1号墳 羨道東壁構築状況



1号墳 玄室全景



1号墳 玄室



1号墳 玄室内人骨出土状況



1号墳 玄室内人骨出土状況



1号墳 玄室内人骨出土状況



1号墳 玄室内人骨出土状況



1号墳 玄室内遺物出土状況



1号墳 玄室内大刀出土状況



1号墳 玄室内大刀出土状況



1号墳 玄室内大刀出土状況



1号墳 玄室内大刀出土状況



1号墳 玄室内鉄鏡出土状況



1号墳 玄室内鉄鏡出土状況



1号墳 玄室内鉄製品出土状況



1号墳 墳丘盛土断面全景



1号墳 墳丘盛土断面



1号墳 石室構築状況(南西から)



1号墳 石室構築状況(北西から)



1号墳 石室構築状況(北から)



1号墳 玄室構築状況



1号墳 玄門東側構築状況



1号墳 玄門西側構築状況



1号墳 玄室東壁構築状況



1号墳 玄室西壁構築状況



1号墳 石室床面全景



1号墳 玄室床面全景



1号墳 石室床面と根石栗石



1号墳 石室床面と根石栗石



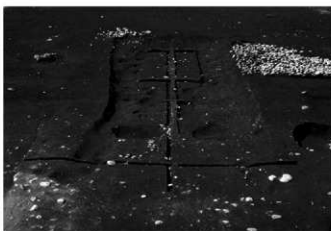
1号墳 石室根石栗石全景



1号墳 石室根石栗石設置状況



1号墳 石室根石栗石設置状況



1号墳 石室掘方全景



2号墳 全景 (空撮写真)



2号墳 調査前現況



2号墳 墳丘全景



2号墳 前底部崩落状況



2号墳 全景



2号墳 墳丘全景



2号墳 前庭全景



2号墳 前庭遺物出土状況



2号墳 前庭西壁石垣



2号墳 前庭東壁石垣



2号墳 石室全景



2号墳 閉塞状況



2号墳 羨道西壁構築状況



2号墳 羨道東壁構築状況



2号墳 羨道



2号墳 羨道(北から)



2号墳 玄室床面



2号墳 玄室東壁構築状況



2号墳 玄室西壁構築状況



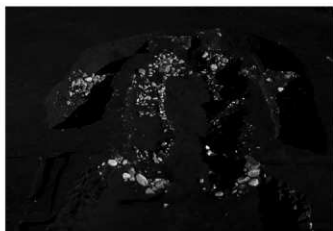
2号墳 玄室東壁構築状況



2号墳 玄室東壁構築状況



2号墳 石室構築状況(北から)



2号墳 石室根石栗石全景



2号墳 石室根石栗石設置状況



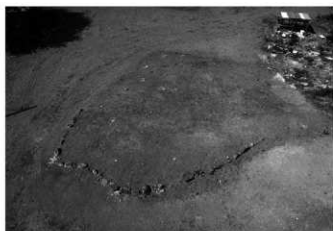
2号墳 石室根石栗石設置状況



2号墳 掘方全景



3号墳 全景 (航空写真)



3号墳 調査前現況



3号墳 全景



3号墳 石室全景



3号墳 入口閉塞状況



3号墳 羨道閉塞状況



3号墳 羨道閉塞状況



3号墳 全景



3号墳 石室全景



3号墳 前庭及びび入口



3号墳 入口部西側石垣



3号墳 入口部東側石垣



3号墳 羨道西壁構築状況



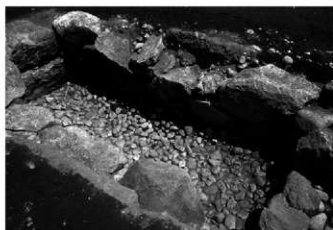
3号墳 羨道東壁構築状況



3号墳 玄門



3号墳 玄門



3号墳 玄室床面



3号墳 玄室西壁構築状況



3号墳 玄室西壁構築状況



3号墳 玄室奥壁構築状況



3号墳 玄室西壁構築状況



3号墳 玄室東壁構築状況



3号墳 玄室東壁構築状況



3号墳 玄室西壁構築状況



3号墳 石室構築状況(西から)



3号墳 石室構築状況(北から)



3号墳 石室床面と根石栗石



3号墳 石室床面と根石栗石



3号墳 石室根石栗石全景



3号墳 石室根石栗石設置状況



3号墳 石室根石栗石設置状況



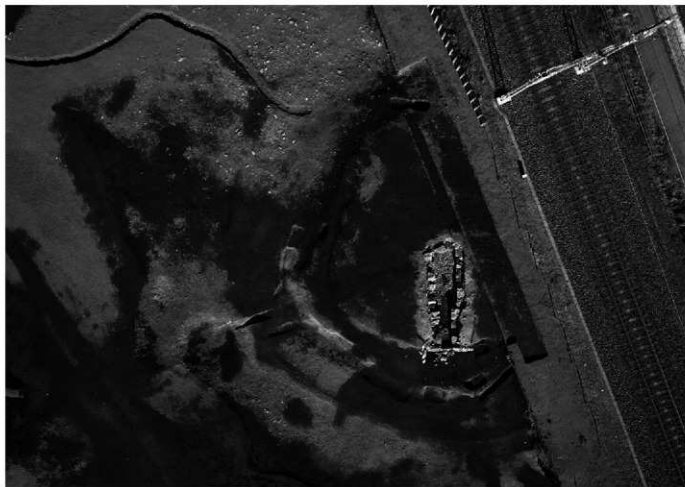
3号墳 石室根石栗石設置状況



3号墳 石室根石栗石設置状況



3号墳 石室掘方全景



4号墳 全景 (航空写真)



4号墳 調査前現況



4号墳 周堀土層断面



4号墳 周堀土層断面



4号墳 墳丘全景



4号墳 石室全景（航空写真）



4号墳 石室全景



4号墳 入口閉塞状況



4号墳 前庭及び石室入口部



4号墳 石室入口部



4号墳 羨道閉塞状況



4号墳 全景



4号墳 石室入口



4号墳 前庭及び石室入口



4号墳 羨道全景 (北から)



4号墳 玄室全景 (南西から)



4号墳 玄門と西壁構築状況



4号墳 玄室西壁構築状況



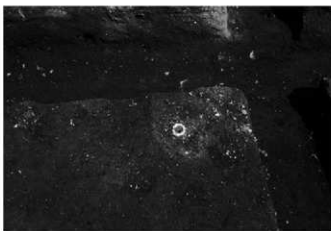
4号墳 玄室奥壁及び床面



4号墳 玄室東壁構築状況



4号墳 玄室内鉄灘出土状況



4号墳 玄室内耳環出土状況



4号墳 墳丘盛土断面全景



4号墳 墳丘盛土断面



4号墳 石室構築状況全景（西から）



4号墳 石室構築状況全景（東南から）



4号墳 石室構築状況(北東から)



4号墳 石室構築状況(北から)



4号墳 石室構築状況



4号墳 石室構築状況



4号墳 石室根石栗石全景



4号墳 石室根石栗石設置状況



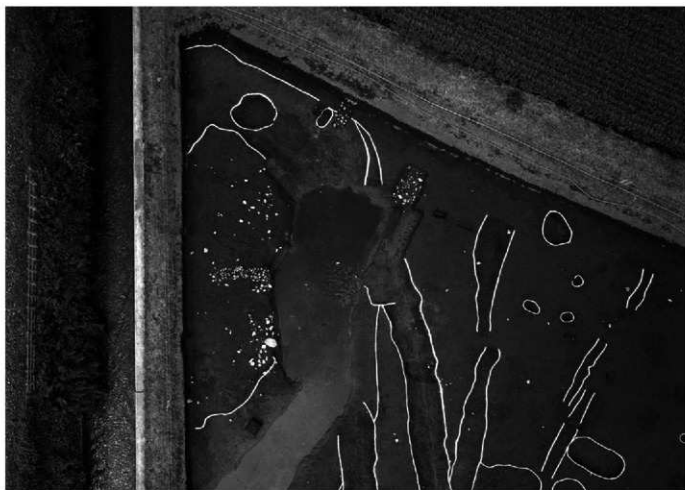
4号墳 掘方全景(南から)



4号墳 掘方全景(北から)



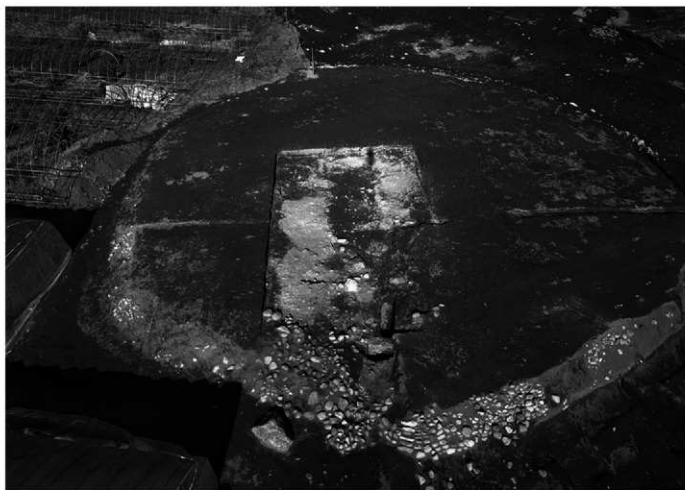
5号墳 全景（航空写真）



6号墳 全景（航空写真）



7号墳 全景 (航空写真)



7号墳 墳丘全景



7号墳 調査前現況



7号墳 前底部石垣崩落状況



7号墳 前底部石垣崩落状況



7号墳 前底部石垣崩落状況



7号墳 石室全景 (航空写真)



7号墳 前庭全景



7号墳 前庭(東から)



7号墳 前庭西壁石垣



7号墳 墳丘南東側の葺石



7号墳 墳丘北東側の葺石



7号墳 入口部閉塞状況



7号墳 羨道内閉塞状況



7号墳 石室全景



7号墳 前庭及び石室



7号墳 石室入口



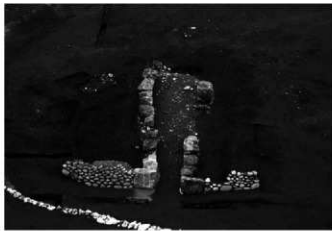
7号墳 石室全景（北から）



7号墳 羨道全景（北から）



7号墳 墳丘盛土断面



7号墳 石室及び基壇に隠れた葺石



7号墳 基壇に隠れた葺石（西側）



7号墳 基壇に隠れた葺石（東側）



7号墳 基壇に隠れた墓石



7号墳 石室構築状況(西から)



7号墳 玄室西壁構築状況



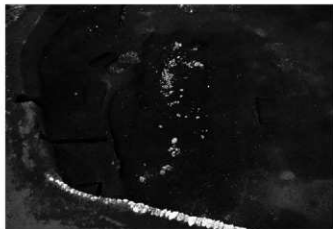
7号墳 石室根石残存状況



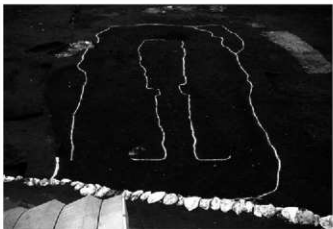
7号墳 玄室根石残存状況



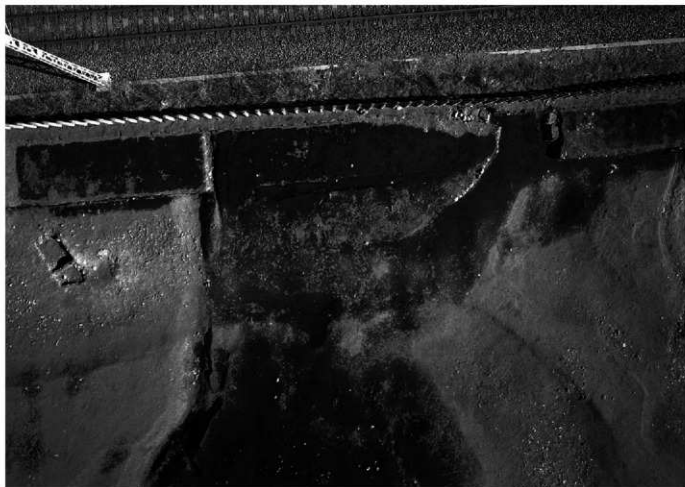
7号墳 羨道東壁構築状況



7号墳 石室根石栗石全景



7号墳 石室掘方全景



8号墳 全景 (航空写真)



8号墳 調査前現況



8号墳 周囲調査現況



8号墳 墳丘残存状況



8号墳 羨道西壁根石残存状況



9号墳 全景 (航空写真)



9号墳 墳丘全景



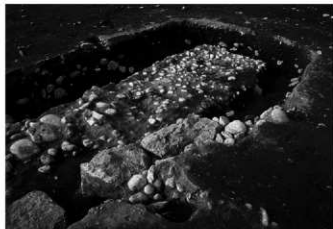
9号墳 石室全景



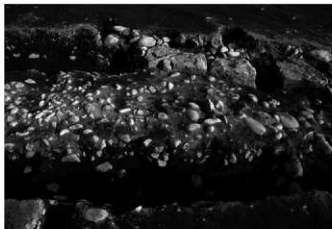
9号墳 石室入口閉塞状況



9号墳 墳丘葺石



9号墳 石室床面残存状況



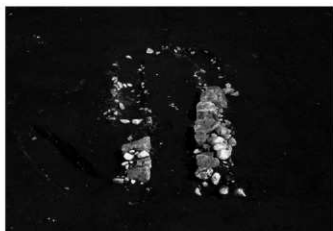
9号墳 石室床面残存状況



9号墳 玄室耳環出土状況



9号墳 墳丘全景



9号墳 石室全景



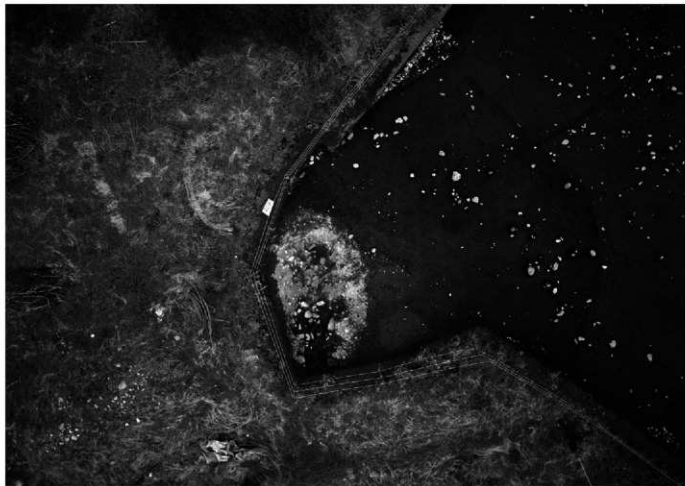
9号墳 石室



9号墳 掘方全景



9号墳 石室掘方全景



10号墳 全景 (航空写真)



10号墳 調査前現況



10号墳 全景



10号墳 羨道閉塞状況



10号墳 羨道閉塞状況



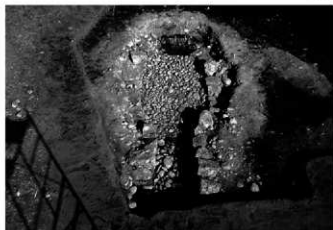
10号墳 溪道閉塞断面



10号墳 溪道床面之閉塞石



10号墳 全景



10号墳 石室全景



10号墳 溪道全景



10号墳 玄室全景



10号墳 玄室床面



10号墳 玄室西壁構築状況



10号墳 玄室内遺物出土状況



10号墳 玄室内大刀出土状況



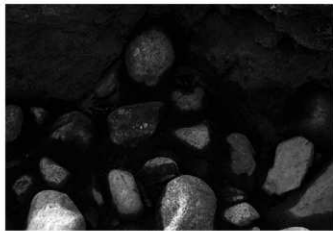
10号墳 玄室内大刀出土状況



10号墳 玄室内鉄鎌出土状況



10号墳 玄室内大刀出土状況



10号墳 玄室内鉄灘出土状況



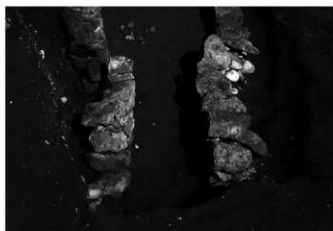
10号墳 玄室内耳環出土状況



10号墳 玄室内耳環出土状況



10号墳 石室



10号墳 羨道



10号墳 玄室



10号墳 玄室西壁構築状況



10号墳 玄室東壁構築状況



10号墳 玄門構築状況



10号墳 石室構築状況(東から)



10号墳 石室構築状況(南西から)



10号墳 石室構築状況(北から)



10号墳 石室構築状況(北東から)



10号墳 石室構築状況(北西から)



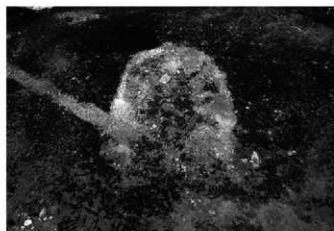
10号墳 石室掘方全景



10号墳 石室掘方



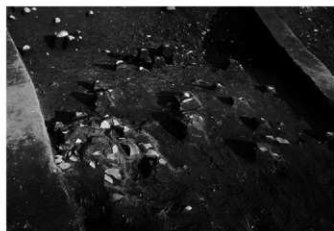
11号墳 全景 (航空写真)



11号墳 調査前現況



11号墳 全景



11号墳 周壁遺物出土状況



11号墳 周壁遺物出土状況



11号墳 全景



11号墳 石室全景



11号墳 前底部石垣崩落状況



11号墳 前底遺物出土状況



11号墳 石室東壁根石垣取り痕



11号墳 石室東壁根石構築状況



11号墳 石室残存状況



11号墳 石室残存状況



12号墳 周堀全景 (航空写真)



13号墳 周堀全景 (航空写真)



14号墳 全景（航空写真）



14号墳 調査前現況



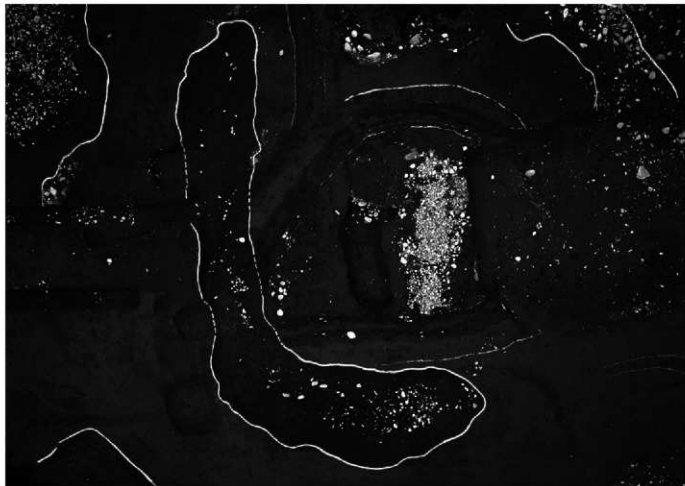
14号墳 石室残存状況



14号墳 石室根石残存状況



14号墳 石室掘方全景



15号墳 全景 (航空写真)



15号墳 調査前現況



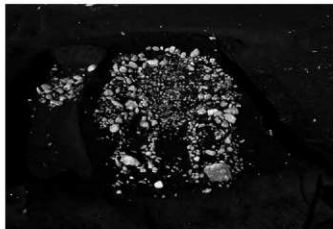
15号墳 調査前現況



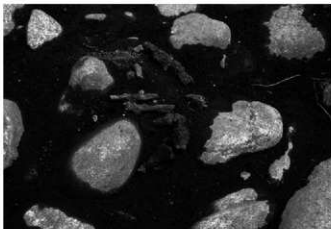
15号墳 石室残存状況



15号墳 墳丘全景



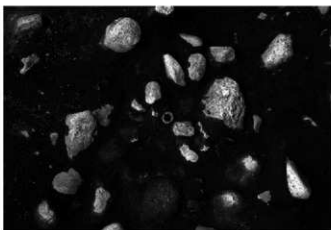
15号墳 石室全景



15号墳 玄室内鉄灘出土状況



15号墳 玄室内鉄灘出土状況



15号墳 玄室内耳環出土状況



15号墳 玄室内鉄灘出土状況



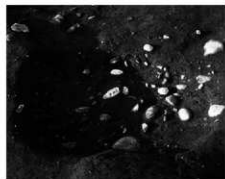
15号墳 石室根石架石設置状況



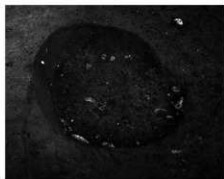
15号墳 掘方全景



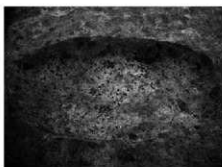
15号墳 石室掘方全景



(5) 1号土坑



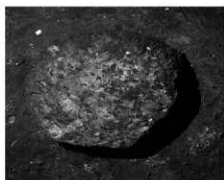
(5) 2号土坑



(5) 3号土坑



(5) 4号土坑



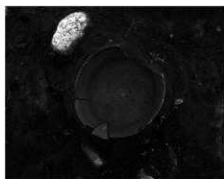
(5) 5号土坑



(5) 7号土坑



(5) 7号土坑



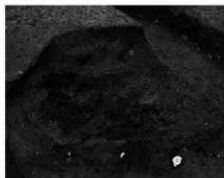
(5) 7号土坑



(5) 9号土坑



(5) 12号土坑下面炭出土状况



(5) 12号土坑上面



(5) 13号土坑



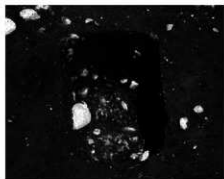
(5) 14号土坑



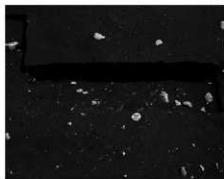
(5) 15号土坑



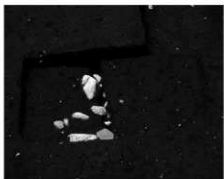
(5) 16号土坑



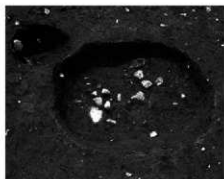
(5) 17号土坑



(5) 19号土坑



(5) 21号土坑



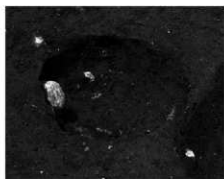
(5) 22号土坑



(5) 23号土坑



(5) 24号土坑



(5) 25号土坑



(5) 26号土坑



(5) 27号土坑



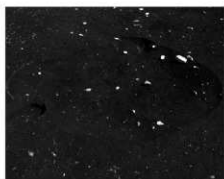
(5) 28号土坑



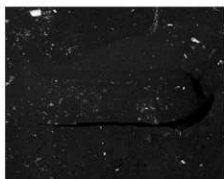
(5) 29号土坑



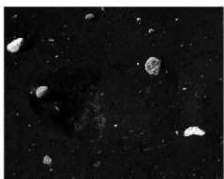
(5) 31号土坑



(5) 32号土坑



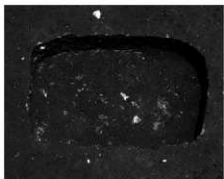
(5) 33号土坑



(5) 34号土坑



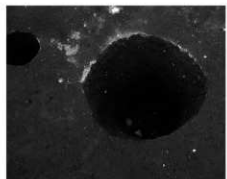
(5) 37号土坑



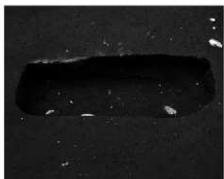
(5) 38号土坑



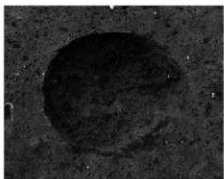
(5) 100号土坑



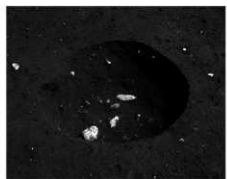
(5) 124号土坑



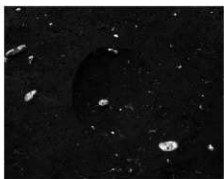
(5) 139号土坑



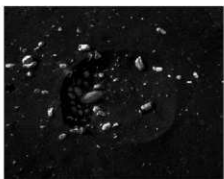
(5) 140号土坑



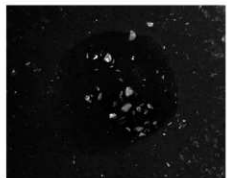
(5) 141号土坑



(5) 147号土坑



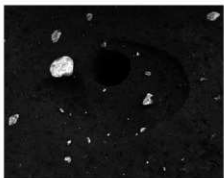
(5) 151号土坑



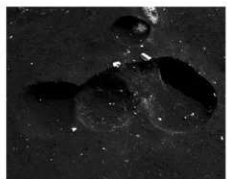
(5) 152号土坑



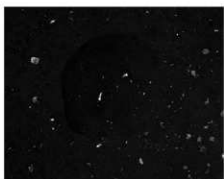
(5) 156-157-167号土坑



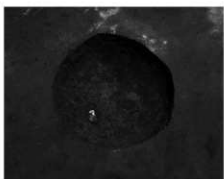
(5) 161号土坑



(5) 162-163-164号土坑



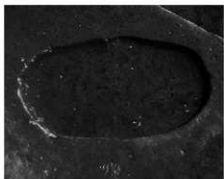
(5) 166号土坑



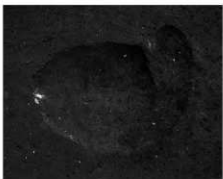
(5) 168号土坑



(5) 170号土坑



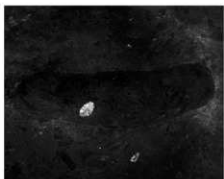
(5) 178号土坑



(5) 202·203号土坑



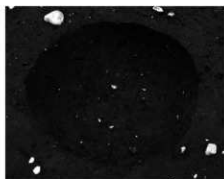
(5) 207·208号土坑



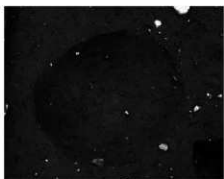
(5) 220号土坑



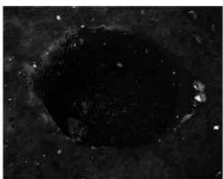
(5) 222号土坑



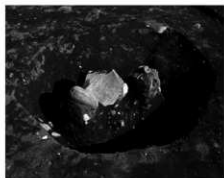
(5) 229号土坑



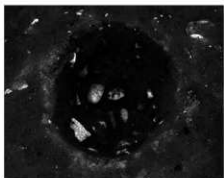
(5) 230号土坑



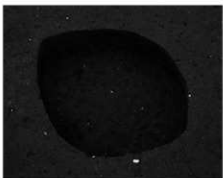
(5) 234号土坑



(5) 234号土坑遺物出土狀況



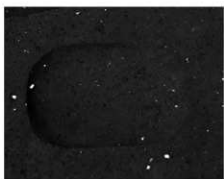
(5) 235号土坑



(5) 236号土坑



(5) 237号土坑



(5) 238号土坑



(5) 240号土坑



(5) 241号土坑



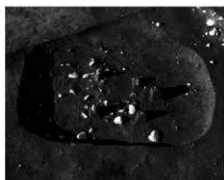
(5) 242号土坑



(5) 244号土坑



(5) 245号土坑



(5) 250号土坑



(5) 257号土坑



(5) 258号土坑



(5) 259号土坑



(5) 260号土坑



(5) 261号土坑



(5) 262号土坑



(5) 263号土坑



(5) 264号土坑



(5) 265号土坑



(5) 266号土坑



(5) 267号土坑



(5) 268号土坑



(5) 269号土坑



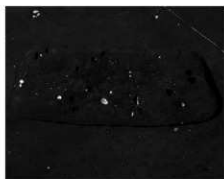
(5) 270号土坑



(5) 271号土坑



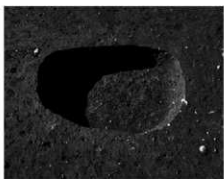
(5) 272号土坑



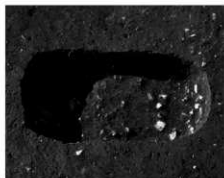
(5) 273号土坑



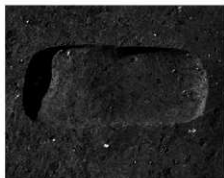
(5) 275号土坑



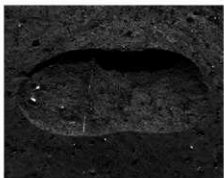
(5) 276号土坑



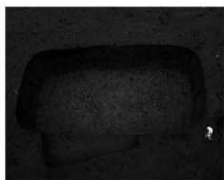
(5) 277号土坑



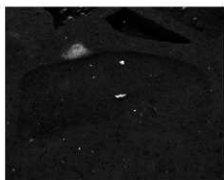
(5) 278号土坑



(5) 279号土坑



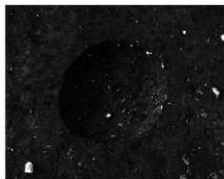
(5) 281号土坑



(5) 282号土坑



(5) 283号土坑



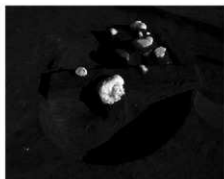
(5) 284号土坑



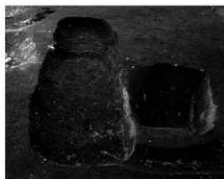
(5) 286号土坑



(5) 289号土坑



(5) 290号土坑



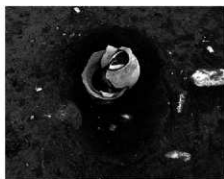
(5) 304·305号土坑



(5) 362号土坑



(5) 395号土坑·7号掘立



(5) 403号土坑



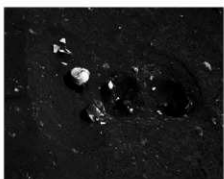
(5) 405号土坑



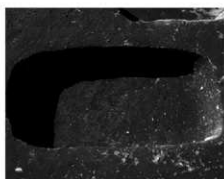
(5) 405号土坑



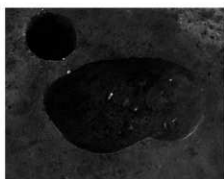
(5) 407号土坑



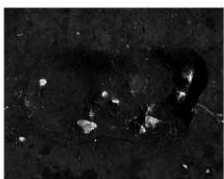
(5) 446号土坑



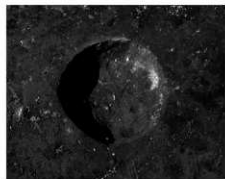
(5) 451号土坑



(5) 454·455号土坑



(5) 461号土坑



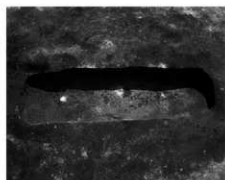
(5) 462号土坑



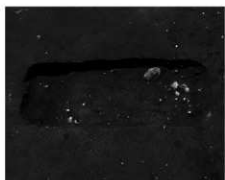
(5) 463号土坑



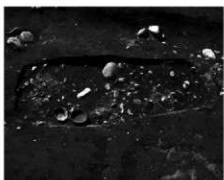
(5) 467号土坑



(5) 468号土坑



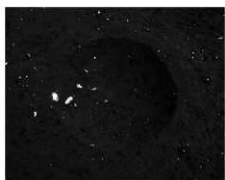
(5) 469号土坑



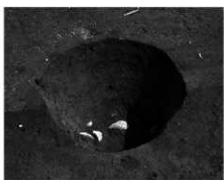
(5) 474号土坑



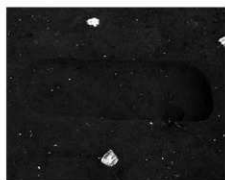
(5) 474号土坑遺物出土狀況



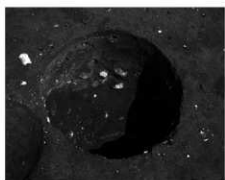
(5) 492号土坑



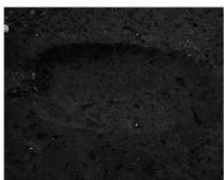
(5) 493号土坑



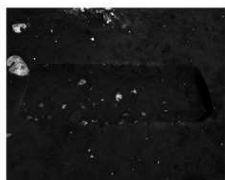
(5) 494号土坑



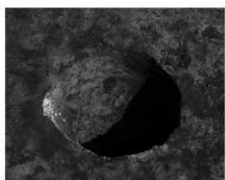
(5) 495号土坑



(5) 497号土坑



(5) 498号土坑



(5) 500号土坑



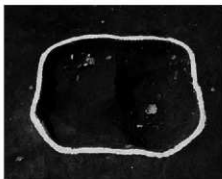
(5) 501号土坑



(7)-1区7号土坑



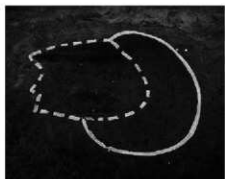
(7)-1区8·9号土坑



(7)-1区10号土坑



(7)-1区12号土坑



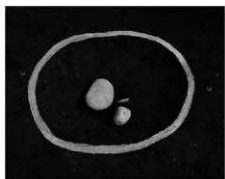
(7)-1区16号土坑



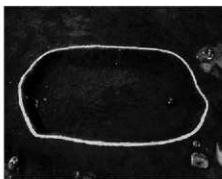
(7)-1区17号土坑



(7)-1区18号土坑



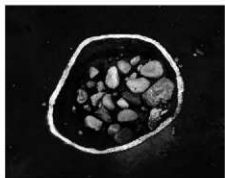
(7)-1区19号土坑



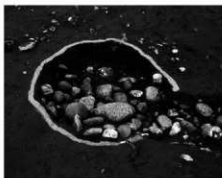
(7)-1区20号土坑



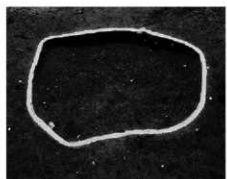
(7)-1区22号土坑



(7)-1区23号土坑



(7)-1区24号土坑



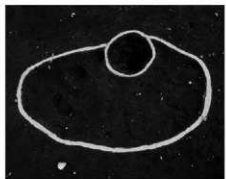
(7)-1区25号土坑



(7)-1区27号土坑



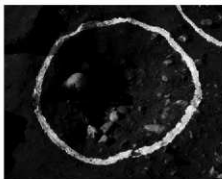
(7)-1区30号土坑



(7)-1区32号土坑



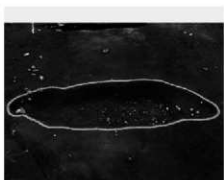
(7)-1区38号土坑



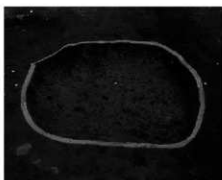
(7)-1区45号土坑



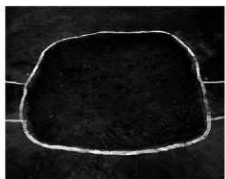
(7)-1区46号土坑



(7)-1区47号土坑



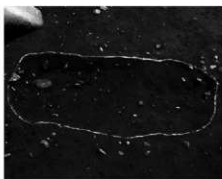
(7)-1区50号土坑



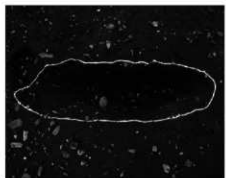
(7)-1区51号土坑



(7)-1区52号土坑



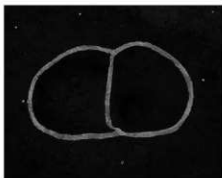
(7)-1区53号土坑



(7)-1区54号土坑



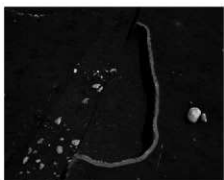
(7)-1区55号土坑



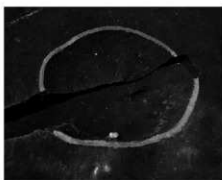
(7)-1区59-60号土坑



(7)-1区61号土坑



(7)-1区62号土坑



(7)-1区63号土坑



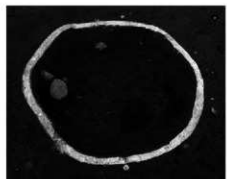
(7)-1 区93号土坑



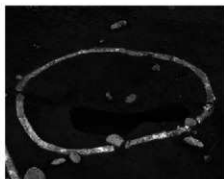
(7)-1 区94号土坑



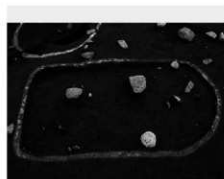
(7)-1 区102号土坑



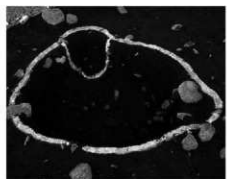
(7)-1 区129号土坑



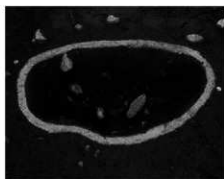
(7)-1 区130号土坑



(7)-1 区131号土坑



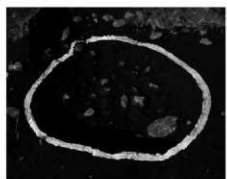
(7)-1 区132号土坑



(7)-1 区153号土坑



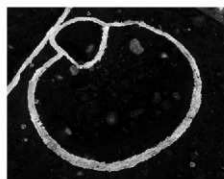
(7)-1 区155号土坑



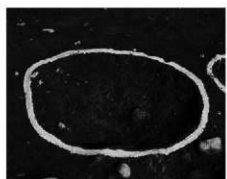
(7)-1 区195号土坑



(7)-1 区196号土坑



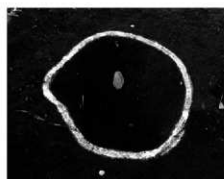
(7)-1 区212号土坑



(7)-1 区223号土坑



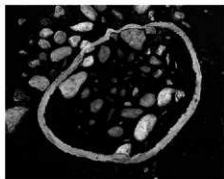
(7)-1 区228号土坑



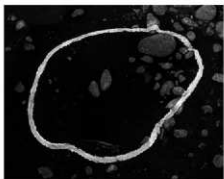
(7)-1 区280号土坑



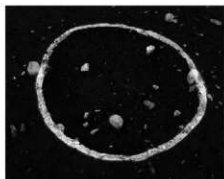
(7)-1区285号土坑



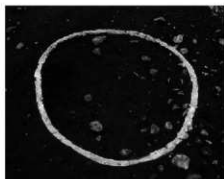
(7)-1区287号土坑



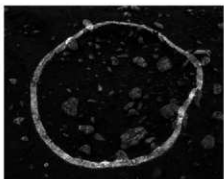
(7)-1区289号土坑



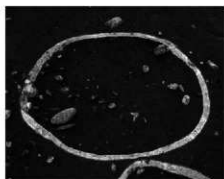
(7)-1区295号土坑



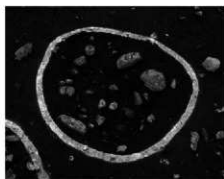
(7)-1区298号土坑



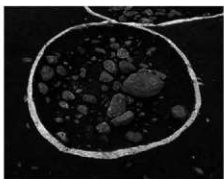
(7)-1区306号土坑



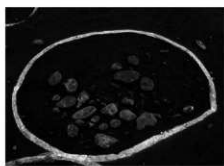
(7)-1区308号土坑



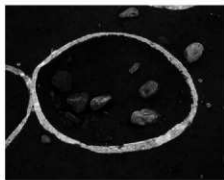
(7)-1区310号土坑



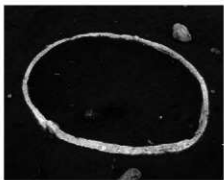
(7)-1区312号土坑



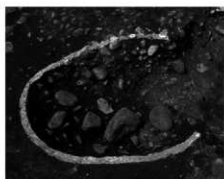
(7)-1区313号土坑



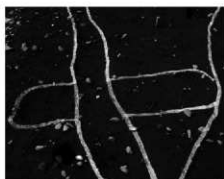
(7)-1区314号土坑



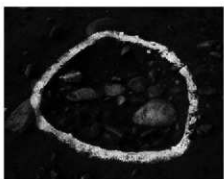
(7)-1区316号土坑



(7)-1区320号土坑



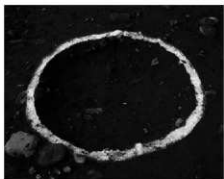
(7)-1区321号土坑



(7)-1区322号土坑



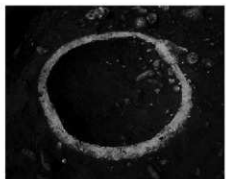
(7)-1 区323号土坑



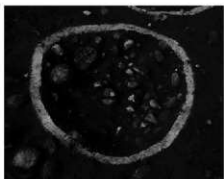
(7)-1 区324号土坑



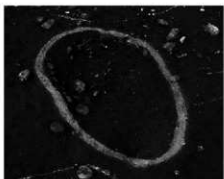
(7)-1 区325号土坑



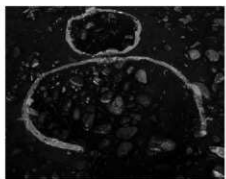
(7)-1 区326号土坑



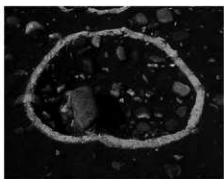
(7)-1 区328号土坑



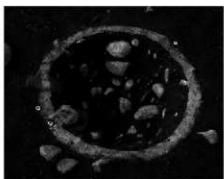
(7)-1 区331号土坑



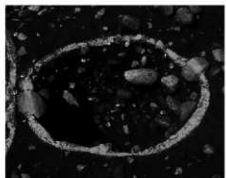
(7)-1 区332号土坑



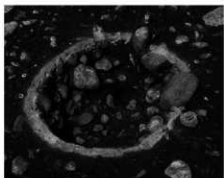
(7)-1 区336号土坑



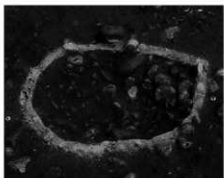
(7)-1 区338号土坑



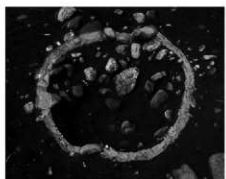
(7)-1 区341号土坑



(7)-1 区342号土坑



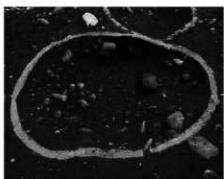
(7)-1 区343号土坑



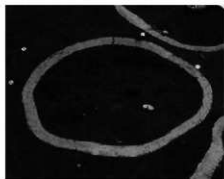
(7)-1 区347号土坑



(7)-1 区351号土坑



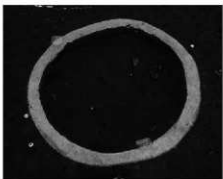
(7)-1 区352号土坑



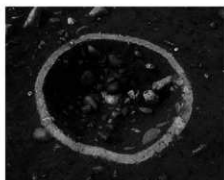
(7)-1 区361号土坑



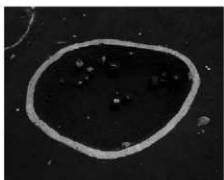
(7)-1 区365号土坑



(7)-1 区371号土坑



(7)-1 区375号土坑



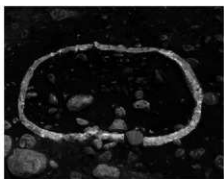
(7)-1 区378号土坑



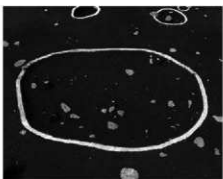
(7)-1 区390-391号土坑



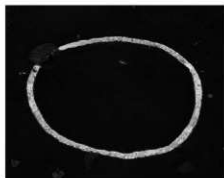
(7)-1 区392-405-406号土坑



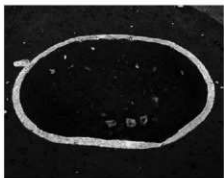
(7)-1 区407号土坑



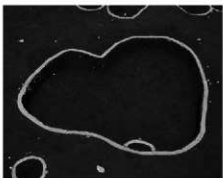
(7)-1 区418号土坑



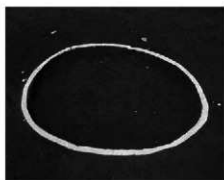
(7)-1 区429号土坑



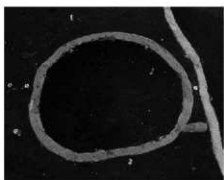
(7)-1 区439号土坑



(7)-1 区444-445号土坑



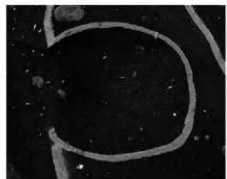
(7)-1 区446号土坑



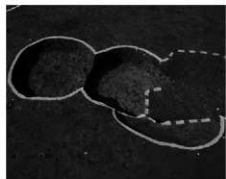
(7)-1 区447号土坑



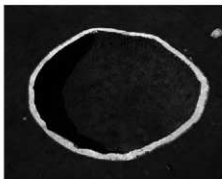
(7)-1 区449-450号土坑



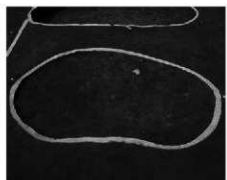
(7)-1 区477号土坑



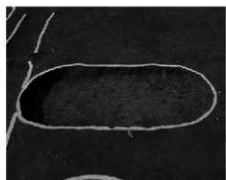
(7)-1 区491·492·493号土坑



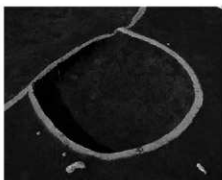
(7)-1 区494号土坑



(7)-1 区495号土坑



(7)-1 区496号土坑



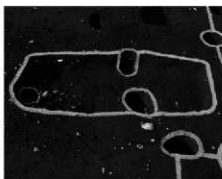
(7)-1 区497号土坑



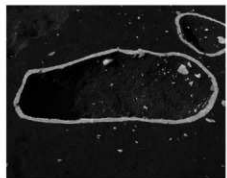
(7)-1 区498号土坑



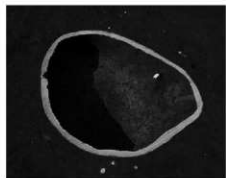
(7)-1 区499号土坑



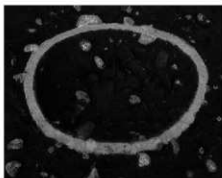
(7)-1 区501号土坑



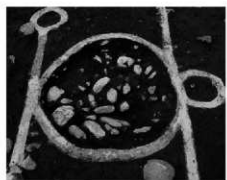
(7)-1 区505号土坑



(7)-1 区508号土坑



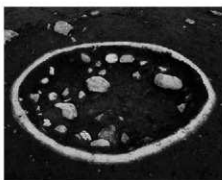
(7)-1 区509号土坑



(7)-1 区536号土坑



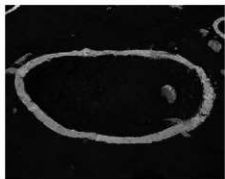
(7)-1 区537号土坑



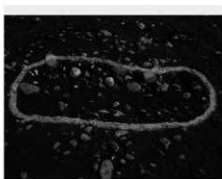
(7)-1 区538号土坑



(7)-1 区539号土坑



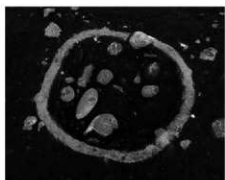
(7)-1 区541号土坑



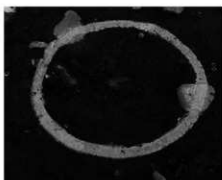
(7)-1 区545号土坑



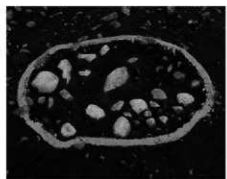
(7)-1 区546号土坑



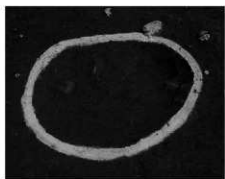
(7)-1 区547号土坑



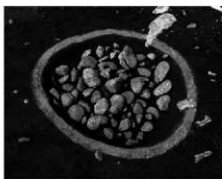
(7)-1 区549号土坑



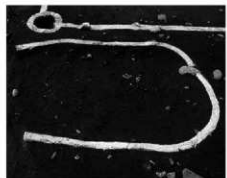
(7)-1 区550号土坑



(7)-1 区552号土坑



(7)-1 区557号土坑



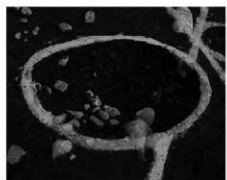
(7)-1 区558号土坑



(7)-1 区585号土坑



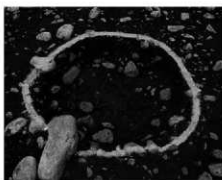
(7)-1 区586号土坑



(7)-1 区601号土坑



(7)-1 区606号土坑



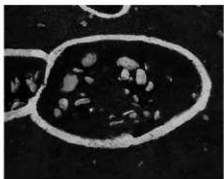
(7)-1 区607号土坑



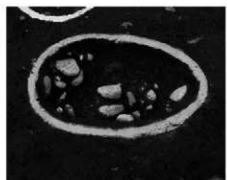
(7)-1 区608号土坑



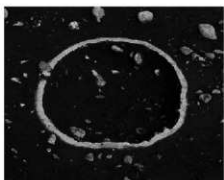
(7)-1 区619号土坑



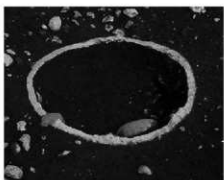
(7)-1 区629号土坑



(7)-1 区630号土坑



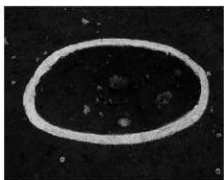
(7)-1 区633号土坑



(7)-1 区634号土坑



(7)-1 区650号土坑



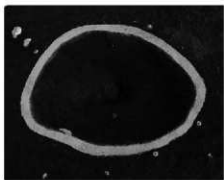
(7)-1 区677号土坑



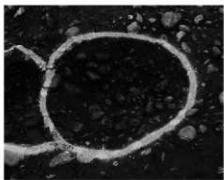
(7)-1 区679号土坑



(7)-1 区684号土坑



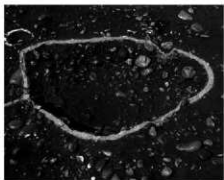
(7)-1 区729号土坑



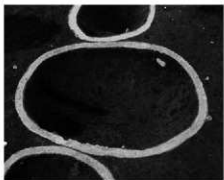
(7)-1 区730号土坑



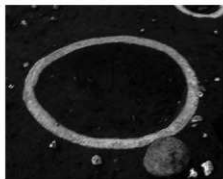
(7)-1 区731号土坑



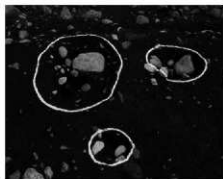
(7)-1 区732号土坑



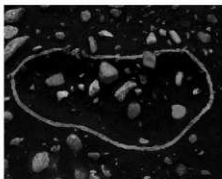
(7)-1 区735号土坑



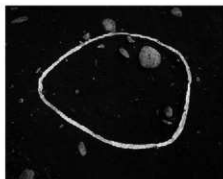
(7)-1区774号土坑



(7)-2区3·4·5号土坑



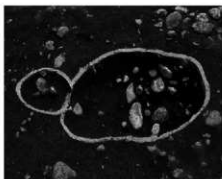
(7)-2区6号土坑



(7)-2区8号土坑



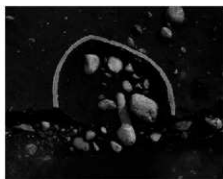
(7)-2区9号土坑



(7)-2区10号土坑



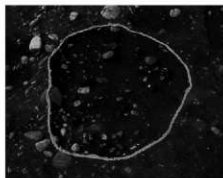
(7)-2区11号土坑



(7)-2区12号土坑



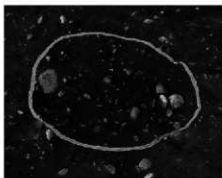
(7)-2区25号土坑



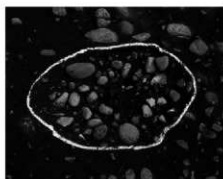
(7)-2区26号土坑



(7)-2区27号土坑



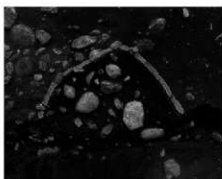
(7)-2区28号土坑



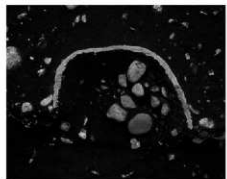
(7)-2区29号土坑



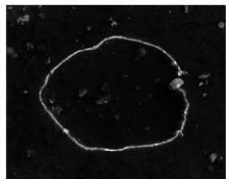
(7)-2区40号土坑



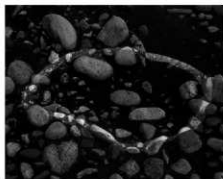
(7)-2区46号土坑



(7)-2区47号土坑



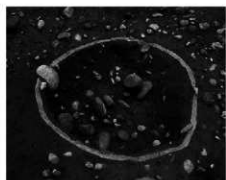
(7)-2区53号土坑



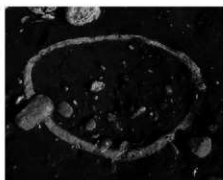
(7)-2区56号土坑



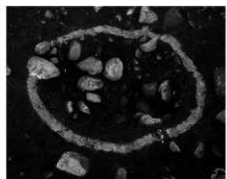
(7)-2区57号土坑



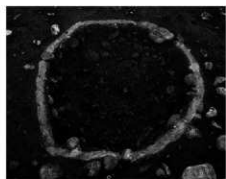
(7)-2区59号土坑



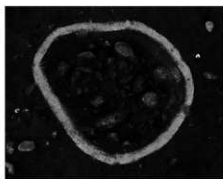
(7)-2区73号土坑



(7)-2区78号土坑



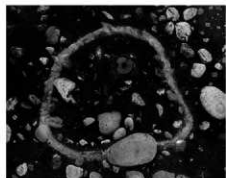
(7)-2区79号土坑



(7)-2区81号土坑



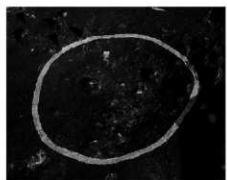
(7)-2区87号土坑



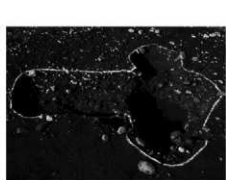
(7)-2区99号土坑



(7)-2区100号土坑



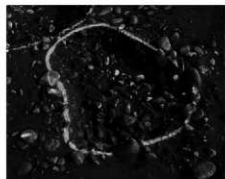
(7)-2区101号土坑



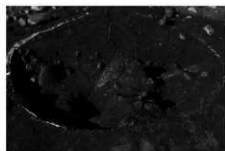
(7)-2区103-104-107号土坑



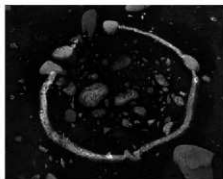
(7)-2区106号土坑



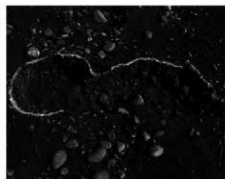
(7)-2区108号土坑



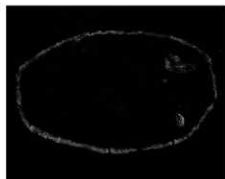
(7)-2区127号土坑



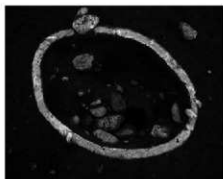
(7)-2区130号土坑



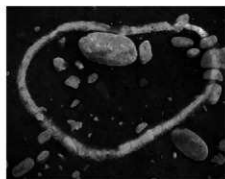
(7)-2区133号土坑



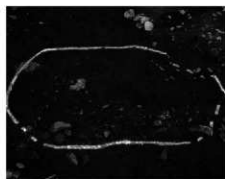
(7)-2区142号土坑



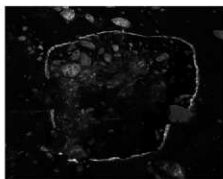
(7)-2区156号土坑



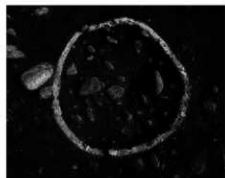
(7)-2区158号土坑



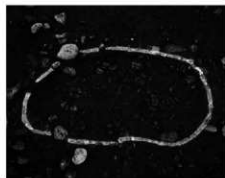
(7)-2区161号土坑



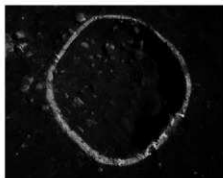
(7)-2区162号土坑



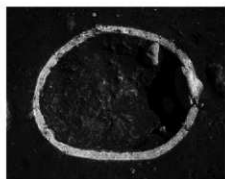
(7)-2区170号土坑



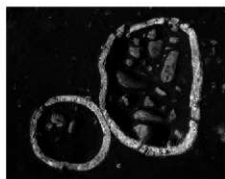
(7)-2区171号土坑



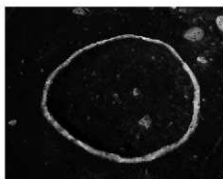
(7)-2区172号土坑



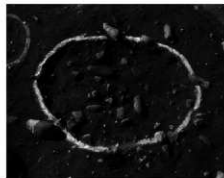
(7)-2区173号土坑



(7)-2区174·175号土坑



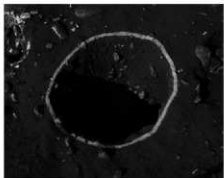
(7)-2区177号土坑



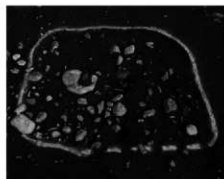
(7)-2区184号土坑



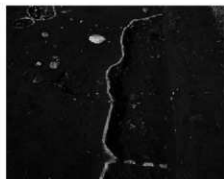
(7)-2区189号土坑



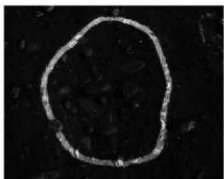
(7)-2区190号土坑



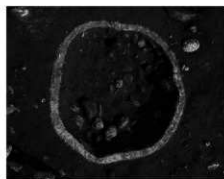
(7)-2区193号土坑



(7)-2区195号土坑



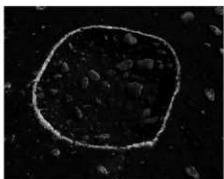
(7)-2区196号土坑



(7)-2区198号土坑



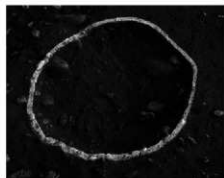
(7)-2区202号土坑



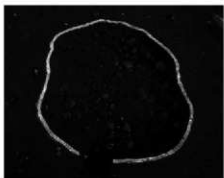
(7)-2区206号土坑



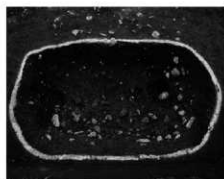
(7)-2区207号土坑



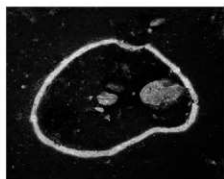
(7)-2区208号土坑



(7)-2区206号土坑



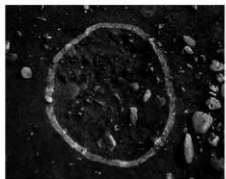
(7)-2区214号土坑



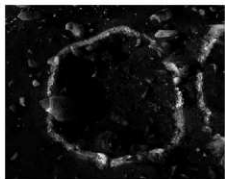
(7)-2区217号土坑



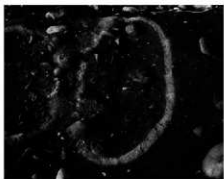
(7)-2区218号土坑



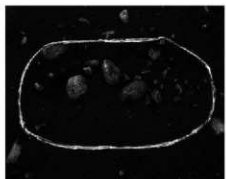
(7)-2区219号土坑



(7)-2区224号土坑



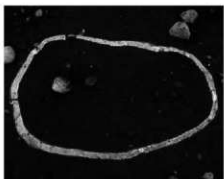
(7)-2区225号土坑



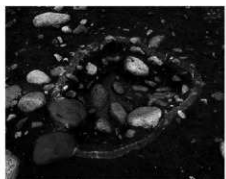
(7)-2区229号土坑



(7)-2区230号土坑



(7)-2区233号土坑



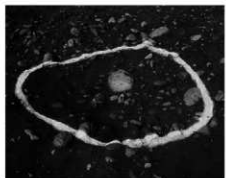
(7)-2区239号土坑



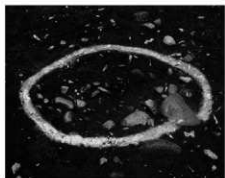
(7)-2区240号土坑



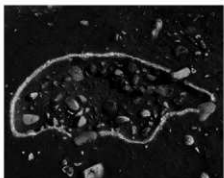
(7)-2区242号土坑



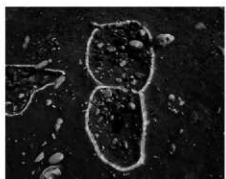
(7)-2区243号土坑



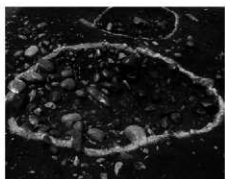
(7)-2区244号土坑



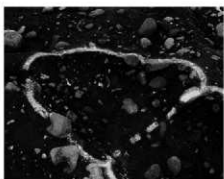
(7)-2区245号土坑



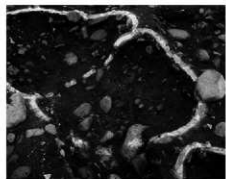
(7)-2区246号土坑



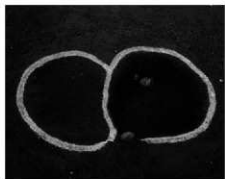
(7)-2区257号土坑



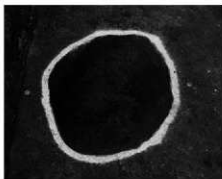
(7)-2区258号土坑



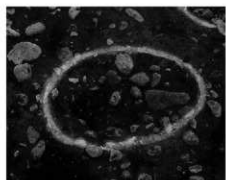
(7)-2区259号土坑



(7)-2区261号土坑



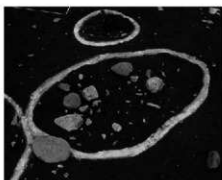
(7)-2区262号土坑



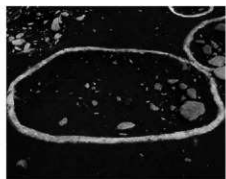
(7)-2区296号土坑



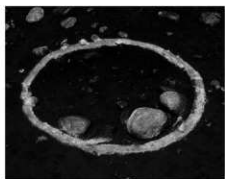
(7)-2区298号土坑



(7)-2区314号土坑



(7)-2区315号土坑



(7)-2区319号土坑



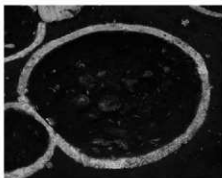
(7)-2区322号土坑



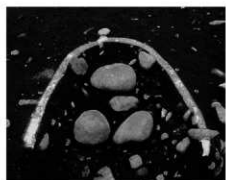
(7)-2区331号土坑



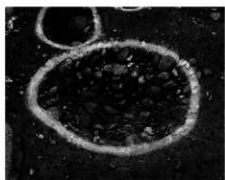
(7)-2区337号土坑



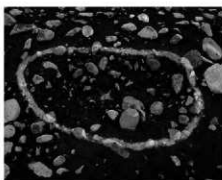
(7)-2区343号土坑



(7)-2区355号土坑



(7)-2区357号土坑



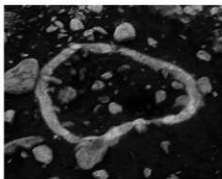
(7)-2区371号土坑



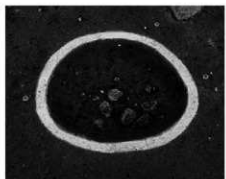
(7)-2区383号土坑



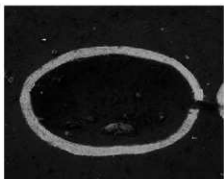
(7)-2区384号土坑



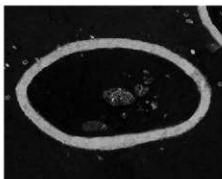
(7)-2区393号土坑



(7)-2区399号土坑



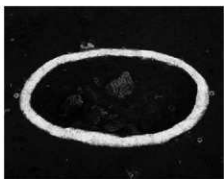
(7)-2区400号土坑



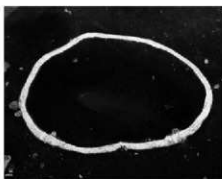
(7)-2区401号土坑



(7)-2区402号土坑



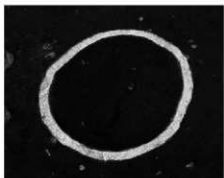
(7)-2区404号土坑



(7)-2区416号土坑



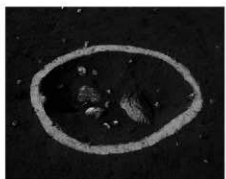
(7)-2区417号土坑



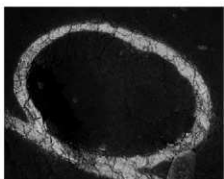
(7)-2区420号土坑



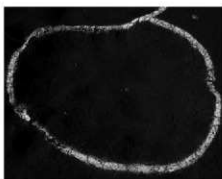
(7)-2区424号土坑



(7)-2区429号土坑



(7)-2区435号土坑



(7)-2区436号土坑



(5) 1住 1



(5) 1住 3



(5) 3住 4



(5) 3住 5



(5) 3住 6



(5) 3住 7



(5) 3住 8



(5) 3住 9



(5) 4住 3



(5) 4住 4



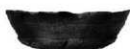
(5) 4住 5



(5) 4住 6



(5) 4住 7



(5) 4住 8



(5) 4住 9



(5) 4住 10



(5) 4住 11



(5) 4住 12



(5) 4住 13



(5) 4住 14



(5) 4住 15



(5) 4住 16



(5) 4住 17



(5) 4住 29



(5) 4住 18



(5) 4住 20



(5) 4住 21



(5) 4住 22



(5) 4住 23



(5) 4住 24



(5) 4住 25



(5) 4住 28



(5) 4住 26



(5) 4住 27



(5) 7住 2



(5) 7住 3



(5) 7住 4



(5) 7住 5



(5) 7住 6



(5) 8住 1



(5) 8住 2



(5) 8住 6



(5) 8住 3



(5) 8住 4



(5) 8住 8



(5) 9住 1



(5) 9住 2



(5) 9住 3



(5) 9住 6



(5) 9住 7



(5) 9住 10



(5) 11住 1



(5) 10住 4



(5) 13住 2



(5) 12E 1



(5) 12E 2



(5) 14E 1



(5) 14E 3



(5) 14E 4



(5) 14E 5



(5) 14E 8



(5) 14E 7



(5) 14E 6



(5) 14E 12



(5) 14E 13



(5) 14E 14



(5) 15E 1



(5) 15E 2



(5) 15E 3



(5) 15E 4



(5) 17E 1



(5) 17E 2



(5) 17E 3



(5) 17E 4



(5) 17E 5



(5) 17E 6



(5) 17E 7



(5) 17E 8



(5) 17E 9



(5) 17E 10



(5) 17E 11



(5) 17E 13



(5) 17E 14



(5) 17E 15



(5) 17E 16



(5) 17E 17



(5) 17E 18



(5) 17E 19



(5) 18E 1



(5) 19E 1



(5) 17E 21



(5) 17E 20



(5) 19E 4



(5) 20E 1



(5) 20E 2



(5) 20E 4



(5) 20FE 5



(5) 20FE 6



(5) 20FE 7



(5) 20FE 8



(5) 20FE 9



(5) 20FE 10



(5) 20FE 11



(5) 20FE 12



(5) 20FE 13



(5) 20FE 14



(5) 21FE 2



(5) 23FE 3



(5) 23FE 1



(5) 23FE 3



(5) 23FE 4



(5) 23FE 5



(5) 23FE 6



(5) 23FE 8



(5) 23FE 9



(5) 23FE 7



(5) 24FE 2



(5) 24FE 4



(5) 24FE 8



(5) 24FE 5



(5) 24FE 6



(5) 24FE 7



(5) 24㉔ 9



(5) 29㉔ 1



(5) 29㉔ 2



(5) 29㉔ 3



(5) 29㉔ 4



(5) 29㉔ 5



(5) 29㉔ 6



(5) 29㉔ 7



(5) 29㉔ 8



(5) 30㉔ 1



(5) 31㉔ 1



(5) 31㉔ 2



(5) 31㉔ 3



(5) 31㉔ 5



(5) 31㉔ 6



(5) 31㉔ 4



(5) 31/E 7



(5) 31/E 8



(5) 31/E 9



(5) 33/E 1



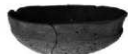
(5) 34/E 1



(5) 34/E 2



(5) 34/E 4



(5) 34/E 5



(5) 35/E 1



(5) 35/E 2



(5) 35/E 3



(5) 35/E 4



(5) 35/E 5



(5) 35/E 15



(5) 39/E 1



(5) 35/E 10



(5) 37/E 1



(5) 39/E 4



(5) 39㉔ 5



(5) 39㉔ 6



(5) 41㉔ 1



(5) 41㉔ 2



(5) 45㉔ 1



(5) 41㉔ 3



(5) 41㉔ 4



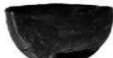
(5) 45㉔ 3



(5) 54㉔ 1



(5) 54㉔ 2



(5) 54㉔ 3



(5) 54㉔ 4



(5) 54㉔ 5



(5) 54㉔ 6



(5) 54㉔ 7



(5) 54㉔ 8



(5) 54㉔ 9



(5) 54E 15



(5) 58E 1



(5) 59E 1



(5) 58E 2



(5) 59E 2



(5) 59E 3



(5) 59E 4



(5) 59E 5



(5) 60E 1



(5) 60E 2



(5) 60E 3



(5) 60E 4



(5) 60E 5



(5) 60E 6



(5) 60E 7



(5) 63E 1



(5) 64E 1



(5) 64E 4



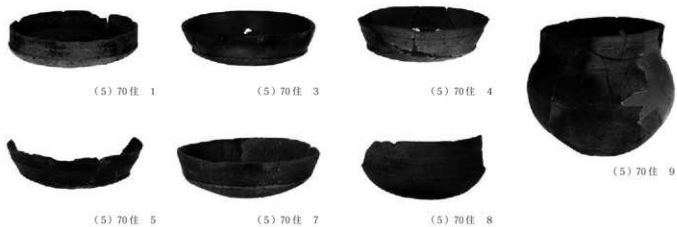
(5) 60E 8



(5) 64E 2



(5) 64E 3





(5) 70E 10



(5) 70E 11



(5) 71E 2



(5) 71E 3



(5) 71E 6



(5) 72E 1



(5) 72E 5



(5) 74E 1



(5) 72E 2



(5) 74E 2



(5) 75E 1



(5) 75E 3



(5) 75E 4



(5) 74E 4



(5) 75E 6



(5) 77E 2



(5) 79E 1



(5) 84E 2



(5) 84E 3



(5) 84E 4



(5) 85E 1



(5) 85E 2



(5) 85E 3



(5) 86E 1



(5) 86E 2



(5) 86E 3



(5) 86E 6



(5) 86E 7



(5) 86E 8



(5) 86E 9



(5) 86E 10



(5) 86E 11



(5) 87E 1



(5) 87E 2



(5) 87E 4



(5) 88E 1



(5) 88E 2



(5) 88E 3



(5) 88E 4



(5) 88E 5



(5) 88E 6



(5) 88E 7



(5) 88E 8



(5) 88E 9



(5) 88E 10



(5) 88E 11



(5) 88E 12



(5) 88E 13



(5) 88E 14



(5) 88E 15



(5) 88E 16



(5) 88E 17



(5) 88E 19



(5) 88E 18



(5) 88E 20



(5) 88E 21



(5) 88E 22



(5) 88E 23



(5) 88E 26



(5) 90E 4



(5) 90E 1



(5) 90E 2



(5) 90E 3



(5) 90E 5



(5) 90E 6



(5) 90E 7



(5) 90E 8



(5) 90E 9



(5) 90E 10



(5) 90E 14



(5) 90E 16



(5) 90E 11



(5) 90E 14



(5) 91E 1



(5) 91E 2



(5) 91E 3



(5) 92E 2



(5) 95E 3



(5) 95E 7



(5) 95E 8



(5) 92E 6



(5) 95E 6



(5) 95E 13



(5) 97E 1



(5) 97E 2



(5) 97住 3



(5) 97住 4



(5) 98住 1



(5) 98住 2



(5) 98住 3



(5) 98住 4



(5) 98住 6



(5) 98住 10



(5) 98住 9



(5) 98住 11



(5) 98住 12



(5) 98住 13



(5) 98住 14



(5) 98住 15



(5) 98住 16



(5) 98住 18



(5) 98住 19



(5) 98E 20



(5) 102E 2



(5) 102E 3



(5) 102E 4



(5) 102E 5



(5) 102E 6



(5) 102E 7



(5) 102E 8



(5) 102E 9



(5) 105E 1



(5) 105E 3



(5) 105E 5

(5) 105E 6



(5) 105E 7



(5) 106E 2



(5) 106E 7



(5) 106E 3



(5) 106E 4



(5) 107E 2



(5) 107E 3



(5) 107E 4



(5) 107E 5



(5) 107住 6



(5) 107住 7



(5) 107住 8



(5) 107住 10



(5) 107住 9



(5) 108住 1



(5) 108住 2



(5) 108住 3



(5) 108住 5



(5) 108住 10



(5) 108住 11



(5) 109住 1



(5) 109住 2



(5) 109住 3



(5) 109住 4



(5) 113住 1



(5) 113住 2



(5) 113住 3



(5) 113住 4



(5) 113住 5



(5) 113住 6.



(5) 114住 1



(5) 132住 1



(5) 132住 4



(5) 125住 1



(7)-1区1住 1



(7)-1区1住 2



(7)-1区1住 3



(7)-1区1住 4



(7)-1区1住 5



(7)-1区1住 6



(7)-1区1住 7



(7)-1区1住 8



(7)-1区1住 10



(7)-1区1住 9



(7)-1区2住 1



(7)-1区2住 2



(7)-1区2住 3



(7)-1区2住 4



(7)-1区2住 5



(7)-1区2住 6



(7)-1区2住 7



(7)-1区2住 8



(7)-1区2住 9



(7)-1区2住 11



(7)-1区2住 10



(7)-1区2住 12



(7)-1区2住 13



(7)-1区2住 14



(7)-1区2住 15



(7)-1区2住 16



(7)-1区2住 19



(7)-1区2住 17



(7)-1区2住 18



(7)-1区2住 20



(7)-1K2住 21



(7)-1K2住 22



(7)-1K2住 25



(7)-1K2住 24



(7)-1K2住 23



(7)-1K5住 1



(7)-1K5住 2



(7)-1K5住 3



(7)-1K5住 5



(7)-1K5住 6



(7)-1K5住 7



(7)-1K8住 2



(7)-1K8住 3



(7)-1K8住 5



(7)-1K8住 6



(7)-1区8住 7



(7)-1区8住 10



(7)-1区8住 8



(7)-1区8住 9



(7)-2区17住 4



(7)-2区17住 7



(7)-2区21住 4



(7)-2区21住 5



(7)-2区21住 3



(7)-2区21住 11



(7)-2区21住 7



(7)-2区21住 9



(7)-2区21住 10



(7)-2区21住 12



(7)-2区21住 13



(7)-2区21住 14



(7)-2区21住 15



(7)-2区21住 16



(7)-2区21住 18



(7)-2区21住 19





(7)-2区39B住 1



(7)-2区39B住 4



(7)-2区39B住 5



(7)-2区39B住 6



(7)-2区39B住 8



(7)-2区39B住 9



(7)-2区39B住 11



(7)-2区39B住 13



(7)-2区39B住 14



(7)-2区39B住 15



(7)-2区39B住 16



上層集中1 1



上層集中1 2



上層集中1 3



上層集中1 4



上層集中1 5



上層集中1 7



上層集中1 8



上層集中1 6



上層集中1 9



上器集中1 10



上器集中1 11



上器集中1 12



上器集中1 13



上器集中1 14



上器集中1 16



上器集中1 17



上器集中1 18



上器集中1 19



上器集中1 22



上器集中1 20



上器集中1 21



上器集中2 1



上器集中2 2



上器集中2 3



上器集中2 8



上器集中2 9



上器集中2 10



上器集中2 11



上器集中2 12



土器集中 2 13



土器集中 2 14



土器集中 2 15



土器集中 2 16



土器集中 2 19



土器集中 2 20



土器集中 2 21



土器集中 2 23



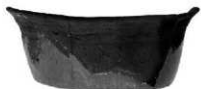
土器集中 2 22



土器集中 2 24



土器集中 3 1



土器集中 2 25



土器集中 2 30



土器集中 3 2



土器集中 2 27



土器集中 3 3



土器集中 3 4



土器集中 3 6



土器集中 3 8



土器集中 3 5



土器集中 3



土器集中 6



土器集中 8



土器集中 1



土器集中 9



土器集中 11



1 墳 1



1 墳 2



1 墳 3



1 墳 4



1 墳 5



1 墳 6



1 墳 7



1 墳 8



1 墳 9



1 墳 10



1 墳 11



1 墳 12



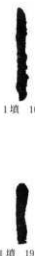
1 墳 13



1 墳 14



1 墳 15



1 墳 16



1 墳 17



1 墳 18



1 墳 19



1 墳 20



1 墳 21



1 墳 22



1 墳 23



1 墳 24



1 墳 25



1 墳 26



1 墳 27



1 墳 29



1 墳 30



1 墳 32



1 墳 33



1 墳 34



1 墳 35



1 墳 36



1 墳 37



1 墳 38



1 墳 41



1 墳 42



1 墳 43



1 墳 44



1 墳 45



1 墳 46



1 墳 47



1 墳 48



1 墳 49



1 墳 50



1 墳 51



1 墳 52



1 墳 53



1 墳 54



1 墳 55



1 墳 56



1 墳 57



1 墳 58



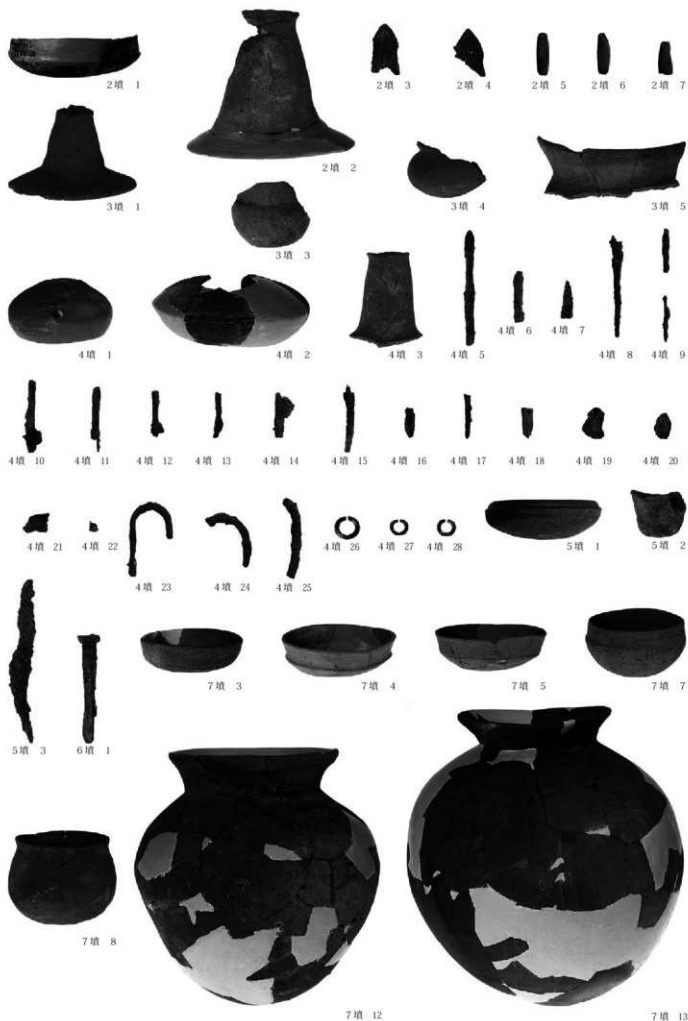
1 墳 59



1 墳 39

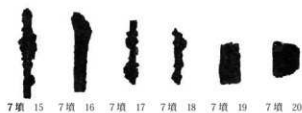


1 墳 40





7 墳 14



7 墳 15 7 墳 16 7 墳 17 7 墳 18 7 墳 19 7 墳 20



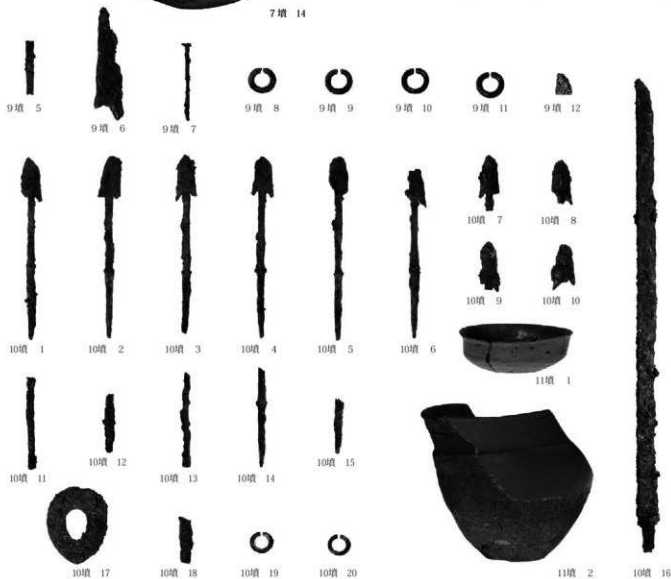
7 墳 21 7 墳 22 7 墳 23 7 墳 24



7 墳 25



8 墳 1 8 墳 2 9 墳 1



9 墳 5

9 墳 6

9 墳 7

9 墳 8

9 墳 9

9 墳 10

9 墳 11

9 墳 12

10 墳 1

10 墳 2

10 墳 3

10 墳 4

10 墳 5

10 墳 6

10 墳 7

10 墳 8

10 墳 9

10 墳 10

10 墳 11

10 墳 12

10 墳 13

10 墳 14

10 墳 15

10 墳 17

10 墳 18

10 墳 19

10 墳 20

11 墳 1

11 墳 2

10 墳 16

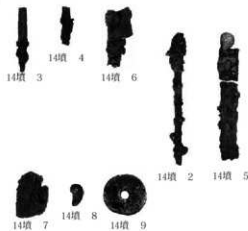


11 瓿 4



12 瓿 3

14 瓿 1



14 瓿 3

14 瓿 4

14 瓿 6

14 瓿 2

14 瓿 5

14 瓿 7

14 瓿 8

14 瓿 9



15 瓿 1

15 瓿 2

15 瓿 3

15 瓿 4

15 瓿 5

15 瓿 6

15 瓿 7

15 瓿 8

15 瓿 9

15 瓿 10



15 瓿 11

15 瓿 12

15 瓿 13

15 瓿 14

15 瓿 15

15 瓿 16

15 瓿 17

15 瓿 18

15 瓿 19

15 瓿 20



15 瓿 21

15 瓿 22

15 瓿 23

15 瓿 24

15 瓿 25

15 瓿 26

15 瓿 27

15 瓿 28

15 瓿 29

15 瓿 30



(5) 7土坑 1



(5) 7土坑 2



(5) 20土坑 1



(5) 290土坑 1



(5) 395土坑 1



(5) 405土坑 1



道横外 2



道横外 10



道横外 11



道横外 13



道横外 14



道横外 15



道横外 66



道横外 67



道横外 68



道横外 69



道横外 70



道横外 71



道横外 72



道横外 73



道横外 74



道横外 75



道横外 76



道横外 77

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第499集

西野原遺跡(5)(7) 第3分冊—古墳時代編—

石田川流域調節池事業（D池）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年12月10日 印刷

平成22年12月15日 発行

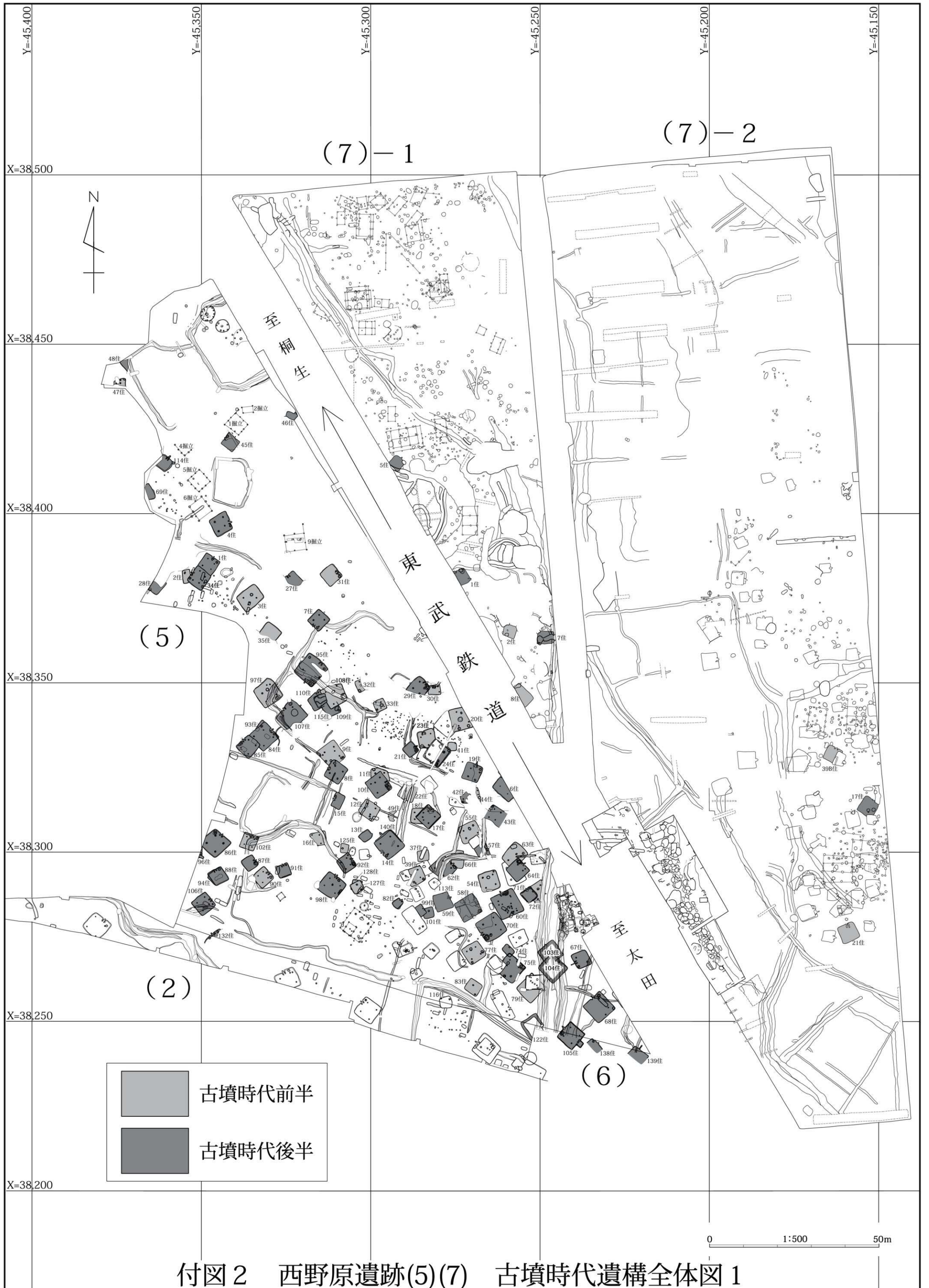
編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社



付図2 西野原遺跡(5)(7) 古墳時代遺構全体図1



付図2 西野原遺跡(5)(7) 古墳時代遺構全体図2